

## 後賀中割遺跡(T007遺跡)

(-) 下高尾小幡線 庭谷工区に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書



二〇二一

群馬県富岡土木事務所  
公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

# 後賀中割遺跡(T007遺跡)

(-) 下高尾小幡線 庭谷工区に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2021

群馬県富岡土木事務所  
公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

# 後賀中割遺跡(TO07遺跡)

(+) 下高尾小幡線 庭谷工区に伴う  
埋 藏 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

2021

群馬県富岡土木事務所  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



口絵 1



後賀中割遺跡 2区7号填全景(南から)



後賀中割遺跡全景(東から)

## 図絵 2



後賀中割道路全景(北から)



後賀中割道路全景(西から)

# 序

県道下高尾小幡線は群馬県富岡市「下高尾交差点」を起点とし、甘楽郡甘楽町「小幡交差点」までを繋ぐ一般県道197号線です。本県道は下高尾から大きく東に迂回しながら南下し、富岡市で「塩畠堂交差点」と県道245号線と交差して富岡市後賀地区を通過します。後賀地区では現道を拡幅することとなり、平成29年度と平成30年度の2度にわたる発掘調査を実施しました。

整理業務は、令和元年2月から令和3年度にわたり実施しました。

本遺跡の調査では、縄文時代と弥生時代後期の竪穴建物や、方形周溝墓とともに7基の古墳が調査されました。古墳の中には5世紀代の葺石を持つ方墳が調査された他、3区8号墳からは、全国的にも出土例の少ない渦巻形杏葉をはじめとして豊富な副葬品が出土しました。これらの出土遺物は、富岡市の歴史を考える上で大変貴重であり、富岡市だけでなく群馬県の古墳時代研究に寄与する発見です。

発掘調査から報告書の刊行に至るまで、群馬県富岡土木事務所、群馬県地域創生部、群馬県教育委員会、富岡市教育委員会をはじめとする関係機関や地元の皆様には多大なるご尽力を賜りました。

本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

令和3年11月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理 事 長 向 田 忠 正



## 例　　言

1. 本書は社会资本総合整備(一)下高尾小幡線 庭谷工区に伴い実施した、T007遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。発掘調査は平成29年度から発掘調査を開始した。しかし、古墳7基、縄文時代の柄鏡型竪穴建物を含む5棟、集石遺構6基、弥生時代後期竪穴建物3棟が検出され、遺構量が当初の想定より大幅に増加したため次年度の30年度にわたり実施した。

報告書作成作業は令和元年度から令和3年度に継続して作業が行われた。平成2年4月1日よりT007遺跡を後賀中割遺跡(T007)と変更して作業を継続した。

2. 後賀中割遺跡(T007)は群馬県富岡市後賀字中割101-3、101-4、102-3、102-4字中屋敷845-3、845-3地先、字波風山792-7、793-4、795-3、795-4、795-5、796-5、796-6、797-6、799-1地先、799-3、799-4、800-2番地内に所在する。

3. (1)事業主体 群馬県富岡土木事務所

(2)調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

(3)整理主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

4. 平成29年度

(1)調査期間 平成29年8月1日～平成29年9月30日

履行期間 平成29年7月1日～平成29年11月30日

平成30年度

調査期間 平成30年9月1日～平成31年1月31日

履行期間 平成30年8月1日～平成31年3月31日

(2)調査面積 2169. 86m<sup>2</sup>

遺跡掘削工事 平成29年度 技研コンサル株式会社

平成30年度 スナガ環境測設株式会社

測量委託業者 平成29・30年度 技研コンサル株式会社

(3)調査体制 平成29年度 小原俊行(専門員主任)

友廣哲也(専門調査役)

平成30年度 新井 仁(上席調査研究員)

宮下 寛(主任調査研究員)

武井 学(調査研究員)

閔 明愛(調査研究員)

5. (1)整理体制 整理期間

令和元年度 令和2年2月1日～令和2年3月31日

令和2年度 令和2年4月1日～令和3年3月31日

令和3年度 令和3年9月1日～令和3年10月31日

履行期間

(令和3年度) 令和3年9月1日～令和3年12月31日

(2)本書作成担当 整理担当

編集・執筆・遺物写真撮影 友廣哲也(令和元～3年度)

遺構写真 新井 仁、宮下 寛、武井 学、関 明愛、小原俊行、友廣哲也

遺物観察

縄文土器 山口逸弘(専門調査役)

弥生土器 友廣哲也

土 師 器 神谷佳明(専門調査役)

石 製 品 松村和男(上席調査研究員)(令和元・2年度)

岩崎泰一(専門調査役)(令和3年度)

金属製品保存処理 板垣泰之(専門員(主任))

金属器実測 杉山秀宏(専門調査役)、川口 亮(専門員(主任))

小札実測 友廣哲也

小札分類・実測指導 内山敏行(公益法人 とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター)

6. 本文執筆 第4章 波田野悠夏<sup>(1)</sup>・吉田貴恵<sup>(1)</sup>・鈴木敏彦<sup>(1)</sup>・辰巳晃司<sup>(2)</sup>・佐伯史子<sup>(2)</sup>・奈良貴史<sup>(2)</sup>

(1)東北大学大学院歴史学研究科

(2)新潟医療福祉大学

第5章 右島和夫(群馬県立歴史博物館 特別館長)

第5章 杉山秀宏(後賀中割遺跡出土武器他について(P157) 本事業団職員)

第5章 川口 亮(渦巻文杏葉について(P159) 本事業団職員)

第5章 内山敏行(公益法人 とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター)

上記以外 友廣哲也

7. 石材の同定は、飯島静男氏(群馬地質研究会)に依頼した。

8. 発掘調査の記録資料と出土資料は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

9. 発掘調査と報告書の作成にあたり、群馬県地域創生部文化財保護課、富岡市教育委員会にご助言ご指導をいただきいた。個人では、諫早直人氏、石川雅俊氏、内山敏行氏、大谷晃司氏、片山健太郎氏、金 宇大氏、清水 司氏、塙越徳司氏、津金澤吉茂氏、徳江秀夫氏、平野進一氏、右島和夫氏、水田雅美氏、横田公男氏のご指導、ご助言をいただきました。記して感謝いたします。

10. 小札の分類・実測については、公益法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター内山敏行氏に直接ご助言・ご指導いただき、合わせて玉稿をいただきました。記して感謝いたします。

11. 専門的な自然科学分析は、専門機関・研究者に依頼・委託した。

蛍光X線分析 群馬大学 研究・産学連携推進機構 機器分析センター

X線CT 群馬県立産業技術センター

## 凡　例

1. 本書で使用した座標値および方位は、世界測地系(日本測地系2000平面直角座標第IX系)を用い、座標北で示した。
2. 等高線・遺構断面図等に記した数値は、海拔標高を示す。
3. 遺構名については、発掘調査時の名称を踏襲し、各区ごとに遺構種別に通し番号で標記した。  
例：1区1面1号竪穴建物、2区1面1号竪穴建物、3区1面1号竪穴建物・・・。  
例：1区1面1号土坑、2区1面1号土坑、3区1面1号土坑・・・。  
※「竪穴建物」の名称は、調査時には「住居」として付していた。
4. 各遺構の上層断面に記した色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖」に依っている。
5. 遺構図・遺物図については、各挿図中にスケールを添付したが、原則下記の縮尺で掲載した。また、遺物写真の縮尺は、実測図と同一の縮尺を原則とした。

遺構図： 遺構全体図 1/250 1/400 古墳 1/150 1/100 1/80 1/60 1/40 1/30  
方形周溝墓 1/100 1/60 竪穴建物 1/60 カマド 1/30 土坑 1/40 ピット 1/40  
溝 1/40 1/60 集石 1/40 1/100 遺物集中 1/20

遺物図： 土師・須恵器 1/2 1/3 1/4  
石器・石製品 1/1 1/2 1/3 1/4  
金属製品類 1/1 1/2 2/3 1/4 4/5

6. 遺物の掲載は、種別に限らず遺構毎に通し番号とした。
7. 図中で使用したスクリーントーンおよびマークは、次のことを示している。

焼土 粘土 炭化物 撥乱(断面)

黒色 軸

鉄製品

銀 黒色 白色 有機質

8. 遺構の計測は、全容が計測できない遺構について残存値( )で表記してある。

9. 降下テフラについては、以下の略号を使用した。

As-A :天明3年(1783年)浅間山噴出浅間Aテフラ  
As-B :天仁元年(1108年)浅間山噴出浅間Bテフラ  
As-C :3世紀末～4世紀初頭 浅間山噴出浅間Cテフラ  
Hr-FP :6世紀中葉 横名山二ツ岳噴出伊香保テフラ  
Hr-FA :6世紀初頭 横名山二ツ岳噴出渋川テフラ  
As-YP :浅間板鼻黄色テフラ  
As-BP :浅間板鼻褐色テフラ群  
As-MP :浅間室田テフラ

10. 本書で使用した地形図は下記の通りである。

国土地理院電子地形図1/25,000「富岡」「上野吉井」

# 目 次

口論  
序  
例言  
凡例  
目次  
挿図目次  
表目次  
写真目次

第1章 調査の経過と事業の経過	群馬県後賀中割遺跡古墳出土人骨について	146
第1節 調査に至る経緯	蛍光X線分析	150
第2節 調査の方法と経過	渦巻形杏葉X線CT	154
第3節 整理事業の経過		
第2章 遺跡を取り巻く環境	第4章 分析	
第1節 地理的環境	後賀中割遺跡出土武器他について	157
第2節 歴史的環境	渦巻文杏葉について	159
第3節 基本土層	後賀中割遺跡8号墳の小札甲と関連資料	162
	後賀中割遺跡7号墳調査の意義	168
	後賀中割遺跡まとめ	178
第3章 検出された遺構と遺物	第5章 まとめ	
第1節 遺跡の概要	遺物観察表	179
1. 古墳	金属器部位の計測位置図	198
2. 方形周溝墓	金属器観察表	201
3. 弥生時代の竪穴建物	遺構一覧表	210
4. 縄文時代の竪穴建物		
5. 土坑		
6. ピット	抄録	
7. 溝	写真図版	
8. 集石遺構	夷付	
9. 遺物集中		
10. 旧石器トレンチ		
11. 遺構外の出土遺物		

# 挿図目次

第1図	道路の位置		
(国土地理院電子地形図1/25,000「富岡」を編集・加工) ······	3	71	
第2図	後呂中街道跡の位置(国土地理院地形図1/25,000を編集・加工) ······	4	72
第3図	調査区配図図 ······	5	73
第4図	周辺地形分布図(国土地理院電子地形図1/25,000 「富岡」「上野古井」を編集・加工) ······	8	74
第5図	基本土質 ······	10	75
第6図	1区1面全体図 ······	11	77
第7図	2区1面全体図 ······	12	78
第8図	3区1面全体図 ······	13	79
第9図	1区2面全体図 ······	14	80
第10図	2区2面全体図 ······	15	81
第11図	3区2面全体図 ······	16	82
第12図	1区1号埴 ······	21	83
第13図	1区1号埴上層断面図 ······	22	84
第14図	1区1号埴石室 ······	23	85
第15図	1区1号埴石室掘り方 ······	24	86
第16図	1区1号埴臼・金輪器出土位置図 ······	25	87
第17図	1区1号埴出土遺物(1) ······	26	88
第18図	1区1号埴出土遺物(2) ······	27	89
第19図	1区1号埴出土遺物(3) ······	28	90
第20図	1区1号埴出土遺物(4) ······	29	91
第21図	1区1号埴出土遺物(5) ······	30	92
第22図	1区2号埴 ······	31	93
第23図	1区2号埴上層断面図 ······	32	94
第24図	1区2号埴遺物出土位置図 ······	33	95
第25図	1区2号埴出土遺物(1) ······	34	96
第26図	1区2号埴出土遺物(2) ······	35	97
第27図	1区2号埴出土遺物(3) ······	36	98
第28図	1区3号埴・出土遺物 ······	37	99
第29図	2区5号埴 ······	38	100
第30図	2区5号埴上層断面図 ······	39	101
第31図	2区5号埴出土遺物 ······	40	102
第32図	2区7号埴 ······	41	103
第33図	2区7号埴上層断面図(1) ······	42	104
第34図	2区7号埴上層断面図(2) ······	43	105
第35図	2区7号埴上層断面図(3) ······	44	106
第36図	2区15号土坑・出土遺物、2区7号埴出土绳文土器 ······	45	107
第37図	2区7号埴土器・石器出土位置図 ······	46	108
第38図	2区7号埴出土遺物(1) ······	47	109
第39図	2区7号埴出土遺物(2) ······	48	110
第40図	2区7号埴出土遺物(3) ······	49	111
第41図	2区7号埴出土遺物(4) ······	50	112
第42図	3区8号埴 ······	51	113
第43図	3区8号埴上層断面図(1) ······	52	114
第44図	3区8号埴上層断面図(2) ······	53	115
第45図	3区8号埴上層断面図(3) ······	54	116
第46図	3区8号埴上層断面図(4) ······	55	117
第47図	3区8号埴上層断面図(5) ······	56	118
第48図	3区8号埴石室 ······	57	119
第49図	3区8号埴土器・小札出土位置図 ······	58	120
第50図	3区8号埴金属器出土位置図 ······	59	121
第51図	3区8号埴出土遺物(1) ······	60	122
第52図	3区8号埴出土遺物(2) ······	61	123
第53図	3区8号埴出土遺物(3) ······	62	124
第54図	3区8号埴出土遺物(4) ······	63	125
第55図	3区8号埴出土遺物(5) ······	64	126
第56図	3区8号埴出土遺物(6) ······	65	127
第57図	3区8号埴出土遺物(7) ······	66	128
第58図	3区8号埴出土遺物(8) ······	67	129
第59図	3区8号埴出土遺物(9) ······	68	130
第60図	3区8号埴出土遺物(10) ······	69	131
第61図	3区8号埴出土遺物(11) ······	70	132
第62図	3区8号埴出土遺物(12) ······	71	133
第63図	3区8号埴出土遺物(13) ······	72	134
第64図	3区8号埴出土遺物(14) ······	73	135
第65図	3区8号埴出土遺物(15) ······	74	136
第66図	2区10号埴・出土遺物 ······	75	137
第67図	3区1号方形周溝墓 ······	77	138
第68図	3区1号方形周溝墓上層断面図 ······	78	139
第69図	3区1号方形周溝墓出土遺物(1) ······	79	140
第70図	3区1号方形周溝墓出土遺物(2) ······	80	141
第71図	2区2号方形周溝墓 ······	81	142
第72図	2区2号方形周溝墓上層断面図・出土遺物 ······	82	143
第73図	2区3号方形周溝墓 ······	83	144
第74図	2区4号方形周溝墓出土遺物 ······	83	145
第75図	2区4号方形周溝墓 ······	84	146
第76図	1区5号豊穴建物・出土遺物 ······	86	147
第77図	1区5号豊穴建物 ······	87	148
第78図	1区6号豊穴建物出土遺物(1) ······	88	149
第79図	1区6号豊穴建物出土遺物(2) ······	89	150
第80図	1区7号豊穴建物 ······	90	151
第81図	1区7号豊穴建物出土遺物 ······	91	152
第82図	3区1号豊穴建物 ······	94	153
第83図	3区1号豊穴建物遺物出土位置図・出土遺物(1) ······	95	154
第84図	3区1号豊穴建物出土遺物(2) ······	96	155
第85図	3区1号豊穴建物出土遺物(3) ······	97	156
第86図	3区2号豊穴建物 ······	98	157
第87図	3区2号豊穴建物炉・柱穴上層断面図 ······	99	158
第88図	3区2号豊穴建物遺物出土位置図・出土遺物(1) ······	100	159
第89図	3区2号豊穴建物出土遺物(2) ······	101	160
第90図	3区3号豊穴建物・出土遺物 ······	102	161
第91図	2区4号豊穴建物 ······	103	162
第92図	2区4号豊穴建物掘り方・出土遺物(1) ······	104	163
第93図	2区4号豊穴建物出土遺物(2) ······	105	164
第94図	2区4号豊穴建物出土遺物(3) ······	106	165
第95図	2区4号豊穴建物・出土遺物 ······	107	166
第96図	3区1号～3号・6号・7号土坑、1区5号土坑、5号・6号土坑 出土遺物 ······	111	167
第97図	3区8号～10号・12号土坑・出土遺物 ······	112	168
第98図	2区13号・14号土坑、14号土坑出土遺物 ······	113	169
第99図	2区16号・17号・19号土坑、1区20号土坑、16号・17号・20号土坑 出土遺物 ······	114	170
第100図	1区21号・22号土坑、21号土坑出土遺物 ······	115	171
第101図	2区・3区1面1号～12号・58号～62号ピット、1号ピット 出土遺物 ······	116	172
第102図	1区2面9号～92号・100号～102号ピット、91号ピット出土遺物 出土遺物 ······	117	173
第103図	1区・2区2面63号～65号・73号・75号・76号・79号・103号～106号 ピット ······	118	174
第104図	3区2面13号・15号～21号・25号～29号・35号ピット ······	119	175
第105図	3区2面22号～24号・30号～34号・36号～39号ピット ······	120	176
第106図	3区2面4号～46号・50号～52号・57号ピット ······	121	177
第107図	2区3号・4号溝・4号溝出土遺物 ······	122	178
第108図	1区5号・2区6号溝 ······	124	179
第109図	2区7号・9号溝 ······	125	180
第110図	1区10号溝・出土遺物 ······	126	181
第111図	1区11号・12号溝、11号溝出土遺物 ······	127	182
第112図	2区1号集石 ······	129	183
第113図	2区2号集石・出土遺物(1) ······	130	184
第114図	2区2号集石出土遺物(2) ······	131	185
第115図	2区2号集石出土遺物(3) ······	132	186
第116図	2区3号・4号集石出土遺物 ······	132	187
第117図	2区3号・4号集石 ······	133	188
第118図	2区5号・6号集石・出土遺物 ······	134	189
第119図	2区1号遺物集中・出土遺物 ······	135	190

第121図	1区1号石器トレンチ	136
第121図	2区2号石器トレンチ	137
第122図	3区3号石器トレンチ	138
第123図	遺構外出土鍔文土器(1)	139
第124図	遺構外出土鍔文土器(2)	140
第125図	遺構外出土鍔文土器(3)	141
第126図	遺構外出土鍔文土器(4)	142
第127図	遺構外出土鍔文土器(5)	143
第128図	遺構外出土鍔文土器(6)	144
第129図	遺構外出土石器・金属器	145
第130図	有頸柳葉鏡図	157
第131図	長頸柳葉(長三角形)鏡図①	157
第132図	長頸柳葉(長三角形)鏡図②	158
第133図	長頸刀彫鏡図	158
第134図	満巣文杏葉の分布	161
第135図	満巣文杏葉の類別	161
第136図	伝藤岡市平井出土の複環式鏡板付骨	161
(Image:TIN Image Archives)		
第137図	長野県高森町上洞3号噴出上の複環式鏡板付骨	161
第138図	小針鋸塚小人形および関連資料の変遷と札幅	165
第139図	小針鋸塚小人形各段層2列円頭系	166
第140図	小針鋸塚型・富木車塚型・金鈴塚型	166
第141図	八幡綱原塚古墳と田坂上4号墳の小人	167

## 表 目 次

第1表	周辺跡地一覧表	9
第2表	歯冠計測値(mm)	148
第3表	蛍光X線分析装置(XRF)による分析結果	150
第4表	古墳一覧表	210
第5表	方形縁溝墓一覧表	210
第6表	溝一覧表	210
第7表	集石・道物集中一覧表	210
第8表	豎穴建物一覧表	211
第9表	土坑一覧表	213
第10表	ピット一覧表	213

## 写 真 目 次

PL. 1	1区1号埴石室(西から)	2区5号埴全景(北から)
	1区1号埴石刀出土状態(西から)	2区5号埴南側裸出土状況(東から)
	1区1号埴石刀出土状態(西から)	2区5号埴北側裸出土状況(北から)
	C-C'断面(南から)	2区5号埴北側裸出土状況(南から)
	1区1号埴土層断面A-A'(南から)	2区5号埴北側裸出土状況(西から)
PL. 2	1区1号埴石室床面全景(西から)	2区5号埴完掘全景(北から)
	1区1号埴石室全景(南から)	2区7号埴南側浮石(南から)
PL. 3	1区1号埴石室全景(北から)	2区7号埴南側浮石(南から)
	1区1号埴全景(空堀 上が東)	2区7号埴南側前凝灰岩(東から)
PL. 4	1区1号埴石室櫛石全景(南から)	2区7号埴南側前凝灰岩(東から)
	1区1号埴石室櫛石全景(南から)	2区7号埴北側前凝灰岩(東から)
	1区1号埴石室櫛石全景(南から)	2区7号埴北側(東から)
	1区1号埴石室櫛石全景(南から)	2区7号埴調査風景(北東から)
	1区1号埴石室櫛石全景(東から)	2区7号埴調査風景(北から)
PL. 5	1区1号埴石室全景(北から)	2区7号埴北側石(北東から)
	1区1号埴石室全景(西から)	2区7号埴北側石(北東から)
PL. 6	1区1号埴骨・鉄製品出土状態(東から)	2区7号埴北側石(北から)
	1区1号埴骨(53)出土状態(東から)	2区7号埴北側石(北から)
	1区1号埴臼(20)出土状態(西から)	2区7号埴南側前凝灰岩(南から)
	1区1号埴臼(30)出土状態(南から)	2区7号埴南側(南から)
	1区1号埴石室全景(北から)	2区7号埴南側(南から)
PL. 7	1区2号埴全景(北から)	2区7号埴南側下層石(南から)
	1区2号埴全景(北から)	2区7号埴南側(南から)
PL. 8	1区2号埴全景(空堀 上が南東)	2区7号埴南側前凝灰岩(南から)
	1区2号埴全景(北から)	2区7号埴南側前凝灰岩(南から)
PL. 9	1区2号埴全景(北から)	2区7号埴南半部断面A-A'(南西から)
	1区2号埴北側周溝全景(北から)	2区7号埴南面石状況(南から)
PL. 10	1区2号埴全景(西から)	2区7号埴南面区画列石状況(南から)
	1区2号埴奥込め全景(西から)	2区7号埴南面区画列石状況(南から)
PL. 11	1区2号埴全景(西から)	2区7号埴南面区画列石状況(南から)
	1区2号埴物出土状態(北から)	2区7号埴南下出上石器(南から)
	1区2号埴器壺(8)出土状態(北から)	2区7号埴南下出上石器(南から)
	1区2号埴器壺(7)出土状態(北から)	2区7号埴南下出上石器(南から)
	1区2号埴物出土状態(北から)	2区7号埴南下出上石器(南から)
PL. 12	1区3号埴器全景(東から)	2区7号埴南下出上石器(南から)

2区7号埴溝下出土石器(南から)	3区8号埴溝道金銅製連絡具(165)出土状態(東から)
2区7号埴溝内石躰(11)出土状態(北東から)	3区8号埴溝道木製輪滑具(171)出土状態(東から)
2区7号埴溝内石核(27)出土状態(北東から)	3区8号埴溝道釘(189)出土状態(西から)
2区7号埴溝内礫器(30)出土状態(南から)	3区8号埴前庭全景(南から)
2区7号埴溝下石器出土状態(南から)	PL.33 3区8号埴溝道、前庭下全景(南から)
2区7号埴溝下石器出土状態(南から)	3区8号埴溝門西側石積状況(南から)
2区7号埴溝下石器出土状態(南から)	PL.34 3区8号埴玄室上層断面A-A'(西から)
2区7号埴溝丘北側周溝上層器出土状態(北東から)	3区8号埴玄室下石壁上層断面(西から)
2区7号埴溝丘北側周溝上層器出土状態(北から)	3区8号埴玄室出土須恵器(1)出土状態(東から)
2区7号埴溝丘北側周溝上層器出土状態(北から)	PL.35 3区8号埴玄室出土物出し状態(東から)
PL.21 2区15号1坑(7号埴溝丘内隙部)出土状態(東から)	3区8号埴玄室骨出土壤(東から)
2区15号2坑(7号埴溝丘内隙部)出土状態(南から)	3区8号埴玄室骨出土壤(南から)
PL.22 2区15号1坑石製模造品刀子形(2)出土状態(南から)	3区8号埴玄室小札1出土状態(南から)
2区15号2坑石製模造品刀子形(2)出土状態(南から)	PL.36 3区8号埴玄室小札(16)出土状態(東から)
PL.23 3区8号埴石室全景(東から)	3区8号埴玄室小札(19)出土状態(東から)
3区8号埴周溝全景(南東から)	3区8号埴小札(38)出土状態(東から)
PL.24 3区8号埴石室全景(東から)	3区8号埴玄室小札(40)出土状態(東から)
3区8号埴石室確認状況(北から)	3区8号埴玄室小札(41)出土状態(東から)
3区8号埴石室確認状況(南東から)	3区8号埴玄室小札(43)出土状態(南から)
3区8号埴石室確認状況(北から)	3区8号埴玄室小札(46)出土状態(東から)
PL.25 3区8号埴土層断面D-D'(南東から)	3区8号埴玄室小札(47)出土状態(北東から)
3区8号埴土層断面A-A'(南西から)	3区8号埴玄室耳環(48)出土状態(南から)
3区8号埴土層断面B-B'(南から)	3区8号埴玄室耳環(60)、長頸片月形(76)出土状態(東から)
3区8号埴土層断面C-C'(南から)	3区8号埴玄室耳環(61)出土状態(東から)
3区8号埴土層断面A-A'(西から)	3区8号埴玄室耳環(79)出土状態(東から)
3区8号埴土層断面B-B'(南から)	3区8号埴玄室長颈片月形(75)出土状態(東から)
3区8号埴土層断面B-B'(南から)	PL.37 3区8号埴玄室長颈片(90)出土状態(東から)
3区8号埴土層断面C-C'(南から)	3区8号埴玄室耳環茎(122)出土状態(東から)
PL.26 3区8号埴溝内蔵石崩落状況(北から)	3区8号埴玄室耳環茎(123)出土状態(東から)
3区8号埴溝内蔵石崩落状況(北から)	3区8号埴玄室長颈片(89)出土状態(東から)
3区8号埴土層断面A-A'(西から)	3区8号埴玄室長颈片出土状態(東から)
3区8号埴土層断面B-B'(西から)	3区8号埴玄室長颈片(95)出土状態(東から)
3区8号埴土層断面A-A'(西から)	3区8号埴玄室耳環器出土状態(東から)
PL.27 3区8号埴前庭、漢道(西南から)	3区8号埴玄室長颈片(103)出土状態(東から)
3区8号埴前庭右側壁石積(東から)	PL.38 3区8号埴玄室茎(105)出土状態(南から)
PL.28 3区8号埴前庭土層断面A-A'(西から)	3区8号埴玄室茎(111)出土状態(東から)
3区8号埴前庭土層断面B-B'(南から)	3区8号埴玄室長颈片(114)出土状態(東から)
3区8号埴前庭土層断面F-F'(西から)	3区8号埴玄室長颈片(115・116)出土状態(東から)
3区8号埴前庭須恵器大甕(2)出土状態(東から)	3区8号埴玄室茎具付舟(126)出土状態(南から)
3区8号埴前庭須恵器大甕(2)出土状態(東から)	3区8号埴玄室月形(128)出土状態(東から)
3区8号埴前庭須恵器大甕(2)出土状態(東から)	3区8号埴玄室四脚辻具(136)出土状態(東から)
3区8号埴前庭須恵器大甕(2)出土状態(東から)	3区8号埴玄室コハゼ形具(141)出土状態(東から)
3区8号埴前庭須恵器大甕(2)出土状態(東から)	PL.39 3区8号埴玄室花井形金具(173)出土状態(東から)
3区8号埴前庭須恵器大甕(2)出土状態(西から)	3区8号埴玄室対装貝(181)出土状態(東から)
3区8号埴前庭須恵器大甕(2)出土状態(西から)	3区8号埴玄室棒状品(183)出土状態(東から)
PL.29 3区8号埴前庭須恵器大甕(2)出土状態(東から)	3区8号埴玄室月形(190)出土状態(東から)
3区8号埴前庭須恵器大甕(2)出土状態(東から)	3区8号埴閉塞部正面(南から)
3区8号埴前庭須恵器大甕(2)出土状態(東から)	PL.40 3区8号埴閉塞部断面(東から)
3区8号埴前庭須恵器大甕(2)出土状態(東から)	3区8号埴閉塞石断面(東から)
3区8号埴前庭須恵器大甕(2)出土状態(東から)	3区8号埴道作業風景(南から)
3区8号埴前庭須恵器大甕(2)出土状態(東から)	3区8号埴石室作業風景(南西から)
PL.30 3区8号埴道左壁裏込め(東から)	3区8号埴玄室左壁裏込め断面D-D'(南から)
3区8号埴道左壁裏込め(東から)	PL.41 3区8号埴玄室右壁裏込め断面D-D'(南から)
3区8号埴道右壁(東から)	3区8号埴道右壁裏込め断面C-C'(北から)
3区8号埴道右壁(東から)	3区8号埴道右壁裏込め断面C-C'(北から)
3区8号埴道右壁K-K'(東から)	3区8号埴道左壁裏込め断面C-C'(北から)
PL.31 3区8号埴道石下断面C-C'(南から)	3区8号埴道左壁裏込め断面A-A'(西から)
3区8号埴道小札(39)出土状態(東から)	PL.42 3区8号埴奥壁裏込め被覆被出状況(東から)
3区8号埴道小札(44)出土状態(東から)	3区8号埴裏込め小札(27)出土状態(東から)
3区8号埴道小札(51)出土状態(北から)	3区8号埴裏込め小札(53)出土状態(南から)
3区8号埴道直刀(64)出土状態(南から)	3区8号埴裏込め鋸製繩(63)出土状態(東から)
3区8号埴道長颈片月形(76)、長颈片(85)出土状態(東から)	3区8号埴裏込め刀磨出土状態(北から)
3区8号埴道茎葉(118)出土状態(西から)	
3区8号埴道鉢具(161)出土状態(北から)	
PL.32 3区8号埴道腕片(163)出土状態(西から)	



3区25号(左)・26号(右)ビット全量(南から)	2区89号ビット(4号豊穴建物P15)全量(東から)
3区27号ビット全量(西から)	1区100号ビット全量(東から)
PL.59 3区28号ビット全量(南西から)	1区101号ビット全量(東から)
3区29号ビット全量(南西から)	1区102号ビット全量(東から)
3区30号ビット全量(南東から)	1区103号ビット全量(東から)
3区31号ビット全量(南から)	1区104号ビット全量(東から)
3区31号(左)・32号(右)ビット全量(南から)	1区105号ビット全量(西から)
3区33号(左)・34号(右)ビット全量(東から)	PL.64 2区3号溝全量(西から)
3区35号ビット全量(西から)	2区4号溝全量(西から)
3区36号ビット全量(南から)	1区5号溝全量(西から)
3区37号ビット全量(南から)	2区6号溝全量(西から)
3区38号ビット全量(東から)	2区7号溝全量(東から)
3区39号ビット全量(東から)	2区8号溝全量(北から)
3区40号ビット全量(東から)	1区9号溝全量(西から)
3区41号ビット全量(南東から)	1区12号溝全量(東から)
3区42号ビット全量(東から)	PL.65 2区2号集石全量(東から)
3区43号ビット全量(南東から)	2区3号集石全量(西から)
PL.60 3区44号ビット全量(南東から)	PL.66 2区3号集石礫出上状態(西から)
3区45号ビット全量(南東から)	2区3号集石礫出上状態(西から)
3区46号ビット全量(東から)	PL.67 2区3号集石礫出上状態(西から)
3区47号ビット(2号豊穴建物P6)全量(南から)	2区3号集石礫出上状態(西から)
3区48号ビット(3号豊穴建物P4)全量(南から)	PL.68 2区3号集石礫出上状態(西から)
3区49号ビット(3号豊穴建物P5)全量(南から)	2区4号集石全量(東から)
3区50号ビット全量(南東から)	PL.69 1区1号埴出土遺物(1)
3区51号ビット全量(南から)	PL.70 1区1号埴出土遺物(2)、1区2号埴出土遺物(1)
3区52号ビット全量(東から)	PL.71 1区2号埴出土遺物(2)
3区53号ビット(2号豊穴建物P5)全量(南から)	PL.72 1区2号埴出土遺物(3)、1区3号・2区5号埴出土遺物、 2区15号土坑出土遺物、2区7号埴出土遺物(1)
3区54号ビット(3号豊穴建物P2)全量(西から)	PL.73 2区7号埴出土遺物(2)
3区55号ビット(3号豊穴建物P3)全量(南から)	PL.74 2区8号埴出土遺物(1)
3区56号ビット(3号豊穴建物P1)全量(南東から)	PL.75 2区8号埴出土遺物(2)
3区57号ビット全量(南から)	PL.76 2区8号埴出土遺物(3)
2区61号ビット全量(南から)	PL.77 2区8号埴出土遺物(4)
PL.61 2区62号ビット全量(北から)	PL.78 2区8号埴出土遺物(5)
2区63号ビット全量(北から)	PL.79 2区8号埴出土遺物(6)
2区64号ビット全量(北から)	PL.80 2区8号埴出土遺物(7)
2区65号ビット全量(北から)	PL.81 2区8号埴出土遺物(8)
2区66号ビット(8号豊穴建物P2)全量(北から)	PL.82 2区8号埴出土遺物(9)
2区67号ビット(8号豊穴建物P3)全量(北から)	PL.83 2区8号埴出土遺物(10)、2区10号埴出土遺物
2区68号ビット(8号豊穴建物P4)全量(北から)	PL.84 3区1号方形周溝墓出土遺物(1)
2区69号ビット(8号豊穴建物P6)全量(北から)	PL.85 3区1号方形周溝墓出土遺物(2)、2区2号・4号方形周溝墓出 土遺物、1区5号豊穴建物出土遺物
2区70号ビット(8号豊穴建物P7)全量(西から)	PL.86 1区5号豊穴建物出土遺物、1区7号豊穴建物出土遺物(1)
2区72号ビット(8号豊穴建物P8)全量(北から)	PL.87 1区7号豊穴建物出土遺物(2)、3区1号豊穴建物出土遺物(1)
2区73号ビット全量(北から)	PL.88 3区1号豊穴建物出土遺物(2)、3区2号豊穴建物出土遺物(1)
2区74号ビット(8号豊穴建物P4)全量(北から)	PL.89 3区2号豊穴建物出土遺物(2)、3区3号豊穴建物、2区4号豊 穴建物(1)出土遺物
2区75号ビット全量(北から)	PL.90 2区4号豊穴建物出土遺物(2)、2区8号豊穴建物出土遺物、1 区5号・3区6号・8号～10号・1区12号・2区14号土坑出土 遺物
2区76号ビット全量(北から)	PL.91 2区16号・17号・1区20号・21号土坑出土遺物、3区1号・1区 9号ビット出土遺物、2区4号・1区10号・11号溝出土遺物、2 区1号遺物集中出土遺物
2区77号ビット(8号豊穴建物P1)全量(北から)	PL.92 2区2号～6号集石出土遺物
PL.62 2区78号ビット(8号豊穴建物P9)全量(北から)	PL.93 道構外出土簡文土器(1)
2区79号ビット全量(北から)	PL.94 道構外出土簡文土器(2)
1区80号ビット全量(東から)	PL.95 道構外出土簡文土器(3)
1区81号ビット全量(東から)	PL.96 道構外出土石器・金属製品
1区82号ビット全量(東から)	
1区83号ビット全量(東から)	
1区84号ビット全量(東から)	
1区85号ビット全量(東から)	
1区86号ビット全量(東から)	
1区87号ビット全量(東から)	
1区88号ビット全量(東から)	
1区89号ビット全量(東から)	
1区90号ビット全量(東から)	
1区91号ビット全量(東から)	
1区92号ビット全量(東から)	
2区93号ビット(4号豊穴建物P11)全量(東から)	
2区94号ビット(4号豊穴建物P12)全量(東から)	
PL.63 2区95号ビット(4号豊穴建物P9)全量(東から)	
2区96号ビット(4号豊穴建物P13)全量(東から)	
2区97号ビット(4号豊穴建物P14)全量(東から)	
2区98号ビット(4号豊穴建物P10)全量(北東から)	



# 第1章 調査の経過と事業の経過

## 第1節 調査に至る経緯

本書は、平成29・30年度社会资本総合整備(一)下高尾小幡線庭谷工区に伴うT007遺跡の発掘調査に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。県道下高尾小幡線は、群馬県富岡市「下高尾交差点」から「甘楽町小幡交差点」を繋ぐ一般県道197号線で、全長は7.5kmである。発掘調査対象地は富岡市後賀字中割地区にある。

本事業地は、富岡市教育委員会(以下富岡市教委)により、周知の埋蔵文化財包蔵地(富岡市遺跡番号T007)内にある。平成28年、群馬県富岡土木事務所(富岡土木)は群馬県教育委員会文化財保護課(以下文化財保護課)に事業照会を行った。

これを受け、文化財保護課は事業地が埋蔵文化財包蔵地内にあるため「確認調査」が必要と回答した。同年富岡土木は文化財保護課に確認調査を依頼した。これを受け文化財保護課は平成28年7月14・15日の2日間、本事業地内の確認調査の結果、遺構を確認し、本調査が必要と判断した。

平成28年、文化財保護課の調整を経て公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(以下事業団)を調査主体とし、平成29年8~9月の2ヶ月の本調査を実施した。

調査区は1~3区に分け、発掘調査が開始された。調査は表土掘削から始まり、人力による遺構確認作業まで行ったところで、古墳、竪穴建物、周溝墓等の遺構が多数確認されたため、事業団は富岡土木と文化財保護課と発掘調査の期間について調整を行い、次年度以降に発掘調査を継続して実施することとなった。

## 第2節 調査の方法と経過

以下年度ごとに概要を示す。

平成29年度

平成29年8月1日から同年9月30日の調査期間で本調査を開始した。後賀中割遺跡は富岡市後賀地内にある。遺跡は鍋川の左岸に位置する。遺跡は調査対象地を1区

~3区の各区に分けて調査を開始した。1区から2区へかけて川に向かい比高約1~2m緩やかに傾斜している。また3区は1・2区より西に向かい5~6m高く急傾斜を持っている。遺跡はこのような丘陵地帯に所在する。さらに遺跡周辺は古墳が多く確認されている。ただし遺跡地内は後世に古墳群は削平され、1~3区ともに古墳があったが壊されていた。調査対象地は、昭和に入り、傾斜地を開墾し、平坦な畑へと変更していた。

このため文化財保護課による確認調査時には1~3区ともに調査対象地はほぼ平坦な畑地であり、野菜等が植栽されていた。標高は1区141m、2区140~141m、3区147mである。

事業団による調査は、まず重機による畠の耕作土の除去から始まり、その後の遺構確認作業に移った。表土掘削の中で破壊された古墳が確認された。遺構数は古墳が7基、古墳の下面からは弥生時代末から古墳時代初頭にかかる方形周溝墓4基、縄文時代竪穴建物5棟、配石遺構6基、弥生時代竪穴建物3棟が確認され、ほかに土坑19基、溝10条、ピットが81基確認された。事業団と富岡土木事務所、文化財保護課は発掘調査期間について調整を行い、次年度以降に発掘調査を継続して実施することとした。

調整の結果、29年度調査の実施は比較的葺石の残りの良かった2区7号墳の調査と、3区北半部に絞って実施することとなった。2区7号墳は方墳とわかり、葺石を4面に確認した。石室は確認されず、上部は削平されていた。この結果、石室の構造は周辺に存在する古墳時代終末期の群集墳の時期と異なる竪穴式石室であることが想定されたが、その確認ができないまま、調査は次年度の調査へ引き継がれることとなった。

29年度の調査は2区7号墳の測量は測量会社に委託し、写真、空撮等を行った。3区北半部は丘陵地帯の岩盤である塩畑堂凝灰岩の面を確認し、中央部で3基の土坑の測量写真を撮影し、シートをかけ、埋め戻して29年度2ヶ月の調査を終了した。

## 第1章 調査の経過と事業の経過

### 平成29年調査日誌抄

- 8月1日 現地調査事務所用地の環境整備開始、設営。
- 8月3日 1区重機による掘削開始。並行して事務所設営開始、設営。
- 8月4日 1区遺構確認調査開始、1号墳確認。
- 8月7日 1区遺構確認調査継続。2号墳確認、平面調査開始。2区遺構確認調査開始。
- 8月9日 1区1・2号墳確認而写真撮影、現況写真撮影、平面実測開始。2・3区重機による掘削開始、遺構確認調査開始。
- 8月10日 1区1・2号墳平面確認調査、セクション調査。2・3区重機による掘削継続、遺構確認調査継続。
- 8月17日 1区1・2号墳セクション調査。3区遺構確認調査継続。3区重機による掘削継続、1～3号土坑、セクション写真、注記、平面測量、全景写真。
- 8月18日 2区4～7号墳確認、調査開始。  
7号墳セクション調査。3区8号墳確認、調査開始。1号ピットセクション写真、注記、遺構測量。
- 8月21日 1区重機による掘削開始、遺構確認調査継続。  
2区7号墳セクション調査。3区重機による掘削継続、遺構確認調査継続。
- 8月23日 2区重機による掘削継続、遺構確認調査継続。  
2区7号墳セクション調査、平面調査。3区調査区全体測量開始。
- 8月29日 1～3区内調査区域測量作業。
- 9月1日 2区10号墳確認。4・6号墳遺構範囲確認調査、1～4号溝遺構範囲確認調査。
- 9月4日 2区7号墳周溝掘削開始、南部遺構確認調査。
- 9月7日 2区7号墳丘範囲確認調査、墳丘部北部葺石確認。4号方形周溝墓人力掘削開始。
- 9月8日 1～3区内の遺構量の想定が発掘前の遺構量試掘調査結果を超えることを確認。期間の再検討開始。7号墳墳丘範囲確認調査継続、墳丘南側の凝灰岩分布範囲確認。4号方形周溝墓調査継続範囲測量。
- 9月12日 遺跡全体の遺構量を踏まえ、富岡土木事務所・県文化財保護課、事業団で次年度調査費、期

間打ち合わせ開始。

- 9月20日 富岡土木事務所、県文化財保護課、事業団協議、次年度に再調査を行う事で一旦埋め戻しを決定。埋め戻しの作業準備開始。
- 9月25日 重機による埋め戻し作業開始。
- 9月29日 1～3区の埋め戻し終了。平成29年度の調査を中断する。

### 平成30年度

平成30年9月1日から平成31年1月31日の調査期間で本調査を再開した。1～3区の昨年度埋め戻した土を除去して、30年度調査を開始した。

前年度に引き続き古墳、方形周溝墓、竪穴建物等の調査を実施した。古墳の墳丘は削平されており、石室を確認できたものは1・8号墳である。他の古墳では石室は壊されており、葺石も外され、周溝内に捨てられていた。

1区では、1号墳の石室の最下面をかろうじて確認できた。石室内から鉄製馬具・耳環等が出土した。南区と北区から2・3号墳の2基を確認した。1号墳の石室の調査を終了すると、下面から弥生時代の竪穴建物が3棟確認された。竪穴建物の時期は、後期樽式土器が出土したことから弥生時代後期である。他の遺構は溝、土坑が確認された。1区では縄文時代の遺構は確認されていない。

2区では、7号墳の南側で5号墳が確認された。5号墳は円墳であり、墳丘はすべて削平され、周溝のみの確認であった。2区北東部では10号墳が確認されている。東・北部は道路に壊され、周溝の一部だけ確認した。調査区際で石室の壁材とみられる巨礫とその周間に葺石が出土している。5・7号墳の石の下から2号方形周溝墓を確認した。

7号墳の南に縄文時代の竪穴建物1棟、その北西部に縄文時代の柄鏡形竪穴建物1棟が確認された。他に2区内では縄文時代の集石が6基確認されている。

3区では、8号墳が1基確認されている。8号墳は石室の残りが一番良いが、石室床面は後世の擾乱を受け、石室内からは鉄製の馬具や耳環等が散乱した状態で出土している。古墳の下面には古墳時代前期の方形周溝墓の溝を確認した。北西の溝の下面に方形を呈する土坑が確認されたが、壺棺墓と考えられる。出土土器は二重口縁

壺の土師器であるが、胸部の器形は卵型の長胴で樽式土器の伝統を持っている。

その他に遺跡内では、縄文時代の竪穴建物が3棟確認されている。

1～3区各区で旧石器の確認調査を行ったが、旧石器時代の遺物は確認できなかった。

#### 平成30年調査日誌抄

9月3日 調査準備開始。

9月4日 周辺環境整備、事務所設営開始、設営。近隣住民、区長への挨拶、測量業者との打ち合わせ。富岡土木事務所、事業団と立会、打ち合わせ。コピー機、P C機器搬入。

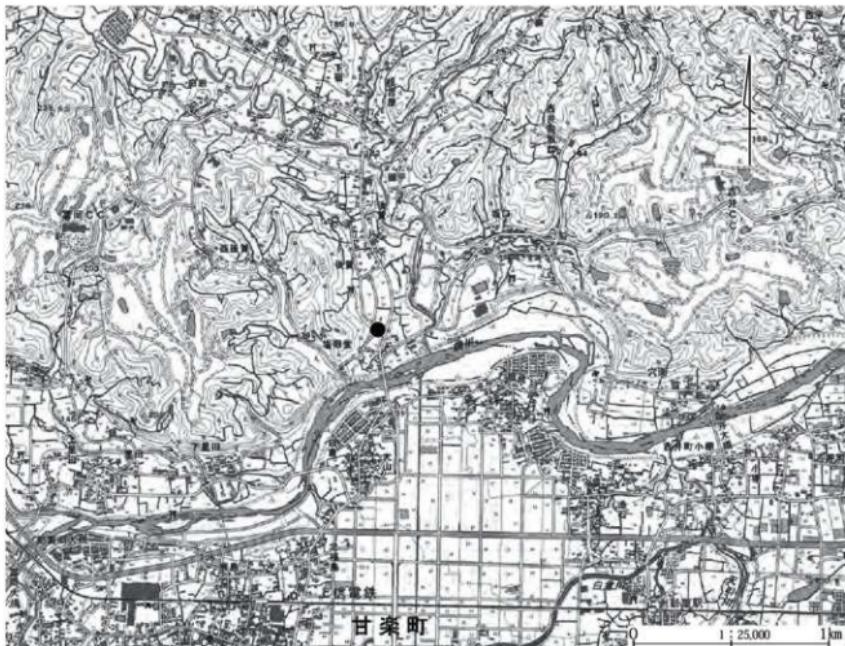
9月6日 1区重機による埋土除去開始。

9月12日 1区遺構確認作業開始、1～3号墳確認、調査開始。

9月13日 1区北端部調査終了埋め戻し作業開始。2区

埋め土除去作業開始。

- |        |                                    |
|--------|------------------------------------|
| 9月18日  | 1区2号墳調査開始、3区8号墳調査開始、ベルト設定。         |
| 9月20日  | 1区2号墳・3区8号墳調査継続。                   |
| 9月25日  | 3区8号墳調査継続、石室内調査開始。2区埋め土除去作業継続。     |
| 9月27日  | 1区1号墳・3区8号墳調査継続、8号墳石室内写真撮影。        |
| 9月28日  | 1区1・2号墳周溝調査継続。3区8号墳高所作業車による全景写真撮影。 |
| 10月5日  | 1区1・2号墳、3区8号墳調査継続。                 |
| 10月12日 | 1区1・2号墳調査継続、3区8号墳測量。               |
| 10月16日 | 1区1・2号墳周溝調査、3区8号墳石室前部遺物取り上げ。       |
| 10月22日 | 1区1号墳周溝測量、3区8号墳羨道閉塞部写真撮影、測量。       |
| 10月23日 | 高所作業車で、3区8号墳石室全景、3区全               |



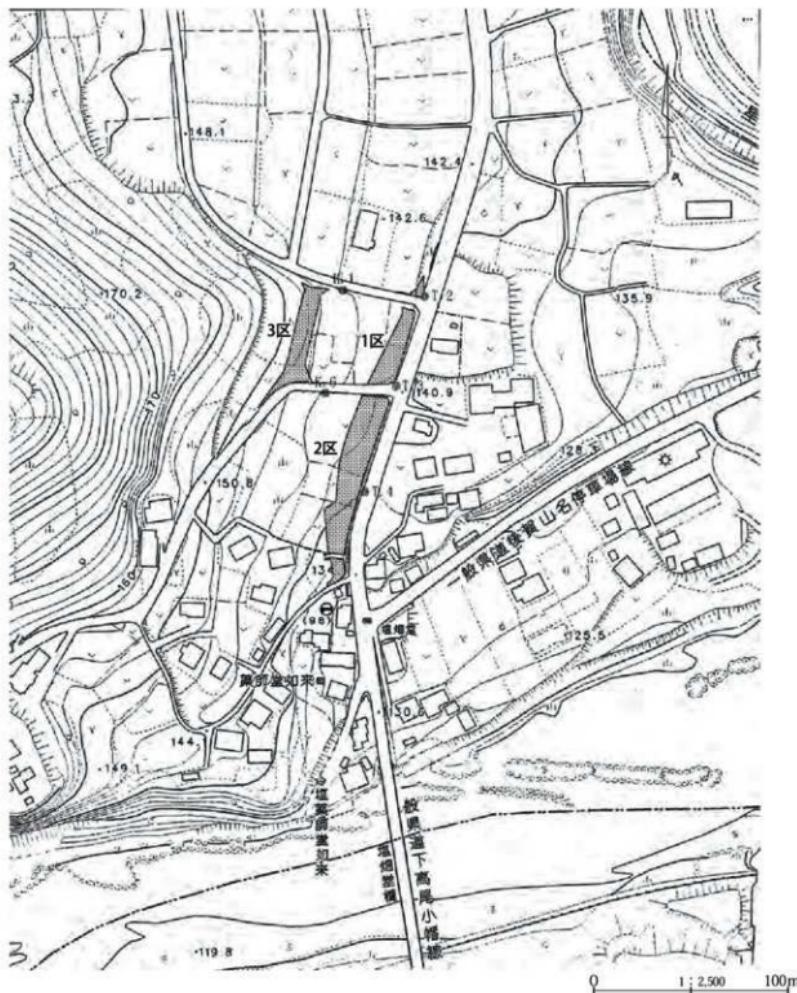
第1図 遺跡の位置(国土地理院電子地形図1/25,000「富岡」を編集・加工)

## 第1章 調査の経過と事業の経過

体写真撮影。

- 10月31日 1区1・2号埴、3区8号埴調査継続。  
 11月6日 3区8号埴石室裏込め礫除去作業開始。  
 11月7日 2区埋め土除去、遺構確認作業開始。  
 11月19日 3区1号方形周溝墓調査。

- 11月21日 3区1・2号竪穴建物、1号方形周溝墓調査継続。  
 12月3日 2区4号方形周溝墓、7号埴調査開始。  
 12月17日 2区7号埴葺石除去作業開始。  
 12月21日 2区2・4号方形周溝墓調査継続。7号埴盛



第2図 後賀中割遺跡の位置(国土地理院地形図1/25,000を編集・加工)

- 土掘削作業開始。
- 1月8日 1区1号墳石室内人骨、金属器出土状態記録。
- 1月9日 2区7号墳盛土内15号土坑、7号墳内陪葬土坑を検出確認。
- 1月10日 2区7号墳盛土掘削継続、15号土坑精査。  
旧石器試掘調査開始。
- 1月16日 2区15号土坑(陪葬墓)精査、石製模造品出土確認。
- 1月21日 2区7号墳盛土除去、旧石器試掘継続。
- 1月25日 遺跡内旧石器試掘記録、調査終了、撤収準備。
- 1月28日 埋め戻し開始。
- 1月31日 埋め戻し終了。調査終了。

### 第3節 整理事業の経過

整理作業は令和元年2月1日に開始した。発掘調査が終了したのは、平成30年(令和元年)1月31日である。

発掘調査が終了するまで本遺跡は、富岡市教育委員会の遺跡番号、包蔵地T007の記号で呼ばれ、令和2年4月に文化財保護課と富岡市教委の間で協議が行われ、『後賀中割遺跡』という名称に変更された。令和2年4月以降から後賀中割遺跡の名称で整理事業が行われた。令和3年3月31日をもって整理事業は中断し、新たに令和

3年度9・10月の2ヶ月で編集刊行となった。

令和元年(平成30年度)2月から開始された整理作業は、遺構図面の照合、修正から始め全体図の作成までの基礎的な作業から、時期別に個別の遺構へと開始した。令和元年度の作業はほとんどが図面の整理、台帳づくりに費やされた。図面は機械トレースを行った。

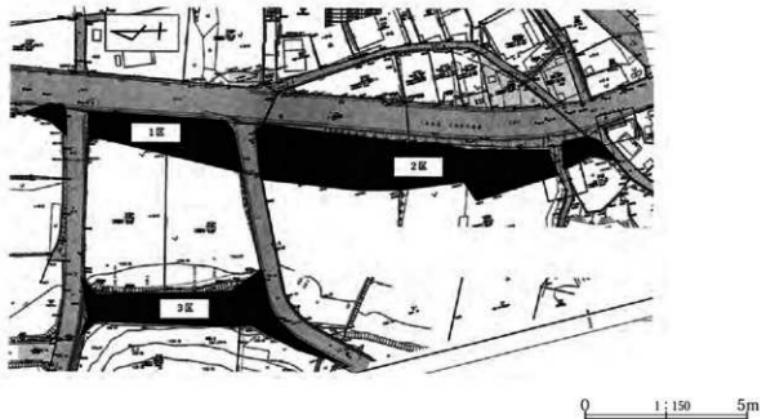
令和2年4月より区ごとに土師器、弥生時代、縄文時代の遺物の分類、接合、復元を行った。他に古墳出土金属製品等の分類を行い、個別の遺物の掲載、非掲載の分類を行なった。遺物は実測、トレースを行い、掲載用の写真を撮影。金属製品はさび落としをし、土器と同じく掲載用の遺物は、実測、トレース、写真撮影を行った。

一方、遺構測量図は前年度の図面と合わせ、測量面の集成を行い、古墳、竖穴建物、周溝墓等に分け同じ遺構ごとにレイアウトを作成。

その後、図面レイアウト、遺構原稿、遺物を合わせ、デジタル編集作業およびデジタル組版を行い、令和2年度は終了した。

令和3年度は前年度にデジタル編集を行った図版を9・10月の2ヶ月をかけ、報告書の全体の編集を行い刊行した。

掲載遺物、非掲載遺物の遺物管理台帳を作成し、活用に備え資料の収納作業を行った。



第3図 調査区配置図

## 第2章 遺跡を取り巻く環境

### 第1節 地理的環境

本遺跡の南を流れる利根川支流の鍋川は、水源の上信国境荒船山(海拔1422m)から約50km東流し、関東平野に入った高崎市南部で榛名山西側から南東流してくる烏川と合流する。さらに約10km東で利根川本流に合流する。

烏川は他に上信国境関東山地から流れてくる碓冰川、神流川を併せている。

鍋川の流域は、北の碓冰川との間に奇峰妙義山(海拔1104m)から続く比高280m弱の岩野山丘陵にあり、南は神流川との間に赤久禪山(1522m)と西御荷鉢山(1286m)をピークとする関東山地の山稜が走り、その裾には河岸段丘が発達している。両側の山地に挟まれた現在水田になっている平地は南北の幅が1~3km程度と狭いが、鍋川の流れは平地が形成される富岡市南蛇井付近から東は大きな蛇行が少ないと、東西方向は眺望が良好開放的な景観を示している。そのため、鍋川流域(古代名は甘樂)全体は、東西走向の回廊地域として認識できる。

荒船山は頂上が長く平坦で、航空母艦のような特異な形状をしている。頂上北側の内山峠への断崖を含めて、背後の活火山浅間山(海拔2542m)とともに、広く関東平野北部全体から識別できる。碓冰峠などその他のいくつかの関東山地の峠を越えると、千曲川上流の長野県佐久地方に達する。千曲川は下流では信濃川と呼ばれて新潟県で日本海に注いでいる。すなわち、荒船山周辺は本州の分水嶺にあたるが、前後には通行がそれほど難しくない峠が多い。

また、佐久地方から南西には蓼科山塊が広がるが、遠州灘に流れれる天竜川源流の諏訪湖に達することはいくつかの峠を経て容易である。このように甘楽回廊は中部山地へ深く入り込んだ関東平野の最西端であると同時に、本州中部山地の末端としても見ることができる。北関東を大きく俯瞰すると富岡の地勢はこのようになる。

富岡市は群馬県の西端に位置し、前述のように鍋川は富岡市内をほぼ西から東へ向かい流下している。市内は大きく分けて3つの地勢に分けることができる。西部の一ノ宮、富岡、高瀬、田篠では鍋川は2段の河岸段丘が

広がっている。南部は山地を構成している。

後賀中割遺跡がある丘陵地は黒岩・小野地区と呼ばれ、標高250m前後の丘頂面が広く発達している。後賀中割遺跡が所在する後賀はさらに南に位置し、標高が146m前後を測る。碓冰川と鍋川の間に岩谷丘陵の南端にある。遺跡の東側を星川が流下している。星川は上黒岩の打越付近に源を発し、下黒岩、上高尾を流下し、蛇行して塩堀堂で鍋川に注ぐ。「塩堀堂交差点」は後賀中割遺跡南約100mである。

### 第2節 歴史的環境

富岡市内では、縄文時代から中近世に至るまで多くの遺跡が確認されている。縄文時代から弥生時代中期に至る遺跡は丘陵地帯に所在し、弥生時代中・後期・古墳時代集落遺跡は鍋川が緩やかな平野部、中央回廊を中心に立地している。

#### 旧石器時代

富岡市内では、富岡市妙義町下高田で下高田下原遺跡が確認されている。数十年前に無壁中学校の生徒が槍先型尖頭器を採集したとの話はあったが、現在の所在は不明である。遺物の存在が事実であれば、今後旧石器時代の遺跡が確認される可能性は高い。

昭和62年富岡市野上地区に所在する『野上塩入遺跡』で縄文前期から中期にかかる遺跡内で、As-MP上層より、スクレイパーが1点出土している。

『下高瀬寺山遺跡』ではローム層中より、黒曜石製のスクレイパーと剥片の2点が出土している。

#### 縄文時代

縄文時代の集落はあまり多くなく、草創期の遺跡はほとんど確認できないが、富岡市野上地区では『西平原遺跡』『鞘戸原I・II遺跡』で前期黒浜期、諸磯期の集落が確認されている。

また旧妙義町、現富岡市古立・八木連地区で『八木連荒畠遺跡』『八木連狸沢遺跡』『古立中村遺跡』『古立東山遺跡』等で、縄文時代から平安時代の集落遺跡が確認

されている。南蛇井地区にある『南蛇井増光寺遺跡』では前期前半花積下層、関山、黒浜(有尾系)式から諸磯、十三菩提式、中期になると初頭から前半の五領ケ台、阿玉台、勝坂式、中期後半になると加曾利E式、後期初頭から中葉の称名寺、堀之内、加曾利B式、後期後半では曾谷(高井東式)の土器群が出土している。

## 弥生時代

弥生時代は、中期から確認できる。『小塚遺跡』では中期後半の環濠集落跡、『上人見遺跡』では再葬墓が確認されている。『阿曾岡・権現堂遺跡』では集落跡、南蛇井地区で『南蛇井増光寺遺跡』が確認され、弥生時代の竪穴建物集落が確認されている。主体は後期樽式土器の集落である。『中高瀬觀音山遺跡』では後期の竪穴建物96棟が確認されている。『三笠山岩陰遺跡』では三笠山の岩陰から後期の土器、焼人骨、歯が出土している。

『南蛇井増光寺遺跡』は縄文時代から平安時代までの複合集落で、竪穴建物は全体で800棟に及ぶ。このうち弥生時代後期の竪穴建物は154棟が確認されている。

## 古墳時代

古墳時代は、鎌川周辺の河岸段丘面に古墳群、集落が大規模に展開していく。前期古墳は径40mの円墳『北山茶臼山古墳』、全長2mの前方後方墳『北山茶臼山西古墳』である。時期は出土遺物より、西古墳が旧いと考えられる。前期の竪穴建物は多くなく、『内匠日向周地遺跡』『中高瀬觀音山遺跡』『中沢平賀界戸遺跡』『下高瀬上野原遺跡』等で1~数棟が確認されている。

中期の古墳は『内匠日影周地遺跡』で1基、『下高瀬上之原遺跡』で7基確認されている。後期になると古墳は富岡市内に広がり、各所に古墳群が構成されるようになる。古墳群は鎌川両岸の平坦地にあり、主なものは『塚原古墳群』『上田篠古墳群』『善慶寺古墳群』『長久保古墳群』『桐渕古墳群』『横瀬古墳群』『芝宮古墳群』『七日市古墳群』『一ノ宮古墳群』等、鎌川北側の丘陵地にも広がる。古墳群に伴い周辺には集落が広がる。集落は鎌川右岸の平坦地、田篠、内匠地区に広がる。古墳群、集落のほかに『本宿・郷土遺跡』では居宅の周濠が検出されている。

## 奈良・平安時代

奈良・平安時代の集落跡は、基本的には古墳時代後期の集落から続くものが多い。『本宿・郷土遺跡』では約100棟の竪穴建物が確認され、『田篠上平遺跡』では竪穴建物50棟、掘立柱建物23棟が確認されている。『南蛇井増光寺遺跡』では竪穴建物が100棟以上確認されている。

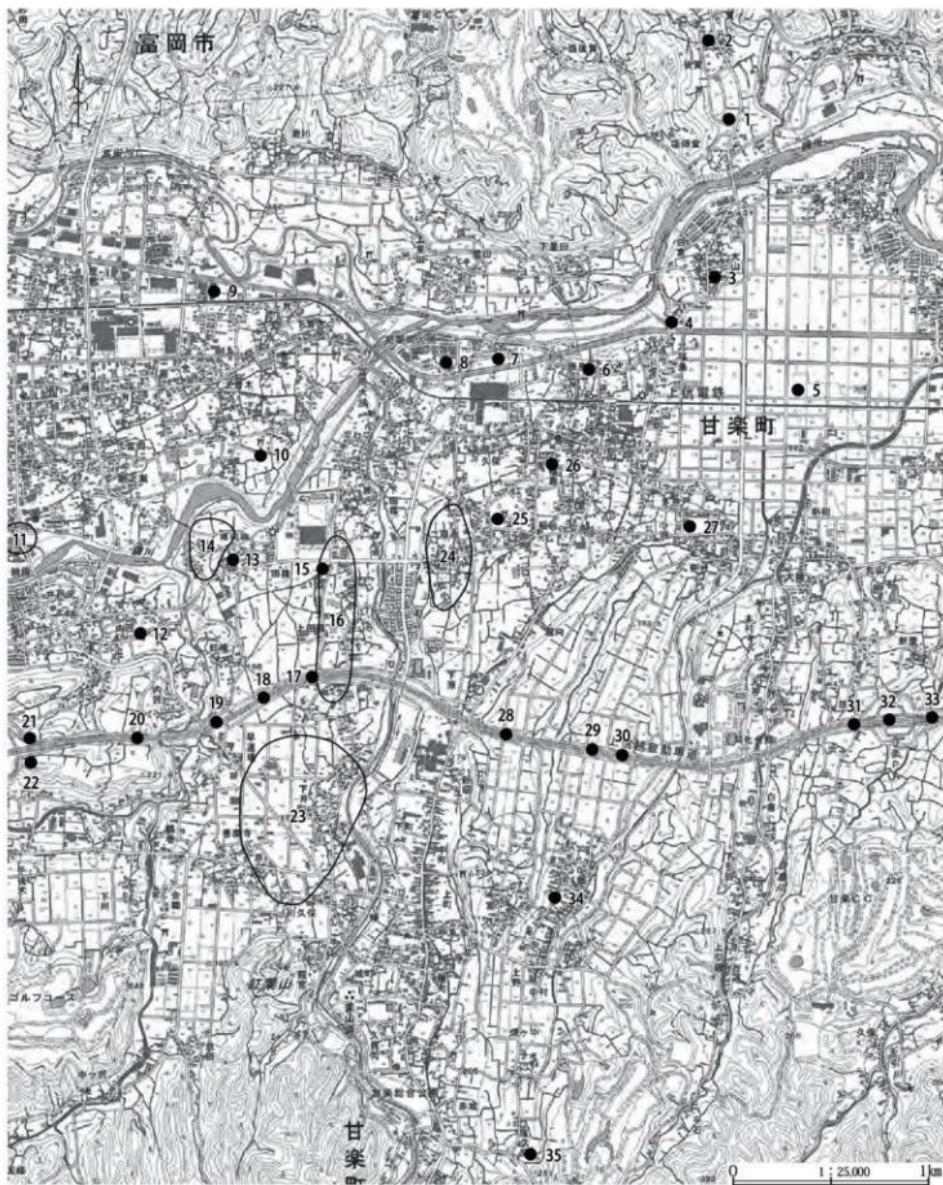
『内匠日向周地遺跡』『南蛇井増光寺遺跡』では浅間B軽石に覆われた水田跡が確認された。

## 中近世

中近世の調査をした遺跡はあまり多くない。『本宿・郷土遺跡』隣接する『稲荷森遺跡』では中世の溝、井戸、掘立柱建物、墓壙、土坑等が確認されている。

『内匠上之宿遺跡』では内匠城の外堀に隣接して整地面上に掘立柱建物、竪穴状造構、配石造構の他井戸、墓壙が検出された。『内匠日向周地遺跡』では中近世の水田2面、『南蛇井増光寺遺跡』では中世の掘立柱建物、堀、井戸、土坑が確認されている。城郭は他に『下鎌田城』『塩ノ入城』『内匠城』『宇田城』『宮崎城』などが調査されている。

近世の遺構は『内匠源訪前遺跡』では近世の屋敷跡、掘立柱建物、井戸が確認され、『田篠上平遺跡』では墓壙、『下高瀬上之原遺跡』では墓壙、庚申塔基礎、『中高瀬庚申塔遺跡』では配石造構が検出されている。



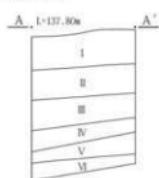
第4図 周辺遺跡分布図(国土地理院電子地形図1/25,000「富岡」「上野吉井」を編集・加工)

第1表 周辺遺跡一覧表

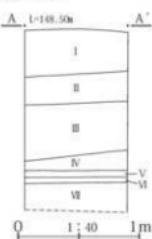
No.	遺跡名	所在地	概要	備考
1	後賀中野遺跡(T007)	富岡市後賀		本報告書
2	後賀遺跡	富岡市	礪文土器片、打製石斧。	『富岡市史』1987
3	大山鬼塚古墳	甘楽郡甘楽町天引	現在は舟形石棺を残すのみ。鏡、石製模造品、馬具等が出上。『甘楽町史』1979	
4	福島恵森遺跡	甘楽郡甘楽町福島字恵森	中世～近世。墓壙1基、土坑61基。	『田舎塚原遺跡・福島駒形遺跡・福島鹿鳴下遺跡・福島恵森遺跡』第244集(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998
5	甘楽条理道路	甘楽郡甘楽町新屋	古墳前期、B軸右下、A軸右下の水田跡。古墳後期滑石製品1丁。	『甘楽条理道路』甘楽町教育委員会1984
6	福島鹿鳴下遺跡	甘楽郡甘楽町福島字鹿鳴下	刈往。礪文～古墳。配石5基、豎穴建物20軒。礪文土器、土偶、石棒、滑石模造品、土師器。滑石工房跡。	『田舎塚原遺跡・福島駒形遺跡・福島鹿鳴下遺跡・福島恵森遺跡』第244集(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998
7	福島駒形遺跡	甘楽郡甘楽町福島字駒形	墓、居住、その他。弥生～古墳。古墳1基、豎穴建物34軒、獨立柱建物11棟。滑石模造品、土師器、須恵器。滑石工房跡。	『田舎塚原遺跡・福島駒形遺跡・福島鹿鳴下遺跡・福島恵森遺跡』第244集(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998
8	田舎塚原遺跡	富岡市田舎塚原	墓、居住、生産、その他。弥生～古墳。方形周溝1基、古墳7基、豎穴建物13軒、墓1面。ガラス玉、耳環、鐵鍬、刀装具、弥生土器、土師器、須恵器。	『田舎塚原遺跡・福島駒形遺跡・福島鹿鳴下遺跡・福島恵森遺跡』第244集(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998
9	曾木森裏遺跡	富岡市曾木森裏	礪文～平安集落跡。建物跡は礪文前期2軒、奈良1軒、平安1軒。古墳前中期方形周溝とと考えられる溝が確認。	『曾木森裏遺跡』富岡市教育委員会1996
10	久保遺跡	富岡市	古墳時代祭祀遺跡。滑石製模造品等多数出土。	『富岡市史』1987
11	芝宮古墳群	富岡市富岡	鍋川流域最大級の古墳群。100基以上が確認。築造は6～7世紀。『芝宮古墳群』富岡市教育委員会1992	
12	内匠遺跡	富岡市内匠	古墳～平安集落跡。豎穴建物27軒。	『富岡市史』1987
13	原田森古墳群	富岡市	6世紀からの築造、7基。	『上田森古墳群』原田森遺跡富岡市教育委員会1984
14	布和田古墳群	富岡市田舎字布和田	古墳。墳墓。	『上毛古墳群監覽福島町第31～37号墳』
15	原田森遺跡	富岡市字岩川	古墳後期～平安の豎穴建物18軒。鬼高期滑石製品工房跡。	『上田森古墳群・原田森古墳群発掘調査報告書』富岡市教育委員会1984
16	上田森古墳群	富岡市田舎	古墳後期の群集墳。30基。	『上田森古墳群・原田森古墳群発掘調査報告書』富岡市教育委員会1984
17	田舎上平遺跡	富岡市田舎	古墳3基(1基は圓底のみ)、横穴式舟形石室。7世紀。奈良、『田舎上平遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1988	
18	田舎中原遺跡	富岡市田舎	礪文中期集落跡。環状列石1、散石式豎穴建物11軒、豎穴建物2軒、配石道橋36。	『田舎中原遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1990
19	善慶寺早道場遺跡	甘楽郡甘楽町善慶寺	甘樂土坑、埋設土器(中期)。古墳後期～奈良・平安・平安豎穴建物、獨立柱建物、古墳1基(圓底のみ)。	『善慶寺早道場遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1994
20	内匠之宿遺跡	富岡市内匠	礪文～古墳豎穴建物、礪文配石道構5、埋設土器10、中世城郭。	『内匠之宿遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1993
21	内匠日向周地遺跡	富岡市内匠	礪文～中世。古墳前期～後期豎穴建物8軒、水田3面(平安・中世・近世)。古代木簡出土。	『内匠日向周地遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1995
22	内匠日影周地遺跡	富岡市内匠	礪文～近世。礪文前期豎穴建物1軒、弥生豎穴建物14軒、古墳豎穴建物12軒、方形周溝1基、古墳1基。	『内匠日影周地遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1992
23	善慶寺古墳群	甘楽郡甘楽町善慶寺	古墳後期の群集墳。20基。	『甘楽町史』1979
24	二日市古墳群	甘楽郡甘楽町福島	円墳、20基。	『上毛古墳群監覽福島町第2～22号墳』
25	芭蕉翁荷屋古墳	甘楽郡甘楽町福島	甘樂地区的最大規模の前方後円墳。横穴式石室。芭翁荷社堂の五鈴鐘、金環、玉韁の出土。	『甘楽町史』1979
26	天主塚古墳	甘楽郡甘楽町福島	芭翁塚古墳東方400mに位置。豎穴系の主体部を有する前方後円墳。	『甘楽町史』1979
27	芭遺跡	甘楽郡甘楽町小川	弥生後期～古墳の集落跡。石製模造品多数出土。	『芭遺跡』群馬県立博物館1964・1966
28	上野寺場遺跡	甘楽郡甘楽町	古墳頃頭～中期の豎穴建物42軒。奈良・平安の豎穴建物3軒、土坑55基、壁上分布石竈4ヶ所、獨立柱建物2棟、溝3条、中世の塹1基、甕陶文合瓦1ヶ所。	『上野寺場遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1991
29	上野松葉遺跡	甘楽郡甘楽町	弥生終末期～奈良時代豎穴建物82軒。平安時代の豎穴建物1軒。礪文時代陥入穴土坑3基。上器・石器が検出、有舌穴通器出土。	『上野松葉遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1991・1992
30	松葉・慈學寺遺跡	甘楽郡甘楽町野上野	古墳～平安集落跡。弥生土器多數出土。表探遺物に礪文土器片(前期～中期)、黑曜石製有舌尖頭器。	1994
31	白倉下原遺跡	甘楽郡甘楽町字白倉	臼石器。礪文～平安集落跡。磨製石器工房跡。方形周溝5。	『白倉下原・天引向原遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1994
32	天引向原遺跡	甘楽郡甘楽町字天引	臼石器。礪文～古墳集落跡。	『白倉下原・天引向原遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1994
33	天引孤崎遺跡	甘楽郡甘楽町天引	台地部分と三途川の山河調査。AT直下の石器群や礪文前期～後期の遺物、弥生時代豎穴建物40軒、6世紀後半古墳2基。旧河道から古墳時代中心の木製品。	『天引孤崎遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1991
34	上野城跡		中世。城館。	『群馬県古城址研究 下巻』山崎一1978
35	佐久間遺跡	甘楽郡甘楽町小輔	礪文前期豎穴建物5軒、中期豎穴建物1軒、豎穴建物4軒、土坑53基。	『佐久間遺跡』山武考古学研究所1988

## 第3節 基本土層

2区基本土層



3区基本土層



## 基本土層

- 2区
- I 黒褐色土10YR3/2 現表土。耕作上。しまりなし、粘性あり。
  - II 喷褐色土10YR3/3 As-A含。しまりあり、粘性なし。
  - III 喷褐色土10YR3/3 ローム少量含。しまり・粘性あり。
  - IV 灰褐色土7.5YR4/2 にぶい黄褐色土小塊少量含。しまり・粘性あり。
  - V にぶい黄褐色土10YR5/4 粘質土。第IV層灰褐色土少量含。しまり・粘性あり。
  - VI 黄灰色土2.5Y6/1 粘質土。上層酸化鉄分多量含。湧水影響ローム変色。しまり・粘性あり。

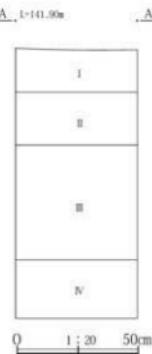
## 3区

- I にぶい黄褐色土10YR5/4 As-AかAs-C? 白色軽石(3~10mm)30%含。
- II 喷褐色土10YR3/4 As-鉀。黄褐色軽石少量含。塊?
- III 黄褐色土10YR5/8 As-鉀。粘性高軽石安定。水つき?
- IV にぶい黄褐色土10YR7/4 As-BP一部、As-MPか。水つき。
- V にぶい黄褐色土10YR7/4 明暗帶上位?
- VI にぶい黄褐色土10YR5/4 灰白粒ブロック状含。AT層?
- VII にぶい黄褐色土10YR5/4 黄褐色粒子・灰白色・漂片含。暗色帶? As-MP、As-BP間層の可能性。

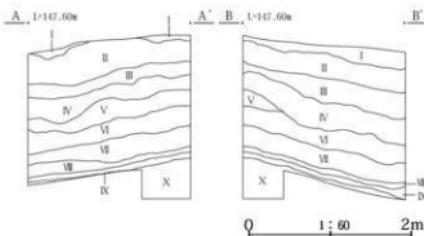
1区1号旧石器トレチ



2区2号旧石器トレチ



3区3号旧石器トレチ



## 旧石器

- 1区1号旧石器トレチ
- I 黒褐色土上ローム混土。
  - II 褐色土10YR4/6 黑褐色土ブロック・As-Ypブロック中量含。
  - III 褐色土10YR4/6 As-Yp(?)微量含。
  - IV 黄褐色土10YR5/8 As-鉀細粒多量含。

## 2区2号旧石器トレチ

- I 黑褐色土10YR3/2 白色粒多量含。
- II 黑褐色塊文包含層。
- III 黄褐色土10YR5/6 ローム層。黒褐色土。根摺乱あり。
- IV 灰白色粗粒砂土10YR7/1

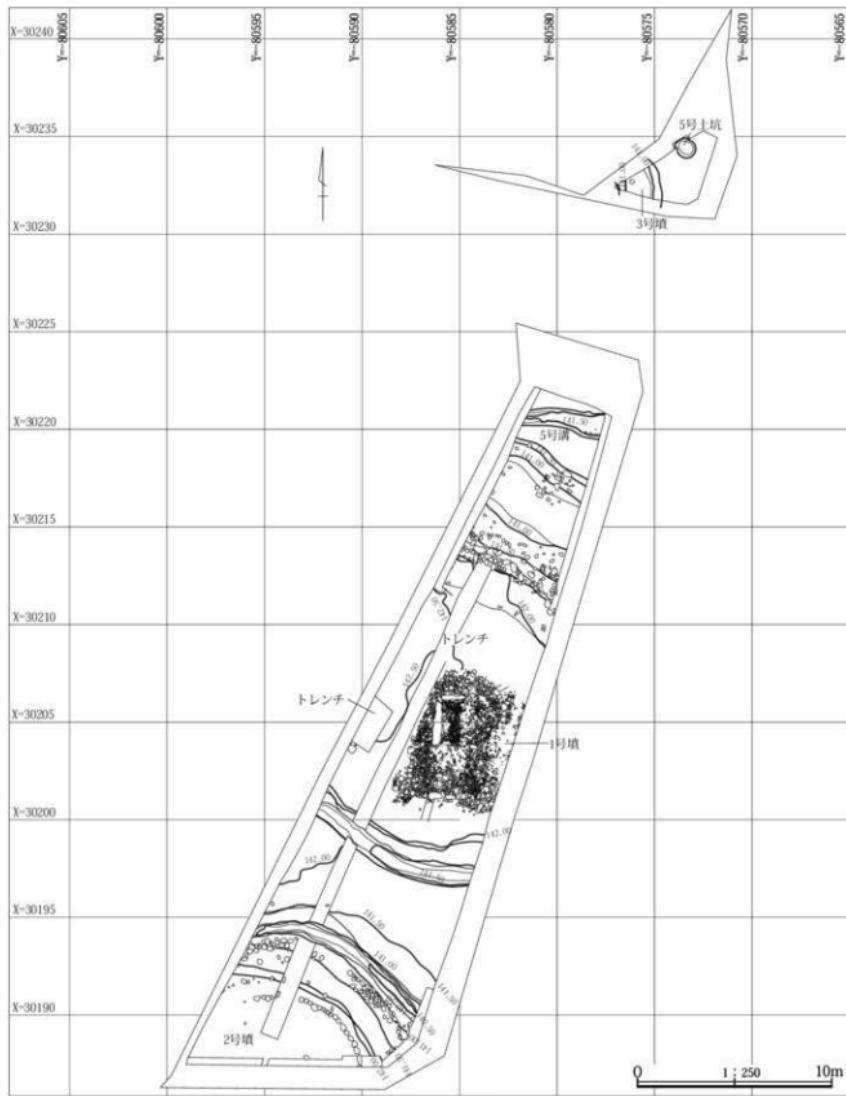
## 3区3号旧石器トレチ

- I 褐色土10YR4/6 As-Yp・白色粒子多量含。しまり・粘性あり。
- II 褐色土10YR4/6 白色粒子・砂粒少量含。しまり・粘性あり。
- III 黄褐色土10YR5/6 白色粒子・褐色軽石少量含。しまり・粘性あり。
- IV 明褐色土10YR6/8 As-BPブロック状多量含。しまり・粘性あり。
- V にぶい黄褐色土10YR5/4 白色粒子・黄色粒子(As-鉀細粒?)極多量含。
- VI にぶい黄褐色土10YR5/3 白色粒子・黄色粒子(As-鉀細粒?)中量含。しまり・粘性あり。
- VII 黄褐色土10YR5/8 褐色軽石(As-鉀)層。しまり・粘性あり。
- VIII にぶい黄褐色土10YR5/3 白色粒子多量含。しまりなし・粘性あり。
- X にぶい黄褐色土10YR5/4 白色粒子中量含。しまり・粘性あり。粘質土。
- X 黄褐色土10YR5/2 マンガン沈着物極多量含。しまり・粘性あり。粘質土。

第5図 基本土層

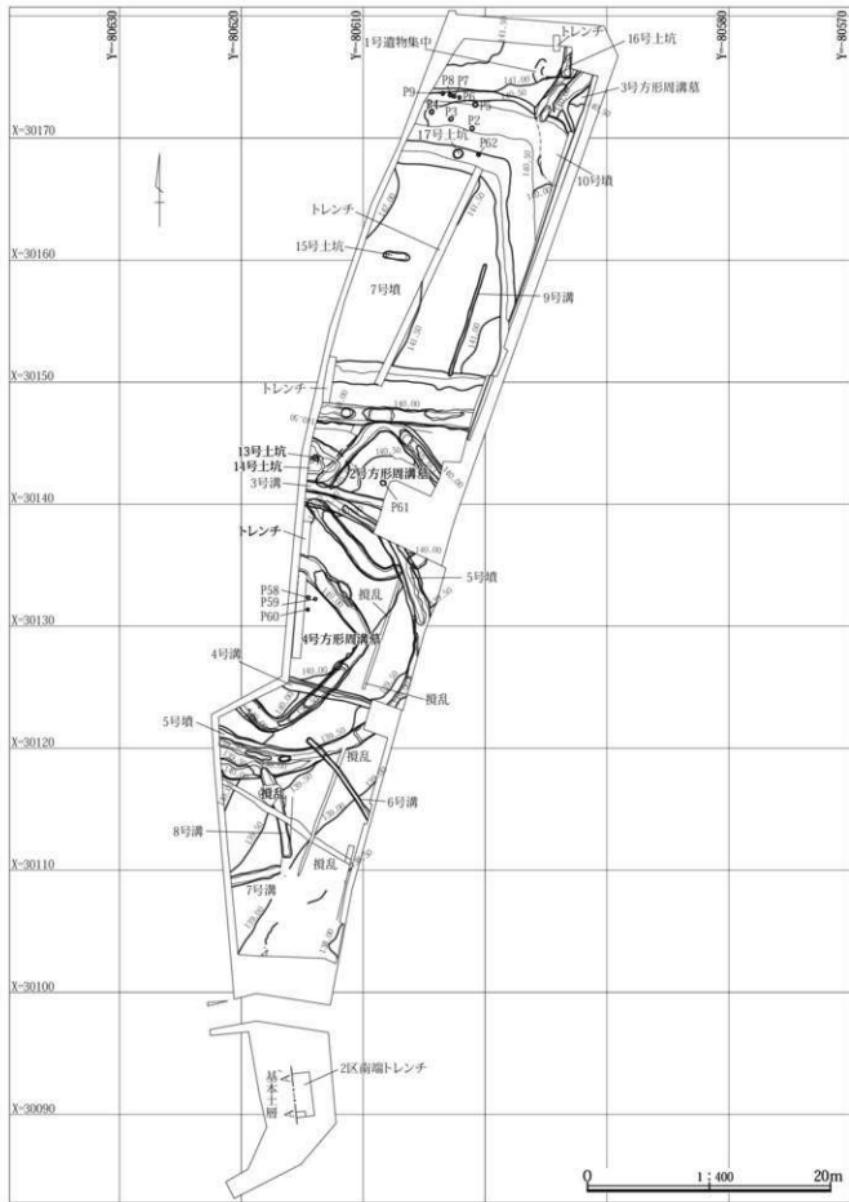
## 第3章 検出された遺構と遺物

### 第1節 遺跡の概要



第6図 1区1面全体図

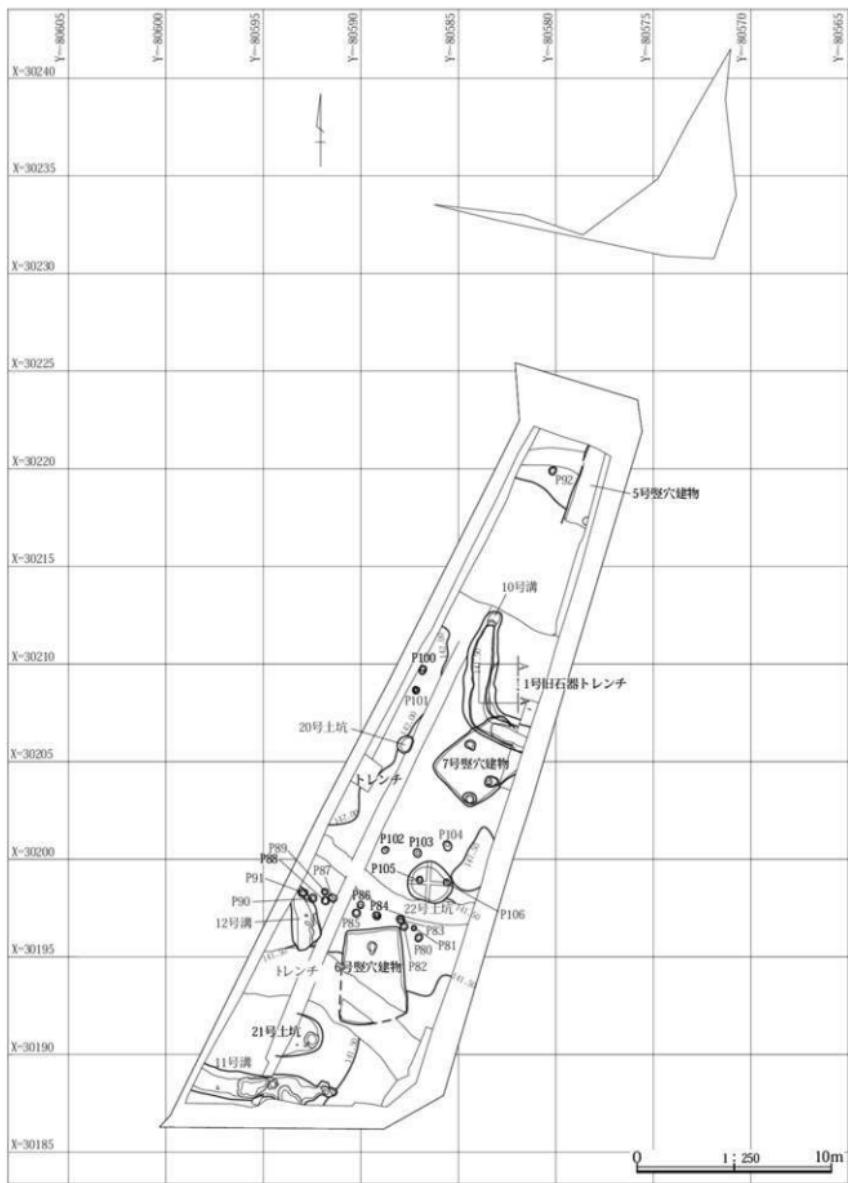
第3章 検出された遺構と遺物



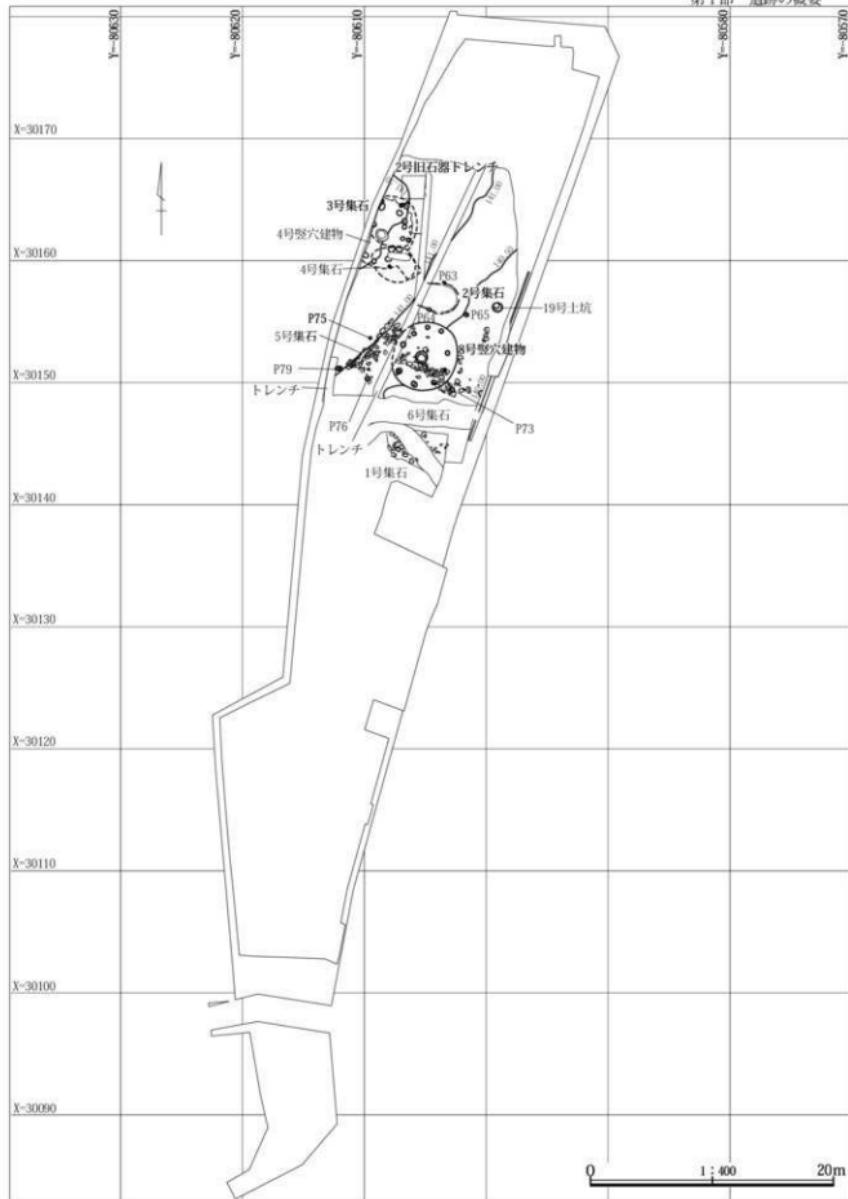
第7図 2区1面全体図



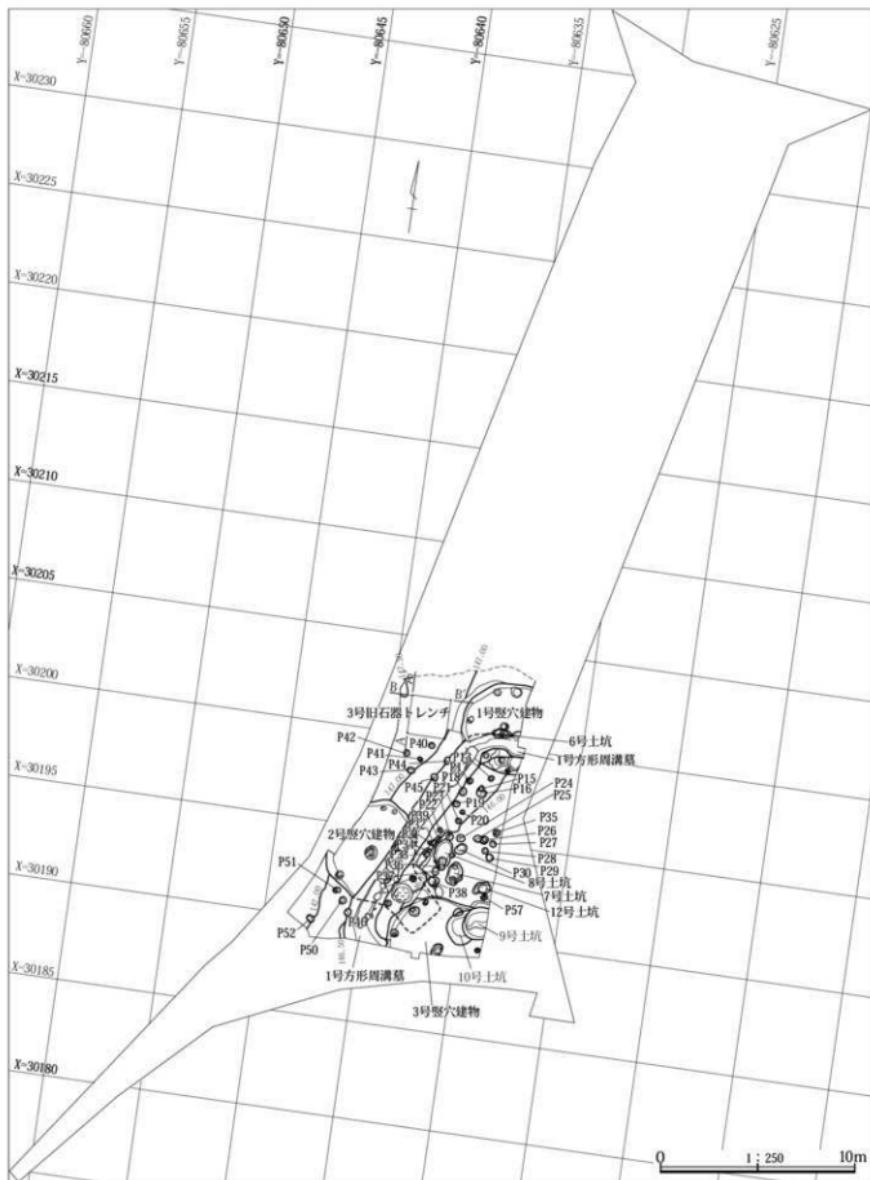
第8図 3区1面全体図



第9図 1区2面全体図



第10図 2区2面全体図



第11図 3区2面全体図

## 1. 古墳

後賀中割遺跡では今回の発掘調査で7基の古墳が確認されている。古墳のほとんどは墳丘や石室は破壊され、耕されていた。1号墳は石室が確認されたが石室底面のみで、表土剥ぎの時に石室内から太刀が確認された。ほぼすべての古墳はここ20~30年内に畠の持ち主が畠とするために埋された後であった。1号墳はそんな中、石室を区画する石はほとんどが取り外され、北西部に石室を区画した角部の1部が確認された。周堀が北側と南側に2ヶ所確認され、周堀には葺石が投げ込まれ土を截せ平坦な畠になった。石室の周囲には裏込めの石が平らに敷かれていた。2号墳は1号墳の南に周堀と葺石の最初に巡る基底部の石が円形に確認できた周堀の中に、1号墳と同じように葺石が確認された。墳丘内に、裏込めの石が平らに敷かれていた。3号墳は1区の北西隅で周堀の一部を確認した。5号墳は周溝墓や溝と重複しているが、5号墳の周堀中にのみ葺石が投げ込まれていた。墳丘が確認されたのは7号墳だけであった。1区南部に確認された7号墳は葺石を持つ方墳である。傾斜地の低い部分に造られたため周溝を埋めて平らに整地され、畠となっていた。さらに西半部は調査区域外に延びるために石室が確認されていない。葺石は2段築盛が確認され、それより上位は削平されている。また5世紀代の土師器高杯、壺等が確認され、墳丘内に石で蓋をした土壤墓が1基確認された(15号土坑)。土壤墓は7号墳の「陪葬」と考えられ、土壤墓からは劍形石製模造品が出土している。

8号墳は石室部のみが確認され、鉄製品が多量に出土している。葺石は周堀に投げ込まれたものと、遺跡周辺の傾斜地の崩れを抑えるために石垣上に積まれている。畠の周辺には多くの葺石が散乱していた。

以下個別に計測値を記載する。

1区1号墳(第12~21図・第4表・PL. 1~6・69・70)

位 置 X=30196~219 Y=-80578~592

重複遺構 なし

形 状 円墳 主軸方位 N-8°-E

規 模 総長南北22.3m

北部幅6.95m 深さ1.35m

南部幅2.00m 深さ0.97m

**埋没土層** 人为的に埋められたためAs-Bやローム粒、ロームブロックを含んでいる。

**出土遺物** 須恵器壺(14~19)、高杯(3~5)、管玉(21)、白玉(20)が出土している。また縄文時代の大型の石棒(30)や打製石斧(24~26)、古墳時代前期のS字状口縁台付壺(9~12)、凹石(28)等が出土している。石室内から直刀片(36)、覆土中より直刀(33)が出土した。

**所 見** 概要で述べた通り、1号墳の墳丘はすべて、石室の石の大部分は取り外されている。埋葬に伴う副葬品は鉄劍や太刀以外はほとんど盗掘されたものと考えられる。近年の畠にするために削平され、葺石は周堀の中に投げ込まれている。石室の開口部は南向き、やや西に振れている。石室東側は区画の石をはがすために大きく攪乱を受けていた。石室の裏込めは石室周辺に投げ出されている。時期は須恵器、土師器の様相から6世紀後半代と考えられる。

**遺物概要** 1号墳からは多くの遺物が出土している。装身具として種類の異なる耳環2点、武器として直刀1点と、別の直刀茎片1点、刃部片1点、有窓鍔片1点、鐵片23点、工具としての刀子茎片1点、馬具の杏葉か鏡板の可能性がある1点、小型の釘1点が出土している。

**装身具** 耳環は、2種類ある。(31)は、やや細身で銅の中実製で金・銀の数値が少量出ており、メッキを施した可能性のあるものである。(32)は、大型で、銅地に銀を張り、その上から金メッキをしているものと推定する。

**武 器** 直刀(33)が2つに折れるようにして出土しており、他の場所から出土した刀の切先部と併せて、両闇を有する1本の刀に復元できる。さらに別の直刀の目釘のある茎片と、刃部の破片、窓のある鍔破片である。これらの破片が同一の刀となるかは不明である。

鐵が23点出土している。鐵はほとんどが長頭鐵で、ごく一部に有頭の平根鐵がある。長頭鐵の鐵身は3種類ある。鐵身闇が直角を呈し、鐵身の長さが異なる柳葉(長三角形)鐵3点、鐵身闇が斜闇の柳葉(長三角形)鐵2点、どちらか不明な柳葉(長三角形)鐵2点が出土している。また、すべて闇が不明瞭な長頭片刃鐵を3点確認している。有頭の平根鐵は直角の闇を持つ長三角形鐵である。鐵身闇はすべて棘状闇である。

**工 具** 刀子の茎(37)と推定される、細身で、目釘穴を持つ茎片が出土している。

### 第3章 検出された遺構と遺物

**馬 具** 杏葉か鏡板の破片と推定される破片(61)が出土した。鏡板金具があり、鉄錠が確認されている。本来の形態は不明である。

**釘** 小型で頭部が良く残っている釘(62)を1点確認した。遺物から見た年代 鐵の刃闊における斜闊の状況や、棘状闊から、6世紀末～7世紀初頭に比定される。

1区2号墳(第22～27図・第4表・PL. 7～11・70～72)

位 置 X=30187～195 Y=-80586～599

重複遺構 なし

形 状 円墳と考えられる。 主軸方位 不明

規 模 周塁幅4.07m、深さ1.61m

埋没土層 As-Bローム粒、ロームブロック含む。

出土遺物 須恵器甕片(6)、壺(7～9)、杯蓋片(1)、鐵1点、斧1点、刀子1点、釘1点が出土している。

所 見 本古墳も墳丘ではなく、石室も確認されていない。葺石は崩され、周塁に投げ込まれている。墳丘の最低面の1列が残存している。裏込めの石はその縁の中側で確認されている。

副葬品概要 2号墳は盜掘ではとんどの副葬品が無くなっているが、武器として鐵が1点、工具として斧1点、刀子1点、釘1点が出土した。

武 器 刃闊が直角間に近い斜め闊で、刃は片丸造の長頭長三角形鐵(15)が1点出土している。

工 具 無肩袋柄斧(14)で、袋部は、完全に閉じられておらず、肩は持たないが、刃先に向かいやすくなつた後に、また広がる形態をとる。刀子片(16)も出土した。

釘 小型の釘(17)が1点出土している。

遺物から見た年代 長頭長三角形鐵の刃部の造りや刃闊の形態からは6世紀後半～7世紀初頭までの年代が比定できるが、釘の存在から7世紀初頭と推定する。

1区3号墳(第28図・第4表・PL.12・72)

位 置 X=30231～233 Y=-80574～576

重複遺構 なし

形 状 不明 主軸方位 不明

規 模 不明

埋没土層 ローム粒、ブロック含む。

出土遺物 石鐵(1)が出土している。

所 見 周塁の一部のみの検出で、出土遺物も弥生時

代の石巻片のみである。

2区5号墳(第29～31図・第4表・PL.12・13・72)

位 置 X=30117～141 Y=-80604～621

重複遺構 2・4号方形周溝墓、3・4・6・8号溝。新旧関係は本6号墳が新しい。

形 状 円墳 主軸方位 不明

規 模 北南23.0m

周溝規模 南溝幅3.40m 深さ1.21m

北溝幅1.30m 深さ0.50m

埋没土層 下半部にはローム粒が含まれ、上位にはAs-Bが確認された。地形は南に向かい傾斜し、傾斜に合わせて削平されていた。

出土遺物 須恵器甕片(1～5)、打製石斧(6・7)、鐵の茎(8)が出土している。

所 見 2区南半部に位置し、傾斜は北溝から南溝で約1m弱あり、もとの地形に沿い扇地に開墾している。溝内には除去せずに葺石が多量に確認されている。時期は須恵器から古代である。

副葬品概要 5号墳からは、鐵の茎(8)と推定される破片が出土しているのみである。

遺物から見た年代 年代は不明である。

2区7号墳(第32～41図・第4表・PL.14～22・72・73)

位 置 X=30145～174 Y=-80593～613

重複遺構 9号溝、1・2号方形周溝墓、1・2号集石、17号土坑、62号ピット。新旧関係は本古墳が一番新しい。

形 状 方墳 主軸方位 不明

規 模 南北長27.8mを測る。古墳の全体は確認されず、推定で1辺35～40mを測るものと考えられる。

埋没土層 上層はAs-C～Bが混入し、下位はローム粒、ローム土が混じる。

出土遺物 土師器高杯(1～3)、壺(4)、石匙(9)、打製・磨製石斧(12～26)、石鍬(28・29)、凹石(31～34)、鐵製品は、鐵(41)、工具片(42)、板状品(43)が出土している。

所 見 調査開始当初は墳丘や葺石等から7世紀後半代と考えられたが、墳丘上葺石の間から5世紀代の土師器が確認されたこと、墳丘盛り土内に掘り込んだ陪葬墓とみられる土壙が確認された。この15号土坑内から石製模造品が確認されている。詳細は考察編で右島氏が詳述

するが、時期的には5世紀代とみて間違いないと考えられる。

**遺物概要** 7号墳からはごく少数の遺物が出土した。鐵1点、工具片1点、板状片が1点出土した。

**武 器** 短頭で細身の刃部を持つ有頭柳葉鎌(41)が1点出土している。

**工 具** 断面四角で、先端が尖る形態で、工具の茎の可能性がある(42)。

**不 明 品** 薄い鉄板状品(43)。端で鉄板を折り返した箇所がある。用途不明。

**遺物から見た年代** 短頭で細身の柳葉鎌から5世紀第2四半期と推定する。

3区8号墳(第42~65図・第4表・PL.23~43・74~83)

**位 置** X=30187~208 Y=80631~644

**重複遺構** 1号方形周溝墓、新旧関係は本古墳が新しい。

**形 状** 不明 **主軸方位** 不明

**規 模** 南北長(20.0)m

**周溝規模** 北溝幅6.00m 深さ0.97m

**埋没土層** 上位層から下層にかけ、ローム粒・ロームブロック混じる。

**出土遺物** 多量の金属製品、馬具、武器・武具、太刀等が出土している。

**所 見** 8号墳は横穴石室が検出されている。しかし、他の古墳と同じく盜掘され、昭和時代の扇開墾等により、石室も壊され、葺石等が埋め戻してある。調査前には平坦な畠地で、古墳の存在ははっきり理解できなかった。

**遺物概要** 8号墳からは多くの遺物が出土している。装身具として種類の異なる耳環6点、武器として直刀1点、鞘尻金具1点、銀製刀装具破片2点、鉄板破片2点、鐵が54点出土している。鐵は、刃部片12点、頸部十茎部片28点、頸部片7点、茎部片7点の構成である。工具として、銀装刀子片1点、銀装具片1点、刀子茎片2点、刀子片1点、針状工具4点がある。馬具は、渦巻形杏葉5点、四脚辻金具2点、三脚辻金具2点、コハゼ形金具13点、(長形(5鉤)1点、長形(2鉤)1点、短形(3鉤)4点、短形(2鉤)3点、長短鉤数不明4点)の構成である。方形金具(4鉤)が4点、較具が7点、鞍が2点、吊金具が4点、鎖吊金具が1点、雲珠の座金具の装飾と想定される銀製花弁形飾金具2点出土している。さらに、金銅製の

連結状金具が2点あり、馬具の可能性もある。他に馬具の可能性のある細板状の金具類が4点出土している。刀装具の可能性のある、幅広板状の湾曲する鉄製品が1点ある。細板状製品が2点、工具の破片の可能性もあるものの2点、鉄滓が1点出土している。さらに大小の釘が13点出土している。

**耳 環** 6点ある。58と59、60と61がセットになる可能性が高い。57は小型で銅地銀張りのものである。58・59は銅地で金メッキを施しているものである。60・61は大型で、銅地に金を張ったものである。62は大型で銅地中空のもので、金メッキを施すものである。少なくとも4セットの耳環があったことが分る。

**武 器** 直刀(64)は幅広の刃身を持つものである。また、銀製の鍔(63)が出土している。鍔は、有段で内側に段差を有して高くなる。さらに銀製の装具(65)があり、柄頭の可能性もあるが、懸通孔が無いことなどから鞘尻金具とした。畔目状の刻みを尻端部に持つもので、反対側の端部に銅製の縁金を上から銀を被せているものである。類例は見つけられなかった。他に装具として、銀製の小破片(66・67)が2点、鉄製の小破片(68・69)が2点ある。

鐵(70~123)は、総数54点のうち、刃部は10点確認されている。刃闇が不明瞭な撫闇の長頭柳葉鎌(71)が1点、角闇状を呈する長頭柳葉鎌(72)が1点、やはり刃闇が不明瞭な撫闇の片刃鐵(74~81)が8点出土している。角闇状を呈する長頭柳葉鎌以外は、闇が不明瞭なものである。また、鍔身闇を見るとすべて明瞭な棘状闇である。

**工 具** 工具として分類するのは難しいかも知れないが、金属製装具を有する刀子が破片と併せて2点(124・126)出土している。1点は、刀子に装着している状況(126)で出土し、銀装具の装着の様子が分かる。もう1点は銅製小型装具が単独(124)で出土している。刀子の茎が1点(128)、刀子刃部が2点(125・127)出土している。銀・銅装刀子を含めて最大で5点あったことになる。

針(129)が4点まとめて鏽着して出土しており、元々まとめて収められたものであろう。針部の先端部は一部残り、尻部は欠損しており、針孔の確認はできない。他に、工具の破片として可能性のあるものとして、細板状の製品(182・183)がある。

**馬 具** 馬具は豊富な種類がある。まず、渦巻形杏葉

### 第3章 検出された遺構と遺物

(130~134)であるが計5点出土している。コハゼ形の立間部に円棒状鉄棒に捩じりを加えたものを両端から内側に巻いて2つの渦巻部を形成するものである。さらに中央部の部分を広げて平たくした部分と立間部の下部を鍛接している。立間部には、上端部に1鉢、下端部に2鉢の3鉢ある。また2つの渦巻部の中央にやはり飾り鉢がある。立間部や渦巻部中央の鉢・飾り鉢には、銀を張り込んでいる。貴金属が、立間部の下端部に巡らされている。鉄地に銀を貼りこんでいる。渦巻形杏葉は、全体の大きさが小さく、杏葉というには遙遠するものがあるが、類例を含めた詳細は別稿を参照してもらいたい。

辻金具類には四脚形・三脚形のものがある。四脚形(135・136)の鉢は、4つの各脚部に頂部に1点、足部に2点の3鉢あり、中央部にも1鉢あり、計13鉢(現状では12個)あるもの(135)と中央の鉢が無く、計12個のもの(136)がある。三脚形(137・138)のものは、3つの各脚部に頂部に1点、足部に2点の3鉢あり、計9鉢ある。いずれも、鉢に銀が貼りこまれている。

革金具 コハゼ形金具は、総計13点(139~151)ある。長形で5鉢を有するものが1点(139)あり、端部が屈曲している。長形で2鉢を有するものが1点(144)ある。短形で3鉢のものが4点(140~143)、短形で2鉢のものが3点(145~147)ある。長短及び鉢数不明が4点(148~151)ある。いずれの鉢頭にも銀が貼りこまれている。

方形金具が4点(152~155)ある。鉢は4つ頂辺部に打ち込まれている。いずれも鉢頭に銀が貼りこまれている。

絞具は7点(156~162)ある。絞具には4種類ある。絞具頭である楕円形環部と下部に回転自在の横棒に刺金を装着したもので、下部端にもう1本横棒を装着している形態のものが2点(158・159)ある。

上部に向かい内側に少し湾曲しながら開く形態で、頂部が直線状になる形態が2点(156・161)、上部に向かい直線状に開き、頂部は直線状のものが2点(157・162)、上部に向かい内側に少し湾曲しながら開く形態で、頂部が円弧状を呈するものが1点(160)ある。

鞍は鞍の座金具であり、2点(163・164)出土している。円盤状の座金具の中央穿孔部に扁平な鉄棒を折り曲げて差し込み、破片となり本来の形は不明な輪金の基部を擗めている(163・164復元)。座金具を介して、木製鞍橋に打ち込んで、裏側に突き抜けた後、約2.5cmほど扁平

な鉄棒に穿孔して、細鉄棒を差し込み、鞍橋に押されている(163復元)。(164)も同様の構造と推定する。

留金具が4点(167~170)出土している。いずれも片方の脚部が、幅広く大きい。鎧に近似する。

壺蓋の吊金具が1点(171)出土している。コの字形で、脚部は中央がやや広がる長椭円形状の平面である。その脚部に2鉢が打ち込まれている。

金銅製で、連結状金具の製品(165・166)がある。馬具の嚮金具の街の小型品の可能性も考えたが、はっきりしない。銅地に金メッキを施している。

雲珠の座金具の破片として花弁形の飾りが2点(172・173)出土している。花弁部の幅・形態が微妙に異なるので、別個体と考えている。鉄地に銀を貼りこんでいる。

他に、細板状の破片3点(175~177)や、一部が屈曲する鎧に近似する破片が2点(178・179)出土している。

その他として、小型の鉄滓が1点(180)出土している。また、幅広の鉄製薄板状で、湾曲している製品(181)がある。刀の装具かとも想定したが、湾曲の度合いが緩やかで大きく、別の用途の製品と想定する。また、工具の所ですでに紹介しているが、断面長方形の細板状品が2点(182・183)出土している。

釘は、完形に近い製品から推定すると、全長7cmほどの大型品が8点(188~195)、全長4cm未満の小型品が5点(184~187・196)ある。有機質の木質遺存は認められない。

**遺物から見た年代** 以上の遺物から見た8号墳の年代は、渦巻形杏葉は6世紀末~7世紀前半に特徴的な遺物である。さらに、鎧を見ると刃闘が斜面で不明瞭な長頭長三角形・長頭片刃鎧があり、年代的には、7世紀初頭~前半に比定できる。

2区10号古墳(第66図・第4表・PL.83)

位 置 X=30166~175 Y=80591~595

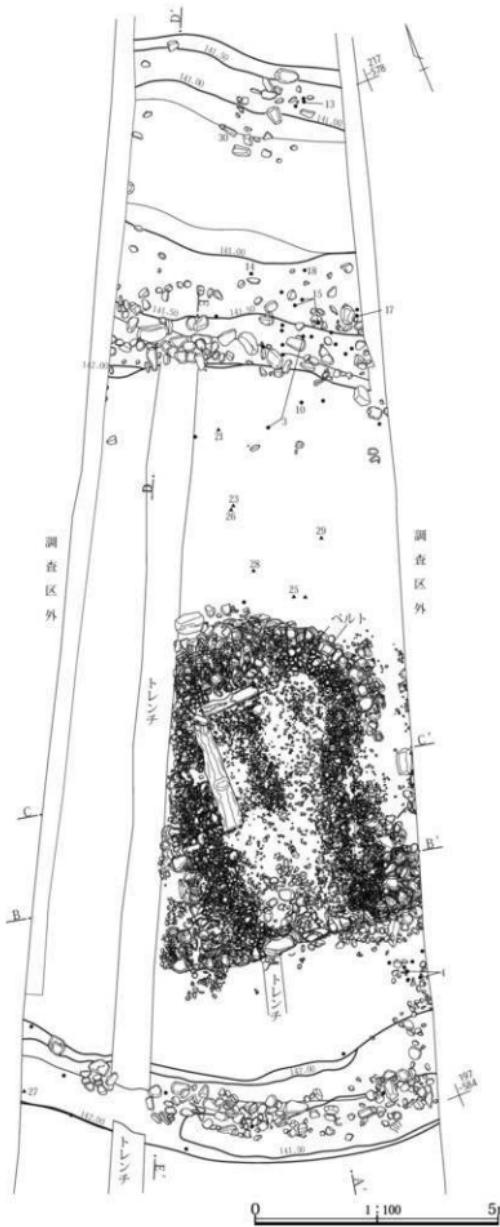
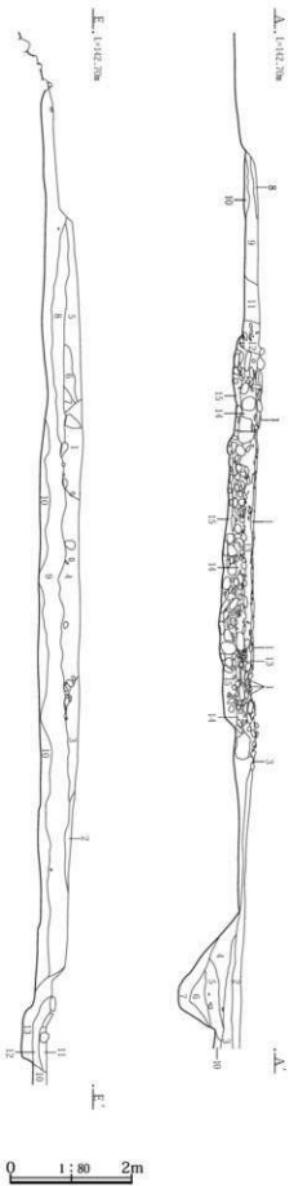
重複遺構 なし 形 状 不明 主軸方位 不明

埋没土層 東壁の最上面にAs-Aが確認された。

規 模 周溝等は確認できず、計測不能である。

出土遺物 打製石斧1点(2)、石鐵1点(1)が出土。

所 見 10号古墳は墳丘・周溝は確認されず、古墳の葺石と石室の石が確認された。



第12図 1区1号填

- 1 区 1号墳 A'.
- 1 黄褐色土10RE4 砂質土。しまりあり、粘性なし。1~2mm白色鮮石3%含。
  - 2 黑褐色土7.3RE3 砂質土。しまりあり、粘性なし。1~2mm白色鮮石2%含。
  - 3 黄褐色土7.3RE4 砂質土。しまりあり、粘性なし。As-BHE3%含。
  - 4 黄褐色土10RE3/2 砂質土。しまりあり、粘性なし。As-BHE3%含。
  - 5 黑褐色土10RE3/2 砂質土。しまりあり、粘性なし。
  - 6 に-3 黄褐色土10RE4/3 ローム含砂質土。しまり・粘性あり。
  - 7 灰褐色土10RE4/2 ローム多量含砂質土。しまり・粘性あり。
  - 8 に-3 黄褐色土10RE5/4 粘土含。しまり・粘性あり。
  - 9 に-3 黄褐色土10RE5/3 粘土質。しまり・粘性あり。黄褐色ローム土1~5mmプロック40%含。
  - 10 黄褐色土10RE3/2 シルト土。しまりあり、粘性なし。
  - 11 黄褐色土10RE3/3 砂質土。しまり・粘性あり。
  - 12 黄褐色土10RE3/3 砂質土。しまりなし、粘性あり。11層の隔層土。
  - 13 黄褐色土10RE3/4 砂質土。しまりあり、粘性なし。
  - 14 黄褐色土10RE4 砂質土。しまりあり、粘性なし。
  - 15 黄褐色土10RE3/4 白色粒子・ロームプロック混含。しまり・粘性あり。

1区 1号墳 A'

1号墳 B'

- 1 黄褐色土10RE4 砂質土。しまりあり、粘性なし。1~2mm白色鮮石3%含。
- 2 黑褐色土10RE3/3 砂質土。しまりあり、粘性なし。黄褐色ローム土2~3mmプロック10%含。
- 3 黄褐色土10RE3/4 砂質土。しまりあり、粘性なし。
- 4 黄褐色土10RE3/4 砂質土。しまり・粘性なし。隔層土。
- 5 黄褐色土10RE3/4 白色粒子・黄色粒子少量含。しまり・粘性あり。

1号墳 C-C'

- 1 黄褐色土10RE4/4 砂質土。しまりあり、粘性なし。1~3mm白色鮮石3%含。
- 2 黄褐色土10RE4/4 砂質土。しまりあり、粘性なし。
- 3 に-3 黄褐色土10RE4/3 砂質土。しまりあり、粘性なし。
- 4 黄褐色土10RE3/3 砂質土。しまりあり、粘性なし。1mm白色鮮石2%含。隔層土。
- 5 黄褐色土10RE4/4 砂質土。しまり・粘性なし。
- 6 黑褐色土10RE2/4 シルト土。しまりあり、粘性なし。
- 7 黑褐色土10RE3/2 砂質土。しまり・粘性含。しまり・粘性なし。
- 8 黑褐色土10RE3/2 砂質土。しまりなし、粘性なし。
- 9 黄褐色土10RE3/4 白色粒子少量含。しまり・粘性あり。
- 10 黄褐色土10RE3/4 砂質土。しまり・粘性含。しまり・粘性あり。

1号墳 D-D'

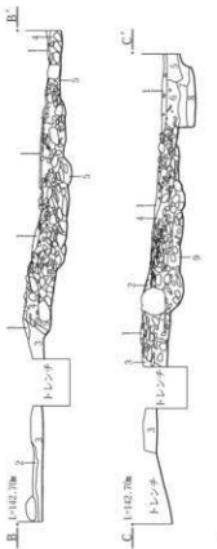
- 1 に-3 黄褐色土10RE4/3 砂質土。しまりあり、粘性なし。1~3mm白色鮮石少量含。
- 2 黑褐色土10RE3/1 砂質土。しまり・粘性なし。As-BHE多量含。
- 3 As-B.
- 4 黄褐色土2.3S/2 粘合細颗粒質土。しまりなし。1~2mm赤褐色砂少量含。
- 5 黑褐色土10RE2/2 粘合含シルト質土。しまりなし。粘性あり。
- 6 黑褐色土10RE2/2 粘土含シルト質土。しまりなし。粘性なし。黄褐色ローム土4~10cmプロック30%含。
- 7 に-3 黄褐色土10RE4/3 砂質土。しまり・粘性なし。1~2mm黄褐色砂少量、黄褐色ローム土含。
- 8 黄褐色土2.3S/3 砂質土。しまりあり、粘性なし。黄褐色ローム土少量含。
- 9 黄褐色土2.3S/5 砂質土。しまりあり、粘性なし。1~2mm白色砂石少量含。
- 10 黑褐色土10RE2/2 砂質土。しまりあり、粘性なし。1mm黄褐色砂少量含。
- 11 黒褐色土10RE2/2.5S/3 砂質土。しまりなし、粘性あり。黄褐色ローム土20%含。

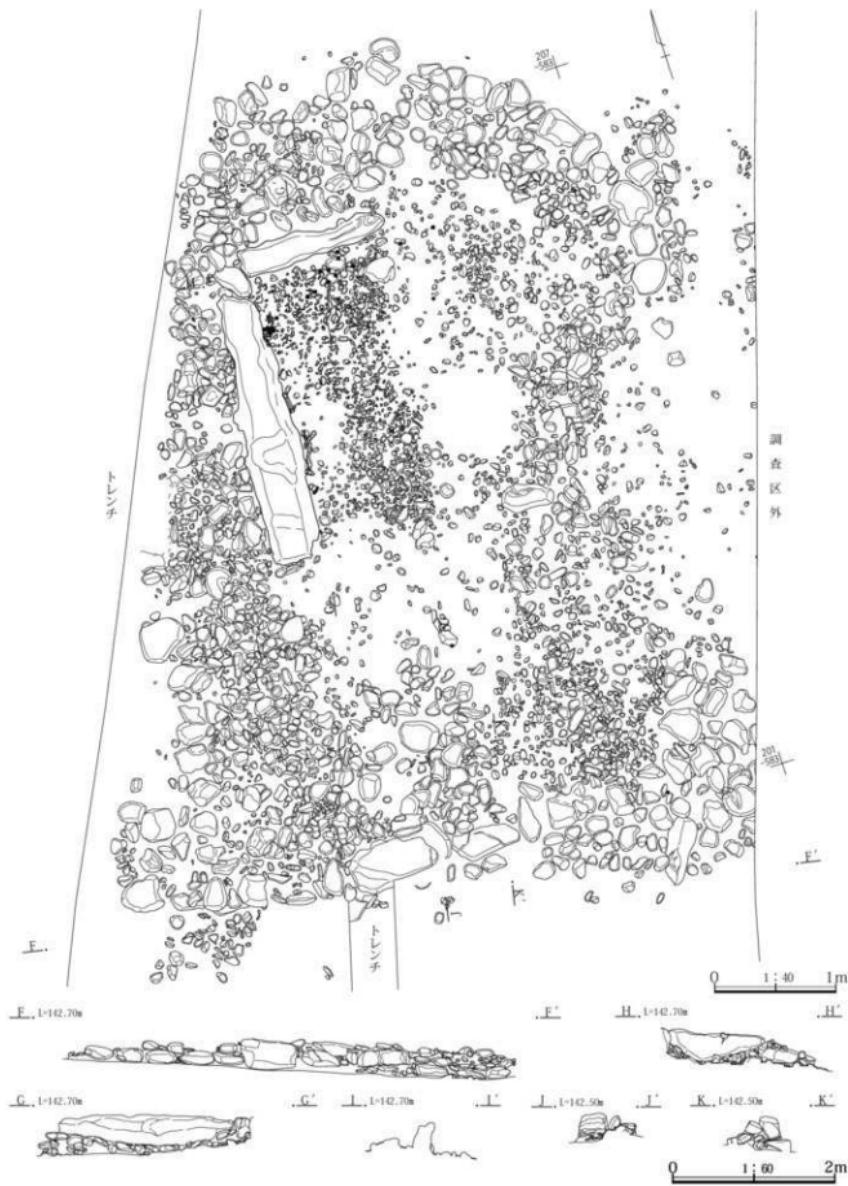
1号墳 E-E'

- 1 黄褐色土10RE4/4 砂質土。しまり・粘性なし。0.1~1cmの黄褐色砂礫3%含。
- 2 黑褐色土10RE4/4 ローム多量含。しまりあり、粘性なし。
- 3 黄褐色土10RE4/4 砂質土。しまり・粘性なし。
- 4 に-3 黄褐色土10RE4/3 砂質土。しまり・粘性なし。
- 5 黄褐色土10RE4/4 砂質土。しまり・粘性なし。黄褐色ローム土2~10cmプロック40%含。
- 6 黄褐色土10RE3/4 粘合含砂質土。しまり・粘性なし。黄褐色ローム土1~5cmプロック20%含。
- 7 黄褐色土10RE4/3 砂質土。しまり・粘性なし。黄褐色ローム土1~5cmプロック20%含。
- 8 黑褐色土10RE3/2 砂質土。しまり・粘性なし。
- 9 黑褐色土10RE3/2 砂質土。しまり・粘性なし。北側下層黄褐色砂含。
- 10 黒褐色土10RE2/2.5S/3 砂質土。しまり・粘性なし。黄褐色ローム土20%含。
- 11 黑褐色土10RE2/2 砂質土。しまりあり、粘性なし。黄褐色ローム土上層少量含。
- 12 黑褐色土10RE3/3 砂質土。しまり・粘性あり。
- 13 に-3 黄褐色土10RE4/3 ローム多量含砂質土。しまりなし、粘性あり。

0 1:80 2m

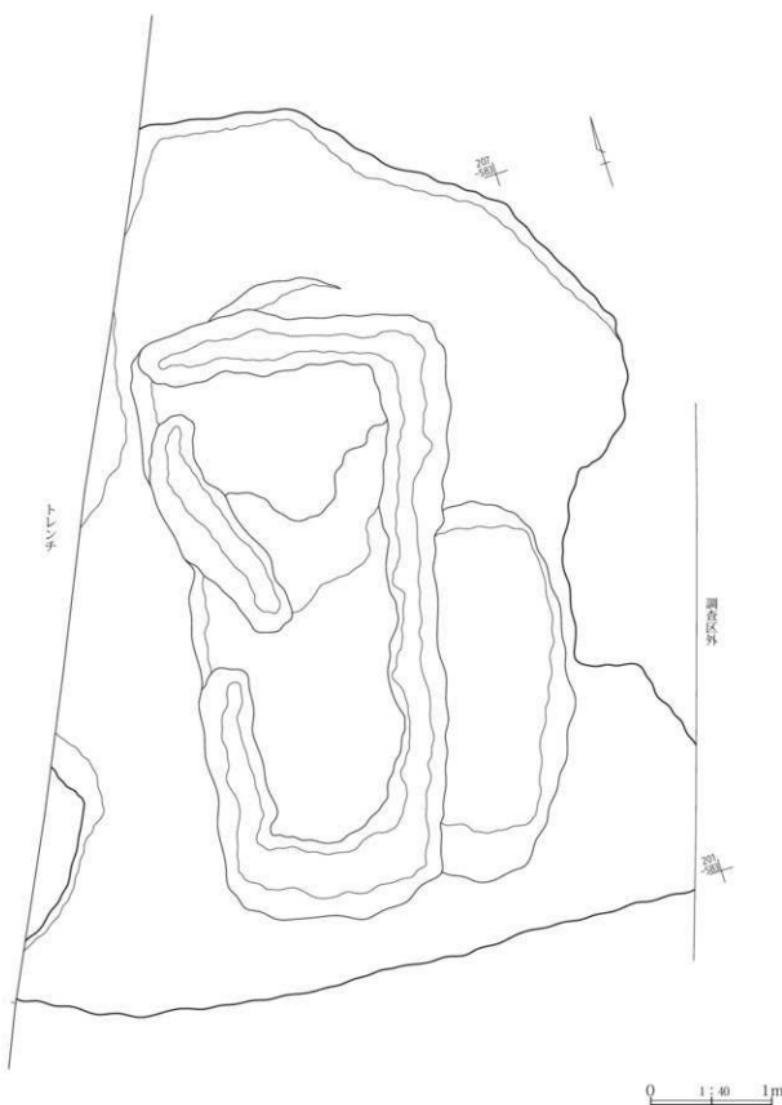
1区 1号墳断面図



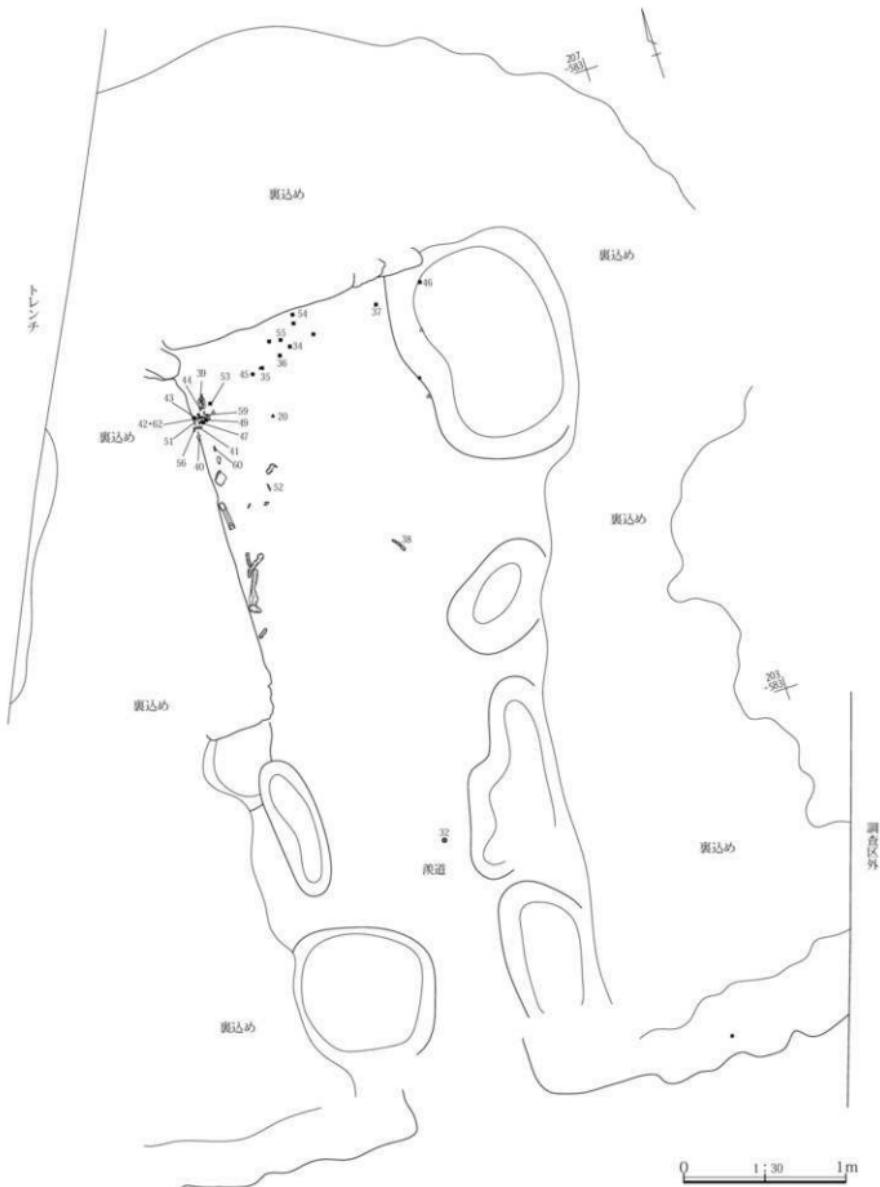


第14図 1区1号填石室

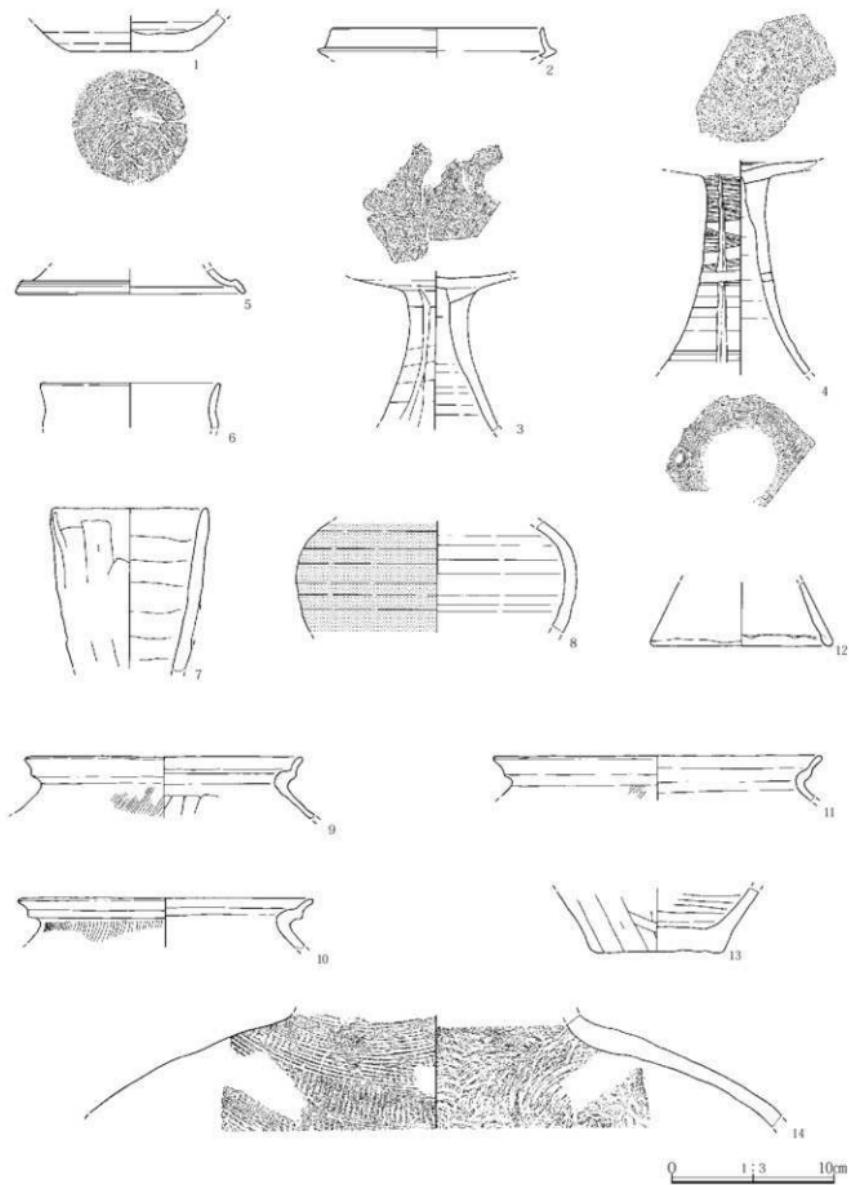
掘り方



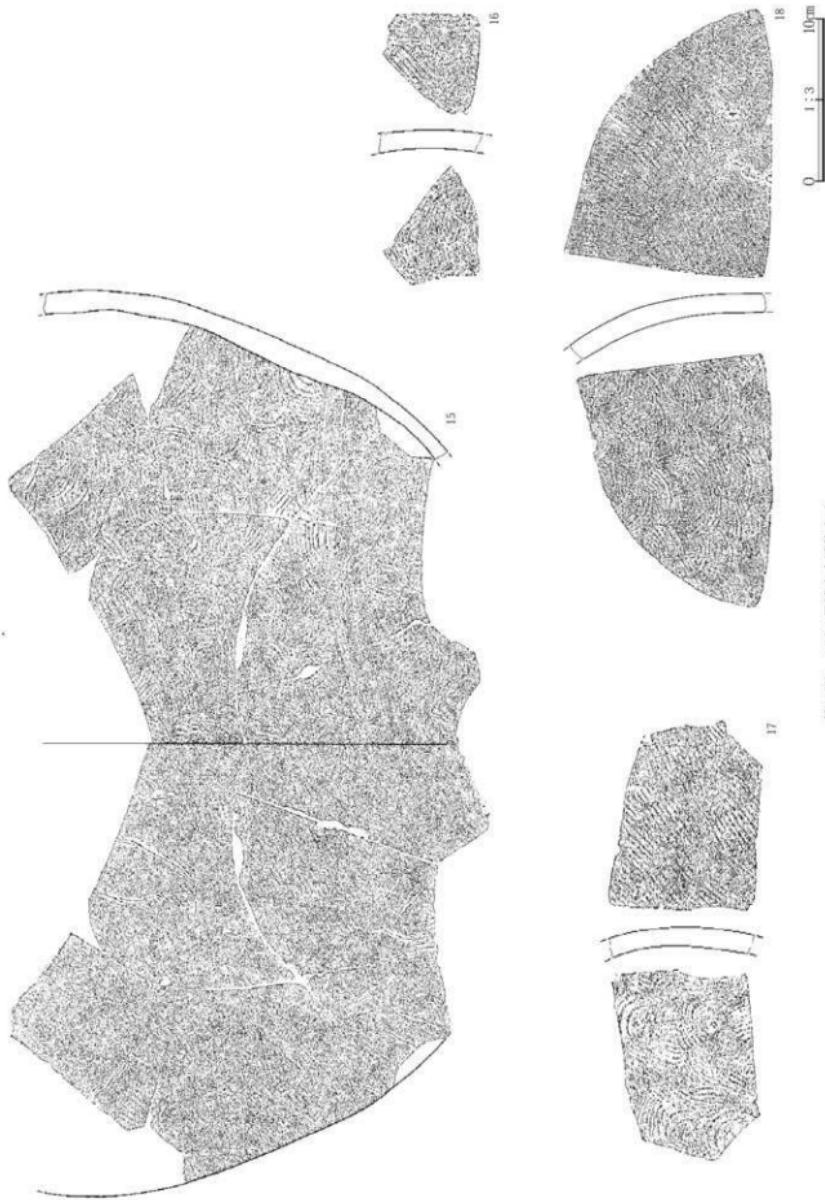
第15図 1区1号填石室掘り方



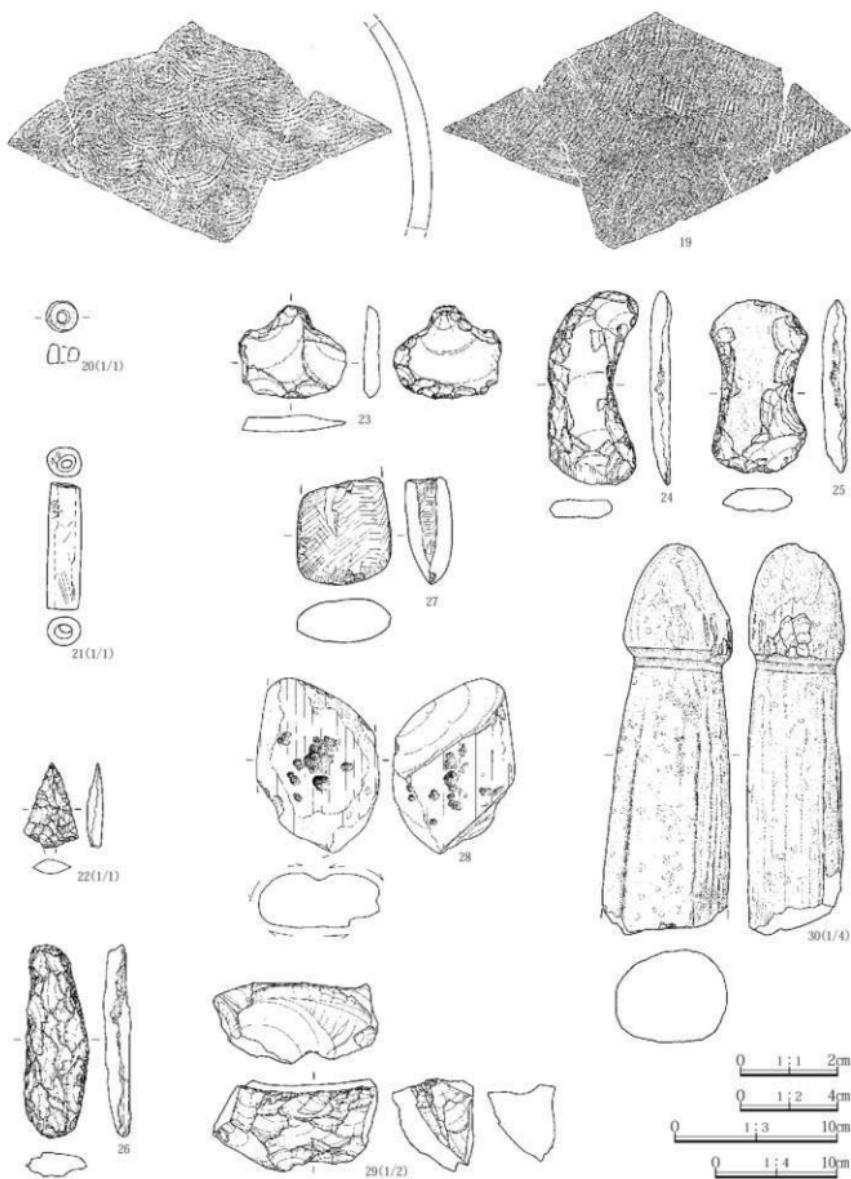
第16図 1区1号埴白玉・金属器出土位置図



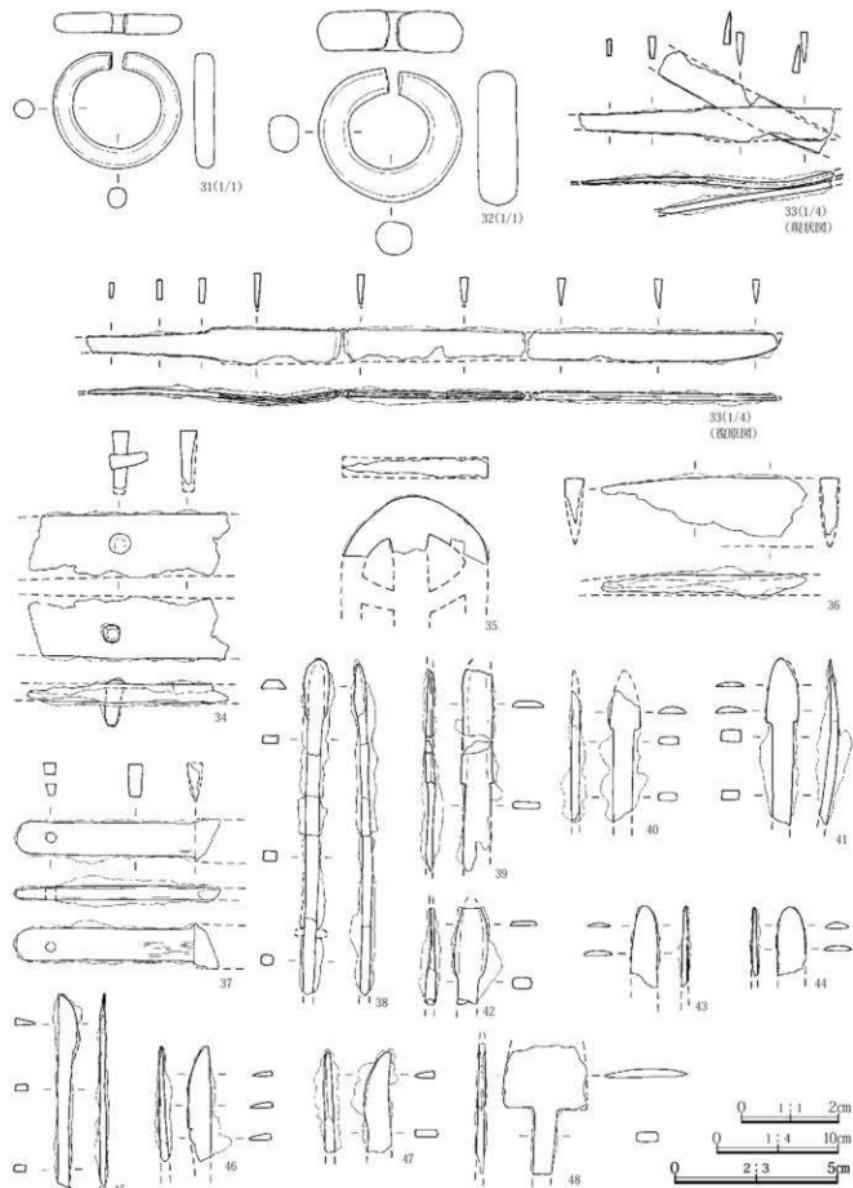
第17図 1区1号墳出土遺物(1)



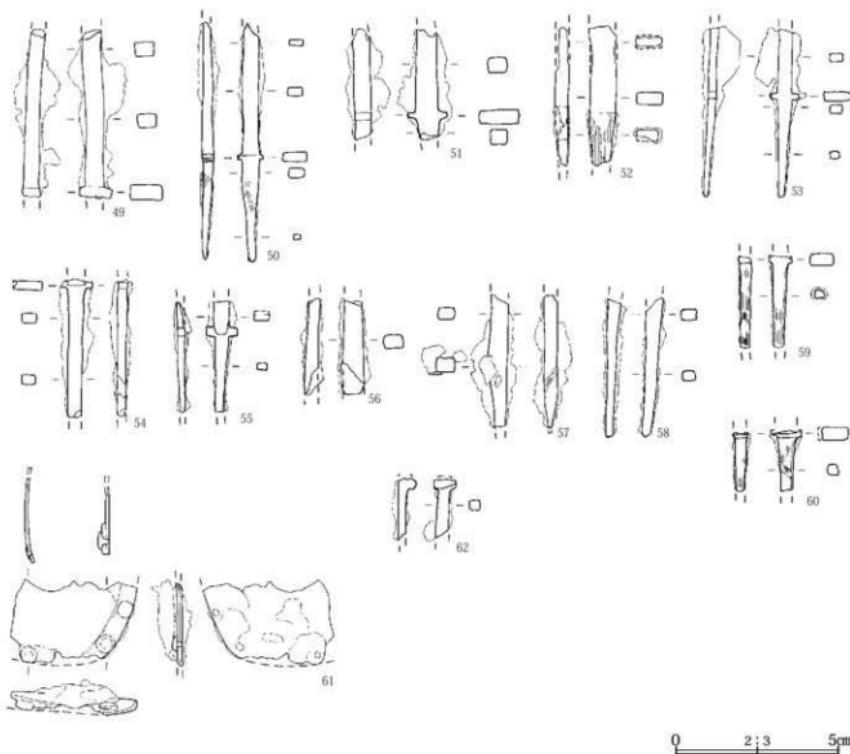
第18図 1区1号坑出土遺物(2)



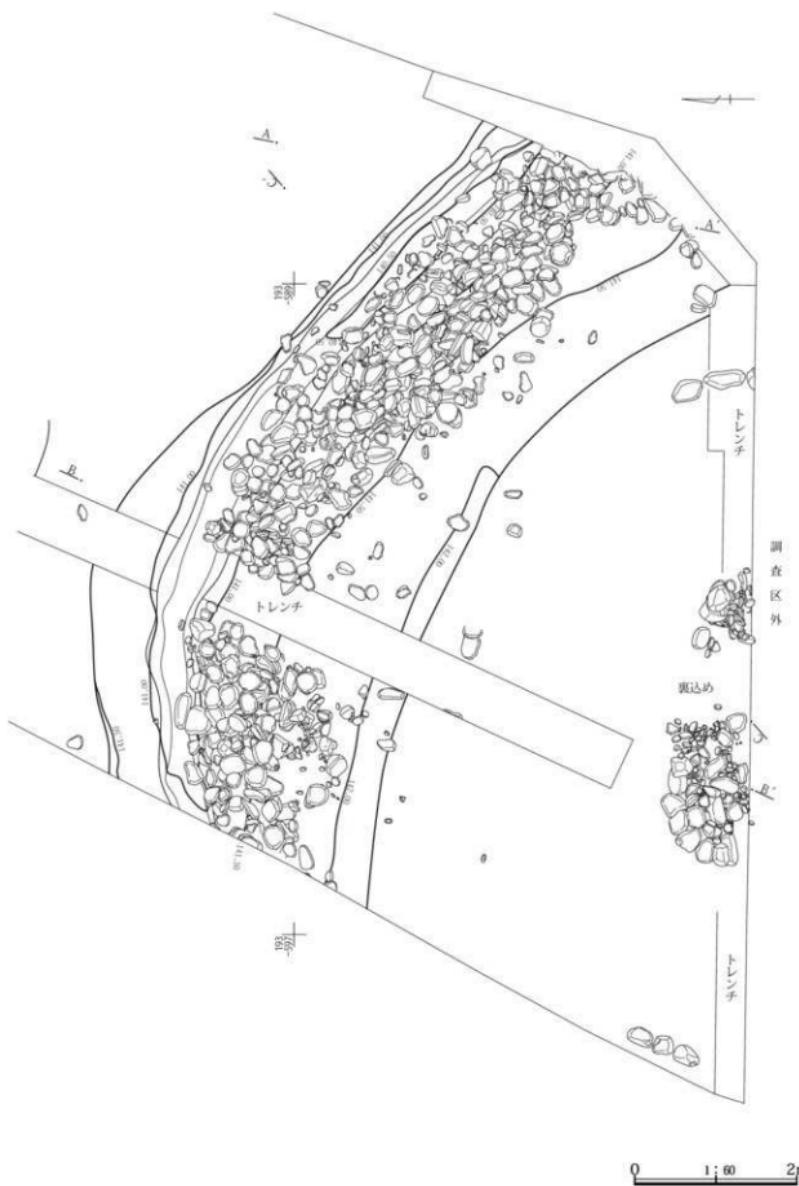
第19図 1区1号墳出土遺物(3)



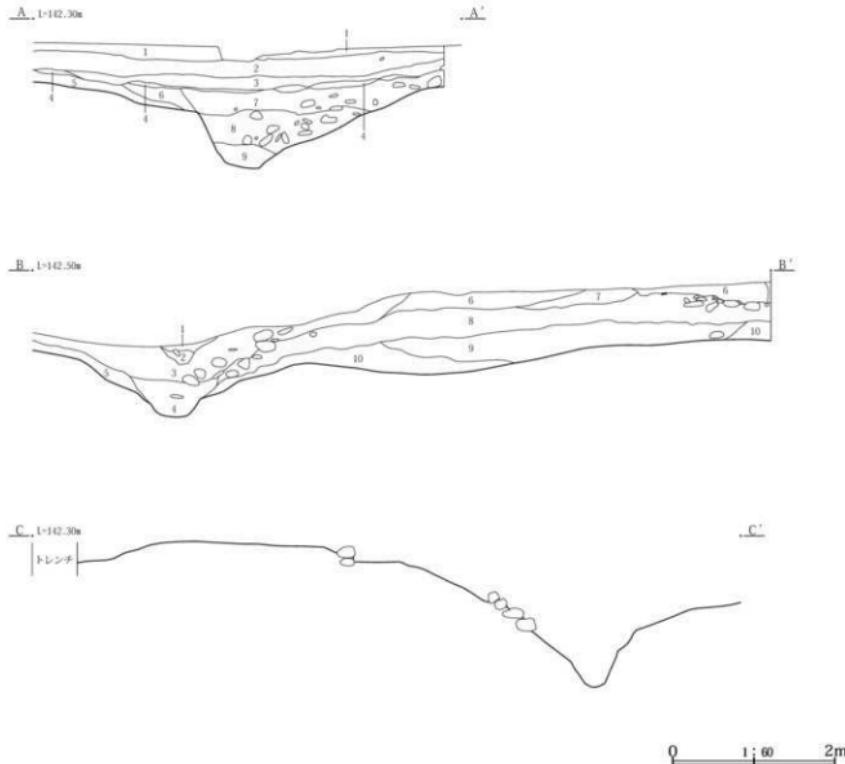
第20図 1区1号填出土遺物(4)



第21図 1区1号填出土遺物(5)



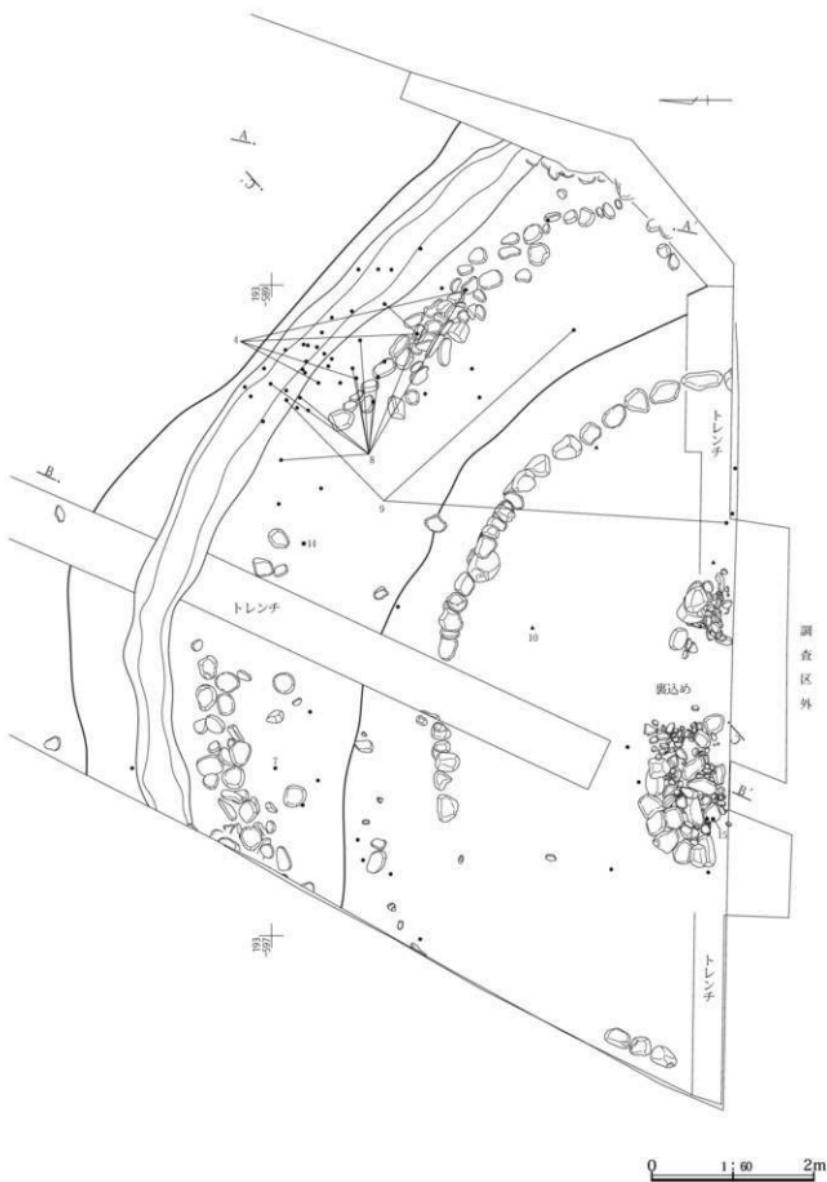
第22図 1区2号填



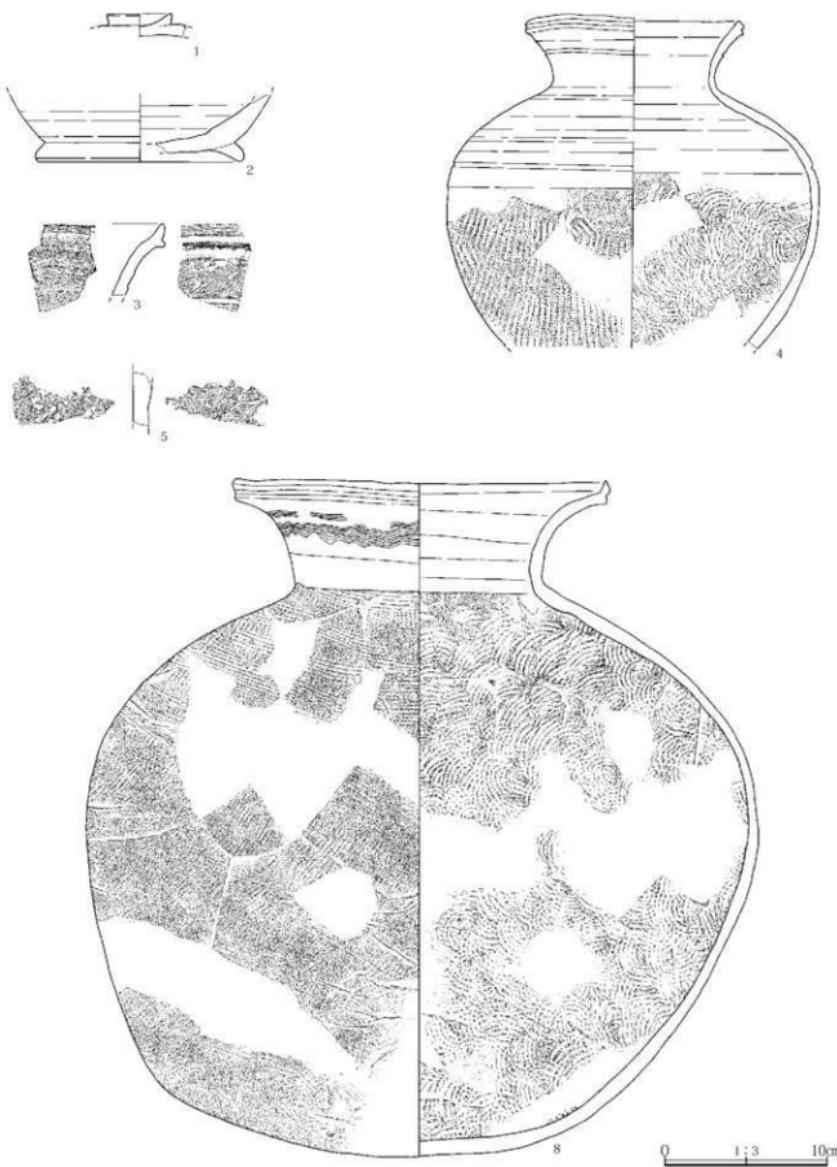
- 2号墳 A-A'
- 褐色土7.5YR4/3 砂質土。しまり・粘性あり。1~2mm白色軽石2%含。
  - 暗褐色土7.5Y3/4 砂質土。しまり・粘性あり。As-B軽石3%含。
  - 黒褐色砂10YR3/2 As-B多量含。土少量含。しまり・粘性なし。
  - As-B
  - 暗褐色土10YR3/3 砂質土。しまり・粘性あり。
  - 褐色土7.5YR3/2 粗砂含粘質土。しまり・粘性あり。
  - 黒褐色土10YR3/2 粘土少量含砂質土。しまり・粘性あり。
  - 極暗褐色土7.5YR2/3 粘土含砂質土。しまり・粘性あり。
  - 暗褐色土10YR3/3 砂含ローム土。しまり・粘性あり。

- 2号墳 B-B'
- 黒色土10YR2/1 粘土少量含砂質土。しまり・粘性あり。
  - 黄褐色土2.5Y3/3 粘土少量含砂質土。しまり・粘性あり。
  - 暗褐色土10YR3/3 砂質土。しまり・粘性あり。1~3mm黄褐色砂粒少量含。
  - 暗オリーブ褐色土2.5Y3/3 砂多量含シルト質土。しまりあり、粘性なし。
  - 黄褐色土10YR5/6 ローム上。しまり・粘性あり。
  - 暗褐色土10YR3/3 砂質土。しまりあり、粘性なし。
  - にぶい黄褐色土10YR5/3 砂質土。しまり・粘性あり。黄褐色ローム土2~4cmブロック40%含。
  - 暗褐色土10YR3/3 粘土含細砂質土。しまり・粘性あり。
  - 暗褐色土10YR3/3 粘土、シルト含細砂質土。しまり・粘性あり。
  - にぶい黄褐色土10YR4/3 粘土少量含シルト質土。しまり・粘性あり。黄褐色ローム土30%まばらに含。

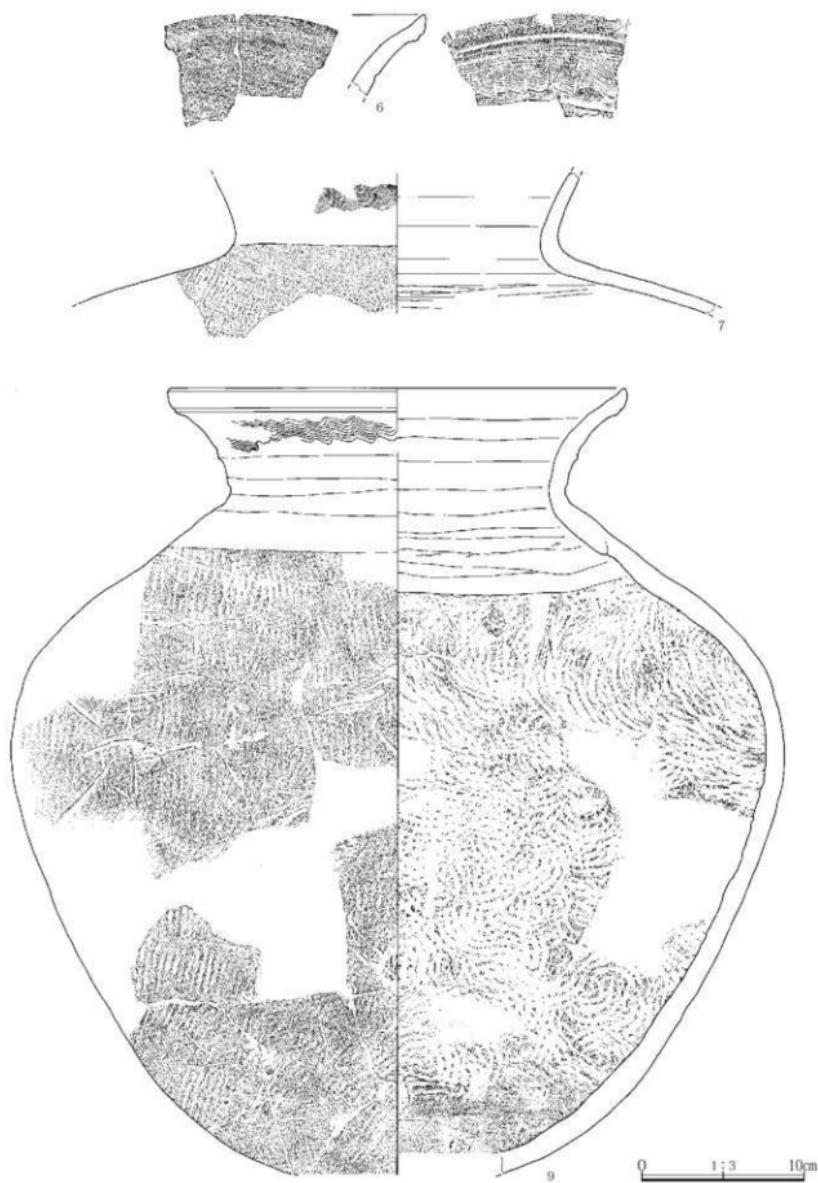
第23図 1区2号墳土層断面図



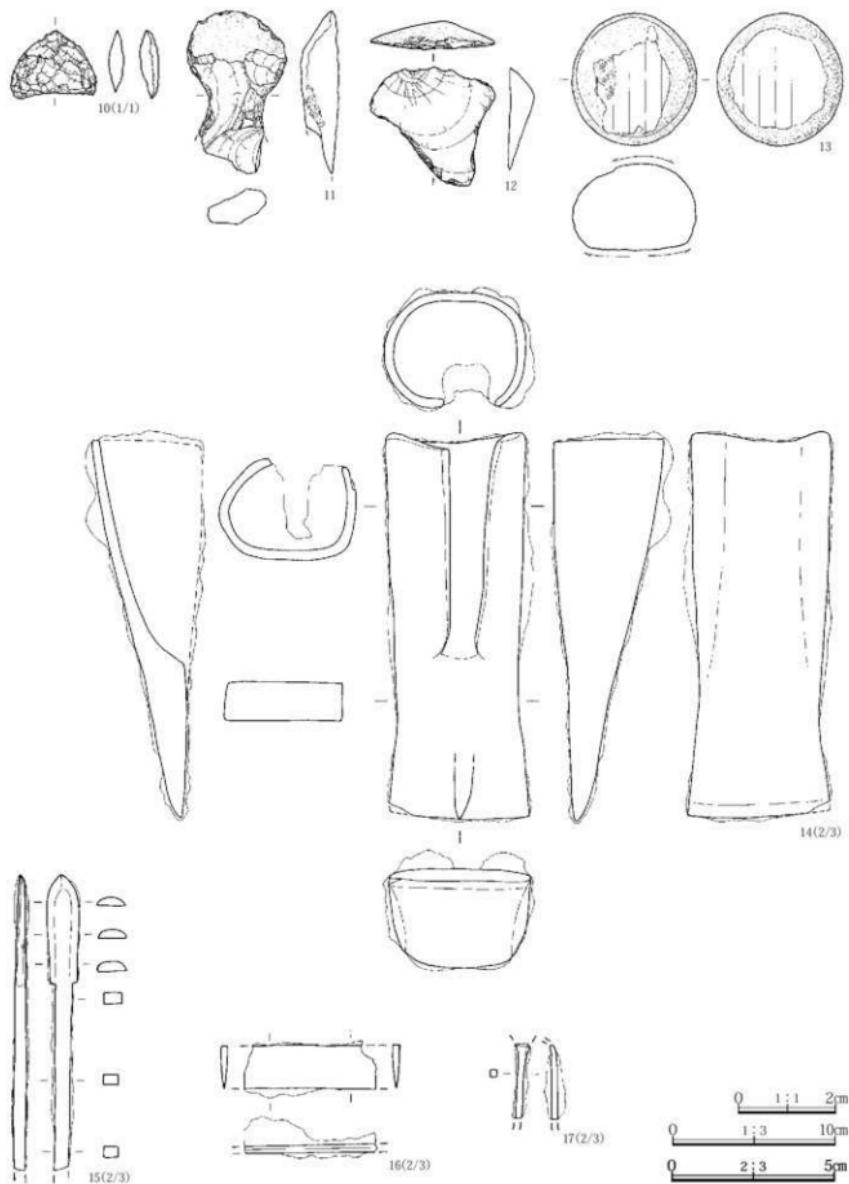
第24図 1区 2号墳遺物出土位置図



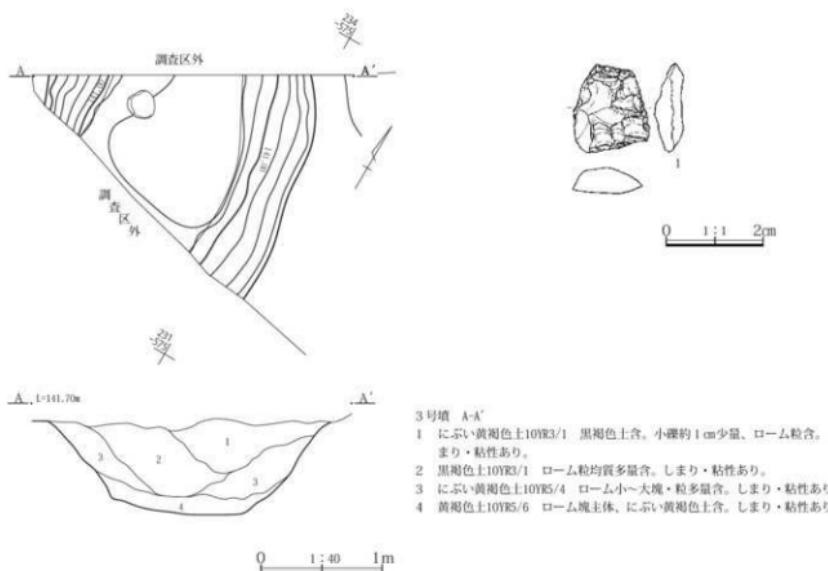
第25図 1区2号填出土遺物(1)



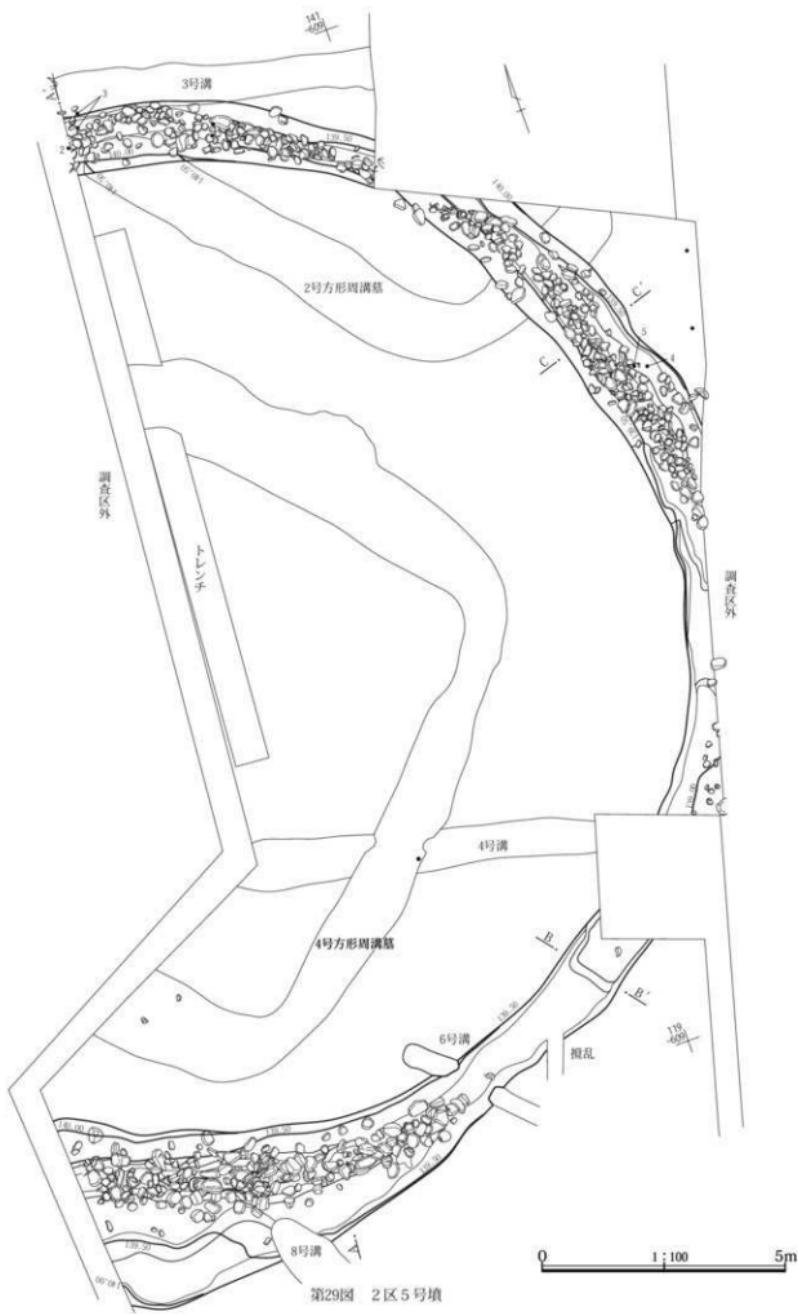
第26図 1区2号填出土遺物(2)

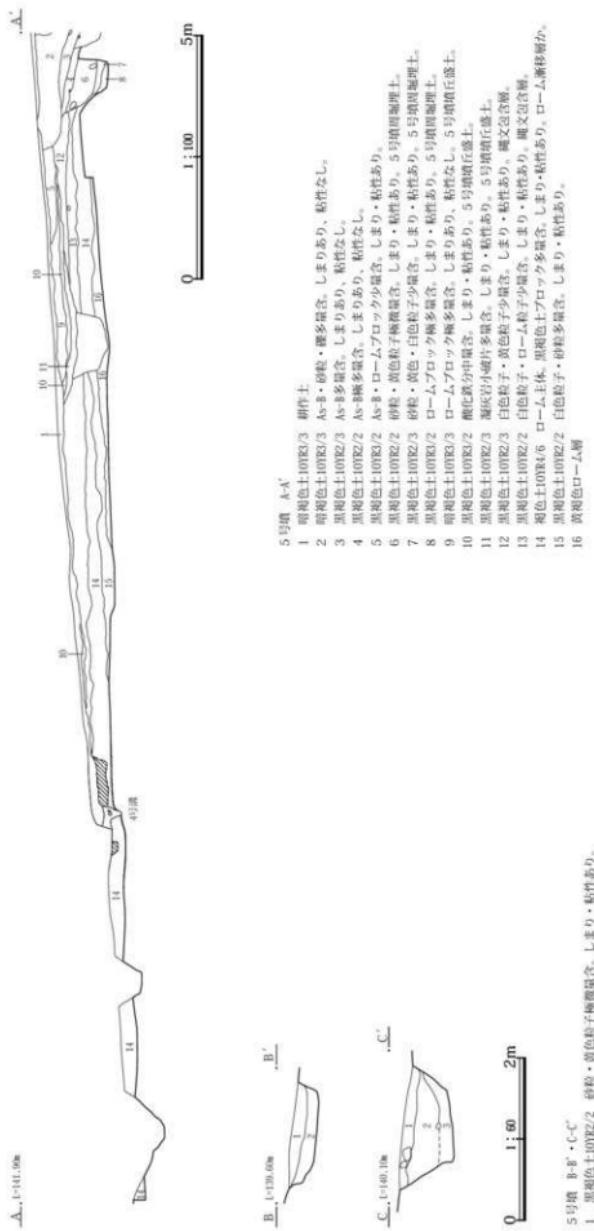


第27図 1区2号墳出土遺物(3)

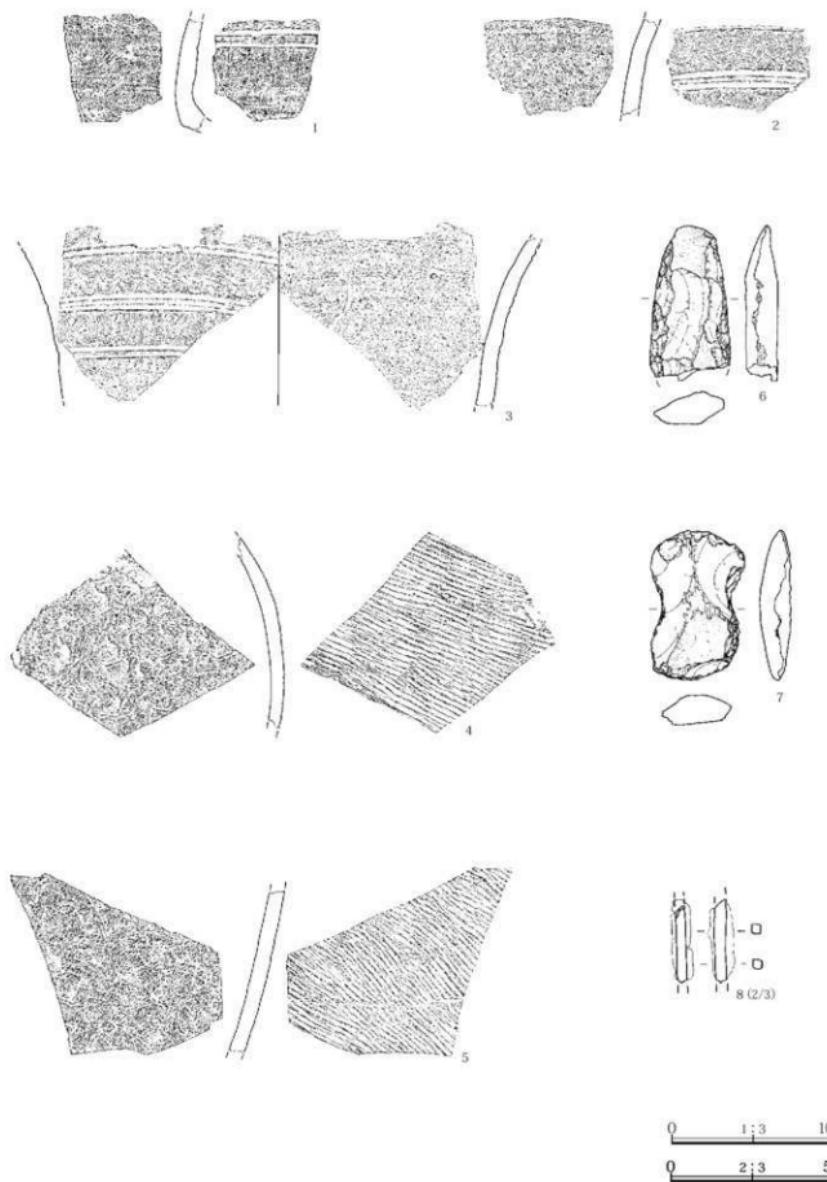


第28図 1区3号墳・出土遺物

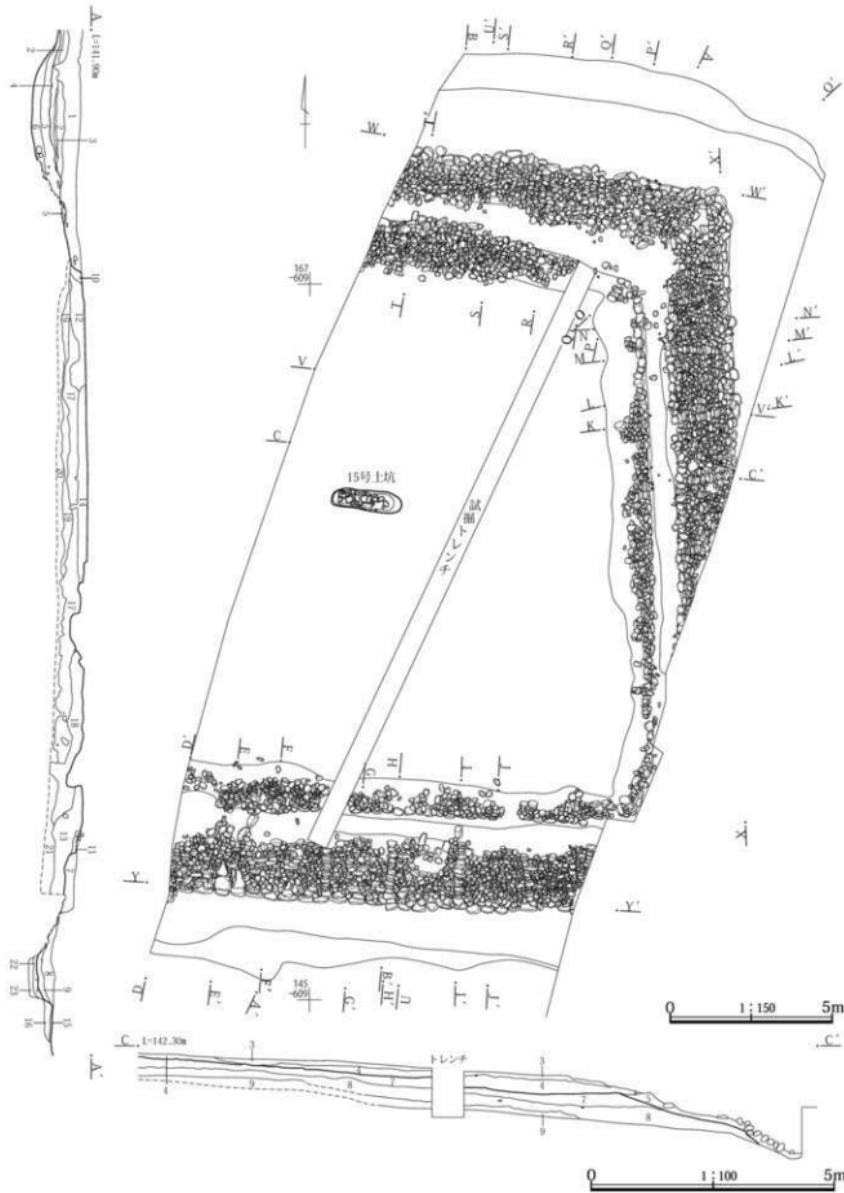




第30図 2区5号墳土層断面図



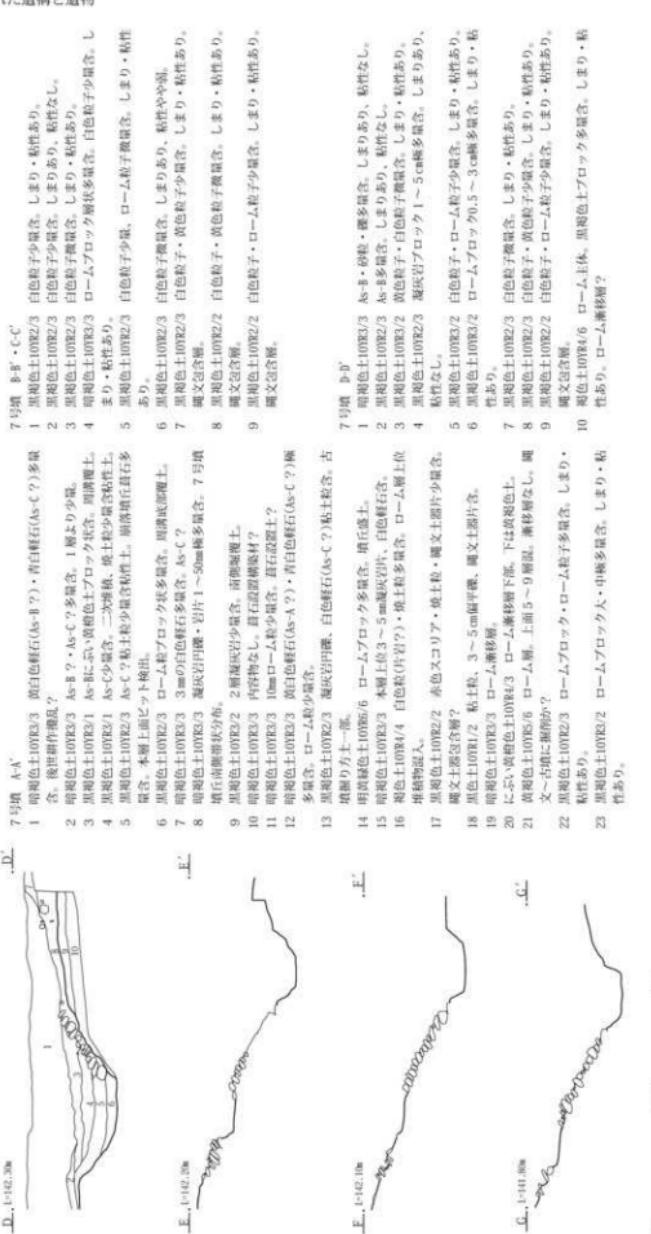
第31図 2区5号填出土遺物



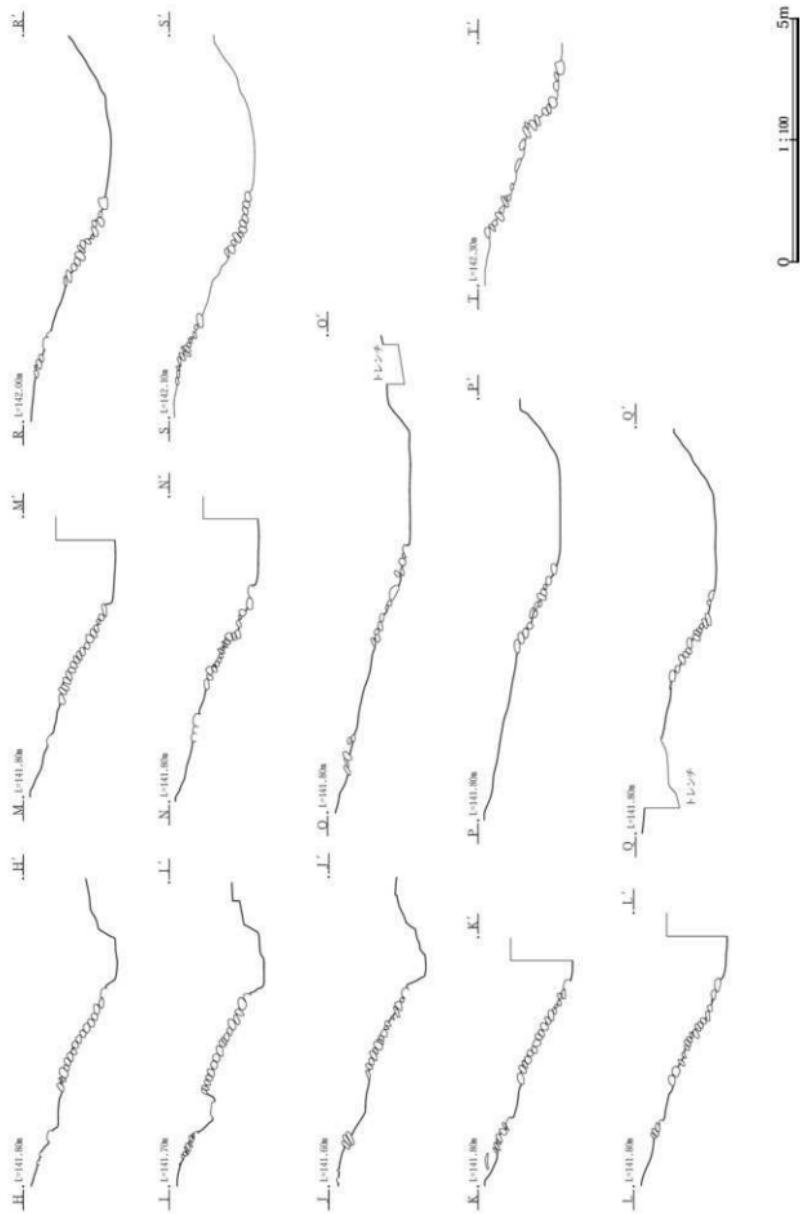
第32図 2区7号墳

.E.

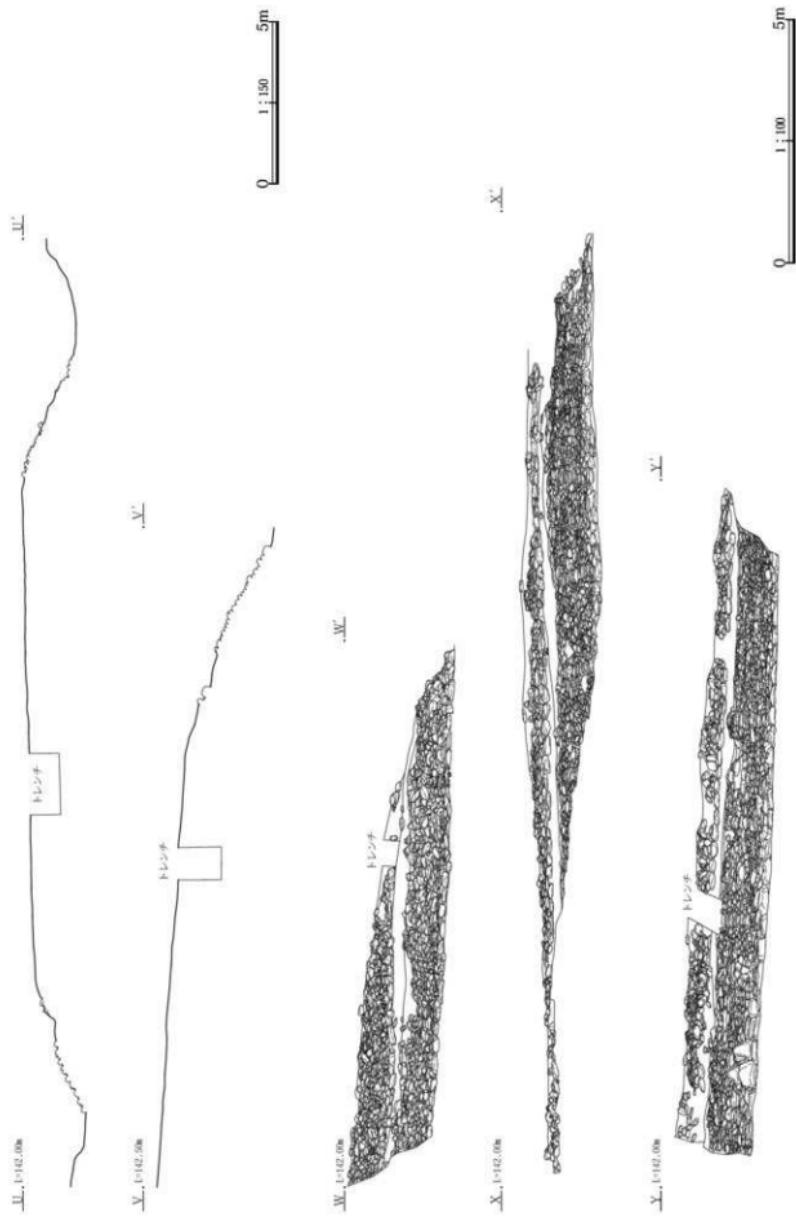
.E., 1:100, 2m



第33図 2区7号墳断面図(1)



第34図 2区7号填土剛断面図(2)



第35図 2区7号土塁断面図(3)

2区15号土坑(第36図・第9表・PL.21・22・57・72)

位 置 X=30159・160 Y=-80606~608

**重複遺構** 本15号土坑は7号墳の墳丘内に掘り込まれている。新旧関係は所見で述べる。

形 状 楕円形

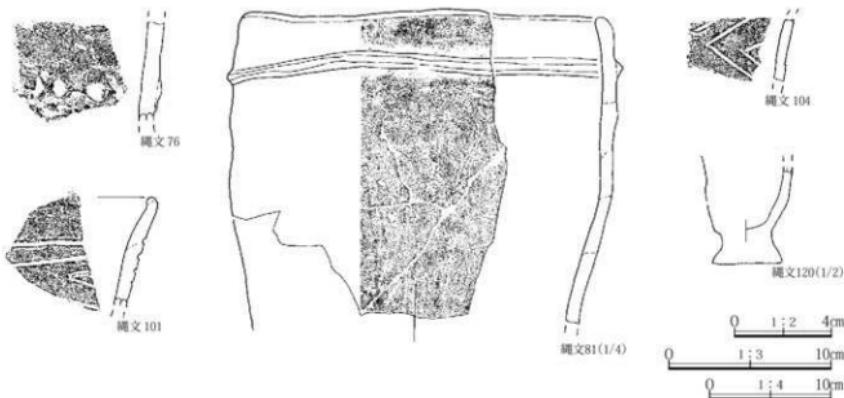
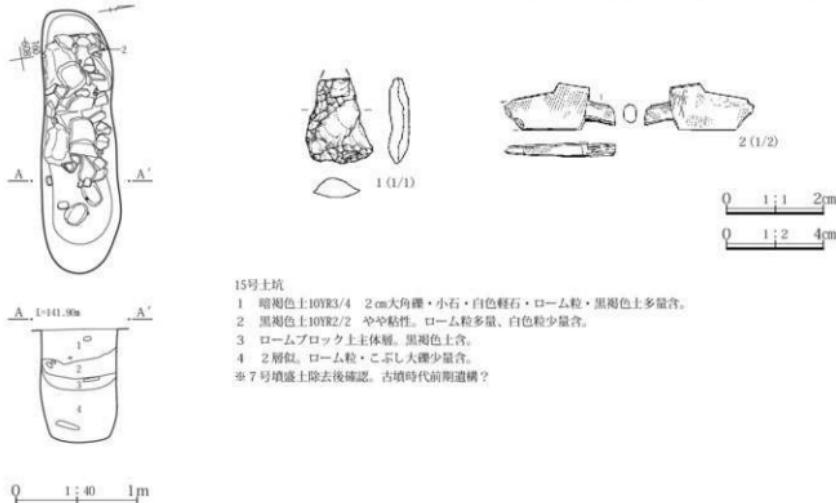
主軸方位 N-85°-W

規 模 長軸2.17m 短軸0.64m 深さ1.01m

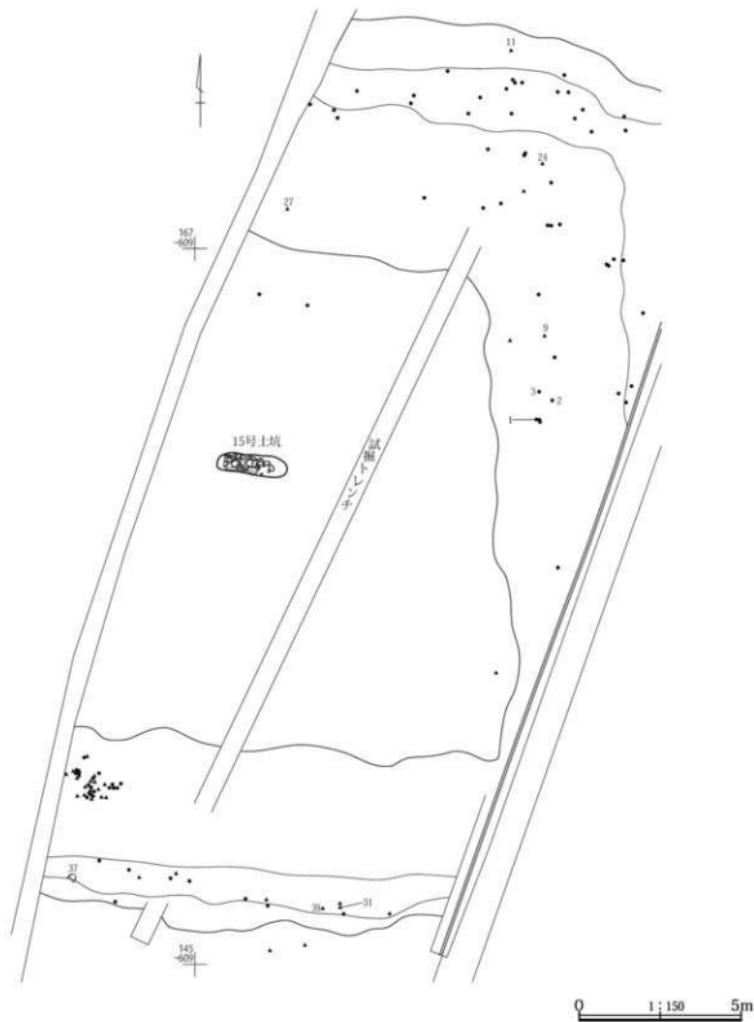
埋没土層 ローム粒、ロームブロックを含む。

**出土遺物** 蛇紋岩製の石製模造品刀子形(2)、石礫(1)出土。

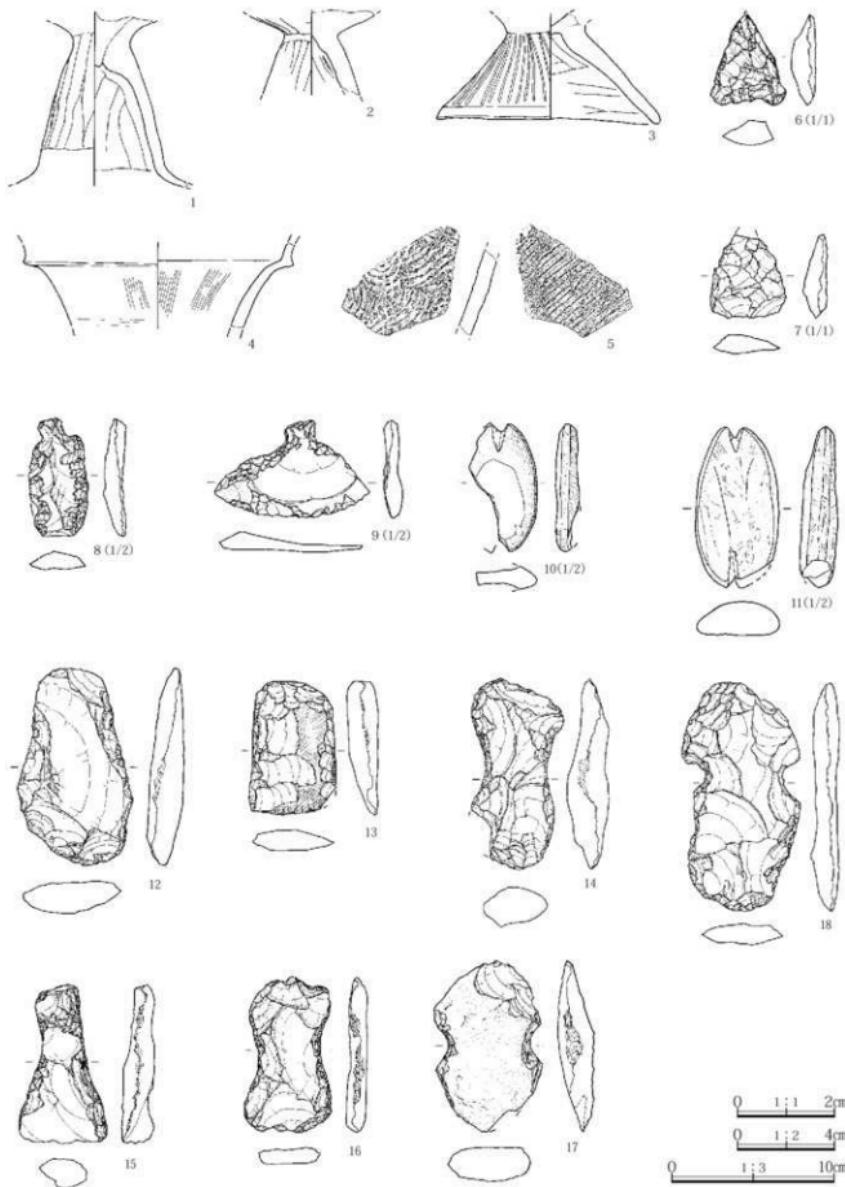
**所 見** 本土坑は7号墳構築の際の陪葬墓と考えられる。掘り込みは盛り土で、石で蓋をしている。同様な例は県内では大泉町「古海地内10番古墳」があげられる。



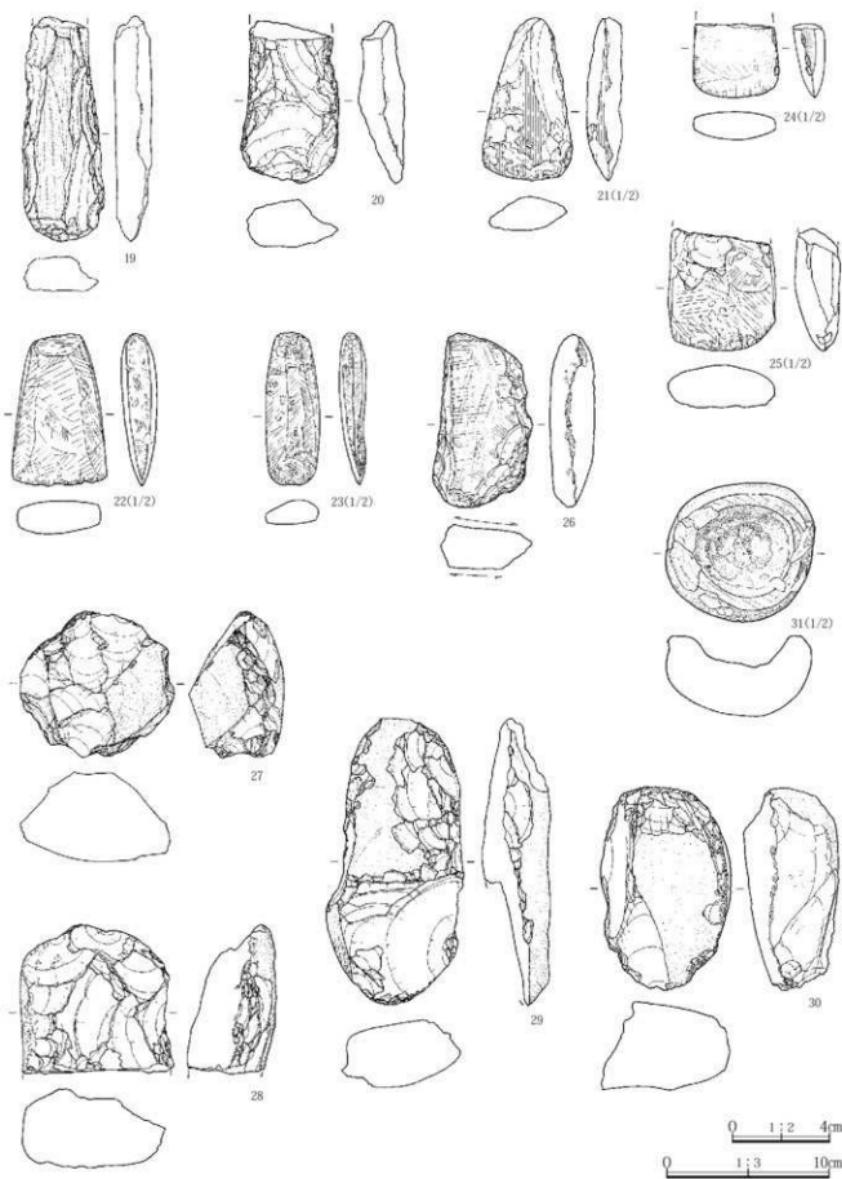
第36図 2区15号土坑・出土遺物、2区7号墳出土縄文土器



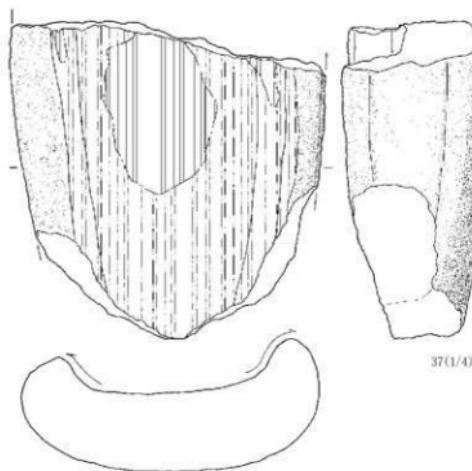
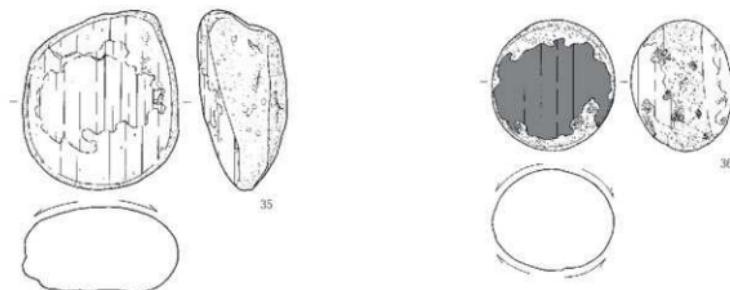
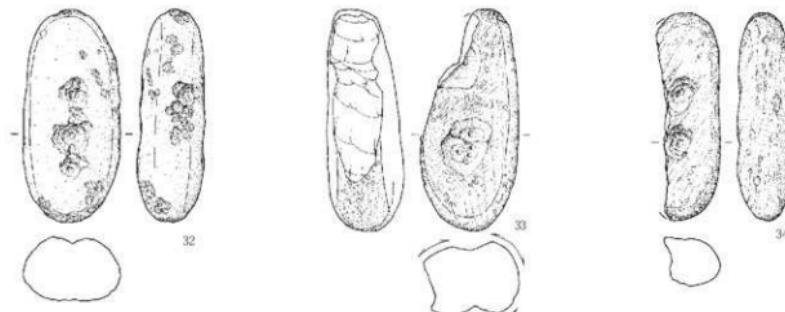
第37図 2区7号填土器・石器出土位置図



第38図 2区7号填出土遺物(1)

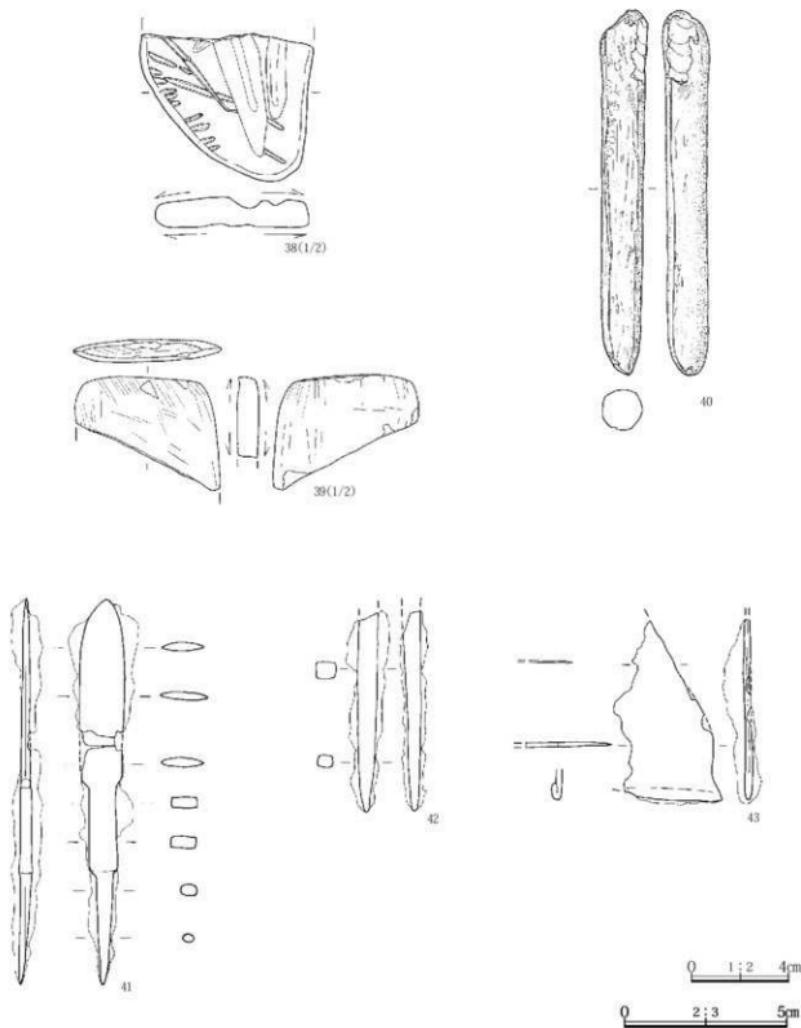


第39図 2区7号填出土遺物(2)

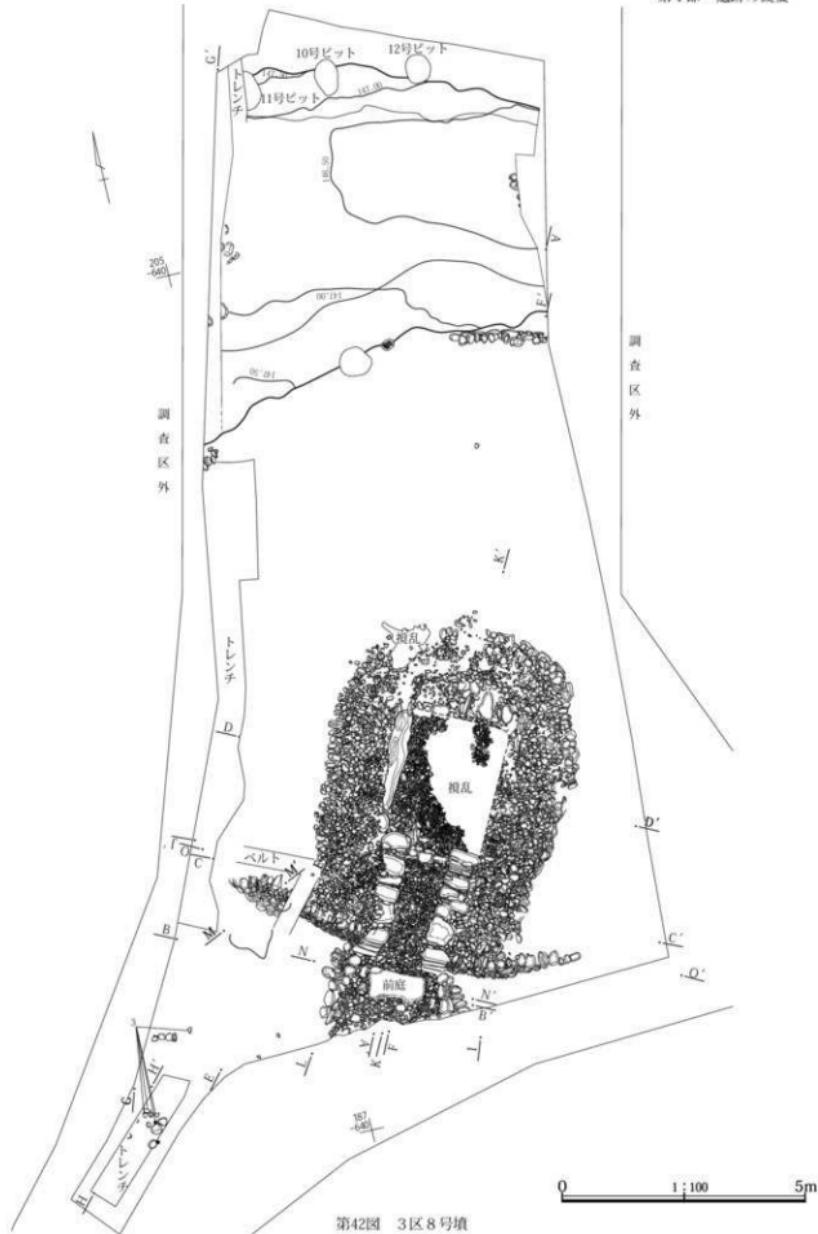


0 1:3 10cm  
0 1:4 10cm

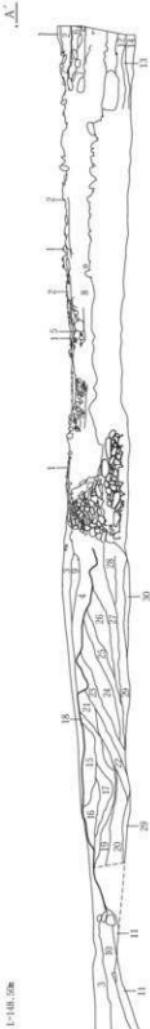
第40図 2区7号填出土遺物(3)



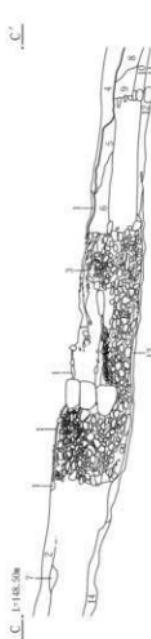
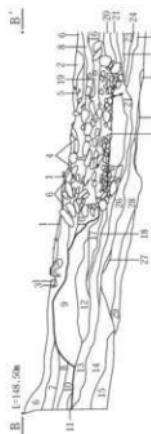
第41図 2区7号填出土遺物(4)



第42図 3区8号墳



- 16 黄褐色土±1084/4 ロームブロック中間、白色粒子少許含。しまりあり、粘性な  
し。
- 17 黄褐色土±1085/8 ローム玉体、褐色土ブロック中量含。しまり・粘性あり、粘性  
なし。
- 18 黄褐色土±1084/4 ロームブロック中間褐色土ブロック中量含。しまり・粘性  
なし。
- 19 黄褐色土±1085/6 ローム主体、褐色・暗褐色土ブロック中量含。しまり・粘性  
あり。
- 20 前褐色土±1083/4 ロームブロック・白色粒子少許含。しまり・粘性なし。
- 21 前褐色土±1083/4 白色粒子・ローム粒子少許含。しまりあり、粘性なし。
- 22 前褐色土±1084/6 ロームブロック中間褐色土少許含。しまりあり、粘性なし。
- 23 前褐色土±1084/4 ロームブロック中間褐色土少許含。しまりあり、粘性なし。
- 24 前褐色土±1084/4 ロームブロック中間褐色土少許含。しまり・粘性なし。
- 25 前褐色土±1083/4 ロームブロック・ローム粒子中量含。しまりあり、粘性な  
し。
- 26 前褐色土±1083/4 白色粒子・ローム粒子中量含。しまりあり、粘性なし。
- 27 前褐色土±1082/3 ロームブロック・ローム粒子・白色粒子少許含。しまりあ  
り・粘性なし。
- 28 前褐色土±1082/3 白色粒子少許含。しまり・粘性なし。
- 29 黑褐色土±1082/3 黑褐色粒子少許含。しまり・粘性なし。
- 30 前褐色土±1083/3 白色粒子・褐色土少許含。ローム粒子中量含。しまり・粘性なし。



0 1:100,000

第43図 3区8号墳土剛断面図(1)

0 1'00 2m



第44図 3区8号墳断面図(2)

8号墳 D-E'

- 1 にがい黄褐色土10YR5/4 砂質土。しまりあり、粘性なし。4 ~ 6cm層  
多量含。
- 2 黄褐色土10YR3/3 砂質土。しまりあり、粘性なし。黄褐色ローム土  
~ 4cmブロック含。
- 3 黄褐色土10YR3/3 砂質土。しまり・粘性なし。  
褐色土10YR4/4 砂質土。しまりあり、粘性なし。2 ~ 3mm白色軽石  
量含。
- 5 にがい黄褐色土10YR4/3 砂質土。しまり・粘性なし。1 ~ 2mm白色輕  
石少量含。
- 6 黄褐色土10YR3/3 砂質土。しまりあり、粘性なし。
- 7 黄褐色土10YR3/3 砂質土。しまり・粘性なし。
- 8 黑褐色土7.5YR2/2 砂質土。しまり・粘性なし。
- 9 白色粘子中層、ロームブロック少量、白色粘子中量含。  
粘性なし。
- 10 黄褐色土10YR3/4 ロームブロック少量、白色粘子中量含。  
しまり・粘性あり。
- 11 黄褐色土10YR3/3 ロームブロック少量含。しまり・粘性あり。  
9. 12 黄褐色土10YR3/4 ローム粘子微量含。しまり・粘性あり。
- 13 黑褐色土10YR2/2 ローム粘子微量含。しまり・粘性あり。
- 14 黑褐色土10YR2/3 白色粘子微量含。しまり・粘性あり。
- 12 黑褐色土10YR2/2 ローム粘子・白色粘子微量含。しまり・粘性あり。
- 13 黑褐色土10YR2/1 粘性粘被含。しまりなし、粘性あり。
- 14 黄褐色土10YR3/3 黑褐色ブロック少量含。しまりなし、粘性あり、織文  
理とか。
- 15 黑褐色土10YR2/3 白色粘子微量含。しまり・粘性あり。

8号墳 E-E'

- 1 黄褐色土7.5YR5/4 砂質土。しまりなし、粘性なし。ローム土混入、白色軽石少量含。しまり・  
粘性なし。
- 2 黄褐色土7.5YR5/4 砂質土。ローム土混入。しまりあり、粘性なし。
- 3 黄褐色土10YR3/3 砂質土。しまりあり、粘性なし。黄褐色ローム土  
3 ~ 4cmブロック含。
- 4 黄褐色土7.5YR3/2 黏土多量含シルト質土。しまり・粘性あり。
- 5 黑褐色土7.5YR2/1 砂質土質土。しまりなし、粘性あり。
- 6 黄褐色土10YR3/4 砂質土質土。しまり・粘性あり。
- 7 黄褐色土10YR2/2 砂質土質土。しまりなし、粘性あり、半黄褐色ローム  
土ブロック2cm含。
- 8 黄褐色土10YR3/6 半黄褐色土ブロック少量、白色軽石微量含。し  
まり・粘性あり。

14 黄褐色土10YR2/3 白色粘子微量含。しまり・粘性あり。

15 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

16 黄褐色土10YR3/4 ロームブロック少量含。しまり・粘性あり。

17 黄褐色土10YR2/3 ローム粘子微量含。しまり・粘性あり。

18 黄褐色土10YR3/2 ローム粘子含。しまりあり、表面状状にします。

19 黄褐色土10YR2/2 ローム粘子微量含。しまり・粘性あり。

20 黄褐色土10YR2/3 白色粘子微量含。しまり・粘性あり。

21 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

22 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

23 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

24 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

25 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

26 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

27 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

28 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

29 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

30 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

31 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

32 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

33 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

34 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

35 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

36 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

37 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

38 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

39 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

40 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

41 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

42 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

43 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

44 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

45 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

46 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

47 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

48 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

49 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

50 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

51 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

52 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

53 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

54 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

55 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

56 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

57 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

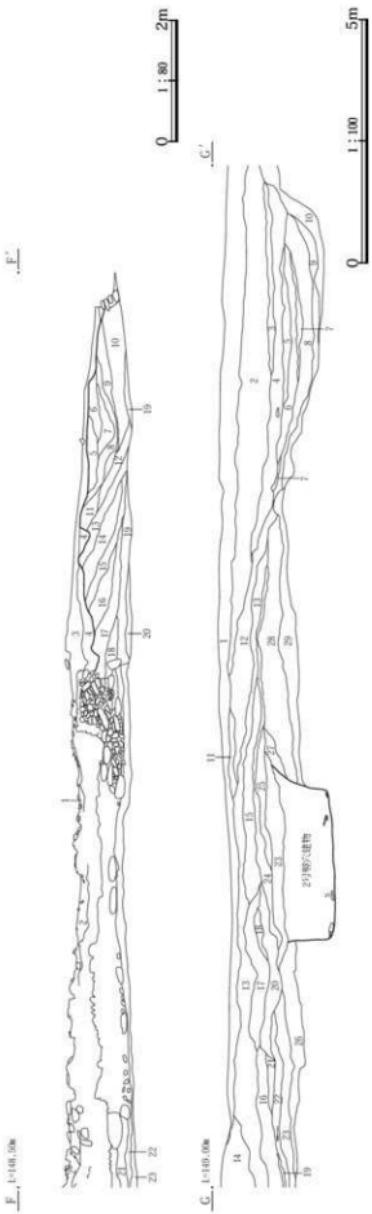
58 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

59 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

60 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

61 黄褐色土10YR2/3 黑褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あり。

第45図 3区8号墳断面図(3)



8号地 F-F'

1 黄褐色±10YR5/4 細砂質土。しまりあり、粘性なし。4~6cm多量含混。

2 黄褐色±10YR4/4 細砂質土。しまりあり、粘性なし。2~4cm少量含混。

3 黄褐色±10YR5/4 細砂質土。しまりあり、粘性なし。2~3mm白色砾石2%含。

4 As-4M上。

5 黄褐色±10YR5/6 ローム主体、褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あ  
り。6 黄褐色±10YR4/4 ロームブロック中量、白色粒子少量含。しまり・粘性あ  
り。7 黄褐色±10YR5/8 ローム主体、褐色土ブロック中量含。しまり・粘性あ  
り。8 黄褐色±10YR4/4 ロームブロック・塊褐色土ブロック中量含。しまり・粘  
性あり。9 黄褐色±10YR5/6 ローム主体、褐色・塊褐色土ブロック中量含。しま  
り・粘性あり。

10 前褐色±10Y3/4 ロームブロック・塊褐色土ブロック中量含。しまり・粘性あり。

11 前褐色±10Y3/4 白色粒子少量、ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。

12 和褐色±10Y4/4 ロームブロック・白色粒子少量、ローム粒子少量含。しま  
り・粘性あり。

13 黄褐色±10YR4/4 ロームブロック・塊褐色土少量含。しまり・粘性あり。

14 黄褐色±10YR4/4 ロームブロック・ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。

15 黑褐色±10YR5/4 ロームブロック・ローム粒子中量含。しまり・粘性あ  
り。16 前褐色±10Y3/4 白色粒子・ローム粒子中量含。しまり・粘性なし。  
あり、粘性なし。17 前褐色±10YR3/3 ロームブロック・ローム粒子・白色粒子少量含。しま  
り・粘性なし。

18 前褐色±10YR3/3 白色粒子少量含。しまり・粘性あり。

19 黑褐色±10YR2/3 白色粒子微量含。しまり・粘性あり。

20 前褐色±10YR2/3 ローム粒子微量含。しま・粘性あり。

21 黑褐色±10YR2/3 ローム粒子微量含。しま・粘性あり。

22 黄褐色±10YR5/8 ローム主体、塊褐色土ブロック少量含。しまり・粘性あ  
り。

23 黑褐色±10YR2/3 硫酸根微量含。しまり・粘性あり。

24 前褐色±10YR3/4 硫酸根少量含。しまり・粘性あり。



8号古墳 G-G'

1 に・ぶい黄褐色±10YR5/4 砂質土。しまり・粘性なし。粗研工作。

2 に・ぶい・黄褐色±10YR5/3 細砂質土。しまりあり、粘性なし。白色軽石少量  
含。

3 黄褐色±10Y3/4 細砂質土・ローム質土含。しまりあり、粘性なし。

4 に・ぶい・黄褐色±10YR4/3 細砂質土。しまりあり、粘性なし。L<sub>1</sub> ~ 2mm白色  
軽石3%含。

5 黑褐色±10YR2/6 シルト含砂質土。しまり・粘性なし。上部As-4M・解石含。

6 黄褐色±10YR3/3 As-4M・解石含砂質土。しまり・粘性なし。

7 As-4 M

8 黄褐色±10YR3/1 粘土含シルト質土。しまりあり、粘性なし。

9 前オーリーブ褐色±10Y3/3 シルト質土。しまりあり、粘性なし。L<sub>1</sub> ~ 2 mm  
白色軽石・明黄色細粒少量含。10 黄褐色±10YR3/1 粘土含砂質土。しまりあり、粘性なし。上部黑褐色土。  
下部浅黄色ローム土含。

11 オーリーブ褐色±12.5YR3/3 ローム土多量含砂質土。しまりなし。粘性あり。

12 オーリーブ褐色±12.5YR2/6 ローム土。2 ~ 3mm多量含砂質少量含。しま  
り・粘性あり。13 前褐色±10YR3/3 細砂質土。しまりあり、粘性なし。黄褐色ローム土。3 ~  
4cmブロック含。14 に・ぶい・黄褐色±10YR5/3 砂質土。しまりあり、粘性なし。2 ~ 3cmの黒  
色含砂塵土。

15 黑褐色±10YR2/2 黏土含砂質土。しまり・粘性なし。

16 前オーリーブ褐色±10Y3/3 粘土多量含砂質土。しまりなし。粘性あり。

17 に・ぶい・黄褐色±10YR4/3 粘土含砂質土。黄褐色ローム土多量含。しま  
り・粘性なし。18 黄褐色±10YR3/3 粘土含砂質土。黄褐色ローム土。3 ~ 4cmブロック10%  
含。しまり・粘性なし。

19 オーリーブ褐色±12.5YR3/4 As-4M・解石多量含砂質土。しまり・粘性なし。

20 黑褐色±10YR2/1 砂含シルト質土。しまりなし。粘性あり。黄褐色土3 ~  
4cmブロック9%含。

21 黄褐色±10YR3/2 粘土多量含砂質土。しまり・粘性あり。

22 黄褐色±10YR3/2 粘土多量含砂質土。しまり・粘性あり。

23 黑褐色±10YR2/1 砂含シルト質土。しまりなし。粘性あり。

24 前褐色±10YR3/4 粘・少量含砂質土。黄褐色ローム土多量含。しまり・  
粘性なし。

25 前褐色±10YR3/2 粘土含砂質土。しまり・粘性なし。

26 黄褐色±12.5YR2/2 シルト多量含砂質土。しまり・粘性なし。前褐色ローム  
土含。

27 前褐色±10YR3/4 白色粒子少量含。しまり・粘性あり。

28 前褐色±10YR2/3 白色粒子・白色軽石・白色軽石少量含。しまり・粘性あり。



第46図 3区号土壤断面図(4)

### 第3章 検出された遺構と遺物

8号墳 H-H'

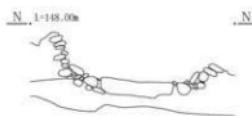
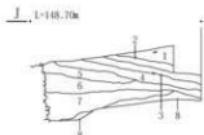
- 暗褐色土10YR3/3 細砂質土。しまりあり、粘性なし。
- にぶい黄褐色土10YR5/4 砂質土。しまりあり、粘性なし。2~3mm白色軽石2%含。
- にぶい黄褐色土10YR4/3 細砂質土。しまりあり、粘性なし。1~2mm白色軽石少量含。
- 褐色土10YR4/4 砂質土。しまり・粘性あり。明黄褐色ローム土1~5cmブロック20%含。
- 明黄褐色土10YR6/6 ローム土上。しまり・粘性あり。にぶい黄褐色砂質土40%含。
- 暗褐色土10YR3/4 細砂質土。しまりなし、粘性あり。ローム土・明黄褐色ローム土5%含。

8号墳 I-I'

- 黒褐色土10YR2/3 As-A中量含。しまり・粘性あり。
- 黒褐色土10YR2/3 砂粒微量含。しまり・粘性あり。
- 黒褐色土10YR2/3 ロームブロック少量含。しまり・粘性なし。
- 黒褐色土10YR2/2 ロームブロック少量含。しまり・粘性なし。
- 黒褐色土10YR2/3 ロームブロック多量含。しまりなし、粘性あり。
- 暗褐色土10YR3/4 ロームブロック極微量含。しまり・粘性なし。
- 黒色土10YR2/2 ロームブロック少量含。しまり・粘性あり。
- 褐色土10YR4/6 ローム主体。暗褐色土ブロック含。しまり・粘性あり。
- 黒褐色土10YR3/2 ロームブロック多量含。しまり・粘性あり。

8号墳 J-J'

- 暗褐色土10YR3/4 白色粒子中量、ロームブロック微量含。しまりあり、粘性なし。
- 褐色土10YR4/4 ローム層状多量含。しまり・粘性あり。
- 暗褐色土10YR3/4 ロームブロック・ローム粒子少量、白色粒子中量含。しまり・粘性あり。
- 暗褐色土10YR3/3 ロームブロック中量、白色粒子微量含。しまり・粘性あり。
- 暗褐色土10YR3/3 ロームブロック・白色粒子微量含。しまり・粘性あり。
- 黒褐色土10YR2/2 ローム粒子・白色粒子微量含。しまり・粘性あり。
- 黒色土10YR2/1 砂粒極微量含。しまりなし、粘性あり。
- 暗褐色土10YR3/3 黒色土ブロック少量含。しまりなし、粘性あり。繩理土か。



K-K' 1-148.00m



K'

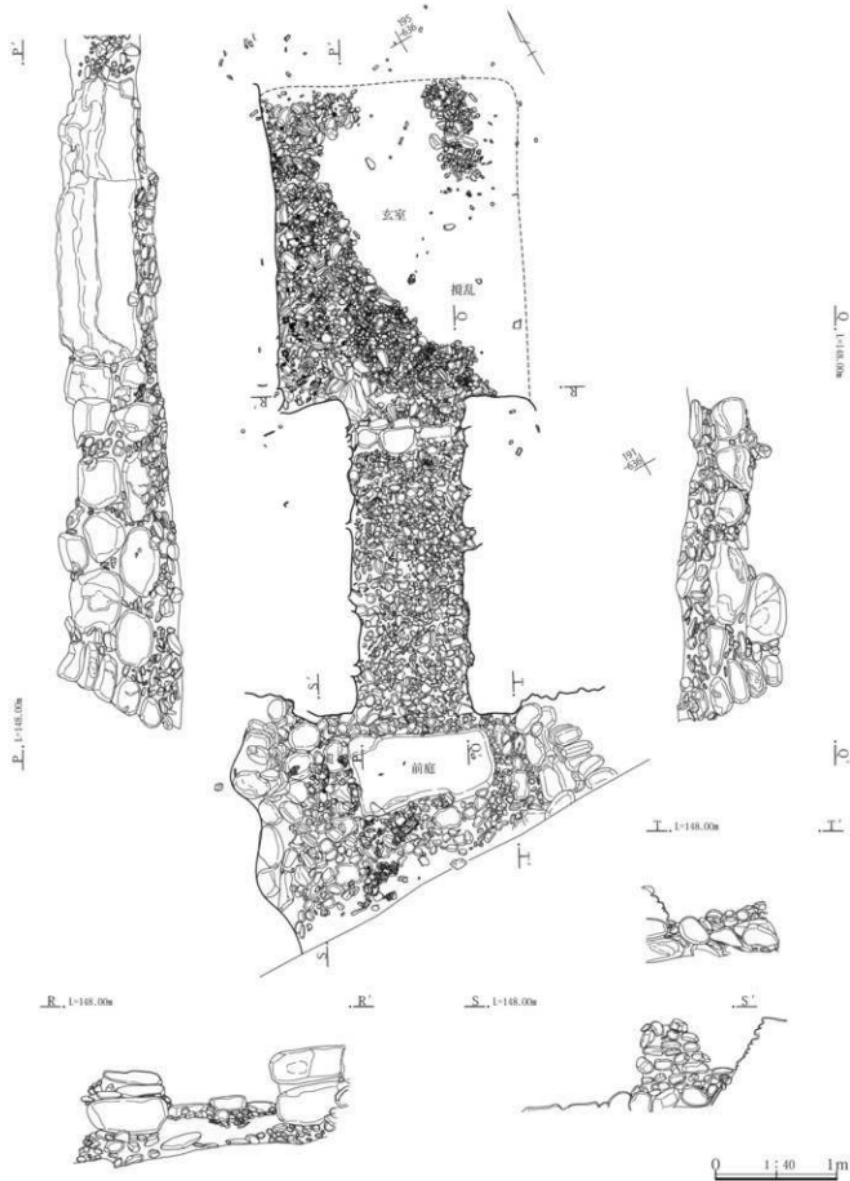
O-O' 1-148.50m



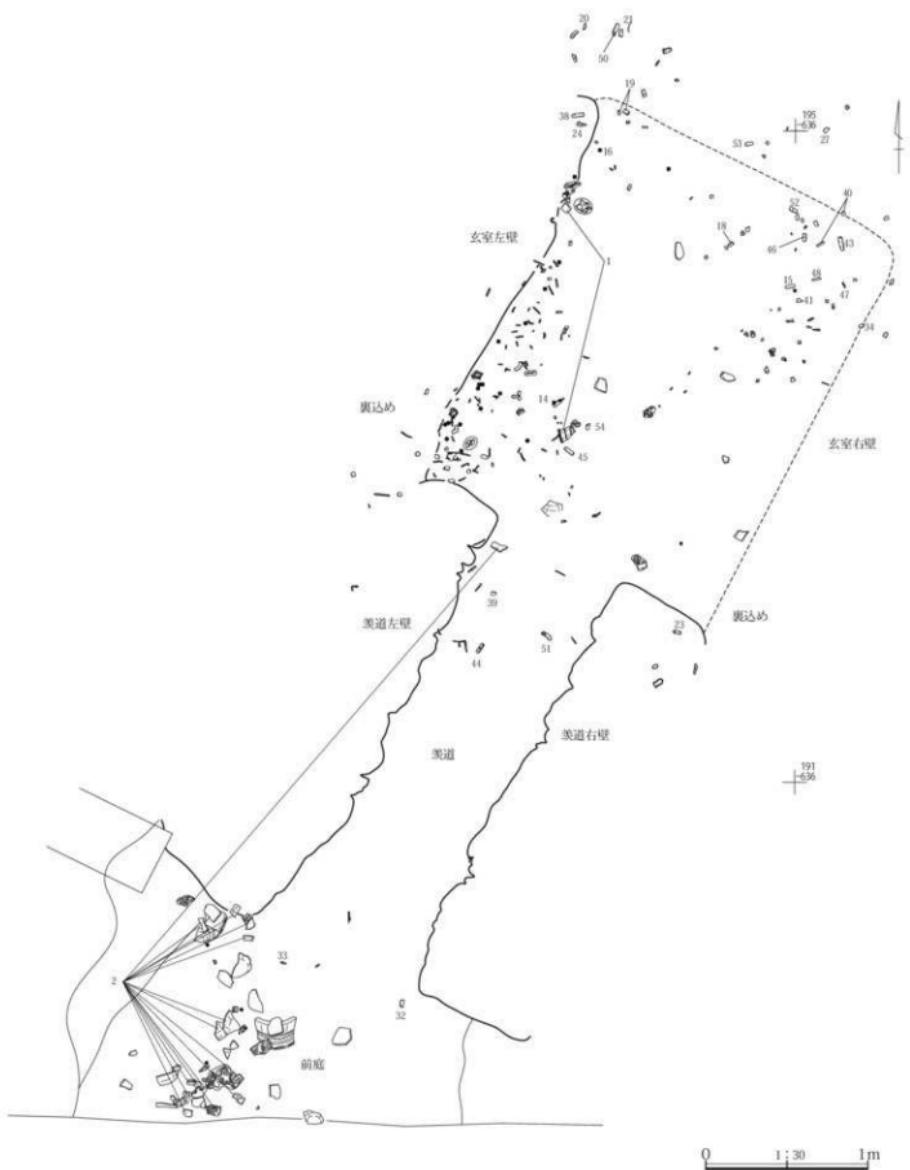
O'

0 1:80 2m

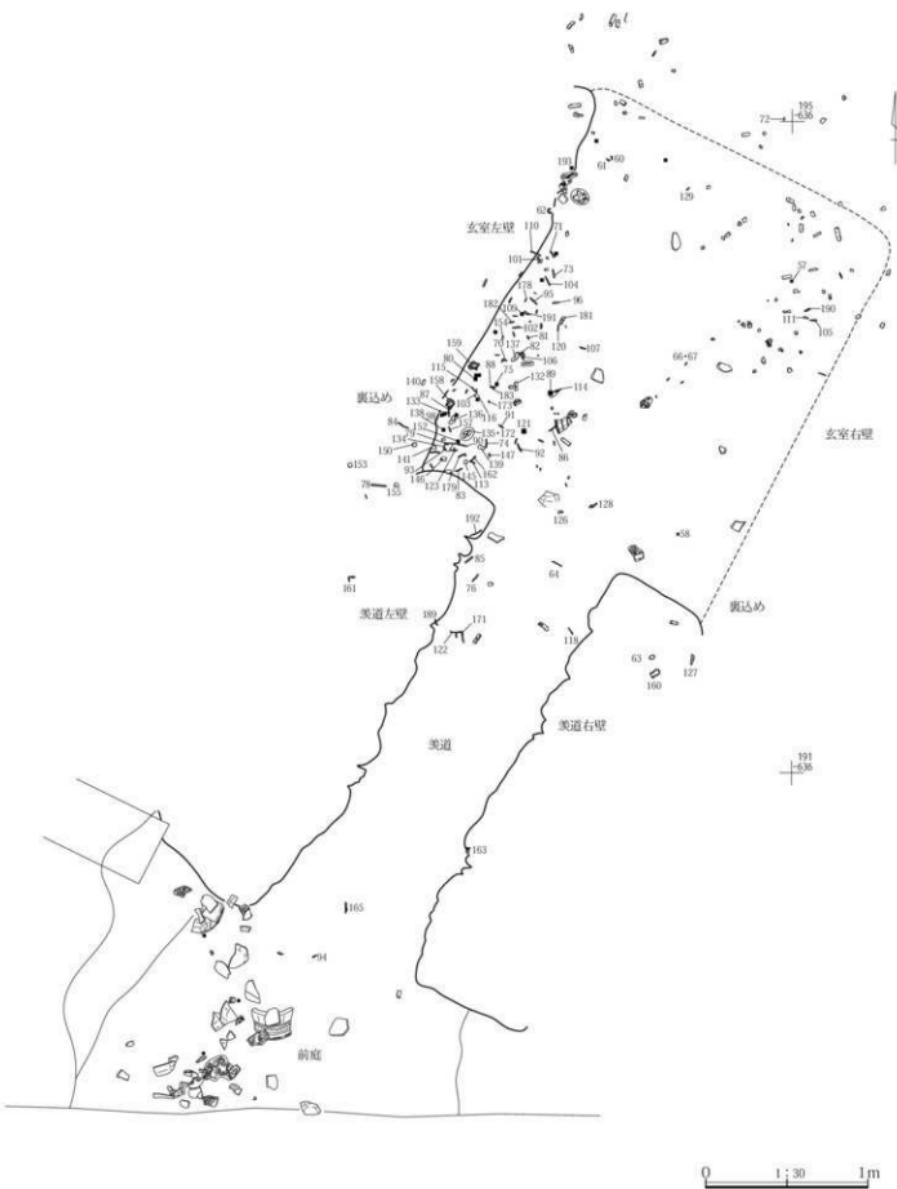
第47図 3区8号墳土層断面図(5)



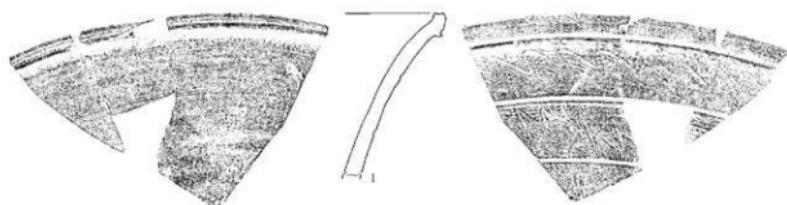
第48図 3区8号填石室



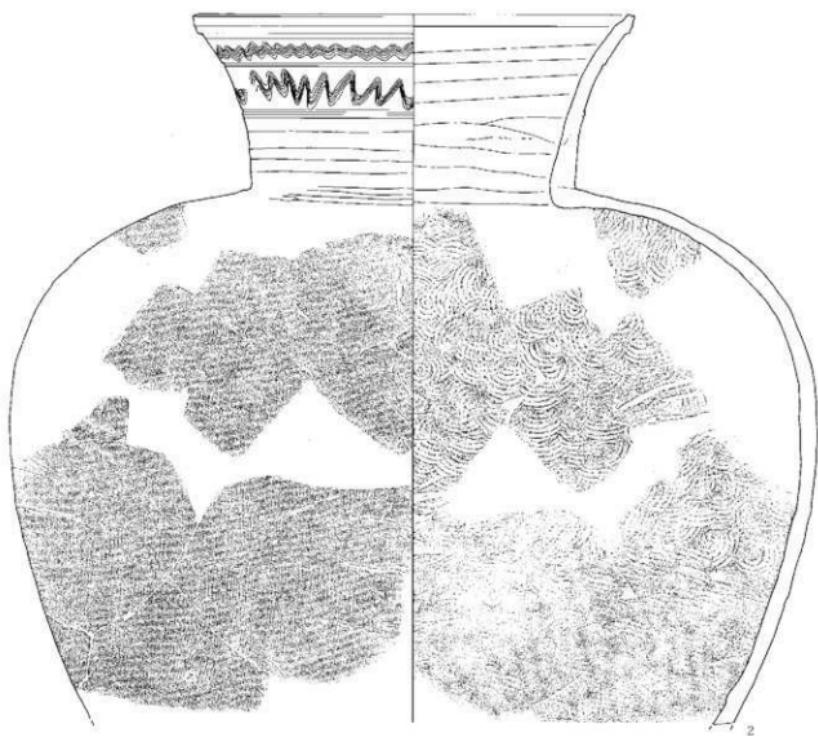
第49図 3区 8号埴土器・小札出土位置図



第50図 3区8号墳金属器出土位置図

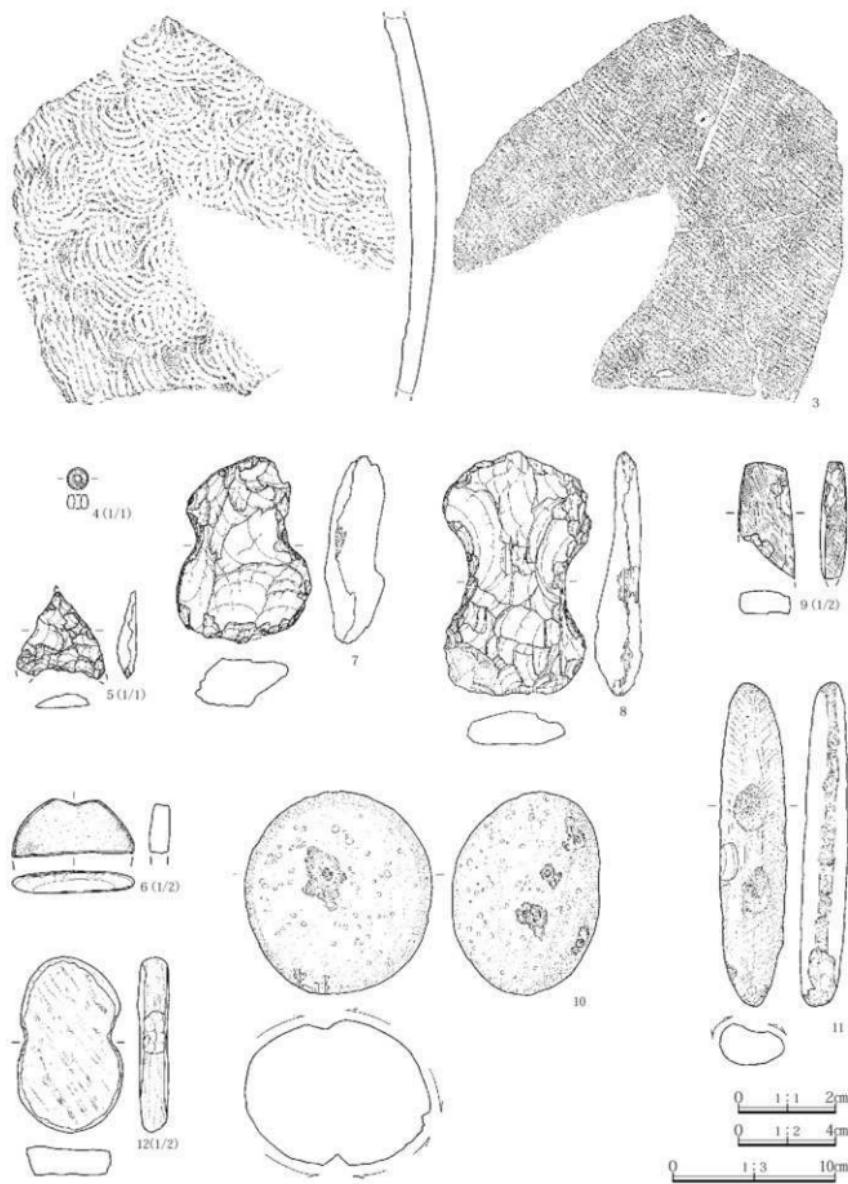


0 1:3 10cm

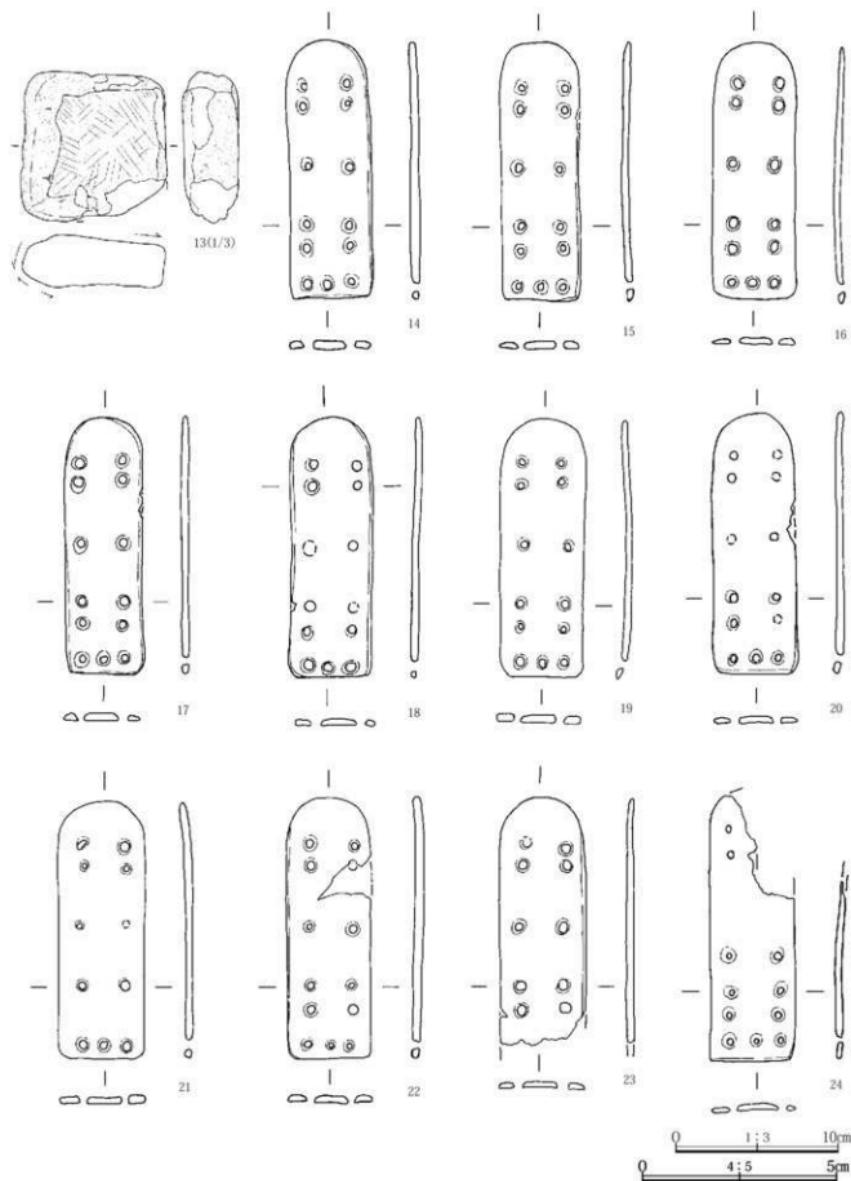


0 1:4 10cm

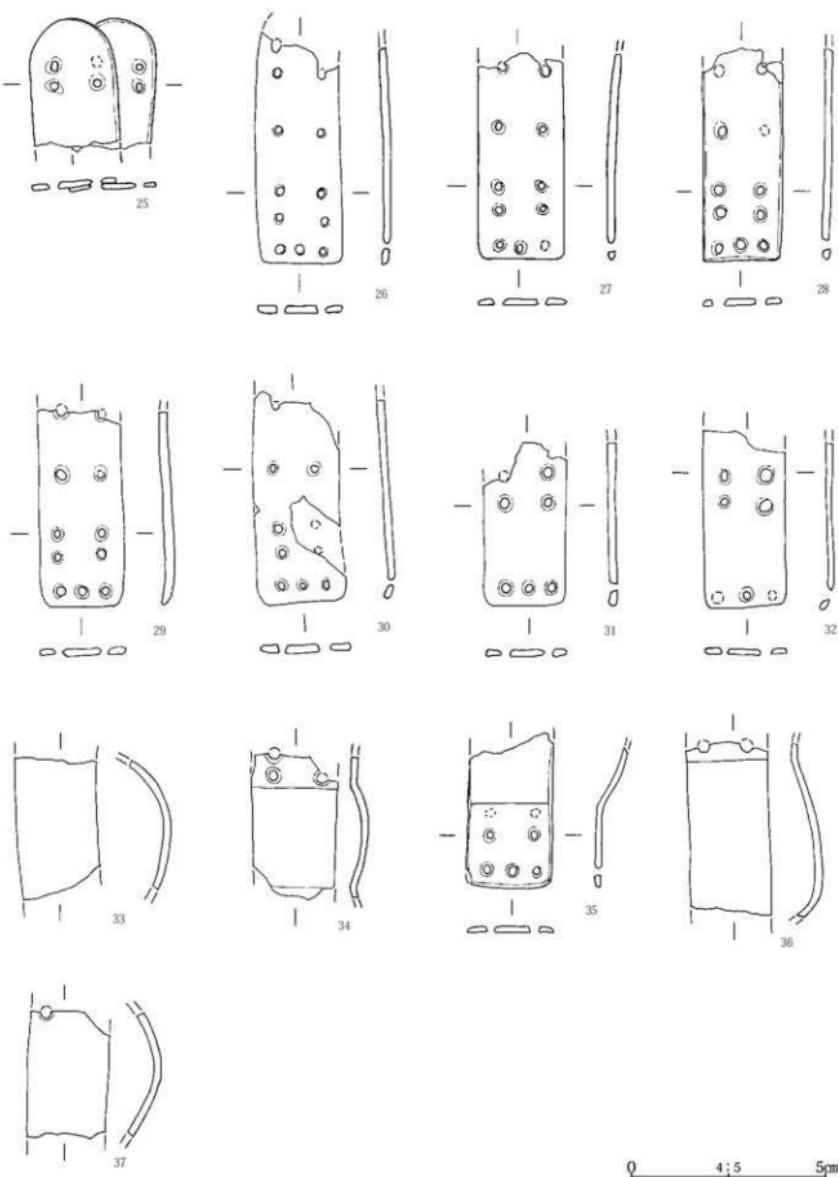
第51図 3区8号填出土遺物(1)



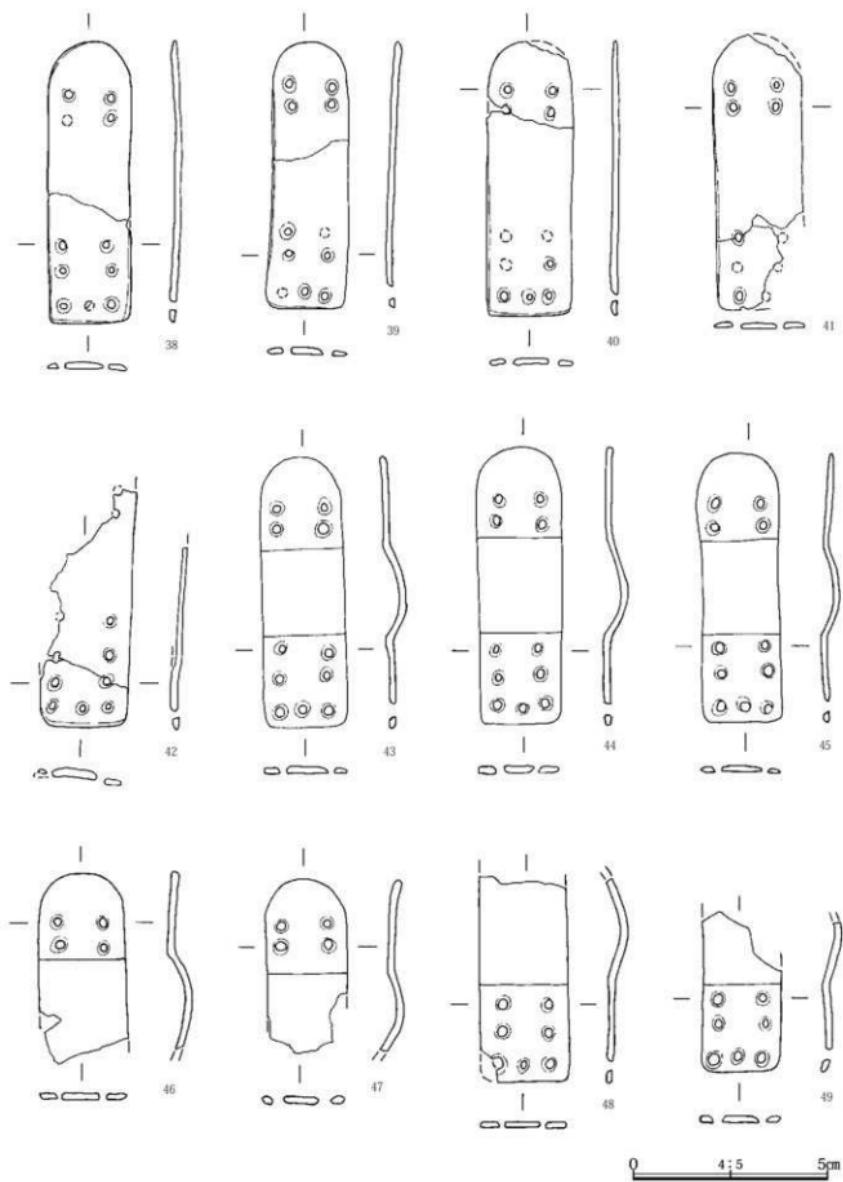
第52図 3区8号填出土遺物(2)



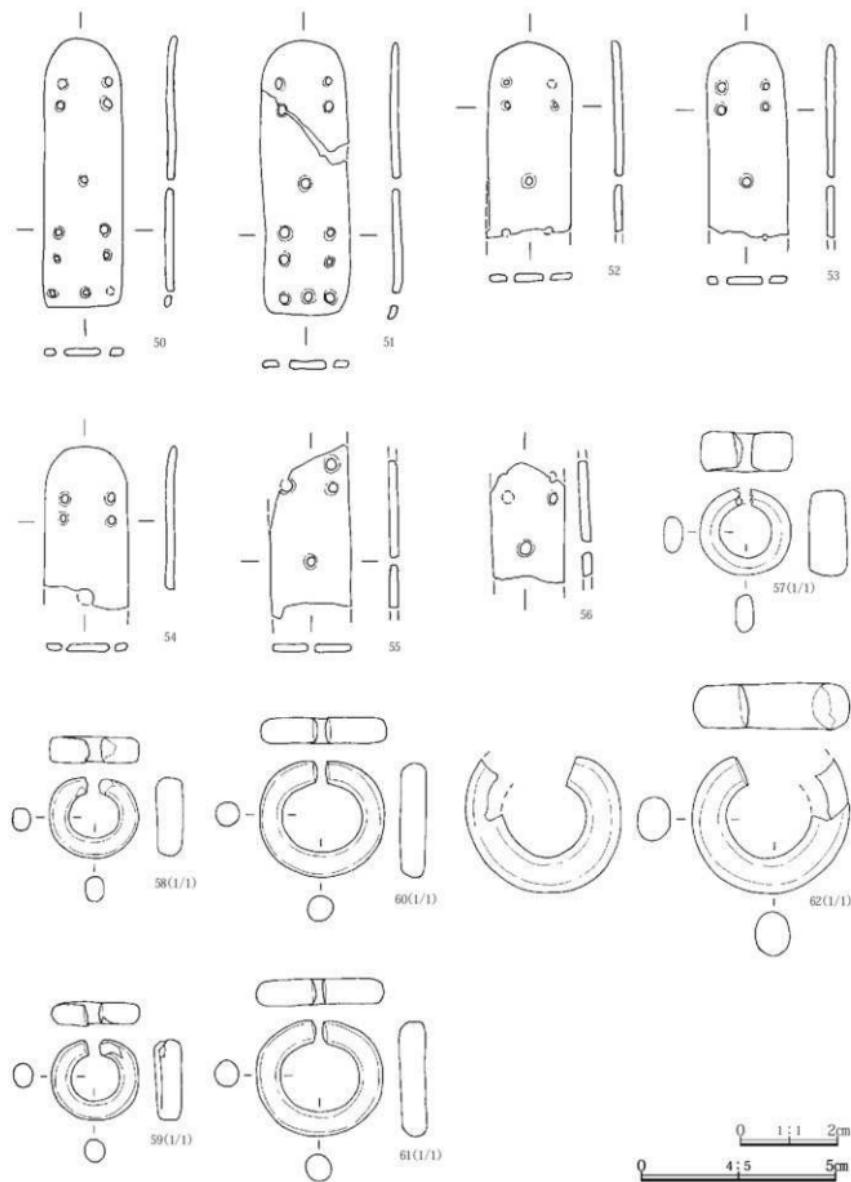
第53図 3区8号填出土遺物(3)



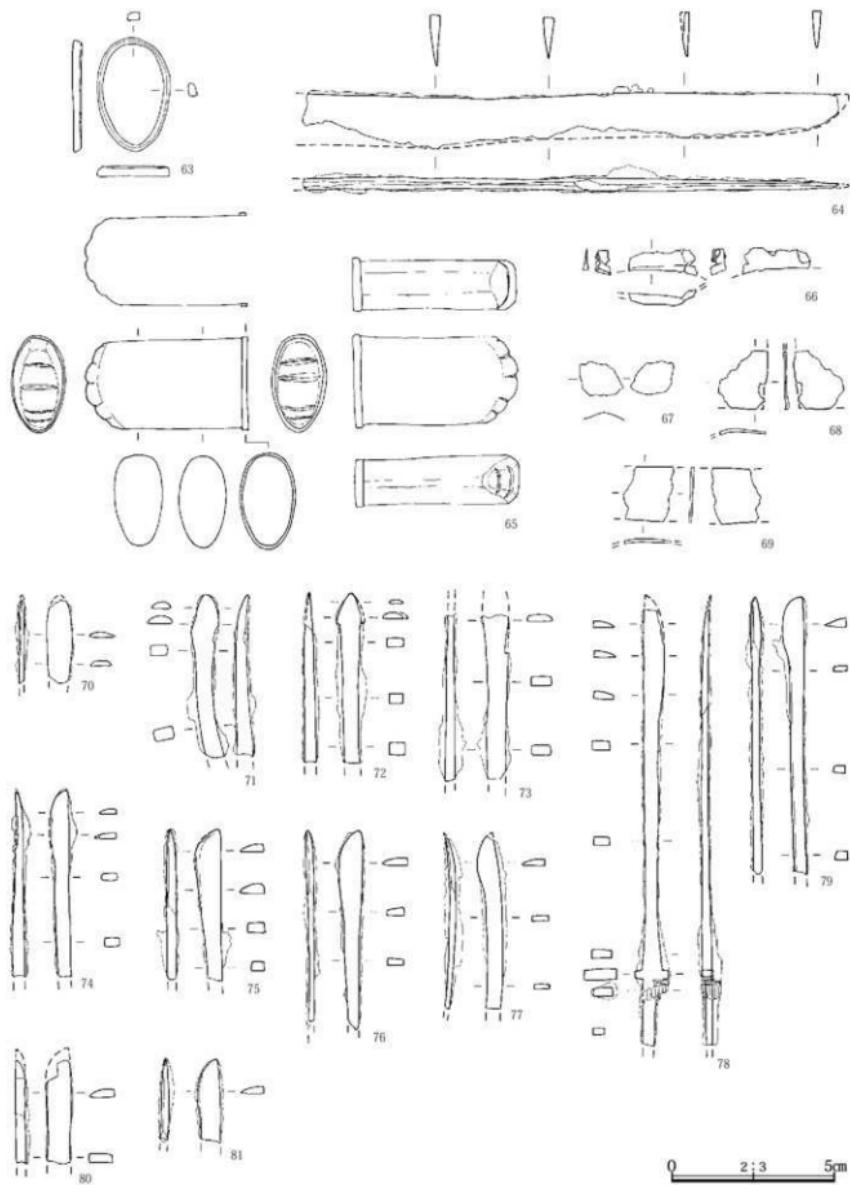
第54図 3区8号填出土物(4)



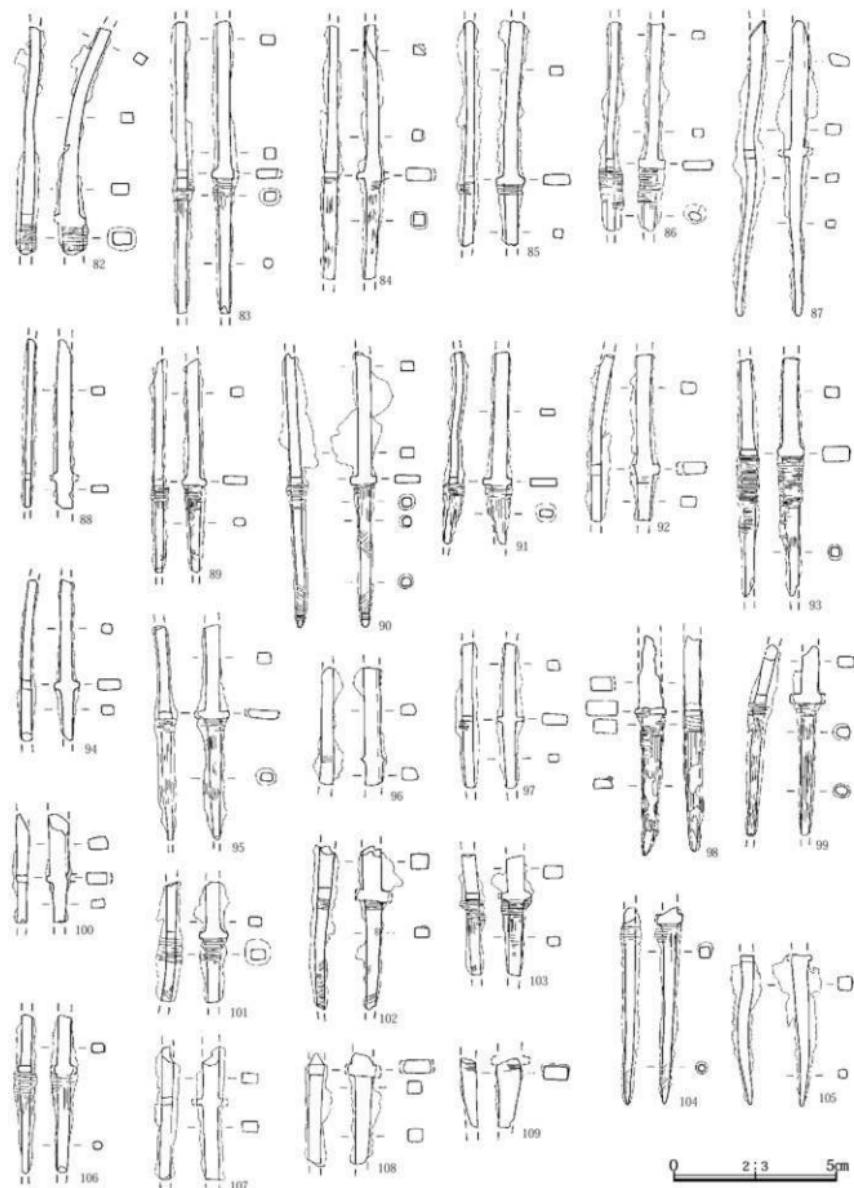
第55図 3区8号墳出土遺物(5)



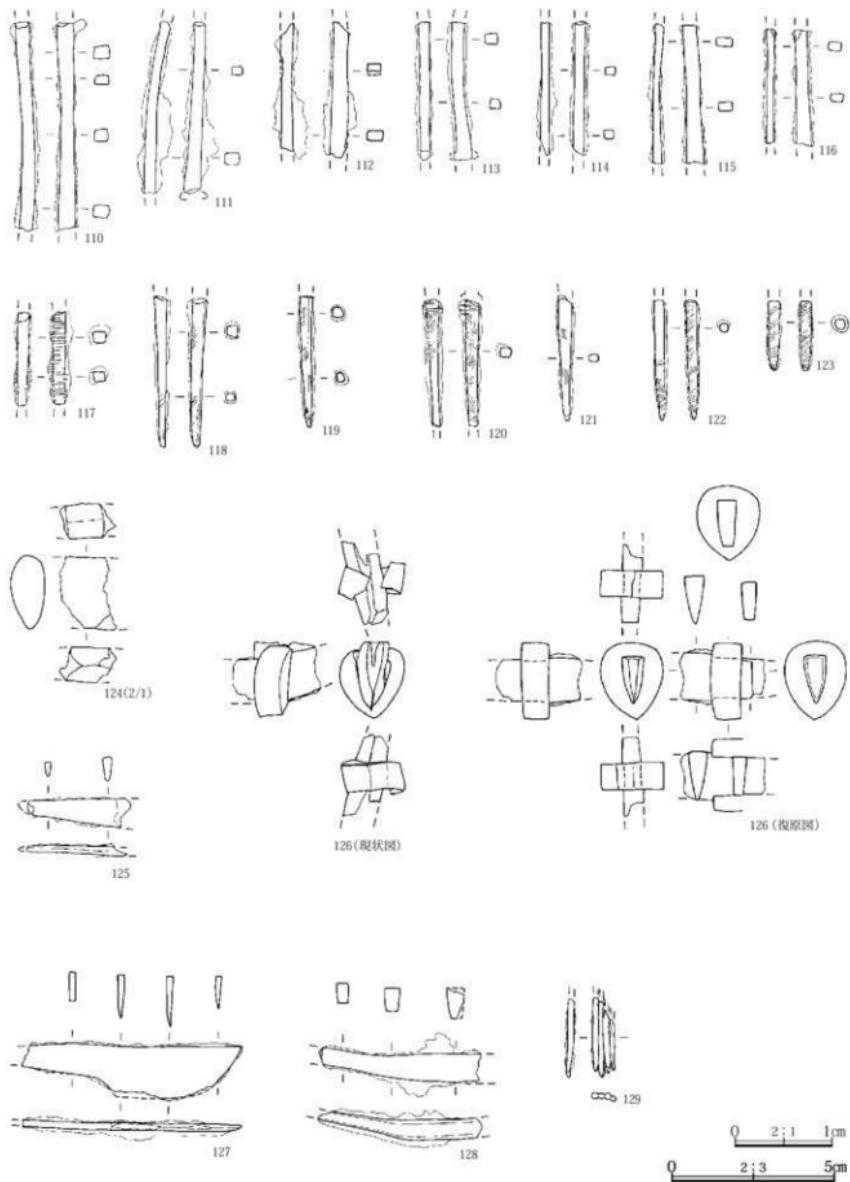
第56図 3区8号墳出土遺物(6)



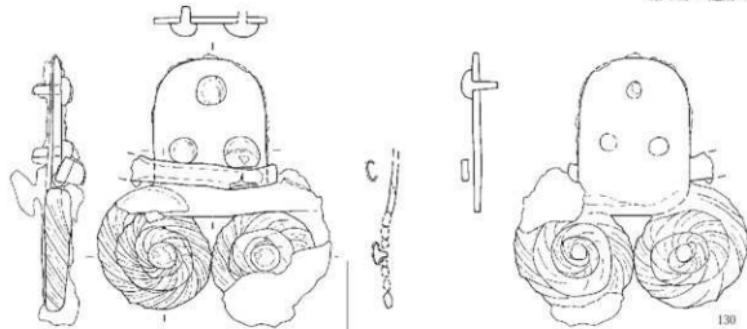
第57図 3区8号墳出土遺物(7)



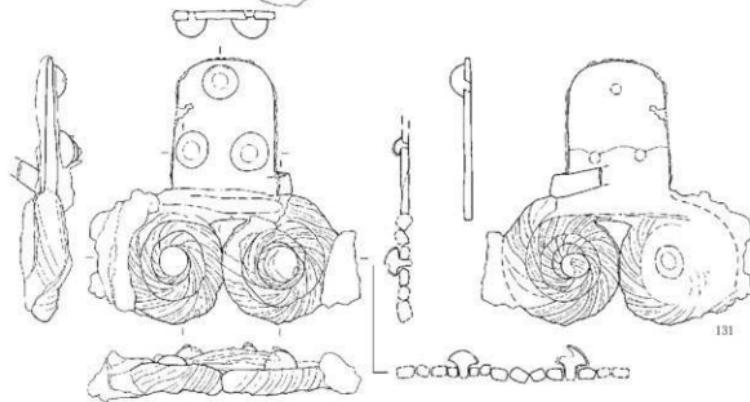
第58図 3区8号填出土遺物(8)



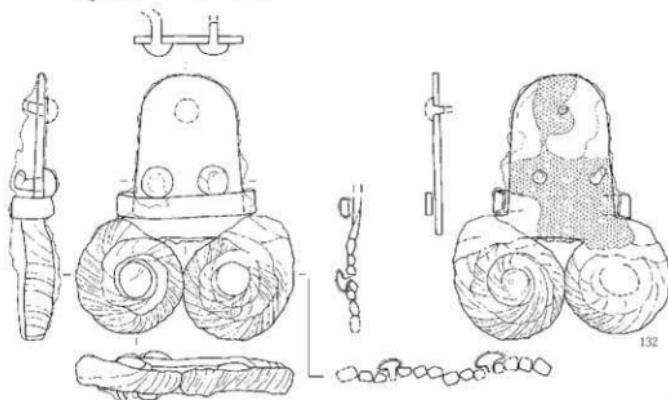
第59図 3区8号墳出土遺物(9)



130



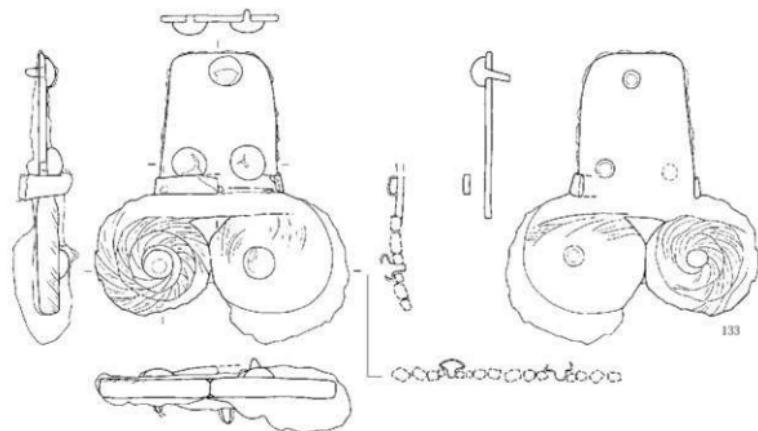
131



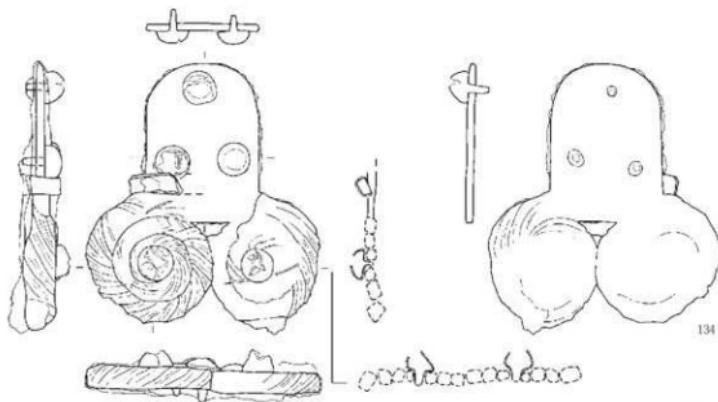
132

0 1:1 2cm

第60図 3区8号填出土遺物(10)



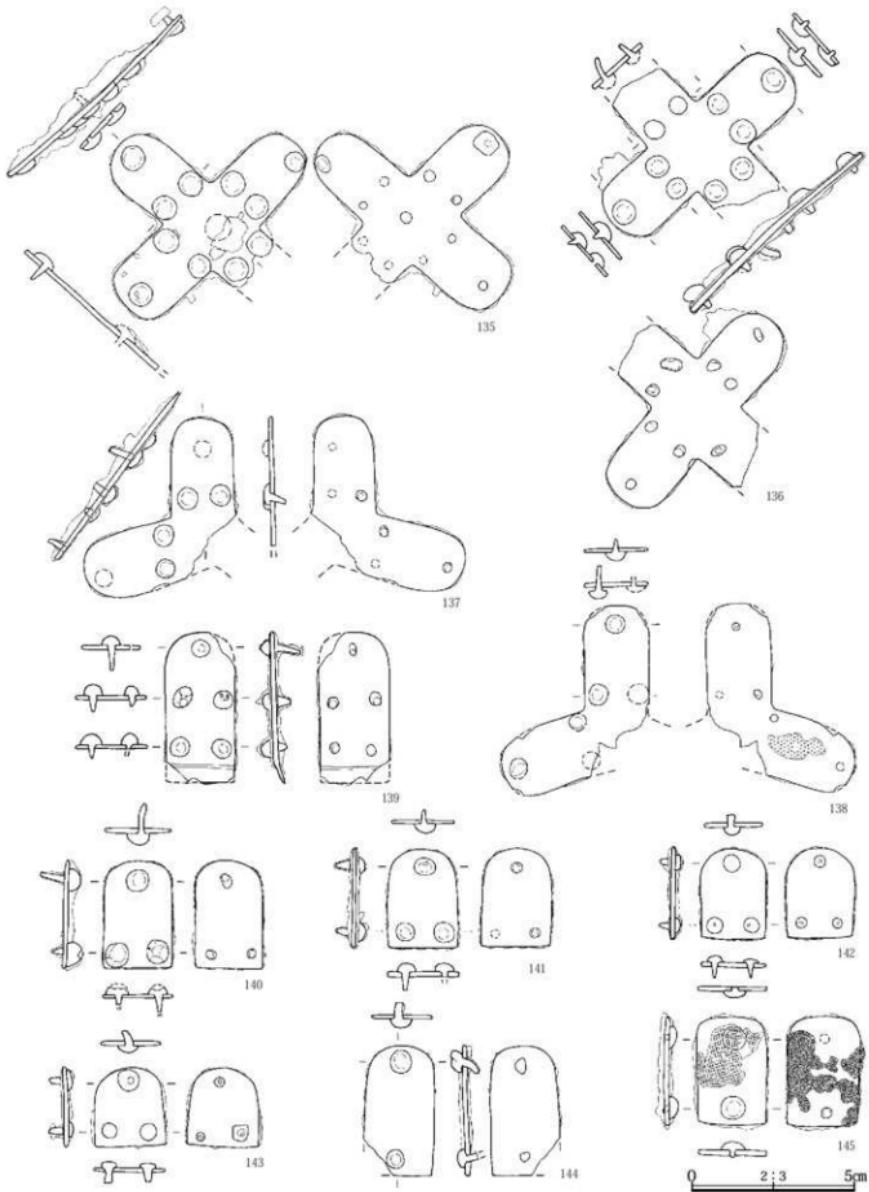
133



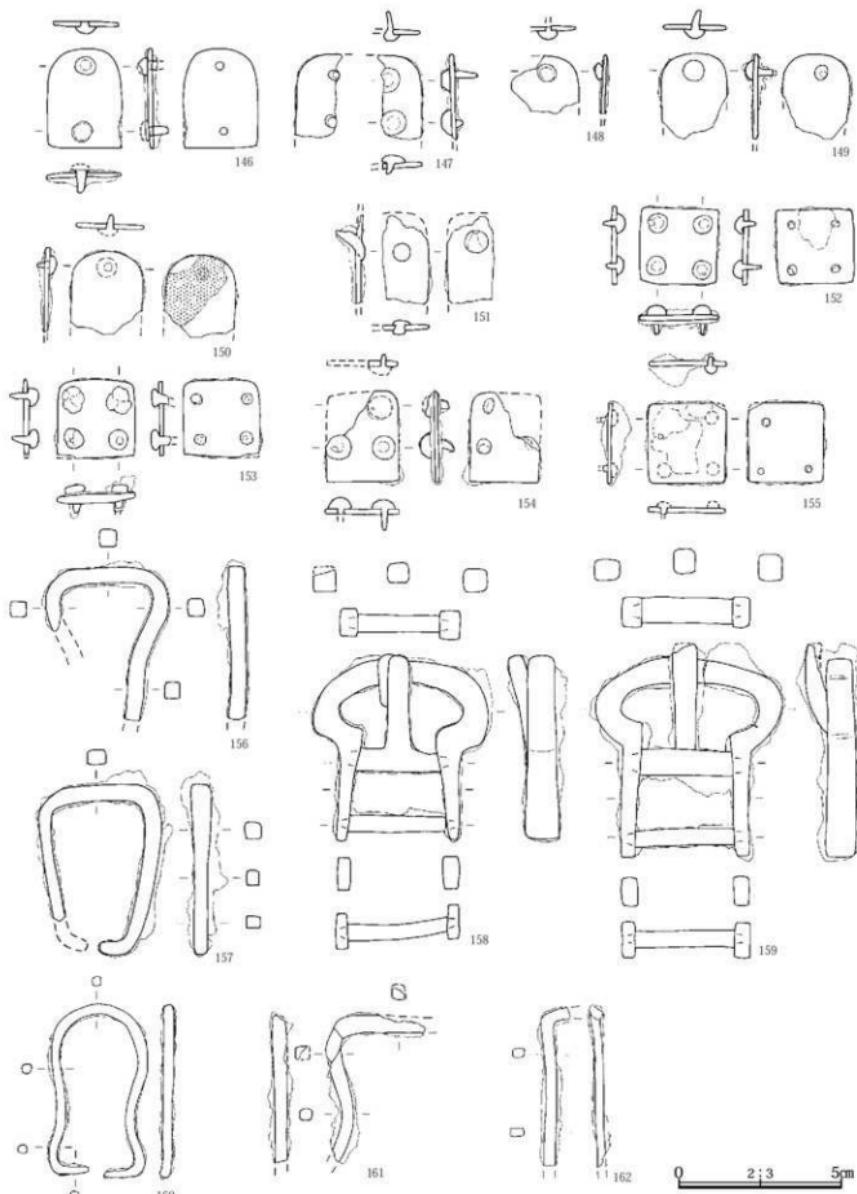
134

0 1:1 2cm

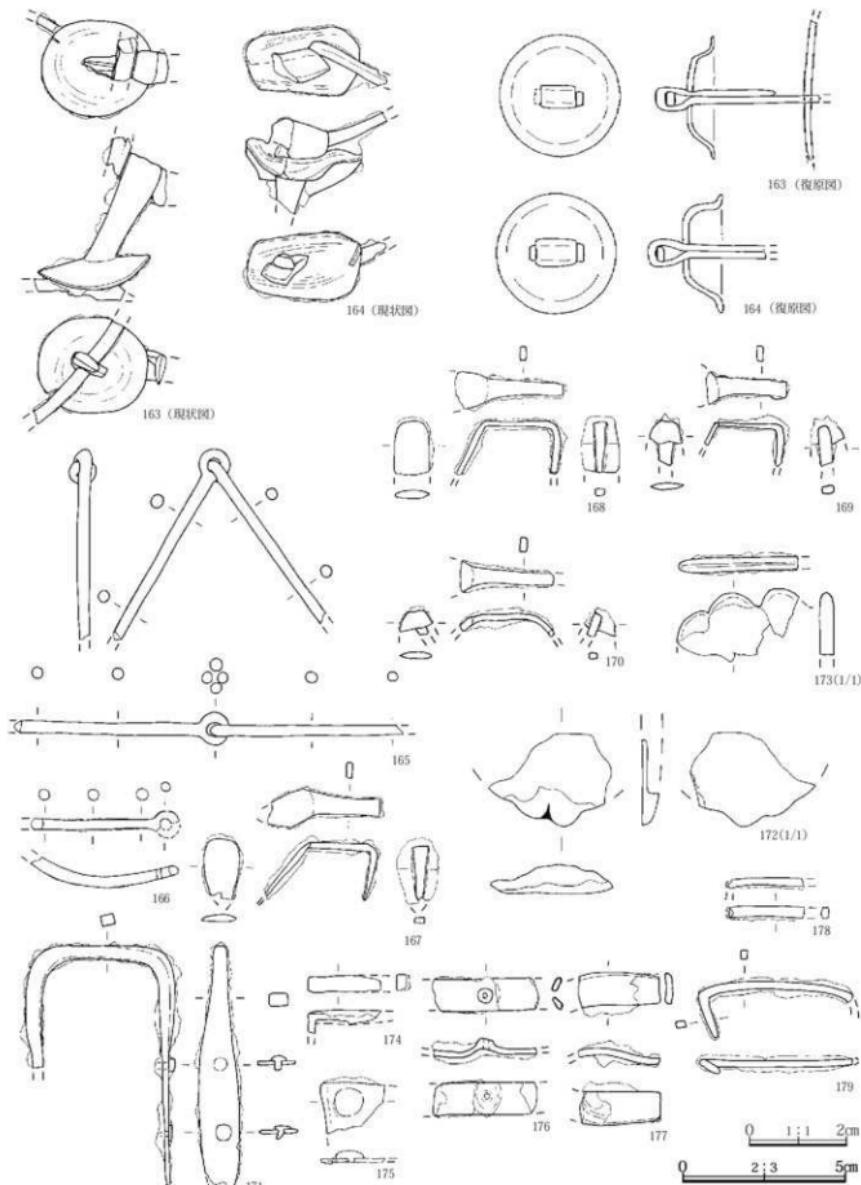
第61図 3区8号填出土遺物(II)



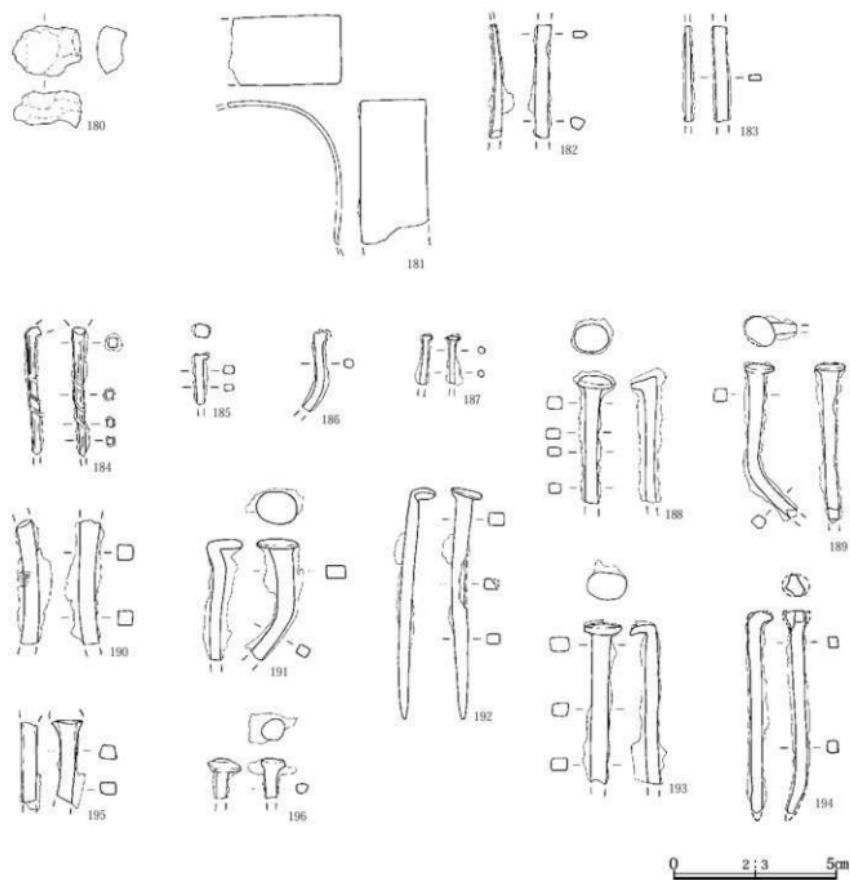
第62図 3区8号墳出土遺物(12)



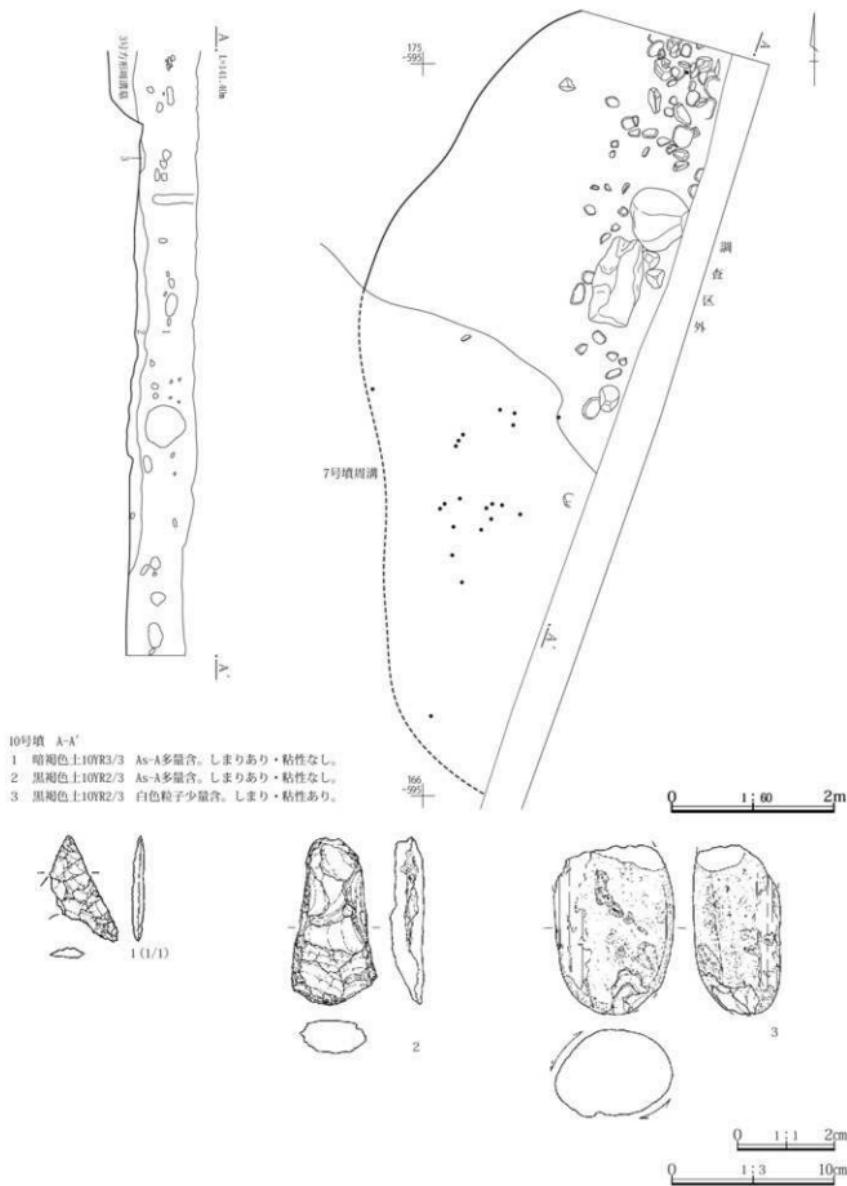
第63図 3区8号墳出土遺物(13)



第64図 3区8号墳出土遺物(14)



第65図 3区8号填出土遺物(15)



第66図 2区10号墳・出土遺物

## 2. 方形周溝墓

方形周溝墓は2・3区で古墳構築時に壊されているものも含め、4基が検出された。時期は4基ともに古墳時代初頭から前期に比定される。

1号方形周溝墓は8号墳の下に確認され、北西周溝底面に壺棺墓が確認された。2号方形周溝墓から小形埴輪が付けられたような土師器高杯が出土している。

**3区1号方形周溝墓(第67~70図・第5表・PL.44・84・85)**

**位 置** X=30188~200 Y=-80632~640

**重複遺構** 1・2・3号竪穴建物と重複する。本方形周溝墓が新しい。

**形 状** 不明 **主軸方位** N-25°-E

**規 模** 南北長11.0m 東西長北辺(2.20)m

溝幅最大1.87m 最短1.12m

深さ 最深0.87m 最浅0.74m

**埋没土層** 褐色土にローム粒、ロームブロックを含む。

**出土遺物** 土師器埴輪(1)、壺(3)、台付甕(2)、他に石鏡(4)、打製石斧(5~7)、磨製石斧(8)、砥石(10・11)、四石(9)、刀子(12)が出土している。

**所 見** 本遺構は3棟の繩文時代竪穴建物と重複している。南北方向のほぼ中央溝底部に土坑が掘られ、土坑底面の南壁寄りで中から壺(3)が出土している。壺は横位の状態で出土し、人骨等は確認されていない。壺の頸は細く再葬墓の可能性が考えられる。台付甕(2)は口縁部だけが確認できていない。時期は埴輪、壺、S字状口縁台付甕の様相から4世紀初頭~前期と考えられる。

**2区2号方形周溝墓(第71~72図・第5表・PL.44・45・85)**

**位 置** X=30133~146 Y=-80603~614

**重複遺構** 5・7号墳、3号溝、14号土坑、1号集石と重複する。本方形周溝墓は5・7号墳、3号溝より旧く、1号集石より新しい。14号土坑との関係は不明である。

**形 状** 方形 **主軸方位** N-43°-W

**規 模** 西側南北長8.50m 東側南北長(6.00)m

北側東西7.00m 南側東西長(4.00)m

溝幅最大1.60m 最短1.08m

深さ 最深1.09m 最浅0.59m

**埋没土層** 白・黄色粒、ローム粒、ロームブロックを含む

む暗・黒褐色土。

**出土遺物** 高杯(1)、壺(2)、石皿(3)、石棒(4)の破片が出土している。

**所 見** 本方形周溝墓は南北のコーナーは切れていないが、東西コーナー部は東が電柱の下に入り、西は5号墳、3号溝に切られている。このため方形に巡るか、東西どちらかが切れるものは不明である。出土遺物の中から珍しい高杯(1)が出土している。杯部は小形埴輪に脚を付けたような土器である。粘土のうちに脚を下から突き刺し、内面底部の粘土を上から平らに調整している。外来土器と高杯が融合したものと考えられる。

**2区3号方形周溝墓(第73図・第5表・PL.45)**

**位 置** X=30170~175 Y=-80591~594

**重複遺構** 7号墳と重複する。本方形周溝墓が古い。

**形 状** 不明 **主軸方位** N-31°-E

**規 模** 南北長(4.40m) 東西長(2.20m)

幅長1.32m 深さ0.44m~0.56m

**埋没土層** 白色粒多量、ローム粒、ロームブロックを含む。

**出土遺物** 固化できる遺物は出土しなかった。

**所 見** 本3号方形周溝墓は南東部で7号墳に一部壊されている。北東部は調査区域外に延び、南西部は7号古墳の周溝に壊され、溝の一部しか確認されていない。出土遺物、形状は不明のため、時期は不明である。

**2区4号方形周溝墓(第74~75図・第5表・PL.45・85)**

**位 置** X=30121~135 Y=-80609~620

**重複遺構** 4号溝と重複する。本方形周溝墓が新しい。

**形 状** 方形 **主軸方位** N-52°-E

**規 模** 南北長11.0m 北側東西長(8.50)m

南側東西長(3.00)m

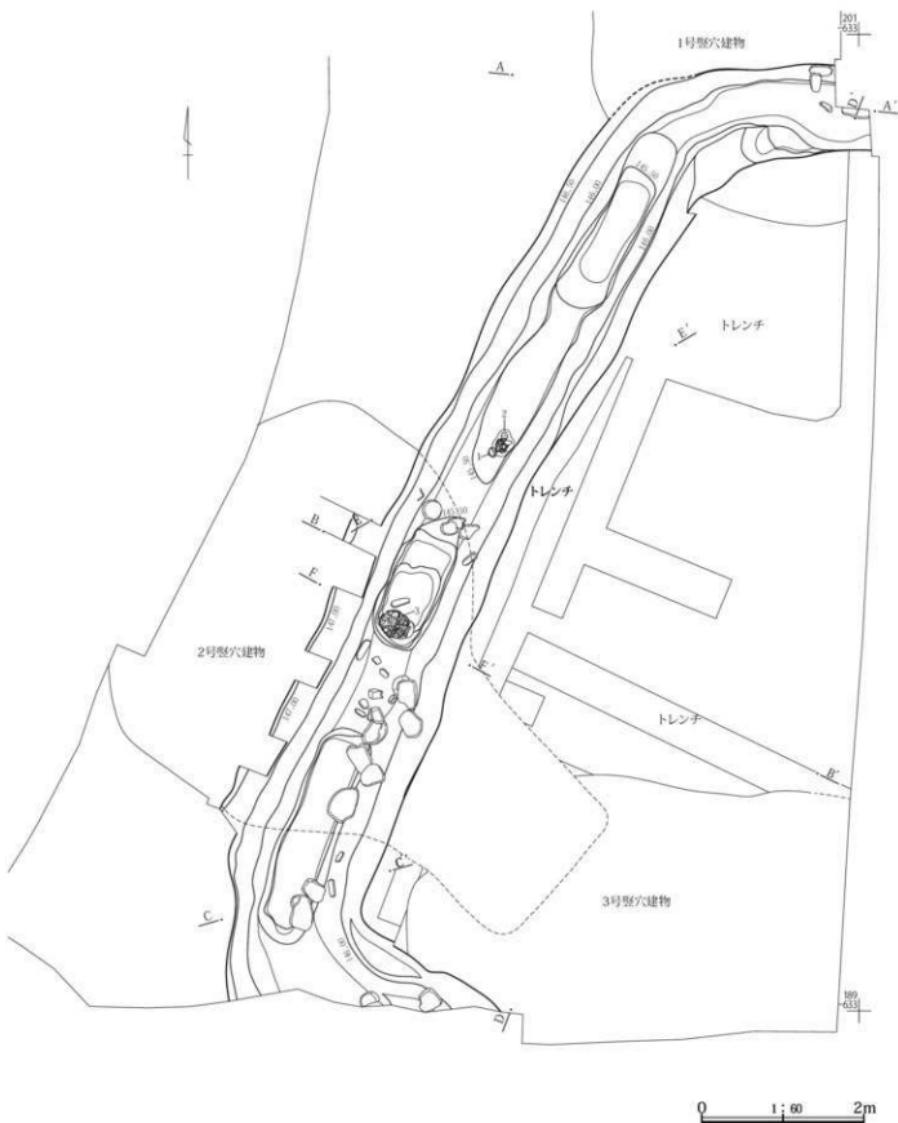
溝幅最大2.10m 最短1.25m

最深0.86m 最浅0.50m

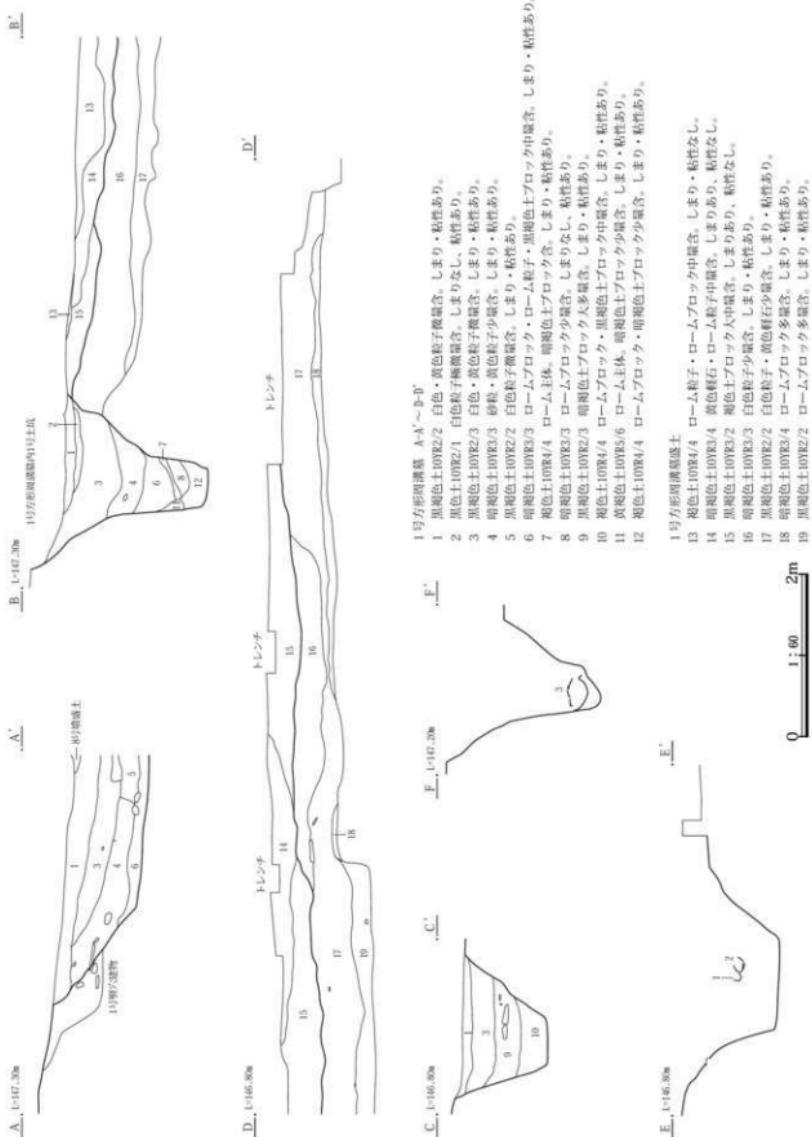
**埋没土層** 白・黄色粒、ローム粒、ロームブロックを含む。

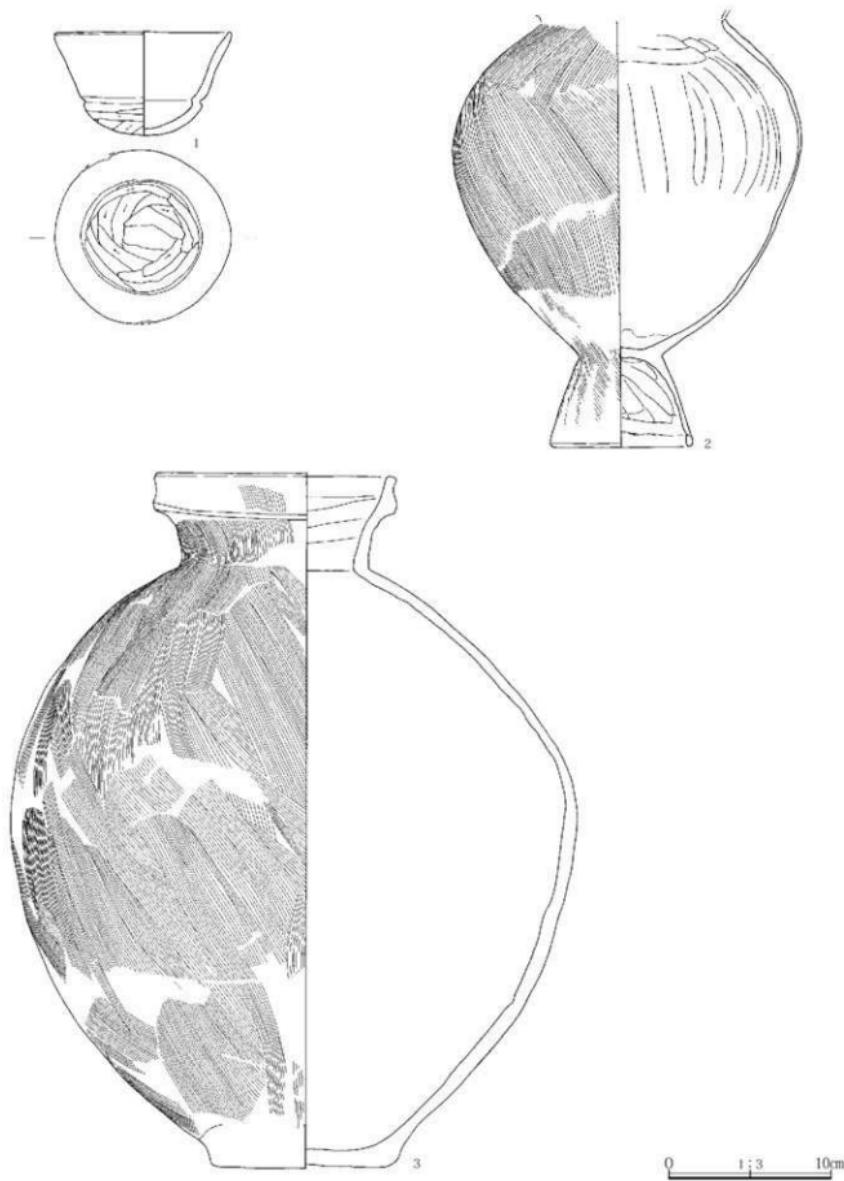
**出土遺物** 石鏡(1)、打製石斧(2)、二次加工のある剥片(3)、砥石(4)が出土している。

**所 見** 本方形周溝墓は3方向の溝が確認されたが、出土遺物はほとんどが小破片のため、形になる土器が確認されていない。このため時期は不明である。

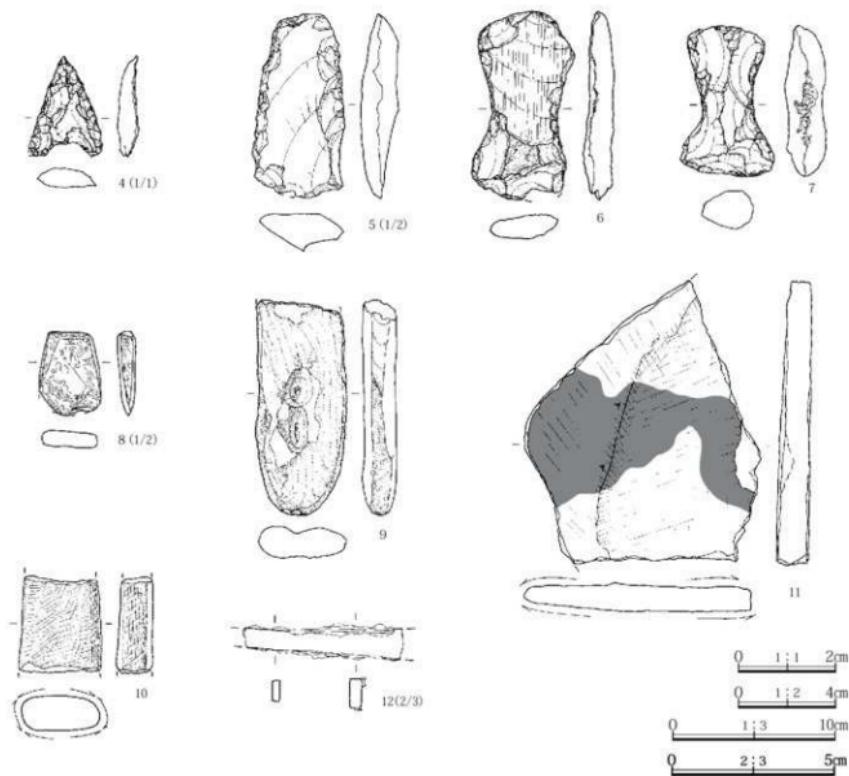


第67図 3区 1号方形周溝墓

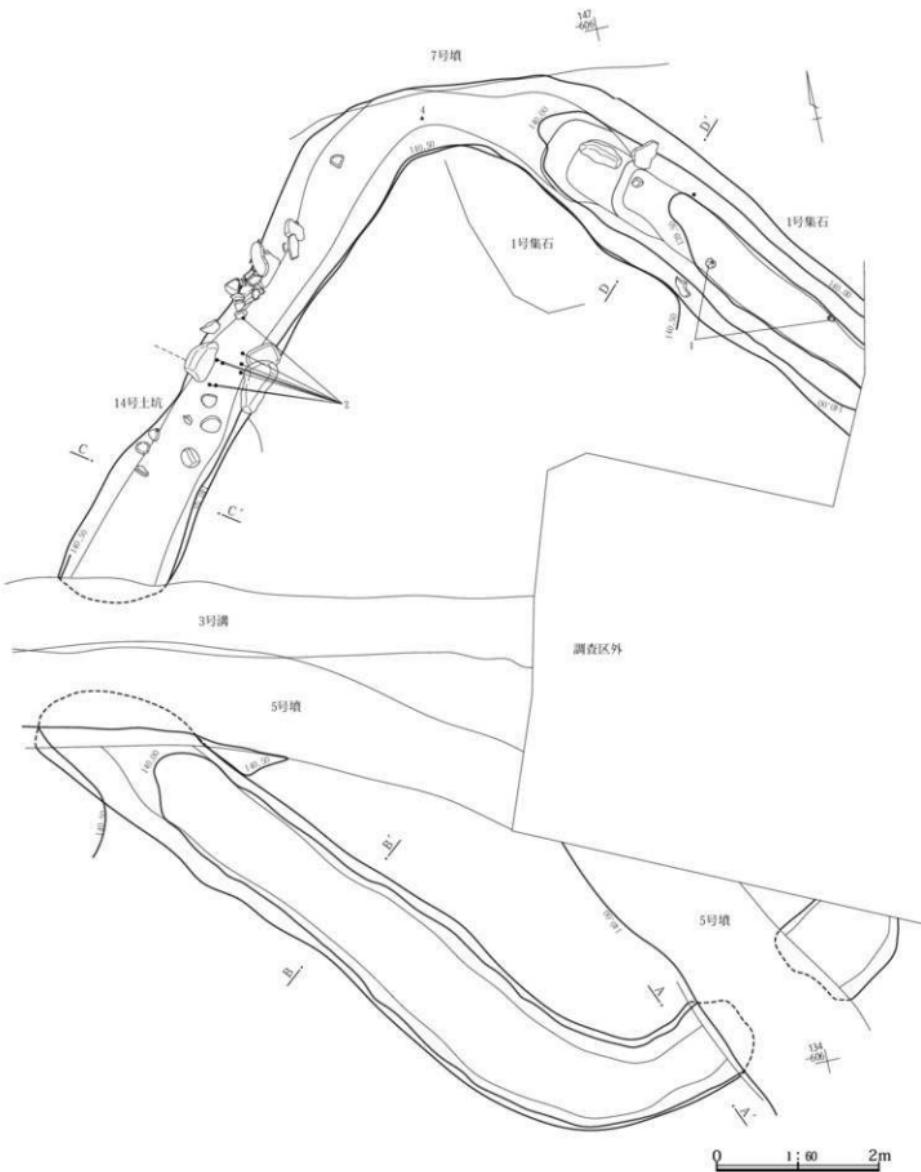




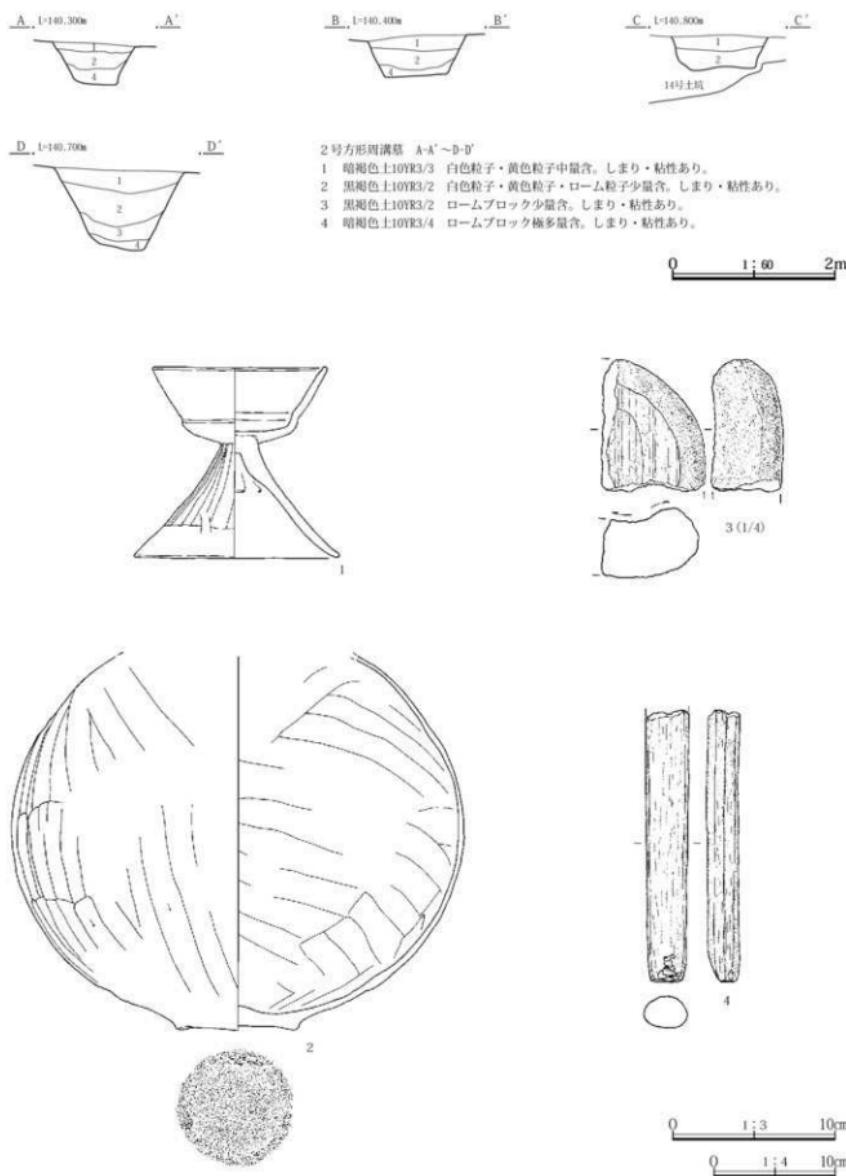
第69図 3区1号方形周溝墓出土遺物(1)



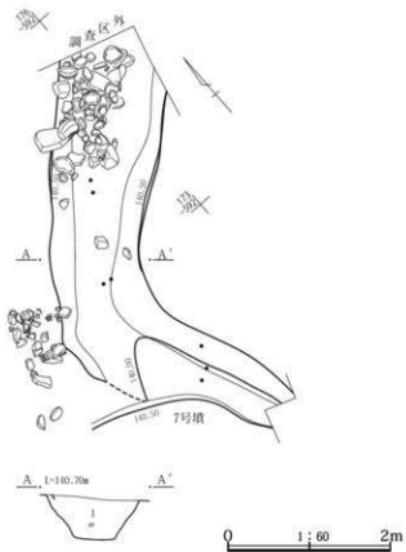
第70図 3区1号方形周溝墓出土遺物(2)



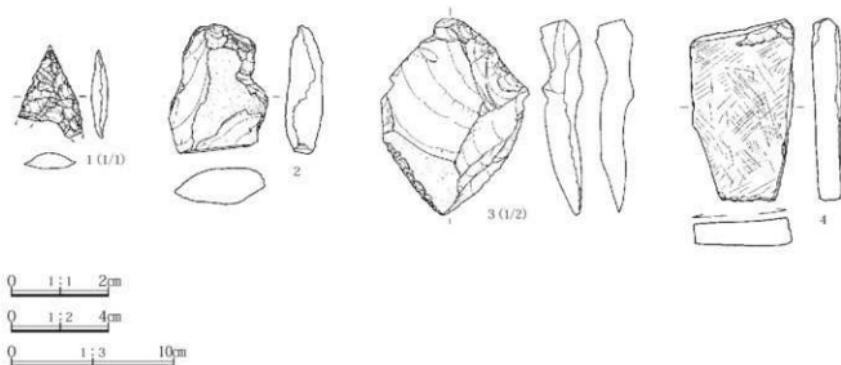
第71図 2区 2号方形周溝墓



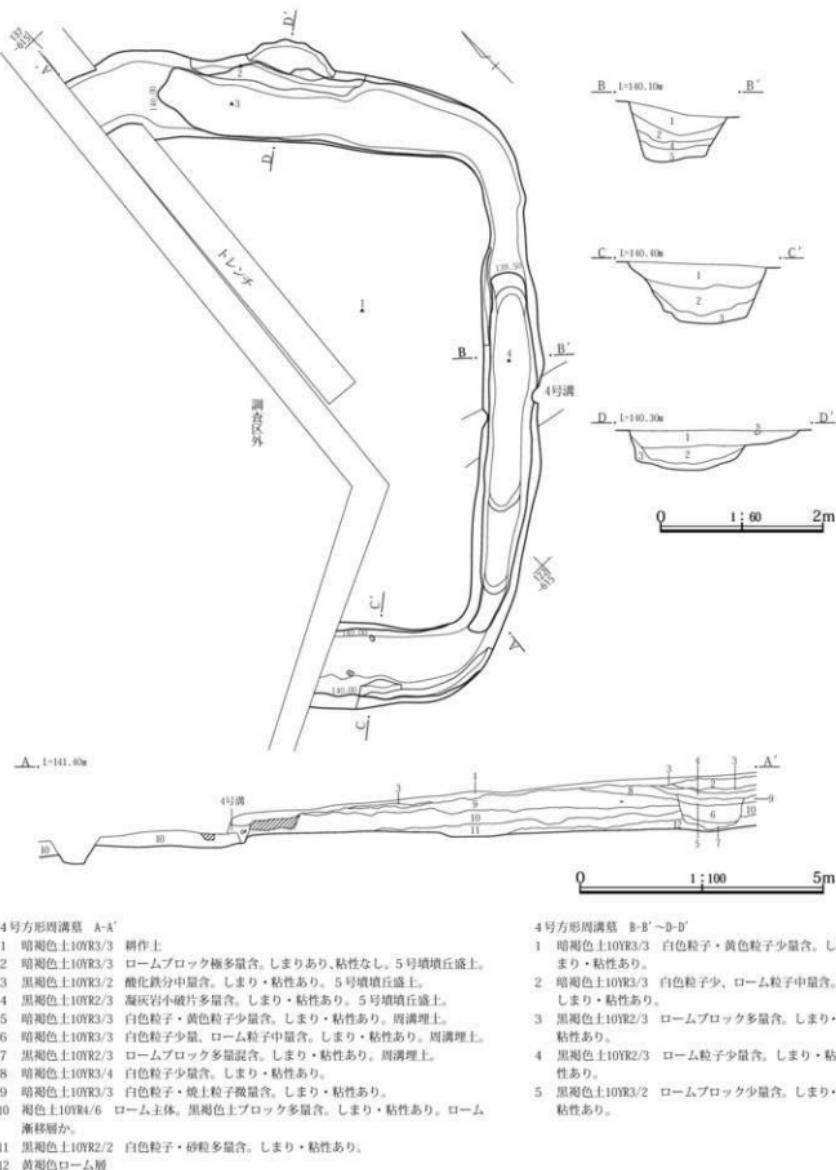
第72図 2区 2号方形周溝墓土層断面図・出土遺物



第73図 2区3号方形周溝墓



第74図 2区4号方形周溝墓出土遺物



第75図 2区 4号方形周溝墓

### 3. 弥生時代の竪穴建物

竪穴建物1～3区であわせて8棟が確認され、このうち3棟が弥生時代後期、縄文時代後期が5基確認されている。その他土坑、溝、ピットが確認されている。

#### 1区5号竪穴建物(第76図・第8表・PL.46・85)

位 置 X=30216～221 Y=-80577～579

重複遺構 1号墳、5号溝と重複。本竪穴建物が1号墳、5号溝より旧い。

形 状 不明

主軸方位 N-18°-E

規 模 長軸(4.04)m 短軸(1.18)m 残存深度0.35m

床 面 積 (3.94)m<sup>2</sup>

炉 位 置 不明

柱 穴 1基検出した。規模は以下の通り。

P1 長軸40cm 短軸(22)cm 深さ38cm

埋没土 ローム粒、炭化物粒、白色粒を含む。

出土遺物 弥生時代後期樽式土器壺(2)、甕(3)。台付甕の破片(1)、石鎚(4)、剥片(5)が出土している。

所 見 本竪穴建物は1区南区の北東角に西壁の一部を検出した。北側は現道で確認できず、東側の大半は調査区外に延びる。さらに、西側は東西に走る5号溝に切られ、南側は1号墳の周堀により壊されている。ピットも東側の半分は東調査区域外にあり西側半分を確認したのみである。遺物の出土は1号墳の周堀縁辺で確認され、古墳築造時には周堀中段にあつたため残存したと考えられ、北側は広い溝によって遺物は検出されなかつたと考えられる。

#### 1区6号竪穴建物(第77～79図・第8表・PL.46・47・86)

位 置 X=30191～196 Y=-80587～591

重複遺構 2号墳と重複。本竪穴建物が旧い。

形 状 隅丸長方形

主軸方位 N-0°

規 模 長軸4.87m 短軸3.40m 残存深度0.58m

床 面 積 (13.48)m<sup>2</sup>

炉 位 置 中央北壁寄り

炉 規 模 長軸66cm 短軸47cm 深さ2cm

柱 穴 確認されていない。

埋没土 白色粒子、ローム粒子、褐色土ブロックを含む。

出土遺物 弥生時代後期樽式土器壺(6～9)、甕(5)、高杯片(3・4)、二次加工のある剥片(10)、石核(11)が出土している。

所 見 本竪穴建物は南東部を2号墳の周堀に切られている。2号墳の南西部埴丘の盛り土下から竪穴建物の南西部を確認した。出土した弥生土器甕(5)は東海東部から南関東系の土器で、科野等の他の地域からの交流が認められる。弥生土器壺(6)は赤く塗られている。

炉は浅く焼土、炭化物のほかに枕石が置かれ、位置、枕石の存在から弥生時代後期の特徴を示している。

#### 1区7号竪穴建物(第80・81図・第8表・PL.48・86・87)

位 置 X=30202～207 Y=-80581～586

重複遺構 10号溝と重複。本竪穴建物が旧い。

形 状 隅丸長方形

主軸方位 N-50°-E

規 模 長軸(4.56)m 短軸3.24m 残存深度0.63m

床 面 積 (11.88)m<sup>2</sup>

炉 位 置 中央西壁寄り

炉 規 模 長軸56cm 短軸43cm 深さ6cm

柱 穴 1基確認した。規模は以下の通り。

P1 長軸70cm 短軸55cm 深さ24cm

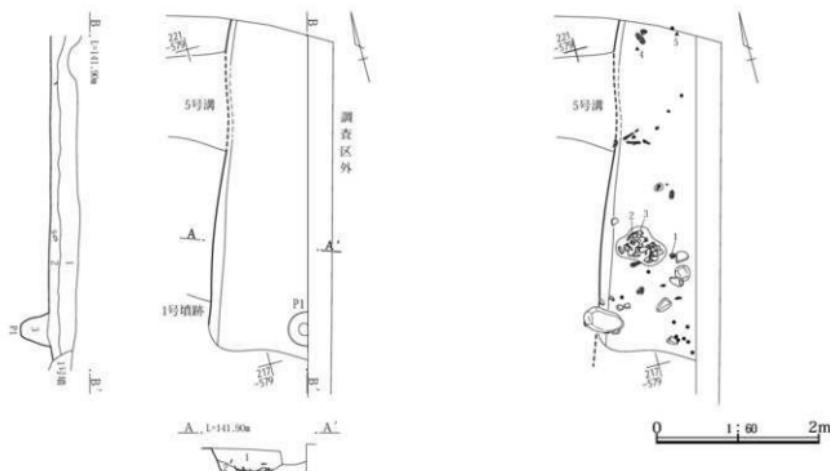
貯蔵穴位置 南東コーナー部に検出した。

貯蔵穴規模 長軸70cm 短軸56 深さ40cm

埋没土 白色粒、黄色粒、ロームブロックを含む。

出土遺物 弥生時代後期樽式土器(5～8)、高杯片(4)、スクレーパー(9)、二次加工のある剥片(10・11)、敲石(12・13)が出土している。

所 見 本竪穴建物は北壁を10号溝に壊されている。弥生時代後期樽式土器を持つ竪穴建物であるが、炉の位置がやや普遍的な樽期の位置とは異なっている。床面上に垂木のような炭化材と焼土が散布しており、焼失家屋と考えられる。屋根材が崩れ、焼土と材の炭化物が床上に散布している。さらに10号溝の縁にある長い石の周りにも焼土が確認でき、炉の位置は樽期の普遍的な場所にあると考えることができる。

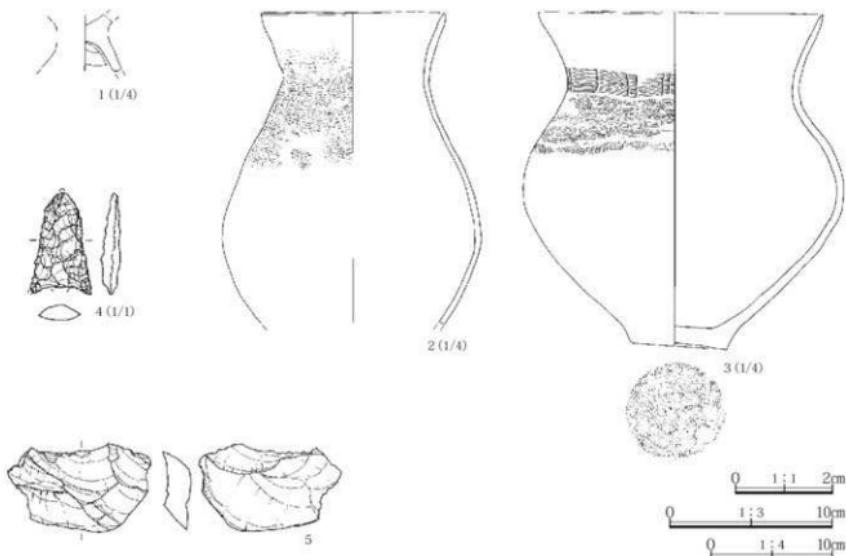


5号竖穴建物 A-A'・B-B'

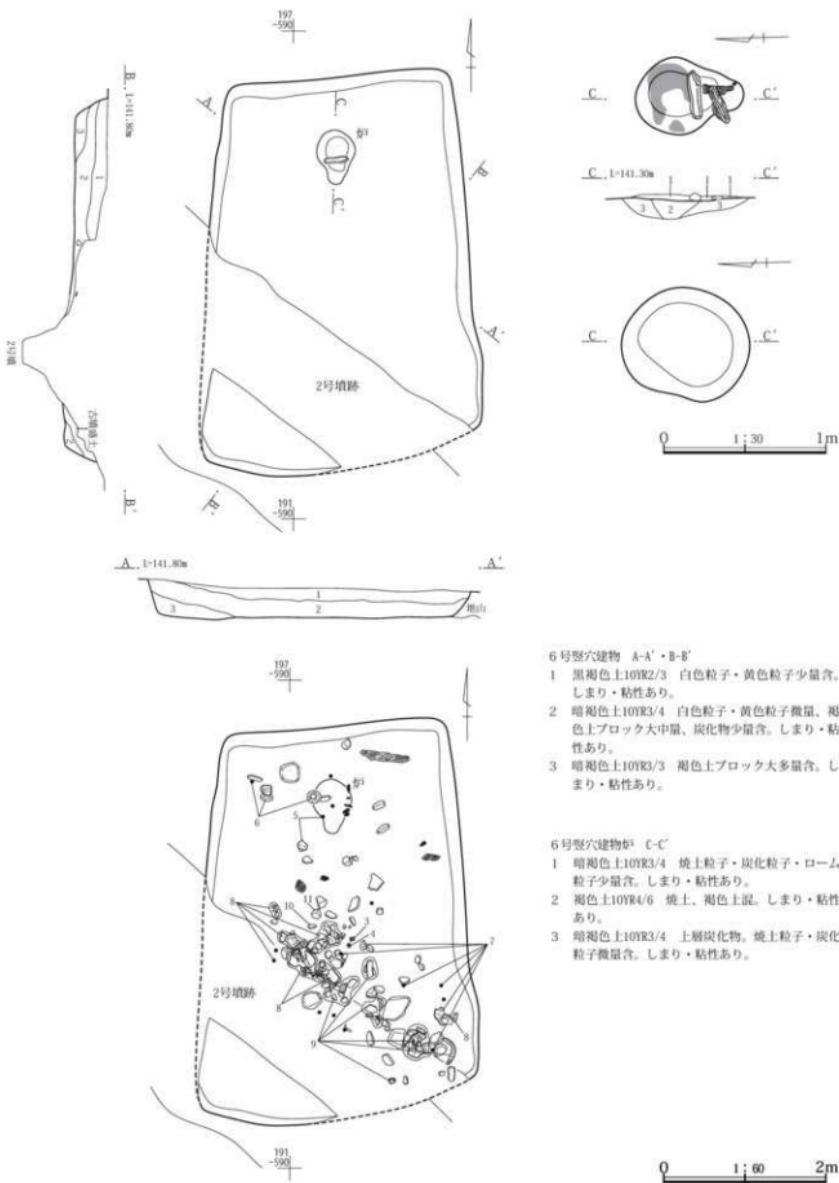
1 喀褐色土10YR3/4 ローム粒子中量、炭化粒子・白色粒子少量含。しまり・粘性あり。

2 喀褐色土10YR3/3 ロームブロック多量含。しまり・粘性あり。

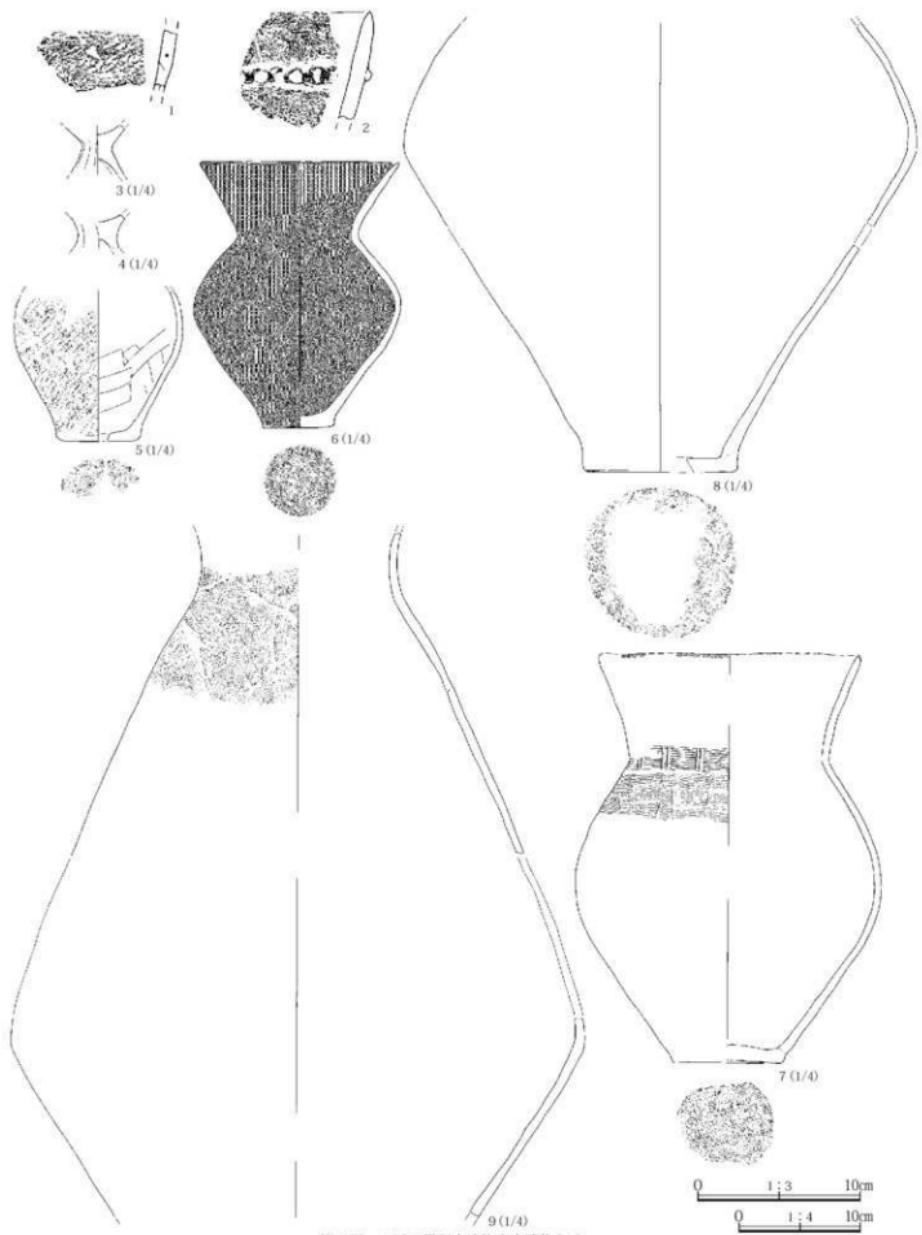
3 P 1 理上



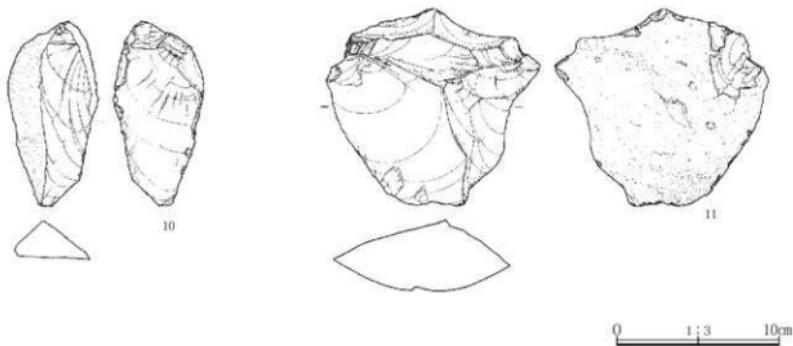
第76図 1区 5号竖穴建物・出土遺物



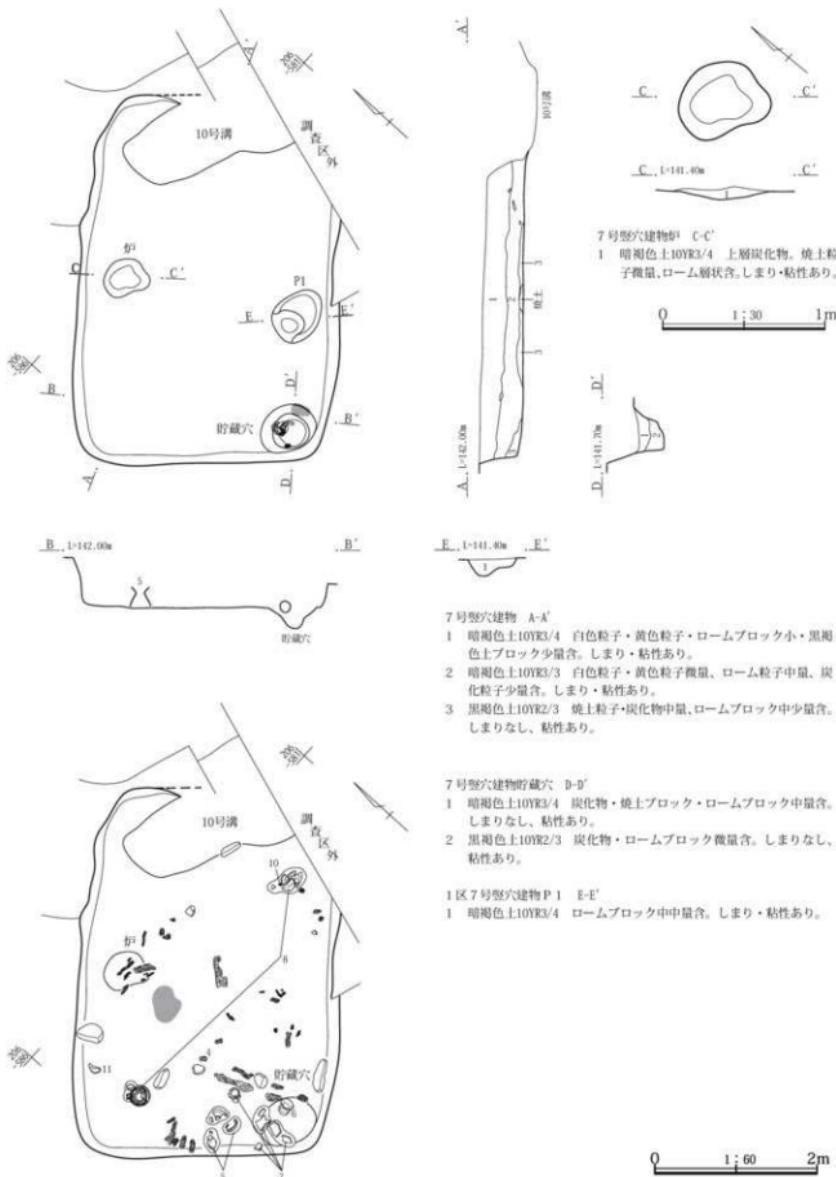
第77図 1区 6号窓穴建物



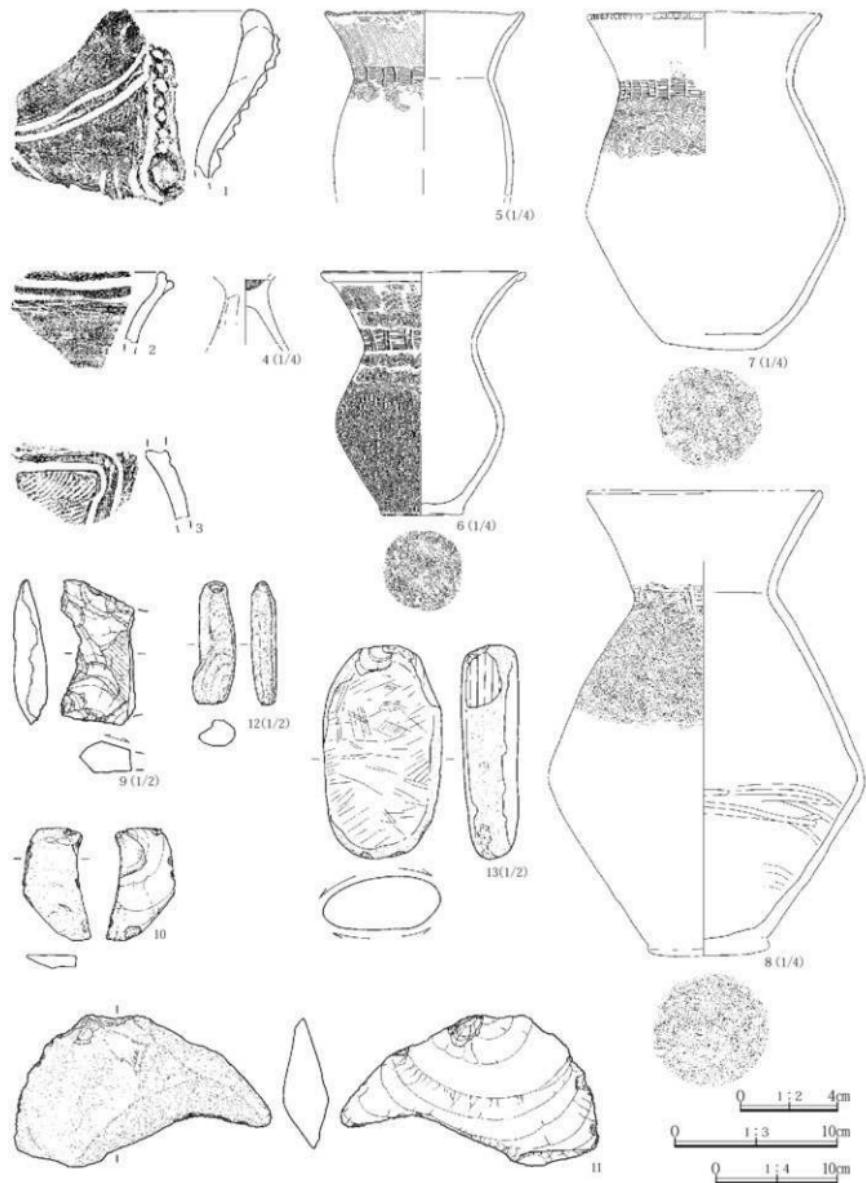
第78図 1区6号堅穴建物出土遺物(1)



第79図 1区6号竪穴建物出土遺物(2)



第80図 1区7号型穴建物



第81図 1区7号駄穴建物出土遺物

## 4. 繩文時代の竪穴建物

3区1号竪穴建物(第82~85図・第8表・PL.49・50・58・87・88)

位 置 X=30198~203 Y=-80632~636

重複遺構 1号方形周溝墓、6号土坑と重複。周溝墓と土坑が本竪穴建物より新しい。

形 状 円形? 主軸方位 N-9°-E

規 模 長軸4.63m 短軸(3.54)m 残存深度0.59m

床 面 積 (13.38)m<sup>2</sup>

炉 位 置 中央部 埋甕を使用したと考えられる。

炉 規 模 長軸44cm 短軸38cm 深さ14cm

柱 穴 柱穴は床面に6基確認された。各々の規模は以下の通りである。

P 1 長軸34cm 短軸32cm 深さ70cm

P 2 長軸30cm 短軸28cm 深さ65cm

P 3 長軸39cm 短軸34cm 深さ21cm

P 4 長軸58cm 短軸50cm 深さ25cm

P 5 長軸30cm 短軸26cm 深さ74cm

P 6 長軸23cm 短軸20cm 深さ28cm

埋没土 上層は8号埴盛土で、中層は白色・黃色輕石を少量含む。床面近くはローム粒、ロームブロックを含む。

出土遺物 ほとんどの遺物は堀之内1式(1~16)で称名寺2式(17)が1点共伴している。打製石斧(18)、磨製石斧(19)、磨製石斧未完成品(20)、尖頭器(21)、凹石(22)、石皿(24)、多孔石(25)、石棒(26・27)が出土している。

所 見 床面は平坦な敷石竪穴建物である。敷石のほとんどははがれている。東部の大半は調査区域外に延び、南壁の一部は1号方形周溝墓で壊されている。構造は時期的に考えると、柄鏡型になる可能性が高いが、柄の部分は東側調査区域外に延びているため検出されていない。円形部の中央に確認された炉内で深鉢が検出された。6基の柱穴は円形部の壁際に沿い円弧を描いている。敷石以外には長さ約10.5cmを測る尖頭器が検出されたが、先端部の一部は欠けている。その他に、円盤、凹石、石棒が出土している。

3区2号竪穴建物(第86~89図・第8表・PL.51・52・60・88・89)

位 置 X=30189~196 Y=-80636~642

重複遺構 1号方形周溝墓と重複。本遺構が古い。

形 状 柄鏡形 主軸方位 N-49°-E

規 模 長軸(6.68)m 短軸4.98m 残存深度0.67m

床 面 積 (18.52)m<sup>2</sup>

炉 位 置 円形部のほぼ中央

炉 規 模 長軸72cm 短軸64cm 残存深度23cm

柱 穴 2号竪穴建物内で柱穴は6基確認された。規模は以下の通りである。

P 1 長軸23cm 短軸20cm 深さ37cm

P 2 長軸28cm 短軸19cm 深さ53cm

P 3 長軸45cm 短軸39cm 深さ62cm

P 4 長軸105cm 短軸100cm 深さ51cm

P 5 長軸33cm 短軸31cm 深さ28cm

P 6 長軸32cm 短軸30cm 深さ28cm

埋没土 上層はローム粒、ロームブロック、焼土を少量含み、下層はロームブロック、ローム粒、焼土を含む。

出土遺物 堀之内1式(1~14)、称名寺2式(15)1点が出土した。

所 見 本竪穴建物も出土遺物は堀之内1・称名寺2式で1号竪穴建物と同様の時期にあり、柄鏡型で敷石を持つ。ちょうど柄鏡の柄の部分から円形の床面につながる部分を南北に走る1号方形周溝墓に壊されている。1号方形周溝墓の東の縁に竪穴建物の床面から10~15cm高い部分に敷石を重ねて置いてある。石はランダムに重なり、後の1号方形周溝墓を造った時にどかした可能性も多少考えられるが、不明である。この敷石をどかし、黒土を床面まで掘り下げるときP 4を確認した。本竪穴建物の入口施設か。炉は円形部のほぼ中央部に確認された。深さ23cmある炉内から深鉢(1)が確認され、縁に石が2個、1個体は土器の中から確認された。

3区3号竪穴建物(第90図・第8表・PL.52・60・89)

位 置 X=30188~191 Y=-80633~638

重複遺構 9・10号土坑と重複。土坑が新しい。

形 状 不明 主軸方位 不明

規 模 長軸(4.88)m 短軸(2.95)m 残存深度0.92m

床 面 積 (12.01)m<sup>2</sup>

炉 位 置 南部中央

炉 規 模 長軸60cm 短軸50cm 深さ21cm

柱 穴 5基確認され、規模は以下の通りである。

P 1	長軸50cm	短軸35cm	深さ23cm
P 2	長軸26cm	短軸23cm	深さ43cm
P 3	長軸40cm	短軸39cm	深さ48cm
P 4	長軸52cm	短軸51cm	深さ67cm
P 5	長軸28cm	短軸21cm	深さ79cm

**埋没土** 上層は砂質土、床面近くはローム粒を多量に含む。

**出土遺物** 堀之内1式土器片(1~6)、打製石斧片(7)が出土している。

**所見** 3区の南東隅に確認され、全体の形状は不明である。1・2号竪穴建物の時期と並行するが、本竪穴建物の床面からは敷石は確認できていない。

#### 2区4号竪穴建物(第91~94図・第8表・PL.53~55・62・63・89・90)

**位置** X=30158~165 Y=-80605~610

**重複遺構** 15号土坑と重複し、本竪穴建物が古い。

**形状** 柄鏡形 **主軸方位** N-38°-W

**規模** 長軸(6.50)m 短軸(6.00)m 残存深度0.13m

**床面積** (20.09)m<sup>2</sup>

**炉位置** 円形床の中央

**炉規模** 長軸104cm 短軸90cm 深さ48cm

**柱穴** 15基検出した。規模は以下の通りである。

P 1	長軸60cm	短軸40cm	深さ29cm
P 2	長軸47cm	短軸40cm	深さ25cm
P 3	長軸38cm	短軸37cm	深さ29cm
P 4	長軸34cm	短軸30cm	深さ26cm
P 5	長軸52cm	短軸45cm	深さ42cm
P 6	長軸(54)cm	短軸40cm	深さ44cm
P 7	長軸40cm	短軸34cm	深さ29cm
P 8	長軸(37)cm	短軸40cm	深さ43cm
P 9	長軸20cm	短軸18cm	深さ10cm
P 10	長軸38cm	短軸30cm	深さ24cm
P 11	長軸45cm	短軸39cm	深さ37cm
P 12	長軸48cm	短軸39cm	深さ50cm
P 13	長軸35cm	短軸30cm	深さ37cm
P 14	長軸25cm	短軸24cm	深さ28cm
P 15	長軸(38)cm	短軸(22)cm	深さ49cm

**埋没土** 本竪穴建物は床面で確認され、床上の覆土は白色粒、ロームブロックを多量に含む。

**出土遺物** 堀之内1式土器片(1~14)、加曾利E3式土器片(15)、加曾利E4式土器片(16)、打製石斧(17・18)、磨製石斧(19~25)等が出土している。

**所見** 捣乱や上面の土坑等で覆土は確認されていない。床面で確認した柄鏡の部分に深鉢が埋められている。がは方形に円礫で仕切られ、深鉢(1)が設置されている。がの中の深鉢の外側断面には焼土面が確認され(10・11層)、炉が一時期のものではなく、造り替えされた可能性がある。深鉢の設置は後の時期の可能性が考えられる。床面上から出土する石は円礫が多く、敷石に使われる扁平な石の出土はない。

#### 2区8号竪穴建物(第95図・第8表・PL.61・62・90)

**位置** X=30149~154 Y=-80602~607

**重複遺構** なし

**形状** 円形? **主軸方位** N-0°

**規模** 長軸5.57m 短軸(4.55)m 残存深度0.10m

**床面積** (23.96)m<sup>2</sup>

**炉位置** 中央

**炉規模** 長軸100cm 短軸95cm 深さ21cm

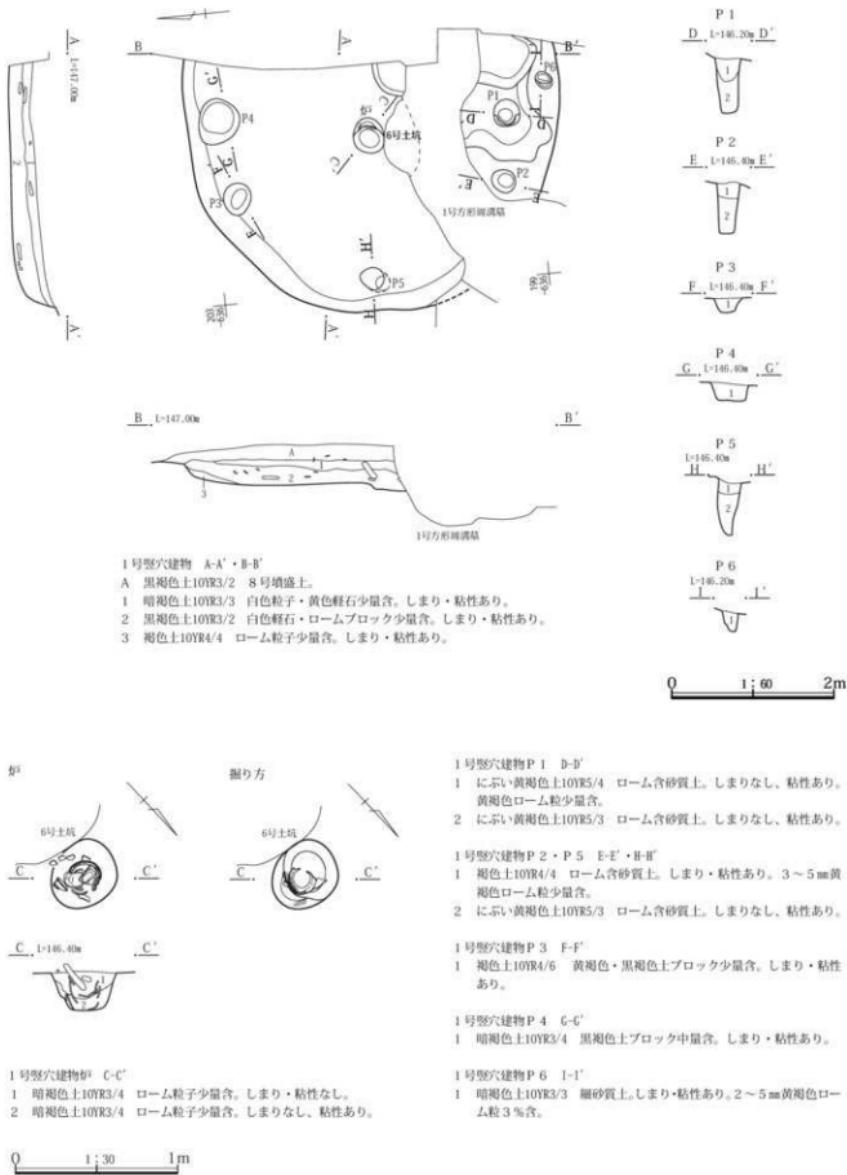
**柱穴** 9基検出した。規模は以下の通りである。

P 1	長軸35cm	短軸33cm	深さ27cm
P 2	長軸38cm	短軸35cm	深さ19cm
P 3	長軸26cm	短軸26cm	深さ25cm
P 4	長軸40cm	短軸38cm	深さ32cm
P 5	長軸50cm	短軸40cm	深さ21cm
P 6	長軸48cm	短軸45cm	深さ52cm
P 7	長軸49cm	短軸41cm	深さ72cm
P 8	長軸38cm	短軸33cm	深さ22cm
P 9	長軸33cm	短軸32cm	深さ19cm

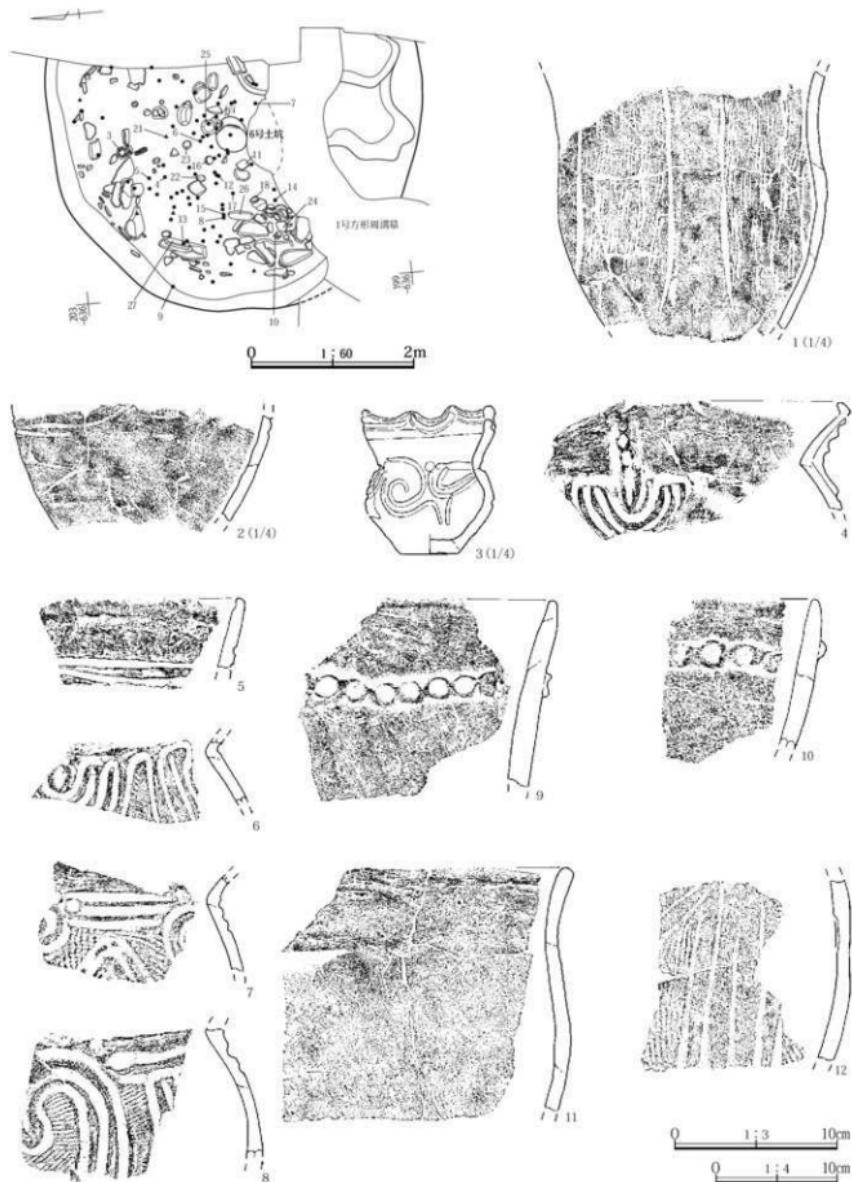
**埋没土** 上面後代の土坑により大きく撹乱を受け、古墳築造で整地を受け、さらに古墳時代前期方形周溝墓等の削平を受けたと思われる。埋没土は認識できなかった。

**出土遺物** 堀之内1式土器片(1・2)が出土している。

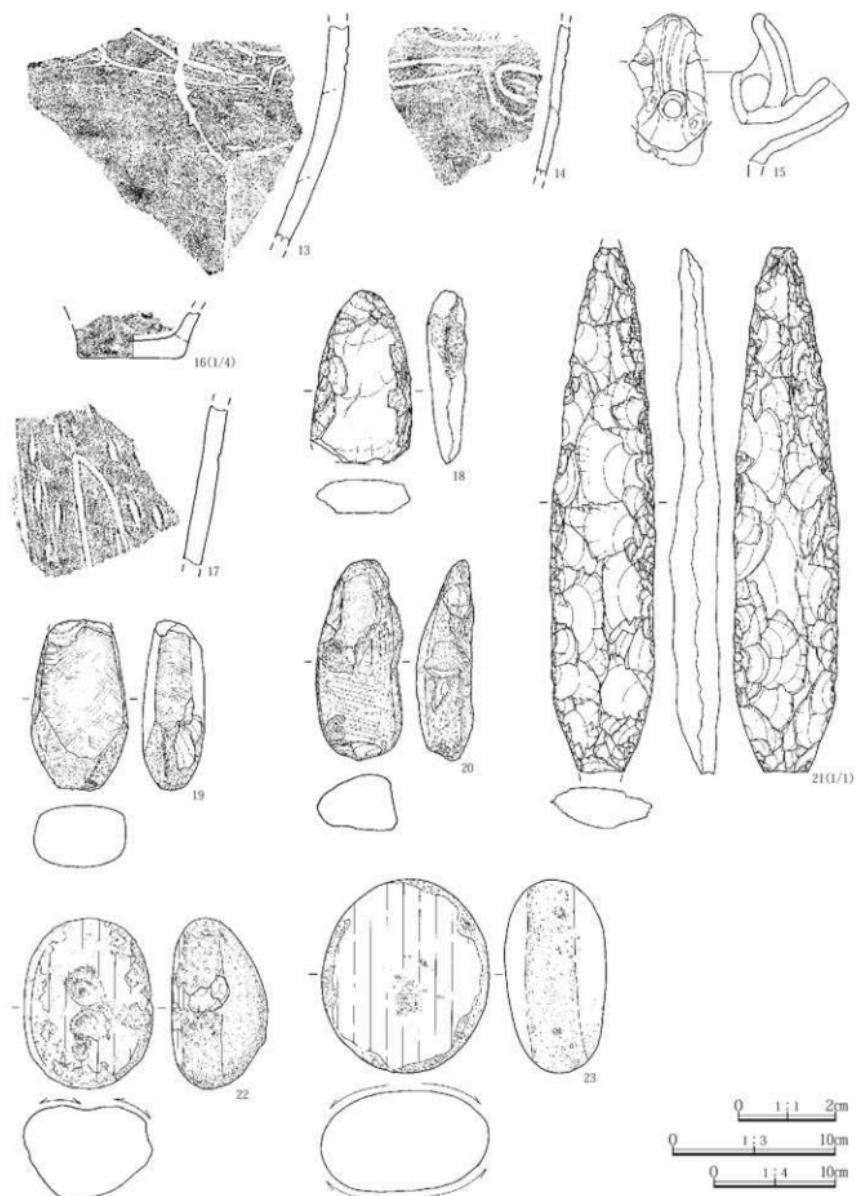
**所見** 本竪穴建物は7号墳南に位置し、古墳時代前期の方形周溝墓等の整地で削られ南に向かい傾斜していた。炉を確認し、炉を囲むように柱穴が弧を描いていたため竪穴建物とした。調査時がには土坑ナンバー、柱穴にはピットナンバーを付していた。整理時に全体図の中で整理担当が竪穴建物ナンバーを付したものである。



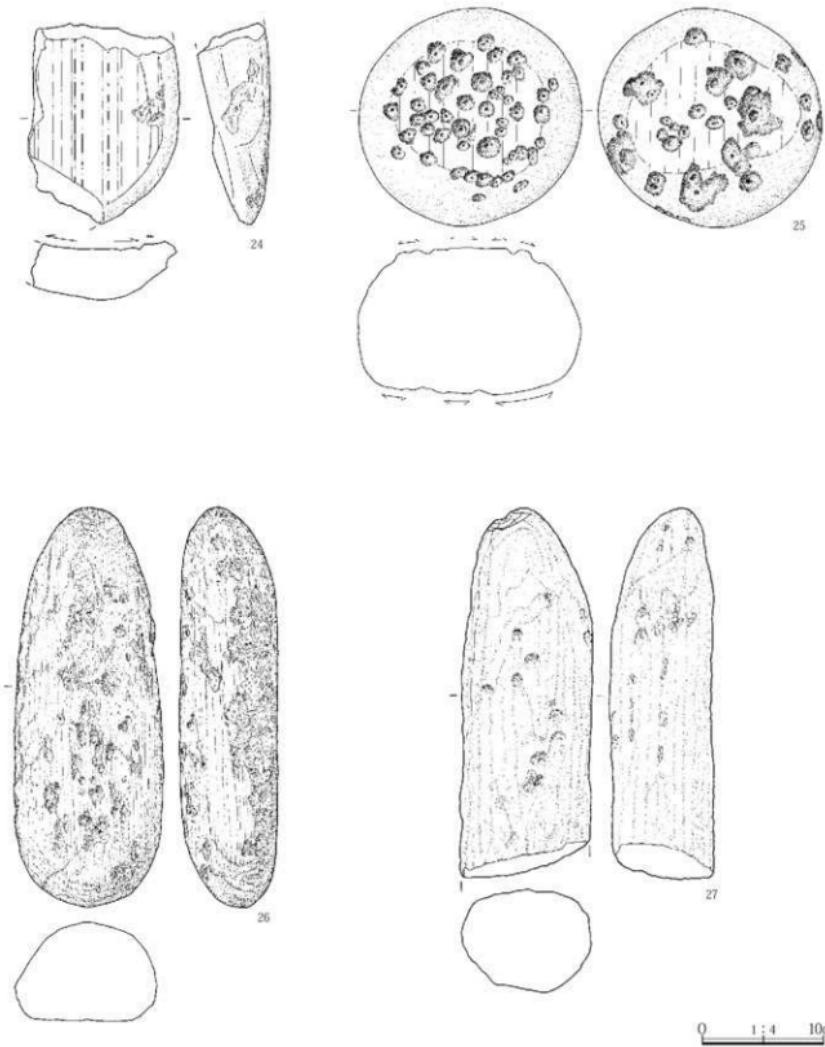
第82図 3区1号型穴建物



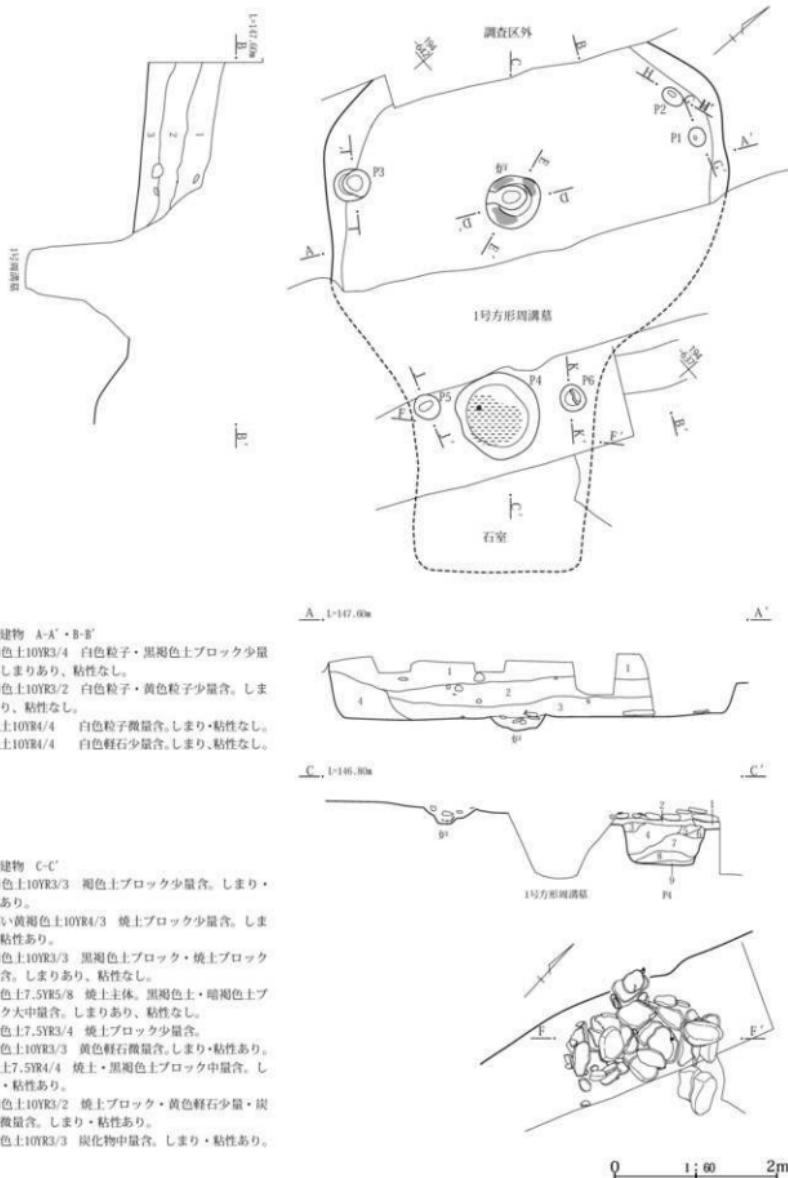
第83図 3区1号竪穴建物遺物出土位置図・出土遺物(1)



第84図 3区1号竪穴建物出土遺物(2)



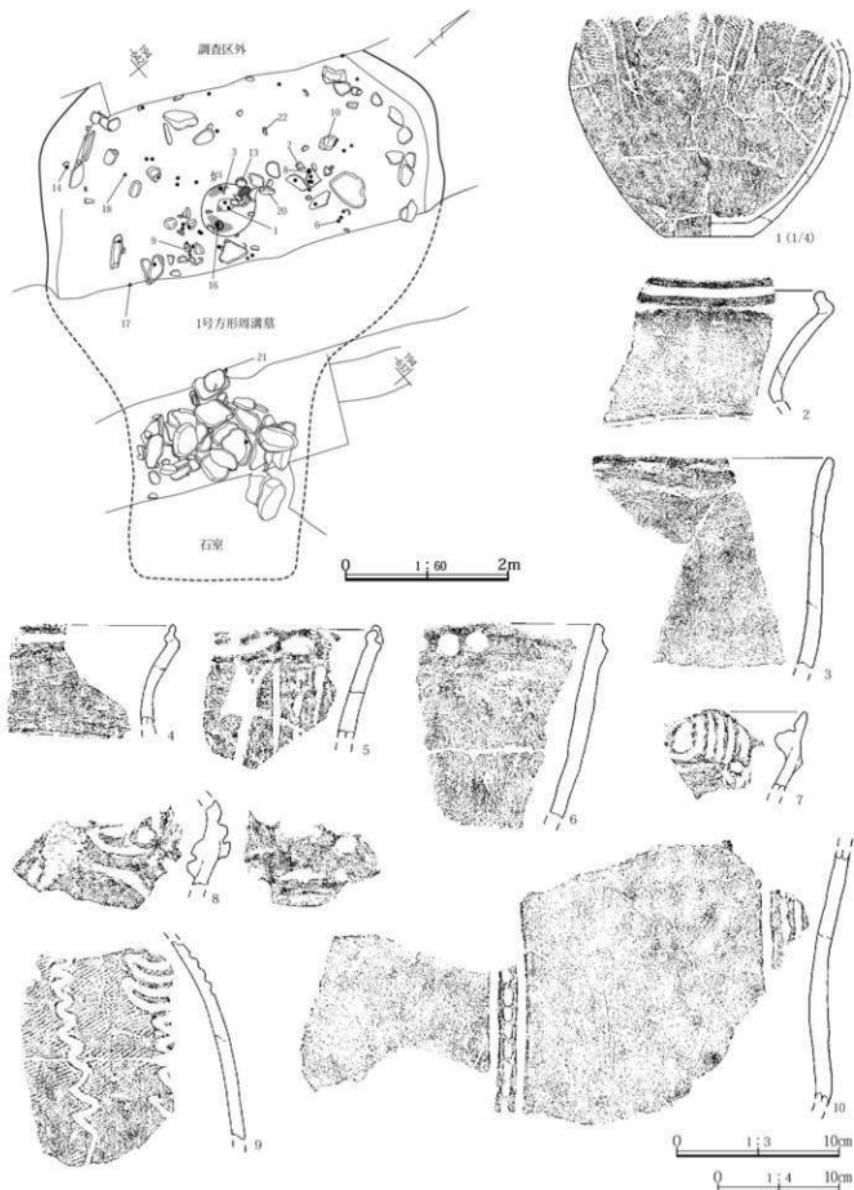
第85図 3区1号竖穴建物出土遺物(3)



第86図 3区 2号竖穴建物



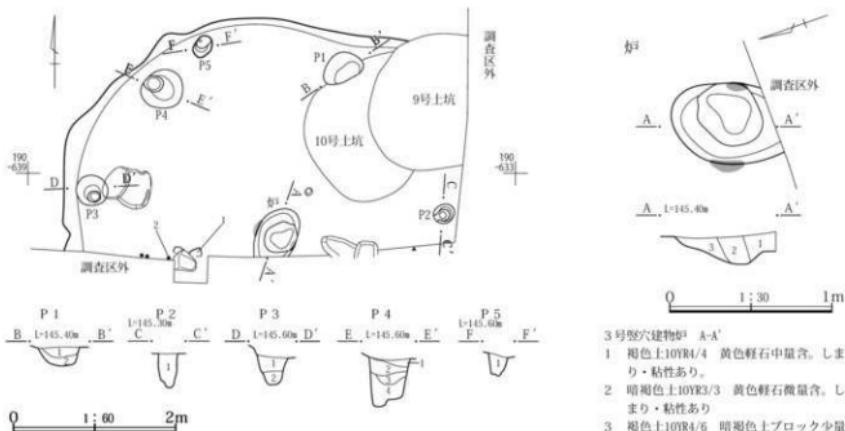
第87図 3区2号型穴建物炉、柱穴土層断面図



第88図 3区2号墳穴建物遺物出土位置図・出土遺物(1)



第89図 3区2号竪穴建物出土遺物(2)



3号竖穴建物 P1 B-B'

- 暗褐色土10YR3/3 砂質土。しまりなし、粘性あり。0.5~1cmの黄褐色砂粒2%含。
- 褐色土10YR4/4 ローム多量含砂質土。しまりなし、粘性あり。1cmの黄褐色砂粒少量含。

3号竖穴建物 P2 C-C'

- 黒褐色土10YR2/2 細砂質土。しまり・粘性あり。1~2mmの黄褐色砂粒少量含。

3号竖穴建物 P3 D-D'

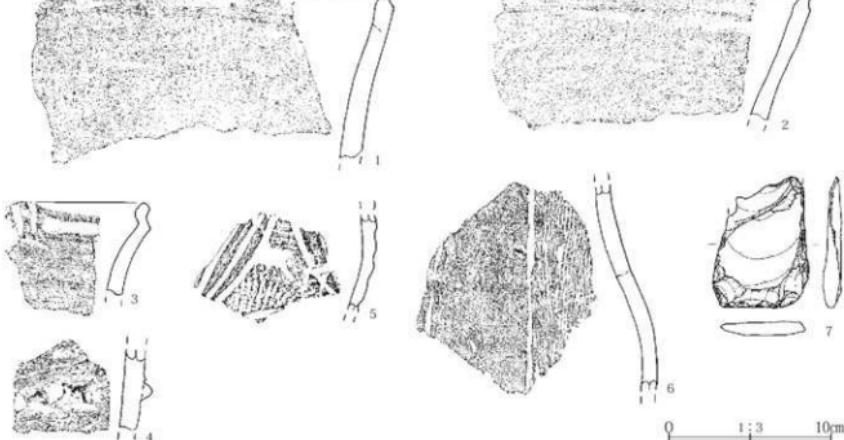
- 暗褐色土10YR3/4 砂質土。しまり・粘性あり。ローム上少量含。
- 褐色土10YR3/3 ローム含砂質土。しまり・粘性あり。

3号竖穴建物 P4 E-E'

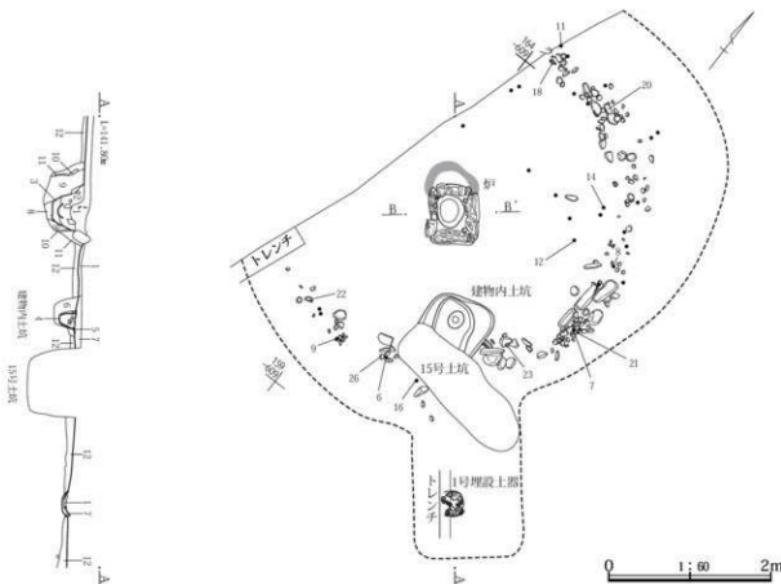
- 暗褐色土10YR3/4 砂質土。しまり・粘性あり。1cmの黄褐色砂粒少量含。
- にぶい黄褐色土10YR5/4 ローム含砂質土。しまりなし、粘性あり。
- 褐色土10YR4/4 砂含ローム土。しまり・粘性あり。
- 褐色土10YR4/6 砂含ローム土。しまり・粘性あり。4~6cmのプロック黒褐色土少量含。

3号竖穴建物 P5 F-F'

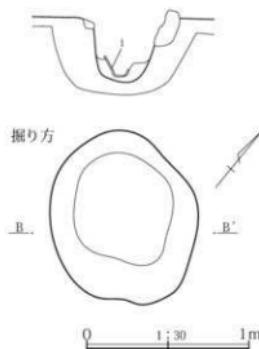
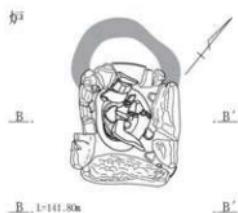
- にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム含砂質土。しまり・粘性あり。



第90図 3区 3号竖穴建物・出土遺物

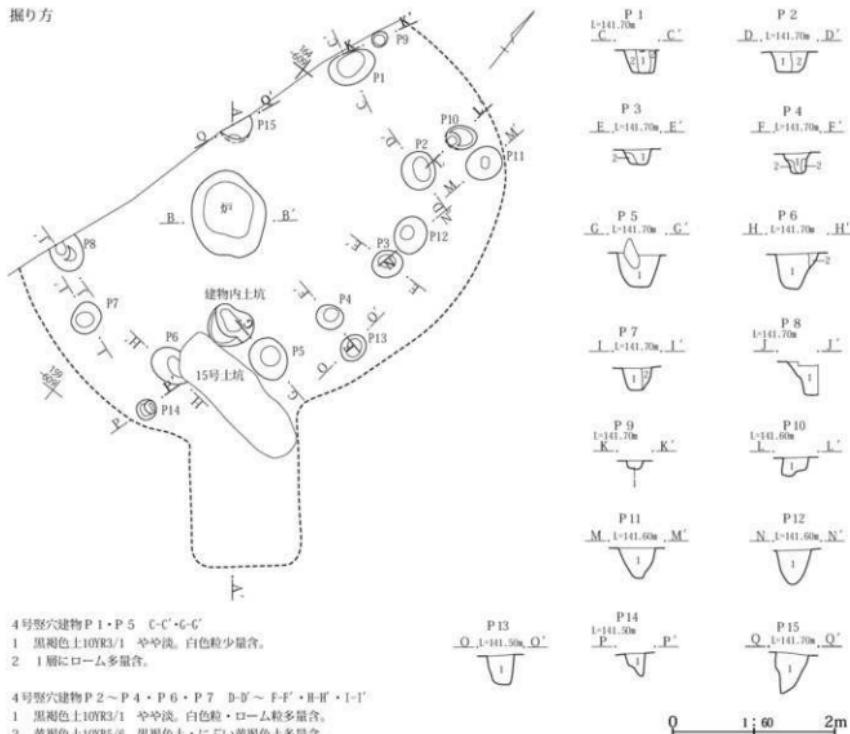


## 建物内土坑



第91図 2区 4号堅穴建物

掘り方



4号竖穴建物 P 1～P 5 C-C'・G-G'

- 1 黒褐色土10YR3/1 やや淡。白色粒少量含。
- 2 1層にローム多量含。

4号竖穴建物 P 2～P 4・P 6・P 7 D-D'～E-E'・H-H'・I-I'

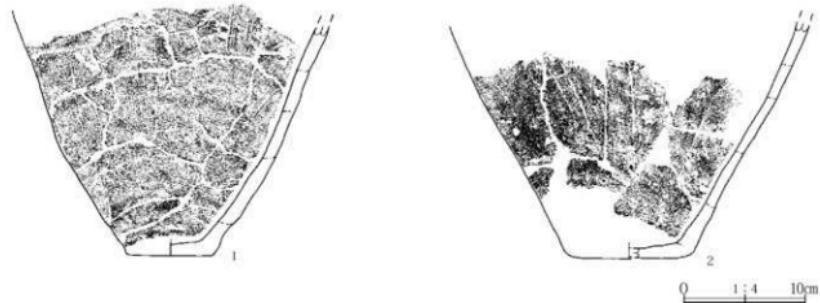
- 1 黒褐色土10YR3/1 やや淡。白色粒・ローム粒多量含。
- 2 黑褐色土10YR3/6 黑褐色土。に赤い黒褐色土多量含。

4号竖穴建物 P 8 J-J'

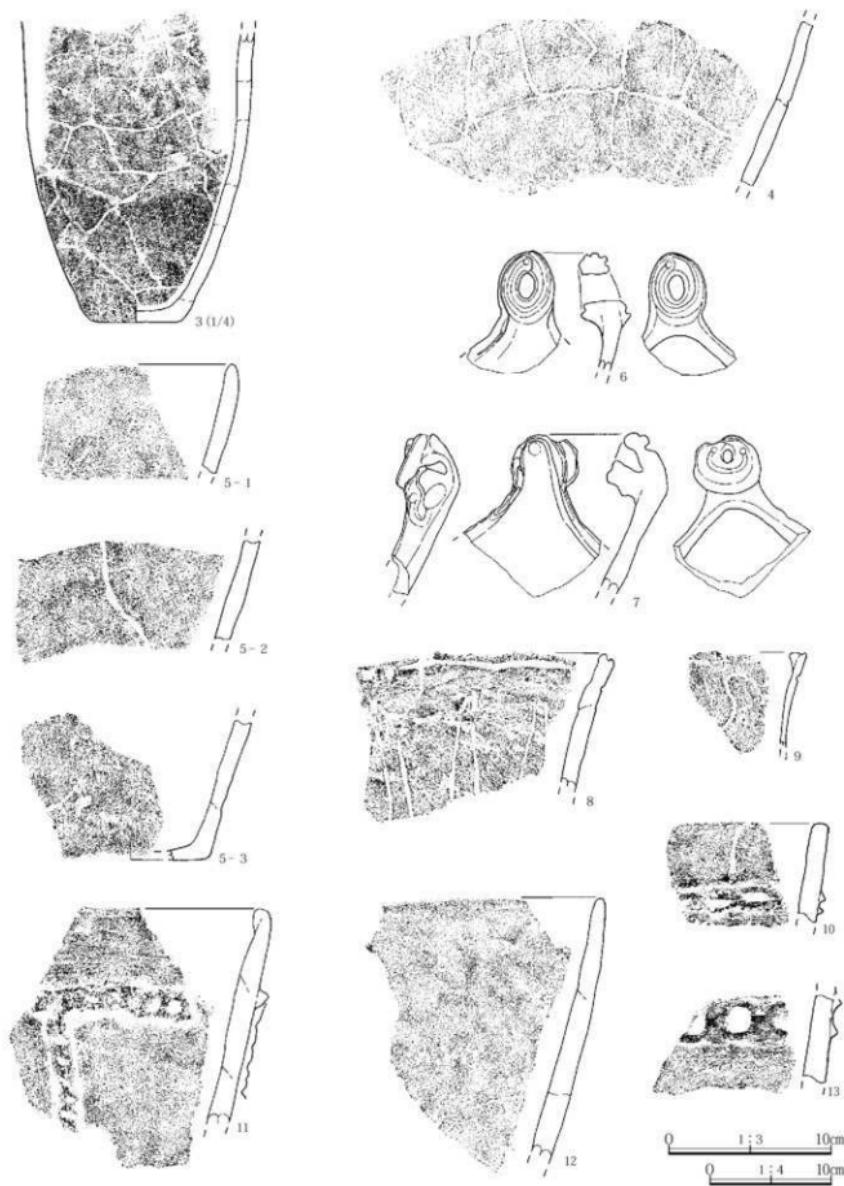
- 1 やや淡。白色粒・ローム多量、純土粒若干含。

4号竖穴建物 P 9～P 15 K-K'～Q-Q'

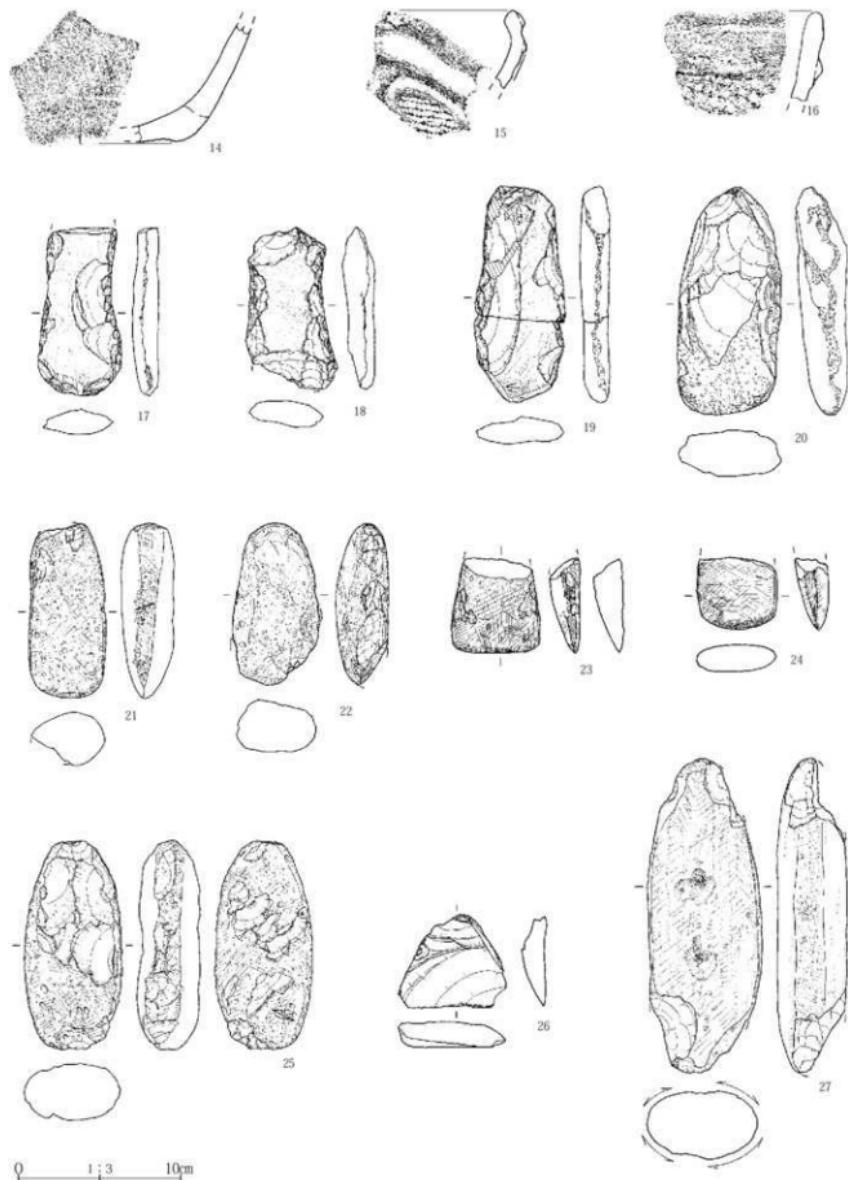
- 1 黒褐色土10YR3/1 白色粒多量、ローム少量含。



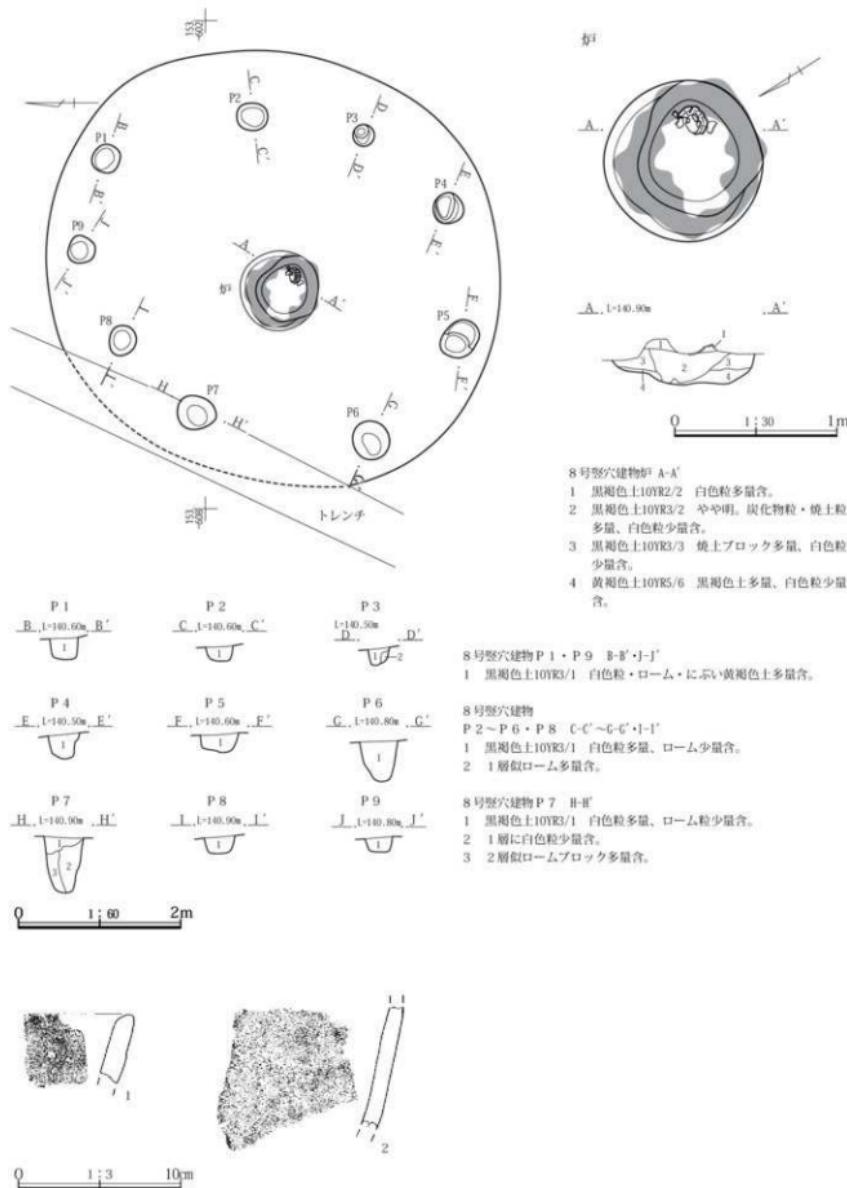
第92図 2区 4号竖穴建物掘り方・出土遺物(1)



第93図 2区 4号竪穴建物出土遺物(2)



第94図 2区4号竪穴建物出土遺物(3)



第95図 2区8号竪穴建物・出土遺物

## 5. 土坑

3区1号土坑(第96図・第9表・PL.56)

位 置 X=30217~219 Y=-80632

重複遺構 1号ピットと重複。1号土坑が旧い。

形 状 不整形

主軸方位 N-16°-E

規 模 長軸0.99m 短軸0.60m 深さ0.10m

埋没土層 ローム粒を含む。

出土遺物 なし

所 見 3区傾斜地に確認され出土遺物はない。時期は不明。

3区2号土坑(第96図・第9表・PL.56)

位 置 X=30215・216 Y=-80631・632

重複遺構 なし

形 状 円形

主軸方位 N-74°-W

規 模 長軸1.38m 短軸1.30m 深さ0.29m

埋没土層 ローム粒、ロームブロックを含む。

出土遺物 なし

所 見 時期は不明。

3区3号土坑(第96図・第9表・PL.56)

位 置 X=30213~215 Y=-80632・633

重複遺構 なし

形 状 長円形

主軸方位 N-26°-E

規 模 長軸1.80m 短軸0.68m 深さ0.08m

埋没土層 ローム粒、ロームブロックを含む。

出土遺物 なし

所 見 時期は不明。

4号土坑 欠番

1区5号土坑(第96図・第9表・PL.56・90)

位 置 X=30233・234 Y=-80572・573

重複遺構 なし

形 状 楕円形

主軸方位 N-42°-W

規 模 長軸1.04m 短軸0.95m 深さ0.43m

埋没土層 ローム粒、ロームブロックを含む。

出土遺物 剥片(1)が1点出土している。

所 見 剥片があり、縄文か。

3区6号土坑(第96図・第9表・PL.56・90)

位 置 X=30200 Y=-80633・634

重複遺構 1号竪穴建物と重複。新旧関係は不明。

形 状 楕円形

主軸方位 N-87°-W

規 模 長軸0.99m 短軸0.48m 深さ0.82m

埋没土層 ローム粒、ロームブロックを含む。

出土遺物 墓之内1式土器(1)が出土している。

所 見 遺物は1号竪穴建物と同時期ではあるが、炉の北に接し、掘り込まれている。覆土は1号竪穴建物覆土と同質のものであり、断面図を見ると土坑の掘り込みは確認できず、土坑ではなく1号竪穴建物に伴う施設か、床下土坑か。

3区7号土坑(第96図・第9表・PL.56)

位 置 X=30192・193 Y=-80635

重複遺構 なし

形 状 楕円形

主軸方位 N-2°-E

規 模 長軸1.19m 短軸0.78m 深さ0.78m

埋没土層 ローム粒を含む砂質土。

出土遺物 なし

所 見 時期は不明。

3区8号土坑(第97図・第9表・PL.56・90)

位 置 X=30193・194 Y=-80635・636

重複遺構 36号ピットと重複。新旧関係はピットが新しい。

形 状 楕円形

主軸方位 N-6°-E

規 模 長軸1.45m 短軸1.01m 深さ0.66m

埋没土層 ロームを少量含む砂質土。

出土遺物 磨製石斧(1)が出土している。

所 見 磨製石斧が1点出土するが、埋没覆土は縄文時代の遺構とは異なり、混入したものと考えられる。時

期は不明。

### 3区9号土坑(第97図・第9表・PL.56・90)

**位 置** X=30190・191 Y=-80633・634

**重複遺構** 3号竪穴建物、10号土坑と重複。9号土坑が一番新しい。

**形 状** 不明

**主軸方位** 不明

**規 模** 長軸1.62m 短軸(1.21)m 深さ0.71m

**埋没土層** 細砂質土。

**出土遺物** 堀之内1式土器片(1)が出土している。

**所 見** 9号土坑からは堀之内1式土器が出土しているが混入と考えられる。覆土等の検討から新しいものと考えられる。時期は不明である。

### 3区10号土坑(第97図・第9表・PL.56・90)

**位 置** X=30189～191 Y=-80634・635

**重複遺構** 3号竪穴建物、9号土坑と重複。10号土坑は3号竪穴建物より新しく、9号土坑より古い。

**形 状** 不明

**主軸方位** N-60°-E

**規 模** 長軸1.53m 短軸(1.40)m 深さ0.37m

**埋没土層** 細砂質土。

**出土遺物** 繩文時代後期前葉の土器(1)が出土している。

**所 見** 繩文土器が出土するが、混入と考えられる。

覆土の検討から9号土坑に近い時代と考えられる。時期は不明である。

### 11号土坑→3号竪穴建物

### 3区12号土坑(第97図・第9表・PL.56・90)

**位 置** X=30192・193 Y=-80633・634

**重複遺構** なし

**形 状** 楕円形

**主軸方位** N-65°-E

**規 模** 長軸0.93m 短軸0.57m 深さ0.25m

**埋没土層** 細砂質土層。

**出土遺物** 堀之内1式土器片(1)が出土している。

**所 見** 堀之内1式土器が出土しているが、混入と考

えられる。覆土の検討から新しい。時期は不明である。

### 2区13・14号土坑(第98図・第9表・PL.56・57・90)

**位 置** X=30139～145 Y=-80610～615

**重複遺構** 14号土坑は2号方形周溝墓、3号溝、13号土坑と重複。2号周溝との新旧関係は不明。3号溝、13号土坑が新しい。

**形 状** 楕円形

**主軸方位** N-22°-E(13号) N-75°-W(14号)

**規 模**

13号 長軸(0.48)m 短軸0.55m 深さ0.48m

14号 長軸(3.50)m 短軸4.36m 深さ0.94m

**埋没土層** 暗・黒褐色土層。

**出土遺物** 14号土坑から堀之内1式土器(2)、前期中葉以前土器片(1)が出土している。

**所 見** 13・14号土坑は7号墳を造る時の整地に伴い、繩文の配石遺構を壊してまとめたと考えた。県教育委員会の墳丘内の試掘トレーン内底部でも、配石状に石が配置されていたからである。14号土坑の上面は人の手により4個の石で組まれていた。さらに13号土坑内には墳丘内の葺石も混じり、後世に落ちたものであろう。7号墳から南に向かい、鏡川に向かって傾斜がきつくなる。雨が降れば傾斜を削ったことも考えられ、昭和時代には烟にするため遺跡内の古墳を壊した時、低いところに投げた可能性もある。

### 2区16号土坑(第99図・第9表・PL.57・91)

**位 置** X=30174～177 Y=-80592・593

**重複遺構** なし

**形 状** 楕円形

**主軸方位** N-11°-E

**規 模** 長軸(2.57)m 短軸1.29m 深さ0.81m

**埋没土層** 白色粒子、ロームブロックを含む。

**出土遺物** 堀之内1式土器片(2・3)、加曾利E3式土器片(1)が出土している。

**所 見** 繩文時代中・後期の土器が出土し、混入したものと考えられる。時期は埋没土の検討から繩文時代と考えられる。

### 第3章 検出された遺構と遺物

2区17号土坑(第99図・第9表・PL.57・91)

位 置 X=30168・169 Y=-80601・602

重複遺構 7号墳と重複。本土坑が旧い。

形 状 円形

主軸方位 N-43°-E

規 模 長軸0.82m 短軸0.75m 深さ0.22m

埋没土層 白色粒子、ローム粒を含む。

出土遺物 墓之内1式深鉢(1)が出土している。

所 見 7号墳周囲の墳丘側の中段で検出されている。古墳構築時に壊された遺構と考えられる。

18号土坑→8号竪穴建物

2区19号土坑(第99図・第9表・PL.57)

位 置 X=30155・156 Y=-80598・599

重複遺構 なし

形 状 円形

主軸方位 N-56°-W

規 模 長軸0.81m 短軸0.76m 深さ0.71m

埋没土層 白色粒、ローム粒を含む。

出土遺物 なし

所 見 2区中央東に検出され、南東方向の傾斜地で確認されている。時期は埋没土の検討から縄文時代と考えられる。

1区20号土坑(第99図・第9表・PL.57・91)

位 置 X=30205・206 Y=-80587・588

重複遺構 なし

形 状 楕円形

主軸方位 N-25°-E

規 模 長軸0.91m 短軸0.73m 深さ0.31m

埋没土層 ローム粒、ロームブロックを含む。

出土遺物 七郎内II群片(1)が出土している。

所 見 時期は出土遺物と埋没土層の検討から縄文時代中期初頭と考えられる。

1区21号土坑(第100図・第9表・PL.57・91)

位 置 X=30189～192 Y=-80592～594

重複遺構 なし

形 状 楕円形

主軸方位 N-78°-W

規 模 長軸(1.59)m 短軸2.04m 深さ0.37m

埋没土層 白色粒、ローム粒、ロームブロックを含む。

出土遺物 四石(1)、敲石(2)が出土している。

所 見 時期は不明だが、縄文期の埋没土層に似る。

1区22号土坑(第100図・第9表・PL.57)

位 置 X=30197～199 Y=-80585～587

重複遺構 105・106号ビットと重複。22号土坑が旧い。

形 状 楕円形

規 模 長軸2.23m 短軸2.07m 深さ0.58m

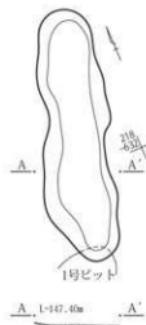
主軸方位 N-51°-E

埋没土層 白色粒子、ローム粒、ロームブロックを含む。

出土遺物 なし

所 見 時期は不明だが、縄文期の埋没土層に似る。

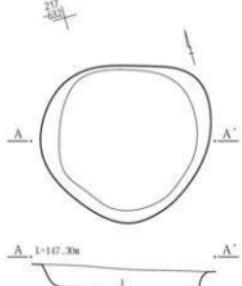
3区1号土坑



1号土坑

1 に赤い黄褐色土10YR4/1 ローム粒少量含。

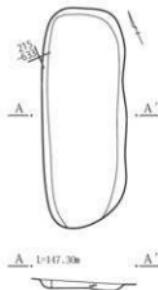
3区2号土坑



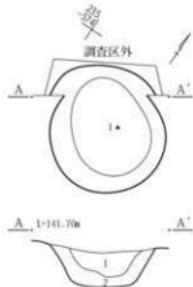
2号・3号土坑

1 に赤い黄褐色土10YR4/2 ローム粒ブロック状含。As-C? 少量含。

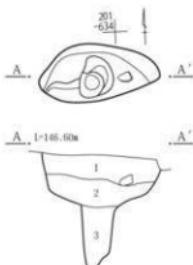
3区3号土坑



1区5号土坑

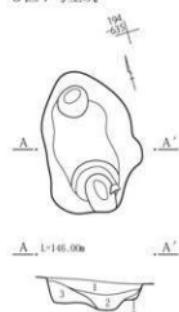


3区6号土坑

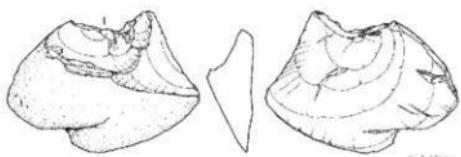


0 1:40 1m

3区7号土坑



0 1:40 1m



5号土坑

6号土坑

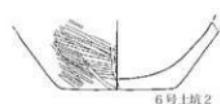
- 1 黒褐色土10YR3/2 白色・黄色粒子少量含。しまり・粘性あり。
- 2 黒褐色土10YR3/2 白色粒子微量、ロームブロック少量含。しまり・粘性あり。
- 3 黒褐色土10YR2/3 ローム粒子・ロームブロック中量含。しまり・粘性なし。

7号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/3 細砂質上。しまりなし、粘性あり。
- 2 黒褐色土10YR2/3 細砂質上。しまりなし、粘性あり。0.5~1cmの黄褐色砂礫少量含。
- 3 に赤い黄褐色土10YR3/3 ローム含砂質上。しまり・粘性あり。0.5~1cmの黄褐色砂礫少量含。



6号土坑



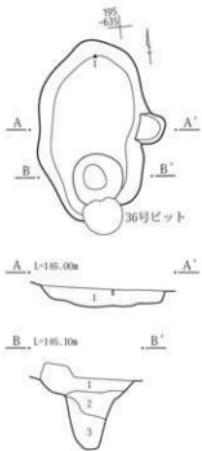
6号土坑2

0 1:3 10cm

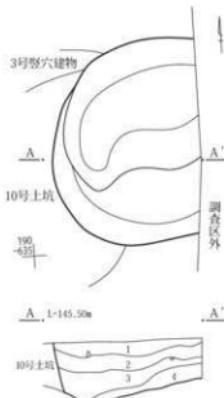
第96図 3区1号～3号・6号・7号土坑、1区5号土坑、5号・6号土坑出土遺物

### 第3章 検出された遺構と遺物

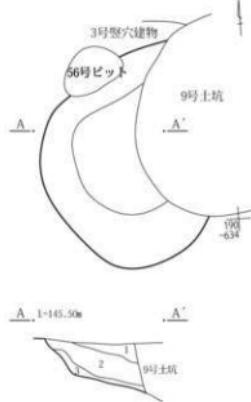
3区8号土坑



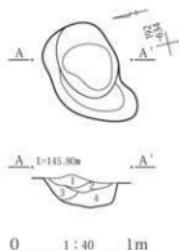
3区9号土坑



3区10号土坑



3区12号土坑



8号土坑 A-A'

1 黄褐色10YR4/4 ローム少量含砂質土。しまりあり、粘性なし。0.5~1cmの黄褐色砂粒少量含。

8号土坑 B-B'

- 1 喀褐色土10YR3/3 砂質土。しまり・粘性あり。2~3mmの黄褐色砂粒少量含。
- 2 黒褐色土10YR3/2 砂質土。しまり・粘性あり。1~2cmの黄褐色砂粒2%含。
- 3 黑褐色土10YR2/2 細砂質土。しまり・粘性あり。

9号土坑

- 1 黑褐色土10YR3/1 細砂質土。しまりなし、粘性あり。1cmの黄褐色砂粒2%含。
- 2 黑褐色土10YR2/2 細砂質土。しまりなし、粘性あり。0.5~1cmの黄褐色砂粒少量含。
- 3 黑褐色土10YR2/1 細砂質土。しまりなし、粘性あり。
- 4 にぶい黄褐色土10YR5/3 ローム多量含砂質土。しまり・粘性あり。

10号土坑

- 1 黑褐色土10YR2/2 細砂質土。しまりなし、粘性あり。
- 2 黑褐色土10YR3/1 細砂質土。しまりなし、粘性あり。5mmの黄褐色砂粒3%含。
- 3 喀褐色土10YR3/3 細砂質土。しまりなし、粘性あり。にぶい黄褐色(10YR5/3)ローム上30%含。

12号土坑

- 1 喀褐色土10YR3/3 砂質土。しまりあり、粘性なし。明黄褐色(5YR5/8)焼上4cmブロック少含量。
- 2 黑褐色土10YR3/2 砂質土。しまり・粘性なし。
- 3 黑褐色土10YR2/2 砂質土。しまりあり、粘性なし。
- 4 黑褐色土10YR2/3 砂質土。しまりあり・粘性あり。下層にぶい黄褐色6~3cmブロック含。



8号土坑1



9号土坑1



10号土坑1

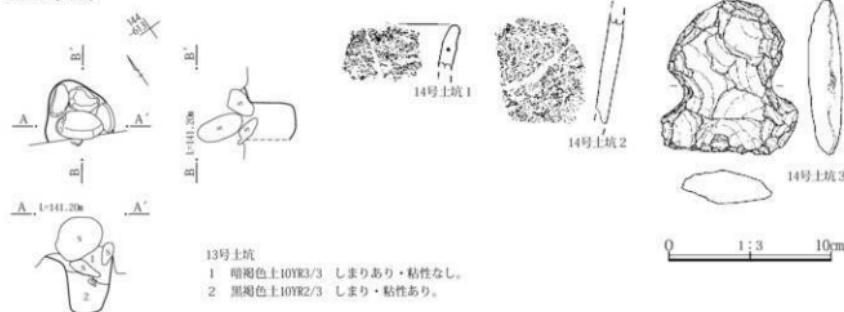


12号土坑1

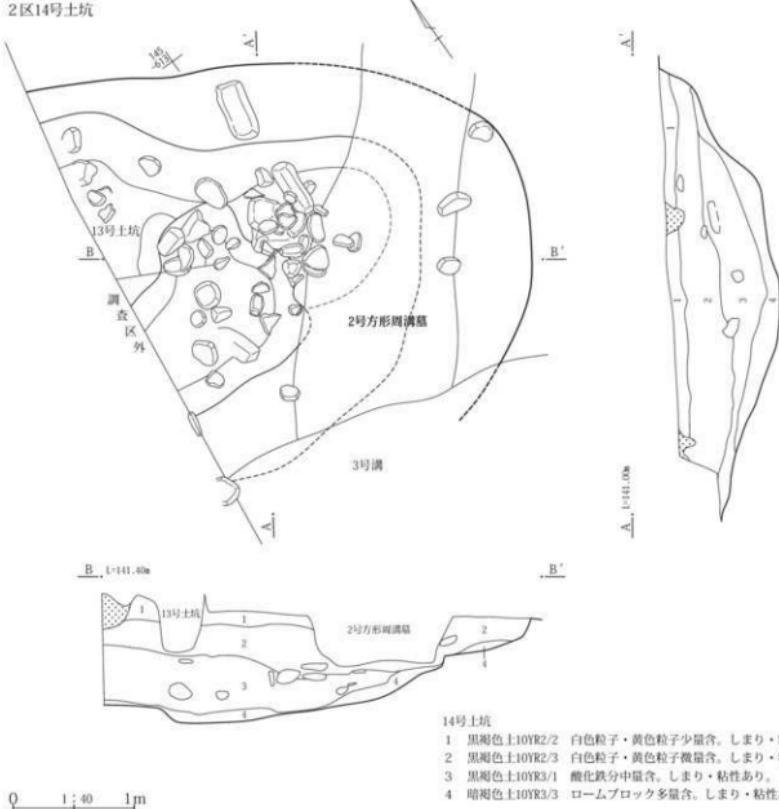
0 1:3 10cm

第97図 3区8号～10号・12号土坑、出土遺物

## 2区13号土坑

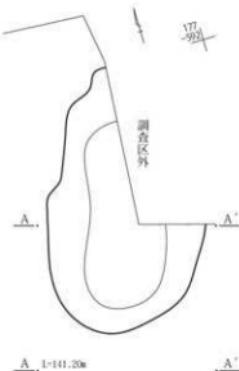


## 2区14号土坑



第98図 2区13号・14号土坑、14号土坑出土遺物

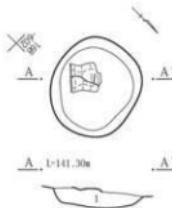
2区16号土坑



16号土坑

- 1 黒褐色土10YR2/3 白色粒子少量含。しまり・粘性あり。
- 2 喷褐色土10YR3/3 白色粒子少量含。しまり・粘性あり。
- 3 喷褐色土10YR3/3 ロームブロック少量含。しまり・粘性あり。

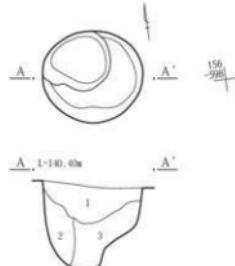
2区17号土坑



17号土坑

- 1 黄褐色土10YR5/6 黑褐色土・白色粒子多量含。

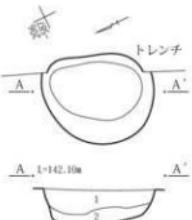
2区19号土坑



19号土坑

- 1 黒褐色土10YR2/2 白色粒子少量含。
- 2 1層似白色粒子少量含、やわらかい。
- 3 1層にローム大量含。

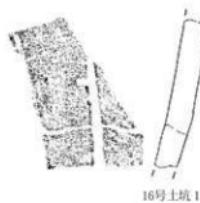
1区20号土坑



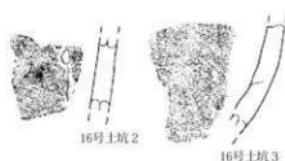
20号土坑

- 1 黒褐色土10YR2/3 黄色軽石・ローム粒子中量含。しまり・粘性あり。
- 2 暗褐色土10YR3/4 ロームブロック大、黄色軽石中量含。しまり・粘性あり。

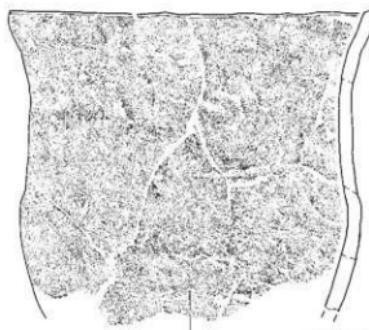
0 1:40 1m



16号土坑 1



16号土坑 3



17号土坑 1 (1/4)

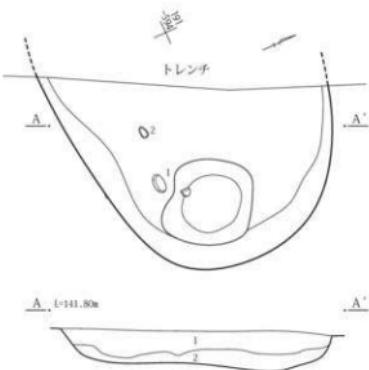


20号土坑 1

0 1:3 10cm  
0 1:4 10cm

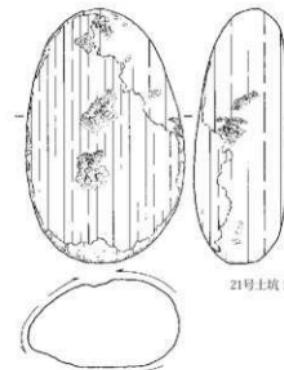
第99図 2区16号・17号・19号土坑、1区20号土坑、16号・17号・20号土坑出土遺物

1区21号土坑

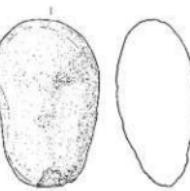


21号土坑

- 1 暗褐色土10TR3/4 白色粒子・ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。  
2 暗褐色土10TR3/4 ロームブロック小～中多量含。しまり・粘性あり。

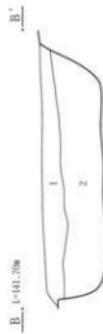
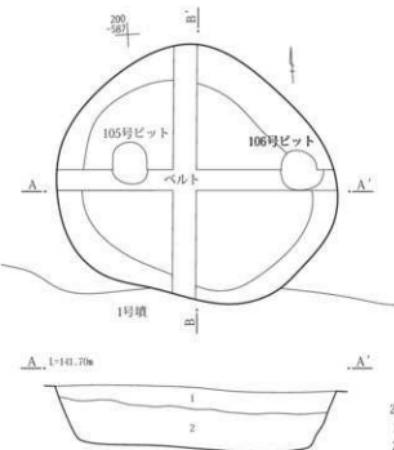


21号土坑1



21号土坑2

1区22号土坑



0 1:3 10cm

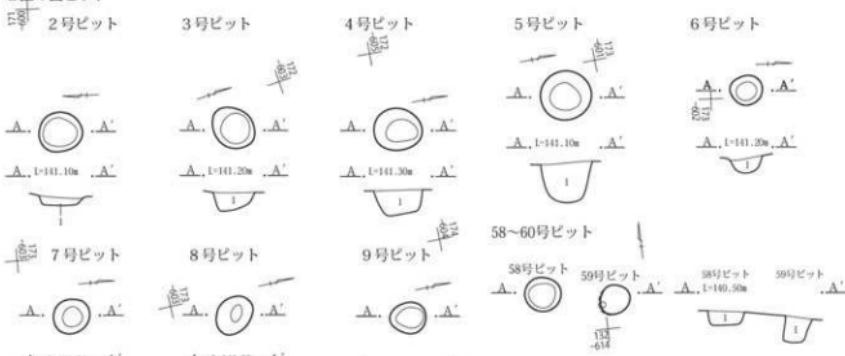
- 1 暗褐色土上10TR3/4 白色粒子・ロームブロック少量含。しまり・粘性あり。  
2 暗褐色土10TR4/4 ローム主体 暗褐色土ブロック大多量含。(地山可能性)

0 1:40 1m

第100図 1区21号・22号土坑、21号土坑出土遺物

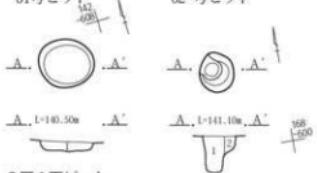
## 6. ピット

## 2区1面ピット



1 暗褐色土10YR3/3 C軽石、地山黒色土ブロック含。

## 61号ピット



## 58号ピット

1 暗褐色土10YR3/3 白色粒子・ロームブロック少量含。しまり・粘性あり。

59号ピット

1 黒褐色土10YR2/3 白色粒子・ロームブロック少量含。しまり・粘性あり。

60号ピット

1 黑褐色土10YR3/2 白色粒子・ロームブロック少量含。しまり・粘性あり。

61号ピット

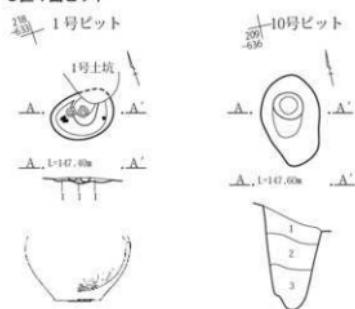
1 黑褐色土10YR3/2 白色粒子・黄色粒子・炭化物微量含。しまり・粘性あり。

62号ピット

1 黑褐色土10YR3/1 柱状。暗褐色土・ローム・白色粒子多量・小石・黄褐色粒子少量含。

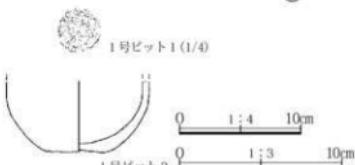
2 1層似ローム少量含。

## 3区1面ピット



## 11号ピット

## 12号ピット



## 1号ピット

1 にぶい・黄褐色土10YR4/3 ローム粒ブロック状含。赤色スコリア1～2mm少量含。

## 10号ピット

1 黄褐色土10YR4/4 ロームブロック・ローム粒子中量含。しまりあり、粘性なし。

2 暗褐色土10YR3/4 ロームブロック少量・ローム粒子中量含。しまりあり、粘性なし。

3 暗褐色土10YR3/3 ロームブロック・ローム粒子中量含。しまり・粘性あり。

## 11号ピット

1 暗褐色土10YR3/4 黄褐色輕石・砂粒中量含。しまりあり、粘性なし。

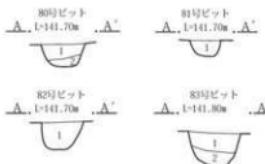
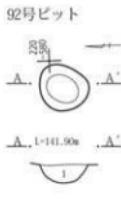
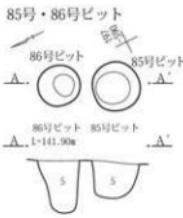
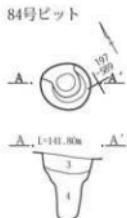
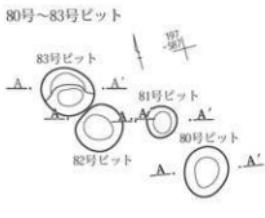
2 黄褐色土10YR4/6 砂粒少量含。しまり・粘性あり。

## 12号ピット

1 黄褐色土10YR4/6 ロームブロック・ローム粒子中量含。しまり・粘性あり。

第101図 2区・3区1面1号～12号・58号～62号ピット、1号ピット出土遺物

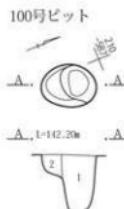
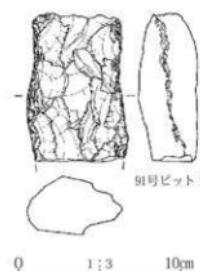
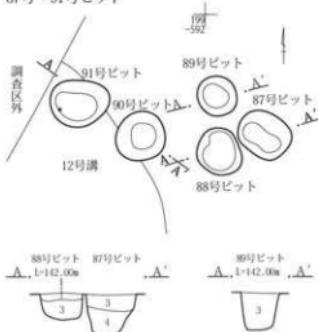
## 1区2面ピット



80号～91号ピット  
1 黒褐色土10YR2/3 砂粒・白色粒子少量含。しまり・粘性あり。  
2 黒褐色土10YR2/2 ロームブロック小微量含。しまり・粘性あり。  
3 黒褐色土10YR2/3 ロームブロック小・中量含。しまり・粘性あり。  
4 黒褐色土10YR2/3 ロームブロック中少量含。  
5 黒褐色土10YR2/2 砂粒・ロームブロック小微量含。しまり・粘性あり。

92号ピット  
1 黒褐色土10YR2/3 ロームブロック大中量、黄色軽石少量含。しまり・粘性あり。

## 87号～91号ピット



## 100号ピット

- 1 黒褐色土10YR2/3 ロームブロック小少量含。しまり・粘性あり。
- 2 暗褐色土10YR3/4 ロームブロック小中量含。しまりあり、粘性なし。

## 101号ピット

- 1 黒褐色土10YR2/3 ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。
- 2 暗褐色土10YR3/4 ロームブロック・ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。

## 102号ピット

- 1 黑褐色土10YR3/2 ロームブロック大多量含。しまり・粘性あり。
- 2 黑褐色土10YR2/3 ロームブロック小少量含。しまり・粘性あり。

## 101号ピット



## 102号ピット



0 1 : 40 1m

第102図 1区2面80号～92号・100号～102号ピット、91号ピット出土遺物

## 1区2面ピット

103号ピット

 $\Delta$ , L=141.80m,  $\Delta'$ 

103号ピット

1 黒褐色土10YR3/4 ロームブロック小量含。しまり・粘性あり。

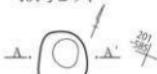
104号ピット

1 黑褐色土10YR3/2 ロームブロック中・炭化物少量含。しまり・粘性あり。  
2 喷褐色土10YR3/4 ロームブロック中少量含。しまり・粘性あり。

105号ピット

1 喷褐色土10YR3/4 砂粒・白色粒子少量含。  
2 黑褐色土10YR2/3 白色粒子微量含。しまり・粘性あり。  
3 黑褐色土10YR2/3 ロームブロック中中量含。しまり・粘性あり。

104号ピット

 $\Delta$ , L=140.70m,  $\Delta'$ 

104号ピット

1 黑褐色土10YR3/4 ロームブロック中・炭化物少量含。しまり・粘性あり。

2 喷褐色土10YR3/4 ロームブロック中少量含。しまり・粘性あり。

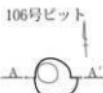
105号ピット

 $\Delta$ , L=141.70m,  $\Delta'$ 

105号ピット

1 黑褐色土10YR2/3 白色粒子・砂粒・炭化粒子少量含。しまり・粘性あり。

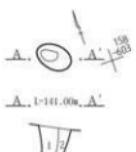
2 黑褐色土10YR2/3 砂粒・炭化粒子微量含。しまり・粘性あり。

 $\Delta$ , L=141.60m,  $\Delta'$ 

106号ピット

## 2区2面ピット

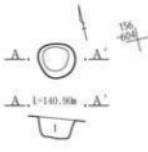
63号ピット



63号ピット

1 黑褐色土10YR3/1 柱  
痕。白色粒子多量含。  
2 1層似ローム多量含。

64号ピット



64号ピット

1 黑褐色土10YR3/1  
白色粒子多量、ローム  
少量含。

65号ピット



65号ピット

1 黑褐色土10YR3/1 白色粒多量、  
白色粘質ブロック上・ローム・鉄  
分沈着少量含。

73号ピット

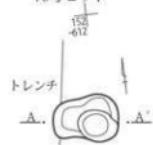
75号ピット

 $\Delta$ , L=141.20m,  $\Delta'$ 

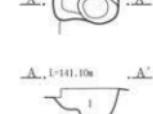
76号ピット

 $\Delta$ , L=140.90m,  $\Delta'$ 

79号ピット



79号ピット

73号・76号ピット  
1 黑褐色土10YR3/1 白色粒・ローム多  
量含。 $\Delta$ , L=141.10m,  $\Delta'$ 

75号ピット

1 黑褐色土10YR3/1 白色粒多、ローム  
少量含。

79号ピット

1 黑褐色土10YR3/1 白色粒・ロームブ  
ロック多量含。

0 1:40 1m

第103図 1区・2区2面63号～65号・73号・75号・76号・79号・103号～106号ピット

## 3区2面ピット

## 13号ピット



## 13号ピット

- 1 黒褐色土10YR2/3 砂質土。しまり・粘性あり。2~3mmのローム粒3%含。
- 2 にふい黄褐色土10YR5/4 ローム含砂質土。しまりなし、粘性あり。1層上層含。

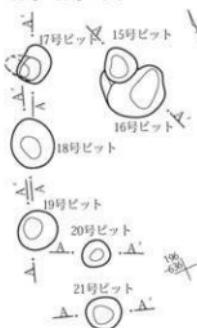
## 15号ピット

- 1 喷褐色土10YR3/4 細砂質土。しまり・粘性なし。
- 2 黄褐色土10YR5/6 ローム土。しまりなし、粘性あり。1層上30%含。

## 16号ピット

- 1 喷褐色土10YR3/4 細砂質土。しまり・粘性あり。黄褐色ローム土10%含。
- 2 喷褐色土10YR3/3 細砂質土。しまり・粘性あり。
- 3 にふい黄褐色土10YR5/3 ローム土。しまりなし、粘性あり。2層上20%含。

## 15号~21号ピット



## 15号ピット・16号ピット

 $\Delta, \Delta', L=146.30m$ 

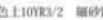
## 18号ピット

 $\Delta, \Delta', L=146.30m$ 

## 20号ピット

 $\Delta, \Delta', L=146.30m$ 

## 21号ピット

 $\Delta, \Delta', L=146.30m$ 

## 17号ピット

 $\Delta, \Delta', L=146.40m$ 

## 19号ピット

 $\Delta, \Delta', L=146.40m$ 

## 17号ピット

- 1 黒褐色土10YR2/3 細砂質土。しまり・粘性なし。

- 2 黒褐色土10YR3/2 細砂質土。しまりなし、粘性あり。

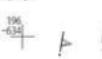
## 18号・19号ピット

- 1 褐褐色土10YR4/4 砂質土。しまり・粘性なし。
- 2 喷褐色土10YR3/2 砂質土。しまり・粘性なし。0.5~1cmの明黄色褐色砂粒40%含。
- 3 にふい黄褐色土10YR4/3 細砂質土。しまり・粘性なし。0.5~1cmの黄褐色砂粒10%含。

## 20号・21号ピット

- 1 にふい黄褐色土10YR4/3 細砂質土。しまり・粘性なし。
- 2 喷褐色土10YR3/4 砂質土。しまり・粘性あり。
- 3 黑褐色土10YR2/3 細砂質土。しまり・粘性あり。

## 25号~29号・35号ピット



## 35号ピット

 $\Delta, \Delta', L=145.90m$ 

## 25号ピット・26号ピット

 $\Delta, \Delta', L=145.90m$ 

## 27号ピット

 $\Delta, \Delta', L=145.90m$ 

## 35号ピット

 $\Delta, \Delta', L=145.90m$ 

## 26号ピット

 $\Delta, \Delta', L=145.90m$ 

## 29号ピット

 $\Delta, \Delta', L=145.90m$ 

## 25号・26号ピット

- 1 喷褐色土10YR3/3 細砂質土。しまり・粘性あり。1~2mmの黄褐色砂粒少量含。
- 2 にふい黄褐色土10YR5/4 細砂質土。しまり・粘性あり。

## 27号・29号ピット

- 1 喷褐色土10YR3/4 細砂質土。しまり・粘性あり。
- 2 喷褐色土10YR3/3 細砂質土。しまり・粘性あり。

## 28号ピット

- 1 喷褐色土10YR3/4 細砂質土。しまりなし、粘性あり。

- 2 黄褐色土10YR4/4 ローム含砂質土。しまり・粘性あり。

## 35号ピット

- 1 黒褐色土10YR2/3 細砂質土。しまり・粘性あり。

- 2 黑褐色土10YR2/3 細砂質土。しまり・粘性あり。1~2mmの黄褐色砂粒少量含。

0 1:40 1m

第104図 3区2面13号・15号~21号・25号~29号・35号ピット

## 3区2面ピット

22号～24号・30号～34号・36号～39号ピット



## 22号ピット

1 黒褐色土10YR2/2 細砂質土。しまり・粘性あり。

## 23号ピット

1 黄褐色土10YR3/3 細砂質土。しまり・粘性あり。0.5～1cmの黄褐色砂粒2%含む。

2 黑褐色土10YR3/2 細砂質土。しまり・粘性あり。1～2cmの黄褐色砂粒少量含む。

## 24号ピット

1 黄褐色土10YR3/4 細砂質土。しまり・粘性あり。2～3mmの黄褐色砂粒2%含む。

2 にぶい黄褐色土10YR5/4 ローム含砂質土。しまりなし・粘性あり。1cmの黄褐色砂粒少量含む。

## 30号ピット

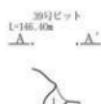
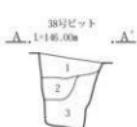
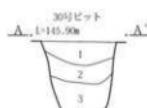
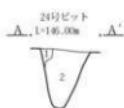
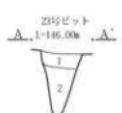
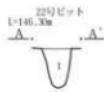
1 黄褐色土10YR3/4 細砂質土。しまり・粘性あり。

2 黄褐色土10YR3/3 細砂質土。しまり・粘性あり。0.1～1cmの黄褐色、白色砂粒少量含む。

3 褐色土10YR4/4 ローム含砂質土。しまり・粘性あり。1～2cmの黄褐色砂粒5%含む。

## 31号～34号ピット

1 黑褐色土10YR3/2 細砂質土。しまり・粘性あり。



## 36号ピット

1 黒褐色土10YR2/3 黒ボク上。しまり・粘性あり。

2 褐色土10YR4/4 ローム上。しまり・粘性あり。

## 37号ピット

1 黄褐色土7.5YR3/3 黒ボク上。しまり・粘性あり。

## 38号ピット

1 黄褐色土10YR3/3 細砂質土。しまり・粘性あり。

2 黄褐色土10YR3/4 細砂質土。しまり・粘性あり。ローム上少量含む。

3 にぶい黄褐色土10YR4/3 ローム上多量含砂質土。しまり・粘性あり。

## 39号ピット

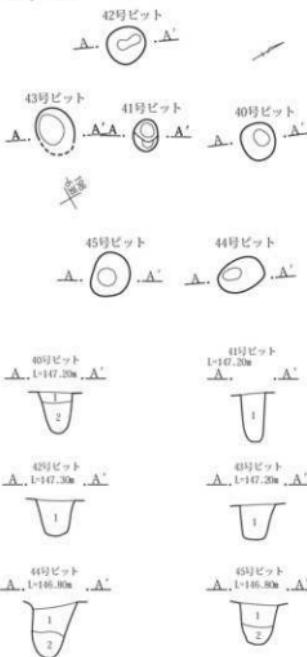
1 黑褐色土10YR3/2 細砂質土。しまり・粘性あり。0.5～1cmの黄褐色砂粒2%含む。



第105図 3区2面22号～24号・30号～34号・36号～39号ピット

## 3区2面ピット

40号～45号ピット



## 40号ピット

- 1 黒褐色土10YR4/4 砂質土。しまりなし、粘性あり。
- 2 喷褐色土10YR3/4 砂質土。しまりなし、粘性あり。

## 41号ピット

- 1 喷褐色土10YR3/4 細砂質土。しまり・粘性なし。0.5~1cmの黄褐色砂粒少量化。

## 42号ピット

- 1 黒褐色土10YR3/2 細砂質土。しまり・粘性なし。黄褐色ローム土ブロック状10%含。

## 43号ピット

- 1 喷褐色土10YR3/3 細砂質土。しまり・粘性なし。1cmの黄褐色砂粒少量化。

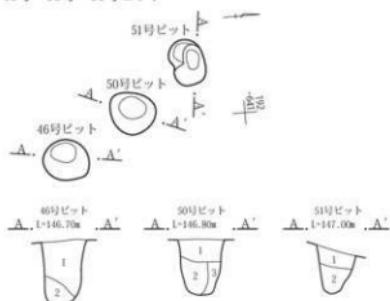
## 44号ピット

- 1 喷褐色土7.5YR3/4 細砂質土。しまり・粘性あり。1cmの黄褐色砂粒少量化。
- 2 喷褐色土10YR3/4 細砂質土。しまり・粘性あり。

## 45号ピット

- 1 黒褐色土10YR3/2 細砂質土。しまり・粘性あり。1mmの黄褐色白色鉱石少量化。
- 2 黑褐色土10YR4/4 細砂質土。しまり・粘性あり。ローム土少量化。

## 46号・50号・51号ピット



## 46号ピット

- 1 黒褐色土7.5YR3/2 砂質土。しまり・粘性あり。5mmの黄褐色砂粒少量含。
- 2 黑褐色土10YR3/2 砂質土。しまり・粘性あり。ローム土含。

## 50号ピット

- 1 喷褐色土10YR3/4 細砂質土。しまり・粘性あり。
- 2 黑褐色土10YR2/3 細砂質土。しまり・粘性あり。1~3mmの黄褐色砂粒少量含。
- 3 黑褐色土10YR3/2 細砂質土。しまり・粘性あり。0.5~1cmの黄褐色砂粒2%含。

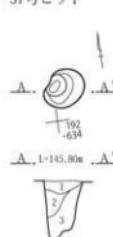
## 51号ピット

- 1 黑褐色土10YR3/4 細砂質土。しまり・粘性あり。1~2mmの黄褐色砂粒少量含。
- 2 喷褐色土10YR3/1 細砂質土。しまり・粘性あり。

## 52号ピット



## 57号ピット



## 52号ピット

- 1 喷褐色土10YR3/3 細砂質土。しまり・粘性あり。1~2mmの黄褐色砂粒少量含。
- 2 喷褐色土10YR3/3 細砂質土。しまり・粘性あり。

## 57号ピット

- 1 喷褐色土10YR3/4 細砂質土。しまり・粘性あり。黄褐色ローム土少量含。
- 2 喷褐色土10YR3/3 砂質土。しまり・粘性あり。1~3mmの黄褐色砂粒少量含。
- 3 にぶい黄褐色土10HR4/3 砂質土。しまり・粘性あり。ローム土少量含。

0 1:40 1m

第106図 3区2面40号～46号・50号～52号・57号ピット

## 7. 溝

2区3号溝(第107図・第6表・PL.64)

位 置 X=30139~141 Y=-80608~614

重複遺構 5号墳・14号土坑、2号方形周溝墓。新旧関係は5号墳、14号土坑、周溝墓より3号溝が新しい。

断面形状 舟鉢形 走 向 西→東

主軸方位 N-76°-W

規 模 長さ(4.40)m 最大幅0.95m 最小幅0.70m  
深さ10~41cm。

埋没土層 溝内にはAs-Bが確認されている。

所 見 走向は尾根の南北傾斜に交差している。

2区4号溝(第107図・第6表・PL.64・91)

位 置 X=30123~125 Y=-80609~616

重複遺構 4号方形周溝墓、5号墳。新旧関係は4号溝が新しい。

断面形状 三日月形。 走 向 西→東

主軸方位 N-75°-W

規 模 長さ(7.35)m 最大幅1.07m 最小幅0.66m  
深さ29~45cm

埋没土層 As-Aが混入する。

所 見 3号溝とほぼ同じ走向である。

遺物概要 断面四角の先端が尖る棒状品(2)と、断面長方形の板状品(3)が出土している。棒状品は工具の一部と考えている。

1区5号溝(第108図・第6表・PL.64)

位 置 X=30219~220 Y=-80577~581

重複遺構 なし

断面形状 台形 走 向 西→東

主軸方位 N-83°-W

規 模 長さ(3.90)m 最大幅1.33m 最小幅0.80m  
深さ28~34cm

埋没土層 ローム粒を含む砂質土。

所 見 尾根上を走る台形の掘り込みを持つ。

2区6号溝(第108図・第6表・PL.64)

位 置 X=30114~120 Y=-80609~614

重複遺構 5号墳。新旧関係は6号溝が新しい。

断面形状 台形 走 向 北西→南東

主軸方位 N-37°-W

規 模 長さ(8.10)m 最大幅0.51m 最小幅0.37m  
深さ21~26cm

時 期 不明。

2区7号溝(第109図・第6表・PL.64)

位 置 X=30108~110 Y=-80616~620

重複遺構 なし

断面形状 台形 走 向 西→東

主軸方位 N-75°-E

規 模 長さ(4.20)m 最大幅0.86m 最小幅0.56m  
深さ23~34cm

埋没土層 ローム粒、ロームブロックを含む。

所 見 尾根に直交して、東西方向に走る。

2区8号溝(第109図・第6表)

位 置 X=30111~118 Y=-80615~618

重複遺構 5号墳。新旧関係は8号溝が新しい。

断面形状 台形 走 向 北→南

主軸方位 N-16°-W

規 模 長さ7.58m 最大幅1.03m 最小幅0.64m  
深さ18~53cm

埋没土層 ローム粒、ロームブロックを含む。

所 見 尾根に沿い南北方向に走る。

2区9号溝(第109図・第6表・PL.64)

位 置 X=30150~159 Y=-80599~602

重複遺構 7号墳。新旧関係は9号溝が新しい。

断面形状 台形 走 向 北東→南西

主軸方位 N-23°-E

規 模 長さ9.64m 最大幅0.30m 最小幅0.21m  
深さ11~16cm

埋没土層 ロームブロック、白色粒子を含む。

所 見 尾根に対してほぼ傾斜に沿い走る。

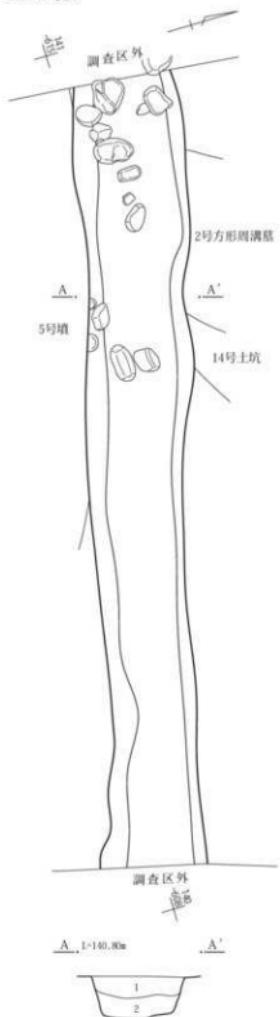
1区10号溝(第110図・第6表・PL.64・91)

位 置 X=30205~212 Y=-80581~584

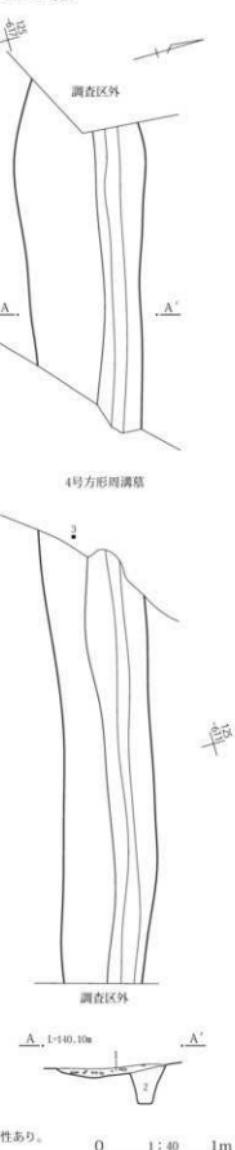
重複遺構 7号竪穴建物。新旧関係は10号溝が新しい。

断面形状 台形 走 向 北→南→東に蛇行

2区3号溝



2区4号溝



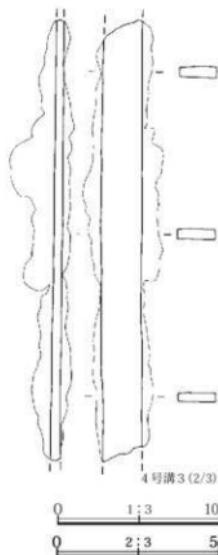
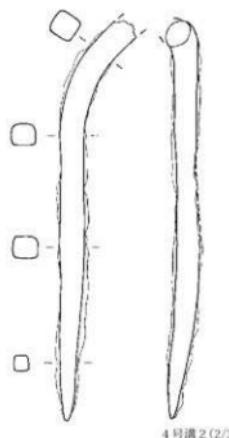
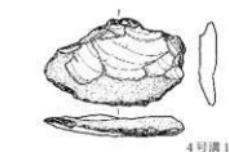
3号溝

- 1 黒褐色土10YR2/3 As-B粗粒多量含。しまり・粘性あり。
- 2 黒褐色土10YR2/2 As-B細粒多量含。しまり・粘性あり。

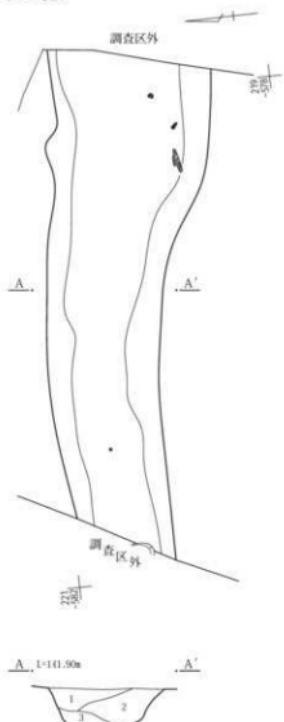
4号溝

- 1 黒褐色土10YR3/2 砂中多量、As-A・砂粒中量含。しまり・粘性あり。
- 2 黒褐色土10YR3/2 As-A・砂粒少量含。しまり・粘性あり。

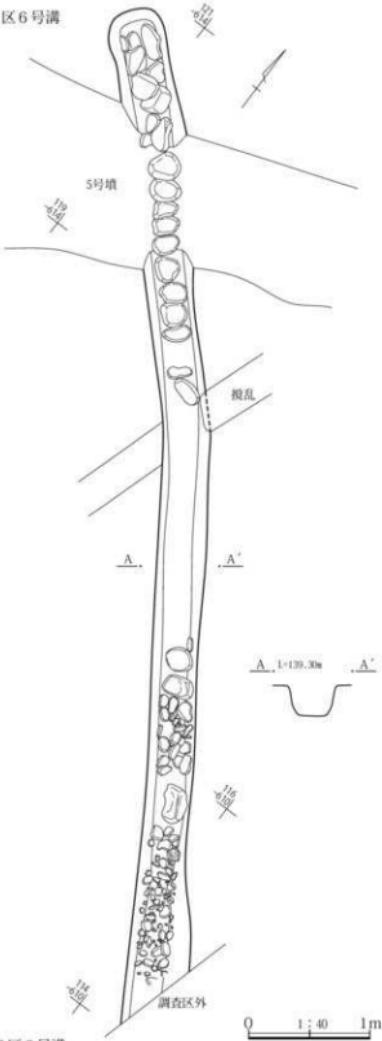
第107図 2区3号・4号溝、4号溝出土遺物



1区5号溝



2区6号溝



5号溝

- 黒褐色土10YR3/2 砂質上。1~3cmの風化明黄褐色砂礫少量含。しまり・粘性あり。
- 暗褐色土10YR3/3 砂質上。明黄褐色ローム土3~10cmのブロック10%、1~3cm風化明黄褐色砂礫2%混。しまり・粘性あり。
- にぶい黄褐色土10YR5/4 明黄褐色ローム土。暗褐色砂質土混。しまり・粘性あり。

第108図 1区5号・2区6号溝

主軸方位 N-60°-W

規 模 長さ(8.05)m 最大幅1.65m 最小幅0.95m  
深さ22~59cm

埋没土層 ローム粒、ロームブロックを含む。

所 見 時期不明、礫混入。

1区11号溝(第111図・第6表・PL.91)

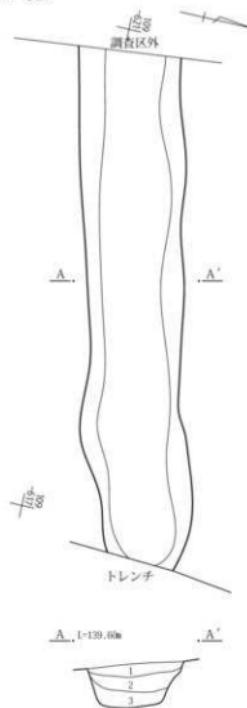
位 置 X=30187~189 Y=80591~598

重複遺構 なし

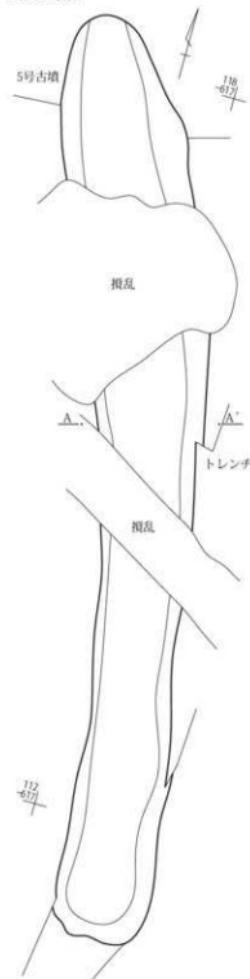
断面形状 半円形

走 向 西~東

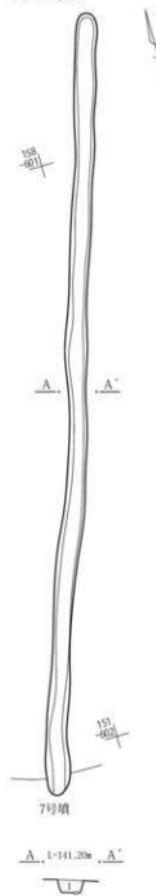
2区7号溝



2区8号溝



2区9号溝



7号溝

- 1 暗褐色土10YR3/3 ロームブロック・ローム粒子・白色粒子中量含。しまり・粘性あり。
- 2 黒褐色土10YR3/2 ロームブロック・ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。
- 3 暗褐色土10YR3/3 ロームブロック多量含。しまり・粘性あり。

8号溝

- 1 暗褐色土10YR3/3 ロームブロック・ローム粒子・白色粒子中量含。しまり・粘性あり。
- 2 黒褐色土10YR3/2 ロームブロック・ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。
- 3 暗褐色土10YR3/3 ロームブロック多量含。しまり・粘性あり。



9号溝

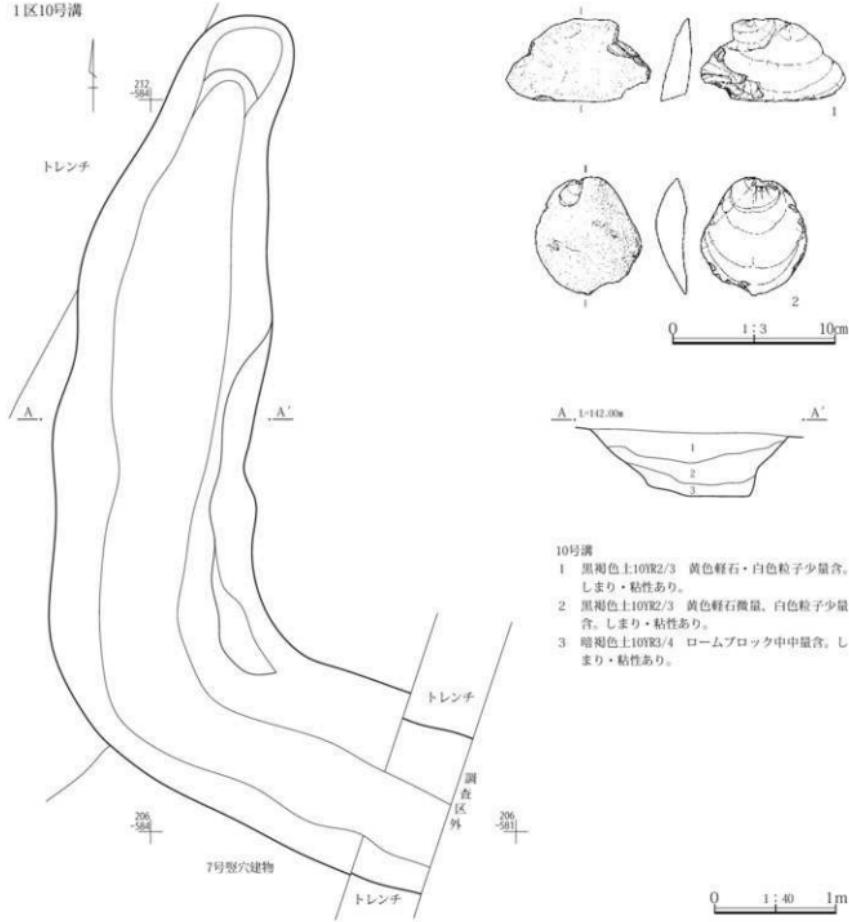
- 1 暗褐色土10YR3/3 ロームブロック・白色粒子少量含。しまり・粘性あり。

0 1:40 1m

0 1:60 2m

第109図 2区7号～9号溝

1区10号溝



第110図 1区10号溝・出土遺物

主軸方位 N-82°-W

規 模 長さ(7.17)m 最大幅1.48m 最小幅0.50m

深さ15~41cm

埋没土層 ローム粒、ロームブロックを含む。

所 見 時期不明、打製石斧(2)、磨石(3)混入。

1区12号溝(第111図・第6表・PL.64)

位 置 X=30195~198 Y=-80592~593

重複遺構 なし

断面形状 半円形 走 向 北~南

主軸方位 N-21°-W

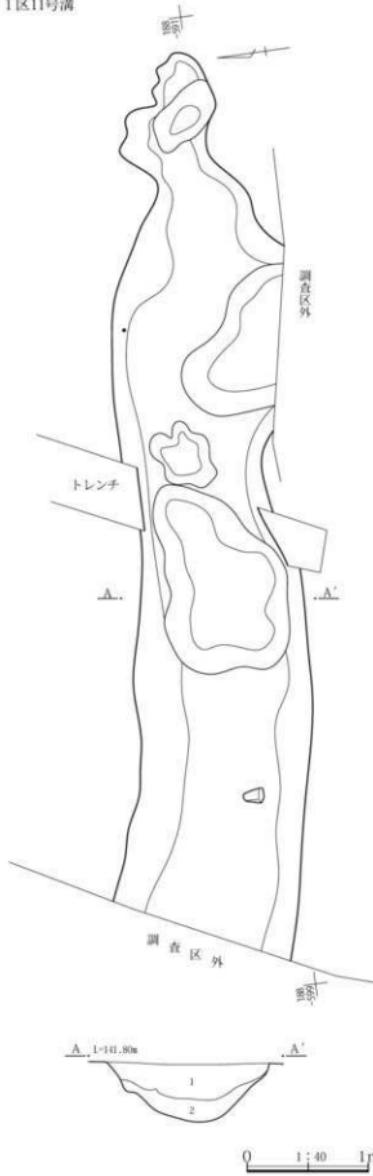
規 模 長さ(2.62)m 最大幅1.56m 最小幅1.00m

深さ39~47cm

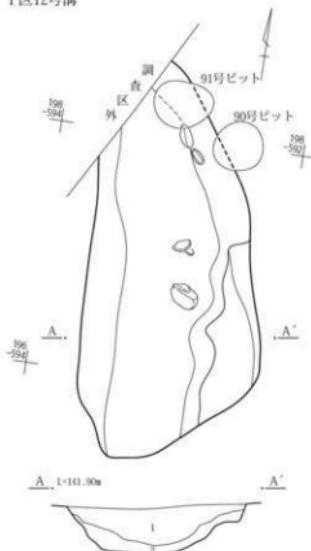
埋没土層 ローム粒、ロームブロックを含む。

所 見 時期不明。

1区11号溝



1区12号溝

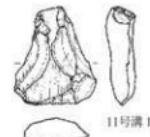


11号溝

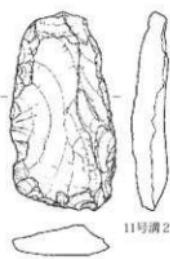
- 1 黒褐色土10YR2/3 ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。  
2 暗褐色土10YR3/3 ロームブロック大多量含。しまり・粘性あり。

12号溝

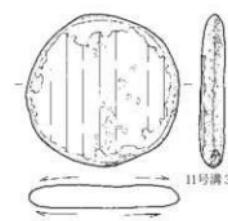
- 1 黒褐色土10YR2/3 黒褐色上、暗褐色土(10YR3/4)含。白色粒子中量含。しまり・粘性あり。  
2 暗褐色土10YR3/4 ロームブロック中～大多量含。しまり・粘性あり。



11号溝1



11号溝2



11号溝3

第111図 1区11号・12号溝、11号溝出土遺物

## 8. 集石遺構

## 2区1号集石(第112図・第7表)

位 置 X=30142~146 Y=-80603~608

重複遺構 2号方形周溝墓・7号墳と重複。新旧関係は本集石が古い。

形 状 不明

主軸方位 N-78°-W

規 模 長軸(5.01)m 短軸(3.12)m

埋没土層 7号墳盛り土

出土遺物 なし

所 見 本集石遺構は2号方形周溝墓に壊されている。川原石主体で平たい石(凝灰岩)が数点出土している。

## 2区2号集石(第113~115図・第7表・PL.65・92)

位 置 X=30155~158 Y=-80602~605

重複遺構 7号墳と重複。新旧関係は本集石が古い。

形 状 楕円形

主軸方位 N-81°-W

規 模 長軸(2.78)m 短軸2.43m

埋没土層 白色粒、ローム粒、ロームブロックを含む。

出土遺物 繩文時代後期壠之内1式(1)、加曾利E3式片(2)。弥生後期樽式土器壺(5)、高杯(3)、蓋(6)等が出土している。石は川原石が主で、磨製石斧(11)、打製石斧(10)、磨製石斧の未成品(12・13)、多孔石(19)、石棒(17・18)が出土している。

所 見 本集石遺構は7号墳の盛り土の除去中墳丘上で確認されている。1号集石同様、7号墳構築時に壊されたと考えられる。構築時の弥生と繩文時代の遺構が存在したと考えられる。

## 2区3号集石(第116・117図・第7表・PL65~68・92)

位 置 X=30161~165 Y=-80606~609

重複遺構 7号墳と重複。新旧関係は本集石が古い。

形 状 長円形

主軸方位 N-21°-E

規 模 長軸(3.75)m 短軸(3.35)m

埋没土層 7号墳盛り土

出土遺物 堀之内1式(1~5)、加曾利E3式(6)、加曾利E4式(7)、打製石斧(8・9)が出土している。

## 2区4号集石(第116・117図・第7表・PL.68・92)

位 置 X=30158~161 Y=-80605~609

重複遺構 7号墳と重複。新旧関係は本集石が古い。7号墳墳丘上の陪葬土壙墓。詳細は所見。

形 状 長円形

主軸方位 N-65°-W

規 模 長軸3.73m 短軸2.88m

埋没土層 不明

出土遺物 加曾利E3式片(1)出土。

所 見 本集石遺構も7号墳墳丘上の盛り土の除去中に確認された。墳丘構築に伴う地業が行われたと考える。さらに3・4号集石の間には7号墳墳丘内の陪葬土坑墓が確認されている。この墓からは蛇紋岩の石製模造品刀子形が検出されている。

## 2区5号集石(第118図・第7表・PL.92)

位 置 X=30149~156 Y=-80605~612

重複遺構 7号墳と重複。新旧関係は本集石が古い。

形 状 不整形

主軸方位 N-40°-E

規 模 長軸8.60m 短軸2.57m

埋没土層 なし

出土遺物 土器は出土していない。打製石斧(1)が1点出土している。

所 見 6号集石遺構で述べる。

## 2区6号集石(第118図・第7表・PL.92)

位 置 X=30148~154 Y=-80599~607

重複遺構 7号墳と重複。新旧関係は本集石が古い。

形 状 不整形

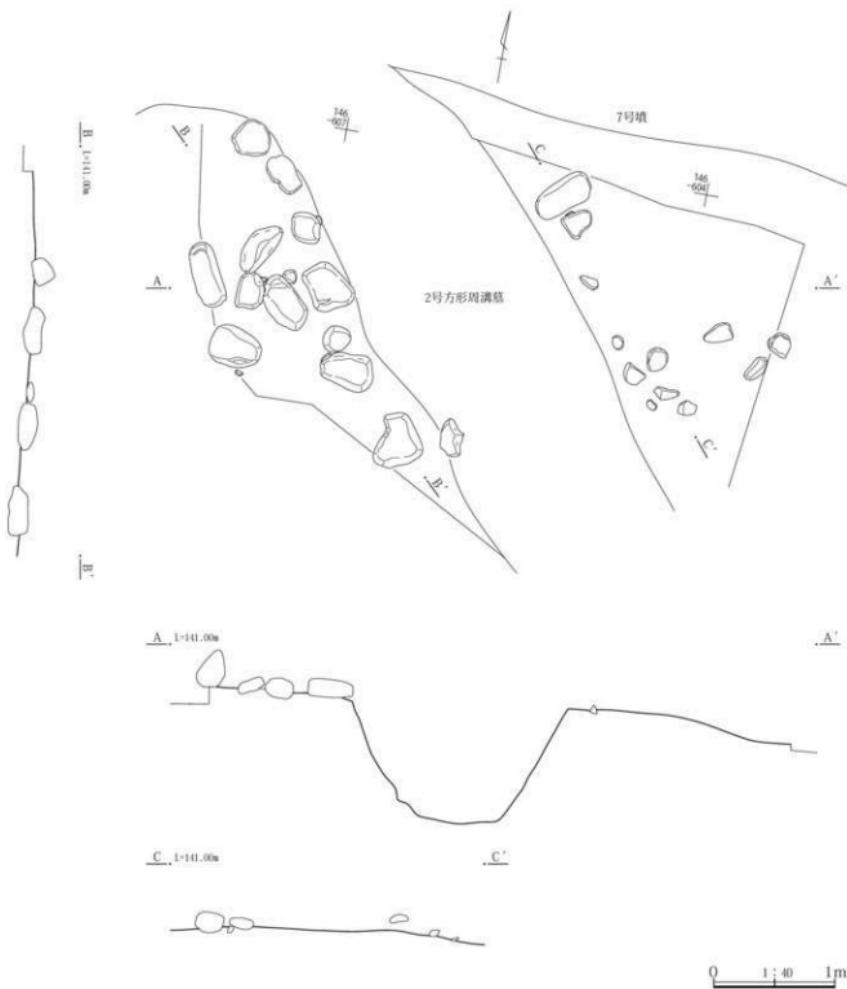
主軸方位 N-66°-W

規 模 長軸6.70m 短軸6.52m

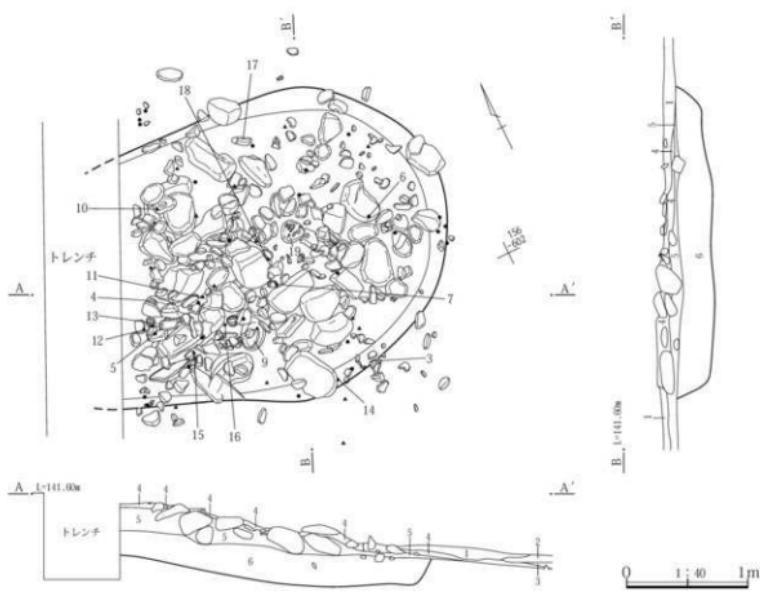
埋没土層 不明

出土遺物 打製石斧(1)が1点出土。

所 見 本5・6号集石遺構は古墳の地業か昭和時代に崩を造るために壊されたときに葺石が散乱したものと考えられる。5号と6号の集石の真ん中を北東方向に発掘調査前の試掘トレンチが残っており、2つの集石は擾乱の葺石を埋めた可能性が指摘できる。

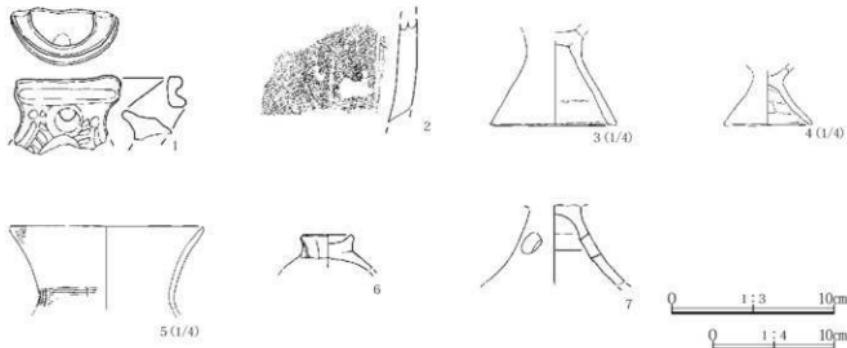


第112図 2区1号集石



2号配石 A-A'・B-B'

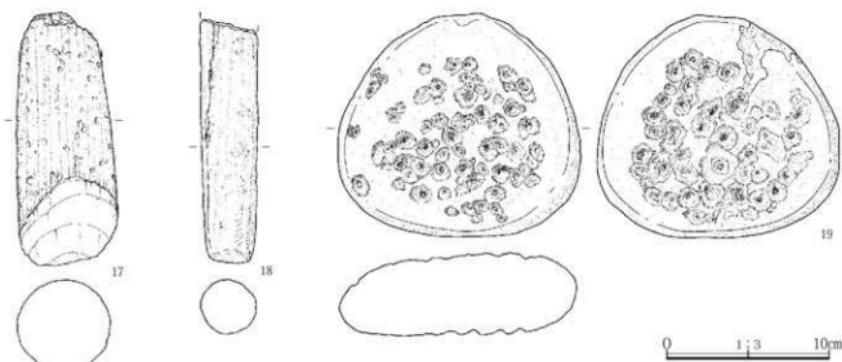
- 1 黒褐色土10YR2/3 白色粒子・ローム粒子少量含。しまり・粘性あり。
- 2 暗褐色土10YR3/3 ロームブロック(1~2cm)多量含。しまり・粘性あり。
- 3 暗褐色土10YR3/3 ローム粒子極微量含。しまり・粘性あり。
- 4 黑褐色土10YR2/2 白色粒子極微量含。しまり・粘性あり。
- 5 黑褐色土10YR2/2 白色粒子微量含。しまり・粘性あり。
- 6 黑褐色土10YR2/3 白色粒子・黄色粒子・炭化粒子微量含。しまり・粘性あり。



第113図 2区2号集石・出土遺物(1)

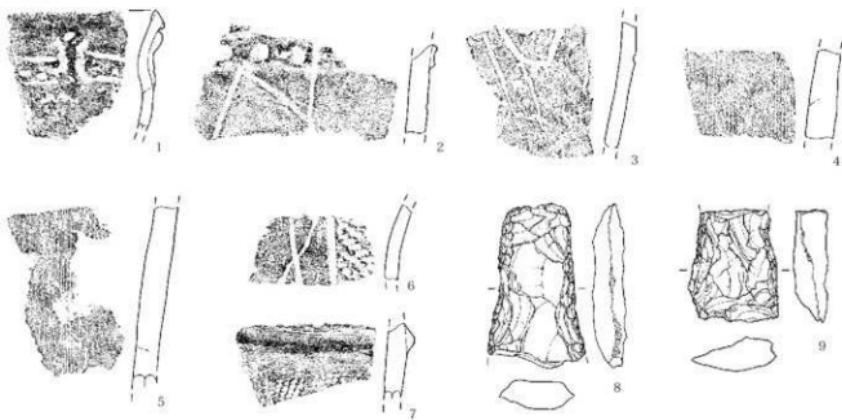


第114図 2区2号集石出土遺物(2)

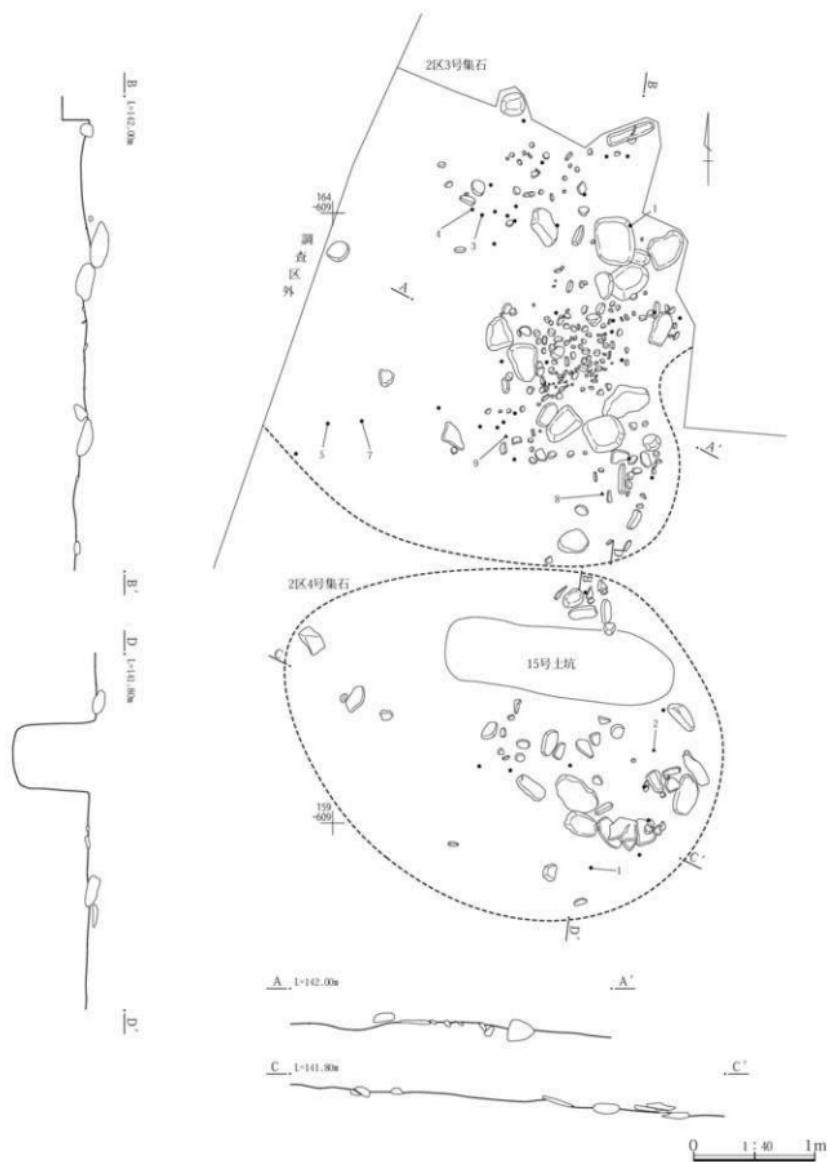


第115図 2区2号集石出土遺物(3)

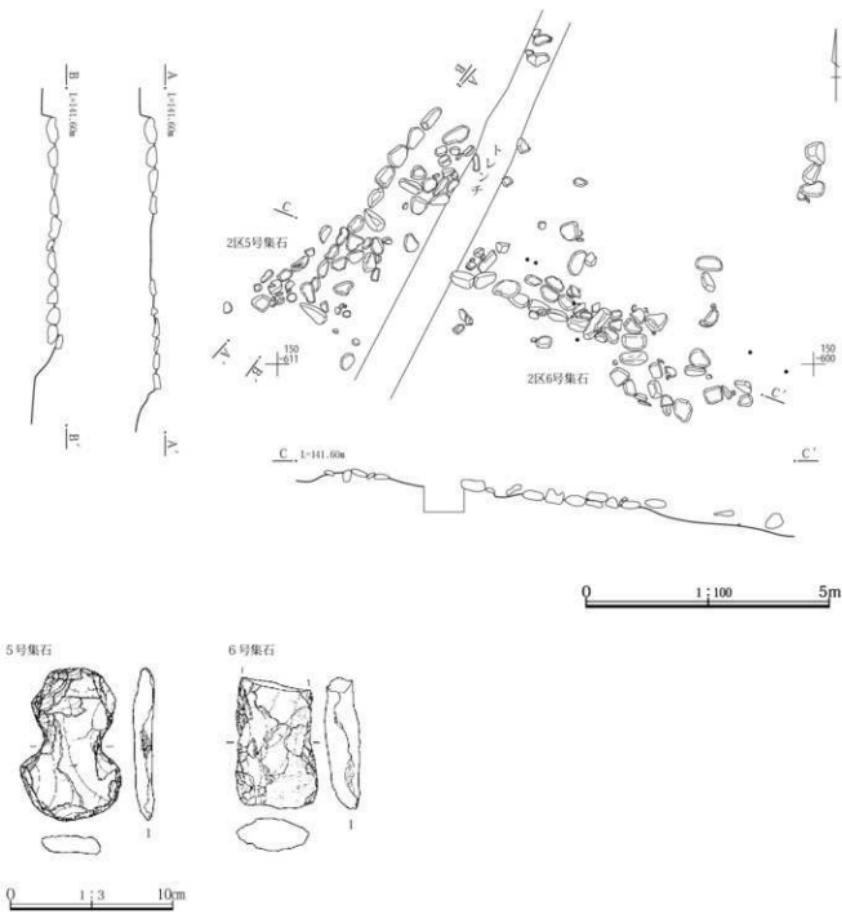
3号集石



第116図 2区3号・4号集石出土遺物

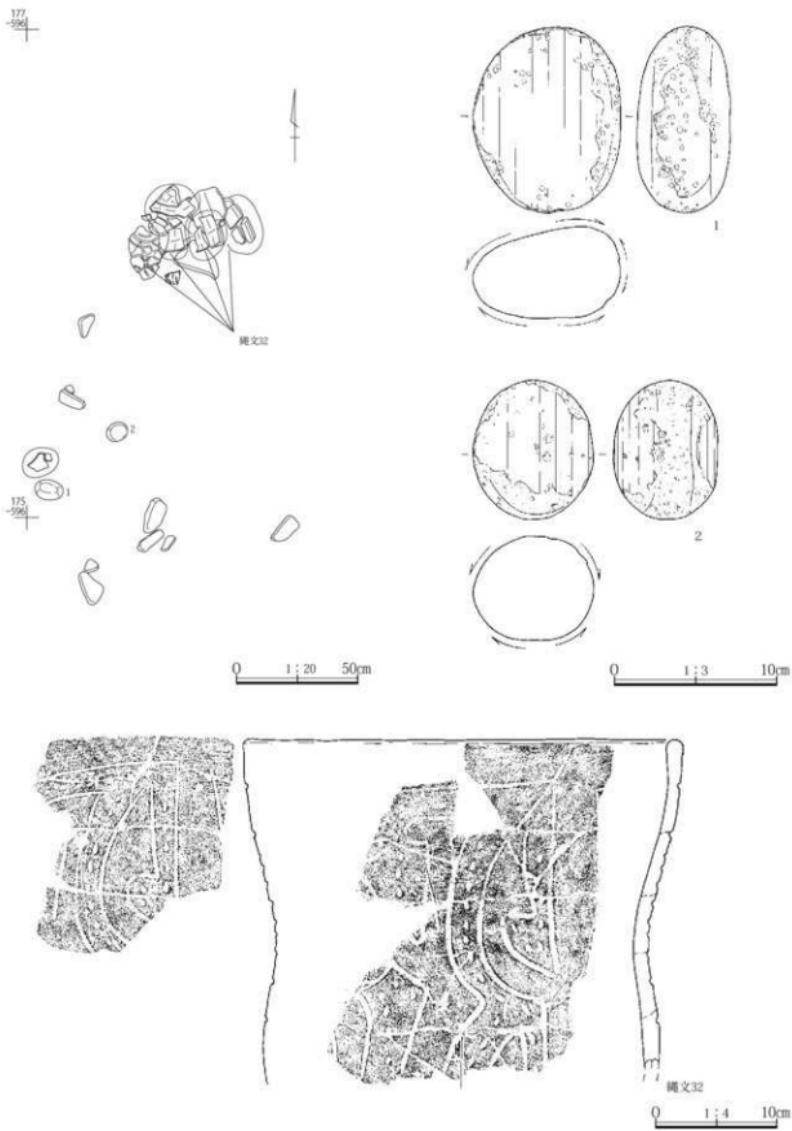


第117図 2区3号・4号集石



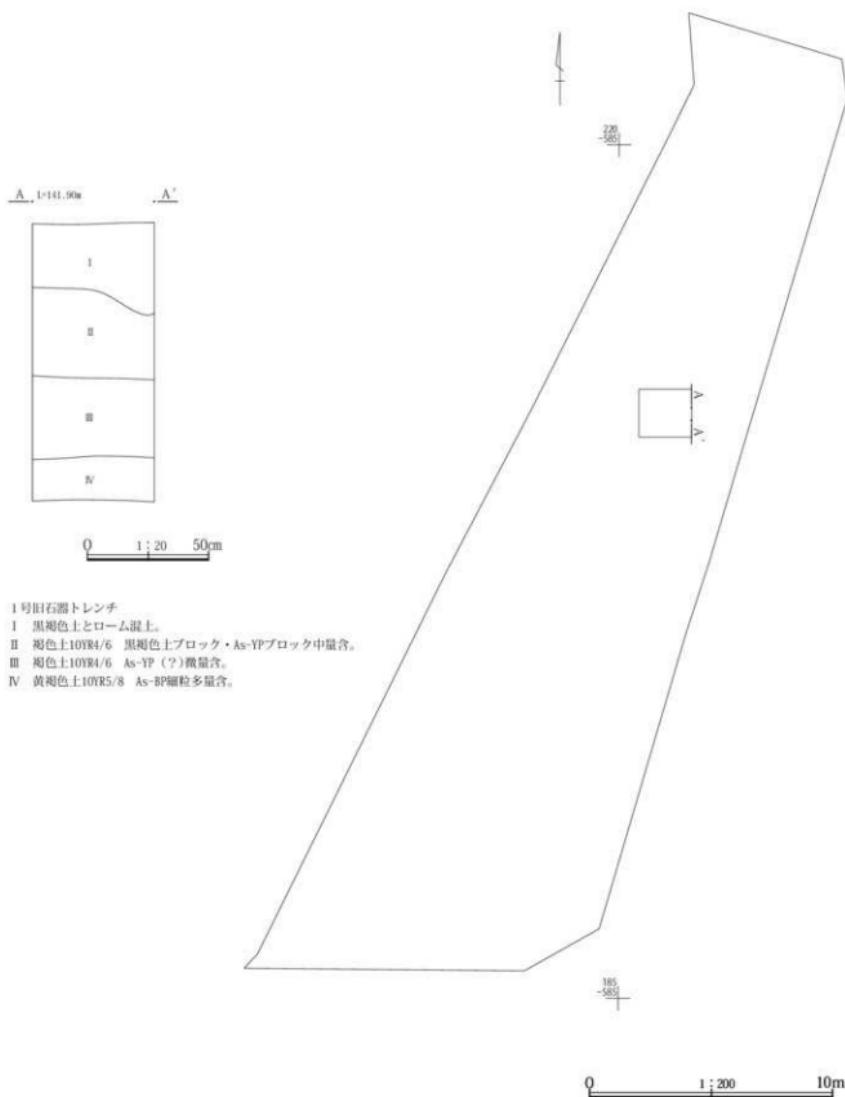
第118図 2区5号・6号集石、出土遺物

## 9. 遺物集中

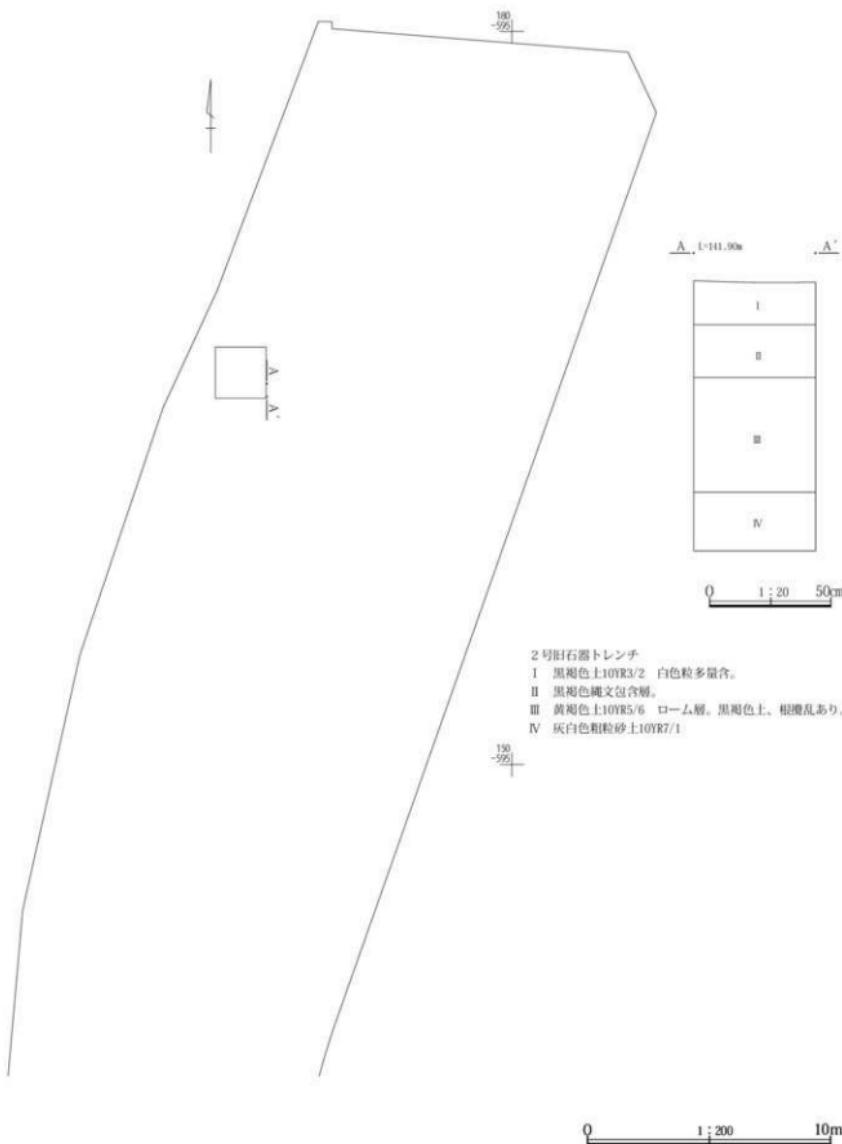


第119図 2区1号遺物集中・出土遺物

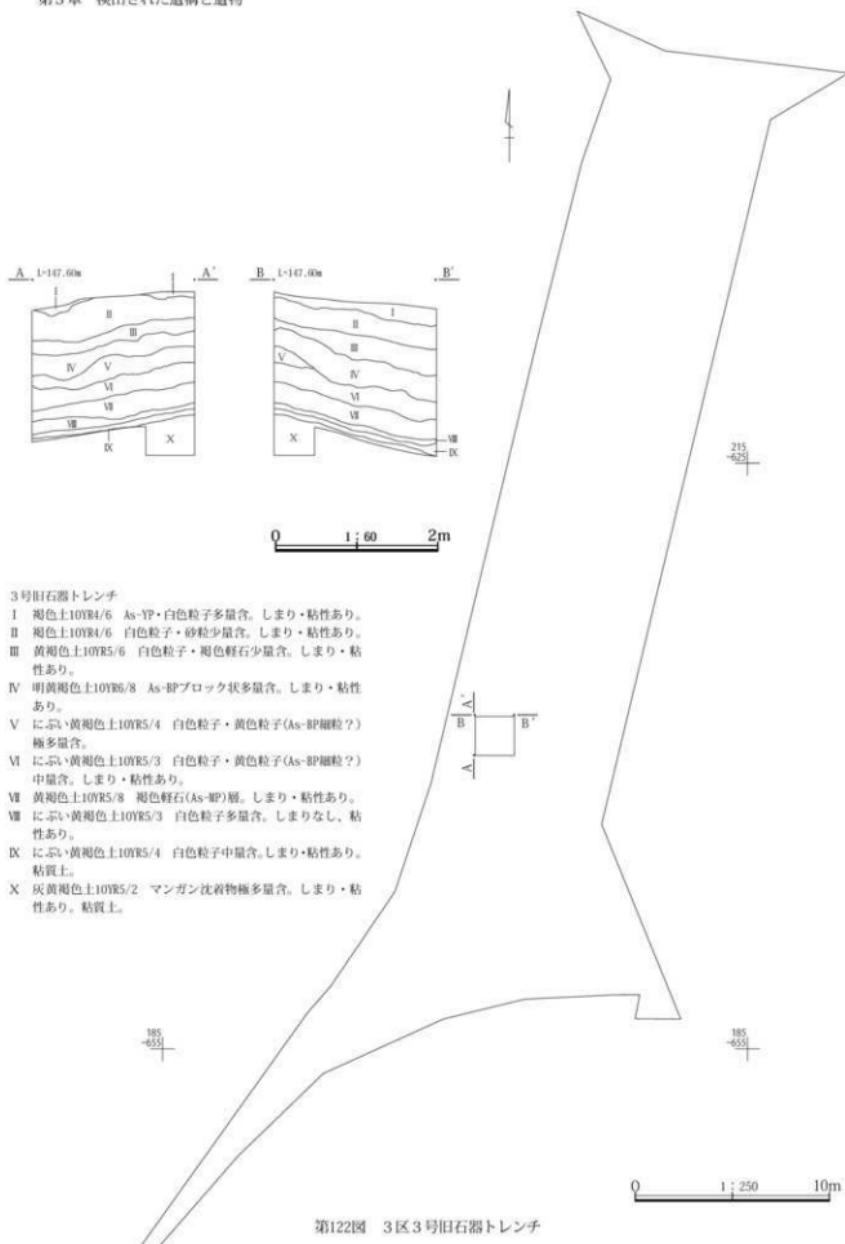
## 10. 旧石器トレンチ



第120図 1区 1号旧石器トレンチ

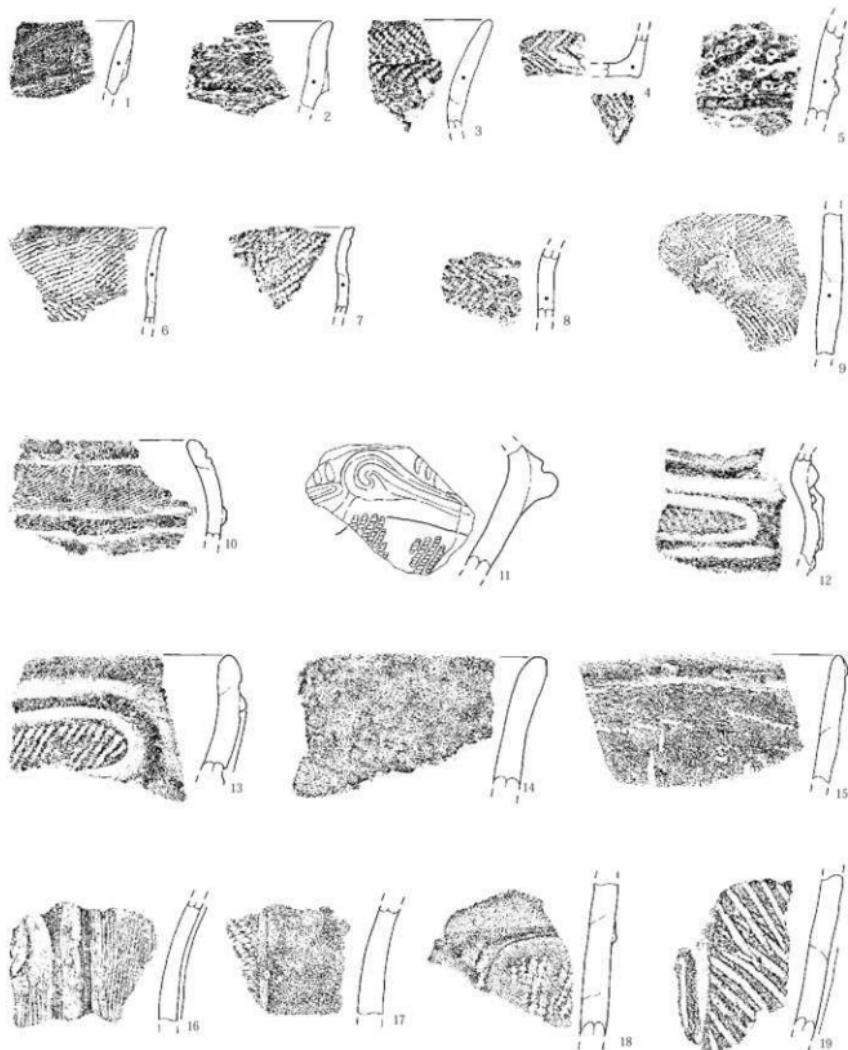


第121図 2区2号旧石器トレンチ



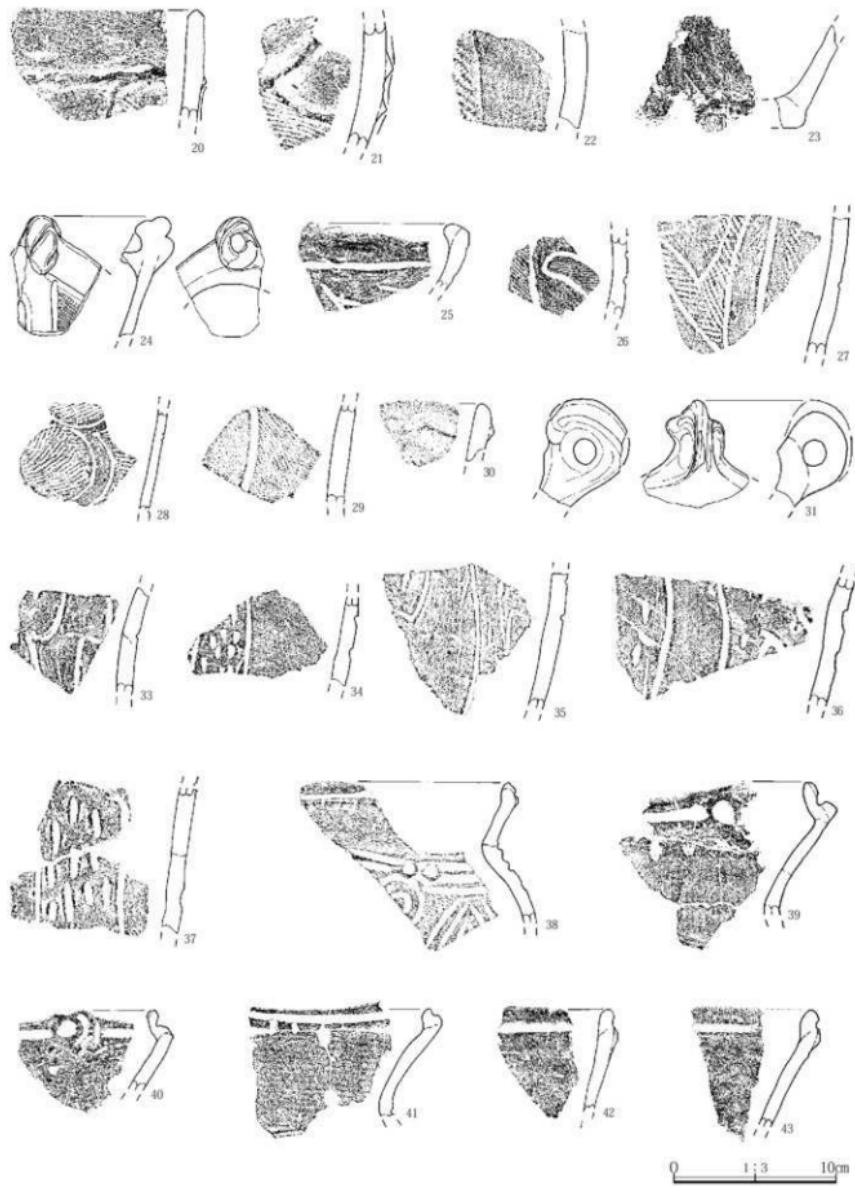
第122図 3区3号旧石器トレンチ

## 11. 遺構外の出土遺物

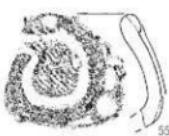
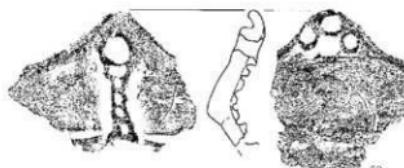
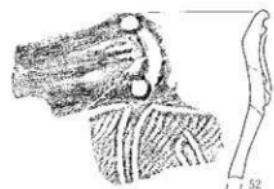
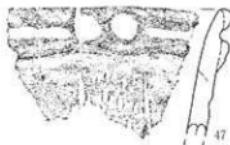
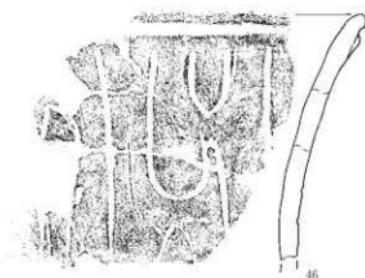
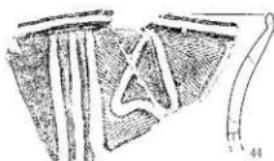


0 1:3 10cm

第123図 遺構外出土縄文土器(1)

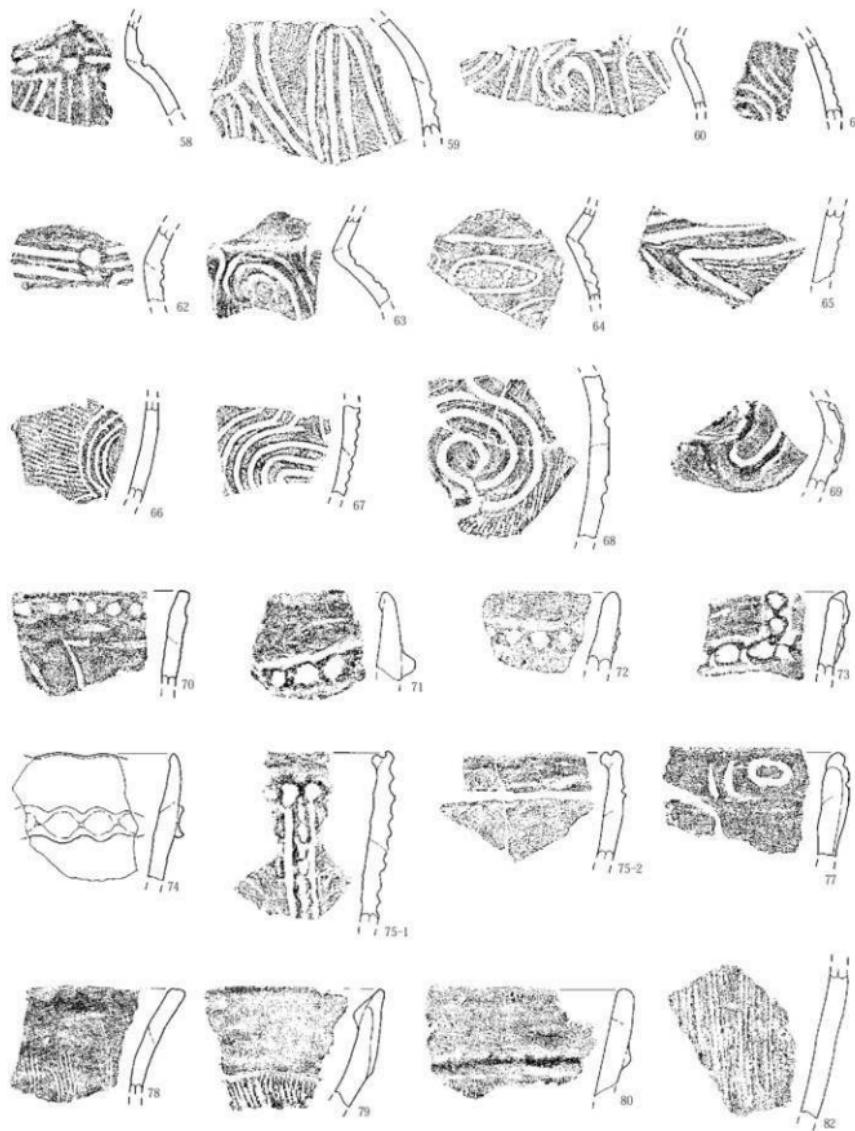


第124図 遺構外出土純文土器(2)

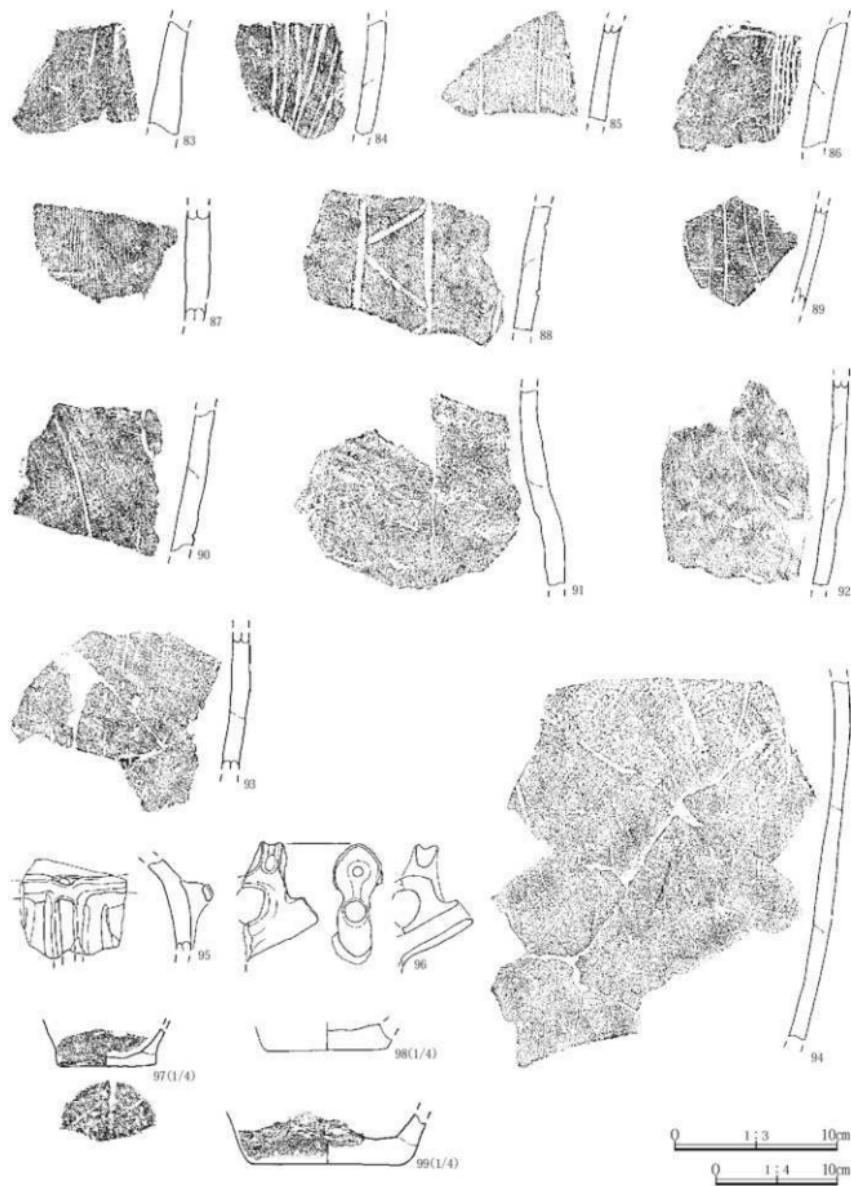


0 1:3 10cm

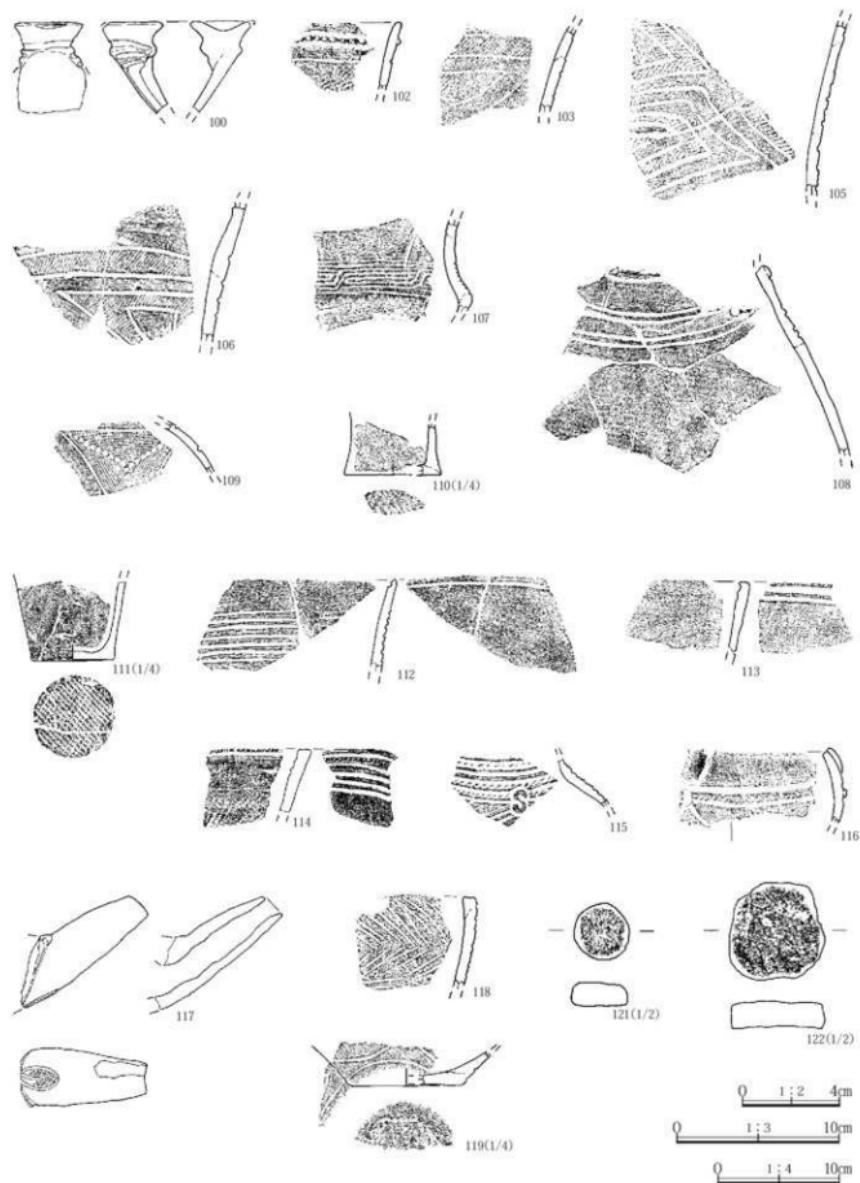
第125図 遺構外出土縄文土器(3)



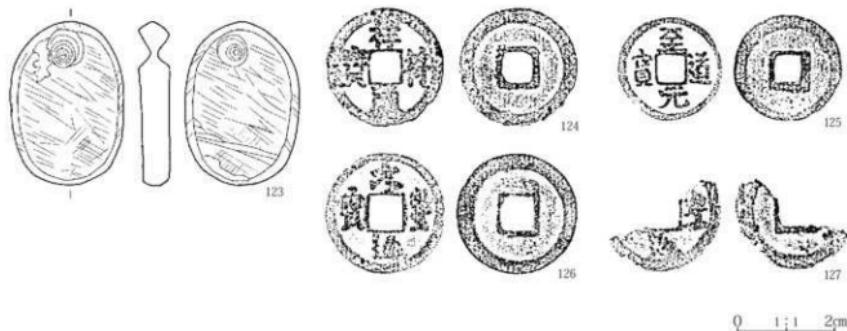
第126図 遺構外出土縄文土器(4)



第127図 遺構外出土縄文土器(5)



第128図 遺構外出土縄文土器(6)

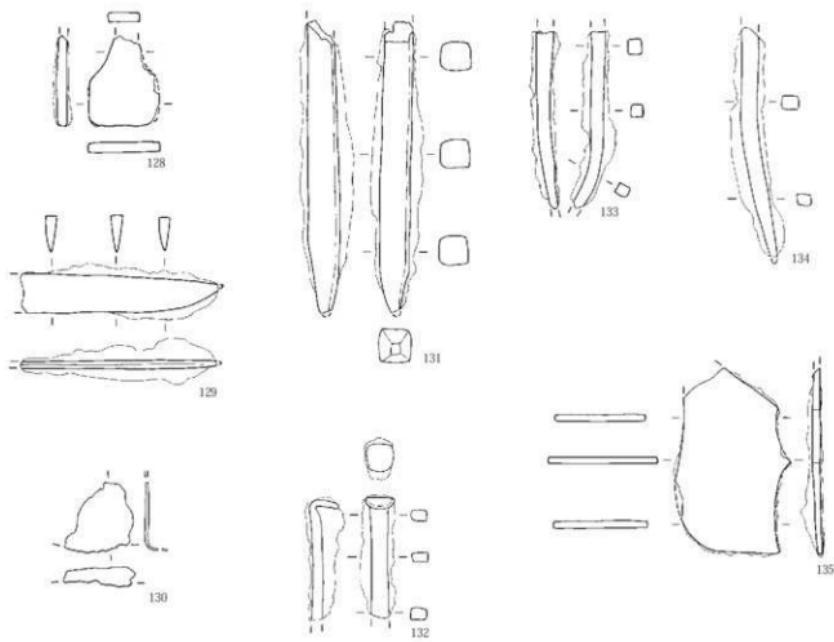


## 調査区出土遺物

凸状の形態の板状品(128)。凸部上部は欠損している。  
刀子の刃部の破片(129)と、薄板状品で端が曲げられているもの(130)の3点が出土している。

## 表土一括遺物

断面四角の棒状品が2点(131・134)、釘が2点(132・133)出土している。工具の破片かと推定する。また稜角がある不定形の薄鐵板(135)がある。



第129図 道構外出土石器・金属器

# 第4章 分析

## 群馬県後賀中割遺跡古墳出土人骨について

波田野悠夏<sup>(1)</sup>・吉田貴恵<sup>(1)</sup>・鈴木敏彦<sup>(1)</sup>・

辰巳晃司<sup>(2)</sup>・佐伯史子<sup>(2)</sup>・奈良貴史<sup>(2)</sup>

(1)東北大大学院歯学研究科

(2)新潟医療福祉大学

### はじめに

2017年群馬県埋蔵文化財調査事業団の後賀中割遺跡の発掘調査において古墳2基から人骨が出土した。これは人類学的調査の報告である。歯の計測は藤田(1949)、杉山・黒須(1964)に準拠した。歯の計測値は第2表に示す。残存歯の歯式について、水平線は上下顎の境界を、垂直線は正中線を表し、向かって左側が個体の右を意味する。歯の記号が記されている箇所は歯の存在が確認された部分で、Iは切歯、Cは犬歯、Pは小白歯、Mは大臼歯、diは乳切歯、dcは乳犬歯、dmは乳臼歯をそれぞれ表し、また数字は同一歯種内での順位を表す。

病変は、歯について山本(1988)の基準によってエナメル質貪形成の有無を確認し、WHO(2013)の基準によって齶触の程度をC 1：齶触がエナメル質に限局するもの、C 2：齶触が象牙質にまで達しているが、歯髄には達していないもの、C 3：齶触が歯髄にまで達しているもの、C 4：齶触のため歯冠がほとんど崩壊したもの、に区分した。

### 1号古墳出土人骨

**遺存状況：**頭骨と四肢骨が確認できるが、細片化が著しく遺存状態は概して不良である。頭骨で同定できたのは、前頭骨頭頂部片、左頭頂骨冠状縫合部片である(写真1)。四肢骨で同定できたのは脛骨骨幹部片のみである(写真2)。残存する歯は全て遊離歯で、歯槽に植立するものはない。上顎右側第一大臼歯、上顎左側犬歯及び下顎右側第三大臼歯に重複を認め、少なくとも2個体を認める。歯冠の形成状態ならびに咬耗の程度から判断して、A個体歯とB個体歯とした。なお歯の形成段階から3個体である可能性が高い(詳細は個体Bの特記事項に示す)。歯

と頭骨片と四肢骨片との関係は不明である。

**A個体歯：**以下に残存歯の歯式を示す。残存する歯は全て遊離歯で、歯槽に植立するものはない(写真3)。

#### 〈萌出歯〉

マ マ	▽ ▽	▽ ▽ ◇	▽
- - M1 dm2 - -	- - P2 P1 - -	- - C PI - -	- - M2 - -
▽ ▽	▽ ▽	▽ ▽	▽ ▽
M3	P2	C PI	M2

#### 〈未萌出歯〉

▽	▽
- - - - P2 - - - -	- - - - P2 - - - -
▽	▽

◇：歯槽の有無は確認できないが、歯冠・歯根共に遺存するもの(遊離歯)

▽：歯槽の有無は確認できないが、歯冠のみが遺存するものの(遊離歯)

=：歯槽、歯ともに確認できず状況不明であるもの

**年齢：**歯の形成・萌出段階を示すUbelakerのチャートでは、下顎第三大臼歯は歯冠が1/2以上形成が進むのは12歳以降であり、18歳以上で萌出する。また、上顎第二小白歯の萌出は12歳である(Ubelaker,1989)。上顎第一小白歯は萌出し咬耗をみると一方、上顎第二小白歯は未咬耗で埋伏歯と推定される。上顎右側第二乳臼歯も確認され、こちらは過度に咬耗が進行している。下顎第三大臼歯は未萌出歯であり、左側第三大臼歯の形成段階はほぼ歯冠が完成されていることから、12歳以上18歳未満と推定される。12歳以上と推定する場合、上顎右側第二乳臼歯が確認されていることで矛盾が生じる。しかし、第二乳臼歯は晩期残存乳歯になる可能性が比較的高い歯種である。以上の事から、晩期残存乳歯と仮定するならば、説明が可能である。

**性別：**歯冠計測値は、古墳時代成人男性と女性の平均値

の間に位置するものが多く、計測値からは推定困難である。

**特記事項:** 特異咬耗は認められない。上顎左側中切歯はシャベル状の形態を呈している。上顎右側第二乳臼歯には、象牙質まで達する咬耗を認める。その他の萌出歯については、多数歯にわたり、エナメル質に限局した咬耗が認められる。歯石沈着は認められなかったが、エナメル質減形成が上顎両側第一小白歯、下顎両側第一小白歯、上顎右側第一大臼歯、上顎左側犬歯および第一小白歯、ならびに下顎右側第二小白歯、下顎左側犬歯に観察できた。病変は上顎左側犬歯にのみ、遠心面にC2の齶歯を認めた。

**B個体歯:** 以下に残存歯の歯式を示す。残存する歯は全て遊離歯で埋伏歯である。歯槽に植立するものはない(写真4)。

△ △		△
△ 12 11	...	...
13 14	...	...
△ △		△

△: 歯槽の有無は確認できないが、歯冠のみが遺存するものの(遊離歯)

=: 歯槽、歯とともに確認できず状況不明であるもの

**年齢:** 歯の形成・萌出段階を示すUbelakerのチャートでは、第二大臼歯の歯冠1/2程度まで形成が進むのは6歳である(Ubelaker, 1989)。また6歳で萌出する上下顎第一大臼歯は内眼的に咬耗が認められない。萌出して間もない場合ならば咬耗が認められないことの説明はつくことから、歯の形成・萌出状態に矛盾はなく、推定死亡時年齢はおよそ6歳と推測できる。

**特記事項:** 齶歯、歯石沈着などの歯にも認められない。エナメル質減形成が上顎右側第一大臼歯および第二大臼歯、上顎左側犬歯、下顎両側第一大臼歯に認められる。下顎右側第三大臼歯については、咬頭部のみが完成し、11歳と推定される。このため、B個体とは別個体と考えられる。なお下顎第三大臼歯の形態的特徴・歯冠形成段階がことなるため、A個体とも別個体だと考えられる。

## 8号古墳出土人骨

**遺存状況:** 細分化の著しい頭骨片と四肢骨片が遺存する。頭骨で同定できたものは、左上顎骨歯槽部片である。四肢骨において同定できたものは左桡骨遠位部偏と肩甲骨棘突起基部片のみである。歯に同一の種類の重複はない。しかし歯冠のみが残存する大部分の歯に対し、上顎左側犬歯、第二小白歯、第一大臼歯および下顎左側犬歯の4本の歯は歯根まで残存し、歯質の色調も異なっている。従って歯根まで残存する4本の歯は別個体のものと判断される。歯冠のみが残存する個体をA個体歯、歯根まで確認できる個体をB個体歯とした。頭骨片と四肢骨片との関係は不明である。

**A個体歯:** 以下に残存歯の歯式を示す。残存する歯は全て遊離歯で、歯槽に植立するものはない(写真5)。

△ △		△ △
13 12	...	11 12
...	ds2	...
△ △		△ △

△: 歯槽の有無は確認できないが、歯冠のみが遺存するものの(遊離歯)

=: 歯槽、歯とともに確認できず状況不明であるもの

**年齢:** 歯の咬耗は軽度であり、また下顎右側第二乳臼歯が残存していることから見て、Ubelaker (1989)による歯の形成・萌出段階を示すチャートに基づき11歳程度と考えられる。

**性別:** 歯冠計測値は、古墳時代成人男性と女性の平均値の間に位置するものが多く、計測値からは推定困難である。

**特記事項:** 齶歯、歯石沈着などの歯にも認められない。エナメル質減形成が上顎右側第二大臼歯、上顎右側第三大臼歯、上顎左側切歯に認められる。

**B個体歯:** 以下に残存歯の歯式を示す。残存する歯は全て遊離歯で、歯槽に植立するものはない(写真6)。



◇：歯槽の有無は確認できないが、歯冠・歯根共に遺存するもの(遊離歯)

=：歯槽、歯ともに確認できず状況不明であるもの

**年齢：**全ての歯根が根尖まで形成されていることと、咬耗が進行していることから考えて、成人段階には達していたと思われる。

**性別：**計測可能な歯冠計測値が1つしかなく、歯冠計測

値からは推定困難である。

**特記事項：**咬耗は上顎歯に顕著に認められる。このうち上顎左犬歯に関しては歯冠歯質が大きく欠損するが、歯髓腔が開放して見え、死後の破折と推測される。齶触、歯石沈着などの歯にも認められない。下顎左側犬歯にエナメル質限形成が確認される。

#### 文献

藤田恒太、1949. 歯齒計測基準について、人類誌 61:27-31.

杉山重也、黒須一夫、1964. 乳歯計測基準について、小児歯誌 2:1-8.

Ubelaker DH. 1989. Human skeletal remains: Excavation, Analysis, Interpretation (2nd edition). Washington, DC: Taraxacum: 172.

WHO (World Health Organization). 2013. World Health Statistics 2013. WHO Press, Geneva.

山本美代子、1988. 日本人古人骨永久歯における質限形成、人類学雑誌、96:417-433.

第2表 歯冠計測値(mm)

	1号A				1号B				2号A				2号B			
	右側		左側		右側		左側		右側		左側		右側		左側	
	近	脊	遠	脊	近	脊	遠	脊	近	脊	遠	脊	近	脊	遠	脊
【乳歯】																
上顎	前歯	乳中切歯(d11)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		乳側切歯(d12)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		乳犬歯(d6)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		第一乳臼歯(dm1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		第二乳臼歯(dm2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下顎	前歯	乳中切歯(d11)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		乳側切歯(d12)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		乳犬歯(d6)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		第一乳臼歯(dm1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		第二乳臼歯(dm2)	9.56	*	-	-	-	-	-	-	11.37	10.87	-	-	-	-
【永久歯】	上顎	中切歯(I1)	-	-	9.32	*	-	-	-	-	-	-	*	*	-	-
		側切歯(I2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.35	*	-	-
		犬歯(I)	-	-	7.43	8.09	-	-	8.05	*	*	-	-	-	*	*
		第一小臼歯(P1)	8.89	9.63	7.23	9.35	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		第二小臼歯(P2)	-	-	7.33	9.23	-	-	-	-	-	-	-	-	*	*
		第一大臼歯(M1)	*	*	-	-	11.26	12.09	-	-	-	-	-	-	*	*
		第二大臼歯(M2)	-	-	10.08	11.09	10.70	12.18	-	-	10.97	*	11.85	*	-	-
		第三大臼歯(M3)	-	-	-	-	-	-	-	-	9.31	9.62	-	-	-	-
下顎	中切歯(I1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		側切歯(I2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		犬歯(I)	-	-	7.37	*	-	-	-	-	-	-	-	-	6.78	7.30
		第一小臼歯(P1)	7.44	9.08	7.32	8.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		第二小臼歯(P2)	7.45	8.74	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		第一大臼歯(M1)	-	-	*	*	11.46	*	*	*	-	-	-	-	-	-
		第二大臼歯(M2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10.61	*	9.44	*
		第三大臼歯(M3)	11.57	10.71	*	10.92	10.09	*	*	-	-	-	-	-	-	-

第三大臼歯(M3) A-C:確認済み、B-D:は別個体の可能性高い。MD,BLは計測できず

-:該当歯が存在しないもの

\*:被覆等のため計測値が得られない計測項目

※:咬耗、エナメル質の欠損等によって計測点を欠くために、計測点の近くを用いて計測した近似値である。

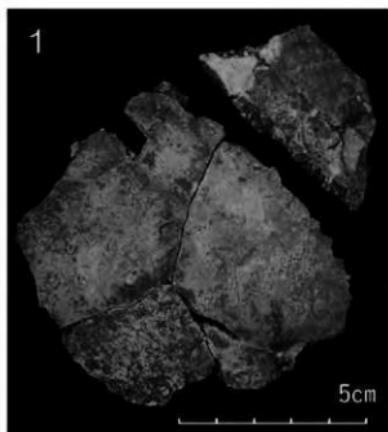


写真1 1号古墳出土人骨 頭骨

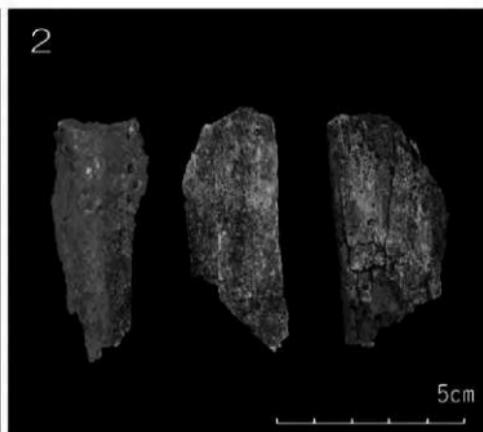


写真2 1号古墳出土人骨 肋骨

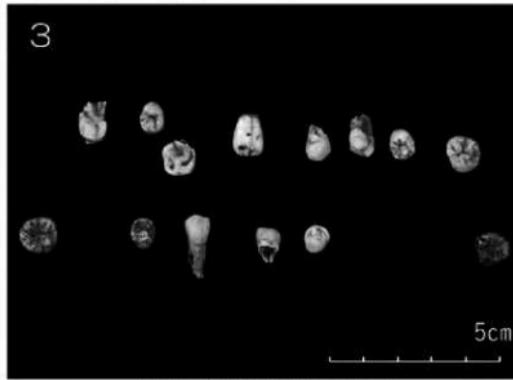


写真3 1号古墳出土人骨 A個体歯

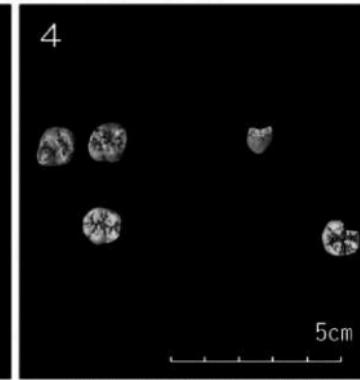


写真4 1号古墳出土人骨 B個体歯

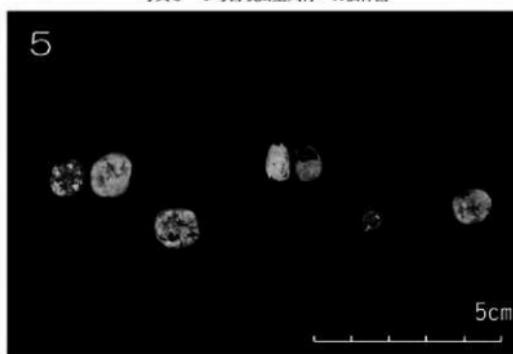


写真5 8号古墳出土人骨 A個体歯

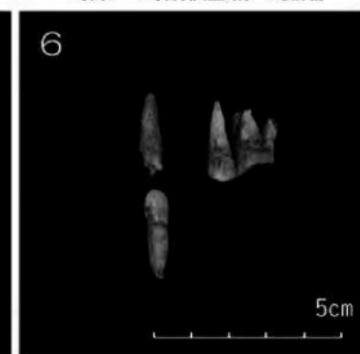


写真6 8号古墳出土人骨 B個体歯

## 蛍光X線分析

群馬大学研究・産学連携推進機構高度研究推進・支援部門 機器分析センター

試料名 金銅製品・金属製品(銀)10点

## 【測定装置】

蛍光X線分析装置(XRF、日立ハイテクサイエンス製 エレメントモニタSEA1200VX)

## 【測定条件】

- 使用管球：ロジウム
- 加速電圧： $+100$
- 1次フィルタ：50kV+Pbフィルタ(Mn"Y、Hf"Uの測定に使用)  
50kV+Cd(Zr"Baの測定に使用)

- ピーキングタイム： $1.0\ \mu\text{sec}$
- コリメータ： $\Phi 1\text{ mm}$
- 雰囲気：大気
- 測定時間：100s(フィルタごと)

## 【解析方法】

試料の解析には装置に搭載されている汎用的な標準試料のデータを適用し、ファンダメンタルパラメータ法による定量を行った。

## 【測定結果】

以下のとおり。

第3表 蛍光X線分析装置(XRF)による分析結果

番号	1		2		3					
	8号墳	8号墳	8号墳	8号墳	8号墳	8号墳				
遺構名	8号墳	8号墳	8号墳	8号墳	8号墳	8号墳				
図番号	56	57	57	59	59	59				
遺物番号	62	65	65	126	126	126				
種類器種	中空頭地金メッキ耳環	銀製鞘尻金具、銅製縫合具付	銀装具付刀子片	銀装具付刀子片	銀装具付刀子片	銀装具付刀子片				
出土位置	裏込め	埋土	埋土	玄室	玄室	玄室				
測定場所	I	II	I	II	I					
	濃度 (Wt%)	強度 (cps)	濃度 (Wt%)	強度 (cps)	濃度 (Wt%)	強度 (cps)	濃度 (Wt%)	強度 (cps)		
Cu	18.82	410.86	91.87	2418.64	0.93	13.39	3.20	45.73	0.77	11.57
Ag	1.53	3.90	0.74	2.37	98.83	383.59	96.59	368.85	99.14	405.29
Sn										
Au	67.21	814.10	6.27	40.36	0.24	3.43	0.22	2.98	0.10	1.49
Hg	12.44	313.55	1.12	15.37						

番号	4				5				6	
遺構名	8号墳				8号墳				8号墳	
図番号	60				60				61	
遺物番号	130				132				133	
種類器種	渦巻形杏葉				渦巻形杏葉留金具部				渦巻形杏葉	
出土位置	埋土				玄室				玄室	
測定場所	I	II	III		I				I	
	濃度 (Wt%)	強度 (cps)	濃度 (Wt%)	強度 (cps)	濃度 (Wt%)	強度 (cps)	濃度 (Wt%)	強度 (cps)	濃度 (Wt%)	強度 (cps)
Cu	1.07	8.22	0.21	2.05	1.11	10.48	0.78	8.53	0.94	12.80
Ag	98.23	202.51	99.29	261.68	98.42	248.52	98.81	291.16	98.24	356.39
Sn										
Au	0.70	5.33	0.50	4.98	0.47	4.38	0.41	4.50	0.82	11.06
Hg										

番号	7		8		9		10			
遺構名	8号墳		8号墳		8号墳		8号墳			
図番号	61		62		64		64			
遺物番号	134		136		165		172			
種類器種	渦巻形杏葉		四脚辻金具		金銅製連結金具		銀張花弁形金具			
出土位置	玄室		玄室		裏込め		玄室			
測定場所	I	II	I	II	I	II	I	II		
	濃度 (Wt%)	強度 (cps)								
Cu	0.21	1.41	2.42	2.70	51.26	1284.75	99.15	1731.59	0.21	2.57
Ag	99.21	180.79	97.27	29.06	1.64	5.13	0.85	1.74	99.31	328.02
Sn										
Au	0.58	3.97	0.31	0.34	39.35	419.24			0.48	5.96
Hg					7.75	167.76				

番号	11	12	13	14	15	
遺構名	1号墳	1号墳	8号墳	8号墳	8号墳	
団番号	20	20	56	56	56	
遺物番号	31	32	57	58	59	
種類器種	小型銅地縦型耳環	銅地金メッキ耳環(翻面下地)	小型銅地銀箔耳環	銅地金メッキ小型耳環	銅地金メッキ?小型耳環	
出土位置	埋土	糞道	玄室	玄室	理土	
測定場所	I 	II 	I 	I 	I 	
濃度 (Wt%)	强度 (cps)	濃度 (Wt%)	强度 (cps)	濃度 (Wt%)	强度 (cps)	
Cu	99.50	1641.22	99.64	2271.00	15.32	324.76
Ag	0.43	0.83	0.22	0.59	50.21	180.87
Sn						
Au	0.07	0.24	0.14	0.62	24.84	383.20
Hg					9.63	221.11
Fe (参考)						

番号	16	17	18	19		
遺構名	8号墳	8号墳	8号墳	8号墳		
団番号	56	56	57	57		
遺物番号	60	61	63	66		
種類器種	銅地金強耳環	銅地金強耳環	銀製繩	銀製具片複数部		
出土位置	玄室	玄室	裏込め	玄室		
測定場所	I 	II 	I 	II 		
濃度 (Wt%)	强度 (cps)	濃度 (Wt%)	强度 (cps)	濃度 (Wt%)	强度 (cps)	
Cu	2.24	41.21	62.87	1378.94	2.22	40.67
Ag						92.38
Sn						2153.81
Au	97.76	1040.06	37.13	292.09	97.78	1036.33
Hg					7.62	41.46
Fe (参考)					0.03	0.40

番号	20	21	22	23	24	25
遺構名	8号墳	8号墳	8号墳	8号墳	8号墳	8号墳
団番号	57	59	62	62	62	62
遺物番号	67	124	135	137	141	142
種類器種	銀製具片状品	銅製小型装具	四脚金具/コハゼ形留金具片	辻金具、1/2破損	コハゼ形金具	コハゼ形金具
出土位置	玄室	埋土	玄室	玄室	玄室	理土
測定場所	I 	I 	I 	I 	I 	I 
濃度 (Wt%)	强度 (cps)	濃度 (Wt%)	强度 (cps)	濃度 (Wt%)	强度 (cps)	濃度 (Wt%)
Cu	0.66	9.43	7.91	0.91	0.70	0.23
Ag	99.14	380.37			99.30	8.71
Sn					99.71	80.36
Au	0.20	2.86				
Hg						0.21
Fe (参考)			92.09	19.61		1.68

番号	26	27	28	29	30
遺構名	8号墳	8号墳	8号墳	8号墳	8号墳
団番号	62	63	63	63	63
遺物番号	143	146	147	152	155
種類器種	コハゼ形留金具	コハゼ形留金具	コハゼ形留金具小	方形留金具	方形留金具
出土位置	不明	玄室	玄室	玄室	裏込め
測定場所	I	I	I	I	I
濃度 (Wt%)	强度 (cps)	濃度 (Wt%)	强度 (cps)	濃度 (Wt%)	强度 (cps)
Cu	1.53	12.57	1.11	12.08	0.04
Ag	98.25	216.95	97.95	284.13	
Sn					
Au	0.21	1.73	0.94	10.10	
Hg					0.02
Fe (参考)				99.96	1389.54

番号	31	32	33
遺構名	8号墳	8号墳	8号墳
団番号	64	64	64
遺物番号	166	173	174
種類器種	金銅製連結金具	銀張花弁形金具	鉄地銀強黃金具
出土位置	埋土	玄室	埋土
測定場所	I	II	I
濃度 (Wt%)	强度 (cps)	濃度 (Wt%)	强度 (cps)
Cu	49.39	1128.07	78.84
Ag	1.31	3.72	0.96
Sn			1.65
Au	40.99	405.43	17.02
Hg	8.30	164.35	3.18
Fe (参考)			27.68
			1.91
			6.89

## 渦巻形杏葉のX線CT

## 撮影機器

X線CTとしては、日本ベーカーヒューズ株式会社製のPhoenix v|tome|x m 240/180を使用した。

この装置は最大管電圧240kVのマイクロフォーカスX線発生装置である。

## 撮影条件

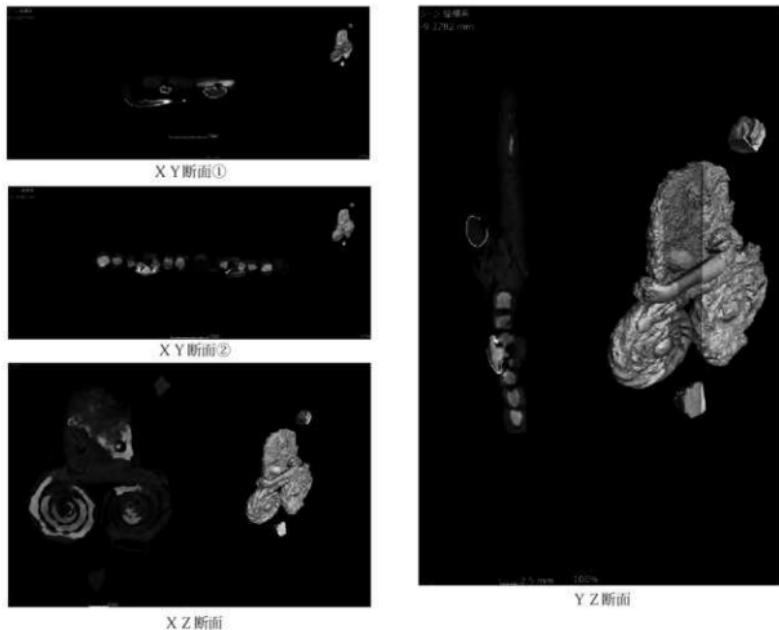
渦巻形杏葉に対して最適な分解能を得るために、管電圧を200kV、管電流を180μA、露光時間を250ms、投影画

像取り込み数を1800枚とし、X線焦点と遺物の間に金属フィルタとしてCu厚さ0.4mm及びSn厚さ1.0mmを設置した。

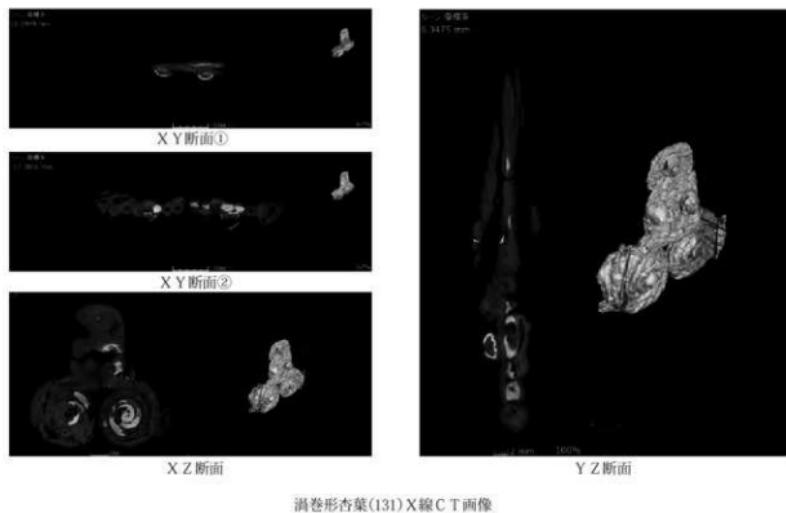
## 解析方法

断面画像のポリュームデータ化には、ポリュームグラフィックス株式会社製のVGSTUDIOMAX3.2を使用した。再構成した3次元画像のボクセルサイズは0.0396μm<sup>3</sup>である。

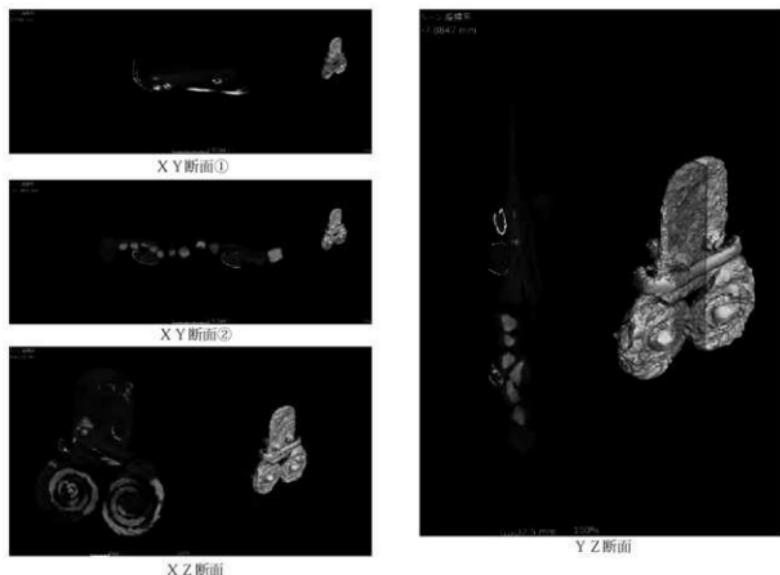
群馬県立群馬産業技術センター 令和3年10月1日  
群技セ第2302-231号



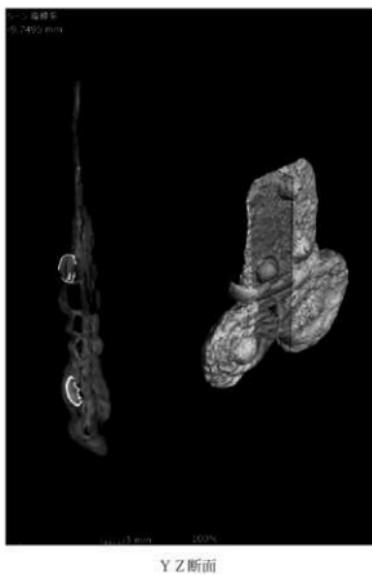
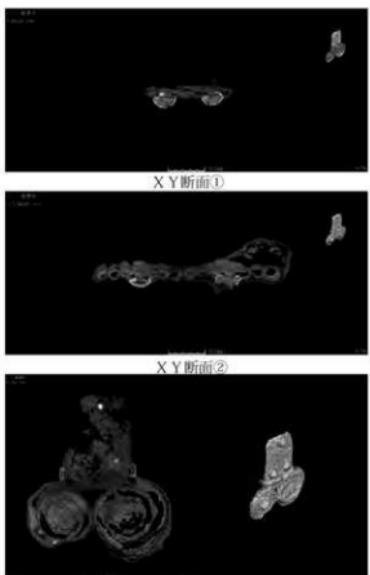
渦巻形杏葉(130)X線CT画像



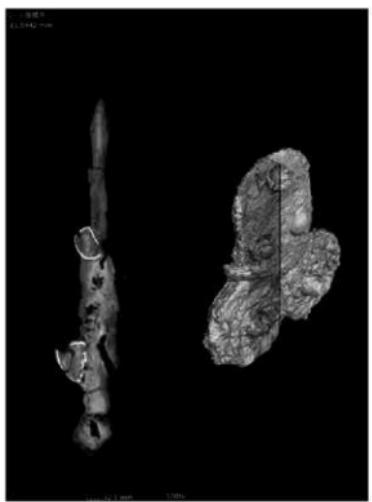
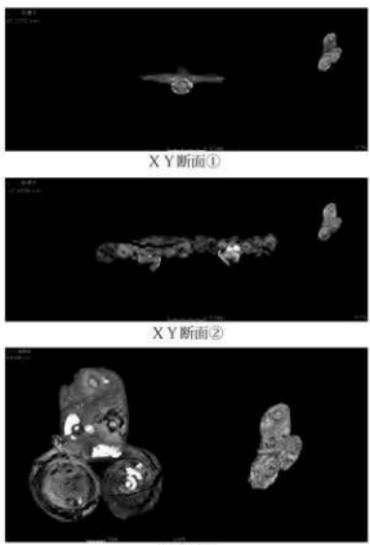
渦巻形杏葉(131)X線CT画像



渦巻形杏葉(132)X線CT画像



渦卷形杏葉(133) X線CT画像



渦卷形杏葉(134) X線CT画像

## 第5章　まとめ

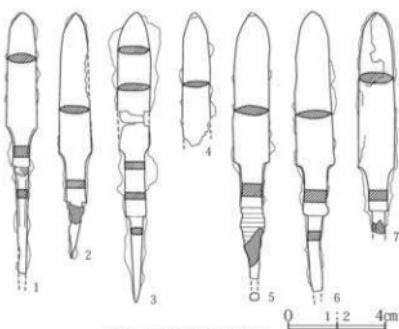
### 後賀中割遺跡出土武器他について

はじめに　後賀中割遺跡からは、馬具を初め武器・武具が盗掘にあいながらも出土している。出土した武器他の中、特に鐵を中心に類例を年代順に並べて述べる。

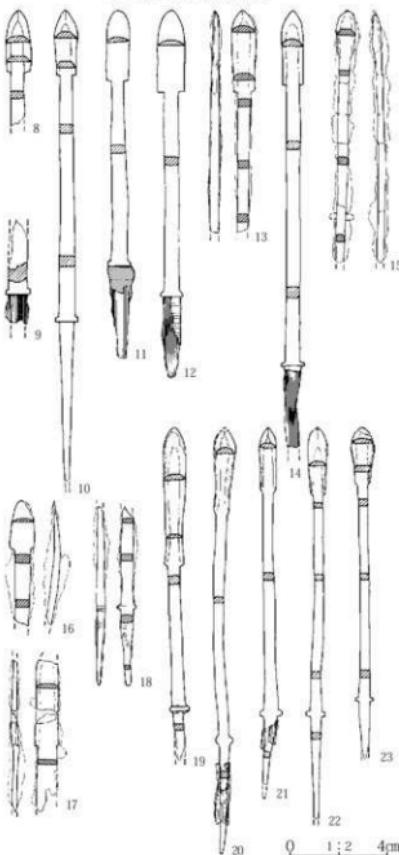
7号墳出土鐵(第130図-3)7号墳からは墳丘より少數の遺物が出土しており、その中でも7号墳からは有頭の柳葉鐵が1点(3)出土している。この柳葉鐵は、鋒よりふくらを有した後、ほぼ直線状に垂下して斜闊を形成するもので、頭部のあるものである。鐵身の長身化、拡大化の視点により5型式に区分でき、うち、細身長身化した4型式に比定できる。この類の鐵は、県内の類例は少なく、伊勢崎市達磨山古墳A号石室(4)から刃部の一部が出土している。7号墳例の類例を鐵身の長身化から見て年代順に並べて見ると、県外例では、長野県倉科2号墳例(1)がやや先行するもので、7号墳例(3)は、長野県土口将軍塚古墳例(2)に極めて近い。刃部の長身化が進んだ、奈良県兵家1号墳北柳例(5・6)や、長野県鎧塚1号墳例(7)が続くものである。更に細身長身化した例として図示しないが長野県一時坂古墳例がある。この系列の鐵は長野県に多く、7号墳から出土した鐵も長野との関係性が想定される。5世紀第2四半期に比定される。

2号墳出土鐵(第131図-13)　2号墳からは1点の鐵(13)が出土している。この鐵は長頭の柳葉(長三角形)鐵で、刃部と頭部の一部が遺存しているのみである。刃部は、片丸造で、鋒よりふくらを有した後に、やや内湾ぎみになり、角間にいたるという形態をとる。しっかりと造りで頭部もやや太めである。類例としては、八幡觀音塚古墳例(14)などがある。年代的には6世紀後半～7世紀初頭に入る。釘が出土していることから7世紀代に入るものと想定している。

1号墳出土鐵(第131図-15～18、133図-32)　1号墳からは、長頭柳葉(長三角形)鐵を中心に長頭片刃鐵も出土している。長頭柳葉鐵は、刃部の短いもの(15・16)と、長いもの(17)の2種類ある。刃闊は、斜闊が中心であるが、刃と闊の区別は明瞭である。類例としては、八幡觀音塚古墳例(14)がある。長頭片刃鐵(32)は、刃闊が不明瞭な



第130図 有頭柳葉鐵図



第131図 長頭柳葉(長三角形)鐵図①

斜関である。類例としては八幡觀音塚古墳例(37)がある。さらに、広根の有頭長三角形鐵が1点出土している。破片なので不明瞭であるが、明瞭な角闊で、薄手幅広の刃部を有するものである。類例は図示しないが、上の山瀬4号墳例や奥原30号墳例がある。1号墳の鐵全体を見ると、八幡觀音塚古墳例に近似するものが多く、6世紀末～7世紀初頭と比定することが出来る。

**8号墳出土鐵(第132図-24～27、133図-33～36)** 8号墳からは、長頭柳葉(長三角形)鐵、長頭三角形鐵、長頭片刃鐵が出土している。長頭柳葉鐵は、刃部が不明瞭な鐵で、斜関状を呈している(25・27)。長頭柳葉鐵の類例としては、奥原49号墳例(29)がある。刃部が先端に集約する盤箭形のものは無い。長頭片刃鐵は、刃部の間はいずれも不明瞭であるが斜関状を呈している(33～35)。個体差があり、片刃部分の長さはバラエティーがあり、片刃鐵の刃長は1.35～2.8cm以上である。類例としては、八幡觀音塚古墳例(37)や奥原30号墳例(38・39)がある。鐵身側は長頭柳葉形・片刃とともに明瞭な棘状闊である。鐵から見ると、7世紀初頭～前半に比定できる。

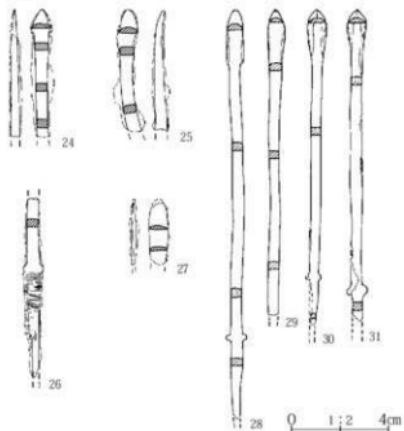
**8号墳出土銀製鞆尻・鍔(第57図-63・65)** 8号墳からは、銀製の鞆尻と想定される装具が出土している。包状の本体を造り、鞆尻の先端部に畦目状の段を形づくった端部を接合していると想定するが、接合痕は確認できない。縁の部分には、銅芯に上から銀を銅錫部端まで被せている。この畦目状の段を持つ銀製鞆尻は今のところ類例を確認できない。ただし、懸通孔が無いことなども考慮すれば、この8号墳例は、鞆尻として良いと思われる。なお、銀製の鉢が出土しているが、共伴する直刀より幅が大きく、また鞆尻金具の断面幅との比較からセットになるものでは無い可能性が高い。

**8号墳出土銀裝刀子(第59図-124)** 8号墳からは、銀製の鍔を持つ刀子片が1本出土している。鍔のみを銀製とする刀子は、県内でも出土例がごく限られており、台所山古墳例がある。

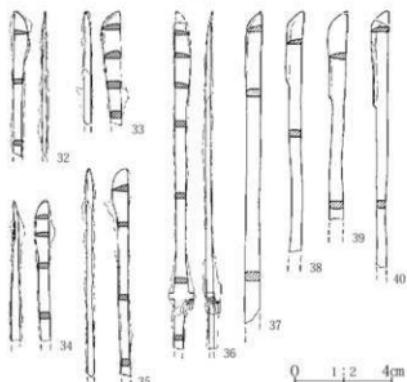
**8号墳銀製品について** 銀製品は馬具(雲珠上部座金具花弁)・武器などの装飾に使用された。これだけの銀の装飾が施されている遺物が多出すること自体がこの古墳の重要性を示している。

図版に使用した報告書名は紙数の関係から省略させていただいた。また、諫早直人・内山敏行・大谷晃二・片

山健太郎・金宇大・徳江秀夫・右島和夫の各氏には遺物について情報・助言をいただいた。記して感謝いたします。



第132図 長頭柳葉(長三角形)鐵図②



第133図 長頭片刃鐵図

#### 後賀中割遺跡鐵鐵図

1	倉科2号墳	19	奥原15号墳
2	土口将軍塚古墳	20・21	奥原30号墳
3	後賀中割遺跡7号墳	22・23	少林山台7号墳
4	達磨山古墳A号石室	24・27	後賀中割遺跡8号墳
5・6	兵家1号墳北鄰	28・29	少林山17号墳
7	八丁鎧塚1号墳	30	奥原49号墳
8・9	富岡5号墳	31	奥原37号墳
10	綿貫觀音山古墳	33・36	後賀中割遺跡8号墳
11・12	上の山瀬3号墳	37	八幡觀音塚古墳
13	後賀中割遺跡2号墳	38・39	奥原30号墳
14	八幡觀音塚古墳	40	奥原49号墳
15・18・32	後賀中割遺跡1号墳		

## 渦巻文杏葉について

### はじめに

後賀中割遺跡8号墳からは、全国的にも希少な渦巻文杏葉が出土している。東京国立博物館(以下東博)には群馬県藤岡市神田出土とされる渦巻文杏葉4点が所蔵されており、後賀中割例は東日本2例目となる。

渦巻文杏葉については、その造形の特異性が以前から注目されてきたものの、出土例が稀少であること等も相まって、研究が充分に深化してきたとはいがたい。そこで本稿では、渦巻文杏葉の位置付けや起源について、若干の検討を試みていくこととした。

### 類例および先行研究

渦巻文杏葉については、福岡県小郡市三沢古墳群17号墳の調査によって存在が認識されて以来、その特異な形態や分布状況について注目を集めてきた(宮田1992、杉本・宮田2001)。立聞部の下側に、向かい合うようにして2つの内巻きの渦巻が造り出されるという構造を最大の特徴とし、後賀中割遺跡8号墳以外には、伝群馬県藤岡市神田(東博所蔵)、奈良県宇陀市室の谷2号墳、兵庫県多可町東山14号墳、兵庫県朝来市音谷1号墳、兵庫県香美町文堂古墳、鳥取県八頭町福本70号墳、鳥取県八頭町万代寺3号墳、岡山県津市万燈山古墳(註1)、福岡県小郡市三沢17号墳、福岡県広川町内古墳、熊本県山鹿市オブサン古墳、宮崎県西都市持田17号墳の12例が知られている(亀田2014、岸本2018、東方2014)。第134図に分布を示したが、島根・兵庫に5例が集中するほか、北部九州と群馬において複数例が確認されている。また、杏葉としては比較的小型であり、ほとんどの事例では1~2点の出土に留まるようである。金銅装のものは三沢17号墳のみで、このほかには銀装・銅装のものが少数例知られている。

先学によって、渦巻文杏葉は6世紀末から7世紀前半に位置付けられること、渡来系集団と関わりのある地域から出土する傾向があること(杉本・宮田2001)、伽耶との関わりがある渡来系遺物であること(亀田2014)、板状(X字脚・十字脚)辻金具との共伴例が多く関連性が見出されること(大谷2013)等が指摘されている。分布の背景に関しては、宮田浩之によって馬匹生産による陸上交通

路の展開の中で作成された可能性が示されている(宮田2020)。また、各事例の形態は類似するものの、法量や材質の差異が大きいことから、製作場所や時期はバラバラであり、使用者サイドの要請によって製作されたのではないかという指摘もある(東方2014)。

### 後賀中割遺跡8号墳例の概要と特徴

後賀中割遺跡8号墳の横穴式石室からは、完形の渦巻文杏葉5点(第60・61図-130~134)が出土している。他例では1~2点ずつの出土が大多数を占めていることと比較すると、かなりまとまった数量での出土といえる。伝藤岡市神田例が4点という数量である点も踏まれば、馬装を構成する上で配置された渦巻文杏葉の個体数が、群馬県地域では他地域よりも多かった可能性も考えられる。

立聞部と渦巻部の接続箇所には責金具が巡る。立聞部の形状やサイズ等に多少の差異はみられるものの、いずれの個体も共通する構造をしており、同一工房で製作されたセット関係を成すものと思われる。

渦巻部は、鉄棒に捻りをくわえながら2回転半ほど巻き込んで成形しており、2つの渦巻の中央部にはそれぞれ装飾のための鉢が打たれている。立聞部との接続箇所には捻りがくわえられず平坦なままであり、別造りの立聞部を鍛接しているとみられる。立聞部には3箇所に鉢が打たれており、これによって革帶に接続していたようである。立聞部・渦巻部・責金具・鉢のいずれも鉄製であるが、責金具と鉢は鉄地に銀の薄板を貼っている。

共伴した馬具としては鞍金具、辻金具、留金具、鞍具があるが、轡、鏡板、雲珠などを欠いており、全体としてどのような馬装を構成していたのかは不明確である。ただし、辻金具の鉢には銀の薄板が残存するものがあることから、装飾に銀が多用された馬装であった可能性が高い。

類例と比較した上で後賀中割8号墳例の最大の特徴は、渦巻部を巻き取る前に捻りがくわえられている点である。こうした製作技法は、管見の限りでは本例が唯一であり、他例にはみられない。また、責金具が付属するのは本例のみである。

渦巻部中央に鉢をもつものとしては、室の谷2号墳、東山14号墳、文堂古墳、オブサン古墳の4例があり、鉢

に銀・銅といった金属を被せるものとしては文堂古墳、万代寺3号墳、三沢17号墳の3例がある(亀田2014、東方2014)。なお、文堂古墳例では、錫装の金属光沢を目立たせるために鉄部分に表面処理が行われていた可能性が示されているが(東方2014)、これは後賀中割8号墳例においても同様のことがいえ、銀装を目立たせるために、鉄部分への黒漆の塗布等が行われていた可能性がある。

#### 起源についての検討

渦巻文杏葉の造形については、イモ貝装馬具や朝鮮半島の有棘利器を源流としている可能性が指摘されているが(杉本・宮田2001)、これに対しては慎重論もある(東方2014)。たしかに、渦巻文杏葉の最大の特徴である「内向きの1対の渦巻」は、これらの遺物にはみられない。

さて、従来はあまり注目されてこなかったが、渦巻文杏葉と同様の造形をもつ鏡板付轡が存在する。東博が所蔵する、伝群馬県藤岡市平井出土とされる資料で、滝沢誠の分類による「複環式鏡板轡C類」に該当し、6世紀末～7世紀頃の所産と考えられている(第136図)。C類は大韓民国慶尚北道慶州市(新羅の王都周辺)の味都王陵地区等に類例をもつが、日本国内ではこの1例のみである(滝沢1992)。渦巻文杏葉とはデザインの共通性が高く、セット関係を成していくても違和感がない。造形の類似性からの推測となるが、この複環式鏡板轡C類をデザインの原型とし、鏡板ではなく杏葉に意匠を取り入れていったことで、渦巻文杏葉が誕生したと考えることができる。

くわえて注目されるのは、複環式鏡板付轡が長野県下伊那地域からまとめて出土するという点である(滝沢1992)。A類2例・D類1例が確認されているが、これらも朝鮮半島へ系譜がたどれる遺物であり、A類にみられる重なる円環は、一見すると渦巻とも似た印象を受ける(第137図)。A類については、5世紀後葉から6世紀前葉という年代観が与えられており、C類や渦巻文杏葉に若干先行する時期である。下伊那は馬匹生産の盛んな地域であり、渡来系の馬飼集団によって複環式鏡板付轡が使用されていた可能性も、充分に想定できる。C類が群馬へともたらされた理由も、こうした馬匹生産と関連した交流によるものかもしれない。

なお筆者は、各例の渦巻文杏葉に構造等の差異がみられることから、一箇所で生産して配布されたのではなく、

使用者が保持していた「共通のイメージ」をもとに、各例が個別生産されたと考えている。この場合、使用者間での情報のやりとりが必要となり、例えば実物をみた記憶を基づいて製作が行われるような状況もあったと想定される。

以上のような状況を踏まえ、敢えて想像を逞しくするならば、渡来系遺物である複環式鏡板付轡C類を祖型として渦巻文杏葉が誕生し、馬匹生産に関連した遠隔地域間の交流によって分布を広げていった可能性が指摘できる。共有されたイメージを基にして個別生産された渦巻文杏葉は、集団間の紐帶を明示・再確認する役割を果たし、彼らの生活の拠りどころでもある馬を飾り立てていたのかもしれない。

#### おわりに

本稿では、渦巻文杏葉が渡来系の鏡板を基にして生み出され、馬匹生産に関連する地域間交流によって波及した可能生を提示した。今回、こうした検討の機会を与えたものの、仮定の上に仮定を重ねる、まさに屋上屋を架す様な内容となってしまった感は否めない。今後とも検討を深めていく必要があるが、本稿が先学諸兄の研究に幾許かでも資するところがあれば幸いである。

(註1)大谷晃二氏の御教示による。

#### 引用参考文献

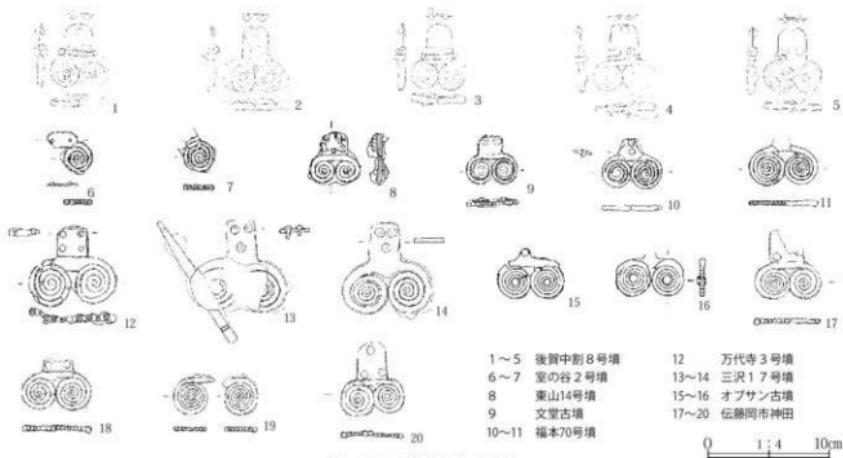
- 大谷宏治 2013 「船津L-第62号墳の馬具について」「船津古墳群II」富士市埋蔵文化財調査報告書第55集 富士市教育委員会
- 亀田修一 2014 「福本70号墳の銅鏡が語るもの」「福本70号墳発掘調査報告書:郡家町文化財調査報告書第20集」八潮町教育委員会
- 岸本一宏 2018 「大型の無袖石室鏡 音谷1号墳」「兵庫県埋蔵文化財情報 ひょうごの遺跡」97号 (公財)兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
- 桑原勝嗣・勝又優一 1987 「オブサン古墳」熊本県文化財調査報告第87集 熊本県教育委員会
- 杉本昌史・宮田浩之 2001 「三沢古墳群」「小都市史」第4巻資料編 小都市
- 滝沢誠 1992 「複環式鏡板付轡の検討」「史跡森将軍塚古墳-保存整備事業発掘調査報告書-」更埴市教育委員会
- 東方仁史 2014 「文堂古墳出土馬具の検討」「文堂古墳」大手前大学史学研究所研究報告第13集 大手前大学史学研究所
- 宮田浩之 1992 「17号墳から出土した渦巻文杏葉について」「三沢古墳群II 三沢上地区古墳整理事業関係埋蔵文化財調査報告書第7号」小都市文化財調査報告書第79号 小都市教育委員会
- 宮田浩之 2020 「筑紫平野北部の古墳と馬倒い」「道路学研究の地平—古留秀敏氏追悼論文集—」古留秀敏氏追悼論文集刊行会

#### 図版典拠

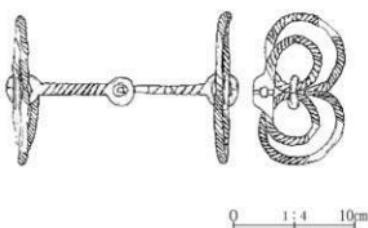
- 第134図 筆者作成
- 第135図 下記文献より引用  
1～5：木本、6～8・10～12：亀田2014、9：東方2014、13～14・17～20：宮田1992、15～16：桑原・勝又1987
- 第136図 東京国立博物館提供(資料番号J-36749)
- 第137図 滝沢1992を一部改変



第134図 渦巻文杏葉の分布



第135図 渦巻文杏葉の類例

第136図 伝藤岡市平井出土の複環式鏡板付轡  
(Image:TM Image Archives)

第137図 長野県高森町上洞3号墳出土の複環式鏡板付轡

## 後賀中割遺跡8号墳の小札甲と関連資料

公益法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター  
内山敏行

はじめに(要旨) 後賀中割遺跡8号墳の小札甲を、古墳時代後期末(後期第4段階)に位置づける。胸部小札が鍼5孔の小札甲と、鍼6孔の小札甲は、古墳後期の小札甲の代表的な二種類である。鍼5孔と鍼6孔の小札を一定量ずつ混用する後賀中割遺跡8号墳のような小札甲は、この二種類の製作者や生産組織が近い関係だったか、または後期末にその関係が近くなったことを示唆する。群小古墳被葬者が小札甲を入手する機会や経路として、地域の有力首長を介する場合と、近畿中央政権から直接入手する場合が考えられる。

### 1. 小針鎧塚型の小札甲の変化

群馬県富岡市後賀中割遺跡8号墳の小札甲の型式学的および編年的な位置づけを検討する。「小針鎧塚型」の小札甲(清水1993)の中でも、鍼6孔の小札を胸部に使う「小針鎧塚A」の類型(胸部鍼3孔×2列円頭形)に含まれる。古墳時代後期の甲冑を4段階に分けると(内山2006)、「小針鎧塚B」の類型(第138図左上)は後期第2段階、「小針鎧塚A」の類型(第138図中右)は後期第3段階と第4段階にみられる(註1)。後期第2段階は古墳時代後期中葉と後葉(M T 85-T K 43型式期)、第3段階は後期後葉(T K 43-T K 209型式期)、第4段階は後期末(T K 209型式期)に相当する。

後賀中割遺跡8号墳の小札幅22mmは、後期第3～第4段階の移行期ころに見られる値である。第2～第4段階の札幅の変化を表1と第138図に示す。後期第2段階には幅が狭い小札(21mm以下)と広い小札(22mm以上)の両方が見られる。後期第3段階には狭い小札をほとんど用いなくなる。その後、第4段階には幅22mm以下に小札幅が縮小してゆき、広い小札が衰退・減少する。

小札の鍼孔数とその組み合わせ関係からみると、後賀中割遺跡8号墳の小札甲は後期第4段階と考える。後賀中割遺跡8号墳と同様に、鍼6孔小札の他に鍼5孔小札も多く含む組み合わせが、群馬県太田市割地山古墳(第138図中段左)・千葉県栄町浅間山古墳(第138図下段)に

ある。

栄町浅間山古墳の小札甲は、(1)Ω字型縫札がなく平縫札を使うと見られる、(2)頭部が方形に近づいた小札を含む、(3)鍼6孔と鍼5孔の小札を一定量ずつ使う(前述の割地山・後賀中割遺跡8号墳と共通)、という特徴を持つ。(1)と(2)は、後期第4段階の飛鳥寺型小札甲(清水1993、内山1992b、初村2015)から影響を受けた可能性がある。(3)と関係して、割地山古墳の草摺の第3鍼孔も飛鳥寺型の影響と指摘されている(横須賀2017、p.25)。

栄町浅間山古墳の小札甲は、後期第4段階より後の終末期初頭まで下がるかもしれない(横須賀2017)。一方で、浅間山に幅23～26mmの広い札も多いことは第3段階に近い特徴なので、後期第4段階におさめる考え方もできる。飛鳥寺型と小針鎧塚型は別系統であるが、腰札幅を比較すると、後期第4段階の飛鳥寺出土腰札は上幅23mm・下幅20mm、栄町浅間山の腰札は幅23～25mm、後賀中割8号墳は幅22mmである。

### 2. 小札幅・孔配置と鍼紐の関係

後賀中割遺跡8号墳の小札甲は、革紐を用いた鍼かもしない痕跡がわずかに認められただけで、鍼紐の材質や鍼法が不明確である。縫紐、縫札下縫履輪、下摺紐の状況や材質も不詳で、わずかに革紐下摺かもしない痕跡がみられた。

不明な点が多い後賀中割遺跡8号墳の連結を考える参考事例を第139図に示す。鍼法の分類は、清水(1993)などによる。胸部は鍼6孔で、革紐鍼の場合でも組紐鍼でも、法皇塚古墳(鍼紐2条/列)や小針鎧塚A(鍼紐1条/列)のような各段鍼b類にする。草摺部は鍼4孔で、革鍼の場合には法皇塚古墳や金鈴塚古墳のような緩付鍼が多いが、各段鍼a類もある(富木車塚型)。組紐鍼の場合は小針鎧塚古墳の甲A・Bの草摺のように各段鍼a類にする。

鍼5孔の札は、金鈴塚古墳胸部(革紐鍼)や割地山古墳草摺部(組紐鍼)のような各段鍼b類になる。後賀中割遺跡8号墳は鍼5孔の札の使用部位が不明確だが、鍼4孔の札や草摺縫札と同じ長さ70mmなので、鍼4孔と鍼5孔を草摺に使ったのかもしれない。

各段鍼a類には組紐を使うことが多い。組んだ紐の隙

間に紐を刺し貫いて固定する作業は、革紐よりも組紐のほうが通しやすく、やり直しも容易である。縕付鍼に革紐が多い(組紐は少ない)理由は、上下段の距離に合わせて紐に印をつけて穿孔する作業が組紐より革紐で行ないやすいことと、古墳中期の天狗山型小札甲からの伝統によると考える。

次に、小札幅と鍼紐の関係に触れておく(表1)。

古墳中期末葉～後期前葉には、狭く小さい小札を組紐で鍼す小札甲が、上位の甲であった可能性がある(内山2019a, p.451)。組紐鍼が増えてくる過渡期の古墳中期第7～後期第1段階に、革紐鍼の小札甲は大形の札、組紐鍼の小札甲は小形の札を使う傾向がある。紐製作に手間がかかる組紐鍼す甲は、小さくて狭い札をたくさん製作・連結する手間もかけている。

後期第2段階でも、幅の狭い小札を使う甲は組紐鍼が多い傾向がある(表1上段)。後期第3段階(表1中段)に札幅が広くなると革鍼が増えるので、(1)製作手間を省いた下位ランクの甲を量産したか、(2)札幅によるランク分けが衰退したと評価できる。後期第4段階に向けて札幅が再び狭くなる変化は、丁寧な製品に回帰する現象でもあり、同時期の鍼孔1列小札甲が広い札(後期第3段階・藤ノ木型)から狭い札(後期第4段階・飛鳥寺型)へ変化することに習った現象でもある。

### 3. 鍼6孔の胸部小札と鍼5孔の小札

古墳時代後期の小札甲が最も多く分布する東日本では、鍼5孔の胸部小札を使う富木車塚型・金鈴塚型(清水1993)と、鍼6孔の胸部小札を使う小針鉗塚Aの類型に、分布地域の差がある。富木車塚型・金鈴塚型は、東海道沿いの静岡県静岡市駿河山古墳や神奈川県南足柄市塚田3号墳から、関東地方東部の千葉・茨城に多い(内山2019b, pp.65, 68; 田邊2020, p.25)。小針鉗塚Aの類型が北関東西部の群馬・栃木・埼玉に多いことと対比できる。ただし、分布の差は量的で、排他的ではない。群馬・栃木でも伊勢崎市古城稻荷山古墳(東京国立博物館所蔵品)や下野市御薙山古墳にも鍼5孔の札があり、千葉県北部の城山1号墳・法皇塚古墳にも鍼6孔の札がある。

鍼6孔の札に加えて一定量の鍼5孔札を混用する後賀中割8号墳などの事例は、(1)同一か近い関係の工人や

集団が鍼5孔と6孔を作りわけたか、または(2)鍼5孔と鍼6孔の工人や集団が後期第4段階に交流・統合した状況を示唆する。鍼5孔の小札を製作集団に対応させる意見も提出されている(田邊2020, p.28)。

鍼5孔と6孔が製作者の違いに対応する場合でも、相互に情報や技術を共有・交流していた可能性が高い。鍼5孔と6孔に共通して札幅の変化を追跡できることも理由の一つである。また、鍼紐の通しかたを基準に、小札の鍼5孔と6孔のグループを横断する3系列を、古墳後期後半の小札甲に認定できる(横須賀2017, pp.23-25)。孔配置は小札の設計・製作に関わる製作者の関係、鍼法は小札の連結に関わる製作者の関係を示しているかもしれない。

鍼6孔の胸部札の他に、鍼5孔札も多く使う後賀中割遺跡8号・割地山・栄町浅間山古墳のような小札甲を検討するには、鍼5孔札を使う部位を明らかにする必要がある。鍼5孔札を小札甲の草摺部分に使ったとみる群馬県割地山古墳での推定は(谷津・坂庭2000, p.23)、後賀中割遺跡8号墳や栄町浅間山古墳にも適用できるのだろうか?各小札の使用部位を推定できる事例を確認してゆく必要がある。

### 4. 小札甲を出土する群集墳と首長墳

群馬県域と、それに隣接する栃木県域西部・埼玉県域北西部では、小札甲が群集墳の中・小古墳(群小墳)から出土する事例がある(谷畠ほか2016)。群馬県域では伊勢崎市蟹沼東古墳群や高崎市山名原口古墳群が代表的である。後賀中割遺跡8号墳も、墳径17～18mの群小墳である。古墳後期の小札甲は、有力古墳から出土する場合のほうが一般的である。

群小墳の被葬者が小札甲を入手する機会あるいは経路に、その地域の有力首長が介在したことがわかる事例を示す。高崎市若田坂上古墳群(山本ほか2021)では、群集墳中の墳径10mの円墳である4号墳の小札が、同じ地域の最有力首長墳である八幡觀音塚古墳(内山1992a)の2号甲と同種である(第140図)。古墳後期第4段階の飛鳥寺型(清水1993)のうちでも、札幅が非常に幅広い特徴的な小札甲で、軍事的役割を示す外観を実用性よりも重視した特殊品である。この事例は、武器を伴って群集墳に埋葬された人々を、中央政権が直接的に軍事編制したの

## 第5章まとめ

ではなくて、地方首長を介して編制した状況を示唆する。後賀中割遺跡8号墳の被葬者が小札甲を入手する機会も、同様の背景がある。西毛地域や富岡地域の有力首長と同じ機会に後賀中割の被葬者が小札甲を入手し、または有力首長が入手した複数の小札甲を地域内で二次的に分配する状況である。もちろん、後賀中割遺跡8号墳の場合に、被葬者が近畿中央政権から直接に小札甲を入手した可能性を否定するわけではない。

(註1) 福島県山崎横穴墓の事例から、胸部鍼孔4個の小針頭塚B類型が後第3段階以後に少数残る可能性がある(横須賀2011, 2017)。他の事例が増加すれば、検討する必要があろう。

### 〔参考文献〕 遺跡名がわかりにくい場合は末尾()に示す

- 石原潤 1993 「湖跡神社古墳」藤岡市史編さん委員会編『藤岡市史』資料編 原始・古代・中世 藤岡市, pp.219-222  
上田耕・森浩一・藤原光輝・秋山達也・宇田川誠一 1990 「富木車塚古墳」大阪市立美術館学報第三 大阪, pp.26-28  
臼井洋輔 1981 「岡山の甲冑山開カラーシリーズ30 山陽新聞社岡山八幡大塚」  
内山敏行 1992a 「挂甲と付属具」・「挂甲と付属具について」『銀音塚古墳調査報告書』高崎市教育委員会, pp.79-90, 130-135  
内山敏行 1992b 「古墳時代後期の朝鮮半島系舟」『研究紀要』第1号 桐生県文化振興事業団編歴文化財センター 国分寺, pp.143-165 (永明寺・飛鳥寺)  
内山敏行 2006 「古墳時代後期の甲冑」『古代武器研究』第7号 古代武器研究会 彰叢, pp.19-28  
内山敏行 2004 「第4節 古墳時代 2 遺物 (11) 武具」「千葉県の歴史」資料編 考古4 千葉県発行, pp.832-843 (城山1号)  
内山敏行 2019a 「金井東裏遺跡の甲冑と関連資料」「金井東裏遺跡古墳時代編」学分析編 考察編 鹿島県埋蔵歴文化財調査事業団 西川, pp.451-456  
内山敏行 2019b 「大刀・甲冑・馬具からみた関東と東海東部の首長墓」『霞ヶ浦古墳と東国首長』季刊考古学別冊30 雄山閣 東京, pp.65-78 (霞ヶ浦)  
内山敏行 2020 「第7節 小札・衝角付背」「千葉県水更津市 金鉢塚古墳出土品再整理報告書」第1分冊 木更津市教育委員会, pp.283-311  
内山敏行・穴沢亮光 2002 「伝愛媛県川上神社古墳出土甲冑の検討」『遺跡第39号』松前(愛媛県伊予郡), pp.117-130  
岡本健一編 1997 「羽野山古墳 史跡埼玉古墳群整備事業報告書」確認調査編・付編 埼玉県教育委員会 浦和, pp.48-49, 110-114  
小野山謙・都出比呂子・黒川富美子編 1968 「京都大学文部省博物館考古学資料目録 第2部 日本歴史時代」京都大学文部省博物館考古学資料目録 第2部 日本歴史時代 京都大学文部省, pp.93-94 (太秦天塚)  
折原覚はか 2017 「永明寺古墳」羽生市文化財調査報告書第5集 羽生市教育委員会, pp.47-51, 79-81  
齋藤篤 1970 「若狭上中の古墳」上中の教育委員会(福井県上中郡), p.42, 47図(丸山塚)  
酒水和明 1993 「挂甲製作技法の変遷からみた挂甲の生産」「甲冑出土古墳にみる武器・武具の変遷」第33回理歴文化財研究集会 宮崎, pp.13-27  
志村哲 1993 「小札」「平井地区1号古墳」範囲確認調査報告書 藤岡市教育委員会, pp.33-38  
白井久美子 2002 「鉄製小札」「印旛郡采原茂南山古墳発掘調査報告書」千葉県史編さん資料 壬辰帖, pp.77-104  
白井久美子・山口典子編 2002 「千葉県古墳時代関係資料」千葉県, 第1分冊pp.45-49, 第2分冊pp.29-34, 第3分冊pp.11・12・36 (祇園大塚山鉄製小札・鶴巣塚)

白井久美子・内山敏行 2017 「法皇塚古墳の小札甲」「市史研究 いちかわ」第8号 市川, pp.69-98

木永雅雄 1934 「日本古代の甲冑」国書院 東京, pp.44, 104, 108-110, 298-299, 第47回, 国版33, 37, 42 (小見真觀寺)

鎌木裕芳・片平雅俊 1987 「赤羽横穴墓群・B支丘1号墓の調査」『日立市教育委員会』, pp.39-42

高橋克壽 1993 「第4回 出土遺物 II. 武具」「滋賀県野洲郡野洲町 宮山1号墳調査報告書」野洲町教育委員会, pp.27-33

田代隆・小森哲也 1984 「横塚古墳」『石橋町史第一巻 史料編(上)石橋町(柄木町下都賀郡)』, pp.56-108

田道基 2020 「古墳時代後期の小札甲にみる地域性-鍼孔2列5孔型小札の導入の様相-」「週報」第38号 東京, pp.21-30

古畠美帆・中村史実・内山敏行 2016 「四十八塚古墳群に埋葬された被葬者を考察する」「研究紀要」第24号 とちぎ未来づくり財团理歴文化財センター 下野, pp.81-97

岸本敏大・上田直美・杉本和江・川本浩三 1999 「挂甲について」「田子原塚古墳出土遺物保存処理報告書」袋井市教育委員会, pp.73-112

岸本敏大・中村新之介 2015 「第186号墳 小札甲」「信濃大室横石塚古墳群の研究」IV 明治大学文学部考古学研究室 東京, 報告篇pp.101-105

越江秀大編 1999 「編鏡圓音山古墳II 石室・遺物編」(財)郡馬県埋蔵文化財調査事業団 北橘, pp.115-164, 325-328

中村彰子 1982 「鉄製挂甲札」「金冠塚(山王二子山)古墳調査報」前橋市教育委員会, pp.11-12

初村武哉 2015 「東大寺金堂跡道具挂甲残闕を再考する」「国宝 東大寺金堂跡道具 保存修理調査報告書」東大寺 奈良, pp.263-272 (飛鳥寺)

初村武哉 2018a 「奈良国立博物館蔵 大和二塚古墳・珠城山三号墳出土遺物の調査」「鹿園遺集」20 奈良, pp.51-71

初村武哉 2018b 「小札式甲冑の研究史と導入・展開期の諸様相」「古代武具研究」Yo 1, 14 山口, pp.47-76

船山政志・塙田良道 1991 「小針頭塚古墳の挂甲」「行田市郷土博物館研究報告」第2集, pp.1-30

松本友之 1971 「挂甲小札」「いわき市史 別巻 中田装飾横穴いわき市石原」, pp.153-161

谷口信司・坂庭正紀 2000 「東矢塚古墳群(御池山古墳)」「山内遺跡」III 太田市教育委員会, pp.3-38

山口琴子 2012 「益子天王塚古墳出土遺物の調査 (5) -挂甲-」「早稲田大学学術年記一紀念博物館研究紀要」13 東京, pp.135-149

山口清人・水沼良浩 1992 「御殿山古墳」「南河内町史」資料編 I 考古 南河内町(橿木県河内郡), pp.461-493

山本ジェームス・大野義人 2021 「若田坂上道路」高崎市文化財調査報告書第457号 高崎市教育委員会, pp.55-56

横須賀倫達はか 1999 「常陸日天塚古墳・茨城大学人文学部考古学研究報告第2冊 水戸」, pp.57-81, pp.134-138

横須賀倫達 2011 「山崎横穴古墳群出土小札甲の調査と研究」「福島県立博物館紀要」第25号 会津若松, pp.3-23

横須賀倫達 2017 「双葉町清戸8号横穴出土遺物の研究I-小札甲-」「福島考古」第58号 福島, pp.9-28

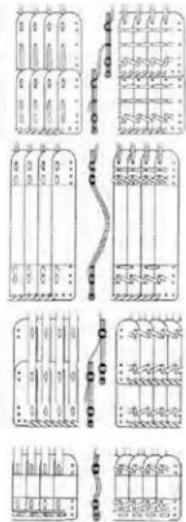
### 〔参考文献〕 (韓国文題)題名は日本語に翻訳

- 李建龍 2020 「甲冑を通して見た長鼓塚の性格」馬韓研究院編『長鼓塚の被葬者と楽遣作背景』馬韓研究院叢書8 学研文化社 ソウル, pp.287-298 (新徳1号塚)

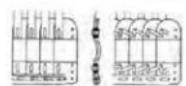
	札幅16~21mm	札幅22mm	札幅23~29mm
後期第2段階	<p>腰札 胸部 縫4孔 B1 B2 B3 埼玉県 小針鎧塚 小札甲B (札幅17mm)</p>	<p>胸部最上段 縫5孔 腰札 B1 B2 B3 埼玉県 将軍山 小札甲A 草摺 草摺裾</p>	<p>胸部(最上段?)縫5孔 腰札 草摺 草摺裾 滋賀県 宮山1号墳 (札幅28~29mm)</p>
後期第3段階	<p>幅21mm以下の狭い札は使用しなくなる (→札幅が広い段階)</p>	<p>腰札 草摺 胸部 縫6孔 草摺 草摺裾 栃木県 石橋横塚</p>	<p>腰札 草摺 胸部 縫6孔 A1 A2 A3 草摺 草摺裾 埼玉県 小針鎧塚 小札甲A (札幅27mm)</p>
後期第4段階	<p>腰札 胸部 縫6孔 草摺 草摺裾 群馬県 割地山 (札幅20mm)</p>	<p>腰札 草摺 草摺? 胸部 縫6孔 草摺 草摺裾 群馬県 後賀中割8号墳</p>	<p>幅23mm以上の札が衰退・減少して、 幅21mm以下の札が再び現れる (後期第3→第4段階に、札幅が狭くなつてゆく)</p> <p>0 10cm</p>
千葉県 東町浅間山古墳(後期第4段階2)	<p>縫6孔 XA(8) 縫5孔 IA(35) 縫4孔 I(102+) (102+)は 小札甲類(102枚よりも多枚)の意味。他も同様。 (札幅19~21mm)</p>	<p>縫6孔 XA(1) XV(1) XV(3) 縫5孔 XII(3) XVI(1) 縫4孔 VIII(5) XII(29) VIII(4+) VI(6) IX(8) XB(1) XIB(1) V(40+) XVII(32) 腰札 (札幅23~26mm)</p>	

第138図 小針鎧塚型小札甲および関連資料の変遷と札幅

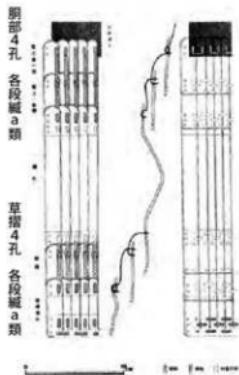
胸部6孔 各段縫b類



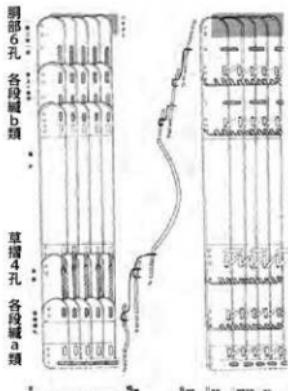
草摺4孔 縫付縫

小針鎧塚型(小針鎧塚A類型)  
の変種 革紐縫  
千葉県法皇塚古墳(内山2004)

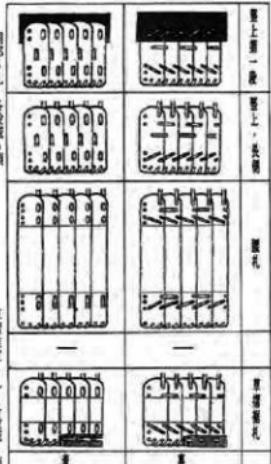
胸部4孔 各段縫a類

小針鎧塚型(小針鎧塚B類型) 組紐縫  
埼玉県小針鎧塚古墳 甲B  
(船山・塙田1991)

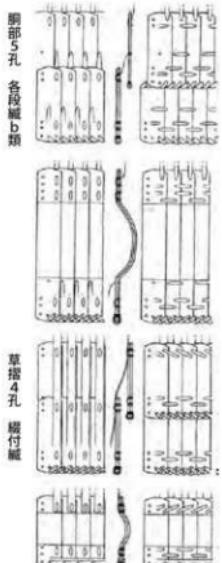
胸部6孔 各段縫b類

小針鎧塚型(小針鎧塚A類型) 組紐縫  
埼玉県小針鎧塚古墳 甲A  
(船山・塙田1991)

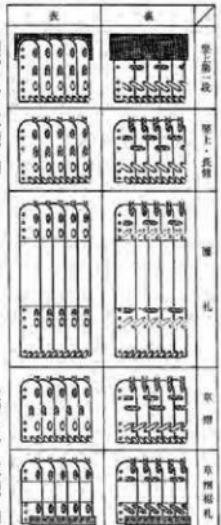
胸部5孔 各段縫b類

富木車塚型 革紐縫  
大阪府富木車塚古墳(清水1993)

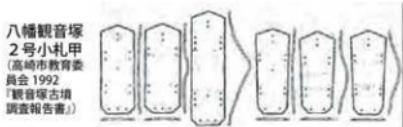
胸部5孔 各段縫b類

金鈴塚型 革紐縫  
千葉県金鈴塚古墳(内山2004)

胸部6孔 各段縫b類

小針鎧塚型(小針鎧塚A類型)  
の変種 組紐縫  
群馬県別地山古墳(谷津・坂庭2000)

第139図 小札縫法の関連資料 胸部各段縫2列円頭系 小針鎧塚型・富木車塚型・金鈴塚型



若田坂上

4号墳

出土小札

(高崎市教育委員会 1992)

「観音塚古墳

調査報告書」



0 20cm

第140図 八幡觀音塚古墳と若田坂上4号墳の小札

表1 總4・5・6孔の小札甲の札幅(各段縦2列円頭形 小針鎧塚型・富木車塚型・金鉢塚型)

小札の幅(mm)	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	縦幅	材質
後期第2段階 小針鎧塚型(胸部縦4孔 小針鎧塚Bの類型)															細網	羊絨
新開(洋子塚)号																○
鹿島 純貴殿若山 甲A																○
鹿島 純貴殿若山 甲B																下欄2孔
坂井 犬山塚	通透	草	草	草	草	草	草	草	草	草	草	草	草	草		般上段に縦6孔の札
坂玉 永明寺	通透	草	草	草	草	草	草	草	草	草	草	草	草	草		最上段に縦6孔の札
坂玉 小針鎧塚 甲B																○
京都市 大葉天塚	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		下欄2孔
後期第3段階 總5孔(少數)+縦4孔(多數)																
鹿島 純貴殿若山号																縦5孔の札は少數
後期第2段階 總2列5孔+縦1列2孔																
全南 新池1号																○
縦1列-2列併用?																

後期第3段階 小針鎧塚型(胸部縦6孔 小針鎧塚Aの類型)

通山 八幡大塚2号															○	縦6孔は上端 下段は無
福島 清戸船山号															○	縦6孔は上端 下段は無
坂玉 小針鎧塚 甲A															○	
鹿島 平井地区1号															(○)	
千葉 城山1号															○	縦5孔の札も少數有
長野 大室186号	通透	草	草	草	草	草	草	草	草	草	草	草	草	草	○	鉄札と革札を併用
福島 中田横穴															○	
千葉 法皇塚															○	縦5孔の札も少數有
坂玉 純貴殿若山 甲B															○	
福島 云橋塚															○	
後期第3段階 富木車塚型(胸部縦5孔)+金鉢塚型(胸部と腰札縦5孔)																
千葉 純貴殿															○	
大阪 富木車塚															○	鉄札と革札を併用か
滋賀 志羽1号横穴																
新潟 錦機山															○	下欄3孔多・2孔少數
福島 桂子天王塚	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	縦5孔の札は24枚
千葉 上総金糸塚															○	
奈良 球城山2号															○	縦5孔は上端 下段は無
鹿島 古城郡所山															○	
鹿島 日月天塚															○	
後期第3段階 富木車塚型(胸部縦5孔)+中期古墳の遺物に混入?																
千葉 純貴殿若山															○	平縦縦で組紐片も付有

後期第4段階 小針鎧塚型(胸部縦6孔 小針鎧塚Aの類型)

奈良 佐山川神社															○	下欄2孔。
坂玉 小見真誠寺															(○)	○下欄2孔と3孔有
鹿島 山王金冠塚															○	下欄2孔と3孔有
後期第4段階 總6孔と縦5孔を併用																

千葉 萩山浅間山(1)	II	I	II	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	XIII	XIV	○	下欄2孔と3孔有 5孔の札は6孔の8割
鹿島 後宮中頭山															(○)	5孔の札は6孔の8割
鹿島 舞鶴山															○	5孔の札は6孔の8割
後期第4段階 富木車塚型or金鉢塚型(胸部縦5孔)																
福島 諫驚山																偏円頭札は下欄2孔
後期第4段階 胸部縦6孔と5孔か不詳																
鹿島 舞鶴御前神社																下欄2孔

## 後賀中割遺跡7号墳調査の意義

群馬県立歴史博物館特別館長 右島和夫

### はじめに

一辺が約24.5mと比較的大型の方墳・後賀中割遺跡7号墳(以下では、断りのない限り「7号墳」と略称する)は、調査前においては、全くと言ってよいほど、存在を予期していなかった古墳で、今回の発掘調査によって初めて確認されたと言うのが当を得ている。その場合、2段築成の墳丘第1段上面から出土した土師器高杯が、現在の土師器研究の趨勢に照らすならば、5世紀第2四半期ないし中葉、すなわち陶邑須恵器編年のTK208型式に併行する時期の所産と考えて大過ないと土師器研究者からの教示を得ている。このことは、本墳の墳丘第1段、第2段の斜面部に施された葺石の築成法・構造的特徴や副次的埋葬施設の可能性が考えられる中心寄りの土壙から出土した刀子形石製模造品の形態的特徴とも矛盾するものではない。

ところで、本墳の場合、5世紀に属する比較的整美な方墳である点が大いに注目される。この時期の方墳という墳丘形式が、当該期の古墳総体の中では、主体的位置を占めていないこと、さらには、非常に限られた存在であるからである。それでは、7号墳の場合、いかなる背景の中でこの墳丘形式が採用されたのかを考えていく必要がある。

その解決法として、一つには、当古墳を取り巻く周辺地域一帯の同時期の考古学的動向を見ていく必要があるだろう。同様に上毛野地域総体の時期的動向とも照らし合わせて見る必要がある。さらには、列島における5世紀に属する方墳の存在形態との関係性如何も重要なってくるだろう。結論からのべるならば、本墳については、当地域における馬生産開始の問題と深く関わっている可能性が見え隠れてくるところである。その場合、特に渡来系の被葬者像が想定されてくるところである。ただし、後述するように、「5世紀方墳」イコール「渡来系」とは必ずしも言い切れない。この時期の方墳(方形原理)の根底にはいかなる規定要因が存在したのだろうか。

ところで、筆者は以前、本墳の発掘調査を担当した群馬県埋蔵文化財調査事業団に、調査担当職員として長く

勤務していた際、平成元年・2年・4・5年度の長期間にわたり本墳と篠川を挟んだ南側に当たる旧甘楽郡新屋村地区(現甘楽郡甘楽町)に所在する白倉下原・天引向原遺跡の発掘調査・整理担当として從事する機会があった。この4年間は、当地域一帯の古墳時代の特徴的な地域相への強い関心を持つ機会となった。そのこともあって、7号墳発見・調査の知らせを受けた時、本墳の周辺一帯が、これまでの甘楽町教育委員会、富岡市教育委員会、群馬県埋蔵文化財調査事業団等による考古学的調査成果の集積を踏まると、馬生産開始の先駆的な地域の一つである可能性を考えていたところである。そして本墳が、その真っ只中に関わる調査地区に当たっていることが思い浮かんだところである。その意味では、今回の7号墳の発見・調査は、より具体的に馬生産開始の先駆的状況に具体的道筋を与えてくれる可能性を内包していることが想起されたところである。

### 1. 後賀中割遺跡7号墳の基礎的検討

当古墳の調査の情報を教えてもらい、はじめて古墳を見たとき、墳丘上半部を後世に失っていること、中心的主体部を失っている可能性が強いこと等、古墳の具体的評価を定めていくための基本的情報が、非常に乏しいことが、調査担当者とともに悩ませるところであった。それでも整美な比較的大型の2段築成の方墳であることは、当該地域で占めた位置が非常に大きかったことを物語るものであった。

その後、調査が進む中で、第1段の平坦面直上から土師器高杯が出土したり、墳丘調査が大きく進展する中で、葺石の施工法に顕著な特徴が見いだせるところとなり、5世紀の所産として間違いないことが確信されるようになってきた。

**墳丘の形状と規模** 墳丘は方位にはぼ軸線を合わせている。調査区の範囲との関係で、辺全体が検出できたところはなく、墳丘の辺長は、南辺幅と北辺幅から測りだしたものである。

**葺石の構造的特徴** 葺石は、遺存状態が良好な第1段に施されたものが、ほぼ完存していたため、特徴が明瞭に把握できた。

基本的には、根石部分に他の葺石石材と差異性が明確にわかるほどの大ぶりの石を設置するところから開始し

ている。すなわち根石列を周囲させるところから葺石施工は開始しているわけである。次に、3m前後の距離を空けて縦に目地が通るように重箱積みに積み上げる。これは、コーナー部の斜辺部についても同様に積み上げられている。これにより縦長の長方形区画が連なることになる。次にその区画内を充填するように積み上げていくのであるが、その場合も場所によって粗粒の差異性がよくわかる。区画内が充填され終わると、葺石の最上端面には、最上部を揃えることを意識して比較的整然と配置される。

なお、第1段葺石根石の設置箇所は、周囲の墳丘側底面の位置であり、そこまで葺石上端部から連続的に続いている。周囲内側底面が墳丘の輪郭として意識されていたことがわかる。

ところで、第1段について各辺の葺石の施工状態を比較検討してみると、南側部分が最も丁寧に、整然と仕上げていることは明瞭である。次には、東側部分であり、北側部分が最も乱雑な感は免れない。このことは、墳丘全体の中で、南側部分について、その南側からの視覚を意識したものであったことが考えられるところであり、正面観としての位置づけがなされていたことがわかる。

このことは、古墳の南側を流れる鎌川の段丘面の河岸縁辺部を意識して墳丘占地がなされていたこと、対岸からの視覚、あるいは古墳の位置から見下ろすように展開する対岸の平坦地を視覚に入れる意識があったのではないかだろうか。このことは、後述するように、対岸の7号墳と同時期の遺跡展開状況が直接的に関係している可能性がある。

第2段の葺石は、残る部分がわずかであるため、その粗粒を判断できるほどの遺存状態ではない。強いて言うならば、第1段ほど整然としていなかった可能性がある。**周囲の状況と墳丘構造** 周囲の規模が墳丘の高さを反映している可能性は高い。その高さは、検出状況より増することは明らかだが、第2段の高さを第1段以上に想定することはできないだろう。周囲の幅が、約2m前後とさほど大きくならないからである。現状では2段構造であるが、当初も高さは現状より高いものの、比較的低平な墳丘であったことが推測される。確認された墳丘は、後後に徐々に削平されていった結果と考えられるが、元々それほど高い墳丘を備えていなかったため、周囲から区分出来る

ほどの高塚墳ではない。低墳丘の方墳であったと考えられる。

**主体部** 主体部は未確認である。墳丘の中心寄りから15号土坑とされ、調査時には、古墳に直接帰属しないものと位置づけられたが、そこから出土した刀子形石製模造品は、時期的には古墳と矛盾しない。ただし、墳丘にくらべあまりにも貧相な構造なので、これを中心的な埋葬施設とするには躊躇せざるを得ない。

## 2. 後賀中割遺跡の周辺の遺跡動向

前述したように、7号墳の占地箇所は、鎌川を挟んだ対岸に展開する部分を意識している可能性が強い。具体的に該当部分における遺跡の存在形態を見てみよう。

**西大山遺跡** 7号墳の上に立って、南側少し見下ろすと、鎌川が西から東へと流れている。その対岸のすぐ南西側には、5世紀後半を中心とした低墳丘の円墳から構成される、いわゆる初期群集墳が確認されている。道路建設予定地で確認された円墳4基(1号～4号墳)が知られるところとなった。そのうちの1号墳は、径約11.5mの小型円墳であり、周囲幅1m前後である。主体部は明らかでないが、周囲内に川原石で覆われた土壤墓と思われるものが確認されている。また、これとは別に、周囲内から、鉄製の鍵轆が出土している。これは、韓国の忠清北道清州市の新羅洞古墳群(百濟地域に属する)からよく似たものが出土しており、5世紀前半の所産とされている。埴輪樹立がなされており、その埴輪の特徴とも併せて、5世紀第2四半期ないし中葉と考えた7号墳に近い時期としてよいだろう。

なお、東京国立博物館に充実した副葬品セット(鍔銅製三鈴杏葉、各種玉類、各種石製模造品、大刀、提鉢ほか)が収蔵されている5世紀後半の大山鬼塚古墳は、西大山遺跡のすぐ隣接地に所在していたことが知られており、そこから出土した舟形石棺が地権者のお宅に運び込まれている。西大山遺跡と一体の古墳で、その最有力古墳(舟形石棺を有する古墳は限られており、帆立貝式か大型円墳)であると考えられる。

ところで、この鍵轆の周囲内という出土位置は何を物語るのだろうか。馬に装着した状態で周囲内に埋葬される事例が、長野県飯田市の天竜川右岸の段丘面に所在する5世紀を中心とした初期群集墳で確認されている。飯

田市の付近一帯は、5世紀に入り突如として馬生産が活発に開始される地域であり、そのこととの関係の中で理解できる存在形態である。西大山1号墳の事例も、その観点から評価することが可能である。

**甘楽条里遺跡** 本稿で本文の後に付した図版の「1」に掲げたものは、甘楽条里遺跡を南から俯瞰したものである。その奥に左右に流れているのが鏑川であり、そのすぐ対岸が7号墳の位置であり、その手前左が西大山遺跡の古墳群の位置である。

甘楽条里遺跡と称している遺跡群は、濃密な分布を示す集落遺跡を中心としている。集落跡の所在地は、鏑川の第1段の段丘面から南に奥まった第2段丘面寄りの地点である。そこで、5世紀前半以降顕著な展開を見せる集落が確認されており、西大山遺跡の古墳群に対応する可能性がある。早くに調査され、大量の遺物を出土した箇遺跡は、この甘楽条里遺跡を構成する集落遺跡の一つと考えてよいだろう。

ところで、「甘楽条里」という遺跡名称は、鏑川寄りの平坦地に現在水田が広く認められるが、その水田の区割りが条里制地割りに則っているため付された名称である。この部分に対して、土地改良事業に伴って調査されたのが甘楽条里遺跡であり、この川寄りの広大な平坦面は、遺構が極めて希薄であり、水田化されたのも、その大半は古墳時代までさかのぼらないことが確認されている。このことは、近年、群馬県埋蔵文化財調査事業団が、国道254号バイパスの建設工事に伴って、この中心部分を東西に横切るように発掘調査したが、結果はやはり非常に希薄であることが明らかになった。

**新屋牧** 鏑川右岸のこの地域一帯は、甘楽町になる前は、北甘楽郡新屋村であった。この新屋という地名は、古代甘楽郡新屋郷として登場してくるとともに、古代上野国に設定された官牧として新屋牧があり、それらの有力比定地になっている。これらもろろのことを併せた時、甘楽条里遺跡として位置づけた遺跡群のうち、鏑川寄りの広大な現在の水田地こそ新屋牧の中心部分であった可能性が考えられてくるところである。そして、その官牧として設定された地は、それ以前の古墳時代から馬生産の伝統的地域を継承する形で設定されたのではないかと考えられるところである。

これらのことについて、後賀中割遺跡7号墳の位置づけが結

びつき、この想定される馬生産に関わる一連の流れの中で理解することができるのではないだろうか。

### 3. 5世紀における方墳とその意義

上毛野地域(古墳時代の群馬県地域に近い範囲をこう呼ぶ)における5世紀を中心とした時期の主な方墳を整理すると、次表(表1)のようになる。最初に述べたように、5世紀に属する方墳は、極めて少数派である。その場合、墳丘形式として主体的に採用されたのは、多い方から順に、円墳、帆立貝式古墳、前方後円墳である。そこには、円形原理の中で主たる墳丘形式が選定されていることは明らかである。以下、当地域の当該期の方墳のいくつかについて具体的に見てみる。

**剣崎長瀬西遺跡** 古墳群の形成は、5世紀前半から後半にかけての時期になされ、その中核をなすのは、5世紀第2四半期の所産である長瀬西古墳(帆立貝式あるいは造り出し付円墳、径30m)であり、その周囲には、中小の円墳が確認できる。これに対して、群の北東隅寄りに円墳より小型の方墳と方形積石塚が位置しており、両者の間には墳形にとどまらず、古地形においても明瞭な区分が存在したことがわかる。ところで、古墳群中には、半島系の鉄製鏡板付轡(加耶系譜の可能性)を装着したままの状態の埋葬馬が見つかっている。また、方墳の10号墳には、やはり加耶に系譜が求められる金製垂飾付耳飾が伴っていた。

ここから見えてくるのは、新たに馬生産に従事するようになった集団に関わる古墳群としての位置づけである。古墳群が所在する剣崎丘陵の位置から北側の眼下を見渡すと、烏川とその右岸の第1段丘面が見える。ここで、馬生産に伴う格好の放牧地になるのではないかと考えられる。

方墳の被葬者は、加耶を中心とした朝鮮半島南部の地域からやって来た、馬生産の専門家ではなかったかと考えられるところである。

### 渋川市東町古墳・坂下町古墳群と高崎市下芝谷ツ古墳

ここで取り上げる古墳は全て5世紀末葉ないし6世紀初頭噴火の榛名山噴火火山灰層(Hr-Fa)に覆われていたものである。

東町古墳は、完全に解明できなかった側面もあるが、墳丘上部の構造的特徴は、高崎市箕郷町下芝谷ツ古墳と酷似している方墳である。すなわち、谷ツ古墳は、2

表1 上野野地域における5世紀代の主要方墳

古墳名	所在地	墳丘規模(m)		主体部形式	葺石	埴輪	副葬品	その他
		辺長	高さ					
下芝谷ツ	高崎市箕郷町	約20	4.7以上	竪穴式石室	○	○	金銅製飾履・丁字形 鏡板・劍菱形杏葉ほか	2段築成、上段は積 石塚構造
劍崎長瀬西5号	高崎市八幡町	6.6		竪穴式石室	○	×		
" 9号	"	10		"	○	×	金製垂飾付耳飾	2段築成、
" 10号	"	9		"	○	×		2段築成
" 11号	"			"		×		これら3基は一辺が 2.9~1.1mの規模で、石のみ構成
" 12号	"			"		×		
" 16号	"			"		×		
" 100号	"	4.2		"				
倉賀野万福寺2号	高崎市倉賀野町	8.4		墳丘削平	○	○	鉄刀子	近接の墳丘伴わない 石塚から鉄鎧
石原坊主山	高崎市石原町	24		墳丘削平	—	○	○	埴輪に人物・馬等
東町	渋川市東町	(5.5)	1以上	竪穴式石室	○	○	鉄刀子・鐵	2段築成の古墳の上 段部分のみの調査
坂下町1号	渋川市坂下町	2.6		竪穴式石室	×	×		積石塚
2号	"	3.7		"	×	×		"
3号	"	3		"	×	×		"
4号	"	3		"	×	×		"
5号	"	3.6		"	×	×		"
6号	"	4.9	0.5	"	○	×		2段築成
岩下清水1号	利根郡昭和村	4以上		—	○	×		両墳とも2段築成、 石のみから構成。6 世紀前半
" 2号	"	5.1	0.7以上	横穴式石室	○	×		
川頬軍原2・3・4・5・ 8・12号集石遺構	利根郡昭和村							底面のみの確認だ が、岩下清水2号墳 に酷似する構造が推 定
後賀中割7号	富岡市後賀	27.8		—	○	×		2段築成

段築成の方墳であり、下段のおよそ半分以下は地山削り出し、上半分は盛土とし、地山削り出し部分から連続的に葺石が施されており、高さ4.2mである。第2段は第1段にくらべると高さは僅かであり、すべて川原石で構成されている積石塚状を呈する。この時期の副葬品としては極めて希少な半島系の金銅製飾履が出土しており、この場合も、方墳が渡来系の被葬者と結びつけられる可能性を示唆している。

東町古墳の所在する榛名山東麓から北東麓にかけての一帯は、これまで見てきた地域と同様、5世紀第2四半期ないし中葉の時期を嚆矢とし、馬生産が組織的・大規模に展開しようとしていた特徴的な様相を示している。そこで確認された方墳の存在は、重要である。

調査時、付近が湧出状態にあったため、墳丘の下半部は未調査である。確認された墳丘第2段と思われる部分

は、川原石のみから構成され、1辺約5m、高さ0.75mを測り、その周囲を埴輪列が方形に囲繞していた。その外側に下段の上面縁辺部が位置し、第1段の斜面部へと続いていることは明らかである。

東町古墳の北側に近接する坂下町古墳群では、密接して6基が検出された。調査区を周囲に広げればまだ数多く確認できることは間違いない。6基の内訳は、2段築成の方墳である6号墳(1辺約4.9m)とこれより小規模で方形に石を寄せ付けた積石塚状を呈するもの5基である。

東町古墳、坂下町古墳群とも、そのすぐ近くが利根川と吾妻川の合流点付近に位置している。ところで、両者が所在する榛名山東～北東麓のHir-Fa下から発見される古墳がすべて方墳かと言うと、そうではない。むしろ、逆で、主体はやはり円墳である。同時期の渋川市空沢古

墳群は、すでにIIr-FA下から50基以上が密集して確認されているが、その主体をなすのは円墳であり、客的に方形積石塚状(区画は平面的で、あまり高さを有していない)のものが確認されている。坂下町古墳群の方墳の6号墳以外の5基に近いものである。

**方墳成立の背景** 以上の見てきたように、上毛野地域西部の地域には、数こそ多くはないが、地域全体に5世紀に属する方墳及び方形積石塚が確認される。今まで確認されている事例による限り、朝鮮半島との関係性、さらには、馬生産開始の時期との関係性の中で位置づけていくことができそうである。

ところで、最近、群馬県埋蔵文化財調査事業団が調査し、大冊の報告書を刊行してきた渋川市金井遺跡群(金井東裏・下新田遺跡)は5世紀中葉を前後した時期から、主として馬生産の開始を視野に開発され、定着していく集団に関わる遺跡群であることが明らかになってきた。この遺跡群が5世紀末～6世紀初頭に被った被害は甚大で、被災直後のこの地域の復旧は、基本的には断念されたと考えられる。このことと表裏一体の関係で6世紀初頭ないし前半以降、大規模・組織的に馬生産が開始されてくるのが、吾妻川の対岸の子持山南麓の黒井峯遺跡・白井遺跡等である。そのような中で、これら遺跡群から利根川を上流に少しあかのぼった河岸で見つかった昭和村の岩下清水1・2号墳、同川額原古墳群の小型方墳の存在は注目されるところである。ここで見つかった小型方墳は、時期こそ異なるが坂下町6号墳の墳丘構造に酷似している。

利根川上流域に当たる現在の昭和村をはじめとする諸町村及び沼田市域では、古墳時代後期以降、古墳からの馬具・武器の出土頻度が極めて高いことでよく知られており、利根川上流域で馬生産が急速に展開していったことを物語っている。

上記方墳は、5世紀後半を中心とした時期、榛名山東～北東麓における馬生産の技術的基礎を担った渡来系専門技術者の出自系譜に連なることが推測されてくるところである。

おわりに　一畿内地域における5世紀の方墳—古墳における方形原理には、もともと様々な側面がある。まず、弥生期の方形周溝墓・台状墓は、古墳時代か



写真 岩下清水2号墳

ら見ると、伝統的な墳墓の原理であった。このことからすると、弥生末～古墳前期に大和盆地東南部で新たに誕生した古墳(墳丘墓)が、初期ヤマト王権の成立と表裏一体の関係の中で円形原理を基礎にして創出されたことは重要である。列島内の多くの地域では出雲を除けば、同じ円形原理を受け入れていった流れが重要である。それゆえ、6世紀末葉に東アジアの王陵の影響下に成立した大型方墳の登場とは、異なる流れであることは間違いない。

これ以降、畿内地域及び影響下にある列島全体においては、方形原理(方墳)は、客的な存在になってしまった。前期の期間中は、地域により命脈をかろうじて保った前方後方墳も基本的には消滅していく道筋を歩んだことがこの間の事情をよく示している。

それゆえ、5世紀に入って築造された方墳については、その古墳の被葬者、あるいは築造した集団の特別な背景を考えていく必要があるだろう。

いわゆる「陪冢」と位置づけられている古墳については、藤田和尊らにより、厳格に定義し、評価していく必要が主張されている。そのような作業を経ることにより、なにゆえ方墳が採用されたのかが見えてくるのだろう。

新沢千塚に近接する折山古墳(倭彦命墓)や終末期の最

有力墳を除けば、周囲の古墳にくらべて小型(比較的大型の方墳の場合も前方後円墳にくらべると相対的に小型)であるところに特徴がある。そこには、墳形及びその規模によって明確に区別しようという意図が作用していたと考えられないだろうか。

大阪市長原古墳群は、5世紀代に形成された200基以上から構成される古墳群で、その大半は方墳を採用している。これについては、初期群集墳の一形態としてとらえる立場と伝統的な方形墳墓の延長上でとらえ、新たに登場してくる群集墳の類型には含めない立場がある。長原古墳群は、長原遺跡群で見つかっている集落跡と一緒にの関係の中で見ていくことが可能とされている。その場合、集落跡では韓式系土器の出土頻度が極めて高いことが知られており、5世紀に入り河内平野で新たに展開した様々な産業を担った渡来系集団が想起されていている。古墳群を構成する方墳には、埴輪を作うものが多いことも注意される。

この時期に属する比較的大型の方墳の場合、新沢千塚126号墳や五条鶴塚古墳をはじめとして、顯著に半島系遺物を伴う事例が注意されるところである。

このように見てみると、5世紀に登場してくる方墳には、厳格に墳丘形式としてシステム化されているわけではないが、主体的である円形原理の古墳に対して、何らかの区分・区別(差別ではない)していくことに意味があったのではないかと考えられる。そのような中で、半島の要素を有している方墳が多いのも注意される。

5世紀の方墳の個々について、存在形態を詳細に検討していくことが、解決につながりそうである。

本稿を草するに当たり、下記の方々をはじめ多くの方々から御教示・支援をいただいた。記して感謝申し上げる次第である(順不同)。

青柳泰介、新井 仁、飯田浩光、諫早直人、亀田修一、小安和順、齊藤利昭、坂口 一、桜岡正信、笹澤泰史、杉山秀宏、高田貢太、徳江秀夫、友廣哲也、土生田純之、深澤敦仁

#### 引用・参考文献

- 石部正史1988「群集墳の発生と古墳文化の変質」『東アジア世界における日本古代史講座4 学生社
- 大塚昌也1999「群馬の石塚塚(1)」「群馬考古手帳」9
- 尾崎真左雄1971「古墳文化」「北群馬・渋川の歴史」
- 京船宜1997「初期群集墳の形成過程」「立命館大学考古学論集」1
- 木村收編1997「白倉下原・天引向原遺跡群 古墳時代編」群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団2015「甘楽条里遺跡」
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団2021「金井下新田遺跡」
- 群馬県立歴史博物館2017「海を渡って來た馬文化」
- 小安和順1989「甘楽条里遺跡」甘楽町教育委員会
- 小安和順1996「西大山遺跡」甘楽町教育委員会
- 笹澤泰史2021「鉄が語る群馬の古代史」みやま文庫
- 渋川市教育委員会1988「空堀遺跡 第8次」
- 昭和村教育委員会1998「川越原軍原」道路
- 昭和村教育委員会2002「岩下清水古墳群」
- 専修大學文学部考古学研究室2003「劍崎長瀬西5・27・35号墳」高崎市教育委員会
- 高崎市教育委員会2001「劍崎長瀬西道路1」
- 高崎市販賣野万福寺遺跡調査会1983「販賣野万福寺遺跡」
- 田口一郎1988「群馬県下足・谷ツ古墳」「日本考古学年報39」日本考古学協会
- 奈良県立橿原考古学研究室1977「新潟126号墳」
- 土生田純之編2003「古墳時代東国における渡来文化の受容と展開」専修大学文学部
- 土生田純之編2017「積石塚大全」達山閣
- 真鍋史史2019「鍛冶を営む人々」「馬の考古学」達山閣
- 右島和夫編1994「白倉下原・天引向原遺跡Ⅲ 弥生・古墳時代編」群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 右島和夫2012「群集墳」「古墳時代研究の現状と課題 下」同成社
- 右島和夫2019「總論 「飛馬冠」馬の考古学」「馬の考古学」達山閣
- 右島・青柳泰介・諫早直人・菊地大樹・中野咲・深澤敦仁・丸山真史編 2019「馬の考古学」達山閣
- 山本良知1981「東町古墳」「群馬県史」資料編3
- 若狭勝2017「上毛野(西毛)」「積石塚大全」達山閣
- 和田晴吾1992「群集墳と終末期古墳」「新版古代の日本5」角川書店
- 図典典拠**
- 1：甘楽町教育委員会提供
- 2：小安和順1996
- 3・4・5：筆者撮影
- 6：田口一郎1988
- 7：山本良知1981
- 8：尾崎真左雄1971
- 9：群馬大学提供
- 10・11・12：高崎市販賣野万福寺調査会1983
- 13・14・15：高崎市教育委員会提供
- 16：群馬県教育委員会「下郷」1980
- 17：近つ飛鳥博物館「百舌鳥・古市の陵墓古墳」2011
- 18：白石太一郎「大型古墳と群集墳」「考古学論叢」第2冊 横原考古学研究所1973
- 19：京船宜1997
- 20：坂井「近い古墳群」横原考古学研究所1991
- 21：横原考古学研究所附属博物館・横原市教育委員会「海を超えたはるかな交流」2006
- 22：横原考古学研究所「四条シナノ遺跡」2007



1. 甘楽条里遺跡と鍬川 左上で鍬川手前の×白が西大山古墳群、その対岸の×印が後賀中割遺跡



2. 西大山古墳群調査区と大山鬼塚(A)



3. 西大山2号墳周掘出土革帶



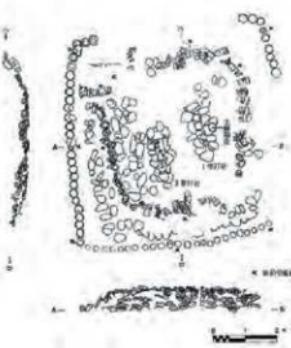
4. 甘楽条里遺跡出土高杯転用羽口



5. 西大山古墳群・大山鬼塚古墳舟形石棺



6. 高崎市下芝谷ツ古墳



7. 渋川市東町古墳全体図



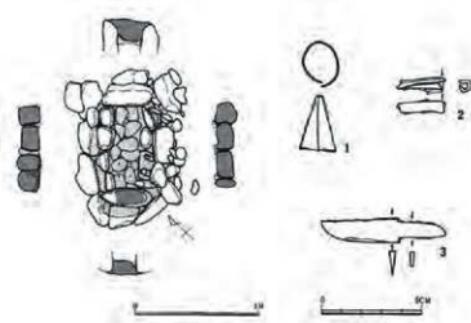
8. 渋川市坂下町古墳群 6号墳



9. 同古墳群(左から右へ2・3・4・5号墳)



10. 高崎市倉賀野万福寺遺跡 2号墳



11. 同6号墳小石燈

12. 同6号墳出土鐵鏃・刀子



13. 高崎市剣崎長瀬西古墳群(右端に方墳)



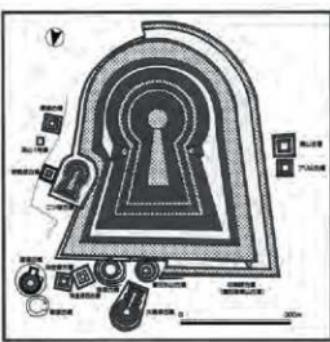
14. 同10号墳



15. 同10号墳出土  
金製重飾付耳飾



16. 群馬県玉村町下郷遺跡の古墳時代前期周溝墓群



17. 応神陵古墳(答田御廟山)と陪冢



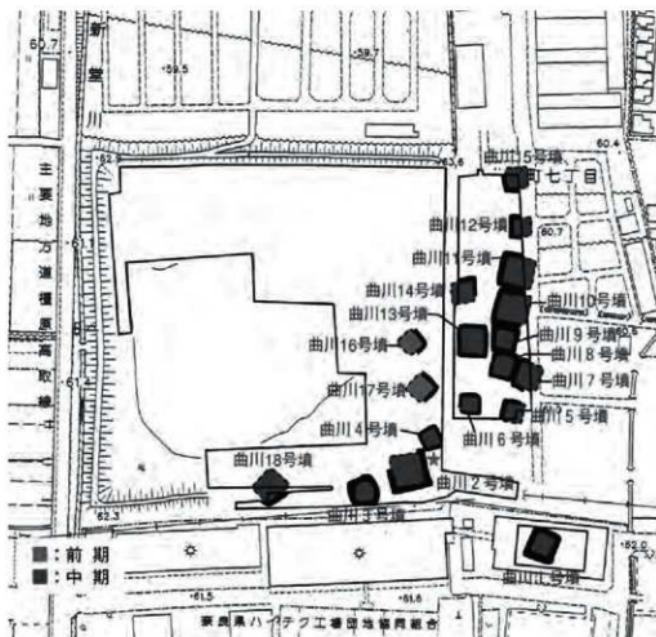
18. 榎原市新沢千塚全体図



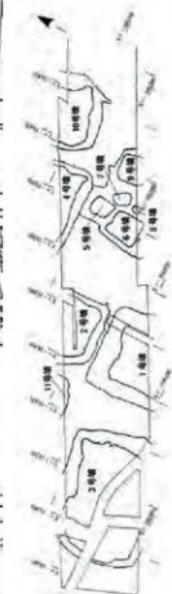
19. 大阪市長原遺跡群の方墳群(一部)



20. 奈良県五條鶴塚古墳とその周辺



21. 奈良県橿原市の曲川古墳群 大量の半島系遺物を出土する新堂遺跡に隣接



22. 橿原市四条シナノ遺跡の方墳群

## 後賀中割遺跡まとめ

本後賀中割遺跡は群馬県富岡市後賀地区に所在する。検出された遺構、遺物は縄文時代から中世に至る複合遺跡である。遺跡の南面を東西に流れる鍋川があり、東流し現在の高崎市へと流下する。遺跡は尾根の先端に所在し、西側は尾根が南北にそそり立っている。このため1・2区と3区の標高差は約5mを測る。さらに遺跡地内は南側の鍋川に向かい緩く南東に傾斜している。

縄文時代の遺構、遺物は竪穴建物5棟が確認され、後期称名寺式土器とこの時期に特徴的な柄鏡型竪穴建物、敷石の床面を持っている。時期的には後期初頭期の土器が出土し、集落は短い時間内で終わる。

弥生時代は前・中期の遺構、遺物は確認できなかったが、尾根の高い場所に集落がある可能性は指摘できる。竪穴建物からは後期樽式土器が確認されている。

古墳時代の遺構、遺物は初頭期から前期に至る方形周溝墓が4基確認され、樽式土器時代の集落は墓域に変化している。方形周溝墓からは土師器が出土し、弥生時代から古墳時代へと継続経過していることが理解できる。

古墳時代中期には墳丘を持つ古墳が7基確認されている。調査開始前には墳丘の存在は確認できなかった。昭和時代に耕作地開墾のため、削平が進み確認されていない。古墳の時期は7号墳が5世紀代の葺石を持つ方墳に比定されている。時期の根拠については墳丘葺石の間から5世紀代の土師器や墳丘盛り土内から陪葬墓が確認でき、石製模造品が副葬品として出土している。石製模造品も土師器と同じ5世紀代に比定することができる。8号墳からは多量の鉄製品が出土している。8号墳の時期は7世紀代と考えられ、武器、武具、馬具、太刀鞘尻等の装飾品が出土している。武具としては小札が多量に出土している。

後賀中割遺跡の古墳群は以上のことから、5世紀から7世紀に継続する古墳群であると考えられる。古墳はすべて前述のとおり、耕作地に改変するための人力による削平が行われ、確認できなかった。7基の古墳の墳丘はすべて破壊、削平され、遺跡地は平坦な畠地にされていた。このため7号墳の石室は確認できなかった。陪葬墓はこの墳丘の盛り土内に確認されている。

8号墳は石室床面が多少残っていたが、石室内の床面

は掘り起こされ、小札は散乱した状態で出土した。小札と共に胄の存在も想定される。太刀は出土していないが、銀製の鞘尻も出土している。

周辺の畠地には傾斜地の土留めとして石垣状に人頭大の石が使われている。この石垣の石は周囲に存在していた古墳の葺石である。遺跡地外にも石室の石や大型の石室の石が畠の側面にみることができる。遺跡の南側には富岡市内を東西に流れる鍋川があり、生活水や耕作地を潤す水源としての存在も指摘できる。

遺跡が存在する富岡市内では後期群集墳の存在が多く確認されているが、後賀中割遺跡7号墳のような5世紀代の方墳が確認されたことの意義は大きい。5世紀代から7世紀にかけて数百年を経て継続した古墳群の存在を確認できた意義も大きいと言える。

特に7号墳の南面からは鍋川だけでなく富岡市内の平野が一望でき、古墳時代の繁栄を認めることができる。逆に言うと平野部からはこの古墳が尾根先端上に眺望することとなる。立地と葺石が見事に望めたことが彷彿とされる。調査時に確認できたのは葺石の積み方以前の区画を割る方形の列石は南面が多面より丁寧に区画され、区画内の石も同様に丁寧に仕上げられていることがわかる。このことから南面の葺石が平野部から見上げることを前提にして葺いたことが理解できる。

後賀中割遺跡で確認された5世紀代の方墳の存在、7世紀まで継続する古墳群は富岡市内、鍋川左・右岸に広がる平野部からの眺望だけではなく、古墳群を構成した時期の長さと継続を示している。一辺40mを測る5世紀代の方墳の存在と豊富な鉄製品を副葬された8号墳の出土から、後賀中割遺跡内に存在した古墳被葬者層が長期に渡り、鍋川の両岸に広がる生産域を支配したことと理解できる。

豊富な鉄製品から武器、武具、馬具の存在からは支配者層が馬を所有したことを示唆している。

### 参考文献

小原俊行2017『富岡市で発見された終末期古墳(T007遺跡)』『ぐんま

地域文化』第50号4・5頁

群馬地域文化振興会(本文では調査開始時のため当初7号墳を7世紀代の古墳と考えていた。)

1区1号墳出土遺物観察表

種類 PL.No	種類 No	種類 種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第178号 PL.69	1	須恵器 鏡	埋上 底部	底 7.3	磁砂粒/酸化錫/黄 褐色	クロロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	混入
第178号 PL.69	2	須恵器 杯身	理上 口縁部・稜片 柱状部	口 13.0 14.6	磁砂粒/還元錫/黄 灰	クロロ整形、回転は右回りか。口縁部は内側に傾く。	
第178号 PL.69	3	須恵器 高杯	基壇・北部周堀 底面直上 杯脚部・脚部 柱状部		磁砂粒・粗砂粒/ 酸化錫/暗赤褐	クロロ整形、回転は右回り。杯部と脚部は接合。脚部に1段3法の透孔。	
第178号 PL.69	4	須恵器 高杯	南部底面上 5 cm 杯脚部・脚部 柱状部		磁砂粒・粗砂粒/ 還元錫/黄灰	クロロ整形、回転は右回り。杯部と脚部は接合。杯部底部はカキメ。中位の脚部の上下に2段3方の透孔。	
第178号 PL.69	5	須恵器 高杯	理上 脚部	脚 14.0	磁砂粒・粗砂粒/ 還元錫/黄灰	クロロ整形、回転は右回り。脚部は屈曲、端部に凹縫が2条ある。	
第178号 PL.69	6	須恵器 鉢	理上 口縁部片	口 11.0	磁砂粒/還元錫/灰	クロロ整形、回転は右回りか。	
第178号 PL.69	7	土師器 直口壺	理上 口縁部片	口 9.2	磁砂粒/良好/赤褐	口脚部は横ナデ、口縁部はヘラ削り。内面は口脚部が横ナデ。口縁部はヘラナデ。	
第178号 PL.69	8	灰釉陶器 長颈瓶	理上 脚部		夾雑物無/還元錫/ オーリーブ黒	クロロ整形、回転は右回りか。外面には釉薬が厚く施釉されている。	
第178号 PL.69	9	土師器 台付甕(S 字状口縁)	理上 口縁部片	口 16.8	磁砂粒/良好/ぶ い黄	口縁部から脚部は横ナデ、胴部はハケメ。内面脚部はナデ。	混入
第178号 PL.69	10	土師器 台付甕(S 字状口縁)	理上 口縁部片	口 17.8	磁砂粒/良好/ぶ い黄	口縁部は横ナデ、脚部はハケメ(1 cm当たり6本)。内面は脚部がナデ。	混入
第178号 PL.69	11	土師器 台付甕(S 字状口縁)	理上 口縁部片	口 20.0	磁砂粒/良好/ぶ い黄	口縁部から脚部は横ナデ、胴部はハケメ。内面脚部はナデ。	混入
第178号 PL.69	12	土師器 台付甕(S 字状口縁)	理上 脚部	脚 11.0	磁砂粒/良好/ぶ い黄褐	端部は内側に折り返し。外側ともナデ。	混入
第178号 PL.69	13	土師器 甕	北部周堀内底面 直上 底径1.3片	底 8.0	磁砂粒/良好/褐	底部と脚部はヘラ削り。内面は底部から脚部がヘラナデ。	
第178号 PL.69	14	須恵器 甕	北部周堀内理上 脚部上片		磁砂粒・粗砂粒/ 還元錫/灰白	外面は平行叩き痕の上から粗いカキメ。内面は同心円状アテ具痕が跡に残る。	
第188号 PL.69	15	須恵器 甕	北部周堀内底面 直上 脚部下片		磁砂粒/還元錫/灰	外面の平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕も微かに残る。内面の一側にヘラナデ。	
第188号 PL.69	16	須恵器 甕	理上 脚部		磁砂粒/還元錫/灰	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残るが、内面とも摩滅している。	
第188号 PL.69	17	須恵器 甕	北部周堀内底面 上 5 cm 脚部		磁砂粒/還元錫/黄 灰	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残るが、内面とも摩滅している。	
第188号 PL.69	18	須恵器 甕	北部周堀内理上 脚部		磁砂粒/還元錫/灰	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残るが、内面とも摩滅している。	
第188号 PL.69	19	須恵器 甕	理上 脚部		磁砂粒/還元錫/明 灰黄	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残るが、内面ともやや摩滅している。	
第198号 PL.69	20	石製模造品 白玉	理上 完形	長幅 0.6 0.6	厚 0.4 0.3	滑石 剥片岩質 白っぽい石材、やや半岩質。上下両面に弱い研磨痕、側面に粗く深い研磨痕が残る。内側穿孔、途中にズレ有り。孔径0.2cm。	
第198号 PL.69	21	石製模造品 碧玉	基壇北理上 完形	長幅 2.6 0.7	厚 0.6 1.9	蛇紋岩 風化して白っぽく変色しているが、本来は黒みの強い片岩質の石材。基壇は打撃ではなく木の力により欠損。側面形に反りはない。やや表面が高く、裏面は平坦だが、横断面形は凸レンズ状。	
第198号 PL.69	22	打製石器 石鑿	理上 ほぞ完形	長幅 (1.7) 1.2	厚 0.4 0.5	黒曜石 基壇は打撃ではなく木の力により欠損。側面形に反りはない。やや表面が高く、裏面は平坦だが、横断面形は凸レンズ状。	
第198号 PL.69	23	打製石器 石匙	基壇中央部底面 上 5 cm 完形	長幅 5.7 6.6	厚 1.1 45.4	ホルンフェルス 横型。横長削片素材。やや薄手、大形粗製の部類。縁辺部調整。上の打点側に横溝を作成している。打面は斜面。	
第198号 PL.69	24	打製石器 打製石斧	理上 完形	長幅 11.8 5.6	厚 1.3 104.6	黒色頁岩 削形、半月形に反る。薄手。横長削片素材。裏面に主要削離面を残す。刃部使用痕は明晰。内側縁に敲打痕有り。断面形は薄い凸レンズ状。	
第198号 PL.69	25	打製石器 打製石斧	基壇南部理上 完形	長幅 10.6 6.0	厚 1.5 121.7	粗粒輝石安山岩 分割形。横長削片素材。上下両端に使用による磨滅痕あり。表面に大きく自然面を、裏面に主要削離面残す。内側縁に敲打痕有り。表面中央からやや上に柄ズレによる磨滅痕があり。	
第198号 PL.69	26	打製石器 打製石斧	基壇北部底面直 上 完形	長幅 11.8 3.9	厚 1.7 93.7	安玄武岩 通常の形態に比べてかなり縦身。横長削片素材。裏面に主要削離面。自然面はない。刃部は使い込まれ、かなり光沢を得た程削離している。内側縁は敲打により巣目状に磨滅が進んでいる。横断面形はやや表面側が盛り上がる凸レンズ状。側面形に僅かに反りがある。	

遺物觀察表

種 因 PL., No.	種 類 器種	出上位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
			長 幅	(6.5) 厚 重	2.9 184.1			
第19回 PL. 69	27 磨製石器 磨製石斧	南部周縁内理上 1/2				黄緑色結晶質岩	定角式。楕円形鏽利用。打痕後研磨整形。刃部平面形は本来直角であったものが使用と再生によりやや幅狭ぎとなつたものと考えられる。側面形は両凸刃(船形)で刃先は厚く無い。左側縁のものは敲打による剝離、刃部の幅かいものは使用痕。上部は側縁からの打撃により欠損。	
第19回 PL. 69	28 滅石器 門石	基壇南部底面直 上 1/2?	長 幅 (10.8) 7.6	厚 重 3.3 367.1		変玄武岩	楕円形鏽利用。緑色を呈する重量感のある右石。表面内面に敲打痕と磨面あり。表面には長さ2.2cm×幅1.5cm×深さ4mmの凹みあり。敲打による打撃が原因で欠損したものと考えられる。	
第19回 PL. 69	29 打製石器 石核	基壇中央部埋上 完形	長 幅 3.8 6.7	厚 重 3.3 88.5		硬質泥岩	削片剥離。打痕は比較的平坦な剥離面。船形に近い形、細石核状に整えて右側面・上部の直接打撃により磨石器状の巻曲形剥離を剥離した痕跡である。	
第19回 PL. 69	30 磨製石器 石棒	北部周縁内理上 1/2?	長 幅 (32.1) (10.3)	厚 重 (7.8) 441.5		緑色片岩	棒状形利用。剥離、敲打形後研磨整形。頭部はやや幅くなっている。首は研磨によりやや屈く絞られている。脚下半部は欠損。頭部には一部比較的新しい剝離がある。	一部被熱、赤変。

1区2号埴上出遺物觀察表

第25回 PL. 70	1 頭患器 杯蓋	理上 捕	捕	3.9		磁砂粒/還元焰/黄 灰	クロロ可塑。回転は右回り。捕は偏平な粘土盤を貼付し。圓周面をまみあげ環状にする。		
第25回 PL. 70	2 頭患器 壺	理上 底部～胴部下位 片	底 台	11.6 12.2		磁砂粒/還元焰/黄 灰	クロロ整形。回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は略粘付。		
第25回 PL. 70	3 頭患器 壺	理上 口縁部片				磁砂粒/酸化焰/灰 黄褐色	クロロ可塑。回転方向不明。口唇部下に凸帯、口縁部に2条の内縫で区画、口唇部の平坦面と、口縁部内縫区画上位に波状文を造る。	8と同一か	
第25回 PL. 71	4 頭患器 壺	四輪北東部埋上 口縁部～胴部	口 頭	12.8 10.0	胸	22.8	磁砂粒/還元焰/灰 黄褐色	底部から胴部は粘土組巻き上げによる叩き締め、外面に格子目状叩き痕、内面に同心円状アテ具痕が残る。胴部上半から口縁部はクロロ可塑形、回転は右回り。頭部中位と胴部に各2条の凹縫が巡る。	
第25回 PL. 71	5 教質陶器 壺	理上 制部片				磁砂粒/酸化焰/に ぶい 黄褐色	外面に格子目状叩き痕が残る。内面はヘラナデ。		
第26回 PL. 71	6 頭患器 壺	理上 口縁部				磁砂粒/還元焰/黄 灰	クロロ可塑形、回転は右回りか。口唇部は肥厚し、口縁部は浅い凹縫によって区画、区画上位に波状文を造る。		
第26回 PL. 71	7 頭患器 壺	四輪東部底面上 8 cm 口縁部下位～胴 部上位片	頭 部	19.8		磁砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい 黄 褐色	口縁部はクロロ可塑形。口縁部には波状文が造る。頭部はナ デ、胴部は格子目状叩き痕が残る。内面は制部にヘラナデ。	3と同一か	
第25回 PL. 70	8 頭患器 壺	四輪北部埋上 4 cm	口 頭	22.5 41.0	高	41.2	磁砂粒・粗砂粒/ 還元焰/暗灰	口縁部はクロロ可塑形。頭部は叩き締め、口縁部位に波状文が造る。頭部は平行叩き痕の上の粗いカキメ、内面は口縁部下位がヘラナデ、胴部は同心円状アテ具痕が残る。	
第26回 PL. 71	9 頭患器 壺	四輪・トレンチ 内埋上 口縁部～胴部下位 1/3	口 頭	27.6 20.4	胸	47.0	磁砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	口縁部はクロロ可塑形。頭部は叩き締め、口縁部は上半に波状文を造る。下半はヘラナデ。胴部は平行叩き痕が残る。内面は口縁部中位から胴部下までヘラナデ、底部から胴部は何回かアテ具痕が残る。	
第27回 PL. 72	10 打製石器 石鑿	中央部床面上 4 cm 完形	長 幅	1.4 1.7	厚 重	0.4 0.6	黑曜石	平底無茎器。底辺は若干斜面を有する。剥片要素? 主要剥離面は残っていない。横幅が大きい割では長さは短い。横断面を見るところ端は薄く脱く、下邊も薄く調整されている事が分かる。若干裏面が表面に比べて平坦。両面加工で断面は薄いV字形状。側面形に凹は無い。	
第27回 PL. 72	11 打製石器 打製石斧	理上 2/3	長 幅	(10.0) (6.1)	厚 重	2.3 111.3	磁粒輝石安山岩	分離形。横長・斜面素材、表面上面に自然面がある。裏面に主剥離面を大きく残す。内側縁は敲打により巻き潰されている。下方縁は欠損している。	被熱、赤変
第27回 PL. 72	12 打製石器 第二次加工 ある剥片	理上 完形	長 幅	7.1 7.7	厚 重	1.6 54.5	硬質泥岩	横長剥離素材。黒縫辺部に微弱な剥離痕があるが、左側縁のものはやや大きめのものが並ぶ調整剥離で、右側縁のものは大きめの違うものが不規則に付けて使用痕と考えられる。上縁のものは打痕剥離增加。裏面に自然面、表面に主要剥離面。打痕は自然面ではなく剥離面。	
第27回 PL. 72	13 滅石器 磨石	理上 完形	長 幅	8.0 7.7	厚 重	5.4 479.4	粗粒輝石安山岩	円錐利用。ほぼ全面研磨形。表面両面とも丸みの中は特によく磨らされている。特に裏面は平坦になるまで削磨されている。一部敲打痕が残る。表面には新傷痕あり。	

1区3号埴上出遺物觀察表

第28回 PL. 72	1 打製石器 石鑿	理上 完形	長 幅	1.8 1.6	厚 重	0.6 1.4	黑曜石	平底無茎器。剥片素材。頭部は欠損後再生途中の未成品? 断面面は裏面側が比較的平坦で表面側に盛り上がる低いカマボコ形。表面に一部自然面あり、側面形に若干の反りがあり。	
----------------	--------------	----------	--------	------------	--------	------------	-----	--	--

2区5号埴上出遺物觀察表

第31回 PL. 72	1 頭患器 壺	理上 口縁部下位～頭 部片				磁砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい 黄 褐色	クロロ整形。回転方向不明。口縁部を2条の凹縫による区画、区画内に波状文がある。内面はヘラナデ。	
第31回 PL. 72	2 頭患器 壺	四輪北部埋上 口縁部中位片				磁砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/黒褐色	クロロ整形。回転は右回りか。口縁部を2条の凹縫による区画、区画内に波状文がある。内面はクロロが残る。	3と同一個体か。
第31回 PL. 72	3 頭患器 壺	四輪北部埋上 口縁部				磁砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/黒褐色	クロロ整形。右回りか。外側は2条の凹縫によって4段以上に区分、最下段以外は区画内に1段から3段の波状文が造る。内面は破片下半位にヘラナデ、上半はクロロが残る。	2と同一個体か。
第31回 PL. 72	4 頭患器 壺	四輪東部埋上 胴部上半片				磁砂粒・粗砂粒/ 還元焰/黄灰	外側の平行叩き痕は明瞭に残るが、内面のアテ具痕は摩滅により不明解。	

種 団 PL.No	No	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第31回 PL.72	5	須恵器 甕	周縁北東部理上 脚部下半片		織砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰炭	外面の平行き痕は明瞭に残るが、内面のアテ具痕は摩滅により不明顯。	
第31回 PL.72	6	打製石器 打製石斧	理上 2/3	長 (9.5) 幅 4.9	厚 2.0 重 115.6	粗粒輝石安山岩	短円形。楕円形縛利用。表裏両面に自然面残す。表面は上部および下端に、裏面は中央に部分的に残す。内側縁に嵌打痕有り。側縁からの打痕が原因で刃部欠損。
第31回 PL.72	7	打製石器 打製石斧	理上 完形	長 9.2 幅 5.8	厚 1.9 重 110.3	硬質泥岩	分離形。刃部平面形は円月。下刃の方が使用され、刃部変形も見られる。表面下部に自然面を残す。裏面に主要剥離面を残す。側面縁部の滑れは顕著ではない。

## 2区15号土坑

第36回 PL.72	1	打製石器 石鎚	理上 4/5	長 (1.8) 幅 1.3	厚 0.4 重 1.0	赤碧玉	平基無茎瘤。赤褐色不透明の良質な石材。横長削片素材? 先端部欠損。表面が平坦で裏面がやや盛り上がる。側面形に若干反りあり。横断面は薄い凸レンズ状。
第36回 PL.72	2	石製模造品 月子形	北西際底面直 上 2/3	長 (1.9) 幅 (4.6)	厚 0.6 重 6.6	蛇紋岩	輪入刀形。削片素材? 青色がかる黒みの緑色石材。柄は刀子より削り出し、端部研磨。孔はない。表裏両面研磨、裏面内側に一部剥離面の擦れし部分あり。先端欠損、古い欠損の上に一部新傷跡が残る。

## 2区7号墳出土遺物観察表

第36回 PL.72	76	縄文土器 深鉢	理上 部体上半破片		粗石英・輝石・片 岩・白色粒/良好/ にぶい・黄褐色	口縁部下に爪形状の刻みを加えた横位隆線を設ける。内外 面とも平滑なナデ調整。	後期前葉	
第36回 PL.72	81	縄文土器 深鉢	理上 口縁・体部上半 1/3残存	口 (27.0)	粗石英・輝石・片 岩・白色粒/良好/ にぶい・褐色	口縁部に横位隆線を1条設け、以下体部は無文。縱位削り 調整。後ナデを加える。内面横位ナデ調整。	後期前葉	
第36回 PL.72	101	縄文土器 深鉢	理上 口縁部破片		粗石英・輝石・白 色粒/良好/にぶい 黄色粒	口縫部内側。口縫部に横位沈線2条に画された施文部を設 け。縦位沈線が重なる。施文部縄文は横位L.R.内 面。	後期前葉	
第36回 PL.72	104	縄文土器 深鉢	理上 部体破片		粗石英・片岩・白 色粒/良好/にぶい 淡褐色	施文で画された施文部と磨削部による重要な何学文構成。施 文部縄文はL.R.充填施文。内面平滑なナデ。	後期前葉	
第36回 PL.72	120	縄文土器 ミニチュア上 土器	理上 部体～底部残存	底 2.7	粗石英・片岩/軟 質/にぶい・橙色	台付深溝ミニチュアか。無文で内外面ナデ調整が図る。器 面磨滅する。	後期か	
第38回 PL.72	1	土師器 高杯	周縁北東部底面 上5cm 脚部片		織砂粒/良好/にぶ い・粒	杯部底面にはボソゾの差込を作り、脚部と接合。脚部は柱狀 部がハラナデ、底部は横ナデ。内面も同様。		
第38回 PL.72	2	土師器 高杯	周縁北東部底面 上8cm 杯部底面～脚部 上位片		織砂粒/良好/明赤 褐	杯部と脚部の接合方法不鮮明。杯部底面はハラ削り、脚部 はハラナデ。内面脚部に粘土を較った痕跡が残る。		
第38回 PL.72	3	土師器 高杯	周縁北東部底面 上4cm 脚部	脚 13.6	織砂粒/良好/明赤 褐	杯部と脚部は接合。脚部は放射状のハラミガキ、底部は横 ナデ。内面は上半にハラナデが残る。		
第38回 PL.72	4	土師器 二重口縁器	理上 二重口縁部		黑色氷物粒・織 砂粒/良好/にぶい 黄褐	外面ナデ後縦方向の磨き。内面ナデ後磨き。		
第38回 PL.72	5	須恵器 甕	理上 脚部片		織砂粒/還元焰/灰	外面に平行き痕、内面に同心円状アテ具痕が残る。		
第38回 PL.72	6	打製石器 石鎚	理上 ほぼ完形	長 (1.9) 幅 1.5	厚 0.5 重 1.0	黒曜石	平基無茎瘤。剥片素材。頭部は極一部先端欠損。断面形 は圓錐形か比較的の平坦で表裏面に盛り上がる伏火マヨコ 形。裏面に主要剥離面、下側に打点あり。側面形にはどん どり反りがある。右脚部に底面の摘みみ状になっているが、 石器が小さいことと左右側脚からの調整加工がなく、石底 ではないものとの判断した。	
第38回 PL.72	7	打製石器 石鎚	理上 ほぼ完形	長 (1.7) 幅 1.6	厚 0.5 重 1.2	チャート	平基無茎瘤。半透明の良質な石材。剥片素材。裏面に主要 剥離面を残す。頭端部欠損。裏面が平坦で裏面がやや盛り 上る。横断面形は低山形。側面形に反りがある。	
第38回 PL.72	8	打製石器 石匙	理上 完形	長 4.9 幅 2.4	厚 1.0 重 9.6	チャート	縱裂。縱長削片素材。半透明の良質な石材。打削面は剥離面、 上部に肉側から調整剥離を入れ、摘みみ作出。裏面に主要剥離面、表面左側縁に新傷痕。下端は欠損面で はない。	
第38回 PL.72	9	打製石器 石匙	周縁北東部理上 完形	長 4.0 幅 6.4	厚 0.8 重 12.9	黒色頁岩	横裂。横長削片素材。薄手。縁辺部調整。上の打削側に摘 みみを作成している。表面左端に極一部自然面を残す。	
第38回 PL.72	10	磨製石器 石鍬	理上 2/3	長 (5.2) 幅 3.4	厚 1.0 重 11.9	砂岩	切目石鍬。扁平横円形縛利用。上下両端に切り切りで切り 込みを入れたもので、横方向の左右にはない。表裏両面に 剥離あり。表面に一部新傷痕あり。	
第38回 PL.72	11	磨製石器 石鍬	北部底面直 上 ほぼ完形	長 6.6 幅 3.4	厚 1.6 重 45.2	硬質準片岩	横円形扁平縛利用。下刃が厚く重い。上下両端に稍掛けの ための割り切りの入る切目石鍬。右下は新傷痕(節理面よ り欠損)。若干の磨れはあるものの、表裏両面とも自然面。 裏面はやや平坦。	
第38回 PL.72	12	打製石器 打製石斧	理上 完形	長 12.2 幅 7.1	厚 2.3 重 185.8	硬質泥岩	形態。やや薄手。大形横長削片素材。表面に主要剥離面、 裏面に1/3程自然面残す。側縁部は敲打されている。刃部 使用痕は明瞭で刃部はやや光沢を持つ。剥離部に稍欠けによ る側面減量あり。側面形に反りはない。横断面形は薄い凸レ ンズ状。	

遺物觀察表

種類 PL., No.	種類 PL., No.	出上位置 残存率	計測値			胎石/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
			長 幅	厚 重	高さ			
第38回 PL.72	13	打製石器 打製石斧	理上 ほぼ完形	8.2 5.3	1.9 103.1	硬質泥岩	短円形。角式といふよりも打製石斧の一部を磨いたものに近い。剥片素材。刃部は薄く直線的、長さが短く通常の1/2程度。表面には自然面があるが、その部分に研磨痕と考えられる現状痕あり。刃部右角は使用による刃毀れ。横断面形は薄い凸レンズ状。側面形に若干の反りあり。頭部～両側面に敲打痕あり。	
第38回 PL.72	14	打製石器 打製石斧	理上 ほぼ完形	11.7 5.7	2.6 139.9	硬質泥岩	分角形。纏面で両頭、抉りは深くない。剥片素材？横断面形は厚い凸レンズ状。両角だが、使用痕はあまり明瞭ではない。下左端は側面からの敲打によるヒビ割れが原因で欠損。内側縁は敲打により引き剥離されている。裏面に部分的に自然面を残す。	
第38回 PL.73	15	打製石器 打製石斧	理上 完形	9.7 5.3	2.0 69.6	硬質泥岩	薄形。横長剥片素材。裏面に主要剥離面を残す。自然面はない。内側縁に敲打痕有り。側面形に若干の反りあり。側縁部に若干の柄ズレはある。刃部は直刃、使用痕はほとんどない。	
第38回 PL.73	16	打製石器 打製石斧	理上 完形	9.5 5.3	1.3 76.5	粗粒輝石安山岩	分角形。やや纏面、薄手。上下両端に刃部作出、若干磨減している。両側縁は敲打によりよく駆き剥離されている。裏面に大字く自然面を残す。側面形に若干の反りあり。	
第38回 PL.73	17	打製石器 打製石斧	理上 ほぼ完形	10.4 6.7	2.3 144.0	硬質泥岩	分角形。横長剥片素材。刃部平面形は上下ともやや尖るとなっている。表面に自然面を残す。内側縁は斜角により抉りを入れている。上下両端とも磨滅痕は認められないのではなくて使用されていない可能性がある。下刃部右側一部断面痕あり。	
第38回 PL.73	18	打製石器 打製石斧	理上 完形	14.0 7.4	1.8 181.5	硬質泥岩	分角形。横長剥片素材。やや薄手。くびれ部は中心より上の位置にある。上部は三角形、下部は長方形。下部の刃部には使用痕がある。裏面に主要剥離面があるが、自然面はない。横断面形は薄い凸レンズ状。側面形にほとんど反りはない。	
第39回 PL.73	19	打製石器 打製石斧	理上 ほぼ完形	13.8 5.0	2.2 198.3	黑色片岩	短圓形。棒状剥離利用。刃部平面形は円刃。両側縁に敲打痕有り。表面中央に纏長く自然面を残す。頭端部一部欠損。裏面は比較的平坦で、表面はやや盛り上がる。側面形に反りはない。	
第39回 PL.73	20	打製石器 打製石斧	理上 2/3	9.9 6.0	2.8 165.8	硬質泥岩	短圓形。剥片素材？両面加工で自然面は裏面刃部に極く一部あり。側面形に反りはない。側縁に敲打痕あり。刃部は脱く使用による磨耗はほとんどない。側縁からの打撃が元で削除されたものと考えられる。	
第39回 PL.73	21	磨製石器 磨製石斧	理上 完形	6.7 3.7	1.5 44.6	黄緑色結晶質岩	小形、二等辺三角形。橢円形彫利用。刃部平面形は直刃。刃部側面形は弱凸強凸片刃。裏面に1/3程度自然面を残す。表面の刃部を中心にして研磨されるが、刃部も研磨されている。方向は下刃側。側縁は脱く後研磨されている。裏面はやや平坦で表面がやや盛り上がる。横断面形は低い山形～凸レンズ状。	
第39回 PL.73	22	磨製石器 磨製石斧	理上 完形	6.3 3.9	1.5 61.5	黄緑色結晶質岩	定刃式。绿色を呈する大きさの削りに重い石材。刃部平面形は直刃。側面形は内凹(内始刃)。頭部に敲打痕を残す。刃部には脱くと長軸を平行する方向に使用痕が残るので横溝であることが分かる。	
第39回 PL.73	23	磨製石器 磨製石斧	理上 完形	6.2 2.3	1.1 26.0	黄緑色結晶質岩	小形。刃部平面形は若干丸味はあるが直刃。裏面は平坦で表面がやや盛り上がる。刃部側面形は弱凸強刃片刃。横断面形は低い山形。刃部は鋭く薄い。頭部は駆き剥離されている。	
第39回 PL.73	24	磨製石器 磨製石斧	周囲北東隅理上 1/2?	3.0 3.5	1.3 23.6	黄緑色結晶質岩	定刃式。やや小形。上部欠損。刃部平面形は直刃。刃部側面形は内凹(内始刃)だが、刃先から見た形はやや円盤状で傾向有る。刃部に使用痕が残る。刃部を陰で風化。荒れている。	
第39回 PL.73	25	磨製石器 磨製石斧	理上 1/2弱	5.0 4.5	1.9 68.0	黄緑色結晶質岩	定刃式。やや小形。上部欠損。刃部平面形は本来は直刃。研ぎ直しでやや円刃気味に。刃部側面形は弱強凸刃、脱く痕有り。裏面は剥離と敲打、研磨で削離する。刃部に使用痕有る。裏面は表面に対してやや平坦で剥離面が大きく残る。側縁は敲打後研磨。風化してやや荒れており。研磨方向不明。	
第39回 PL.73	26	磨製石器 磨製石斧未 完成品	理上 完形	10.5 6.1	2.7 257.6	珪質準片岩	扁平円錐分割素材利用。定刃式や乳棒状ではない。両側縁に敲打痕有り。表面の自然面部分や裏面の刃部など一部研磨。現在では刃部平面形は弱偏刃、側面形は弱平強刃であるが、内凹(内始刃)を目指したものか？	
第39回 PL.73	27	打製石器 石核	周囲北東部底面 上7cm 完形	8.9 9.4	5.8 488.0	硬質泥岩	橢円形彫利用。裏面両面に自然面を残すが、裏面に比べ表面側の自然面の方が丸味は少ない。打面は自然面であり石製ハンマーで直接打撃を加え、打点を移転させながら削離している。ほぼ残核に近い状態で放棄または廻収されたものと考えられる。	
第39回 PL.73	28	打製石器 石歯	理上 1/3	9.2 (9.5)	5.4 547.3	硬質泥岩	瘤形。橢円形彫利用。表面両面に自然面を残す。側面に敲打痕あり。刃部は右側縁からの打撃による欠損。本来2倍の厚さがあったものと考えられる。刃部左側の自然面に若干光沢を持つ部分あり。	
第39回 PL.73	29	打製石器 石歯	理上 ほぼ完形	17.5 8.5	4.2 675.2	安輝緑岩	瘤形。橢円形彫利用。表面両面に自然面を残す。側縁部には敲打痕が残る。	
第39回 PL.73	30	打製石器 磨器	周囲南東部底面 上5cm 完形	12.4 8.0	5.8 677.0	硬質泥岩	橢円形彫利用。表面両面に自然面を残す。側縁部には敲打痕が残る。	

種 団 PL.No	No	種 類 器 物	出上位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第39回 PL.73	31	礫石器 凹石	埋土 完形	長 幅 5.7 6.2 厚 3.3 重 138.8	粗粒輝石安山岩	円錐利。極めて小形、深い石鉢様。中心の抜けた凹みを利したもの。中央に1.8cm×4.0cm×1.8cmの凹みあり。磨り潰す事に使用したものか?縁の部分はやや滑らかになっており、磨られている可能性あり。他の面は自然面。	
第40回 PL.73	32	礫石器 凹石	埋土 完形	長 幅 13.0 6.0 厚 4.2 重 428.3	粗粒輝石安山岩	梢円形錐利用。上下両面に内側線に敲打痕有り。表裏両面に斜線による凹みが複数3個ずつあり。表裏の凹みは上から長さ1.9cm×幅1.8cm×深さ0.4cm、長さ2.1cm×幅2.3cm×深さ0.6cm、長さ1.5cm×幅1.8cm×深さ0.3cm。裏面の凹みの方はやや浅い。表面裏面とも凹みの周りはやや磨滅している。	
第40回 PL.73	33	礫石器 凹石	埋土 4/5	長 幅 13.6 6.1 厚 4.8 重 543.3	緑色片岩	梢円形錐利用。表面に斜線に長さ3.0cm×幅2.4cm×深さ0.8cmと長さ3.7cm×幅2.8cm×深さ0.6cmの凹みあり。凹みの周りは裏面および側面は磨面、平滑でやや光沢を持つ。上下両端部に敲打痕あり。	
第40回 PL.73	34	礫石器 凹石	埋土 1/2	長 幅 12.8 (3.9) 厚 3.2 重 235.3	緑色片岩	棒状錐利用。表面に幅に長さ2.5cm×幅1.6cm×深さ0.4cmと長さ2.1cm×幅1.6cm×深さ0.3cmの2つの凹みあり。周縁部に敲打痕あり。上下両面には強い当たりがあり。左側は敲打印の現れるビヒ割れが原理で破壊に割けたものと思われる。	
第40回 PL.73	35	礫石器 磨石	埋土 完形	長 幅 11.0 9.6 厚 5.5 重 850.1	粗粒輝石安山岩	棒状錐利用。表面はよく磨滅しているが、裏面はほとんど磨れていない。側面の敲打痕も強く不明瞭。	
第40回 PL.73	36	礫石器 磨石	埋土 完形	長 幅 8.0 7.6 厚 6.2 重 459.5	粗粒輝石安山岩	円錐利用。大きさの割には重要感のある石材。被熱、黒斑、赤斑部有り。表裏両面とも磨面で一部に敲打痕あり。周縁部に敲打痕あり。よく使い込まれ、ほぼ自然面は残っていないものと思われる。	黒斑・赤斑
第40回 PL.73	37	礫石器 砥石	周堀南西部埋土 1/2	長 幅 (25.9) (25.0) 厚 11.2 重 6800.0	粗粒輝石安山岩	大型梢円錐利用。敲打成形後研磨整形。側面や裏面に一部自然面を残すがほとんど加工面。裏面も研磨されている。前面は裏面により比較的柔らかとなっている。腹巻の際裏面から取れて剥離している。	
第41回 PL.74	38	礫石器 砥石	埋土 1/3	長 (6.1) (7.2) 厚 (1.3) 重 65.0	牛伏砂岩	玉紙石様の溝2条(深さ3・5mm)がある。石材粒度は粗く、やや硬い石材感。裏面側は未使用。	
第41回 PL.74	39	礫石器 砥石	埋土 1/4	長 (4.7) (6.0) 厚 (0.9) 重 23.2	凝灰質砂岩	板状を呈し、表裏面ともよく使い込んでいる。やや軟質だが、細粒石材を使用する。	
第41回 PL.74	40	磨製石器 石棒	周堀南東部埋土 ほぼ完形	長 幅 22.4 2.9 厚 2.9 重 294.4	緑色片岩	棒状錐利用。削離、敲打成形後研磨整形。先端は削先状に崩壊している。頭部はやや太くなっているが、極一部欠損。頭部には一部削離の跡が残しがある。	

## 3区8号出土遺物図表

第51回 PL.74	1	須恵器 甕	玄室左壁埋土 口縁片		磁砂粒/還元焰/オリーブ黒	クロ型式。回転は右回り。口部下部に小凸部をつまみ上げ、口縁部は凹線によって3段に区画。区画内部に波状文を添す。	
第51回 PL.74	2	須恵器 大甕	前庭西部埋土 口縫部-胴部	口 縫 35.2 胴 26.8	磁砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	口縫部はクロ型式。縫は左回りか、胴部は叩き締め。口縫部は上半に凹線で2区画に区画、区画内に波状文が進む。下半から胴部はへらばげ。胴部は叩き痕をナデしてある。内面は口縫部下半がへらばげ。胴部は同心円状アーチ貝殻が残る。	
第52回 PL.74	3	須恵器 甕	南部トレンチ周 辺埋土 軸部片		磁砂粒・粗砂粒/ 還元焰/暗灰	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アーチ貝殻が残る。	
第52回 PL.74	4	石製品 石製小玉	埋土 完形	長 幅 0.4 0.4 厚 0.3 重 0.1	蛇紋岩	やや濃い緑色がかる石材片岩質。かなり小形品。全面に細い擦痕残る。兩側穿孔。孔径0.1cm。	
第52回 PL.74	5	打製石器 石礫	埋土 ほぼ完形	長 幅 (1.8) (1.8) 厚 0.4 重 0.9	滑紋岩	門基無葉緑色片岩素材。灰色不透明だが比較的良質な石材。両端部が砸く作出されているが、極く一部欠損している。裏面は主要削離面を残す。左右両脚端一部欠損。前面加工だが、裏面は平坦で、表面がやや盛り上がる。横断面は表面がやや盛り上がる凸ランズ状を呈する。側面形に反りがある。	
第52回 PL.74	6	磨製石器 石鍬	埋土 1/2?	長 幅 (2.4) (5.0) 厚 0.8 重 13.8	頁岩	礫石鍬。下半部欠損。全体の形は不明であるが、偏平な円錐利用し、上半端に打ち欠きを入れられたものと考えられる。欠損面に打点はなく取り取られた様な穴口となっている。裏面両面とも比較的滑らかであるが、研磨されているかどうかは不明である。	
第52回 PL.74	7	打製石器 打製石斧	埋土 完形	長 幅 11.4 8.2 厚 3.6 重 359.1	変玄武岩	分筋錐。やや大型、両側面に敲打痕、一部磨滅。上下両方の刃部に使用による磨滅感。表面中央に柄穴あり。表面下部に自然面を一部残す。	
第52回 PL.74	8	打製石器 打製石斧	埋土 完形	長 幅 14.9 9.1 厚 2.9 重 392.8	硬質泥岩	分筋錐。やや大型、両側面に敲打痕、一部磨滅。表面中央に柄穴あり。表面下部に自然面を一部残す。	
第52回 PL.74	9	磨製石器 磨製石斧	埋土 1/2?	長 幅 (4.8) 厚 1.1 17.9	変質蛇紋岩	定角式・小形。割材素材となり良質な石材であり、搬入品? 制成後研磨整形。敲打痕はない。角立つようにならざる結果である。部分的に削離面の剥離しがある。	
第52回 PL.74	10	礫石器 凹石	埋土 完形	長 幅 12.4 11.6 厚 9.1 重 1302.5	粗粒輝石安山岩	円錐・敲打による凹み以外ほぼ全面磨面。方向は不明。表面に3.0cm×2.2cm×0.6cmの凹み、裏面に3.5cm×1.3cm×深さ0.6cmの凹みと1.8cm×1.3cm×0.7cmの凹みあり。	

遺物觀察表

種 団 PL.No	種 類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土・焼成・色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
			長 幅	厚 重	寸 法			
第52回 PL.74	11 磨石器 四面 完形	埋土 理上	19.8 4.2	2.9 351.3	緑色片岩	棒状鋸利用。表面は最打のみで研磨されていない。周縁部に敲打痕あり、表面に長さ3.0cm×幅0.6cm×深さ3.0cmの凹みと長さ3.0cm×幅1.8cm×深さ0.3cmの凹みあり。		
第52回 PL.74	12 磨製石器 石鍬	埋土 理上	7.2 4.3	1.3 61.9	雲母石英片岩	梢円形扁平彫利用。両側縁中央部に表面からの打撃による削離あり。その抉り部は底面後削減している。		
第53回 PL.74	13 磨石器 砥石 ほぼ完形	埋土 理上	長 幅 9.3 9.1	厚 重 3.3 371.5	砂岩	扁平角彫利用。表裏両面部分を使用していると思われるが、風化が進行し、表面の剥落が多く、研磨方向が確認できない部分がある。		

## 2区10号埴

第66回 PL.83	1 打製石器 石鑿	埋土 2/3	長 幅 2.2 (1.4)	厚 重 0.3 0.4	黒曜石	円基無茎型。薄手、横長削片素材。体部を側から左脚部にかけて欠損している。断面は薄い凸レンズ状。側面形に反りはない。		
第66回 PL.83	2 打製石器 打製石斧	埋土 完形	長 幅 10.3 5.3	厚 重 2.1 116.0	硬質泥岩	彫形。横長削片素材。自然面は残っていない。両側縁はよく敲打されている。刃部は薄く鋭い。使用歴はほとんどない。裏面がやや平坦で、表面が盛り上がる。側面形に反りはない。		
第66回 PL.83	3 磨石器 砥石 2/3	埋土 2/3	長 幅 (10.3) 7.4	厚 重 5.5 547.0	輝岩	厚みのある楕円形彫削型。重い石材だが、粒子が粗く剥れ易い。剥れ口は被熱したため赤変。上部欠損。下端の剥れは被熱、赤変によるもの。		

## 3区1号方形周溝基

第69回 PL.84	1 土師器 壺	溝内埋土 完形	口 幅 10.2 7.2	高 度 6.3	磁砂粒/良好/相 成	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部はナデ、丁寧部は横ナデ。		
第69回 PL.84	2 土師器 台付甕	溝内埋土 口縁部・胴一部 欠損	底 底 8.4		白色鉱物・黑色鉱 物・細砂粒//に 付いた黄鉄	口縁部は残存しない。外縁部底部・脚部全面ハケメ、胴下部ノミヶメが切れている。脚部合脚刷毛工具で外側に調整する。内面ナデ、脚部内面は指ナデ。脚部下脚と接合する部分に凹凸がありがちで貼り付けようとしている。		
第69回 PL.84	3 土師器 壺	溝内埋土 口縁部上半と制 部の一部を欠損	口 幅 14.3 10.6	高 度 42.5 34.5	磁砂粒・粗砂粒/ 良好/に付いた 相	口縁部は横ナデ、一部にノミヶメ、同部はハケメ1cm当り7~7本、底部はハラナリ。内面は口縁部上半が横ナデ、下半がヘラナデ、底部から同部はヘラナデ。		
第70回 PL.85	4 打製石器 石鑿	埋土 ほぼ完形	長 幅 (1.6)	厚 重 0.5 1.0	チャート	凹盤無茎型。灰色不透明が比較的の良質な石材。横長削片素材。頭端部がやや瘤状突出されている。左脚端極く一部欠損。内面加工だが、裏面は平坦で、表面はやや盛り上がる。側面形に反りがある。裏面に主要拘離面を残す。横断面形状は裏面がやや盛り上がる凸レンズ状を呈する。		
第70回 PL.85	5 打製石器 打製石斧	埋土 完形	長 幅 7.6 3.9	厚 重 1.6 45.2	黒色頁岩	小型、横長削片、トラニエンヌ様。斑状石器に近い形態。側面形は側面に反りがある。裏面に帯状に自然面を残す。脚部底盤まで丸らず、縁辺部のみ、横断面形状は裏面側に出っ張る凸形。刃部に新傷痕あり。		
第70回 PL.85	6 打製石器 打製石斧	埋土 ほぼ完形	長 幅 (11.5)	厚 重 6.3	蛇紋岩	分離形。片岩質、扁平彫利用。薄手、刃縁は下端が直線的、上端がやや屈曲する。上部は使用による着滅が顕著で光沢を持つ。下部は刃欠損があり。側面縁は般目より引き裂き潰されている。内面加工で側面前面は薄い凸レンズ状で、裏面内面に部分的に自然面を残す。		
第70回 PL.85	7 打製石器 打製石斧	埋土 完形	長 幅 9.3 5.8	厚 重 2.5 120.5	砂質頁岩	分割形。厚手、礫素材? 短縫縫は敲打によじ剥離されていて、刃縁は下端が直線的、上端がやや屈曲する。下端が厚く、上端が薄く、両端部も刃部再生成しているものと思われる。側面形に反りはない。内面加工で横断面形状は厚い凸レンズ状であるが、自然面は残らない。		
第70回 PL.85	8 磨製石器 磨製石斧	埋土 ほぼ完形	長 幅 3.4 (2.6)	厚 重 0.8 11.5	黄緑色結晶質岩	定角式。小形。薄手、刃縁素材? 頭部の縁は研磨されているので、欠損後再生したものと考えられる。刃部欠損、一部欠損。裏面風化。		
第70回 PL.85	9 磨石器 四面	埋土 1/2?	長 幅 13.2 5.7	厚 重 2.1 278.5	緑色片岩	扁平移動彫利用。ほぼ全面磨面と考えられる。表面はかなり滑らかであるが、裏面はやや荒れた感じでザラついており剥離している可能性性、否定できない。上下端とも欠損しており、全體の大きさが不明。		
第70回 PL.85	10 磨石器 砥石	埋土 破片	長 幅 (5.9) (5.0)	厚 重 (2.2) 96.0	牛伏砂岩	石研耗の棒状彫利用。表面は光沢を持つ程使用されているが、裏面はほとんど使用されていないものと思われる。表面の低い稜線の右側は強い削れ、左側は弱い削れで使用頻度の違いが認められる。右側下側にかけて欠け口があり風化しておらず、欠損しているものと思われる。		一部黒変。
第70回 PL.85	11 磨石器 砥石	埋土 破片	長 幅 (17.5) (14.5)	厚 重 2.1 667.1	粗粒輝石安山岩	板状研磨利用。表面は光沢を持つ程使用されているが、裏面はほとんど使用されていないものと思われる。表面の低い稜線の右側は強い削れ、左側は弱い削れで使用頻度の違いが認められる。右側下側にかけて欠け口があり風化しておらず、欠損しているものと思われる。		

## 2区2号方形周溝基

第72回 PL.85	1 上土器 高杯	北東隅溝内埋土 杯底2/3欠損	口 幅 10.5 12.4	高 度 11.6	磁砂粒/良好/明 示	杯部底盤にホソ穴を作り脚部に差し込む接合。杯部口縁部は横ナデ、種下は器面摩擦のため整形不明。脚部は柱状脚部はヘラナデ、底部は横ナデ。内面は脚部上半がヘラナデ。		
第72回 PL.85	2 上土器 壺	西部隅溝内埋土 胴部上位 片	脚 底 27.7 7.4		磁砂粒・粗砂粒/ 良好/灰黄	底部は砂底か、脚部はハラナリ。内面は底部から脚部にヘラナデ。		
第72回 PL.85	3 磨石器 石皿	埋土 1/4以下	長 幅 (10.7) (8.5)	厚 重 (5.7) 665.2	粗粒輝石安山岩	梢円形扁平彫利用。部分破片。凹みは明確。内面は粗い敲打により整えられた後に使用され、弱い磨面となっている。縁辺からの打撃により削られている。裏面はやや平坦。		

種 団 PL.No	No	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
				長 幅	(16.7) (2.7)	厚 重			
第7284 PL.85	4	磨製石器 石棒	北部周溝内埋土 1/2				黒褐色岩	縦身石棒? 矛は明確ではないが石劍形の可能性もある。下端部には下からの削離があり、断ち切られたように研磨されている。全面研磨面であり、敲打痕はない。裏面に上部に削離痕が残る。	

## 2区4号方形周溝墓

第7484 PL.85	1	打製石器 石鎌	中央部床面直上 2/3	長 幅 (1.8) (1.3)	厚 重 0.3 0.5	黒曜石	門基全貌。透明感のある良質な石材。剥片素材? 先端極一部および両脚欠損。左脚は球果部分より欠落。側面形に反りはない。両面加工で切断面形は凸レンズ状、やや裏面側が平坦。		
第7484 PL.85	2	打製石器 打製石斧	北東溝内埋土 2/3	長 幅 (7.9) 6.1	厚 重 2.3 119.8	硬質泥岩	分割剝離はあるが、あまり整った形態ではない。楕円形磚利用。側面形に反りはない。表面裏面に部分的に自然面残す。下部は節理面により欠損。裏面稜部分一部脚部削離。		
第7484 PL.85	3	打製石器 二次加工ある 剥片	北東溝内埋土 完形	長 幅 8.1 6.1	厚 重 1.7 66.3	硬質泥岩	縦長い削離材。片面は側面形。先端が木葉形に劣るよう左侧頭部から右側は表面から調整加工されている。裏面に打点および打痕は残る。表面頂部と左下に一部自然面を残す。		
第7484 PL.85	4	磨石器 砾石	東溝内埋土 完形?	長 幅 11.1 6.4	厚 重 1.9 203.6	粗粒輝石安山岩	板状角削利用。磨製石斧? 表面に極一部削離面を残す。自然面部分は使い込まれて滑らかとなっている。裏面および上端面は自然面のまま。側面および下端面は欠けたままで使用していない。もっと大きい状態で使用したのか、この状態で使用したのかは判然としない。		

## 1区5号竪穴建物

第7684 PL.85	1	弥生土器 台付甕	中央部南窓床面 直上 脚部凸出部	高 (4.6)		白色鉢物・黒色鉢 物・細砂粒・黄褐色	外縫弯曲面は上から下へラナデ調整。脚部外面へによる横ナデ。上部費底部、ヘラ先による調整痕残る。脚部内面へラナデ削離残る。		
第7684 PL.85	2	弥生土器 甕	西部床面直上 口～脚下位	口 高 (14.8) (25.5)		白・黒色鉢物・ 砂粒・砂粒にぶ い赤褐色	外縫口部ナデ、頭部1准等間隔止め僅量文7箇、胴上部波紋状、脚下部ナデ後縫方向の磨き。		
第7684 PL.85	3	弥生土器 甕	西部床面直上 口縁部1.3寸指	口 底 23.2 7.8	高 27.7	白色鉢物・黒色鉢 物・細砂粒含/相 互	外縫口部端部ヘラナデ後縫ナデ、口縫部ヘラ状工具による 削離、翁のナデ、頭部波紋文2段、2連止めが、隙間は同じでない。上部剥離波状7箇、波の上下幅はあまりなく、縫合が器面に一定ではなく歯齒が一定でない。波状文下部は波状文前に横ナデ、胴下部は尾のナデ。内 縫波状下部はヘラ工具による斜め横ナデ、頭部ヘラによる横 ナデ、削離ヘラ状工具による横ナデ。		
第7684 PL.85	4	打製石器 石鎌	北部床面直上 ほぼ完形	長 幅 (2.0) (1.3)	厚 重 0.4 0.8	黒曜石	門基有基部。透明感のある良質な石材。横長剥離材。茎 部と頭部および左脚端一部欠損。側面形に反りはない。裏 面に剥離面を残す。横断面は表面がやや盛り上がる 凸レンズ状を呈する。		
第7684 PL.85	5	打製石器 剥片	北部床面直上 完形	長 幅 5.4 8.8	厚 重 2.2 93.9	粗粒輝石安山岩	横長剥離。打面は削離面。調整剝離はない。裏面側は若干 熱害を受けやや赤黒く変色している。		赤黒く変色

## 1区6号竪穴建物

第7884 PL.86	1	縄文土器 深鉢	埋土 体部破片			縦織維・チャート ・白色粘・良好に ぶい褐色	横位L Rを施す。あるいは羽状縫文構成か。		前期中葉
第7884 PL.86	2	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片			粗石英・輝石・片 岩・白色粘・良好に ぶい黄褐色	口縫部下に押圧を加えた横位縫線を設ける。他は無文で横 位ナデ調整を施す。内面は平滑なナデ調整。		後期前葉
第7884 PL.86	3	弥生土器 高環	中央部埋土 高環部	高 (4.2)		白色鉢物・黒色鉢 物・細砂粒/にぶ い相	高環部外面へラ状調整、杯部底面丁寧なナデ、脚部内面へラ 調整。		
第7884 PL.86	4	弥生土器 高環	中央部埋土 高環部	高 (2.8)		白色鉢物・黒色鉢 物・細砂粒/にぶ い相	高環部外面へラ状調整、杯部底面丁寧なナデ、脚部内面へラ 調整。		
第7884 PL.86	5	弥生土器 甕	北東埋土 胴下部1/2	底 7.0		白色鉢物・黒色鉢 物/にぶい相	全表面正面から下方に向かう左が下がる斜めの条痕文。内面 同じ工具でのナデ。在地の土器の胎上ではない。		
第7884 PL.86	6	弥生土器 甕	北部床土 4 cm ほぼ完形	口 底 16.4 6.0	高 22.0	白色鉢物・黒色鉢 物・細砂粒/檜	口縫部外面へラ状工具によるナデ後縫方向の削離。頭部屈 曲部分はヘラ状工具による整形痕の後、縫方向の削離。 内面は脚部横方向へのヘラ調整後削離、胴部ヘラ状工具によ る形成痕。口縫部内赤錆。		
第7884 PL.86	7	弥生土器 甕	中央・南東部床 上 5 cm 口～脚部2/3	口 底 21.1 9.0	高 33.6	白色鉢物・黒色鉢 物・細砂粒・砂粒 /檜	口縫部横ナデ、端部刻み一層固。口縫部ナデ、頭部僅 量文9箇、等間隔の2連止め、胴上部波紋文、波の上下幅は 狭い。胴下部ナデ、内面口縫部ナデ、胴部横ナデ。		
第7884 PL.86	8	弥生土器 甕	中央・南東部床 直上 1/4 胴上部～底部 1/4	底 12.2		白色鉢物・黒色鉢 物・細砂粒/にぶ い相	脚部上部ヘラ状工具で斜め・横ナデ後削離、胴下部ヘラナ デ後縫方向の磨き。内面ヘラ状工具によるナデ。		
第7884 PL.86	9	弥生土器 甕	南部・南東部床 直上 口～脚部下部	胴 (47.3)		白色鉢物・黒色鉢 物・細砂粒/檜	頭部縫文1速等間隔止め9箇、胴上部波紋状、胴下部ナ デ後縫方向の磨き。		
第7984 PL.86	10	打製石器 二次加工ある 剥片	中央部床土 5 cm 完形	長 幅 11.4 5.6	厚 重 2.5 125.5	硬質泥岩	大型横長削離。表面左側に帯状に自然面を残す。左上に新 しい剥離部分あり。裏面は主要剥離面、右側縫に細かい削 離があるが、やや不規則なもので使用痕の可能性あり。		
第7984 PL.86	11	打製石器 石核	中央部床面直上 完形	長 幅 12.0 13.1	厚 重 4.7 578.8	硬質泥岩	大型横長削離材。裏面に大きく自然面を残す。表面上端 から剥離している。下端に縫の段階で当たった時の割れが 2力所入っている。		

遺物觀察表

種 因 PL. No	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値	胎上・焼成・色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考	
1区7号竪穴建物							
第81回 PL.86	1 深鉢	理上 口縁部破片		粗石英・輝石・ チャート・白色粒/ 良好/褐色	波状縫合部を双波状となす。頂部より押圧を加えた階層 が垂下し頭部の円形貼付文に接続する。口縁部に沿って沈 縫2条、頭部に弧状切削痕を施す。内面横位研磨を施す。	後期前葉	
第81回 PL.86	2 深鉢	理上 口縁部破片		粗石英・輝石・白 色粒/良好/褐色	口縁部内側に横位沈縫を有する。頭部外反し内外面とも弱 い横位研磨を加える。	後期前葉	
第81回 PL.86	3 深鉢	理上 体部上半破片		粗石英・片岩・白 色粒/良好/灰色	頭部削する。2+3条の沈縫による体部上半の区画文か。 縫位L10を充填する。内面平滑なナデ調整。	後期前葉	
第81回 PL.86	4 高环	弥生土器 高环	南壁理上 湧曲部片	高 (5.4)	白色粘物・黑色粘 物・細砂粒/ぶ い黄褐色	外面縫合ヘラナデ、内面ナラによる調整痕残る。上部杯面 底部ナラによる丁寧な調整。杯面残存部赤様。	
第81回 PL.86	5 弥生土器 壺	南壁寄床面上 口縫・胴一部	口 16.1	白色粘物・黑色粘 物・細砂粒/褐色	口縫端部刻み一層する。頭部彫文7箇、止め間隔一定で ない。口縫上面刷毛状ナデにより縱方向のナデ、その後 口縫直上に横方向のナデ。胴上部波状文、波文の上下は一 定せず、刷の動きが器面上に一定していない。波状文下刷毛 工具による、縦・斜め方向の深いナデ。内面口縫部縫・斜 め方向の刷毛状工具のナデ後横方向の磨き。胴部横方向の ナデ。		
第81回 PL.86	6 弥生土器 壺	貯藏穴内理上 口縫部1/4欠損	口 16.8 底 6.6	白色粘物・黑色粘 物・細砂粒・砂 粉/ぶい黄褐色	口縫部端刻み一層する。口縫部彫文が一層する。口縫直上には横方向の刷毛状工具での横ナデが一層する。 頭部彫文が一層する。口縫直上2道止め、彫文直上に波 状文2道止め。胴下半部にも口縫外側と同じ刷毛工具の縫・ 銷みにナデがある。内面にも刷毛工具で斜め横方向にナ デが入っている。		
第81回 PL.86	7 弥生土器 壺	貯藏穴内理上 胴一部欠損	口 19.0 底 9.0	白色粘物・黑色粘 物・細砂粒/褐色	口縫端部刻み一層する。口縫部ナデ、頭部1連等間隔止め 7箇、胴上部波状文7箇、胴部横ナデ後削、胴下半部ナ デ後削の跡の磨き、内面口縫部ナデ後削、胴部ナデ。		
第81回 PL.87	8 弥生土器 壺	北東・南西部床 面直上 完形	口 18.8 底 10.0	白色粘物・黑色粘 物・細砂粒/褐色	口縫端部刻みや内傾する。外縫横方向のナデ、頭部彫文は ほぼ等間隔2道止め。胴上部は横方向のナデ波状文。波 状文は程度にわたり重ねて施文する。胴部は縦・横方向の ナデ、内面口縫部端は縦ナデ、頭部までは4つ工具によ るナデ。胴下部はヘラ先端の横ナデ。		
第81回 PL.87	9 打製石器 スクレイ バー	理上 1/2?	長 幅 5.9 (3.0) 厚 1.4 重 24.8	硬質泥岩	横長削り、素材。右側欠刻。裏面に主要剖面剛性、表面に一部 自然面があるが、その部分が削磨され平滑となっている。 上・下両側の左部は直線的、左側縫は内側に彫りこまれていて。		
第81回 PL.87	10 打製石器 二次加工あ る剥片	北東部床上 5cm 完形	長 幅 6.9 4.2	厚 1.3 重 29.2	硬質泥岩	縫長削り。表面に自然面を残す。打点は自然面で剝離時に 縫二に割けたものと考察される。左側縫は縫かい調整削 離が見られ、裏面側の剝離はいずれも不規則であり、使用痕 の可能性が高い。	
第81回 PL.87	11 打製石器 二次加工あ る剥片	南西壁寄理上 完形	長 幅 9.2 15.7	厚 2.8 重 288.6	硬質泥岩	大型横孔片材。表面に自然面を残す。打点は自然面。 表面上に打点あり、下方に複雑な剝離が使用痕と考 えられる。それ以外の部分も含め使用部分は縫跡がやや濃 くなっている。左縫辺にやや不規則な剝離痕が並ぶ。	
第81回 PL.87	12 礫石器 敲打	理上 敲打	長 幅 5.1 4.9	厚 1.1 重 13.7	綠色片岩	小形横状剥離利用。両端に敲打痕が明顯に残る。表上端のもの は敲打による剝離。	
第81回 PL.87	13 礫石器 敲打	理上 敲打	長 幅 8.8 4.9	厚 2.4 重 139.8	デイサイト	稍円形剥離利用。両端に敲打痕が明顯に残る。表上端のもの は敲打による剝離。裏裏面に磨れによる擦痕痕あり。右 側上面の欠け口部分にも磨れあり。	
3区1号竪穴建物							
第83回 PL.87	1 縄文土器 深鉢	中央部底面上 8cm 体部中位～下半 のみ残存		粗石英・輝石・ 片岩・白色粒/ 良好/ぶい 黄褐色	縫位沈縫に画された文様と縫消部の交互垂壁文構成。6 単位を数える。施文部は第1単位の短絞縫に残位に充填 する。内面平滑なナデ。被熱のため内面色調が変色する。	後期前葉	
第83回 PL.87	2 縄文土器 深鉢	中央部底面上 口縫部下のみ残 存		粗石英・輝石・白 色粒/良好/褐色	体部中位と下位で意図した欠損か。強く開いた底部下。上 位は弧状横孔下端を見える。外縫平滑なナデ。内面は横位研 磨の跡。	後期前葉	
第83回 PL.87	3 縄文土器 深鉢	北部底面上 口縫～体部1/4 欠損	口 11.0 底 5.0 高 12.3	粗石英・輝石・白 色粒/良好/ぶい 黄褐色	小型深縫・非対称な波状突起を4単位設ける。口縫部と突 起に下位を施す。頭部底面以下に円文といえ沈縫2条を 有する意図匠や弧状底縫が配される。外縫は平滑なナデ。 内面は弱いナデ調整を施す。	後期前葉	
第83回 PL.87	4 縄文土器 深鉢	中央部北寄理上 口縫部破片		粗石英・輝石・白 色粒/良好/黄 褐色	口縫部内側は無文で、口縫部と頭部底面を押圧 を加えた縫位底縫がぐく。体部は太い沈縫による弧状底縫 が配される。無節して施す。4と同一個。	後期前葉	
第83回 PL.87	5 縄文土器 深鉢	中央部北寄理上 口縫部破片		粗石英・片岩・白 色粒/良好/良好/ 明黄色	小波状突起を付す。口縫部横位沈縫2条を設けるが亂雑な 施文。内面口縫部沈縫は浅い。内外面とも弱いナデ調整。	後期前葉	
第83回 PL.87	6 縄文土器 深鉢	中央部理上 頭部破片		粗石英・白色粒/ 良好/灰褐色	頭部底面以下の体部は太い沈縫による弧状底縫や弧状底縫 が配される。無節して施す。3と同一個。	後期前葉	
第83回 PL.87	7 縄文土器 深鉢	中央部理上 頭部破片		粗石英・片岩粒/ 白色粒/良好/ぶい 黄褐色	頭部底面に円文と横位底縫が配される。体部は沈縫 による弧状底縫や波状底縫が配される。縫文はLR充填施文。 内面横位削り調整後研磨を加える。	後期前葉	
第83回 PL.87	8 縄文土器 深鉢	西部理上 体部上半破片		粗石英・輝石・片 岩・白色粒/良好/ 灰褐色	頭部底面に円文と横位底縫を設ける。体部は太い沈縫に ある弧状・斜め底縫が配される。縫文はLR充填施文。内面 は「弾」字横位研磨を加える。	後期前葉	
第83回 PL.87	9 縄文土器 深鉢	西部理上 西壁寄床上 5cm 口縫部破片		粗石英・輝石・片 岩・白色粒/良好/ 褐色	大型深縫か。口縫部に押圧を加えた横位底縫を配す。以下 体部は底縫・斜め底縫を設ける。縫文はLR充填施文。内面横位削 り調整後研磨を加える。	後期前葉	

種 団 PL.No	No	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上・焼成・色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第83回 PL.87	10	縄文土器 深鉢	南西部理上 口縁部破片		粗石英・輝石・片 岩・白色粒/良好/ 浅黄色相	口縁部下に押圧を加えた横位線條を設ける。体部は無文で 弱い研磨を施す。内面横位削り調整後弱い研磨 を加える。外面部縁部に壓付着。	後期前葉
第83回 PL.87	11	縄文土器 深鉢	中央部理上 8 cm 体部破片		粗石英・輝石・片 岩・白色粒/良好/ 浅黄色相	無文。外面部滑なナデ調整。内面横位削り調整後弱い研磨 を加える。外面部縁部に壓付着。	後期前葉
第83回 PL.87	12	縄文土器 深鉢	中央部理上 体部破片		粗石英・輝石・白 色粒/良好/にぶい 黄色相	斜位弧状線以下部位沈線による懸垂土構成。縄文は斜位 L.R充填施。内面ナデ、潜面削落。	後期前葉
第84回 PL.87	13	縄文土器 深鉢	西部床下 5 cm 体部破片		粗石英・輝石・片 岩・白色粒/良好/ にぶい褐色	体部下半か。横位弧状の沈線を施す。意匠は不明。下半 は擬似冠位を加える。内面部横位ナデ調整。	後期前葉
第84回 PL.88	14	縄文土器 深鉢	南西部床下 8 cm 体部破片		粗石英・輝石・片 岩・白色粒/良好/ にぶい褐色	2条の沈線による横位柱上と半溝巻文を配す。縄文は交互 構成ではなく、横位L.Rを充填する。下位は擬似研磨を加 える。内面部横位削り調整後ナデ、焼付付着。	後期前葉
第84回 PL.88	15	縄文土器 口上器	西北部床下10cm 江戸口部破片		粗石英・輝石・白 色粒/良好/にぶい 褐色	江戸口部に横状把手を付し、波頭部より深い沈線が垂下 する。内面部縁部は横位ナデ、江戸口部周辺は弱いナデ調整。	後期前葉
第84回 PL.87	16	縄文土器 深鉢	中央部理上 底のみ残存	底 8.4	粗石英・輝石・白 色粒/良好/にぶい 黃褐色	体部下半は外反気味に開く。無文で内外面ともナデ調整。 器底部研磨する。	後期前葉
第84回 PL.88	17	縄文土器 深鉢	中央部西寄床下 9 cm 体部破片		粗石英・輝石・片 岩・白色粒/良好/ 相色	沈線で画された施丸部に列点状刺突文を充填する。磨消部 は平滑なナデ調整。内面潜面削落。	後期初頭
第84回 PL.88	18	打製石器 打製石斧	中央部西寄床下 8 cm ほぼ完形	長 幅 10.7 厚 6.3 重 2.5 193.4	粗粒輝石安山岩	鋒部。頭部が尖り、刃部平面形が直刃となる。剥片素材。 表面裏面に第一次削離面を残す。自然面は残していない。 刃部には削離部を敲打により削離している。側面形に反りはない。 刃部には一部欠損があるが、磨滅痕はほとんどない。	
第84回 PL.88	19	磨製石器 磨製石斧	理上 ほぼ完形	長 幅 (10.4) 厚 6.0 重 3.9 406.2	変輝綠岩	定式化。短手、重量感のある石材。精巧彫刻用。頭部は 打撃によって欠損。刃部平面形は円凸形が本來直刃であつ た可能性がある。側面形は凸凹刈(刈刀)。刃部は欠損後敲 打によって再生途中で放置されたものと考えられる。頭部は よく研磨され、黒みを帯びた光沢を放つ。	
第84回 PL.88	20	磨製石器 磨製石斧 成品	理上 完形	長 幅 12.2 厚 5.3 重 3.3 348.7	変輝綠岩	乳頭状。短い。精巧彫刻用。削離成形後敲打。研磨整形 未完成。刃緣平面形はV字形。刃部に鋒部はなく完成していない。自然面は表面裏面と右側 面に部分的に残す。自然面はやや光沢を持つ面分り。刃 部や側面に部分的な削離面を残す。	
第84回 PL.88	21	打製石器 尖頭器	中央部北寄理上 ほぼ完形	長 幅 (10.8) 厚 2.2 重 1.1 20.7	硬質頁岩	草創期。柳葉形尖頭器。剥片素材? 頂端と基部欠損。基部 は丸みもと思われる。丁寧な調整削離が両面に施され、 纏延に上げられている。側面形にほとんど反りはない。 横断面に凸レンズ状。	
第84回 PL.88	22	礫石器 四石	中央部西寄埋上 完形	長 幅 10.4 厚 7.9 重 5.8 624.7	粗粒輝石安山岩	精巧彫刻用。表面が平坦で裏面が山形に盛り上がる。表 面最大最深の凹みは長さ2.5cm×幅2.0cm×深さ0.5cm。凹 み周辺部は平坦で滑らかであり磨面と考えられるが方向は 不明。側面に敲打痕および敲打の際の削離面。	
第84回 PL.88	23	礫石器 磐石	中央部理上 完形	長 幅 11.9 厚 10.3 重 6.4 1088.3	粗粒輝石安山岩	円錐形。重量感のある石材。表面裏面とも磨面、敲打の 跡がある部分あり。周縁部敲打。	
第85回 PL.88	24	礫石器 石皿	南西部理上 1/4?	長 幅 (16.5) (12.5) 厚 (6.0) 重 1019.9	粗粒輝石安山岩	精巧彫刻用。表面裏面に無数の凹みあり。表面の方が径 1.5cm前後、深さが0.8cmと深いものが多い。凹みの周りは 鋒面。周縁部は自然面。	
第85回 PL.88	25	礫石器 多孔石	中央部床下 9 cm 完形	長 幅 18.0 厚 18.3 重 12.3 5486.4	粗粒輝石安山岩	大形彫刻用。表面裏面に無数の凹みあり。表面の方が径 1.5cm前後、深さが0.8cmと深いものが多い。凹みの周りは 鋒面。周縁部は自然面。	
第85回 PL.88	26	磨製石器 石棒	西部床下 4 cm 完形	長 幅 32.7 厚 12.3 重 8.1 5506.6	褐色片岩	棒状彫刻用。敲打成形後研磨整形。敲打により一部削離痕 が残る。周縁部は敲打により繋ぎ削離して軽減している。 方向は不明だが、器面は敲打後研磨されている可能性あり。左側 縁からの打撃による欠損。全体がどのくらいあったかは不明。	
第85回 PL.88	27	磨製石器 石棒	西部床下 6 cm 1/2?	長 幅 (30.4) 厚 10.8 重 8.7 4827.4	褐色片岩	薄手の厚岸で内溝する体部中位。縦位沈線2条による分岐 彫刻。縄文は横位・縱位しR充填施。内面は平滑なナ デ調整。被熱したため内面体部中位の器縁削落。	後期前葉
3区2号竪穴建物							
第88回 PL.88	1	縄文土器 深鉢	炉内底面下 8 cm 体部中位～底部 残存	底 7.0	粗石英・輝石・白 色粒/良好/褐色	薄手の厚岸で内溝する体部中位。縦位沈線2条による分岐 彫刻。縄文は横位・縱位しR充填施。内面は平滑なナ デ調整。被熱したため内面体部中位の器縁削落。	後期前葉
第88回 PL.88	2	縄文土器 深鉢	北部理上 口縁部破片		粗粒輝石・白色粒/ 良好/にぶい褐色	口縁部出島し横位沈線を設ける。頭部は無文で屈曲部に横 位沈線を配す。内面丁寧な横位研磨を加える。	後期前葉
第88回 PL.88	3	縄文土器 深鉢	中央理上 口縁部破片		粗石英・片岩/良 好/褐色	口縁部外反し体部上半は緩やかに内溝する。無文で口縁部 は弱い研磨。頭部は平滑なナデを施す。内面弱い研磨。	後期前葉
第88回 PL.88	4	縄文土器 深鉢	理上 口縁部破片		粗石英・輝石・白 色粒/良好/黄褐色	内折部に口縁部沈線を設け頭部は外反し下端に横位沈線を 設す。内面とも横位研磨を加える。	後期前葉
第88回 PL.88	5	縄文土器 深鉢	理上 口縁部破片		粗石英・輝石・白 色粒/白色粒/良 好/にぶい黄褐色	小段起立を付し口縁部沈線を設ける。突起より縦位沈 線と斜位沈線を設ける。沈線間に列点状刺突文を施す。内 面弱いナデ調整に止まり内凹が顕著。	後期前葉
第88回 PL.88	6	縄文土器 深鉢	北東部理上 口縁部破片		粗石英・片岩・ チャート/良好/ にぶい黄褐色	口縁部は肥厚し、円文を施す。体部は無文で弱い縦位研磨 を加える。内面は横位削り調整に止まる。	後期前葉

遺物觀察表

種 団 PL. No	No	種 類 種	出上位置 残 存 率	計測値	胎上/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第88回 PL. 88	7	礪文土器 深鉢	埋上 口縁部破片		粗石英・輝石・片 岩・白色粒/良好 /灰褐色	波状突起。外部波頭部は横位短沈線を施す。下端に横位降 線を有する8字状扶持付を付す。左下端部より内面に貫孔す る。内面波頭部に円文を配す。	後期前葉
第88回 PL. 88	8	礪文土器 深鉢	北部埋上 体部破片		粗石英・輝石・片 岩・白色粒/良好 /灰褐色	おそらく環状の口縁部突起。隣線で形成され波線と円文が 重なる。	後期前葉
第88回 PL. 88	9	礪文土器 深鉢	中央部埋上 体部破片		粗石英・片岩/良 好/灰褐色	内凹する体部上半。振幅の大小ある2種の縦位波状沈線に よる懸垂文構成。礪文は部位L R。内面横位降線。	後期前葉
第88回 PL. 89	10	礪文土器 深鉢	北部埋上 体部破片		粗石英・輝石・ チャート・白色粒/ 良好/灰褐色	体部中心から。縦位沈線2条に画された傾斜の点状刺突文 施文部による懸垂文構成。無文部は縦位ナデ調整。内面は 凹位削り調整後弱い研磨を加える。	後期前葉
第89回 PL. 88	11	礪文土器 深鉢	埋上 体部破片		粗石英・白色粒/ 良好/黒色	半渾合状底座を接続した2・3条の隣線による懸垂文構 成。内面弱いナデ調整。	後期前葉
第89回 PL. 88	12	礪文土器 深鉢	埋上 体部破片		粗石英・輝石・片 岩・白色粒/良好/ 灰褐色	内凹する体部下部。横位沈線を設け上位に短沈線による対 弧状底を配す。内面ナデ調整。	後期前葉
第89回 PL. 89	13	礪文土器 深鉢	炉脇埋上 底部3/4残存	底 12.4	粗石英・輝石・ チャート・白色粒/ 良好/灰褐色	大型の深鉢。僅に上端部を呈す。外反気味に開く体部下 半。無文で縦位削り調整後横位ナデ。内面横位ナデ。底面 に削痕部が僅かに残る。	後期前葉
第89回 PL. 89	14	礪文土器 西脇埋土 底部破片	底 (11.0)		粗石英・輝石・白 色粒/良好/赤褐色	大型の深鉢。厚手の器底を呈す。無節L斜位底。外器面 密閉。内面平滑なナデ調整。	後期前葉
第89回 PL. 89	15	礪文土器 深鉢	埋上 口縁部破片		粗石英・片岩・ チャート・白色粒/ 良好/褐色	沈線に画された施文部による意匠文が配される。列点状の 刺突文を施す。内面丁寧な横位研磨。	後期前葉
第89回 PL. 89	16	打製石器 打製石斧	炉内埋上 ほぼ完形	長 幅 11.4 5.3 厚 重 2.8 246.4	粗粒輝石安山岩	規則形。棒形器利用。刃部欠損後凹面に転用し ているものと考えられる。反りはほとんどない。 刃部に横位欠損。内面横位に打により戻き潰されている。風 化しておらず。使用痕は確認ではない。	
第89回 PL. 89	17	打製石器 打製石斧	南西部床面直 上 2/3	長 (9.6) 幅 (6.6) 厚 重 2.8 166.5	硬質泥岩	分離形。大形圓片石材?刃部は上下端とも欠損。側縫部は 敲打により戻き潰されているが、やや磨滅している部分あり 。	
第89回 PL. 89	18	磨製石器 磨製石斧	西部埋上 完形	長 14.7 幅 6.1 厚 重 4.3 748.7	玄武岩	規則形研磨利用。定式格磨製石斧を刃部欠損後凹面に転用し ているものと考えられる。規則のものに刃はない。表面 裏面に刃部のものが比較的明らかな複数(4-5)つあり。全面敲 打形成形研磨整形。	
第89回 PL. 89	19	磨製石器 磨製石斧	埋上 破片	長 (6.0) 幅 (4.4) 厚 重 (2.9) 140.0	変輝綠岩	乳孔形。規則形研磨利用?頭部破片。敲打成形後研磨整形。 裏面は正面に比べやや平坦で中央に自然面を残す。刃部は 敲打後残る程度に研磨されている。頭部は使用による打 撃痕あり。側縫部から刃部が元で欠損している。	
第89回 PL. 89	20	礪石器 門石	中央部西寄埋上 完形	長 16.9 幅 8.2 厚 重 4.4 1096.5	緑色片岩	長方形形研磨利用。石英の点紋のある石材。表面裏面に2カ 所アーチ型みがあり、表面裏面は上のもの厚2.8cm×深 さ0.7cm、下のものが厚2.7cm×深さ0.6cmではば類似して いる。裏面裏面の大部分は側面の平坦部分は研磨されてい るものと思われる。上下端に敲打痕あり。	
第89回 PL. 89	21	礪石器 門石	南部埋上 完形	長 20.3 幅 5.2 厚 重 3.8 571.3	緑色片岩	棒状握持利用。点紋のある石材。表と裏と下端から1/3程の位 置に径2.0cm×高1.8cm×深0.3cm、径1.8cm×高1.3cm×0.2cm の円窓あり。下部に敲打痕あり。器面の多くはやや磨滅して いるが、研磨整形しているか否か不明である。	
第89回 PL. 89	22	磨製石器 石棒	北部埋上 破片	長 20.6 幅 9.1 厚 重 5.7 1622.3	緑色片岩	棒状握持利用。上端部はかなり滑らかに研磨されている。表 から側面は敲打後研磨整形、風化による剥落もあり不明な 部分が多い。瓶に割けており裏面は欠損。	

## 3区3号竪穴建物

第90回 PL. 89	1	礪文土器 深鉢	中央部西寄埋上 口縁部破片		粗石英・片岩・白 色粒・白色粒/良 好/灰黄色	口縫部に僅かに凹面状となるが顯著ではない。他は無文で 裏面は平滑な横位ナデ調整、内面は横位研磨を加える。	後期前葉
第90回 PL. 89	2	礪文土器 深鉢	中央部西寄埋上 口縁部破片		粗石英・輝石・片 岩・白色粒/良 好/淡黄色	口縫部は僅かに凹面状となるが明瞭ではない。他は無文で 裏面は平滑な横位ナデ調整、内面は横位研磨を加える。	後期前葉
第90回 PL. 89	3	礪文土器 深鉢	埋上 口縁部破片		粗石英・輝石・片 岩・チャート・白 色粒/良好/黃褐色	波状突起に縦位短沈線を施す。口縫部は内屈し横位沈線を 設ける。頭部は外反し平滑なナデ調整。突起内面にも円文 を配す。頭部内面は平滑なナデ調整。	後期前葉
第90回 PL. 89	4	礪文土器 深鉢	埋上 口縫部破片		粗石英少・チャー ト・白色粒/良好/ 灰褐色	口縫部にて強い押圧を加えた横位降線を付す。口縫部の一 部に横位研磨、内面平滑なナデ調整。	後期前葉
第90回 PL. 89	5	礪文土器 深鉢	埋上 体部破片		粗石英・輝石/良 好/褐灰色	横位および弧状位短沈線により区画文を画す。区画内はL Rを充填する。内面丁寧な横位研磨を加える。	後期前葉
第90回 PL. 89	6	礪文土器 深鉢	埋上 体部破片		粗石英・片岩・白 色粒・白色粒/良 好/にぶい黄褐色	体部中心から。縦位沈線2条に画された施文部と磨消部の懸垂 構成。施文部は5・6条単位の短条線を縱に施文する。内面横 位研磨ナデ調整。	後期前葉
第90回 PL. 89	7	打製石器 打製石斧	埋上 1/2	長 幅 (8.1) 5.9 厚 重 1.2 55.1	硬質泥岩	規則形。薄手の扁平調片石材。側縫部は敲打されている。 刃部使用痕は不明瞭。中段で欠損しているにはあまりに薄 く長く、刃部に耐えられなかったものと考えられる。側面形 に反りはない。	

## 2区4号竪穴建物

第92回 PL. 89	1	礪文土器 深鉢	炉内底面直上 体部下半～底部 残存	底 7.0	粗石英・白色粒/ やや軟質/明黄褐 色	強く開く体部下半。数条単位の条縫が縦位に施される。外 器面密閉。体部中位に被熱痕跡を見る。内面平滑なナデ。	後期前葉
----------------	---	------------	-------------------------	-------	---------------------------	--	------

種 団 PL. No	種 類 器 種	出上位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第92団 PL. 89	2 滅文土器 深鉢	理上 体部下半～底部 残存	底 10.0	粗石英・輝石・片 岩・褐色系・白色粉 /やや軟質/褐色	体部下平強く聞く。斜位沈線の下端を見るが壊滅のため判 然としない。内面ナデ。	後期前葉
第93団 PL. 89	3 滅文土器 深鉢	理上 体部中位～底部 残存	底 7.0	粗石英・輝石・白 色粉・白色粉/やや 軟質/褐色	内湾気味に立ち上がる体部下半。無文で縦位削り調整後ナ デを加える。内面平滑なナデ調整。	後期前葉
第93団 PL. 89	4 滅文土器 深鉢	炉内底面直上 体部破片		粗石英・輝石・白 色粉・白色粉/やや 軟質/褐色	体部下平。沈線による弧状区画文下端か。僅かに斜位 R.L. が看取れる。内外器面熱め磨滅する。	後期前葉
第93団 PL. 89-90	5 滅文土器 深鉢	理上 口縁～底部破片 3点		粗石英・輝石・白 色粉・白色粉/軟質 /褐色	口縁部に僅かに沈線の痕跡を見るが磨滅するため判然 としない。	後期前葉
第93団 PL. 90	6 滅文土器 深鉢	南部床面直上 口縁部破片		粗石英・輝石・白 色粉/良好/にふ 黄色	捻挫状突起。表裏および両側縁より貫孔する。外外面とも 平滑なナデ調整を施す。	後期前葉
第93団 PL. 90	7 滅文土器 深鉢	東部床面直上 口縁部破片		粗石英・輝石・白 色粉/良好/にふ 褐色	波痕部起。側面が捻挫状突起を配す。裏面と左側面が貫 孔する。外外面とも平滑なナデ調整。	後期前葉
第93団 PL. 90	8 滅文土器 深鉢	東部床面直上 口縁部破片		粗石英・輝石・片 岩粉・白色粉/良好 /にふ/褐色	R.L.部分沈線を設け横位8字状意匠を加える。以下体部は2 段の弧状沈線による懸垂構成か。外外面もナデ調整。	後期前葉
第93団 PL. 90	9 滅文土器 深鉢	南部床面下4cm 口縁部破片		粗石英・片岩粉/ 軟質/にふ/褐色	口縫部内稜部に突出し横位沈線を設ける。以下盤沈線によ る弧状意匠が配される。内面平滑なナデ調整。	後期前葉
第93団 PL. 90	10 滅文土器 深鉢	理上 口縁部破片		粗石英・片岩・白 色粉・白色粉/良好 /淡黄色	口縫部に強い刃突文を加えた横位隆線を設け、以下縦位条 綱を施す。内面平滑なナデ調整。	後期前葉
第93団 PL. 90	11 滅文土器 深鉢	北部理上 口縁部破片		粗石英・片岩・白 色粉/良好/にふ 黄色	口縫部に押圧を加えた横位隆線を設け、口縫線が懸垂する。 内面と外側とも平滑な横位ナデ調整を施す。	後期前葉
第93団 PL. 90	12 滅文土器 深鉢	東部床下4cm 口縁部破片		粗石英・輝石・白 色粉/良好/にふ 褐色	無文。内面と斜位ナデ調整が施される。	後期前葉
第93団 PL. 90	13 滅文土器 深鉢	理上 口縫部破片		粗石英・片岩・白 色粉/良好/にふ 灰黄褐色	幅広の横位隆線に大型の円形押圧を加える。体部は無文で 横位ナデ調整、内面も横位ナデ調整を施す。	後期前葉
第94団 PL. 90	14 滅文土器 深鉢	北部床面直上 底部破片		粗石英・輝石・白 色粉/良好/淡黄色	内湾気味に開く体部下半。無文で縦位削り調整後ナデ。内 面ナデ調整。外器面磨滅。	後期前葉
第94団 PL. 90	15 滅文土器 深鉢	理上 口縫部破片		粗石英・輝石・白 色粉/良好/明赤 褐色	緩やかな波状線か。降唇と凹縫による口縫部区画文。横位 R.L.を看取る。内面平滑なナデ調整。	中期後葉
第94団 PL. 90	16 滅文土器 深鉢	南部床面直上 口縫部破片		粗石英・白/良好 /黄灰色	口縫部横位隆線を設けて斜位縫位 R.L.を充填する。内面 横位ナデ調整。	中期末葉
第94団 PL. 90	17 打製石器 打製石斧	理上 ほぼ完形	長(10.4) 幅5.2 厚 1.6 重 117.2	粗粒輝石安山岩	彫削形。剥削材。表裏に自然面、裏面に主要剥離面。刃部 に使用あり。内面縁に刃打痕有り。横断面は薄いV字状。側面形 に凹凸有り。側面形に凹凸有り。頭縫部は欠損。	
第94団 PL. 90	18 打製石器 打製石斧	北部床面直上 ほぼ完形	長 9.9 幅 5.7 厚 2.0 重 112.2	粗粒輝石安山岩	彫削形。横断面材質? おもに左側一部欠損。頭縫部に柄ズレ 感の強さがある。表面に大きく自然面を残す。横断面は彫 削V字状。側面形に反りはない。	
第94団 PL. 90	19 磨製石器 磨製石斧 未成品	理上 完形	長 13.3 幅 5.7 厚 1.8 重 208.2	安玄武岩	打製石斧状。横断面材質? 側面形に反りはないので、偏 平規則性もある。表面に自然面、裏面に主要剥離面を 残す。横断面は薄いV字状。側縫部は剥離されている が、それが原因で2つに割れたものと考えられる。欠け口 に段差がある。刃打痕は刃部に再生しようとした可 能性はある。一部研磨面があるが、全体にはおんでいない。 上下両面とも刃部は完成していない。	2点接合
第94団 PL. 90	20 磨製石器 磨製石斧 未成品	北部床下5cm ほぼ完形	長 14.0 幅 6.4 厚 3.3 重 410.1	安玄武岩	定角式。楕円形鏽利用。剥離成形後敲打。研磨整形。兩 刃(帆船)を目指しているものと思われるが、作成中で刃部 は完成していない。表面敲打部分は自然面、裏面中央にも 縫に長く自然面が残る。側縫部はよく敲打されている。	
第94団 PL. 90	21 磨製石器 磨製石斧	東部床面直上 ほぼ完形	長(10.7) 幅 4.8 厚 3.3 重 282.8	黄緑色結晶質岩	乳鉗状。精円形鏽利用。剥離後敲打成形。研磨整形。刃縫 はやや丸味を持つ直刃。側面形は舟凸帆(帆刀)。刃縫に脱 さはない。部分的に剥離面を残す。刃部は斜め横方向の研 磨面の上を刃縫に直交する使用痕が複数。体部は敲打痕が 目立つが剥離痕あり。上面は剥離面。表面右上部の剥離は 上からの打撃によるもの。裏面体部の欠損は横方向からの 打撃によるもの。	
第94団 PL. 90	22 磨製石器 磨製石斧	南部床面直上 ほぼ完形	長 9.9 幅 5.4 厚 3.2 重 248.7	安玄武岩	定角式。刃部平面形は直刃。側面形は舟凸帆(帆刀)。横断面 形は裏面がやや平坦で表面が盛り上がるが低いカマボコ形。 刃部は剥離後敲打途中で完成していない。裏面中央に自然 面が残る。側縫部および両面とも厚さを減らそうとよく敲 打されている。	
第94団 PL. 90	23 磨製石器 磨製石斧	南東部床面直上 1/2?	長 (5.8) 幅 5.4 厚 1.8 重 81.4	安玄武岩	定角式。刃部平面形は直刃。側面形は舟凸帆(帆刀)。横断面 形は裏面がやや平坦で表面が盛り上がるが低いカマボコ形。 刃部は剥離後敲打途中で完成していない。裏面中央に自然 面が残る。側縫部および両面とも厚さを減らそうとよく敲 打されている。	

遺物観察表

種 国 PL.No	種 類 器 物	出上位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第94回 PL.90	24 磨製石器 磨製石斧	埋土 1/3?	長 幅	(4.3) 4.9	厚 重	(2.0) 65.7	黄緑色結晶質岩	定角式。刃部破片。刃部前面はやや丸味を持つが、直刃、側面には凸刃(蛤刃)。研削は斜めもしくは横方向。刃部使用痕は刃縁に対して直交しており横削としての使用が考えられる。表面に研磨後風化した部分が、裏面に剥離面の磨き残しが認められる。
第94回 PL.90	25 磨製石器 磨製石斧 成品	埋土 完形	長 幅	12.8 6.1	厚 重	3.9 528.1	黄緑色結晶質岩	横長削り素材。三角形の刃辺に微細な剥離面が示す。使用痕と考えられる。裏面に主要剥離面、打面は剥離面。自然面はない。
第94回 PL.90	26 打製石器 削片	南西部床面直上 完形	長 幅	5.6 6.6	厚 重	1.5 55.8	砸粒輝石安山岩	棒状剥離利用。表面に長さ2.3cm×幅1.7cm×深さ2mmと長さ2.0mm×幅1.7cm×深さ3mmの浅い凹みが2~3箇所に並ぶ。表裏両面とも磨面で弱い研磨がある。側面や上下端面には敲打痕あり。右上と下端の欠損は敲打の打撃によるもの。
第94回 PL.90	27 碾石器 門石	埋土 ほぼ完形	長 幅	19.2 7.1	厚 重	4.4 587.6	緑色片岩	
2区8号穴内建物								
第95回 PL.90	1 縄文土器 深鉢	P 6 内理土 口縁部破片					砸・輝石・白色粒/ 良好/褐色	口唇部内削状。無文で外外面とも平滑なナデ調整を施す。後期前葉
第95回 PL.90	2 縄文土器 深鉢	P 5 内理土 体部破片					粗石英・輝石・褐色 粒・白色粒/良好/ 明黄色	体部下部。無文で外外面は蠶巻ナデ。内面は平滑なナデ調整を施す。外面部面磨滅。
1区5号土坑								
種 国 PL.No	種 類 器 物	出上位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第96回 PL.90	1 打製石器 削片	中央部埋土 完形	長 幅	8.7 11.9	厚 重	3.1 257.2	硬質泥岩	横長削片。打面は剥離面。表面下部に自然面を1/2程残す。裏面は主要剥離面。使用痕や加工痕はない。
3区6号土坑								
第96回 PL.90	1 縄文土器 深鉢	埋土 体部破片					緑・石英・片岩粒・ 白色粒/良好/にぶい 褐色	沈線による重張弦意匠か。縄文はL Rを施す。内面研磨。後期前葉
第96回 PL.90	2 上部器 蓋	埋土 底部～胴部下位 片	底	7.0			細砂粒/良好/褐	胴部はヘラミガキ。底部はヘラ削りか。内面は底部から胴部にヘラミガキ。器面摩滅のため単位不明。
3区8号土坑								
第97回 PL.90	1 磨製石器 磨製石斧	北部堅底面直上 1/2?	長 幅	(6.4) (3.8)	厚 重	(2.3) 97.5	変はんれい岩	乳棒状。棒状彫刻利用? 上部欠損。剥離、敲打成形後研磨整形。部分的に剥離面を残す。刃部は光沢を持つ刃字に研磨されているが、刃部は敲打痕が残る程度に軽く研磨されている。刃部は使用による微細な剥離や粒状痕が見られる。
3区9号土坑								
第97回 PL.90	1 縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片					緑・石英少・褐色粒・ 白色粒/良好/浅 黃褐色	口縁部内削し横棒沈線を設ける。頭部は外反し無文、横位ナデ調整を施す。内面は平滑なナデ調整。
3区10号土坑								
第97回 PL.90	1 縄文土器 深鉢	埋土 体部破片					緑・石英・片岩粒・ 白色粒/良好/褐色	体部下半か。無文で蠶巻研磨を施す。内面横位ナデ調整。後期前葉?
1区12号土坑								
第97回 PL.90	1 縄文土器 深鉢	埋土 体部破片					緑・石英少・白色粒/ 良好/にぶい黃褐色	体部下半か、無文で縱位削り調整後ナデ。内面はナデ調整。後期前葉
2区14号土坑								
第98回 PL.90	1 縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片					緑・鐵・石英少・ 白色粒/良好/黒褐色	外器面が著しく磨滅・擦毀剥落し判然としない。内面は平滑なナデ調整。
第98回 PL.90	2 縄文土器 深鉢	埋土 体部破片					粗・石英・片岩・白 色粒/良好/黃褐色	無文。外面部面磨滅、内面横位ナデ調整。
第98回 PL.90	3 打製石器 打製石斧	埋土 完形	長 幅	9.5 8.5	厚 重	2.0 159.6	硬質泥岩	分断形。横長剥離素材。下刃部欠損後再生したため刃縁が直線的。裏面1/2程自然面。横断面形は凸円錐形。削面形に反りはない。使用痕はほとんど見られない。刃部再生後はあまり使用されていない可能性が高い。側面の抉り部分はよく敲打されている。
2区16号土坑								
第99回 PL.91	1 縄文土器 深鉢	埋土 体部破片					緑・石英・白色粒/ 良好/にぶい黃褐色	垂下・弧状沈線にされた磨削部と施文部の懸垂構成か、施文部は蠶巻L R充填施文。外器面磨滅。内面横位ナデ調整。
第99回 PL.91	2 縄文土器 深鉢	埋土 体部破片					緑・石英・片岩・白 色粒/良好/黒褐色	結節状の蠶巻側突文を施す。外外面とも平滑なナデ調整。
第99回 PL.91	3 縄文土器 深鉢	埋土 体部破片					緑・石英・輝石・白 色粒/良好/にぶい 黃褐色	体部下半か。無文で蠶巻ナデ調整を施す。内面弱いナデ調整。
2区17号土坑								
第99回 PL.91	1 縄文土器 深鉢	南部底面直上 口縁～体部 1/3残存	口	(29.8)			粗・石英・片岩・褐 色粒/白色粒/良好/ にぶい黃褐色	無文。継やかな括れを持たせる。外面部面ナデ、内面横位ナデ調整。外面部下に被熱のための変色を見る。

種 国 PL. No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値	胎工焼成/色調 石 材・素 材 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考	
1区20号土坑							
第10064 PL.91	1 瓔文土器 深鉢	理上 口縁部破片		細・石英・白色粒/ 良好/灰黄褐色	波状縫か。直線と連続刺突文による弧状意匠。R Lを充填 施文する。内面研磨。	中期前葉	
1区21土坑							
第10064 PL.91	1 磨石器 円石	南部埋上 完形	長 15.6 幅 9.6	厚 5.6 重 1120.7	粗粒輝石安山岩	楕円形縦利用。ほぼ全面磨面で側面から上下に敲打痕あり。 表面に纏に2カ所敲打による凹み。右側縫部に同様な凹み あり。	
第10064 PL.91	2 磨石器 鐵石	南東部埋上 完形	長 10.2 幅 6.4	厚 4.7 重 421.6	粗粒輝石安山岩	楕円形縦利用。下端に敲打痕明瞭。敲打による剥離あり。	
3区1号ビット							
第10104 PL.91	1 弧生土器 小型甌	底面直上 底部	底 3.6		白色鉱物・黒色鉱物・繊砂粒/ぶ い粒	外面上から下へ磨き。内面底面にハケメ・磨き。	
第10104 PL.91	2 土師器 小型甌	底面直上 底部・胴部下半	底 3.4 胴 8.8		繊砂粒/良好/明黄 褐	外面上は器頭の大部分が剥離しており、整形不鮮明。内面は ヘラナデ、單位不鮮明。	
1区9号ビット							
第10204 PL.91	1 打製石器 打製石斧	西部埋上 1/2	長 (9.1) 幅 (6.2)	厚 (3.6) 重 281.3	硬質泥岩	短冊形。厚手。楕円形縦利用。裏面に縱長に自然面残す。 両側縫部は敲打により繊細が潰されている。下半は側縫からの 敲打が原内に欠損。	
2区4号溝							
第10704 PL.91	1 打製石器 二次加工し る剖片	理上 完形	長 5.3 幅 8.6	厚 1.2 重 55.3	硬質泥岩	横長削片素材。打面は剥離面。表面下辺に縦に帯状に自然 面を残す。裏面に主要剥離面あり。下縫辺部のみ加工痕と 考えられる纏かい剥離が並ぶ。	
1区10号溝							
第11064 PL.91	1 打製石器 二次加工し る剖片	理上 完形	長 5.1 幅 8.9	厚 2.0 重 94.2	硬質泥岩	横長削片素材。打面は自然面。右側縫部に一部調整剥離が 施す。表面に自然面。裏面は主要剥離面。	
第11064 PL.91	2 打製石器 剖片	理上 完形	長 7.2 幅 6.5	厚 1.9 重 86.2	硬質泥岩	楕円形削片素材。表面に自然面。裏面に主要剥離面を大き く残す。縫辺部の薄い部分に纏かい不規則な剥離があり、 自然にいたことも考えられるが、使用痕の可能性もある。 擬似断面形は低い山形。	
1区11号溝							
第11114 PL.91	1 打製石器 スクレイ パー	理上 完形	長 5.9 幅 5.0	厚 1.7 重 44.2	硬質泥岩	頭部の尖らない二等辺三角形・石甌に近い形状。剖片素材。 剥離が発達した石材。右脚平面形は直角。裏面側面に打点 がある。片面加工。裏面から表面側の打撃により整えられ ている。頭部から表面に自然面を残す。左側縫に敲打によ る潰れあり。	
第11114 PL.91	2 打製石器 打製石斧	理上 完形	長 12.2 幅 6.5	厚 2.4 重 199.9	粗粒輝石安山岩	瘤形・横長削片素材。裏面に大きく自然面を残す。無縫部 を主体に粗加工。側面形は若干反りあり。横断面形は低 い山形。左側面および裏面刃部の縦部に極わずかに磨れが ある。	
第11114 PL.91	3 磨石器 磨石	理上 完形	長 9.3 幅 9.4	厚 1.6 重 242.1	緑色片岩	扁平円錐利用。かなり真円に近い整った形。表裏内面とも 磨面で滑らか。周縫部には敲打痕が遡る。	
2区2号集石							
第11384 PL.92	1 瓔文土器 深鉢	理上 口縁部破片		粗・石英・輝少・ 褐色・白色鉱物/白 色/良好/にぶい樹 色	上面平円錐の柱状突起。中位円孔を配し、上・無縫と裏面内 縫部に円孔を設す。裏面は直線と刺突文を埋める。内面平 滑なナダ調整。	後期前葉	
第11384 PL.92	2 瓔文土器 深鉢	理上 体部破片		細・石英・白色鉱 物/良好/にぶい黃 褐色	裏面沈線で彫された施文部と磨削部。施文部は裏面L R充 填施す。磨削部および内面平滑なナダ調整。	中期後葉	
第11384 PL.92	3 弧生土器 高杯	南壁際床下 5 cm 脚部1/3	底 10.2		白色鉱物・黒色鉱 物・繊砂粒/白	杯底部磨き。脚部内外面ナダ。	
第11384 PL.92	4 弧生土器 台付甌	西部床下 6 cm 脚部	脚 7.1 高 4.7		白色鉱物・黒色鉱 物・繊砂粒/明黃 褐	外面ヘラナデ。内面ヘラによる回したよう横ナダ。甌底 面は剥離。	
第11384 PL.92	5 弧生土器 甌	南西部床直上 口縫片	口 15.8		白色鉱物・黒色鉱 物・砂粒/白	外面部頭部・瓢箪文3連止めの痕、口縫部に羽状文部分的に 内面とし表面の剥離が大きい。内面かすかに横方向の ナダの痕跡が確認できる。	
第11384 PL.92	6 土師器 蓋	東部埋上 土	擴 3.0		繊砂粒/良好/にぶ い粒	擴は天井部に貼付、擴縫部はナダ。	
第11384 PL.92	7 上師器 高杯	中央部床直上 脚部上半			繊砂粒/良好/明黃 褐	瘤形・横長削片素材。内側縫に磨痕あり。対部平面形は 直線的。裏面が平坦で表面が盛り上がる。側面形は表面側 に反りあり、表面左側に大きく自然面を残す。裏面に主要 剥離面を大きく残す。対部と側縫部に極わずかに磨れあり。 頭部は欠損していない。	
第11484 PL.92	8 打製石器 石鍬	理上 完形	長 15.2 幅 10.4	厚 3.4 重 632.4	粗粒輝石安山岩	大形凝縮片素材。下端には刃部が作出されているが、側 面部の鋼部は左側縫に一部調整加工が見られるが、右側縫 は特に直線的で敲打痕がない。裏面に大きく自然面を残す。	
第11484 PL.92	9 打製石器 石鍬未成品	南部床直上 完形	長 18.2 幅 12.4	厚 4.2 重 978.3	粗粒輝石安山岩	分岐形。横長削片素材。内側縫に敲打痕あり。括れが明確、 上下の刃部が直線的。裏面が平坦で表面が盛り上がる。側 面形はわざかに反りあり、表面に大きく第一次剥離面を残 す。裏面に主要剥離面はない。自然面もない。対部と括れ 部に極わずかに磨れあり。	
第11484 PL.92	10 打製石器 打製石斧	北西部埋上 完形	長 11.7 幅 8.9	厚 2.0 重 238.6	粗粒輝石安山岩		

## 遺物觀察表

種 国 PL. No.	種 類 器 物	出上位置 残 存 率	計測値		胎石/焼成/色調 材石・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第114回 PL. 92	磨製石器 磨製石斧	西部床面上直 破片	長 幅	(3.7) (5.6)	厚 重	(2.8) 95.9	黄緑色結晶質岩	定角式。頭部破片。敲打成形で研磨整形。よく研磨され、敲打痕はあまり残っていない。頭部右側に使用による敲打痕あり。
第114回 PL. 92	磨製石器 磨製石斧未 完成品	南西部床面上直 完形	長 幅	11.4 7.2	厚 重	4.5 610.5	綠色片岩	長方形。分厚く重い石材。亜角礫利用。表面裏面および左側縁に自然面を残す。右側縁は敲打痕により整形。下端にも敲打痕あり。全体の形は削り残されているものより、刃部は作出されていない。研磨前の體とと考えられる。
第114回 PL. 92	磨製石器 磨製石斧未 完成品	南西部床面上直 2/3	長 幅	(14.6) (8.3)	厚 重	(5.4) 935.4	変輝緑岩	長方形亜角礫利用。原産地に近い川原などで採取したものと考えられる。剥離成形後刃の様の部分を敲打により潰している。研磨なし。表面裏面に自然面を残す。下部欠損。左側が厚い。
第114回 PL. 92	打製石器 石核	南壁床面上 4 cm 完形	長 幅	12.0 12.0	厚 重	4.5 696.4	硬質泥岩	橢円形錐利。打面は自然面。上下両端に打ち点あり。横長削り溝。表裏とも自然面残す。表面は下端に裏面は上端に帯状に残す。横断面形は平行四辺形に近い。上下対称する位置に打穿痕があり、台右の上でハンマーストーンで敲いている可能性あり。
第114回 PL. 92	打製石器 二次加工あ る剖片	南西部床面上直 完形	長 幅	7.8 10.9	厚 重	3.7 196.1	硬質泥岩	楕円削り溝。上半は剥離時に縦に 2 つに裂けたもの。右側縁の薄く深い部分に調整剥離が並ぶ。裏面の主要剥離面に二次加工はない。
第114回 PL. 92	礫石器 凹門	南西部床面上 4 cm 完形	長 幅	9.9 8.4	厚 重	4.8 568.4	粗粒輝石安山岩	円錐利用。孔が多く、小さい割には重い石材。表面裏面と者面では中央に敲打による浅い不定形の凹みあり。周縁部はかなり丸く込まれ、全周に明瞭な敲打痕が残る。
第115回 PL. 92	磨製石器 石棒	北部床下 7 cm 破片	長 幅	(15.5) (6.3)	厚 重	6.1 791.4	綠色片岩	棒状錐利。敲打成形後研磨整形。研磨方向は不規則。上下とも欠損。頭部は欠失。上部は敲打による欠損。下部はその部分ハードハンマーによる直線的打痕を始めたわけではないが、もっと下の部分を敲き付けた時に中央から折れたものと思われる。
第115回 PL. 92	磨製石器 石棒	中央部床面上直 1/2 ?	長 幅	(15.1) 3.7	厚 重	3.4 318.8	綠色片岩	棒状錐利。石英の点紋が多数認められる石材。上部少欠損。全面敲打成形後研磨整形。中央横断面は直線に近いが、下端部は研磨されやや薄くなっている。上部左側のヒビ割れは新らしいもの。
第115回 PL. 92	礫石器 多孔石	中央部床面上直 完形	長 幅	18.4 19.8	厚 重	6.9 3459.9	粗粒輝石安山岩	むねびすら扁平円錐利用。表面裏面に無数の凹みあり。凹みの径は 1~1.5 mm 深さ 5 mm 前後のものが多い。凹みの周りは弱い磨面だが方向は不明。

## 2 区 3 号集石

第116回 PL. 92	1 縄文土器 深鉢	北東部床面上直 口輪部破片			粗:石英・輝石・片 岩/白色粉/良好 赤褐色	頭部の緩やかな曲面部に 8 字状貼付文を付し横位寸跡 2 条を施す。体部の器面磨滅する。内面平滑なナデ調整。	後期前集	
第116回 PL. 92	2 縄文土器 深鉢	理上 体部破片			粗:石英・片岩・多 白色粉/良好/明褐色	押圧を加えた鉗状錐帶を横位に配し以降斜位線を施す。内面平滑なナデ調整。	後期前集	
第116回 PL. 92	3 縄文土器 深鉢	北東部床面上直 体部破片			粗:石英・片岩/褐色 白色粉/良好/白 色/褐色	縱位沈線と柔軟施文による弧状沈線を重ねる。外表面は縱位削り落しに止まる。内面はナデ調整。	後期前集	
第116回 PL. 92	4 縄文土器 深鉢	北東部床面上直 体部破片			粗:石英・片岩/白 色粉/良好/にぶい 黃褐色	厚手の器厚を呈す。縱位条線による懸垂構成。内面平滑なナデ調整。	後期前集	
第116回 PL. 92	5 縄文土器 深鉢	西南隅床面上直 体部破片			粗:石英・輝石・白 色粉/良好/にぶい 黃褐色	厚手の器厚を呈す。約 2 cm 幅の縱位条線による懸垂構成。内面平滑なナデ調整。	後期前集	
第116回 PL. 92	6 縄文土器 深鉢	理上 体部破片			石英・輝石・多/白 色粉/良好/にぶい 黃褐色	縱位沈線と画された施文部と磨消部。施文部は L R L 縱位施文。磨消部には縱位沈線を加える。内面平滑なナデ。	中期後集	
第116回 PL. 92	7 縄文土器 深鉢	南西部床面上直 口輪部破片			粗:輝石多・白色 粉/良好/褐色	口輪部区画下端か。隣線を避け以下体部は縦沈線が垂下する。施文部には縦位 R L 。内面横位ナデ調整。	中期末集	
第116回 PL. 92	8 打製石器 打製石斧	南東床下 6 cm 2/3	長 幅	(10.1) (6.0)	厚 重	2.1 124.1	粗粒輝石安山岩	細胞形、剥離素材? 円面加工で上面に一部自然あり。側面形に若干アリ。無縫に敲打痕。柄özしあり。刃部欠損。刃部に割れられたものと思われる。下端に若干磨滅部分あり。
第116回 PL. 92	9 打製石器 打製石斧	南部床面上直 1/2	長 幅	(6.9) 5.5	厚 重	2.2 93.5	硬質泥岩	細胞形、剥離素材? 円面加工で自然面はない。側面に反りはない。側縁に敲打痕あり。刃部は鋭く使用による磨滅はなく、側縁からの打痕が元で削れたものであり、ほとんど使用されていないものと考えられる。

## 2 区 4 号集石

第116回 PL. 92	1 縄文土器 深鉢	南部床下 7 cm 体部破片			石英・輝石多・白 色粉/良好/明褐色	縦位沈線に画された施文部と磨消部。施文部は L R 縱位充填施文。内面平滑なナデ調整、側縁剥落	中期後集	
第116回 PL. 92	2 磨製石器 磨製石斧未 完成品	東部床面上直 完形	長 幅	9.9 5.8	厚 重	1.8 185.8	変玄武岩	分銅形。橢長削材片材。やや薄手。側面形はわずかに反りあり。裏面に大きく主要剥離面を残す。裏面の局部部上に極わずかに自然面を残す。刃部稜部に極わずかに磨れあり。

## 2 区 5 号集石

第116回 PL. 92	1 打製石器 打製石斧	理上 完形	長 幅	9.4 6.2	厚 重	1.3 84.8	硬質泥岩
-----------------	----------------	----------	--------	------------	--------	-------------	------

種類 PL No.	種類 器種	出上位置 残存率	計測値	胎土・焼成・色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
2区6号集石						
第118回 PL.92	1 打製石器 打製石斧	埋土 2/3	長幅 5.0	厚 2.2 重 103.5	細粒輝石安山岩	細面形。横長洞片素材?表面は刃部と右側縁に一部自然面を残す。側面形に反りはほとんどない。刃部の穂部に極わずかに磨擦はあるが、光沢を持つような部分はなく。あまり使用されていないものと考えられる。右側縁に敲打痕あり。頭部欠損。欠損の原因は側縁からの刃打によるもの。
2区1号遺物集中						
第119回 PL.91	1 磨石器 磨石	南西部床面直上 完形	長 幅 9.1	厚 5.8 重 841.1	粗粒輝石安山岩	円錐利用。表面裏面は滑らかな磨面。周縁部は敲打されている。裏面に横溝が複数ある。
第119回 PL.91	2 磨石器 磨石	南西部床面直上 完形	長 幅 7.4	厚 6.4 重 453.4	粗粒輝石安山岩	円錐利用。表面は滑らかで光沢を持つ部分あり。周縁部は敲打されている。長さや幅の割には厚みがある。表面裏面も滑面。若干敲打痕を残す部分あり。
第119回 PL.91	32 磨文土器 深鉢	北部床面直上 口輪・体部上半 破片2点	口 D36.0	粗:石英・輝石・片 岩・白色粒/良好/ 橙色	沈線で両側の施面部による「字状意匠」や「スベード状意匠」が上半に配され、下半部と連接する。施面部は列点状突起を充填する。内面平滑なナデ調整。	後期初頭
遺物外						
第123回 PL.93	1 磨文土器 深鉢	2区表土 口輪部破片		粗:輝石・石英・白 色粒/良好/黃褐色	波状縁。口縁部僅かに肥厚する。3条の窓状側面窓によ る差形状態が施される。内面平滑なナデ調整。	前期初頭
第123回 PL.93	2 磨文土器 深鉢	2区表土 口輪部破片		粗:輝石・石英・白 色粒/良好/黃褐色	口縁部外側に外反し口縁部は削りする。原体幅の短いLRと Rによる横位羽状縁構成。表面磨滅。	前期初頭
第123回 PL.93	3 磨文土器 深鉢	2区表土 口輪部破片		粗:輝石・白色粒/ やや軟質/橙色	口縁部外側にLRとRLによる横位羽状縁構成。内面平 滑なナデ調整。外側面磨滅。	前期初頭
第123回 PL.93	4 磨文土器 深鉢	2区表土 口輪部破片		粗:輝石・石英少 白粉/良好/黃褐色	直立気味のくび部下半。LRとRLによる横位羽状縁構成。 直底でもLRを施す。内面平滑なナデ調整。	前期初頭
第123回 PL.93	5 磨文土器 深鉢	2区表土 口輪部破片		粗:輝石・白色粒/ 良好/にぶい黃褐色	口縁部削除され、隙間にによる区画文が配される。区画内 は円形竹筋による刺突文が施される。体部は窓位RLを施す。 内面平滑なナデ調整。	前期前葉
第123回 PL.93	6 磨文土器 深鉢	2区表土 口輪部破片		粗:輝石・石英・白 色粒/良好/にぶい 黃褐色	穂やかな波状縁。薄手の器形を呈す。口縁部外反する。 無頭RLとLRによる横位羽状縁構成。内面横ナデ調整。	前期中葉
第123回 PL.93	7 磨文土器 深鉢	2区表土 口輪部破片		粗:輝石・石英・白 色粒/良好/明黄色	口縁部外側。口輪端部にRL。以下LRとRLによる横位 羽状縁構成。内面平滑なナデ。	前期中葉
第123回 PL.93	8 磨文土器 深鉢	2区表土 体部破片		粗:輝石・石英/良 好/灰黃褐色	LRとRLによる横位羽状縁構成。追加整形施文の痕跡 も見れる。内面平滑なナデ調整だが凹凸が顕著。	前期中葉
第123回 PL.93	9 磨文土器 深鉢	3区表土 体部破片		粗:輝石・石英/良 好/灰黃褐色	LRとRLによる横位羽状縁構成。追加整形施文の痕跡 も見れる。内面平滑なナデ調整。	前期中葉
第123回 PL.93	10 磨文土器 深鉢	2区表土 口輪部破片		粗:石英・白色粒/ 良好/にぶい黃褐色	口縁部削除と頭部隆線による1種部区画文。区画内は無頭 の横位羽状縁施文。内面平滑なナデ調整。	中期中葉末
第123回 PL.93	11 磨文土器 深鉢	2区表土 口輪部破片		粗:石英多・輝石・ 白色粒/やや軟質/ にぶい黃褐色	頭部に浅刻を施した無頭位頭部と溝状突起を配す。口縁部 は短縮化と充填した区画文構成。体部は窓位RLを施す。 内面平滑なナデ調整。	中期中葉末
第123回 PL.93	12 磨文土器 深鉢	2区表土 口輪部破片		粗:石英・輝石・白 色粒/良好/黃褐色	2条隆線による溝文と区画文構成。区画内側縫は沈線で 頭位と施す。外側面磨滅。内面平滑なナデ調整。	中期後葉
第123回 PL.93	13 磨文土器 深鉢	2区表土 口輪部破片		粗:石英少・輝石多 ・白色粒/良好/橙色	隣線による口輪部稍円状区画文構成。区画内側縫は幅広の 沈線、窓位RLを充填施文する。内面平滑なナデ調整。	中期後葉
第123回 PL.93	14 磨文土器 深鉢	2区表土 口輪部破片		粗:石英・輝石・褐 色粒/白色粒/良好/ 明黃褐色	厚手の器底を呈し、口縁部外反する。無文。内外器面磨滅。	中期後葉
第123回 PL.93	15 磨文土器 深鉢	2区表土 口輪部破片		粗:石英・片岩多 ・白色粒/良好/明赤 褐色	あるいは身深の浅跡か。口輪部僅かに肥厚する。内外面と も弱い研磨を加える。	中期後葉
第123回 PL.93	16 磨文土器 深鉢	2区表土 体部破片		粗:石英・輝石少 ・白色粒/良好/にぶい 黃褐色	窓位隆線と窓位による懸垂文構成。中位より弧状隆線が派生 し溝文施文になる。施面部窓位縫が密接に施文され る。内面下部窓位研磨を加える。	中期後葉
第123回 PL.93	17 磨文土器 深鉢	2区表土 体部破片		粗:石英・輝石多 ・白色粒/良好/明赤 褐色	窓位沈線に両された幅広の消節部懸垂文構成。施面部窓文 は窓位LR充填施文。内外器面磨滅。	中期後葉
第123回 PL.93	18 磨文土器 深鉢	3区表土 口輪部破片		粗:石英・輝石多 ・白色粒/良好/明赤 褐色	隆線に両された口輪部区画文。区画内は凹線を側縫とし窓 位RLを充填する。内面平滑なナデ調整。	中期後葉
第123回 PL.93	19 磨文土器 深鉢	1区表土 体部破片		粗:石英・輝石・白 色粒/良好/黃褐色	垂下隆線による懸垂文構成。側縫は沈線で斜位短沈線を充 填する。内面平滑なナデ調整。	中期後葉
第124回 PL.93	20 磨文土器 深鉢	2区表土 口輪部破片		粗:石英・白色粒/ 良好/にぶい黃褐色	口縁部削除後に小突起を付し突起下より弧状縫が派生す る。分岐懸垂文か。突起下に磨文施文LRか。内面平滑なナデ 調整。	中期末葉
第124回 PL.93	21 磨文土器 深鉢	1区表土 体部破片		粗:石英・輝石・白 色粒/良好/黃褐色	窓位沈線による懸垂文構成。窓位RLを充填する。内面平 滑なナデ調整。	中期末葉
第124回 PL.93	22 磨文土器 深鉢	1区表土 体部破片		粗:石英・輝石・片 岩・白色粒/良好/ 浅黄色	窓位が幅狭に垂下する。分岐懸垂文か。施面部は窓位LR 充填施文。内面はナデ。	中期末葉
第124回 PL.93	23 磨文土器 深鉢	1区表土 底部破片		粗:石英・輝石・白 色粒/良好/にぶい 黃褐色	強く開く体部下半。外側は斜位研磨を施す。内面はナデ。	中期後葉～後 期

遺物觀察表

種 団 PL. №	種 類 種	出上位置 残存率	計測値	胎工・焼成・色 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第124回 PL. 93	24 瓷文土器 深鉢	1区表土 口縁部破片		胎:石英・輝石・褐色 色粒・白色粒・良好 /にぶい黄褐色	波状線、波頭部に押出を加えた突起を付す。突起内面は円形貼文を付す。体部外面は口縁部に画された施文部と磨消部。施文部縞文は概位L R。内面は横位研磨。	後期初頭
第124回 PL. 93	25 瓷文土器 深鉢	1区表土 口縁部破片		胎:石英・輝石・白 色粒・良好/黄褐色	波状線。口縁部内面突出する。横位沈線を設け縦位弧状沈線が垂下し斜位沈線も施す。縞文はL R充填施文。内面研磨を加えるも沿縁削落。	後期初頭
第124回 PL. 93	26 瓷文土器 深鉢	1区表土 体部破片		胎:石英・輝石・チ ート・白色粒/ 良好/稍色	波線で画された施文部による軸捲状意匠。L Rを充填す る。磨消部および内面は平滑なナデ調整。	後期初頭
第124回 PL. 93	27 瓷文土器 深鉢	1区表土 体部破片		胎:石英・輝石・明 黄色	波線で兩側に施文部と磨消部の交叉配列による弧状意 匠。施文部はL Rを充填。内面平滑なナデ調整。	後期初頭
第124回 PL. 93	28 瓷文土器 深鉢	2区表土 体部破片		胎:石英・雲母・白 色粒/良好/明黄色	小径の小型横筋跡部中央位か、2条往複に画された粗筋磨 部による環位状意匠。基点に小刺突文を施す。施文部は 波線で斜位L R充填施文。内面は縦位研磨を加える。	後期初頭
第124回 PL. 93	29 瓷文土器 深鉢	2区表土 体部破片		胎:石英・褐色粒・ 白色粒/良好/黄褐色	波線で両側に施文部と磨消部の交叉配列による弧状意 匠。施文部はL Rを充填。内面平滑なナデ調整。	後期初頭
第124回 PL. 93	30 瓷文土器 深鉢	2区表土 口縁部破片		胎:石英・片岩/や わかな/浅黄色	あるいは蓋か。小径で横位隕線を設ける。内外面磨滅。	後期初頭
第124回 PL. 93	31 瓷文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片		胎:石英・輝石・白 色粒/良好/にぶい 黄褐色	縞位状研磨起。内縫間に非対称な弧状沈線を配す。外 面も平滑なナデ調整。	後期初頭
第124回 PL. 93	32 瓷文土器 深鉢	2区表土 体部破片		胎:石英・輝石・白 色粒/良好/にぶい 黄褐色	波線で画されたスパート状、鈎先状の意匠文か。列点状制 突文を充填する。内面平滑なナデ調整。	後期初頭
第124回 PL. 93	33 瓷文土器 深鉢	2区表土 体部破片		胎:石英・輝石・白 色粒/良好/にぶい 黄褐色	波線で画された施文部と磨消部。逆U字状懸垂文か。小型 の列点状制突文を充填する。内面ナデ調整。	後期初頭
第124回 PL. 93	34 瓷文土器 深鉢	2区表土 体部破片		胎:輝石・片岩・白 色粒/良好/にぶい 黄褐色	波線で画された施文部と磨消部。逆U字状懸垂文か。小型 の列点状制突文を充填する。内面ナデ調整。	後期初頭
第124回 PL. 93	35 瓷文土器 深鉢	3区表土 体部破片		胎:石英・輝石・片 岩多・白色粒/良好/ 赤褐色	粗筋沈線で画された施文部と磨消部。施文部は列点状制突 文を施す。磨消部は弱い研磨。内面潔面磨滅。	後期初頭
第124回 PL. 93	36 瓷文土器 深鉢	3区表土 体部破片		胎:石英・輝石・白 色粒/良好/にぶい 黄褐色	波線で両側に施文部と磨消部による弧状意匠。あるいは J字状意匠か。施文部は列点状制突文を充填する。内面平 滑なナデ調整。	後期初頭
第124回 PL. 93	37 瓷文土器 深鉢	2区表土 体部破片		胎:石英・輝石・白 色粒/良好/にぶい 黄褐色	波線で画された逆U字状懸垂文。列点状制突文が強く施 される。内面横位削り調整後ナデ。	後期初頭
第124回 PL. 93	38 瓷文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片		胎:石英・輝石・片 岩・白色粒/良好/ 明黄色	口縁部内側に横位沈線を施す。頭部切妻部に円文と横位沈 線3条を設け体部は波線による環状意匠や斜位沈線を配す。 施文部には無施し充填施文する。内面研磨を加える。	後期前集
第124回 PL. 93	39 瓷文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片		胎:石英・輝石少 ・白色粒/良好/灰褐色	口縁部内側に波紋部に円文を施し沈線が巡る。頭部は外反 し無文。内外とも丁寧な研磨を加える。	後期前集
第124回 PL. 93	40 瓷文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片		胎:石英・片岩・白 色粒/良好/灰褐色	波状突起を付し円文と弧状沈線を配す。口縁部沈線を設け る。内面とも研磨を加える。	後期前集
第124回 PL. 93	41 瓷文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片		胎:石英・輝石・白 色粒/良好/にぶい 白色	口縁部削折し、横位沈線を設ける。頭部は無文で屈曲部に 横位沈線を配す。内外面丁寧な研磨を加える。	後期前集
第124回 PL. 93	42 瓷文土器 深鉢	1区表土 口縁部破片		胎:石英・褐色粒・ 白色粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部内側無い。口縁部横位沈線を設ける。体部は無文で ナデ調整。内面も平滑なナデ。	後期前集
第124回 PL. 93	43 瓷文土器 深鉢	2区表土 口縁部破片		胎:石英・片岩・白 色粒/良好/にぶい 黄褐色	口縁部に横位沈線を設ける。頭部外反部は無文で平滑なナ デ調整。内面も平滑なナデ。	後期前集
第124回 PL. 93	44 瓷文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片		胎:石英・片岩・白 色粒/良好/暗赤褐色	おそれら横筋構成でV字状懸垂文を配す。区画内は横位沈 線2条を画された磨消部による三角状意匠が配される。縞文は L R充填施文。内面丁寧な研磨を加える。	後期前集
第125回 PL. 93	45 瓷文土器 深鉢	1区表土 口縁部破片		胎:石英・片岩・白 色粒/良好/稍色	口縁部内側に円文と横位沈線2条を配す。縦位沈線を施すが懸 垂文構成。施文はいずれも深い。内面横位研磨。	後期前集
第125回 PL. 94	46 瓷文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片		胎:輝石・褐色粒多 ・白色粒/良好/に ぶい黄褐色	口縁部肥厚し円文と横位沈線を配す。体部は2条の縦位細 沈線が両面施文構成。刺突文を充填する。内面 横位研磨を加える。	後期前集
第125回 PL. 94	47 瓷文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片		胎:石英・片岩少 ・白色粒/良好/稍色	口縁部肥厚し円文と横位沈線を配す。体部は2条の縦位細 沈線が両面施文構成。刺突文を充填する。内面 横位研磨を加える。	後期前集
第125回 PL. 94	48 瓷文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片2点		胎:石英・輝石・白 色粒/良好/にぶい 白色	口縁部肥厚し円文と横位沈線を配す。体部は縦位細 沈線が両面施文構成。刺突文を充填する。内面 横位研磨を加える。	後期前集
第125回 PL. 94	49 瓷文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片		胎:石英・輝石・白 色粒/良好/稍色	口縁部内部に横位沈線を設け、体部は沈綱による横円状区 画文を設ける。区画内は横位沈線と縦位沈線を配す。	後期前集
第125回 PL. 94	50 瓷文土器 深鉢	2区表土 口縁部破片		胎:石英・輝石・白 色粒/良好/稍色	口縁部は横位沈線で画され、弧状隕線による区画文を配す。 区画内に横位沈線を配す。内面横位研磨を施す。	後期前集

種 団 PL. No.	種 類 器 種	出上位置 残存率	計測値	胎工・焼成・色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第12586 PL.94	縄文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片		胎:石英・輝石・白 色粒・良好/にぶい 黄褐色	小波状突起。表裏および左縁部より貫孔する。突起下端 外側面に円文を配す。内面研磨。	後期前葉
第12587 PL.94	縄文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片		胎:石英・片岩粒・ 白色粒・良好/赤褐色	継やかな波紋線。波頂部に円文を繋ぐ弧状小隠線を付し頭 部隠線以下2条の沈線による弧状意匠が配される。縄文は 横位L充填施文。内面研磨。	後期前葉
第12588 PL.94	縄文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片		胎:石英・輝石・片 岩・白色粒・良好/ 黒褐色	波頂部に円孔を設け刺突を加えた隠線が垂下し頭部円文に 繋ぐ。頭部は横位沈線と刺突文を施す。波頂部内面も円文を 施す。内面平滑な横位ナギ調整。	後期前葉
第12589 PL.94	縄文土器 深鉢	2区表土 口縁部破片		胎:石英・輝石・褐 色粒・白色粒・やや 軟質/にぶい褐色	口縫部外側に頭部屈曲する。口唇部と頭部に円文を配し頭 部隠線跡に8字形貼付文。側縁は沈線で無節を横位充填 施文する。内面平滑遮蔽。	後期前葉
第12590 PL.94	縄文土器 鉢	1区表土 口縁部破片		胎:石英・輝石・片 岩・白色粒・良好/ 明赤褐色	口縫部は強く内向する。口唇部に円文を配し隠帶が弧状に 纏まる。絆縁にも円文を配す。側縁は横位R L充填施文する。 内面は平滑なナギ調整。	後期前葉
第12591 PL.94	縄文土器 深鉢	2区表土 口縁部破片		胎:石英・輝石・片 岩・白色粒・良好/ にぶい赤褐色	口縫部横位上位に頭部交叉と沈線が沿う。竪位隠線が派 生し、空白部は沈線によるV型の弧状意匠が配される。内 面横位ナギ調整。	後期前葉
第12592 PL.94	縄文土器 深鉢	1区表土 口縁部破片		胎:石英・輝石・片 岩・白色粒・良好/ 褐色	口縫部は強めに張る。口唇部に円文を配し隠帶が弧状に 纏まる。絆縁にも円文を配す。側縁は横位R L充填施文する。 内面は平滑なナギ調整。	後期前葉
第12593 PL.94	縄文土器 深鉢	2区表土 体部半破片		胎:石英・輝石・片 岩・白色粒・良好/ にぶい黃褐色	口縫部横位上位に頭部交叉と沈線が沿う。竪位隠線が派 生し、空白部は沈線によるV型の弧状意匠が配される。内 面横位ナギ調整。	後期前葉
第12594 PL.94	縄文土器 深鉢	3区表土 体部破片		胎:石英・輝石・白 色粒・良好/にぶい 黃褐色	3条の太い沈線による分岐垂文を主とし弧状沈線や環状 意匠を連接する。縄文はL R充填施文。内面横位研磨を加 える。	後期前葉
第12696 PL.94	縄文土器 深鉢	3区表土 体部上半破片		胎:石英・輝石・片 岩・白色粒・良好/ 黒褐色	体部は太い沈線による分岐垂文や半満巻状意匠、弧状 意匠が配される。内面丁寧な横位研磨を施す。	後期前葉
第12697 PL.94	縄文土器 深鉢	2区表土 体部破片		胎:石英・褐鉻粒・ 白色粒・良好/浅黄 褐色	縄文による重環状・弧状意匠を配す。内外面とも器面磨滅。	後期前葉
第12698 PL.94	縄文土器 深鉢	3区表土 體部破片		胎:石英・輝石・褐 色粒・良好/浅黄褐色	頭部緩やかな屈曲。円文と横位沈線3条を配し、上位に派 生する。内面横位研磨を施す。	後期前葉
第12699 PL.94	縄文土器 鉢	3区表土 体部半破片		胎:石英・輝石・白 色粒・良好/黄褐色	頭部強く屈曲。頭部無文、体部上半は3条の沈線による弧 状意匠が配される。内面丁寧な横位研磨を施す。	後期前葉
第12700 PL.94	縄文土器 深鉢	3区表土 體部破片		胎:石英・輝石・白 色粒・良好/黒褐色	頭部屈曲面に横位沈線を設け体部は沈線に画された横円状 区画文が多方面に配される。区画内は円形刺突文が横位に施 される。内面研磨を加える。	後期前葉
第12696 PL.94	縄文土器 深鉢	1区表土 体部破片		胎:石英・片岩・輝 石・白色粒・良好/ にぶい黄褐色	L R充填された3形状の区画文構成か。区画内はL R充填する。内面は平滑な横位ナギ調整。	後期前葉
第12696 PL.94	縄文土器 深鉢	2区表土 体部破片		胎:石英・白色粒/ 良好/にぶい黃褐色	縄文による重環状・弧状意匠を配す。縄文は斜位L R充 填施文。内面横位ナギ調整。	後期前葉
第12696 PL.94	縄文土器 深鉢	1区表土 体部破片		胎:石英・輝石・白 色粒・良好/赤褐色	赤い沈線による重環状意匠か。下端より竪位沈線が派生す る懸垂文構成か。内面平滑なナギ調整。	後期前葉
第12696 PL.94	縄文土器 深鉢	3区表土 体部破片		胎:石英・片岩・輝 石・白色粒・良好/ にぶい黃褐色	太い沈線による半満巻状意匠を配す。斜位沈線も施され、 L Rを充填する。内面横位研磨。	後期前葉
第12696 PL.94	縄文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片		胎:石英・輝石・白 色粒・良好/赤褐色	内溝する頭部上半。隠線による弧状意匠が配される。側縁 は一部沈線を施すが丁寧によるナギ。刺突文も施される。内面 横位研磨を加える。	後期前葉
第12696 PL.94	縄文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片		胎:石英・片岩粒・ 白色粒/良好/赤褐色	口縫部円文を連続する。体部は横位沈線より2条の弧状沈 線が派生する。内面丁寧な研磨を加える。	後期前葉
第12696 PL.94	縄文土器 深鉢	1区表土 口縁部破片		胎:石英・輝石・白 色粒・良好/赤褐色	口縫部に強い押圧を加えた横位隠線を設ける。口唇部内面 肥厚し強い横位ナギ調整を施す。	後期前葉
第12696 PL.94	縄文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片		胎:石英・輝石・白 色粒・良好/明赤褐色	口縫部下に押厚を加えた低位隠線を巡らす。内面横位削り 調整後ナギを施す。	後期前葉
第12696 PL.94	縄文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片		胎:輝石・褐鉻粒・ 白色粒・良好/黄褐色	口縫部に押圧を加えた横位隠線を設け、口唇部より同隠線 が垂下する。内面横位削り調整後弱い横位研磨を加える。	後期前葉
第12696 PL.94	縄文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片		胎:石英・輝石・褐 色粒・白色粒・良好/ にぶい褐色	口縫部下に強い押圧を加えた横位隠線を設ける。他の無文で 連続する円文より2条の沈線と列点状刺突文が垂下する。斜位沈線 も施される。内面弱いナギ調整。	後期前葉
第12696 PL.94	縄文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片2点		胎:石英・片岩粒・ 白色粒/良好/にぶい 褐色	口縫部に沈線による小筋状意匠を配し弧状沈線を加え る。内外面とも研磨を加える。	後期前葉
第12696 PL.94	縄文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片		胎:石英・輝石・白 色粒/良好/明褐色	口縫部に沈線による小筋状意匠を配す。体部は条線が横位波状に垂下 する。内面平滑なナギ調整。	後期前葉
第12696 PL.94	縄文土器 深鉢	2区表土 口縁部破片		胎:石英・輝石・白 色粒/良好/明褐色	口縫部に沈線による外反無文。体部は条線が横位波状に垂下 する。内面平滑なナギ調整。	後期前葉

遺物觀察表

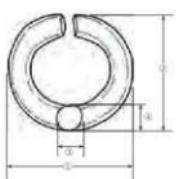
種 団 PL. No.	種 類 器 物	出上位置 残 存 率	計測値	胎工・焼成・色調 材石・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第126回 PL. 94	縄文土器 深鉢	3区表土 口縁部破片		胎: 石英・白色粒・ 良好/稍色	口縁部は無文で横位研磨後赤彩を加える。体部は縦位条線を施す。強い彫文。内面では横位研磨を加える。	後期前集
第126回 PL. 94	縄文土器 深鉢	1区表土 口縁部破片		胎: 石英・輝石・片 岩・白色粒/良好/ 稍色	口縁部横位條線を設けて体部は縦位条線を施す。内面平滑なナデ調整。外面表面磨滅。	後期前集
第126回 PL. 94	縄文土器 深鉢	2区表土 体部破片		胎: 石英・褐色粒・ 白色粒/良好/明黄 褐色	軸抜の内皮施文による縦位条線群が施される。内外面器面磨滅する。	後期前集
第127回 PL. 95	縄文土器 深鉢	2区表土 体部破片		胎: 石英・輝石・白 色粒/良好/にぶい 褐色	口縁部横位條線による懸垂文構成。外面平滑なナデ調整。	後期前集
第127回 PL. 95	縄文土器 深鉢	1区表土 体部破片		胎: 石英・片岩・褐 色粒・白色粒/良好 /にぶい黃褐色	2・3条の縦位条線と弧状条線による懸垂文構成か。内面平滑なナデ調整。	後期前集
第127回 PL. 95	縄文土器 深鉢	3区表土 体部破片		胎: 石英・輝石・片 岩/良好/明黄褐色	縦位條線で画された施文部と無文部の懸垂文構成。施文部は縦位条線を充填する。無文部は器面磨滅のため判然しない。内面平滑なナデ調整。	後期前集
第127回 PL. 95	縄文土器 深鉢	1区表土 体部破片		胎: 石英・輝石・白 色粒/良好/橙色	体部上半か。厚手の器厚を呈し浅い縦位条線による懸垂文構成。内面平滑なナデ調整。	後期前集
第127回 PL. 95	縄文土器 深鉢	3区表土 体部破片		胎: 石英・白色粒/ 良好/明褐色	厚手の器厚を呈し、縦位条線が施される。内面横位研磨を加える。	後期前集
第127回 PL. 95	縄文土器 深鉢	3区表土 体部破片		胎: 石英・片岩少 ・白色粒/良好/明黄 褐色	縦位条線2条に画された施文部懸垂文構成。短弦線による山形波紋が充填される。内面横位ナデ調整。	後期前集
第127回 PL. 95	縄文土器 深鉢	1区表土 体部破片		胎: 石英・片岩・褐 色粒/良好/にぶい 褐色	幅広の平行弦線を縦位・弧状に施す。横位削り調整後ナデ。内面は平滑な横位ナデ調整。	後期前集
第127回 PL. 95	縄文土器 深鉢	2区表土 体部破片		胎: 石英・輝石・片 岩多/白色粒/良好 /にぶい・黄褐色	弧状弦線による懸垂文構成か。外側は縦位ナデ、内面は横位ナデ調整。	後期前集
第127回 PL. 95	縄文土器 深鉢	3区表土 体部破片		胎: 石英・輝石・円 チート・白色粒/ 良好/浅黄褐色	破片左端に弦線の痕跡を見る。他は無文で縦位ナデ。内面は横位削り調整後弱いナデ調整。	後期前集
第127回 PL. 95	縄文土器 深鉢	3区表土 体部破片		胎: 石英・片岩粒・ 白色粒/良好/にぶい 褐色	体部下平か。縦位・斜位研磨を施す。内面平滑なナデ調整。	後期前集
第127回 PL. 95	縄文土器 深鉢	3区表土 体部破片		胎: 石英・片岩・褐 色粒・白色粒/良好 /にぶい・橙色	体部下半か。無文で縦位削り調整後ナデを加える。内面は平滑なナデ調整。	後期前集
第127回 PL. 95	縄文土器 深鉢	3区表土 体部破片		胎: 石英・輝石少 ・白色粒/良好/黄褐色	体部中位下半か。重下弦線2条による懸垂文構成下端部。地盤は無理無し横位・縦位施文。下部は横位研磨を加える。内面横位研磨。	後期前集
第127回 PL. 95	縄文土器 深鉢	3区表土 体部破片		胎: 石英・輝石・白 色粒/良好/灰黃褐色	豊臣深鉢同様。横位縫線に横位小把手を付す。把手両下端より重下弦線が派生する。縫線は弦線。	後期前集?
第127回 PL. 95	縄文土器 深鉢	3区表土 注口部破片		胎: 石英少・褐色粒 ・白色粒/良好/明黃 褐色	小型の注口部上位に環状突起を配した橋状把手を付す。環状突起中位は小孔を穿つ。	後期前集
第127回 PL. 95	縄文土器 深鉢	2区表土 底部1/2残存	底 8.2	胎: 石英・輝石・白 色粒/良好/にぶい 褐色	体部下平で済器の器厚を呈し外反気味に開く。横位ナデ調整。内面は平滑なナデ。底面に網代底。	後期前集
第127回 PL. 95	縄文土器 深鉢	3区表土 底部1/4残存	底 (10.0)	胎: 石英・輝石/良 好/にぶい黃褐色	厚手の器厚。体部は弱いナデ、底面は平滑なナデ調整。内面は横位ナデ。	後期前集
第127回 PL. 95	縄文土器 深鉢	3区表土 底部1/4残存	底 (13.0)	胎: 石英・輝石・白 色粒/良好/にぶい 褐色	厚手の器厚を呈す大型の深鉢。外側ナデ調整。後弱い研磨を加える。内面横位ナデ調整。	後期前集
第128回 PL. 95	縄文土器 深鉢	1区表土 口縁部破片		胎: 輝石・白色粒/ 良好/灰黃褐色	渡頂部突起。上端は皿状を呈し突起下端は弦線を施す。	後期前集
第128回 PL. 95	縄文土器 深鉢	2区表土 口縁部破片		胎: 石英・輝石・白 色粒/良好/白褐色	内面と外側とも平滑なナデ調整。	後期前集
第128回 PL. 95	縄文土器 深鉢	2区表土 体部破片		胎: 輝石・片岩少 ・褐色粒・白色粒/良 好/にぶい黃褐色	刻みを付ける縫隙部細縫線を設け、以下横位弦線と横位L.Rを施す。内面平滑なナデ調整。	後期前集
第128回 PL. 95	縄文土器 深鉢	3区表土 体部破片		胎: 石英・輝石・白 色粒/良好/にぶい 褐色	厚手の器厚を呈す大型の深鉢。外側ナデ調整。後弱い研磨を加える。内面横位ナデ調整。	後期前集
第128回 PL. 95	縄文土器 深鉢	1区表土 口縁部破片		胎: 輝石・白色粒/ 良好/灰黃褐色	渡頂部突起。上端は皿状を呈し突起下端は弦線を施す。	後期前集
第128回 PL. 95	縄文土器 深鉢	3区表土 体部破片		胎: 石英・輝石・片 岩・白色粒/良好/明 黃褐色	内面と外側とも平滑なナデ調整。	後期前集
第128回 PL. 95	縄文土器 深鉢	2区表土 体部破片		胎: 石英・輝石・片 岩・白色粒/良好/白 褐色	体部下平。2条の弦線に画された施文部と磨消部交互配列による重幾何学構成。施文部施文はL.R充填施文。内面平滑なナデ。	後期前集
第128回 PL. 95	縄文土器 深鉢	3区表土 体部破片		胎: 石英・輝石・片 岩・白色粒/良好/明 黃褐色	薄手の器厚を呈す。弦線で画された施文部と磨消部による重幾何学構成。施文部施文はL.R充填施文。内面平滑なナデ。	後期前集
第128回 PL. 95	縄文土器 深鉢	2区表土 体部破片		胎: 石英・輝石・片 岩・白色粒/良好/白 褐色	体部下平。2条の弦線に画された施文部と磨消部交互配列による重幾何学構成。施文部施文はL.R充填施文。内面平滑なナデ。	後期前集
第128回 PL. 95	縄文土器 深鉢	3区表土 体部破片		胎: 石英・輝石・片 岩・白色粒/良好/明 黃褐色	体部下平。2条の弦線に画された施文部と磨消部交互配列による重幾何学構成。施文部施文はL.R充填施文。内面平滑なナデ。	後期前集
第128回 PL. 95	縄文土器 深鉢	2区表土 上半破片		胎: 石英・片岩・白 色粒/良好/黑褐色	あるいは大型の注口部器皿か。底部で横位弦線以下横位弦線2条の間を横位L.Rを充填し横位8字状貼付文を付す。内面ナデ調整ながら若干の凹凸を見る。	後期前集

種 団 PL. №	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎工/燒成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第12884 PL. 95	109 瓢文土器 注口土器	2区表土 体部破片		胎:石英・輝石・白色 色砂/良好/灰褐色	肩部か、強く内側に横位沈線以下弧状沈線で両側に区画 され、底面に縦刻文が施される。内面横位削り調整。	後期前葉
第12884 PL. 95	110 瓢文土器 深鉢	2区表土 底部破片	底 (8.0)	胎:石英・輝石・白色砂/良好/にぶい 橙色	底部端部端部に張り出し反対気味に直立する体部下半。内外面とも平滑なナデ調整。底面削除残る。	後期前葉
第12884 PL. 95	111 瓢文土器 深鉢	1区表土 体部下半1/2~ 底部残存	底 6.8	胎:石英・輝石・良 好/にぶい黄褐色	底部端部端部に張り出し直立気味に聞く体部下半。内外面とも平滑なナデ調整。底面削除残る。	後期前葉
第12884 PL. 95	112 瓢文土器 深鉢	2区表土 口縁部破片		胎:石英・輝石少 白砂/良好/灰褐色	口縫部に7条の横位沈線群を設ける。口縫部内面も沈線を施す。内外面とも研磨を加える。	後期中葉
第12884 PL. 95	113 瓢文土器 深鉢	2区表土 口縁部破片		胎:石英・輝石・白 色砂/良好/にぶい 黄褐色	口縫部内面に横位沈線2条を設ける。外面は無文で内外面とも研磨を施す。	後期中葉
第12884 PL. 95	114 瓢文土器 深鉢	1区表土 口縁部破片		胎:石英・白色砂/ 堅膜/にぶい黄褐色	筒状の器形か。口縫部端部に沈線と深い刻みを施し、内面も横位沈線4条が巡る。外面は横位LRを施す。内面は訛を持つ研磨を加える。	後期中葉
第12884 PL. 95	115 瓢文土器 注口土器	2区表土 体部破片		胎:輝石少/良好/ 灰黄褐色	体部上半か、横位沈線群に刻みを加え、沈線による履位S字状意匠が重なる。内面弱いナデ調整。	後期中葉
第12884 PL. 95	116 瓢文土器 鉢	1区表土 口縁部破片		胎:石英・白色砂/ 良好/明褐色	口縫部横に隙縫で両側に弧状切付文を付す。下端に削突文を施し弧状沈線が派生する。隙縫上にL.R.、隙縫に沈線を施す。内面横位研磨。	後期中葉
第12884 PL. 95	117 瓢文土器 注口土器	2区表土 注口部のみ残存		胎:輝石多/白色砂/ 良好/にぶい黄褐色	注口部基部に沈線を施し、下面は沈線による小格円状意匠を配す。窓内は無節しを施す。	後期中葉
第12884 PL. 95	118 瓢文土器 深鉢	2区表土 口縁部破片		胎:輝石・白色砂/ 良好/灰黄褐色	口縫部端部頭状をなす。体部上半に横位沈線2条を施し、底部に横位沈線を充填する。内面平滑なナデ調整。	後期中葉
第12884 PL. 95	119 瓢文土器 鉢	2区表土 底部破片	底 (9.0)	胎:輝石・白色砂/ 良好/にぶい黄褐色	厚手で強く開く体部下半。底部に横位沈線を設け土台に沈線により組み状弧状線文が配される。窓文は横位LR。底部削除残る。内面研磨。	後期中葉
第12884 PL. 95	121 上製品 土製円盤	2区表土 完形	径 2.3 厚 0.9 径 2.3 重 5.1	胎:石英・輝石・白 色砂/やや軟質に ふい黄褐色	体部破片の再利用か。小型で周縁を丁寧に研磨する。外面は無文、器面磨滅する。	後期前葉
第12884 PL. 95	122 上製品 土製円盤	2区表土 完形	径 3.9 厚 1.0 径 3.8 重 21.7	胎:石英・輝石・白 色砂/良好/明赤褐色	深鉢体部破片の再利用。周縁は弱い研磨を加える。外面無文でナデ調整。	後期前葉
第12984 PL. 96	123 石製品 垂飾り	完形	長 3.3 厚 0.6 幅 2.3 重 7.2	硬質泥岩	未完成品? 楕円形偏平鐸を表裏両面が平坦になるまで研磨整形。周縁部は弱い研磨。表裏両面に先端の尖った錐による径6~7mm、深さ2.5~3mmの回転による凹みがあるが、貫通していない。	
第12984 PL. 96	124 古鏡 銅古鏡	1区埋土 完形	外 2.460 厚 0.159 内 1.877 重 3.2		面の形が鋭く文字、輪、郭は明瞭。背の輪、郭は明瞭。	祥符通寶
第12984 PL. 96	125 古鏡 銅古鏡	1区埋土 完形	外 2.196 厚 0.151 内 1.836 重 2.5		面、背とともに、文字、輪、郭が明瞭。面の輪がやや右にずれる。背は輪、郭が左下にずれる。	至元通寶
第12984 PL. 96	126 古鏡 銅古鏡	1区埋土 完形	外 2.489 厚 0.120 内 2.011 重 2.3		面、背とともに、文字、輪、郭が明瞭。	銘認めず
第12984 PL. 96	127 古鏡 不明銅古鏡	1区埋土 1/2残存	厚 0.172 重 1.5		右に「豐」の字が見られるため元豐通寶と判断した。行書体。文字が一部剥離している。	半分遺存

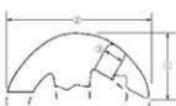
金属器部位の計測位置図

金属器部位の計測位置図

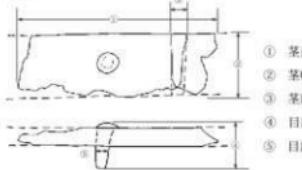
耳環



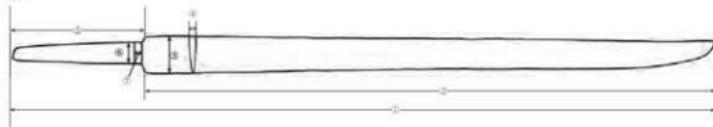
鐔



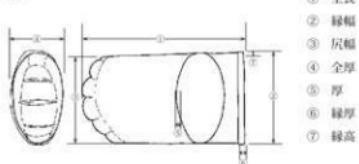
刀莖部



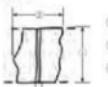
直刀



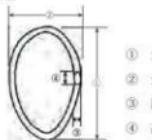
鞆



板状品



鍔



長頭片刃鎗

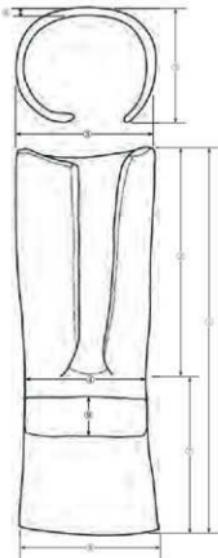


- ① 全長
- ② 刃長
- ③ 刃幅
- ④ 刃厚
- ⑤ 頭長
- ⑥ 頭幅
- ⑦ 頭厚
- ⑧ 縁間幅
- ⑨ 縁間厚
- ⑩ 茎長
- ⑪ 茎幅
- ⑫ 茎厚

長頭柳葉(長三角形)鎗



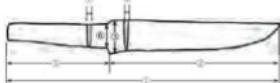
有袋無肩斧



- ① 全長
- ② 袋部長
- ③ 袋部幅
- ④ 刃元幅
- ⑤ 袋部全厚
- ⑥ 袋部厚
- ⑦ 刃長
- ⑧ 刃幅
- ⑨ 刃元厚

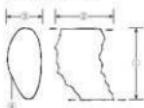
金属器部位の計測位置図

刀子



- ① 全長
- ② 刃長
- ③ 刃元幅
- ④ 刃元厚
- ⑤ 基長
- ⑥ 基元幅
- ⑦ 基元厚

銅製小型装具



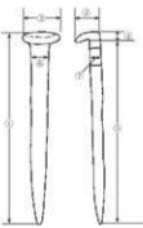
- ① 長
- ② 幅
- ③ 環全厚
- ④ 環厚

針状工具



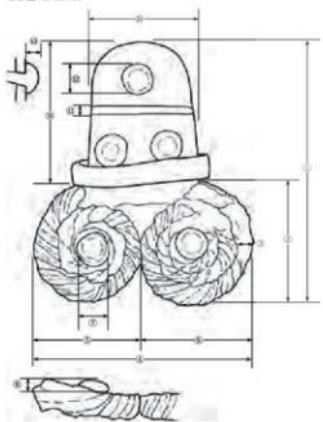
- ① 長
- ② 幅
- ③ 厚

釘



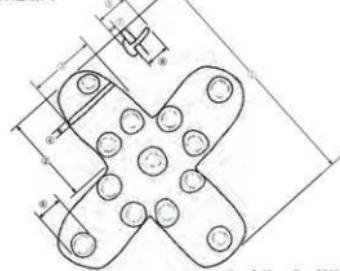
- ① 全長
- ② 頭長
- ③ 頭幅
- ④ 頭厚
- ⑤ 基長
- ⑥ 基元幅
- ⑦ 基元厚

溝巻形杏葉



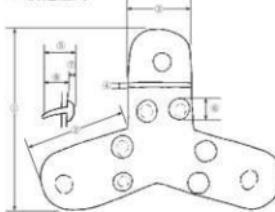
- ① 全長
- ② 溝巻長
- ③ 溝巻厚
- ④ 溝巻全幅
- ⑤ 溝巻左幅
- ⑥ 溝巻右幅
- ⑦ 溝巻中央飾頭茎
- ⑧ 溝巻中央飾頭高
- ⑨ 立開長
- ⑩ 立開幅
- ⑪ 立開厚
- ⑫ 立開頭径
- ⑬ 立開頭高

四脚辻金具



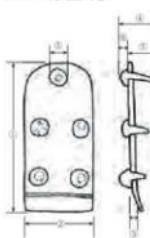
- ① 全長
- ② 脚長
- ③ 脚幅
- ④ 脚高
- ⑤ 銀長
- ⑥ 銀頭径
- ⑦ 銀頭高
- ⑧ 銀茎長

三脚辻金具



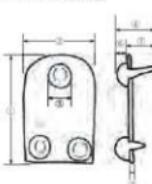
- ① 全長
- ② 脚長
- ③ 脚幅
- ④ 脚高
- ⑤ 銀長
- ⑥ 銀頭径
- ⑦ 銀頭高
- ⑧ 銀茎長

コハゼ形金具①



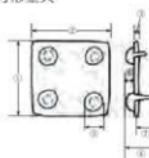
- ① 長
- ② 幅
- ③ 厚
- ④ 銀長
- ⑤ 銀頭径
- ⑥ 銀頭高
- ⑦ 銀茎長

コハゼ形金具②



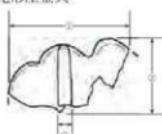
- ① 長
- ② 幅
- ③ 厚
- ④ 銀長
- ⑤ 銀頭径
- ⑥ 銀頭高
- ⑦ 銀茎長

方形金具



- ① 長
- ② 幅
- ③ 厚
- ④ 銀長
- ⑤ 銀頭径
- ⑥ 銀頭高
- ⑦ 銀茎長

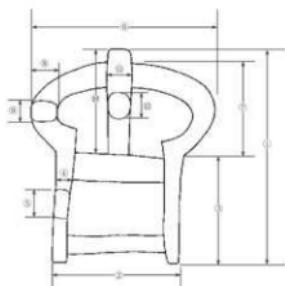
花形座金具



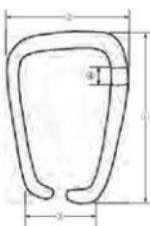
- ① 長
- ② 幅
- ③ 厚

## 金属器部位の計測位置図

絞具



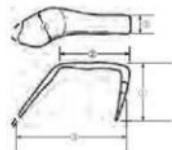
絞具



絞具

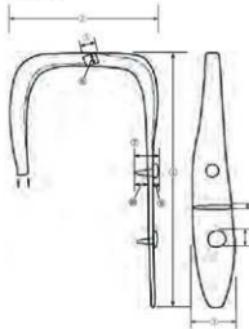


留金具



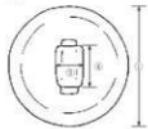
- ① Foot length
- ② Back width
- ③ Foot width
- ④ Back width
- ⑤ Foot thickness

鍍吊金具

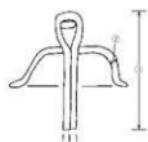


- ① Total length
- ② Width
- ③ Foot length
- ④ Foot thickness
- ⑤ Foot width
- ⑥ Hand width
- ⑦ Length
- ⑧ Neck width
- ⑨ Neck height
- ⑩ Neck length

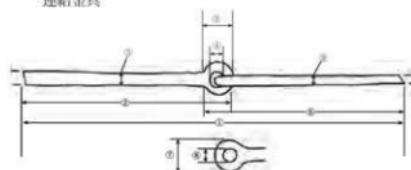
軸



- ① Seat pin diameter
- ② Seat pin thickness
- ③ Length
- ④ Width
- ⑤ Thickness

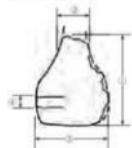


連結金具



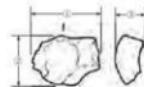
- ① Length
- ② Renshūkinuki ① length
- ③ Renshūkinuki ① inner diameter
- ④ Renshūkinuki ① thickness
- ⑤ Renshūkinuki ② length
- ⑥ Renshūkinuki ② inner diameter
- ⑦ Renshūkinuki ② thickness

先広形板状品



- ① Length
- ② Top width
- ③ Bottom width
- ④ Thickness

鉄滓



- ① Length
- ② Width
- ③ Thickness

## 金属器観察表

1号墳

神岡% PL. No	No	種類器種	出土位置	法量											觀察内容	
				(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)		
第20回 PL. 69	31	小型銅地縦型 耳環	埋土	2.6	2.4	0.4	0.4									中型で、縫身の銅製耳環。 金・銀の数値が少量出ている。
第20回 PL. 69	32	銅地金メッキ 耳環	漢室南部 埋土	2.9	2.7	0.7	0.7									大型で、銅地に鍍金り、上 から金のミッキををしている と想定。
第20回 PL. 69	33	直刀 2本? 中 折れ?	埋土	56.0+	45.3+	2.6+	0.5	(10.2)	2.1	0.5						折りたたまれているような 状況で2つに分かれてい る。直刀の茎の先端が欠失 しているものと刃部の一部 が残る。茎の闊は少し段差 になっている可能性が高い 。表様の個体が同一個体 である。
第20回 PL. 69	34	直刀茎片	玄室北部 埋土	6.2	1.9+	0.5	1.3	0.5								直刀茎片。直刀茎中央部。 目釘が1つある。棒の方が 少し厚みがある。
第20回 PL. 69	35	跨片	玄室北部 埋土	1.7+	4.5+	0.5										直刀跨片。窓の裏は破片の ため不明。
第20回 PL. 69	36	直刀刃片	玄室北部 埋土	6.3+	1.7+	0.6										直刀刃部片。平造で刃彫が 進んでいる。
第20回 PL. 69	37	刀子莖 (目釘孔有)	玄室北部 埋土	6.3+	0.7+	1.2+	0.3+	5.5	1.0	0.4						刀子莖片。一部刃彫部遺存。 柄端に目釘あり。莖柄端 は円形状を呈する。柄部木 質が一部付着。
第20回 PL. 69	38	長頭柳葉形鱗 刃・頭片	玄室中央部 埋土 床面上9cm	10.4+	1.7	0.9	0.3	6.6	0.4	0.3			1.8+	0.35	0.25	長頭柳葉形鱗。莖部端欠損。 棘状闊欠損。
第20回 PL. 69	39	長頭柳葉形鱗 刃・頭片	玄室北西壁際 埋土	6.3+	3.6+	0.9	0.2	2.7+	0.8	0.25						長頭柳葉形鱗刃部・頭部片。 刃部は片丸造である。刃闊 は角闊で、全体に薄手である。
第20回 PL. 69	40	長頭柳葉形鱗 刃・頭片	玄室北西壁際 埋土	4.0+	1.2+	1.0	0.2	2.8+	0.9	0.2						長頭柳葉形鱗。刃闊は直闊 である。片丸造。やや内側 に湾曲している。故意に曲 げたか? 結が内側から破裂 している。
第20回 PL. 69	41	長頭柳葉形鱗 刃片	玄室北西壁際 埋土	5.1+	1.9	1.0	0.2	3.2	0.65	0.3						長頭柳葉形鱗。刃先と頭部 下部は欠損。刃闊は斜闊か。 片丸造。
第20回 PL. 69	42	長頭柳葉形鱗 刃片	玄室北西壁際 埋土	3.0+	2.0+	0.9	0.15	1.0+	0.55	0.35						長頭柳葉形鱗。刃闊は斜闊か。 片丸造。
第20回 PL. 69	43	長頭柳葉形鱗 刃片	玄室北西壁際 埋土	2.6+	2.6+	0.8	0.15									長頭柳葉形鱗の刃部破片。 薄手丸造りである。
第20回 PL. 69	44	長頭長柳葉形 鱗片	玄室北西壁際 埋土	2.1+	2.1+	0.9	0.1									長頭柳葉形鱗の刃部破片。 薄手丸造りである。
第20回 PL. 70	45	長頭柳葉形 鱗片	玄室北西部 埋土	5.9+	1.8	0.6	0.2	4.1+	0.4	0.25						長頭片刃部・頭部片。刃 闊は斜闊である。
第20回 PL. 70	46	長頭片刃片	玄室北西部 部。刀子刃部 埋土	3.5+	2.9	0.7	0.1	0.6	0.6	0.1						長頭片刃部・頭部片。刃 部が長い。片丸造の可能性高 い。
第20回 PL. 70	47	長頭柳葉形鱗 刃・頭片	玄室北西壁際 埋土	3.2+	1.9	0.8	0.25	1.3+	0.8	0.3						長頭片刃部・頭部片。 刃部は片丸に近い 造り。刃闊は斜め闊で、刃部 刃薄手丸造り。
第20回 PL. 70	48	平根長三角形 鱗刃・茎片	埋土	4.0+	1.9+	2.6	0.2	2.1+	0.7	0.3						平根有頭長三角形鱗の刃・ 頭部片。刃の上部、茎が欠 損。刃闊は斜め闊で、刃部 刃薄手丸造り。
第21回 PL. 70	49	長頭櫛頭・茎 片	玄室北西壁際 埋土	5.2+				5.2+	0.6	0.5	1.0	0.5				長頭櫛頭・頭部片。棘状闊が 明顯に残る。
第21回 PL. 70	50	長頭櫛頭・茎 片	玄室北西壁際 埋土	7.2				4.1+	0.6	0.3	0.8	0.3	3.1	0.5	0.3	長頭櫛頭・茎部片。茎はほ ぼ完存。單頭に棘状闊が分 離。頭部上半部欠損。植物 繊維の糸巻きが茎に少し観 察できる。
第21回 PL. 70	51	長頭櫛頭・茎 片	玄室北西壁際 埋土	3.5+				2.5+	0.6	0.5	1.2	0.55	0.6+	0.6	0.5+	長頭櫛頭・頭身闊・茎部片。 棘状闊が明顯に残る。

## 金属器觀察表

種図No PL. No.	No	種類器種	出土位置	法量											觀察内容		
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪			
第21回 PL. 70	52	長頸蟲頭・茎片	玄室中央部 埋土面上6cm	4.2+			2.6+	0.8	0.4			1.5+	0.7	0.4		長頸の頸部と茎部。一部本質遺存。	
第21回 PL. 70	53	長頸蟲頭・茎片	玄室北西壁 埋土上	5.2+			2.1+	0.5	0.3	0.9	0.25	0.3	0.4	0.3		長頸蟲頭・茎片。茎は完存。明瞭な縫状闊がある。頭部上半部欠損。	
第21回 PL. 70	54	長頸蟲頭・茎片	玄室北西壁 埋土上	4.2+			0.3+			0.75	0.3	3.9+	0.45	0.3		長頸蟲頭・茎部片。明瞭な縫状闊を有する。	
第21回 PL. 70	55	長頸蟲頭・茎片	玄室北部 埋土上	3.4+			1.0+	0.45	0.3	0.9	0.3	2.4+	0.4	0.2		長頸蟲頭・茎部片。明瞭な縫状闊を有する。	
第21回 PL. 70	56	長頸蟲頭片	北西壁込 埋土	3.0+			3.0+	0.65	0.4							長頸蟲の頭部片。	
第21回 PL. 70	57	蟲頭・茎片	理土	4.1+	0.6	0.4										長頸蟲の頭・茎片。	
第21回 PL. 70	58	長頸蟲茎片	埋土	4.3+								4.3+	0.5	0.4		長頸蟲の茎と推定。やや太めである。	
第21回 PL. 70	59	長頸蟲頭・茎片	玄室北西壁 埋土上	2.7+							0.75	0.4	2.6+	0.35	0.40		長頸蟲、蟲身間・茎部片。縫状闊がごく一部残る。
第21回 PL. 70	60	長頸蟲頭・茎片	玄室北西壁 埋土上	1.9+							0.85	0.40	1.7+	0.4	0.35		長頸蟲、蟲身間・茎部片。縫状闊がごく一部残る。
第21回 PL. 70	61	円弧状鐵製品 馬具?	埋土	3.8+	2.5+	0.1	0.4	0.6	0.1	0.3						円弧状を呈して、金箔を有する破片。3個残る。杏葉か鏡板の端片と推定する。金・銀の痕跡無し。	
第21回 PL. 70	62	小型釘片頭部	玄室北西壁 埋土上	2.0+	1.5+	0.4	0.3	0.6	0.6	0.2						小型釘片。頭部も一部残る。	

## 2号埴

種図No PL. No.	No	種類器種	出土位置	法量											觀察内容	
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪		
第27回 PL. 72	14	無柄袋斧	周溝内 埋土	11.9	7.0	4.3	3.9	3.4	0.2	4.9	4.4	1.5	0.5			無柄の袋柄斧。柄内部に有機質の遺存無し。刃先一部欠損。袋部一部歪んでいる。刃先に向かうやや幅広となる。
第27回 PL. 72	15	長頸長三角形 蟲身・頭片	墳丘内 埋土上	9.1+	3.3+	1.0	0.3			5.8+	0.5	0.3				長頸長三角形（柳葉）蟲。刃は長めで、ややふくらを有した後少し内湾して角間にいたる。蟲身側は不明。
第27回 PL. 72	16	刀子刃部	埋土	4.2+	4.2+	1.5	0.2									刀子の刃部分。鍔付着。剥落あり。
第27回 PL. 72	17	小型釘頭部?	理土	2.35+	0.1+	0.5+	0.1	2.1+	0.4	0.2						小型釘片。頭部も茎端部欠損。

## 5号埴

種図No PL. No.	No	種類器種	出土位置	法量											觀察内容	
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪		
第31回 PL. 72	8	蟲茎片?	理土	2.6+									2.6+	0.35	0.3	長頸蟲の茎片。茎両端部が欠失している。

## 7号埴

種図No PL. No.	No	種類器種	出土位置	法量											觀察内容	
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪		
第41回 PL. 73	41	柳葉形蟲	埋土	11.8	5.5	1.4	0.2	2.8	0.8	0.3	0.8	0.3	3.4	0.5	0.3	錐びがひどく、本体の推定困難。X線などから、短頸柳葉式と想定。刃部はやや跳めて、刃端部は直線状を停止。刃端部斜開と想定。刃の幅・厚みはあるまい。頭部もやはり薄手でない。
第41回 PL. 73	42	釘	埋土	6.1+	6.1+	0.6	0.5									棒状品。工具の礎片か？
第41回 PL. 73	43	板状品	埋土	5.7	3.1	0.2										板状品。右側面が尖っている。基部は少し厚みがある。

## 8号埴

種図No PL. No.	No	種類器種	出土位置	法量											觀察内容	
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪		
第56回 PL. 79	57	小型銅地銀張耳環	玄室南東部 床面上5cm	18	17	3.5	7.5									小形だが、高さのある副製耳環。銅地に銀を張っている。
第56回 PL. 79	58	小型銅地金 メッキ耳環	玄室南東部	18.5	16.5	0.4	0.5									小型の副製耳環。金メッキを施す。
第56回 PL. 79	59	小型銅地金 メッキ耳環	埋土	1.8	1.6	0.4	0.45									小型の副製耳環。金メッキを施す。

種類No Pl. No	No	種類器種	出土位置	法量										觀察内容		
				(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)			
第56図 Pl. 79	60	銅地金張耳環	玄室北西壁寄 床面下5cm	2.6	2.4	0.5	0.5								銅地に金張りしたと推定される耳環。縁銷が一部銅地から吹き出している。	
第56図 Pl. 79	61	銅地金張耳環	玄室北西壁寄 床面下3cm	26.0	23.5	0.5	0.5								銅地の上から金張りしたと推定される耳環。縁銷が一部銅地から吹き出している。	
第56図 Pl. 79	62	中空銅地金 メッキ耳環	北西裏込め 埋土	3.2	2.8	0.7	0.9	0.2							中空の銅地金メッキの耳環。大型で内凹な造りである。縁銷が各所に銅地から出てきている。	
第57図 Pl. 79	63	銀製鍔	東部裏込め 埋土	3.5	2.3	0.2	0.3								銀製の鍔。断面は内側が直線状で、外側は傾斜部のある五角形状である。	
第57図 Pl. 79	64	直刀	漢道北部 床面上4cm	16.6+16.6+	1.5+	0.35									短刀の刃部分。茎は欠損し、刃端部も欠損が多い。	
第57図 Pl. 79	65	銀製鞘尻金具	埋土	5.0	2.8	2.6	1.6	0.03	0.2	0.1					銀製の鞘尻金具。鞘尻部先端には4本の溝状の窪みをつけ蛙目状の装飾を施す。侧面から見ると真ん中が突出して上下が弧状を呈している。下部のほうが弧状の角度が豊で、深くまで戻る。断面は倒卵形で、厚みは極めて薄い。端部に鋲孔を入れ、その上に銀を被せているが折り込まれない。装飾大刀に伴う鞘尻である。	
第57図 Pl. 79	66	銀製片枝輪	玄室中央 埋土	2.1+	0.6+	0.02									銀製の薄板片。枝輪があり、組合している。刀の装具?	
第57図 Pl. 79	67	銀製片板状品	玄室中央 埋土	2.1+	1.0+	0.02									銀製の薄板片。板状を呈する。	
第57図 Pl. 79	68	鉄薄板片	埋土	1.7	1.5+	0.1									板状品。左右が欠失。	
第57図 Pl. 79	69	鉄薄板片	埋土	1.7	1.5+	0.1									板状品。左右が欠失。	
第57図 Pl. 79	70	長頭櫛刃部	玄室西部壁寄 埋土	2.55+	2.55+	0.8	0.2								長頭櫛葉形櫛刃部。長三角形で、片丸造りで撫闇である。	
第57図 Pl. 79	71	長頭櫛葉片?	片刃?	玄室西部壁寄 床面下6cm	5.0+	1.5	0.7	0.3	3.5+	0.6	0.4				長頭櫛葉形の刃・頭部の破片。片丸造りの刃部を持つ。薄手の工具の可能性もある。	
第57図 Pl. 79	72	長頭櫛葉	北部裏込め 埋土	5.2+	0.8	0.6	0.2	4.4+	0.6	0.4					長頭櫛葉形櫛。軸前に近い箇所で、刃部と頭部の境が撫闇状である。	
第57図 Pl. 79	73	長頭櫛頭部片	玄室西部壁寄 埋土	5.0+	0.4	0.8	0.2	4.6+	0.7	0.3					長頭櫛葉形櫛と推定する。頭部と刃部の一部が遺存する。刃闇は撫闇が一部確認できる。	
第57図 Pl. 79	74	長頭片刃櫛 刃・頭	玄室南西部 床直	5.7+	(1.9)	0.6	0.15	3.8+	0.4	0.3					長頭片刃櫛。片丸造りと推定。刃闇部ははっきりしないが、なだらかに移行するものと推定。刃部はやや長めである。	
第57図 Pl. 79	75	長頭片刃櫛 刃・頭	玄室南西部 壁寄 埋土	4.8+	2.5	0.8	0.3	2.1+	0.6	0.3					長頭片刃櫛。刃闇は斜め闇で、刃部がやや尖りくなりはじめている。片丸造りと推定。	
第57図 Pl. 79	76	長頭片刃櫛 刃・頭部	漢道北西部床面 上3cm	6.1+	2.0	0.75	0.25	4.15+	0.6	0.2					長頭片刃櫛。刃闇は斜め闇で、刃部がやや尖りくなりはじめている。片丸造りと推定する。	
第57図 Pl. 79	77	長頭片刃櫛 刃・頭部片	埋土	5.3+	1.6	0.7	0.2	3.7+	0.5	0.15					長頭片刃櫛。刃はふくらが斜め闇で終尾は圓頭まである。残存率1/2。	
第57図 Pl. 79	78	長頭片刃櫛	西部裏込め 埋土	13.3+	1.5+	0.7	0.2	8.2	0.6	0.3	1.0	0.3	2.0+	0.6	0.2	長頭片刃櫛の破片。刃闇の長さがある程度あり。刃闇は不明瞭で、なだらかに頭部に移行するものと推定。明瞭な棘状圓頭を周する。茎に本質とその上に樹皮巻が残る。
第57図 Pl. 79	79	長頭片刃櫛	玄室南西隅 床面下6cm	8.55+	1.5	0.7	0.3	7.0+	0.4	0.25					長頭片刃櫛の破片。刃闇は片丸造りでくらは弱い。刃部もやや上位に位置する。	
第57図 Pl. 79	80	長頭片刃櫛 刃部	玄室南西壁寄 床面下2cm	3.2+	1.7+	0.7	0.2	1.5+	0.7	0.2					長頭片刃櫛刃部破片。刃部は片丸造りでくらは弱い。刃部もやや上位に位置する。	

## 金属器観察表

種類No Pl. No	No	種類器種	出土位置	法量											観察内容		
				(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)			
第58回 Pl. 79	81	長頭片刃鑿・ 刃部	玄室北部 床面下5cm	2.5+	2.1	0.75	0.2	0.4	0.6	0.2						長頭片刃鑿の刃部分。一部 頭部も遺存。刃部が片丸造 であることを示す良好な 例。	
第58回 Pl. 79	82	長頭鑿頭・茎 部	玄室西部 床面下9cm	7.0+				6.1+	0.6	0.35	1.0	0.3	0.9+	0.5	0.4	長頭鑿頭・茎部。鍔状闊 が明瞭に残る。茎に木質、 樹皮巻遺存。	
第58回 Pl. 79	83	長頭鑿頭・茎 部	玄室南西隅 床面下4cm	8.9+				4.8+	0.4	0.3	0.7+	0.25	4.1+	0.35	0.25	長頭鑿頭・茎部。鍔状闊 が明瞭に残る。茎に木質、 樹皮巻遺存。	
第58回 Pl. 79	84	長頭鑿頭・茎 部	西部裏込め 埋土	7.7+				4.6+	0.4	0.35	0.75+	0.4	3.1+	0.4	0.4	長頭鑿頭・茎部。鍔状闊 が明瞭に残る。樹皮巻と木質が 基に一部残る。	
第58回 Pl. 79	85	長頭鑿頭・茎 部	漢道北西壁際 床面下4cm	6.9+				4.8+	0.45	0.3	0.9	0.3	1.9+	0.35	0.3	長頭鑿頭部・茎部。鍔状の 闊が明瞭に分かれる資料。	
第58回 Pl. 79	86	長頭鑿鍔側 片	玄室南西部 床面上3cm	6.5+				4.5+	0.4	0.25	0.8	0.25	1.9+	0.35	0.25	長頭鑿の頭・茎部。鍔状 闊が明瞭に残る。茎に樹皮 巻残る。	
第58回 Pl. 79	87	長頭鑿頭・茎 片	玄室南西壁際 床面下3cm	9.2+				4.2+	0.6	0.3	0.8	0.2	4.9+	0.4	0.3	長頭鑿頭・茎部。頭部 がやや細い。鍔状闊が先端部 が破損しながらも残る。	
第58回 Pl. 79	88	長頭鑿頭・茎 部	玄室南西壁際 床面下4cm	5.2+				4.3+	0.45	0.25	0.6+	0.2	0.8+	0.5	0.2	長頭鑿の頭・茎部。鍔状 闊が明瞭に残る。	
第58回 Pl. 79	89	長頭鑿頭・茎 片	玄室南西部 床面上1cm	6.5+				3.9+	0.4	0.3	0.85	0.2	2.7+	0.35	0.25	長頭鑿頭・茎部。鍔状闊 が明瞭に残る。茎に樹皮巻及 び木質付。	
第58回 Pl. 79	90	長頭鑿頭・茎 部	玄室南西隅 床面下3cm	8.4+				4.0+	0.45	0.3	0.8	0.25	4.4+	0.4	0.25	長頭鑿頭・茎部。鍔状闊 が明瞭に残る。茎に木質、 樹皮巻、植物繊維で茎半ば 下部に糸巻き遺存。	
第58回 Pl. 79	91	長頭鑿頭・茎 部	玄室南西部 床面下4cm	5.9+				4.1+	0.5	0.2	0.8	0.2	1.8+	0.35	0.2	長頭鑿頭・茎部。鍔状闊 が明瞭に残る。茎に木質、 樹皮巻遺存。	
第58回 Pl. 79	92	長頭鑿鍔側 片	玄室南西部 床面上3cm	5.2+				3.8+	0.5	0.4	0.9+	0.4	1.4+	0.5	0.4	長頭鑿頭・茎部。	
第58回 Pl. 79	93	長頭鑿頭・茎 埋土	玄室南西隅 埋土	7.3+				3.0+	0.5	0.35	0.8	0.4	4.3+	0.5	0.3	長頭鑿頭・茎部。鍔状闊 が明瞭に残る。	
第58回 Pl. 80	94	長頭鑿頭・茎 部	前部北壁 床面上4cm	4.9+				3.2+	0.35	0.3	0.8	0.3	1.6+	0.4	0.3	長頭鑿頭部・茎部。鍔状の 闊が明瞭に分かれる資料。	
第58回 Pl. 80	95	長頭鑿頭・茎 片	玄室西部壁際 床面上2cm	6.6+				2.9+	0.4	0.3	0.95+	0.2	3.7+	0.35	0.25	長頭鑿頭部・茎部。鍔状の 闊がよく分かれる資料。茎 に樹皮巻、木質付。	
第58回 Pl. 80	96	長頭鑿頭部 埋土	玄室西部 埋土	3.6+				2.8+	0.5	0.3	0.7	0.2	0.7	0.5	0.35	長頭鑿頭・茎部。鍔状闊 が残る。	
第58回 Pl. 80	97	長頭鑿頭・茎 埋土	理上	4.5+				2.6+	0.4	0.3	0.8	0.3	2.0+	0.35	0.3	長頭鑿頭・茎部。鍔状闊 が残る。	
第58回 Pl. 80	98	長頭鑿頭・茎 部	玄室南西隅 床面下7cm	6.6+				2.1+	0.8	0.5	0.9	0.5	4.5	0.9	0.5	長頭鑿の頭・一部と茎部で ある。鍔状闊が半壇に分か れる。茎に木質と樹皮巻が 確認できる。	
第58回 Pl. 80	99	長頭鑿頭・茎 部	理上	5.8+				1.8+	0.5	0.35	1.0+	0.35	4.0+	0.4	0.3	長頭鑿頭・茎部。鍔状闊 が良く残る。	
第58回 Pl. 80	100	長頭鑿頭・茎 部	理上	3.4+				2.1+	0.6	0.35	0.6+	0.35	1.3+	0.45	0.25	長頭鑿頭・頭・茎片。鍔状闊 が良く残る。	
第58回 Pl. 80	101	長頭鑿頭・茎 部	玄室西部壁際 床面下1cm	3.7+				1.8+	0.4	0.3	0.9	0.3	1.9+	0.4	0.3	長頭鑿頭・頭・茎部。鍔状闊 が明瞭に残る。茎に木質、 樹皮巻遺存。	
第58回 Pl. 80	102	鑿頭・茎部	玄室西部壁際 床面下1cm	5.1+				1.7+	0.6	0.45	(1.0)	0.35	3.3+	0.4	0.3	長頭鑿頭の頭・茎部。鍔状闊 が先端部が破損しながら も残る。植物繊維が糸巻状 に巻かれている。	
第58回 Pl. 80	103	長頭鑿頭・茎 片	玄室南西部壁際 床面下3cm	3.7+				1.4+	0.55	0.4	0.9+	0.3	2.3+	0.4	0.28	長頭鑿頭・茎部片。鍔状闊 が明瞭に残る。茎に木質、 樹皮巻遺存。	
第58回 Pl. 80	104	長頭鑿頭・茎 部	玄室西部壁際 床面上2cm	6.1+				0.5+	0.4	0.35	0.8	0.35	5.6+	0.4	0.3	長頭鑿頭・茎部。鍔状闊 が明瞭に残る。茎に木質、 樹皮巻遺存。	
第58回 Pl. 80	105	鋏片	玄室北東壁際 床面上2cm	4.7+				0.2+				0.7	0.2	4.5	0.5	0.35	鋏頭・茎部。鍔状闊分 る。茎部は完存。

種別No PL. No	種類器種	出土位置	法量											觀察内容	
			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)		
第58回 PL. 80	106 長頸罐頭・茎 埋土	玄室西部 埋土	4.8+			1.8+	0.4	0.3	(0.8)	0.4	2.9	0.35	0.3	長頸罐頭・茎部片。縫状闊 が明瞭に残る。茎に木質、 樹皮巻遺存。	
第58回 PL. 80	107 長頸罐頭・茎 片	玄室西部 床面上 8cm	4.1+			1.8+	0.5	0.3	0.8+	0.3	2.3+	0.4	0.3	長頸罐頭・茎部片。縫状 の闊が分かれる資料。	
第58回 PL. 80	108 長頸罐頭・茎 埋土		3.4+			0.7+	0.65	0.4	0.8+	0.5	2.7+	0.5	0.4	長頸罐頭・茎部片。縫状闊 が明瞭に残る。	
第58回 PL. 80	109 長頸罐頭・茎 片	玄室西部壁寄 床面下 4cm	2.15+								2.15+	0.7	0.45	茎片。縫状闊の前部で折れ た茎片。樹皮巻が一部遺存。	
第59回 PL. 80	110 長頸罐頭	玄室西部壁厚 床面下 2cm	6.4+			6.4+	0.5	0.35						長頸罐頭部片。頭部の長さ を知る資料。	
第59回 PL. 80	111 長頸罐頭部	玄室西東部 床面上 2cm	5.3+			5.3+	0.5	0.35						長頸罐頭部片。開部は無し。	
第59回 PL. 80	112 長頸罐頭片?	埋土	4.2+			4.2+	5.0	3.5						長頸罐頭部片。頭部端部 が欠失。	
第59回 PL. 80	113 長頸罐頭	玄室南西壁寄 床面下 4cm	4.2+			4.2+	0.35	0.3	0.5+	0.3				長頸罐頭部片。縫状闊が残 る。	
第59回 PL. 80	114 長頸罐頭部	玄室南西部 床面上 6cm	4.1+			4.1+	0.3	0.25						長頸罐頭部片。	
第59回 PL. 80	115 長頸罐頭部	玄室南西壁寄 床面上 1cm	4.3+			4.3+	0.5	0.25						長頸罐頭部片。	
第59回 PL. 80	116 長頸罐頭部	玄室南西壁寄 床面下 2cm	3.6+			3.6+	4.5	0.2						長頸罐頭部片。	
第59回 PL. 80	117 茎・茎小片	埋土	2.8+							2.8+	0.4	0.3	0.3	茎片。樹皮巻が良好に残る。	
第59回 PL. 80	118 茎葉片	漢道北東壁寄 埋土	4.6+							4.6+	0.4	0.35	0.35	茎の茎片。植物組織の糸巻 きが残る。	
第59回 PL. 80	119 茎葉先片	不明								4.05+	0.35	0.35	0.35	長頸の茎。	
第59回 PL. 80	120 茎葉	玄室西部 床面上 2cm	5.2+							5.2+	0.5	0.4	0.4	長頸葉片。木質付着、上 部に樹皮巻の痕跡遺存。	
第59回 PL. 80	121 茎葉	玄室南西部 床面上 4cm													
第59回 PL. 80	122 茎葉先端	漢道北西壁寄 埋土	3.7+							3.7+	0.3	0.25	0.25	長頸葉の茎の先端部。植物 織維の糸巻きが良好に見え る。	
第59回 PL. 80	123 茎葉片	玄室南西隅寄 埋土	2.1+							2.1+	0.35	0.3	0.3	茎葉片。植物組織の糸巻き が残り良。	
第59回 PL. 80	124 銅製小型装具	埋土	0.7	0.5+	0.35	0.02								刀子の銅製装具片と推定。 破損て、幅は不明。	
第59回 PL. 80	125 刀子片、刃部	埋土	3.2+	3.2+	0.9+	0.25								刀子刃部片。鋒と刃基部が 欠損。	
第59回 PL. 80	126 製装具付刀子 片	玄室南部 床底	2.5+	1.0+	1.4	0.5	1.5+	1.2	0.6	2.2	0.8	0.03		鋲装刀子の破片。鋲装具は 完存。刀子刃部と鋒・茎部の一部が遺 す。内闊である。鋲装具と鋲の薄板を加 工したもので県内では珍しい。	
第59回 PL. 80	127 直刀片、刃部	東部裏込め 埋土	6.8+	(4.0)	1.5	0.2	2.8+	1.0	0.2					刃部が太く、やや寸胴な形 態を有する。茎の一部が欠 損している。有機質の付着 無し。	
第59回 PL. 80	128 刀子茎部	玄室南部 床面上 4cm	5.0+				5.0+	0.9	0.6					刀子の茎部。真ん中より緩 やかなく字状に屈曲して いる。	
第59回 PL. 80	129 計?	玄室北部 埋土	2.4+	0.15										断面円形の径0.15mmの棒状 品。下部は尖っており針状 工具と推定する。	
第60回 PL. 80	130 溝巻形杏葉	玄室左袖 埋土	5.1	2.55	4.75	0.55	2.35	2.4	0.6	0.15	2.6	2.3	0.15	0.7	0.25
第60回 PL. 80	131 溝巻形杏葉	玄室左袖 埋土	5.5	2.6	(4.7)	0.5	2.35	2.35	0.6	0.4	2.75	2.1	0.1	0.7	0.35
第60回 PL. 81			コハゼ形の立闇の下部に2つの擬じりながらの溝巻文装飾が対になって立闇の下部が上に被せるようにして鍛接 されている。溝巻きは4重巻になっており、しかも擬じりを加えながら曲げている。立闇には、3つの鉤が打ち 込まれており、いずれも銀薄板を鉄頭に被せている。長3.0cm、幅0.45cm、厚み0.1cmの貴金属が留金具下部の2 鉤のすぐ下に配され、貴金属にも銀薄板が被せられている。立闇の裏側には有機質の遺存は無い。溝巻部中央 に飾筋があり、鉄頭前面に鉤が被せられている。												

## 金属器観察表

補助No Pl. No	No	種類器種	出土位置	法量										観察内容		
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩			
第60図 Pl. 81	132	溝巻形杏葉	玄室南西部 床面下7cm	5.4	2.3	0.45	4.4	2.2	2.2	0.7	0.2	3.1	2.1	0.1	0.65	立闇の下部がに被せるようにして鍛接されている。溝巻きは4重巻になっており、しかも捩じりを加えながら曲げている。立闇には、3つの筋が打ち込まれており、いつもも鋸薄板を鋸頭部に被せている。長2.85cm、幅0.45cm、厚み0.1cmの真金具下部の2筋のすぐ下に配され、真金具にも鋸薄板が被せられている。立闇の裏側には皮革と想定される有機質が遺存する。溝巻部中央に飾筋があり、鉄地前面に鉗が被せられている。
第61図 Pl. 81	133	溝巻形杏葉	玄室南西壁際 床面下5cm	5.4	2.45	0.35	5.1	2.35	2.35	0.65	0.2	2.9	2.4	0.1	0.7	0.3
第61図 Pl. 81	134	溝巻形杏葉	玄室南西隅 床面下7cm	5.3	2.6	4.8	2.6	2.25	0.4	0.95	0.3	2.65	2.35	0.1	0.7	0.35
第62図 Pl. 82	135	四脚辻金具片	玄室南西隅寄 床面下4cm	7.2	2.6	2.0	0.1	0.8	0.8	0.2	0.6					コハゼ形の立闇の下部に2つの捩じりながら溝巻状の装飾が対になって留金具の下部が上に被せるようにして鍛接されている。溝巻きは4重巻になっており、しかも捩じりを加えながら曲げている。立闇には、3つの筋が打ち込まれており、いつもも鋸薄板を鋸頭部に被せている。一部欠損している長1.25cm、幅0.45cm、厚み0.1cmの真金具が留金具下部の2筋のすぐ下に配され、真金具にも鋸薄板が被せられている。裏側は欠損している。留金具の裏側には有機質の付着無し。溝巻部中央に飾筋があり、鉄地前面に鉗が被せられている。
第62図 Pl. 82	136	四脚辻金具	玄室南西壁寄 床面下6cm	7.2	2.0	0.1	0.8	0.7	0.3							
第62図 Pl. 82	137	三脚辻金具、 1/2破損	玄室西部壁寄 床面下8cm	6.5	3.1	2.0	0.1	0.9	0.6	0.2	0.7					
第62図 Pl. 82	138	三脚辻金具片	玄室南西隅 床面下7cm	6.0	3.4	2.0	0.1	1.3	0.6	0.3	1.0					
第62図 Pl. 82	139	コハゼ形金具	玄室南西隅寄 床面下3cm	4.6	2.2	0.1	1.1	0.6	0.3	0.8						
第62図 Pl. 82	140	コハゼ形金具	西部込め 埋土	3.2	2.1	0.1	1.3	0.8	0.4	0.9						
第62図 Pl. 82	141	コハゼ形金具	玄室南西隅 埋土	3.0	2.1	0.1	0.9	0.6	0.3	0.6						
第62図 Pl. 82	142	コハゼ形金具	埋土	2.8	2.1	0.1	0.5	0.2	0.7	0.5						
第62図 Pl. 82	143	コハゼ形金具	不明	2.4	2.2	0.15	0.7	0.6	0.1	0.6						
第62図 Pl. 82	144	コハゼ形金具	不明	4.0	2.2	0.15	0.7	0.6	0.3	0.4	0.3					
第62図 Pl. 82	145	コハゼ形金具	玄室南西隅寄 埋土	3.3	2.15	0.15	0.5	0.15	0.3	0.2						
第63図 Pl. 82	146	コハゼ形金具	玄室南西隅 埋土	3.1	2.8	0.15	(0.8)	0.6	0.3	0.5	0.25					
第63図 Pl. 82	147	コハゼ形金具 小	玄室南西隅寄 床面下2cm	2.5+	1.3+	0.1	1.05	0.7	0.3	0.95						
第63図 Pl. 82	148	金具破片	埋土	1.75+	2.05+	0.1	0.3	0.5	0.2	0.1						
第63図 Pl. 82	149	金具破片	埋土	2.1+	2.05	0.1	0.8	0.6	0.2	0.6						

種類 PL. No.	No.	種類器種	出土位置	法量											観察内容	
				(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)		
第63回 PL. 82	150	金具	西部裏込め 理上	2.8+	2.4	0.1	0.4+	(0.6)	-	0.4						コハゼ形金具。コハゼ先端部付近遺存。頭1点確認できる。裏側に有機質痕跡あり。
第63回 PL. 82	151	金具片	理上	2.7+	1.45+	0.15	1.1	0.7	0.1	1.0						端部形態不明の金具片。残存率1/4。
第63回 PL. 82	152	方形金具	玄室南西壁寄 理上	2.4	2.4	0.1	0.8	0.5	0.3	0.5						方形留金具。完存。四隅に4個あり。頭がほんの一部鋸歯にして残る。
第63回 PL. 82	153	方形金具	西部裏込め 理上	2.4	2.4	0.2	0.9	0.6	0.3	0.6						方形金具。4隅に4個あり。頭頭部割れているものあり。頭が一部鋸歯に付着している。
第63回 PL. 82	154	コハゼ形金具?	玄室西部壁寄 理上	2.4	2.2	0.1	0.9	0.7	0.3	0.6						コハゼ形金具。1/4欠失。四隅に4個あるものと推定(実物は3個のみ残存)。頭の痕跡一部にある。
第63回 PL. 82	155	方形金具	西部裏込め 理上	2.4	2.4	0.1		(0.3+)		0.3+						方形金具。4隅に4個あると推定。1個は痕跡も不明。頭がごく一部に残存。鋸歯の痕跡なし。
第63回 PL. 82	156	絞具	埋土	2.4	3.8	2.0	0.5									絞具片。基部の片方が欠損している。
第63回 PL. 82	157	絞具	玄室南西壁寄 床面下5cm	2.4	3.2	(2.4)	0.6									絞具の一部欠損品。
第63回 PL. 83	158	絞具	玄室南西壁際 床面下2cm	2.4	3.8	2.7	0.7	1.0	5.5	2.6	0.8	0.65	3.6	0.7	0.6	絞具。完存品。頭部はかなり扁平幅円滑化している。基部も先端部へ向けて少し抉まる形態である。
第63回 PL. 83	159	大型絞具	玄室南西壁際 床面上2cm	2.4	4.0	3.2	0.6	0.9	5.8	2.8	0.8	0.8	4.0	0.8	0.7	絞具。完存品。頭部はかなり扁平幅円滑化している。軸部は、絞具基部に軸が入り込んでいる。
第63回 PL. 83	160	絞具	東部裏込め 理上	2.4	3.0	2.5	0.3									絞具。完存している。頭部で片方が直角に屈曲し、屈曲した先端部同士の間に空きを設ける。
第63回 PL. 83	161	絞具	西部裏込め 理上	2.4	3.1+		0.4									絞具片。165と近似。
第63回 PL. 83	162	絞具片	玄室南西壁寄 床面上1cm	2.4												絞具片。
第64回 PL. 83	163	鞍片	義道東部壁際 理上	3.2	0.1	4.5+	1.0	0.8								鞍片。変形激しい。
第64回 PL. 83	164	鞍片	埋土	3.3	0.1	2.8+	1.1	0.8								鞍。軸部残存良好。
第64回 PL. 83	165	金銅製連結金具	義道南部 理上	2.4	6.6+	0.9	0.4	0.35	6.0+	0.9	0.4	0.3				引手金具の連結部分。いずれも義地に銅薄板を貼り、金メッキをしたものである。(16)と同じ部品。馬具の一部か。
第64回 PL. 83	166	金銅製連結金具片	理上	2.4	0.3	(0.8)	0.2									金銅製の引手金具。義地に銅薄板を巻いて金メッキしている。馬具の一部とか?
第64回 PL. 83	167	留金具	理上	2.4	2.1	3.2	1.1	0.5	0.2							留金具。ほぼ完存。八の字形に開く。片方が幅広い。
第64回 PL. 83	168	留金具	理上	2.4	2.2	3.1+	1.0	0.4	0.2							留金具。先端欠損。八の字形に開く。片方が幅広い。
第64回 PL. 83	169	留金具片	埋土	2.4	2.1	2.4+	1.0+	0.4	0.2							留金具。先端欠損。八の字形に開く。片方が幅広い。
第64回 PL. 83	170	留金具片	埋土	2.4	2.1	2.9+	1.0+	0.3	0.2							留金具。八の字形に開く部分はほとんど欠損。片方が幅広い。
第64回 PL. 83	171	木製鉗金具	北西壁寄 理上	2.4	4.6	1.2	0.2	0.4	0.35	0.4	0.4	0.1	0.3			木製鉗金具と想定する。片方の頭部が欠損。コの字形で、脚部に2ヶ所を有する。
第64回 PL. 83	172	花卉形座金具	玄室南西壁寄 床面下4cm	2.4	1.9+	0.2										厚さ0.2cmの義地に花卉形の端部を表現したと想定した上に銀を施した花卉形座金具。
第64回 PL. 83	173	花卉形座金具	玄室南西壁寄 床面下4cm	2.4	3.1+	0.5										花卉形の義地に薄い銀板を貼っている。花卉形座金具。

## 金属器観察表

種図No PL No.	No	種類器種	出土位置	法量											観察内容	
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪		
第64図 PL.83	174	鉄地銀張真金具	埋土	2.4	0.5	0.3+										真金具片。鋸が貼り込まれている。
第64図 PL.83	175	留金具板状部片	埋土	2.2+	1.7+	0.1										板状品。厚さは0.1cmと薄い。留金具の一端破片か。
第64図 PL.83	176	長方形小板	埋土	3.3+	1.0	0.18										長方形の板状品。真中で少し波状の跡となり、径0.1cmの穿孔がある。新しい時代の製品の可能性あり。
第64図 PL.83	177	長方形小板	埋土	2.5+	1.0	0.22										長方形の板状品。波状になっている。176と同じ製品の可能性高い。
第64図 PL.83	178	鍔片	玄室西部壁寄 理上	2.3+	0.3	0.2										鍔片か?
第64図 PL.83	179	鍔	玄室南西壁寄 床面下2cm	4.75+	1.5	0.25	0.2									鍔片と推定。屈曲部の反対側が欠損。
第65図 PL.83	180	鉄津?	埋土	2.1	1.5	0.8										鉄津と想定される。
第64図 PL.83	181	刀装具。鞘口 金具か?	玄室西部 床面上2cm	3.5	2.1	0.1										幅広の弧状に屈曲する板状品。刀装具の破片の可能性あるが、ややカーブの角度が異なる。内面に有機質状の付着痕跡あり。
第65図 PL.83	182	棒板状品	玄室西部壁寄 床面下5cm	3.5+	0.45	0.35										棒板状品。上下端が欠損。
第65図 PL.83	183	棒板状品	玄室南西壁寄 床面下5cm	2.9+	0.4	0.18										棒板状品。上下端が欠損。
第65図 PL.83	184	小型釘?	埋土	3.95+	3.6+	0.35	0.3	0.5+	0.4	0.2						小型釘片。頭部一部遺存。茎の下部遺存。
第65図 PL.83	185	小型釘片	埋土	1.5+	1.3+	0.3	0.25	0.5	0.4	0.2						小型釘片。頭部一部欠損。茎端欠損。
第65図 PL.83	186	小型釘片	埋土	2.5+	2.1	0.25	0.25	0.4+	0.3	0.2						小型釘片。頭部一部欠損。茎端欠損。ゆるやかにくの字状に曲がっている。
第65図 PL.83	187	小型釘片	埋土	1.4+	0.3	0.4	0.2	1.3+	0.2	0.2						小型釘頭部。
第65図 PL.83	188	大型釘片	埋土	3.9+	0.75	1.1	0.4	3.5+	0.5	0.4						大型釘頭部。先端が消失。
第65図 PL.83	189	大型釘	羨道北西壁際 理上	5.2+	4.9+	0.45	0.3	0.9	0.9	0.3						大型釘。先端が消失。
第65図 PL.83	190	釘片・頭部	玄室北東部 床面下1cm	3.8+				3.8+	0.6	0.5						釘茎部片。
第65図 PL.83	191	大型釘頭・頭部	玄室西部壁寄 床面下2cm	3.75+	1.3	1.5	0.4	3.5+	0.9	0.5						釘片。釘頭部は幅が大きい。
第65図 PL.83	192	釘	西部裏込跡 理上	7.1	6.8	0.5	0.35	0.8	0.9	0.1						大型釘完存。木質等の付着無し。
第65図 PL.83	193	釘頭・頭部破片	北西裏込跡 理上	4.9+	4.6	0.6	0.4	0.75	1.15	0.2						大型釘破片。釘先部が欠損。木質遺存無し。
第65図 PL.83	194	釘	埋土	6.3+	0.7	0.6+	0.3	6.1	0.4	0.35						大型釘ほぼ完存。頭部一部欠損。茎先端部少し屈曲している。
第65図 PL.83	195	大型釘頭部片	埋土	2.7+			0.9		2.4	0.5	0.4					大型釘の破片。頭部がほぼ欠損。
第65図 PL.83	196	小型釘頭部片	埋土	1.2+	0.9+	0.5	0.3	0.7	0.6	0.3						小型釘の頭部と茎の一部。頭部が小さい。

## 1号形周溝墓

種図No PL No.	No	種類器種	出土位置	法量											観察内容	
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪		
第70図 PL.85	12	刀子茎片	墳丘内埋土	4.9+				4.9+	0.9	0.3						刀子の葉片。茎肩と茎元が欠損。本質が一部遺存する。

## 4号形

種図No PL No.	No	種類器種	出土位置	法量											観察内容	
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪		
第107図 PL.91	2	棒状品釘?	埋土	12.2+	0.7	0.6										上部がやや屈曲する棒状品。断面は方形である。下部先端部は尖っており、大型釘の可能性あり。
第107図 PL.91	3	棒板状品	中央部 床面上5cm	13.5	1.3	0.3										長方形の板状品。両端欠失断面はほぼ長方形。用途不明。

## 遺構外

第129図 PL.96	128	板状品	I区埋土	2.8+	0.9	2.2	0.3									凸状の形態。刃の表現無し。上端部欠損。厚みは一定である。板状。
----------------	-----	-----	------	------	-----	-----	-----	--	--	--	--	--	--	--	--	---------------------------------

標本No PL. No	No	種類器種	出土位置	法量										観察内容	
				(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)		
第12988 PL.96	129	刀子?	1区埋土	6.1+	1.2	0.3									刀子破片と推定。頭がひどく識別困難。刃部と想定できる面あり。
第12989 PL.96	130	鉄片	2区埋土	2.2	2.1	0.1									板状品。端部が屈曲している。
第12990 PL.96	131	鑿?	1区表土	8.9	1.0	1.0									鑿の可能性あり。先端が尖り、体部は四角柱状である。剥離が激しい。
第12991 PL.96	132	釘?	1区表土	3.7+	3.5+	0.6	0.3	0.9	0.8	0.1					大型の釘行。頭部と茎の上部遺存。
第12992 PL.96	133	釘?	3区表土	5.4+	5.4+	0.5	0.4								大型の釘行。茎の下部遺存。
第12993 PL.96	134	工具片	2区表土	7.0+	7.0+	0.5	0.4								棒状品。工具の破片か?
第12994 PL.96	135	板状品	2区表土	5.5	3.4	0.2									板状鉄片。右側面が波状の形態となる。左側面は少し弧状を呈する。

## 8号填小計測表(挿図第53~56図・PL.75~78)

1. 腹部小札 長66mm (66~67mm)。鍼孔3孔×2列

腹部最上段札頭部裏面にワタガミの織物痕跡があるもの

腹部小札頭部裏面に織物痕跡がないもの

2. 腰札長さ不詳の口字型腰札。下位の部分の札配置がわかる破片が1点ある。ほかに、中间の窪み部分の破片が少しある。

3. 草摺小札 長70mm-A (70~71mm)。鍼孔2孔×2列

4. 草摺腰札 長69mm-O。口字型腰札で、窪み部分の長さ23mm程度・鍼孔2孔×2列

5. 部位不明 長70mm-B (70~71mm)。鍼孔3孔×2列+中央1孔

6. 部位不明 長70mm-C (70~71mm)。鍼孔2孔×2列+中央1孔

図番号	部位	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	類
14	胸部	6.6	2.2	0.2	1
15	胸部	6.6	2.2	0.2	1
16	胸部	6.6	2.1	0.18	1
17	胸部	6.6	2.0	0.2	1
18	胸部	6.6	2.05	0.16	1
19	胸部	6.7	2.1	0.2	1
20	胸部	6.7	2.2	0.2	1
21	胸部	6.6	2.2	0.2	1
22	胸部	6.7	2.1	0.2	1
23	胸部	(6.3)	2.15	0.2	1
24	胸部	(6.9)	2.2	0.17	1
25	胸部	(3.3) (3.4)	2.15	0.16	1
26	胸部	(5.4)	2.1	0.2	1
27	胸部	(5.3)	2.2	0.2	1
28	胸部	(5.5)	2.1	0.17	1
29	胸部	(5.0)	2.15	0.23	1
30	胸部	(5.1)	2.3	0.2	1
31	腰札	(4.1)	2.2	0.2	2
32	腰札	(4.2)	2.1	0.18	2
33	腰札	(3.5)	2.1	0.2	2
34	腰札	(3.6)	2.1	0.2	2
35	腰札	(4.0)	2.2	0.16	2
36	腰札	(4.8)	2.1	0.2	2

図番号	部位	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	類
37	腰札	(3.2)	2.2	0.2	2
38	草摺	7.2	2.1	0.2	3
39	草摺	6.9	2.0	0.18	3
40	草摺	7.1	2.2	0.2	3
41	草摺	(7.1)	2.3	0.13	3
42	草摺	(6.1)	2.2	0.2	3
43	草摺腰札 (口字型腰札)	6.9	2.2	0.2	4
44	草摺腰札 (口字型腰札)	7.0	2.1	0.18	4
45	草摺腰札 (口字型腰札)	6.9	2.1	0.2	4
46	草摺腰札 (口字型腰札)	(4.5)	2.2	0.2	4
47	草摺腰札 (口字型腰札)	(4.3)	2.1	0.18	4
48	草摺腰札 (口字型腰札)	(5.1)	2.2	0.2	4
49	草摺腰札 (口字型腰札)	(3.8)	2.0	0.2	4
50	草摺腰札 (口字型腰札)	6.85	2.0	0.2	4
51	部位不明	6.9	2.2	0.23	5
52	部位不明	(4.7)	2.2	0.2	5
53	部位不明	(5.8)	2.1	0.2	5
54	部位不明	(3.6)	2.2	0.2	5
55	部位不明	(4.3)	2.05	0.2	5
56	部位不明	(3.0)	1.8	0.23	5

遺構一覧表

第4表 占墳一覧表

区	遺構名	グリッド	形状	範長(m)	周溝長(m)	幅・深さ(m)	輪方位	重複
1	1号墳	X= 30196 ~ 219 Y= -80578 ~ 592	円墳	南北 22.3		南北 2.00 6.95 1.35	N~87° E	
1	2号墳	X= 30187 ~ 195 Y= -80586 ~ 599	円墳か	—		4.07	1.61	—
1	3号墳	X= 30231 ~ 233 Y= -80574 ~ 576	円墳	—		—	—	—
2	5号墳	X= 30117 ~ 141 Y= -80604 ~ 621	円形	北~南 23.0	円周(37.5)	南北 3.40 北 1.30 0.50	1.21	— 2・4号方形周溝墓、3・4・6・8号溝
2	7号墳	X= 30145 ~ 174 Y= -80593 ~ 613	方形	北~南 27.8	東~西(12.3) 東~南(13.0) 北~東(16.5)	南北 4.95 4.80	1.89 0.93	— 9号溝、1・2号方形周溝墓、1・2号集石、17号土坑、62号ピット
3	8号墳	X= 30187 ~ 208 Y= -80631 ~ 644	不明	南北 (20.0)		6.00	0.97	— 1号方形周溝墓
2	10号墳	X= 30166 ~ 175 Y= -80591 ~ 595	不明	計測不能		北 6.70	—	

第5表 方形周溝墓一覧表

区	遺構名	グリッド	形状	範長(m)	幅(m)	深さ(m)	長軸方位	重複
3	1号方形周溝墓	X= 30188 ~ 200 Y= -80632 ~ 640	不明	北~南 11.00 東~北 (2.20)	1.87 1.12	0.74 0.87	N~25° E	1~3号堅穴建物
2	2号方形周溝墓	X= 30133 ~ 146 Y= -80603 ~ 614	方形	東~北 (6.00) 東~西 7.00 西~南 8.50 南~東 (4.00)	1.60 1.08 1.45 1.25	1.09 0.71 0.95 0.59	N~43° W	5・7号墳、3号溝、14号土坑、1号集石
2	3号方形周溝墓	X= 30170 ~ 175 Y= -80591 ~ 594	不明	南~北 (4.40) 東~西 (2.00)	1.32	0.56 0.44	N~31° E	7号墳
2	4号方形周溝墓	X= 30121 ~ 135 Y= -80609 ~ 620	方形	東~西 (8.50) 南~北 11.00 南~西 (3.00)	2.10 1.25 1.72	0.50 0.86 0.80	N~52° E	4号溝

第6表 溝一覧表

区	遺構名	グリッド	走行	長さ(m)	最大幅(m)	最小幅(m)	深さ(cm)	長軸方位	重複
2	3号溝	X= 30139 ~ 141 Y= -80608 ~ 614	西~東	(6.40)	0.95	0.70	10~41	N~76° W	5号墳、14号土坑、2号方形周溝墓
2	4号溝	X= 30123 ~ 125 Y= -80609 ~ 616	西~東	(7.35)	1.07	0.66	29~45	N~75° W	4号方形周溝墓、5号墳
1	5号溝	X= 30219 ~ 220 Y= -80577 ~ 581	西~東	(3.90)	1.33	0.80	28~34	N~83° W	
2	6号溝	X= 30114 ~ 120 Y= -80609 ~ 614	北西~南東	(8.10)	0.51	0.37	21~26	N~37° W	5号墳
2	7号溝	X= 30108 ~ 110 Y= -80616 ~ 620	西~東	(4.20)	0.86	0.56	23~34	N~75° E	
2	8号溝	X= 30111 ~ 118 Y= -80615 ~ 618	北~南	7.58	1.03	0.64	18~53	N~16° W	5号墳
2	9号溝	X= 30150 ~ 159 Y= -80599 ~ 602	北東~南西	9.64	0.30	0.21	11~16	N~23° E	7号墳
1	10号溝	X= 30205 ~ 212 Y= -80581 ~ 584	北~南~東	(8.05)	1.65	0.95	22~59	N~60° W N~11° E	7号堅穴建物
1	11号溝	X= 30187 ~ 189 Y= -80591 ~ 598	西~東	(7.17)	1.48	0.50	15~41	N~82° W	
1	12号溝	X= 30195 ~ 198 Y= -80592 ~ 596	北~南	(2.62)	1.56	1.00	39~47	N~21° W	

第7表 集石・遺物集中一覧表

区	遺構名	グリッド	長(m)	対(m)	長軸方位	重複
2	1号集石	X= 30142 ~ 146 Y= -80603 ~ 608	(5.01)	(3.12)	N~78° W	2号方形周溝墓、7号墳
2	2号集石	X= 30155 ~ 158 Y= -80602 ~ 605	(2.78)	2.43	N~81° W	7号墳
2	3号集石	X= 30161 ~ 165 Y= -80606 ~ 609	(3.75)	(3.35)	N~21° E	7号墳
2	4号集石	X= 30158 ~ 161 Y= -80605 ~ 609	3.73	2.88	N~65° W	7号墳
2	5号集石	X= 30149 ~ 156 Y= -80605 ~ 612	8.60	2.57	N~40° E	7号墳
2	6号集石	X= 30148 ~ 154 Y= -80599 ~ 607	6.70	6.52	N~66° W	7号墳
2	1号遺物集中	X= 30174 ~ 176	1.77	1.13	N~20° E	

第8表 穴穴建物一覧表

番号	通構名	タリット	重複	形状	規格(m)	長軸 短軸 深度	主軸方位	医床 深度	位置	堤岡(cm)	前壁(cm)	柱穴 規格(cm)	床下坑 規格(cm)	備考	No.
3 1号窓穴建物	X= 30198 ~ 203 Y= 80632 ~ 636	1号方形周溝渠、円形分 6号土坑			4.63 (3.50)	0.59 N-9°-E	(13.38)	中央	44 38 14		P 1 P 2 P 3 P 4 P 5 P 6	34 32 30 39 58 23	70 65 21 25 26 20	床下坑 規格(cm)	
3 2号窓穴建物	X= 30189 ~ 196 Y= 80636 ~ 642	1号方形周溝渠 桶形			4.98 (6.60)	0.67 N-49°-W	(18.52)	4号東	72 64 23		P 1 P 2 P 3 P 4 P 5 P 6	23 20 28 19 31 30	53 62 62 51 33 28	床下坑 規格(cm)	
3 3号窓穴建物	X= 30188 ~ 191 Y= 80633 ~ 638	9・10号土坑 不明			4.80 (7.93)	0.92 N-9°-W	(12.01)	中央	60 50 21		P 1 P 2 P 3 P 4 P 5 P 6	50 23 43 100 33 30	55 70 79 51 31 28	床下坑 規格(cm)	
2 4号窓穴建物	X= 30158 ~ 165 Y= 80605 ~ 610	15号土坑 桶形			6.50 (6.00)	0.13 N-38°-W	(20.09)	中央	104 90 48		P 1 P 2 P 3 P 4 P 5 P 6	60 47 38 37 52 40	29 25 26 29 42 25	床下坑 規格(cm)	
1 5号窓穴建物	X= 30216 ~ 221 Y= 80577 ~ 579	1号窓、5号溝 不明			6.04 (1.18)	0.35 N-18°-E	(3.94)	不明			P 1 P 2 P 3 P 4 P 5 P 6	40 (22) 35 30 25 (38)	50 38 30 24 28 1	床下坑 規格(cm)	

造構一覧表

通構名	グリッド	重複	形状	細則(m)		主軸方位	間質深度	g1		断面六		参考	柱穴	床下土坑
				長軸	短軸			位置	面積(m <sup>2</sup> )	規範(cm)	規範(cm)	No.	規範(cm)	No.
1 6号盤穴建物	X=30101~106	2号頃	鋼丸長方形	4.87	3.40	0.58	N=0°	(13.48) 01先北延 寄り	66	47	2			
1 7号盤穴建物	Y=86587~391	10号頃	鋼丸長方形	6.56	3.24	0.63	N=50°E	(11.88) 01先北延 寄り	56	43	6			
2 8号盤穴建物	Y=80381~386	10号頃	鋼丸長方形	5.37	6.55	0.10	N=0°	(23.96) 01先 (H18± B0)	100	95	21			
	X=30149~154											P 1	35	33
	Y=80602~607											P 2	38	35
												P 3	26	25
												P 4	40	38
												P 5	50	40
												P 6	48	45
												P 7	49	41
												P 8	38	33
												P 9	33	32
													19	19

第9表 土坑一覧表

区・面	遺構名	座標値	平面形状	規模(cm)			長軸方位	重複	備考
				長軸	短軸	深さ			
3区1面	1号土坑	X=30217~219	Y=80632	不整形	209	60	10	N=16°E	1号ピット
3区1面	2号土坑	X=30215~216	Y=80631~632	円形	138	130	29	N=74°W	
3区1面	3号土坑	X=30213~215	Y=80632~633	長円形	180	68	8	N=26°E	
欠番	4号土坑								
1区1面	5号土坑	X=30233~234	Y=80572~573	楕円形	104	95	43	N=42°W	
3区2面	6号土坑	X=30200	Y=80633~634	楕円形	99	48	82	N=87°W	1号堅穴建物
3区2面	7号土坑	X=30192~193	Y=80635	楕円形	119	78	78	N=2°E	
3区2面	8号土坑	X=30193~194	Y=80635~636	楕円形	145	101	66	N=6°E	36号ピット
3区2面	9号土坑	X=30190~191	Y=80633~634	不明	162	(121)	71	—	3号堅穴建物。 10号土坑
3区2面	10号土坑	X=30189~191	Y=80634~635	不明	153	(140)	37	N=60°E	3号堅穴建物。 9号土坑
欠番	11号土坑								3号堅穴建物に変更
3区2面	12号土坑	X=30192~193	Y=80633~634	楕円形	93	57	25	N=65°E	
2区1面	13号土坑	X=30143~144	Y=80613~614	楕円形か	(48)	55	48	N=22°E	14号土坑
2区1面	14号土坑	X=30139~145	Y=80610~615	楕円形か	(350)	436	94	N=75°W	2号方形周溝墓。 3号溝、13号土坑
2区1面	15号土坑	X=30159~160	Y=80606~608	楕円形	217	64	101	N=85°W	7号墳
2区1面	16号土坑	X=30174~177	Y=80592~593	楕円形	(257)	129	81	N=11°E	
2区1面	17号土坑	X=30168~169	Y=80601~602	円形	82	75	22	N=43°E	7号墳
欠番	18号土坑								8号堅穴建物に変更
2区2面	19号土坑	X=30155~156	Y=80598~599	円形	81	76	71	N=56°W	
1区2面	20号土坑	X=30205~206	Y=80587~588	楕円形	91	73	31	N=25°E	
1区2面	21号土坑	X=30189~192	Y=80592~594	楕円形か	(159)	204	37	N=78°W	
1区2面	22号土坑	X=30197~199	Y=80585~587	楕円形	223	207	58	N=51°E	105~106号ピット

第10表 ピット一覧表

区・面	遺構名	座標値	平面形状	規模(cm)			長軸方位	重複	備考
				長軸	短軸	深さ			
3区1面	1号ピット	X=30217	Y=80632~633	楕円形	53	38	5	N=89°W	1号土坑
2区1面	2号ピット	X=30170	Y=80600~601	楕円形	35	33	10	N=2°E	
2区1面	3号ピット	X=30171	Y=80602	楕円形	39	31	16	N=58°E	
2区1面	4号ピット	X=30171~172	Y=80604	楕円形	40	34	20	N=10°E	
2区1面	5号ピット	X=30172	Y=80604	円形			—		
2区1面	6号ピット	X=30173	Y=80601~602	楕円形	26	24	15	N=2°E	
2区1面	7号ピット	X=30173	Y=80602	円形	30	28	24	N=39°W	
2区1面	8号ピット	X=30173	Y=80602	楕円形	35	26	15	N=42°E	
2区1面	9号ピット	X=30173	Y=80603	楕円形	30	25	13	N=7°E	
3区1面	10号ピット	X=30207~208	Y=80635~636	楕円形	75	48	90	N=12°E	
3区1面	11号ピット	X=30207~208	Y=80637	楕円形	80	(30)	64	N=5°E	
3区2面	12号ピット	X=30207~208	Y=80633~634	楕円形	58	50	47	N=5°E	
3区2面	13号ピット	X=30198	Y=80634	楕円形	29	25	35	N=30°E	
欠番	14号ピット								1号堅穴建物P 6に変更
3区2面	15号ピット	X=30197	Y=80634	楕円形	28	26	18	N=3°W	16号ピット
3区2面	16号ピット	X=30197	Y=80634~635	不定形	49	40	33	N=55°E	15号ピット
3区2面	17号ピット	X=30197~198	Y=80635	楕円形	30	23	59	N=54°E	
3区2面	18号ピット	X=30197	Y=80635	楕円形	40	35	23	N=3°E	
3区2面	19号ピット	X=30196	Y=80635~636	円形	33	32	23	N=45°E	
3区2面	20号ピット	X=30196	Y=80635	円形	22	21	22	N=35°E	
3区2面	21号ピット	X=30195~196	Y=80635	円形	30	28	42	N=68°W	
3区2面	22号ピット	X=30195	Y=80635	円形	24	24	33	—	
3区2面	23号ピット	X=30194~195	Y=80635~636	楕円形	35	29	57	N=65°E	
3区2面	24号ピット	X=30194~195	Y=80635	楕円形	40	35	51	N=85°W	
3区2面	25号ピット	X=30194~195	Y=80634	楕円形	40	35	53	N=89°E	26号ピット
3区2面	26号ピット	X=30194~195	Y=80634	円形	42	39	25	N=39°E	25号ピット
3区2面	27号ピット	X=30194~195	Y=80633	楕円形	35	30	68	N=42°W	
3区2面	28号ピット	X=30194	Y=80634	円形	32	30	46	N=44°W	
3区2面	29号ピット	X=30194	Y=80633~634	円形	39	35	10	N=44°W	
3区2面	30号ピット	X=30194	Y=80635	楕円形	62	48	61	N=39°E	
3区2面	31号ピット	X=30194	Y=80636~637	楕円形	20	19	14	N=10°E	
3区2面	32号ピット	X=30194	Y=80636	楕円形	30	17	28	N=15°E	
3区2面	33号ピット	X=30193~194	Y=80636~637	楕円形	(37)	29	37	N=61°W	
3区2面	34号ピット	X=30194	Y=80636~637	楕円形	(26)	17	35	N=65°W	
3区2面	35号ピット	X=30195	Y=80633	楕円形	37	33	30	N=6°E	
3区2面	36号ピット	X=30193	Y=80636	円形	32	29	26	N=87°E	8号土坑
3区2面	37号ピット	X=30193	Y=80636	楕円形	37	31	14	N=0°	
3区2面	38号ピット	X=30192	Y=80636	円形	52	51	62	N=32°E	

造構一覧表

区・面	造構名	座標値	平面形状	規模(横 m)			長軸方位	重複	備考
				長軸	短軸	深さ			
3区2面 39号ビット	X-30194+195	Y-80636	楕円形	35	10	7	N-32°-E		
3区2面 40号ビット	X-30199	Y-80637	円形	30	29	37	N-73°-W		
3区2面 41号ビット	X-30198	Y-80638	楕円形	26	20	43	N-52°-W		
3区2面 42号ビット	X-30198+199	Y-80638+639	円形	32	30	31	N-0°		
3区2面 43号ビット	X-30198	Y-80638	楕円形	40	30	37	N-89°-E		
3区2面 44号ビット	X-30198+199	Y-80636	楕円形	47	25	33	N-6°-E		
3区2面 45号ビット	X-30197+198	Y-80637	楕円形	36	30	40	N-38°-W		
3区2面 46号ビット	X-30190	Y-80640	楕円形	35	33	55	N-9°-E		
欠番 47号ビット									2号型穴建物P 6に変更
欠番 48号ビット									3号型穴建物P 4に変更
欠番 49号ビット									3号型穴建物P 5に変更
3区2面 50号ビット	X-30190+191	Y-80640+641	楕円形	40	35	48	N-23°-E		
3区2面 51号ビット	X-30191	Y-80641	楕円形	40	26	41	N-75°-E		
3区2面 52号ビット	X-30189+190	Y-80642	楕円形	41	32	56	N-49°-W		
欠番 53号ビット									2号型穴建物P 5に変更
欠番 54号ビット									3号型穴建物P 2に変更
欠番 55号ビット									3号型穴建物P 3に変更
欠番 56号ビット									3号型穴建物P 1に変更
3区2面 57号ビット	X-30192	Y-80633+634	楕円形	35	30	51	N-47°-E		
2区1面 58号ビット	X-30132	Y-80614	円形	30	29	13	N-87°-W	4号填	
2区1面 59号ビット	X-30132	Y-80613+614	円形	25	23	44	N-47°-E	4号填	
2区1面 60号ビット	X-30131	Y-80614	円形	26	25	36	N-72°-W	4号填	
2区1面 61号ビット	X-30141	Y-80608	円形	45	40	9	N-74°-W		
2区1面 62号ビット	X-30168	Y-80600	楕円形	34	29	30	N-9°-W	7号填	
2区2面 63号ビット	X-30158	Y-80603	楕円形	30	20	34	N-46°-W		
2区2面 64号ビット	X-30155+156	Y-80604	円形	30	28	15	N-77°-W		
2区2面 65号ビット	X-30155	Y-80601	楕円形	39	33	19	N-67°-W		
欠番 66号ビット									8号型穴建物P 2に変更
欠番 67号ビット									8号型穴建物P 3に変更
欠番 68号ビット									8号型穴建物P 5に変更
欠番 69号ビット									8号型穴建物P 6に変更
欠番 70号ビット									8号型穴建物P 7に変更
欠番 71号ビット									8号型穴建物P 8に変更
2区2面 72号ビット									8号型穴建物P 8に変更
2区2面 73号ビット	X-30149	Y-80602+603	楕円形	42	40	24	N-70°-W		
欠番 74号ビット									8号型穴建物P 4に変更
2区2面 75号ビット	X-30153	Y-80609	円形	24	22	14	N-32°-E		
2区2面 76号ビット	X-30150	Y-80609	円形	28	25	30	N-79°-W		
欠番 77号ビット									8号型穴建物P 1に変更
欠番 78号ビット									8号型穴建物P 9に変更
2区2面 79号ビット	X-30150+151	Y-80611+612	不定形	54	39	30	N-83°-W		
1区2面 80号ビット	X-30195+196	Y-80586+587	楕円形	42	35	20	N-24°-E		
1区2面 81号ビット	X-30196	Y-80587	円形	26	25	13	N-15°-E		
1区2面 82号ビット	X-30196	Y-80587+588	円形	38	35	25	N-46°-W		
1区2面 83号ビット	X-30196+197	Y-80587+588	楕円形	43	38	31	N-44°-W		
1区2面 84号ビット	X-30196+197	Y-80588	円形	40	38	55	N-61°-W		
1区2面 85号ビット	X-30197	Y-80590	円形	39	40	29	N-65°-W		
1区2面 86号ビット	X-30197	Y-80589+590	円形	35	33	45	N-27°-E		
1区2面 87号ビット	X-30197+198	Y-80591	楕円形	43	35	33	N-55°-W		
1区2面 88号ビット	X-30197+198	Y-80591+592	楕円形	37	35	22	N-18°-W		
1区2面 89号ビット	X-30198	Y-80591+592	円形	33	32	31	N-14°-W		
1区2面 90号ビット	X-30197+198	Y-80592	円形	40	38	26	N-90°	12号溝	
1区2面 91号ビット	X-30198	Y-80592+593	楕円形	50	40	34	N-82°-E	12号溝	
1区2面 92号ビット	X-30219+220	Y-80580	楕円形	40	38	17	N-2°-W		
欠番 93号ビット									4号型穴建物P 11に変更
欠番 94号ビット									4号型穴建物P 12に変更
欠番 95号ビット									4号型穴建物P 9に変更
欠番 96号ビット									4号型穴建物P 13に変更
欠番 97号ビット									4号型穴建物P 14に変更
欠番 98号ビット									4号型穴建物P 10に変更
欠番 99号ビット									4号型穴建物P 15に変更
1区2面 100号ビット	X-30209	Y-80586+587	楕円形	45	35	48	N-22°-E		
1区2面 101号ビット	X-30208	Y-80587	円形	38	37	36	N-20°-W		
1区2面 102号ビット	X-30200	Y-80588	楕円形	37	21	44	N-50°-E		
1区2面 103号ビット	X-30200	Y-80586+587	楕円形	44	39	32	N-13°-W		
1区2面 104号ビット	X-30200	Y-80585	楕円形	50	40	67	N-23°-W		
1区2面 105号ビット	X-30198+199	Y-80586+587	楕円形	35	28	14	N-0°	22号土坑	
1区2面 106号ビット	X-30198	Y-80585	円形	35	33	15	N-0°	22号土坑	

# 写 真 図 版





1区1号墳石室(西から)



1区1号墳直刀出土状態(西から)



1区1号墳直刀出土状態(西から)



1区1号墳土層断面C-C'(南から)



1区1号墳土層断面A-A'(南から)



1区1号填石室床面全景(西から)



1区1号填石室全景(南から)



1区1号填石室全景(北から)



1区1号填全景(空撮 上が東)



1区1号填石室欄石全景(南から)



1区1号填石室欄石全景(南から)



1区1号填奥壁・側壁設定状況(東から)



1区1号填周堀石器出土状況(北から)



1区1号填石室全景(東から)



1区1号填石室全景(北から)



1区1号填石室全景(西から)



1区1号墳骨・鉄製品出土状態(東から)



1区1号墳長頭鎌(53)出土状態(東から)



1区1号墳白玉(20)出土状態(西から)



1区1号墳石棒(30)出土状態(南から)



1区1号墳石室全景(北から)



1区2号墳全景(北から)



1区2号墳全景(北から)



1区 2号填全景(空撮 上が南東)



1区 2号填全景(北から)



1区2号填全景(北から)



1区2号填北側周溝全景(北から)



1区2号墳全景(西から)



1区2号墳裏込め全景(西から)



1区2号墳全景(西から)



1区2号墳遺物出土状態(北から)



1区2号墳須恵器壺(8)出土状態(北から)



1区2号墳須恵器壺(7)出土状態(北から)



1区2号墳遺物出土状態(北から)



1区3号墳周縁全景(東から)



2区5号墳全景(北から)



2区5号填南周砾碟出土状況(東から)



2区5号填北周砾碟出土状況(北から)



2区5号填南周砾碟出土状況(南から)



2区5号填北周砾碟出土状況(西から)



2区5号填完掘全景(北から)



2区7号填南側検出(南から)



2区7号填南側浮石(南から)



2区7号填南側浮石(南から)



2区7号填填丘南側前凝灰岩(東から)



2区7号填填丘南側前凝灰岩(東から)



2区7号填填丘北側(東から)



2区7号填調査風景(北東から)



2区7号填調査風景(北から)



2区7号填北側葺石(北東から)



2区7号填北側葺石(北東から)



2区7号填埋地北側葺石(北から)



2区7号填埋地北側葺石(北から)



2区7号填埋地南側前凝灰岩(南から)



2区7号填埋地南側(南から)



2区7号填埋地南側(南から)



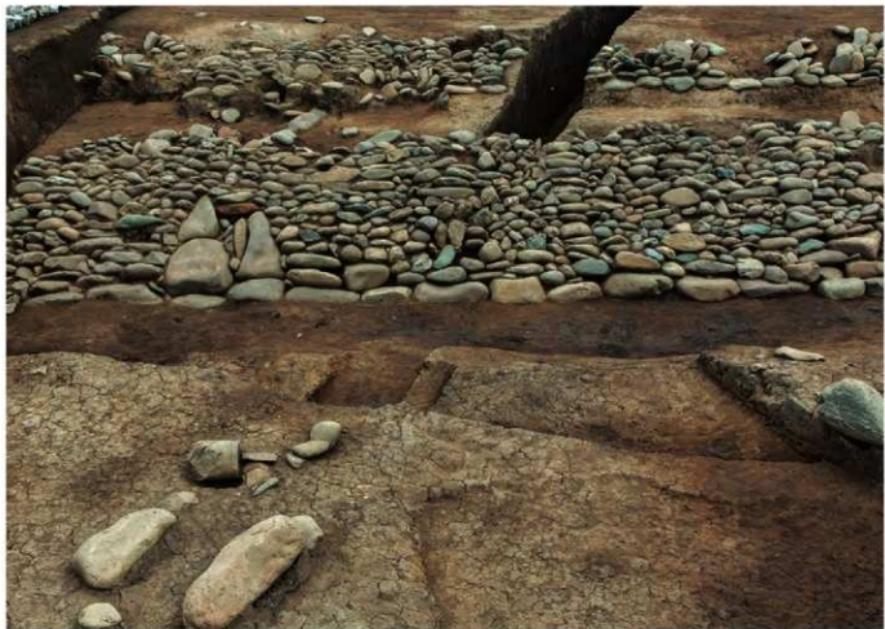
2区7号填埋地南側下層葺石(南から)



2区7号填埋地南側(南から)



2区7号填埋地南側前凝灰岩(南から)



2区7号墳埴丘南側(南から)



2区7号墳南半部断面A-A'(南西から)



2区7号填南面葺石状況(南から)



2区7号填南面区画列石状況(南から)



2区7号填南面区画列石状況(南から)



2区7号填南面区画列石状況(南から)



2区7号填南下出土石器(南から)



2区7号填填丘北側周溝遺物出土状態(北から)



2区7号填南下出土石器(南から)



2区7号填南下出土石器(南から)



2区7号填南下出土石器(南から)



2区7号填南下出土石器(南から)



2区7号填周溝内石錐(11)出土状態(北東から)



2区7号填周溝内石核(27)出土状態(北東から)



2区7号填南下砾器(30)出土状態(南から)



2区7号填南下石器出土状態(南から)



2区7号填南下石器出土状態(南から)



2区7号填南下石器出土状態(南から)



2区7号填填丘北側周溝土師器出土状態(北東から)



2区7号填填丘北側周溝土師器出土状態(北から)



2区7号填填丘北側周溝土師器出土状態(北から)



2区15号土坑(7号埴埴丘内陪葬)出土状態(東から)



2区15号土坑(7号埴埴丘内陪葬)出土状態(南から)



2区15号土坑石製模造品刀子形(2)出土状態(南から)



2区15号土坑石製模造品刀子形(2)出土状態(南から)



3区8号填石室全景(東から)



3区8号填石室全景(南東から)



3区8号填石室全景(東から)



3区8号填石室確認状況(北から)



3区8号填石室確認状況(南東から)



3区8号填石室確認状況(北から)



3区8号填石室確認状況(南から)



3区8号填土層断面D-D' (南東から)



3区8号填土層断面A-A' (南西から)



3区8号填土層断面B-B' (南から)



3区8号填土層断面C-C' (南から)



3区8号填土層断面A-A' (西から)



3区8号填土層断面B-B' (南から)



3区8号填土層断面B-B' (南から)



3区8号填土層断面C-C' (南から)



3区8号填周溝内葺石崩落状況(北から)



3区8号填周溝内葺石崩落状況(北から)



3区8号填周溝内葺石崩落状況(東から)



3区8号填土断面A-A'(西から)



3区8号填土断面A-A'(西から)



3区8号墳前庭・茂道(南西から)



3区8号墳前庭右側壁石積(東から)



3区8号填前庭土層断面A-A'(西から)



3区8号填前庭土層断面B-B'(南から)



3区8号填前庭下層土層断面F-F'(西から)



3区8号填前庭須恵器大甕(2)出土状態(東から)



3区8号填前庭須恵器大甕(2)出土状態(東から)



3区8号填前庭須恵器大甕(2)出土状態(東から)



3区8号填前庭須恵器大甕(2)出土状態(西から)



3区8号填前庭須恵器大甕(2)出土状態(西から)



3区8号墳前庭須恵器大甕(2)出土状態(東から)



3区8号墳前庭須恵器大甕(2)出土状態(東から)



3区8号墳前庭須恵器大甕(2)出土状態(東から)



3区8号墳前庭須恵器大甕(2)出土状態(東から)



3区8号墳前庭須恵器大甕(2)出土状態(東から)



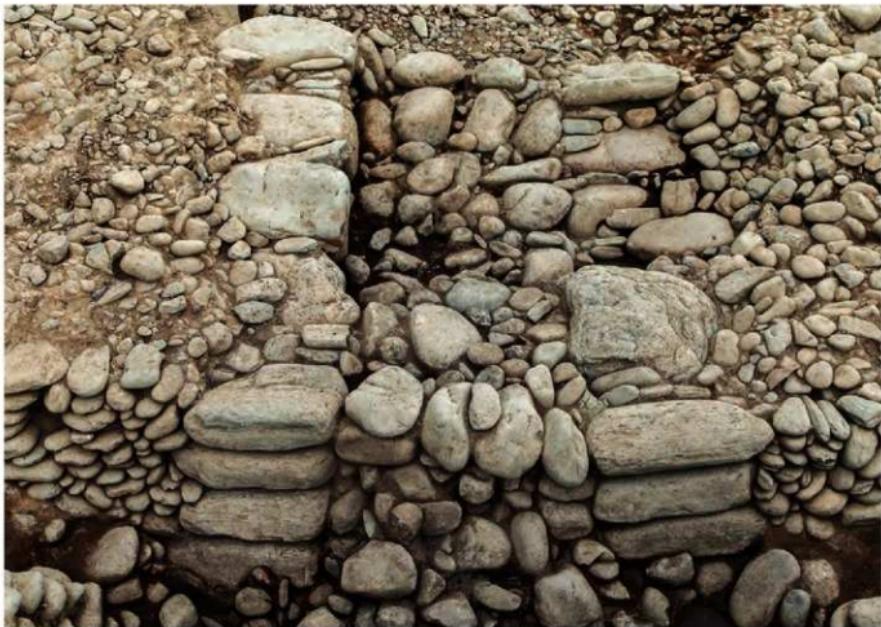
3区8号墳前庭小札(32)出土状態(東から)



3区8号墳前庭小札(33)出土状態(南から)



3区8号墳前庭頸甕(94)出土状態(南から)



3区8号填羨道閉塞石下部(南から)



3区8号填羨道左壁裏込め(東から)



3区8号填羨道右壁(東から)



3区8号填羨道断面K-K'(東から)



3区8号填羨道断面K-K'(東から)



3区8号填溝道石下断面C-C' (南から)



3区8号填溝道小札(39)出土状態(東から)



3区8号填溝道小札(44)出土状態(東から)



3区8号填溝道小札(51)出土状態(北から)



3区8号填溝道直刀(64)出土状態(南から)



3区8号填溝道長頭片为鍬(76)、長頭鍬(85)出土状態(東から)



3区8号填溝道葦茎片(118)出土状態(西から)



3区8号填溝道絞具(161)出土状態(北から)



3区8号填羡道礫片(163)出土状態(西から)



3区8号填羡道金銅製連結金具(165)出土状態(東から)



3区8号填羡道木製鎗吊金具(171)出土状態(東から)



3区8号填羡道釘(189)出土状態(西から)



3区8号填羡道全景(南から)



3区8号填羡道・前庭下層全景(南から)



3区8号填羡門西側石積状況(南から)



3区8号填玄室土層断面A~A'(西から)



3区8号填玄室西壁下石出土状況(西から)



3区8号填玄室石出土状態(東から)



3区8号填玄室出土須恵器甕(1)出土状態(東から)



3区8号填玄室遺物出土状態(東から)



3区8号填玄室骨出土状態(東から)



3区8号填玄室骨出土状態(東から)



3区8号填玄室小札出土状態(南から)



3区8号填玄室小札(16)出土状態(東から)



3区8号填玄室小札(19)出土状態(東から)



3区8号填小札(38)出土状態(北から)



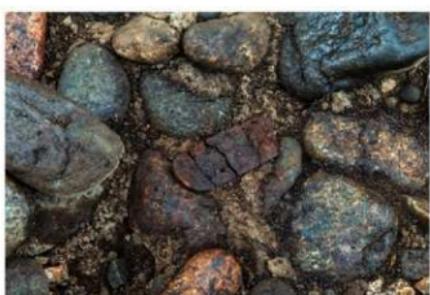
3区8号填玄室小札(40)出土状態(東から)



3区8号填玄室小札(41)出土状態(東から)



3区8号填玄室小札(43)出土状態(南から)



3区8号填玄室小札(46)出土状態(東から)



3区8号填玄室小札(47)出土状態(北東から)



3区8号填玄室小札(48)出土状態(南から)



3区8号填玄室小札(52)出土状態(東から)



3区8号填玄室耳環(57)出土状態(南から)



3区8号填玄室耳環(58)出土状態(東から)



3区8号填玄室耳環(60)、長頸片刃鏃(76)出土状態(東から)



3区8号填玄室耳環(61)出土状態(東から)



3区8号填玄室縫(179)出土状態(東から)



3区8号填玄室長頸片刃鏃(75)出土状態(東から)



3区8号填玄室長頭鏡(90)出土状態(東から)



3区8号填玄室鐵莖(122)出土状態(東から)



3区8号填玄室鐵莖(123)出土状態(東から)



3区8号填玄室長頭鏡(89)出土状態(東から)



3区8号填玄室長頭鏡出土状態(東から)



3区8号填玄室長頭鏡(95)出土状態(東から)



3区8号填玄室鐵器出土状態(東から)



3区8号填玄室長頭鏡(103)出土状態(東から)



3区8号填玄室釘(105)出土状態(南から)



3区8号填玄室長頸謫(111)出土状態(東から)



3区8号填玄室長頸謫(114)出土状態(東から)



3区8号填玄室長頸謫(115・116)出土状態(東から)



3区8号填玄室銀装具付刀子(126)出土状態(南から)



3区8号填玄室刀子(128)出土状態(東から)



3区8号填玄室四脚辻金具(136)出土状態(東から)



3区8号填玄室コハゼ形金具(141)出土状態(東から)



3区8号埴玄室花弁形座金具(173)出土状態(東から)



3区8号埴玄室刃装具(181)出土状態(東から)



3区8号埴玄室棒板状品(183)出土状態(東から)



3区8号埴玄室釘(190)出土状態(東から)



3区8号埴闭塞部正面(南から)



3区8号填閉塞部断面(東から)



3区8号填閉塞石断面(東から)



3区8号填渠道作業風景(南から)



3区8号填石室作業風景(南西から)



3区8号填玄室左壁裏込め断面D-D'(南から)



3区8号埴喰室右壁裏込め断面D-D'（南から）



3区8号埴喰道右壁裏込め断面C-C'（北から）



3区8号埴喰道左壁裏込め断面C-C'（北から）



3区8号埴喰室奥壁裏込め断面A-A'（西から）



3区8号埴喰室奥壁裏込め断面A-A'（西から）



3区8号墳奥壁裏込め被覆検出状況(東から)



3区8号墳裏込め小札(27)出土状態(東から)



3区8号墳裏込め小札(53)出土状態(南から)



3区8号墳裏込め銀製鋪(63)出土状態(東から)



3区8号墳裏込め刀鞘出土状態(北から)



3区8号墳掘り方土層断面B-B'（南から）



3区8号墳掘り方土層断面B-B'（南から）



3区8号墳掘り方土層断面B-B'（南から）



3区8号墳掘り方北側周堀石列（東から）



3区8号墳ベルト須恵器大甕(2)胸部破片出土状態(西から)



3区8号墳ベルト須恵器大甕(2)胸部破片出土状態(西から)



3区8号墳ベルト遺物出土状態(西から)



3区8号墳ベルト遺物出土状態(南から)



3区1号方形周溝墓西溝全景(北から)



3区1号方形周溝墓土層断面A-A'(南から)



3区1号方形周溝墓土層断面C-C'(北から)



3区1号方形周溝墓遺物出土状態(南から)



3区1号方形周溝墓石器壺(3)出土状態(東から)



3区1号方形周溝墓内1号土坑全景(東から)



2区2号方形周溝墓全景(西から)



2区2号方形周溝墓土層断面A-A'(南西から)



2区2号方形周溝墓遺物出土状態(北西から)



2区2号方形周溝墓土師器壺(2)出土状態(西から)



2区3号方形周溝墓全景(北から)



2区3号方形周溝墓土層断面A-A' (南西から)



2区3号方形周溝墓遺物出土状態(西から)



2区4号方形周溝墓全景(南西から)



2区4号方形周溝墓土層断面B-B' (北から)



2区4号方形周溝墓土層断面D-D' (南東から)



1区5号竪穴建物全景(西から)



1区5号竪穴建物土層断面A-A' (南から)



1区5号竪穴建物遺物出土状態(西から)



1区5号竪穴建物P1全景(西から)



1区6号竪穴建物全景(北から)



1区6号竪穴建物土層断面A-A'西側(南西から)



1区6号竪穴建物土層断面A-A'東側(南西から)



1区6号竪穴建物土層断面B-B'(北西から)



1区6号竪穴建物遺物出土状態(北東から)



1区6号竪穴建物遺物出土状態(北から)



1区6号竪穴建物炉全景(南から)



1区6号竪穴建物土層断面C-C'(西から)



1区 7号竖穴建物全景(北東から)



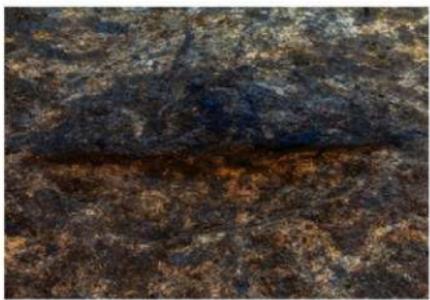
1区 7号竖穴建物遺物出土状態(南西から)



1区 7号竖穴建物弥生土器壺(8)出土状態(北西から)



1区 7号竖穴建物炭化物出土状態(北西から)



1区 7号竖穴建物炉土層断面 C-C' (南西から)



3区1号竪穴建物全景(北西から)



3区1号竪穴建物土層断面A-A'(北から)



3区1号竪穴建物土層断面B-B'(西から)



3区1号竪穴建物遺物出土状態(東から)



3区1号竪穴建物炉全景(北から)



3区1号竪穴建物炉土層断面C-C' (北東から)



3区1号竪穴建物炉埋甌(深鉢1)出土状態(南西から)



3区1号竪穴建物炉下部埋甌(深鉢2)出土状態(北から)



3区1号竪穴建物炉掘り方全景(北から)



3区1号竪穴建物P1全景(東から)



3区1号竪穴建物P2全景(東から)



3区1号竪穴建物P3全景(南から)



3区1号竪穴建物P4全景(南から)



3区2号竪穴建物全景(南から)



3区2号竪穴建物土層断面A-A'(西から)



3区2号竪穴建物土層断面B-B'(南から)



3区2号竪穴建物遺物出土状態(北から)



3区2号竪穴建物P-4上敷石出土状態(南東から)



3区2号竪穴建物炉全景(北から)



3区2号竪穴建物炉土層断面E-E'(西から)



3区2号竪穴建物甌文土器深跡(1)出土状態(西から)



3区2号竪穴建物炉掘り方全景(南から)



3区2号竪穴建物P4全景(東から)



3区3号竪穴建物全景(北東から)



3区3号竪穴建物炉全景(東から)



3区3号竪穴建物遺物出土状態(北から)



2区 4号竖穴建物全景(北西から)



2区 4号竖穴建物土屑断面A-A'北部(南西から)



2区 4号竖穴建物土屑断面A-A'南部(南西から)



2区 4号竖穴建物内土坑全景(南東から)



2区 4号竖穴建物炉全景(北西から)



2区4号竪穴建物炉遺物出土状態(北東から)



2区4号竪穴建物炉土層断面B-B'(南東から)



2区4号竪穴建物炉掘り方全景(北西から)



2区4号竪穴建物内土坑遺物出土状態(西から)



2区4号竪穴建物内土坑遺物出土状態(北東から)



2区4号竪穴建物内土坑遺物出土状態(北東から)



2区4号竪穴建物内土坑掘り方全景(北東から)



2区4号竪穴建物1号埋設土器(南西から)



2区4号竪穴建物P 1 全景(北から)



2区4号竪穴建物P 2 全景(北から)



2区4号竪穴建物P 3 全景(北から)



2区4号竪穴建物P 4 全景(北から)



2区4号竪穴建物P 5 全景(北から)



2区4号竪穴建物P 6 全景(北から)



2区4号竪穴建物P 7 全景(北から)



2区4号竪穴建物P 8 全景(北から)



3区1号土坑全景(南から)



3区2号土坑全景(南から)



3区3号土坑全景(南から)



1区5号土坑剥片(1)出土状態(西から)



1区5号土坑全景(南東から)



3区6号土坑全景(東から)



3区7号土坑全景(南から)



3区8号土坑磨製石斧(1)出土状態(南から)



3区8号土坑全景(南から)



3区9号土坑全景(北から)



3区10号土坑全景(北から)



3区12号土坑全景(西から)



2区13号土坑遺物出土状態(南西から)



2区13号土坑全景(南から)



2区14号土坑遺物出土状態(東から)



2区14号土坑全景(東から)



2区15号土坑(7号埴埴丘内陪葬)出土状態(東から)



2区15号土坑(7号埴埴丘内陪葬)出土状態(南から)



2区15号土坑(7号埴埴丘内陪葬)遺物出土状態(西から)



2区15号土坑(7号埴埴丘内陪葬)遺物出土状態(南東から)



2区15号土坑(7号埴埴丘内陪葬)遺物出土状態(東から)



2区15号土坑(7号埴埴丘内陪葬)破壊鉈刀形(2号土器裏面)



2区15号土坑(7号埴埴丘内陪葬)全景(東から)



2区16号土坑全景(南から)



2区17号土坑縄文土器深鉢(1)出土状態(南西から)



2区17号土坑全景(北から)



2区19号土坑全景(北から)



1区20号土坑全景(東から)



1区21号土坑全景(西から)



1区22号土坑全景(南西から)



3区10号ピット全景(北から)



3区12号ピット全景(北から)



3区13号ピット全景(南から)



3区14号ピット(1号壁穴建物P 6)全景(南から)



3区15号(左)・16号(右)ピット全景(南西から)



3区17号ピット全景(東から)



3区18号ピット全景(東から)



3区19号ピット全景(東から)



3区20号ピット全景(南から)



3区21号ピット全景(南から)



3区22号ピット全景(東から)



3区23号ピット全景(南から)



3区24号ピット全景(南から)



3区25号(左)・26号(右)ピット全景(南から)



3区27号ピット全景(西から)



3区28号ピット全景(南西から)



3区29号ピット全景(南西から)



3区30号ピット全景(南東から)



3区31号ピット全景(南から)



3区31号(左)・32号(右)ピット全景(南から)



3区33号(左)・34号(右)ピット全景(東から)



3区35号ピット全景(西から)



3区36号ピット全景(南から)



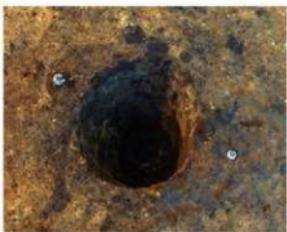
3区37号ピット全景(南から)



3区38号ピット全景(東から)



3区39号ピット全景(東から)



3区40号ピット全景(東から)



3区41号ピット全景(南東から)



3区42号ピット全景(東から)



3区43号ピット全景(南東から)



3区44号ピット全景(南東から)



3区45号ピット全景(南東から)



3区46号ピット全景(東から)



3区47号ピット(2号壁穴建物P 6)全景(南から)



3区48号ピット(3号壁穴建物P 4)全景(南から)



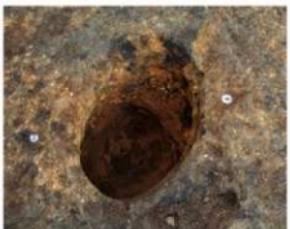
3区49号ピット(3号壁穴建物P 5)全景(南から)



3区50号ピット全景(南東から)



3区51号ピット全景(南から)



3区52号ピット全景(東から)



3区53号ピット(2号壁穴建物P 5)全景(南から)



3区54号ピット(3号壁穴建物P 2)全景(西から)



3区55号ピット(3号壁穴建物P 3)全景(南から)



3区56号ピット(3号壁穴建物P 1)全景(南東から)



3区57号ピット全景(南から)



2区61号ピット全景(南から)



2区62号ピット全景(北から)



2区63号ピット全景(北から)



2区64号ピット全景(北から)



2区65号ピット全景(北から)



2区66号ピット(8号竪穴建物P2)全景(北から)



2区67号ピット(8号竪穴建物P3)全景(北から)



2区68号ピット(8号竪穴建物P5)全景(北から)



2区69号ピット(8号竪穴建物P6)全景(北から)



2区70号ピット(8号竪穴建物P7)全景(西から)



2区72号ピット(8号竪穴建物P8)全景(北から)



2区73号ピット全景(北から)



2区74号ピット(8号竪穴建物P4)全景(北から)



2区75号ピット全景(北から)



2区76号ピット全景(北から)



2区77号ピット(8号竪穴建物P1)全景(北から)



2区78号ピット(8号壁穴建物P 9)全景(北から)



2区79号ピット全景(北から)



1区80号ピット全景(東から)



1区81号ピット全景(東から)



1区82号ピット全景(東から)



1区83号ピット全景(東から)



1区84号ピット全景(東から)



1区85号ピット全景(東から)



1区86号ピット全景(東から)



1区89号ピット全景(東から)



1区90号ピット全景(東から)



1区91号ピット全景(東から)



1区92号ピット全景(東から)



2区93号ピット(4号壁穴建物P 11)全景(東から)



2区94号ピット(4号壁穴建物P 12)全景(東から)



2区95号ピット(4号壁穴建物P9)全景(東から)



2区96号ピット(4号壁穴建物P13)全景(東から)



2区97号ピット(4号壁穴建物P14)全景(東から)



2区98号ピット(4号壁穴建物P10)全景(北東から)



2区99号ピット(4号壁穴建物P15)全景(東から)



1区100号ピット全景(東から)



1区101号ピット全景(東から)



1区102号ピット全景(東から)



1区103号ピット全景(東から)



1区104号ピット全景(東から)



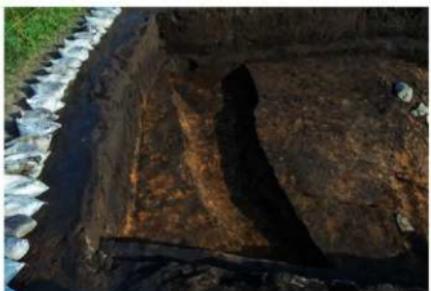
1区105号ピット全景(西から)



2区3号溝全景(西から)



2区4号溝全景(西から)



1区5号溝全景(西から)



2区6号溝全景(西から)



2区7号溝全景(東から)



2区9号溝全景(北から)



1区10号溝全景(西から)



1区12号溝全景(東から)



2区2号集石全景(東から)



2区3号集石全景(西から)



2区3号集石礫出土状態(西から)



2区3号集石礫出土状態(西から)



2区3号集石礫出土状態(西から)



2区3号集石礫出土状態(西から)



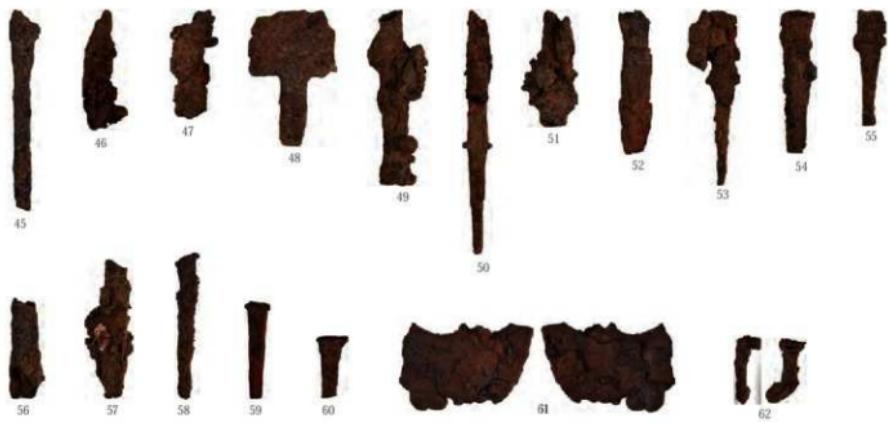
2区3号集石礫出土状態(西から)



2区4号集石全景(東から)

## 1区1号填





1区2号填



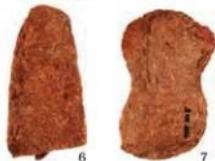




1区3号填



2区5号填



2区15号土坑



2区7号填





3区8号填



1



2



3



10



7



8



9



11



4



5



6



12



13



14



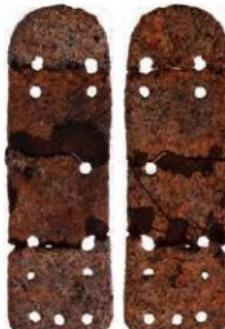
15



16



17



18



19



20



21

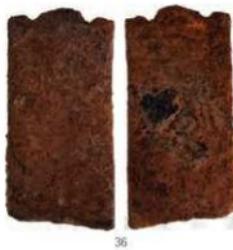


22





35



36



37



38



39



40



41

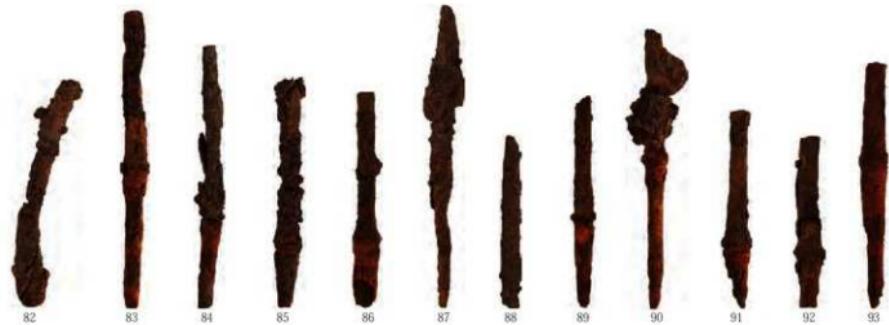
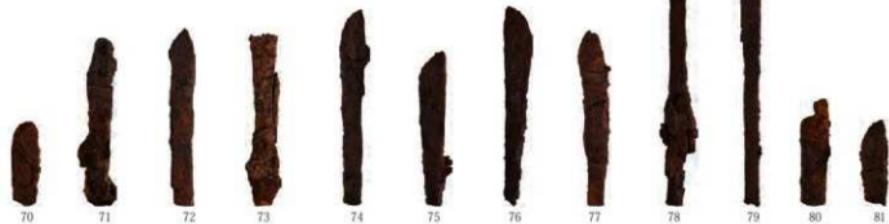


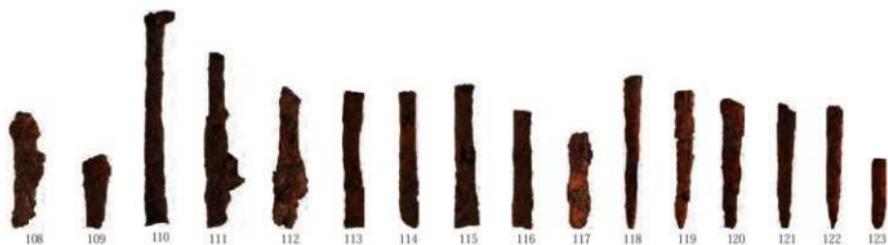
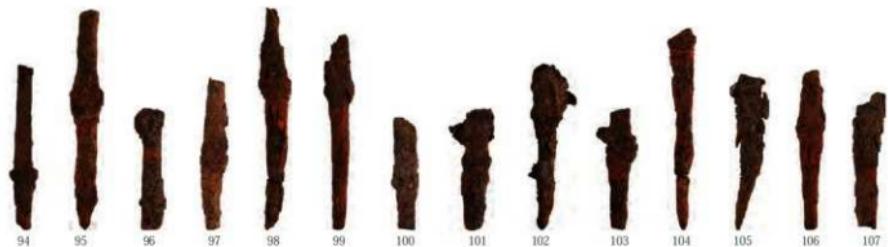
42



43









131



132



133



134



135



136



137



139

140



138



141

142



143



144



145



146



147



148



149



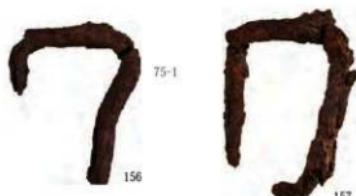
151



152



153



75-1

156



157



154



155



PL.84

3区1号方形周溝墓



1



2



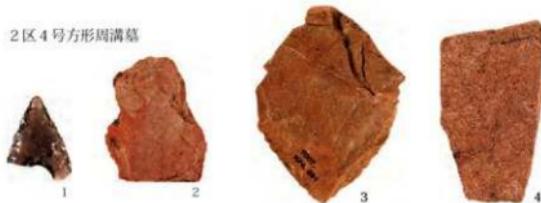
3



2区2号方形周溝墓



2区4号方形周溝墓



1区5号竖穴建筑物



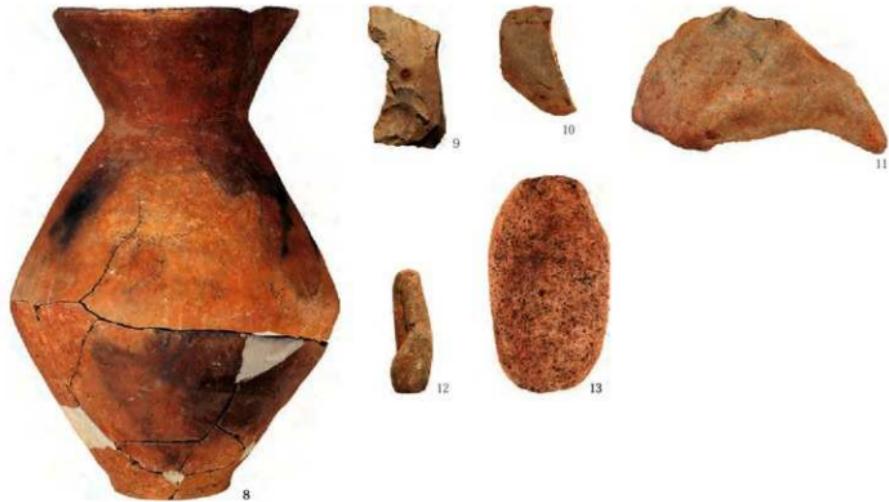
PL.86

1区6号竖穴建物



1区7号竖穴建物





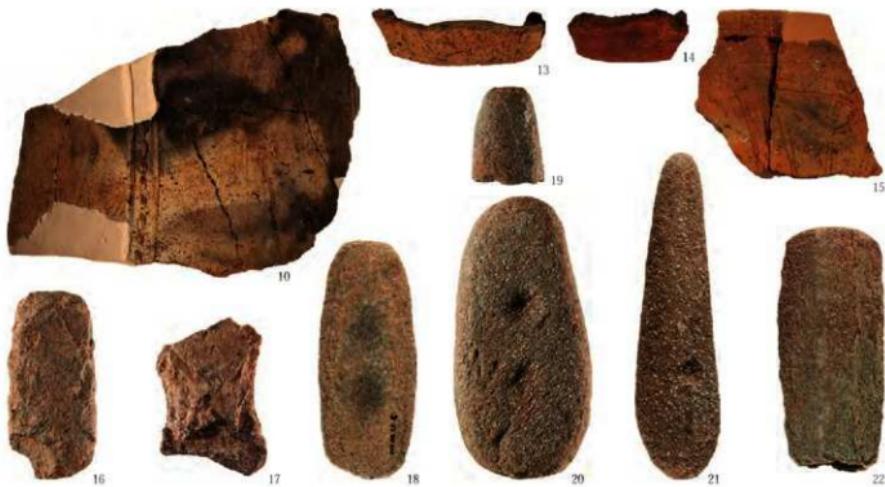
3区1号壁穴建物



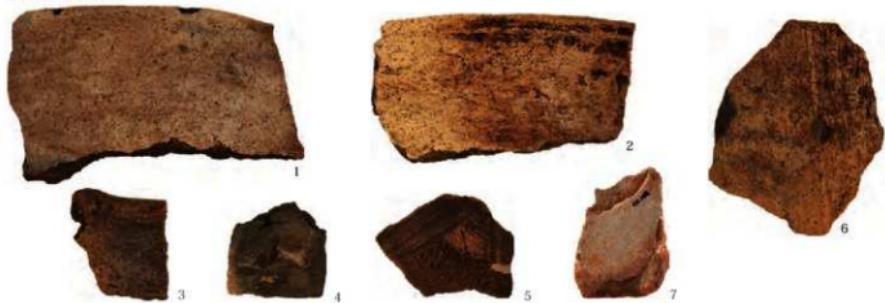


3区2号壁穴建物





3区3号竖穴建物



2区4号竖穴建物



PL.90



2区8号窖穴建物



1区5号土坑



3区6号土坑



3区8号土坑



3区9号土坑



3区10号土坑



1区12号土坑



2区14号土坑



2区16号土坑



2区17号土坑



1区21号土坑



1区20号土坑



3区1号ビット



1区91号ビット



2区4号溝



1区10号溝



1区11号溝



2区1号遺物集中



# PL.92

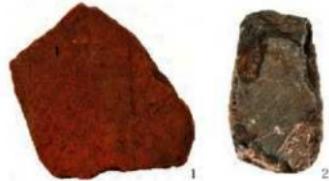
2区2号集石



2区3号集石



2区4号集石

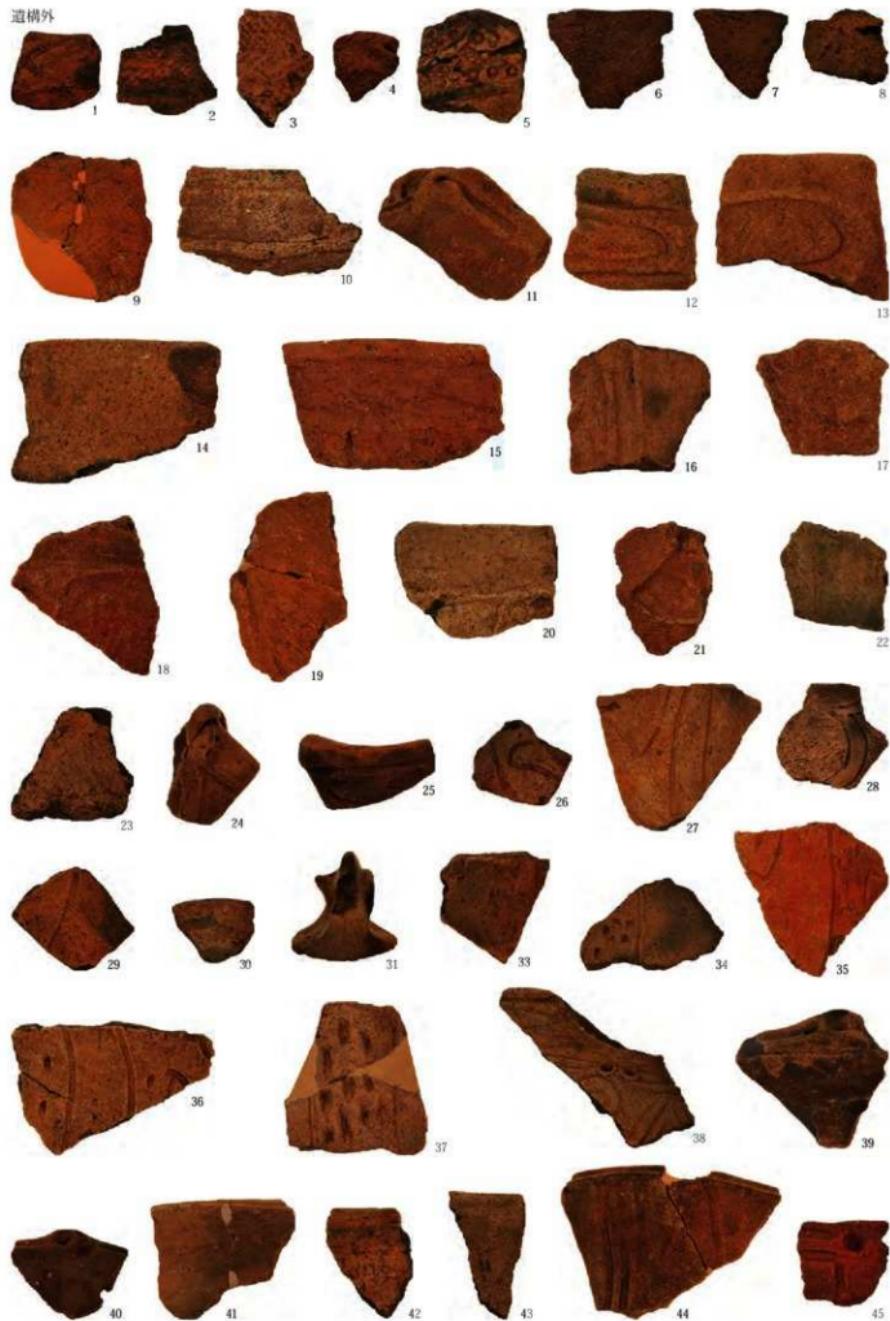


2区5号集石

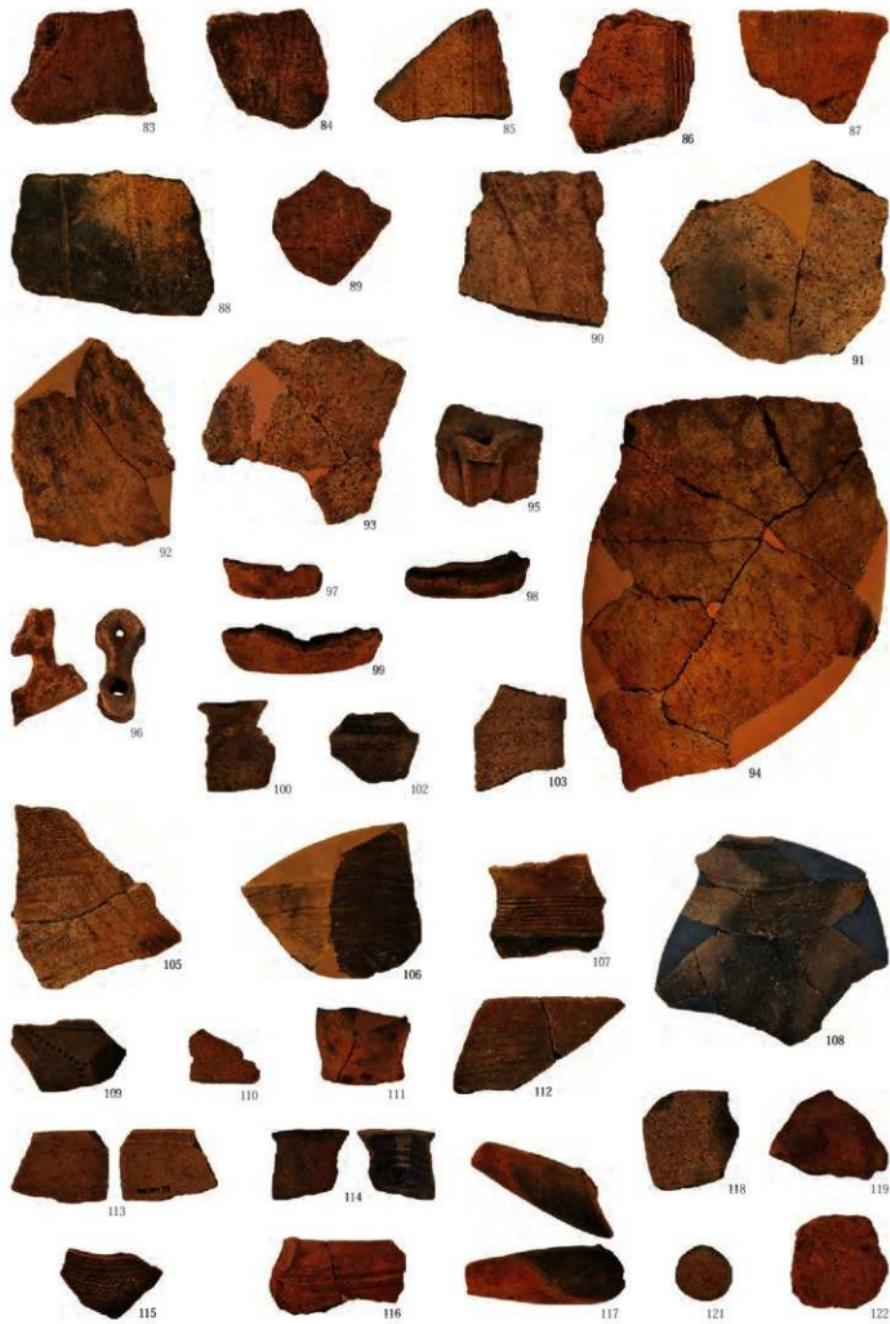


2区6号集石

造模外









135

## 報告書抄録

書名ふりがな	ごかなかわりいせき(てい一ぜろぜろなないせき)
書名	後賀中割遺跡(T007遺跡)
副署名	(一)下高尾小幡線 庭谷工区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	698集
編著者名	友廣哲也
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20211217
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	ごかなかわりいせき(てい一ぜろぜろなないせき)
遺跡名	後賀中割遺跡(T007遺跡)
所在地ふりがな	ぐんまけんとみおかしごか
遺跡所在地	群馬県富岡市後賀
市町村コード	10210
遺跡番号	T007
北緯(世界測地系)	30163
東経(世界測地系)	-80609
調査期間	20170801～20170930 20180901～20190131
調査面積	2169.86m <sup>2</sup>
調査原因	道路建設工事
種別	古墳・竪穴建物跡・周溝墓・集石・土坑群・ピット群
主な時代	縄文時代～古墳時代～中世
遺跡概要	古墳7基/竪穴建物+縄文時代5棟+弥生時代3棟/古墳時代方形周溝墓4基/古墳時代以降土坑19基+溝10+ピット81/
特記事項	古墳が7基確認された。すべては近代に開墾で壊され、現状は畠地になっている。7～8世紀の終末期の群集墳である。本遺跡内2区7号墳は方形墳に葺石を持ち、竪穴式石室で5世紀の古墳で、富岡市内鍋川周辺では5世紀代の古墳は少なく、希少な墳墓である。3区8号墳からは鉄製馬具、小札鎧等200点を超す。
要約	縄文時代後期竪穴建物、弥生時代後期竪穴建物が検出され、古墳時代の方形周溝墓4基、古墳7基が検出されている。縄文時代、弥生時代は時期的に離れているが、弥生時代から古墳時代周溝墓には継続している。古墳は終末期にかかる群集墳だが、2区7号墳は方墳、竪穴石室を持つものと考えられる。7世紀から8世紀にかかる3区8号墳からは大量の鉄製品が出土し、小札鎧、馬具等が200点以上確認されている。



公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第698集

## 後賀中割遺跡(T007遺跡)

下高尾小幡線 庭谷工区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

---

令和3(2021)年12月3日 発行

令和3(2021)年12月17日 発行

編集・発行／公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

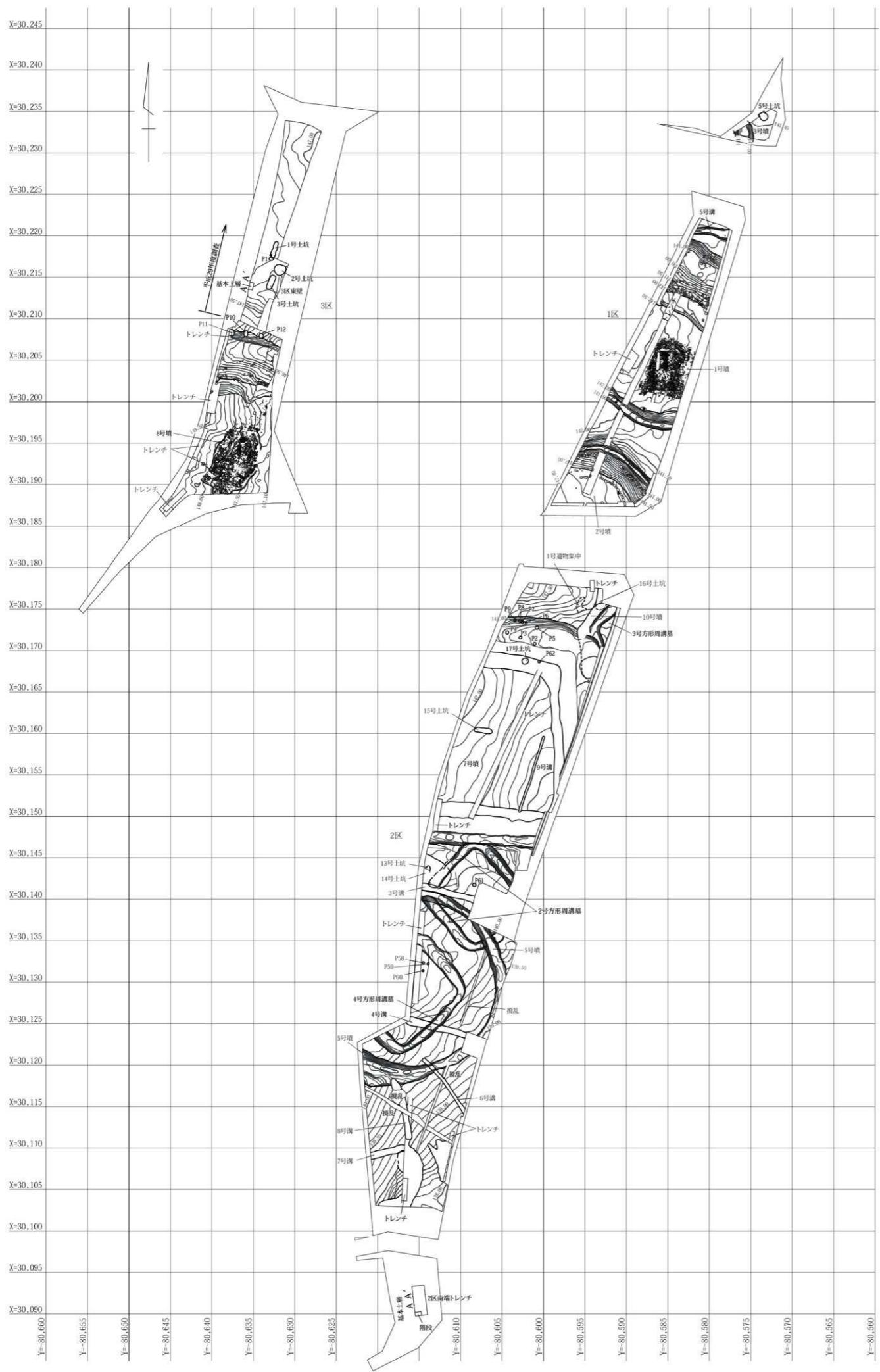
ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／株式会社大塚カラー

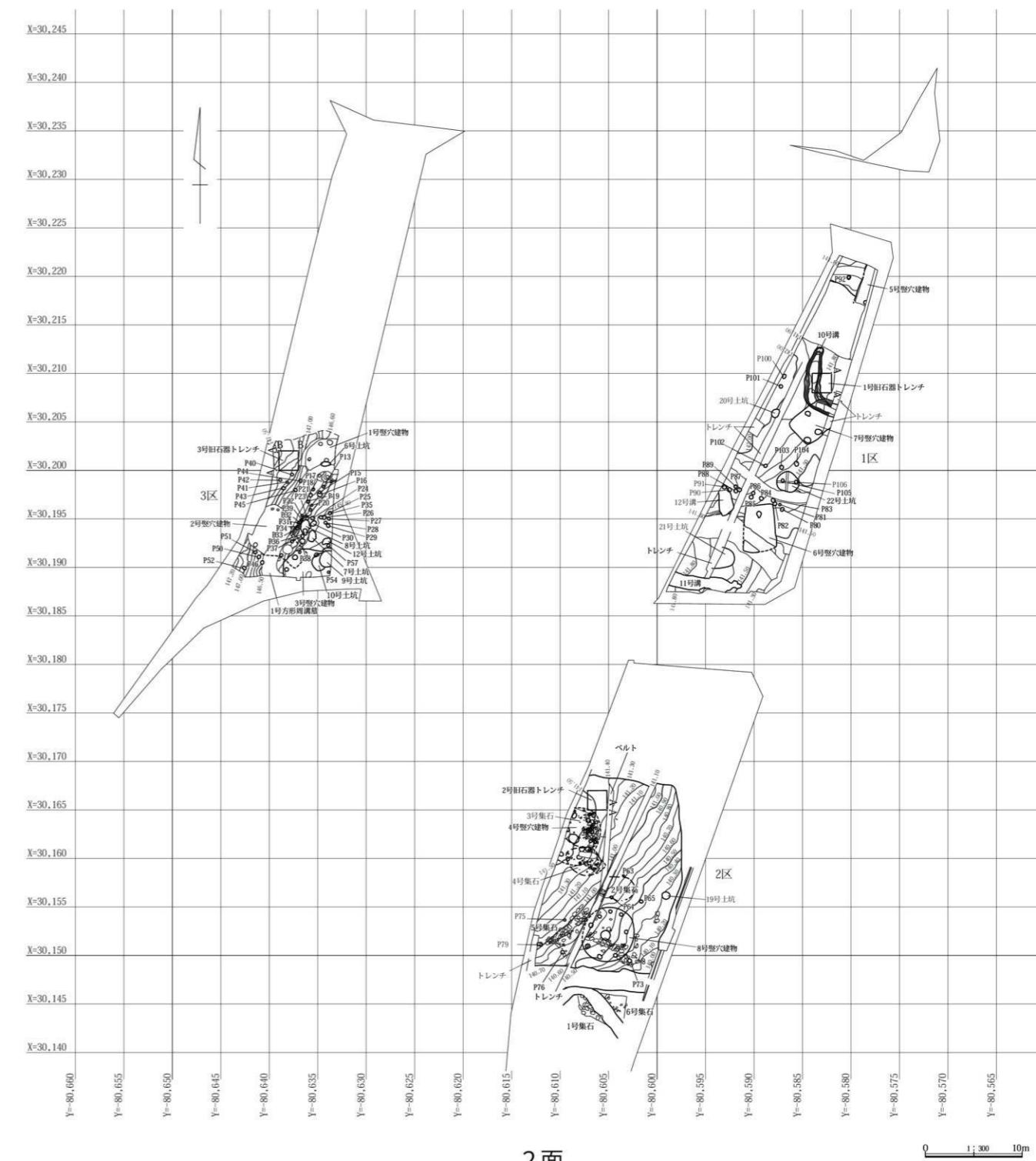
---



付図 1 後賀中割遺跡 (T007 遺跡) 全体図 1/300



1面



2面